2021年度
現代福祉学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0012】基礎演習Ⅰ［長山　恵一］春学期授業/Spring 1
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0012】基礎演習Ⅰ［長山　恵一］春学期授業/Spring 2
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0023】基礎演習Ⅱ［小田　友理恵］秋学期授業/Fall 3
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0023】基礎演習Ⅱ［小田　友理恵］秋学期授業/Fall 4
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0006】基礎演習Ⅰ［水野　雅男］春学期授業/Spring 5
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0006】基礎演習Ⅰ［水野　雅男］春学期授業/Spring 6
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0018】基礎演習Ⅱ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 6
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0018】基礎演習Ⅱ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 7
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0011】基礎演習Ⅰ［小田　友理恵］春学期授業/Spring 8
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0011】基礎演習Ⅰ［小田　友理恵］春学期授業/Spring 9
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0021】基礎演習Ⅱ［柴崎　祐美］秋学期授業/Fall 10
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0021】基礎演習Ⅱ［柴崎　祐美］秋学期授業/Fall 10
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0003】基礎演習Ⅰ［図司　直也］春学期授業/Spring 11
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0003】基礎演習Ⅰ［図司　直也］春学期授業/Spring 11
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0015】基礎演習Ⅱ［図司　直也］秋学期授業/Fall 12
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0015】基礎演習Ⅱ［図司　直也］秋学期授業/Fall 13
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0004】基礎演習Ⅰ［土肥　将敦］春学期授業/Spring 13
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0004】基礎演習Ⅰ［土肥　将敦］春学期授業/Spring 14
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0016】基礎演習Ⅱ［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 15
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0016】基礎演習Ⅱ［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 16
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0005】基礎演習Ⅰ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 17
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0005】基礎演習Ⅰ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 18
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0017】基礎演習Ⅱ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 19
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0017】基礎演習Ⅱ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 20
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0010】基礎演習Ⅰ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 20
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0010】基礎演習Ⅰ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 21
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0022】基礎演習Ⅱ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 22
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0022】基礎演習Ⅱ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 23
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0001】基礎演習Ⅰ［山本　五郎］秋学期授業/Fall 24
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0001】基礎演習Ⅰ［山本　五郎］春学期授業/Spring 25
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0013】基礎演習Ⅱ［山本　五郎］秋学期授業/Fall 26
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0013】基礎演習Ⅱ［山本　五郎］秋学期授業/Fall 26
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0009】基礎演習Ⅰ［柴崎　祐美］春学期授業/Spring 27
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0009】基礎演習Ⅰ［柴崎　祐美］春学期授業/Spring 27
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0024】基礎演習Ⅱ［長山　恵一］秋学期授業/Fall 28
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0024】基礎演習Ⅱ［長山　恵一］秋学期授業/Fall 29
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0007】基礎演習Ⅰ［岡田　栄作］春学期授業/Spring 30
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0008】基礎演習Ⅰ［岡田　栄作］春学期授業/Spring 31
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0019】基礎演習Ⅱ［岡田　栄作］秋学期授業/Fall 32
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0020】基礎演習Ⅱ［岡田　栄作］秋学期授業/Fall 33
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0002】基礎演習Ⅰ［布川　日佐史］春学期授業/Spring 34
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0002】基礎演習Ⅰ［布川　日佐史］春学期授業/Spring 35
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0014】基礎演習Ⅱ［布川　日佐史］秋学期授業/Fall 36
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0014】基礎演習Ⅱ［布川　日佐史］秋学期授業/Fall 36
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0025】フィールドスタディ入門［水野　雅男、岩田　美香、長山　恵一］秋学期授業/Fall 37
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0025】フィールドスタディ入門［水野　雅男、岩田　美香、長山　恵一］秋学期授業/Fall 38
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0026】多摩地域形成論［池田　寛二］秋学期授業/Fall 39
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0026】多摩地域形成論［池田　寛二］秋学期授業/Fall 40
臨床心理学科_総合教育科目_学部共通科目【N0027,N0028】キャリアデザイン論［大八木　智一］春学期授業/Spring 41
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0027,N0028】キャリアデザイン論［大八木　智一］春学期授業/Spring 42

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）　環境倫理［現代福祉学部教員］ 43
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）　環境倫理［現代福祉学部教員］ 44
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0052】生涯学習論Ⅰ［荒井　容子］春学期授業/Spring . . . 45
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0052】生涯学習論Ⅰ［荒井　容子］春学期授業/Spring 46
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0053】生涯学習論Ⅱ［荒井　容子］秋学期授業/Fall 47
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0053】生涯学習論Ⅱ［荒井　容子］秋学期授業/Fall 48
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0054】心理学 (2020 年度以前入学者）［服部　環］
春学期授業/Spring 49
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N0054】心理学 (2021 年度以降入学者）［服部　環］春学期授
業/Spring 49
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0055】哲学Ⅰ［大橋　基］春学期授業/Spring 50
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0055】哲学Ⅰ［大橋　基］春学期授業/Spring . . . 51
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0056】哲学Ⅱ［大橋　基］秋学期授業/Fall 52
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0056】哲学Ⅱ［大橋　基］秋学期授業/Fall 53
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0057】文学［彭　丹］春学期授業/Spring 54
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0057】文学［彭　丹］春学期授業/Spring 55
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0058】文化人類学［松井　生子］春学期授業/Spring 56
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0058】文化人類学［松井　生子］春学期授業/Spring 57
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0059】創作表現論［金原　瑞人］春学期授業/Spring 58
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0059】創作表現論［金原　瑞人］春学期授業/Spring 58
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0060】生命倫理［渡部　麻衣子］秋学期授業/Fall 59
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0060】生命倫理［渡部　麻衣子］秋学期授業/Fall . 60
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0061】ホスピタリティ論［野口　洋平］春学期授業/Spring　61
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0061】ホスピタリティ論［野口　洋平］春学期授
業/Spring 62
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0062,N0064】日本人の心理特性と文化［長山　恵一］秋学
期授業/Fall 63
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0062,N0064】日本人の心理特性と文化［長山　恵
一］秋学期授業/Fall 64
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0063,N0065】教育学［藤本　典裕］春学期授業/Spring . . . 65
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（人文系）【N0063,N0065】教育学［藤本　典裕］春学期授業/Spring 66
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0101】コミュニケーション論［西田　善行］秋学期授業/Fall 67
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0101】コミュニケーション論［西田　善行］秋学期
授業/Fall 68
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0103】女性学［藤田　和美］秋学期授業/Fall 69
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0103】女性学［藤田　和美］秋学期授業/Fall 70
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0107】ジェンダー論［藤田　和美］秋学期授業/Fall 71
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0107】ジェンダー論［藤田　和美］秋学期授業/Fall 72
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0105】行政法Ⅰ［氏家　裕順］春学期授業/Spring 73
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0105】行政法Ⅰ［氏家　裕順］春学期授業/Spring 73
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0106】行政法Ⅱ［氏家　裕順］秋学期授業/Fall 74
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0106】行政法Ⅱ［氏家　裕順］秋学期授業/Fall . . 74
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0104】経済学［赤石　秀之］春学期授業/Spring . . 75
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0104】経済学［赤石　秀之］春学期授業/Spring 76
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0108】財政学Ⅰ［関口　浩］春学期授業/Spring . . 77
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0108】財政学Ⅰ［関口　浩］春学期授業/Spring 78
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0109】財政学Ⅱ［関口　浩］秋学期授業/Fall 79
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0109】財政学Ⅱ［関口　浩］秋学期授業/Fall 80
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0110】社会学［兼子　諭］春学期授業/Spring 81
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0110】社会学［兼子　諭］春学期授業/Spring 81
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0111】社会学理論［穐山　新］秋学期授業/Fall 82
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0111】社会学理論［穐山　新］秋学期授業/Fall . . . 83
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0112】社会システム論［穐山　新］春学期授業/Spring 84
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0112】社会システム論［穐山　新］春学期授業/Spring 84
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0113】職業社会論［依田　素味］春学期授業/Spring 85
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0113】職業社会論［依田　素味］春学期授業/Spring 85
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0114】政治学［岡﨑　加奈子］秋学期授業/Fall 86

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0114】政治学［岡﨑　加奈子］秋学期授業/Fall . . . 86
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0115】日本国憲法［清水　弥生］秋学期授業/Fall 87
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0115】日本国憲法［清水　弥生］秋学期授業/Fall . 88
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0116】法学［清水　弥生］春学期授業/Spring 89
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0116】法学［清水　弥生］春学期授業/Spring 90
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0117】民法Ⅰ［松田　佳久］春学期授業/Spring . . 91
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0117】民法Ⅰ［松田　佳久］春学期授業/Spring 92
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）　民法Ⅱ［現代福祉学部教員］ 93
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）　民法Ⅱ［現代福祉学部教員］ 94
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0119】社会学特講［左古　輝人］春学期授業/Spring 95
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0119】社会学特講［左古　輝人］春学期授業/Spring 95
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0120】社会思想史［楠　秀樹］春学期授業/Spring 96
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0120】社会思想史［楠　秀樹］春学期授業/Spring　97
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0121】企業と労働［澤木　朋子］春学期授業/Spring 98
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0121】企業と労働［澤木　朋子］春学期授業/Spring 99
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0122,N0124】経営学［山藤　竜太郎］秋学期授業/Fall100
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0122,N0124】経営学［山藤　竜太郎］秋学期授業/Fall 101
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0123,N0125】老年学［新名　正弥］春学期授業/Spring102
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N0123,N0125】老年学［新名　正弥］春学期授業/Spring . . . 103
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1001】社会福祉概論［平野　寛弥］秋学期授業/Fall 104
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1004】まちづくりの思想［水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、佐野　竜平、野田　岳仁］春学期授業/Spring 105
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1051】地域福祉論［金　吾燮］秋学期授業/Fall 106
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1054】ボランタリーアクション［長濵　洋二］春学期授業/Spring107
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1113】国際協力論［佐野　竜平］春学期授業/Spring 108
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1118】Community Based Inclusive Development ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 108
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1119】アジア地域開発論［佐野　竜平］秋学期授業/Fall . . . 109
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（社会系）【N1120】Disability and Development in Asia ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 110
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0151】人体の構造と機能及び疾病［長山　恵一］秋学期授業/Fall 111
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0151】人体の構造と機能及び疾病［長山　恵一］秋学期授業/Fall 112
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0152】基礎数学Ⅰ［鈴木　麻美］春学期授業/Spring 113
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0152】基礎数学Ⅰ［鈴木　麻美］春学期授業/Spring114
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0153】基礎数学Ⅱ［鈴木　麻美］秋学期授業/Fall 115
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0153】基礎数学Ⅱ［鈴木　麻美］秋学期授業/Fall116
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0154】自然環境論Ⅰ［澤柿　教伸］春学期授業/Spring 117
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0154】自然環境論Ⅰ［澤柿　教伸］春学期授業/Spring118
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0155】自然環境論Ⅱ［吉岡　美紀］秋学期授業/Fall 119
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0155】自然環境論Ⅱ［吉岡　美紀］秋学期授業/Fall120
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0156】生命の科学Ⅰ［鞠子　茂］春学期授業/Spring120
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0156】生命の科学Ⅰ［鞠子　茂］春学期授業/Spring 121
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0157】生命の科学Ⅱ［鞠子　茂］秋学期授業/Fall 121
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0157】生命の科学Ⅱ［鞠子　茂］秋学期授業/Fall122
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）　ヘルスプロモーション［熊坂　隆行］ . . 122
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）　ヘルスプロモーション［熊坂　隆行］ 123
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0159】リハビリテーション概論［渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也］秋学期授業/Fall 124

臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0159】リハビリテーション概論［渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也］秋学期授業/Fall 125
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0201】スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）［鈴木　伸枝］春学期授業/Spring 126
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0201】スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）［鈴木　伸枝］春学期授業/Spring 127
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0203】スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）［鈴木　伸枝］春学期授業/Spring 128
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0203】スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）［鈴木　伸枝］春学期授業/Spring 129
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0202】スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）［鈴木　伸枝］秋学期授業/Fall 130
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0202】スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）［鈴木　伸枝］秋学期授業/Fall 131
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0204】スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）［鈴木　伸枝］秋学期授業/Fall 132
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0204】スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）［鈴木　伸枝］秋学期授業/Fall 133
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0205】スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）［田中　善則］春学期授業/Spring 134
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0205】スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）［田中　善則］春学期授業/Spring 135
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0207】スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）［田中　善則］春学期授業/Spring 136
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0207】スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）［田中　善則］春学期授業/Spring 137
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0206】スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）［田中　善則］秋学期授業/Fall 138
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0206】スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）［田中　善則］秋学期授業/Fall 139
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0208】スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）［田中　善則］秋学期授業/Fall 140
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0208】スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）［田中　善則］秋学期授業/Fall 141
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0209】スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 142
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0209】スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 143
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0211】スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 143
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0211】スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 144
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0210】スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 144
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0210】スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 145
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0212】スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 145
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0212】スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 146
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0213】スポーツ種目Ⅰ（テニス）［宮崎　靖雄］春学期授業/Spring 146
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0213】スポーツ種目Ⅰ（テニス）［宮崎　靖雄］春学期授業/Spring 147
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0214】スポーツ種目Ⅱ（テニス）［宮崎　靖雄］秋学期授業/Fall 148

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0214】スポーツ種目Ⅱ（テニス）［宮崎　靖雄］秋学期授業/Fall 149
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0215】スポーツ種目Ⅰ（太極拳）［シン　イェンリン］春学期授業/Spring 150
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0215】スポーツ種目Ⅰ（太極拳）［シン　イェンリン］春学期授業/Spring 151
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0217】スポーツ種目Ⅰ（太極拳）［シン　イェンリン］春学期授業/Spring 152
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0217】スポーツ種目Ⅰ（太極拳）［シン　イェンリン］春学期授業/Spring 153
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0216】スポーツ種目Ⅱ（太極拳）［シン　イェンリン］秋学期授業/Fall 154
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0216】スポーツ種目Ⅱ（太極拳）［シン　イェンリン］秋学期授業/Fall 155
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0218】スポーツ種目Ⅱ（太極拳）［シン　イェンリン］秋学期授業/Fall 156
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0218】スポーツ種目Ⅱ（太極拳）［シン　イェンリン］秋学期授業/Fall 157
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0219】スポーツ種目Ⅰ（ユニバーサル・スポーツ）［坪内　友美］春学期授業/Spring 158
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0219】スポーツ種目Ⅰ（ユニバーサル・スポーツ）［坪内　友美］春学期授業/Spring 159
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0220】スポーツ種目Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）［坪内　友美］秋学期授業/Fall 159
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0220】スポーツ種目Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）［坪内　友美］秋学期授業/Fall 160
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0221】スポーツ種目Ⅰ（サッカー）［星　貴洋］春学期授業/Spring 160
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0221】スポーツ種目Ⅰ（サッカー）［星　貴洋］春学期授業/Spring 161
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0223】スポーツ種目Ⅰ（サッカー）［星　貴洋］春学期授業/Spring 162
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0223】スポーツ種目Ⅰ（サッカー）［星　貴洋］春学期授業/Spring 163
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0222】スポーツ種目Ⅱ（サッカー）［星　貴洋］秋学期授業/Fall 164
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0222】スポーツ種目Ⅱ（サッカー）［星　貴洋］秋学期授業/Fall 165
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0224】スポーツ種目Ⅱ（サッカー）［星　貴洋］秋学期授業/Fall 166
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0224】スポーツ種目Ⅱ（サッカー）［星　貴洋］秋学期授業/Fall 167
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0225】スポーツ種目Ⅰ（バレーボール基礎）［野中　俊英］春学期授業/Spring 168
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0225】スポーツ種目Ⅰ（バレーボール基礎）［野中　俊英］春学期授業/Spring 169
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0226】スポーツ種目Ⅱ（バレーボール応用）［野中　俊英］秋学期授業/Fall 170
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0226】スポーツ種目Ⅱ（バレーボール応用）［野中　俊英］秋学期授業/Fall 171
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0227】スポーツ種目Ⅰ（サッカー・フットサル基礎）［水野　浩幸］春学期授業/Spring 172
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0227】スポーツ種目Ⅰ（サッカー・フットサル基礎）［水野　浩幸］春学期授業/Spring 173
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0228】スポーツ種目Ⅱ（サッカー・フットサル応用）［水野　浩幸］秋学期授業/Fall 173

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0228】スポーツ種目Ⅱ（サッカー・フットサル応用）［水野　浩幸］秋学期授業/Fall 174
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0231,N0232,N0233】スポーツ総合Ⅰ［坪田　智夫］春学期授業/Spring 174
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0231,N0232,N0233】スポーツ総合Ⅰ［坪田　智夫］春学期授業/Spring 175
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0234,N0235,N0236】スポーツ総合Ⅱ［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 175
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目（自然・スポーツ系）【N0234,N0235,N0236】スポーツ総合Ⅱ［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 176
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0301】Webデザイン［名児耶　厚］春学期授業/Spring 176
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0301】Webデザイン［名児耶　厚］春学期授業/Spring . 177
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0302】コンピュータ応用（ビジネススキル）［名児耶　厚］秋学期授業/Fall 177
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0302】コンピュータ応用（ビジネススキル）［名児耶　厚］秋学期授業/Fall 178
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0305,N0306】コンピュータ入門Ⅰ［但馬　文昭］春学期授業/Spring 178
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0305,N0306】コンピュータ入門Ⅰ［但馬　文昭］春学期授業/Spring179
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0303,N0304】コンピュータ入門Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring 179
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0303,N0304】コンピュータ入門Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring180
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0310,N0311】コンピュータ入門Ⅱ［但馬　文昭］秋学期授業/Fall180
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0310,N0311】コンピュータ入門Ⅱ［但馬　文昭］秋学期授業/Fall 181
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0308,N0309】コンピュータ入門Ⅱ［名児耶　厚］秋学期授業/Fall181
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0308,N0309】コンピュータ入門Ⅱ［名児耶　厚］秋学期授業/Fall 182
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目　社会調査法Ⅰ［現代福祉学部教員］ 182
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0316,N0317】心理学統計法［服部　環］春学期授業/Spring 183
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目　社会調査法Ⅱ［現代福祉学部教員］ 183
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0318,N0319】心理データ解析［服部　環］秋学期授業/Fall 184
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0315】社会福祉調査［岡田　栄作］春学期授業/Spring . 184
臨床心理学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0320】統計学［松﨑　圭佑］秋学期授業/Fall 185
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0320】統計学［松﨑　圭佑］秋学期授業/Fall 186
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0321】データの収集と分析Ⅰ［澤岡　詩野］秋学期授業/Fall187
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_情報・調査系科目【N0322】データの収集と分析Ⅱ［澤岡　詩野］秋学期授業/Fall188
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0404,N0401,N0408】英語１［浦川　智子］春学期授業/Spring 189
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0404,N0401,N0408】英語１［浦川　智子］春学期授業/Spring 190
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0407,N0405,N0402】英語１［奥脇　栄子］春学期授業/Spring 190
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0407,N0405,N0402】英語１［奥脇　栄子］春学期授業/Spring 191
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0489,N0486,N0493】基礎英語Ａ［浦川　智子］春学期授業/Spring 191
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0489,N0486,N0493】基礎英語Ａ［浦川　智子］春学期授業/Spring 192
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0492,N0490,N0487】基礎英語Ａ［奥脇　栄子］春学期授業/Spring 192
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0492,N0490,N0487】基礎英語Ａ［奥脇　栄子］春学期授業/Spring 193
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0406,N0403】英語１［山本　五郎］春学期授業/Spring193
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0406,N0403】英語１［山本　五郎］春学期授業/Spring 194

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0491,N0488】基礎英語Ａ［山本　五郎］春学期授業/Spring 195
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0491,N0488】基礎英語Ａ［山本　五郎］春学期授業/Spring 196
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0410】英語２（基礎）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 197
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0410】英語２（基礎）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 198
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0411,N0413】英語２（中級）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 198
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0411,N0413】英語２（中級）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 199
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0416,N0417】英語２（上級）［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 200
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0416,N0417】英語２（上級）［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 201
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0503】English Communication 1A Basic［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 201
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0503】English Communication 1A Basic［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 202
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0504,N0506】English Communication 1A Intermediate［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 202
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0504,N0506】English Communication 1A Intermediate［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］春学期授業/Spring 203
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0509,N0510】English Communication 1A Advanced［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 204
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0509,N0510】English Communication 1A Advanced［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 205
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0409】英語２（基礎）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 205
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0409】英語２（基礎）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 206
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0412】英語２（中級）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 207
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0412】英語２（中級）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 208
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0502】English Communication 1A Basic［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 209
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0502】English Communication 1A Basic［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 210
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0505】English Communication 1A Intermediate［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 211
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0505】English Communication 1A Intermediate［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 212
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0414,N0415】英語２（中級）［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 213
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0414,N0415】英語２（中級）［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 214
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0418】英語２（上級）［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 215
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0418】英語２（上級）［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 216
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0507,N0508】English Communication 1A Intermediate［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 217
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0507,N0508】English Communication 1A Intermediate［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 218
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0511】English Communication 1A Advanced［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 219

臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0511】English Communication 1A Advanced［IVAN BOTEV］春学期授業/Spring 220
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0425,N0423,N0420】英語３［奥脇　栄子］秋学期授業/Fall 221
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0425,N0423,N0420】英語３［奥脇　栄子］秋学期授業/Fall 222
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0500,N0498,N0495】基礎英語Ｂ［奥脇　栄子］秋学期授業/Fall 222
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0500,N0498,N0495】基礎英語Ｂ［奥脇　栄子］秋学期授業/Fall 223
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0422,N0419,N0426】英語３［浦川　智子］秋学期授業/Fall 223
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0422,N0419,N0426】英語３［浦川　智子］秋学期授業/Fall 224
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0497,N0494,N0501】基礎英語Ｂ［浦川　智子］秋学期授業/Fall 224
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0497,N0494,N0501】基礎英語Ｂ［浦川　智子］秋学期授業/Fall 225
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0424,N0421】英語３［山本　五郎］秋学期授業/Fall . 225
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0424,N0421】英語３［山本　五郎］秋学期授業/Fall 226
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0499,N0496】基礎英語Ｂ［山本　五郎］秋学期授業/Fall 227
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0499,N0496】基礎英語Ｂ［山本　五郎］秋学期授業/Fall228
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0428】英語４（基礎）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 229
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0428】英語４（基礎）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 230
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0429,N0430】英語４（中級）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 231
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0429,N0430】英語４（中級）［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 232
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0434,N0435,N0436】英語４（上級）［ジェイソン　ポール　スミス］秋学期授業/Fall 233
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0434,N0435,N0436】英語４（上級）［ジェイソン　ポール　スミス］秋学期授業/Fall 234
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0513】English Communication 1B Basic［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 234
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0513】English Communication 1B Basic［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 235
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0514,N0515】English Communication 1B Intermediate［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 236
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0514,N0515】English Communication 1B Intermediate［OLAGBOYEGA KOLAWOLE］秋学期授業/Fall 237
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0519,N0520,N0521】English Communication 1B Advanced［ジェイソン　ポール　スミス］秋学期授業/Fall 238
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0519,N0520,N0521】English Communication 1B Advanced［ジェイソン　ポール　スミス］秋学期授業/Fall 239
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0427】英語４（基礎）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 239
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0427】英語４（基礎）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 240
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0431】英語４（中級）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 241
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0431】英語４（中級）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 242

臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0512】English Communication 1B Basic［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 243
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0512】English Communication 1B Basic［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 244
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0516】English Communication 1B Intermediate［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 245
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0516】English Communication 1B Intermediate［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 246
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0432,N0433】英語４（中級）［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 247
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0432,N0433】英語４（中級）［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 248
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0437】英語４（上級）［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 249
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0437】英語４（上級）［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall250
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0517,N0518】English Communication 1B Intermediate［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 251
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0517,N0518】English Communication 1B Intermediate［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 252
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0522】English Communication 1B Advanced［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 253
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0522】English Communication 1B Advanced［IVAN BOTEV］秋学期授業/Fall 254
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0440】英語６（中級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 255
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0440】英語６（中級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring256
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0444】英語６（上級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 257
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0444】英語６（上級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring258
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0438】英語６（基礎）［相馬　美明］春学期授業/Spring 259
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0438】英語６（基礎）［相馬　美明］春学期授業/Spring260
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0441】英語６（中級）［相馬　美明］春学期授業/Spring261
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0441】英語６（中級）［相馬　美明］春学期授業/Spring 262
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0439】英語６（基礎）［宮本　正治］春学期授業/Spring263
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0439】英語６（基礎）［宮本　正治］春学期授業/Spring 264
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0442】英語６（中級）［宮本　正治］春学期授業/Spring 265
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0442】英語６（中級）［宮本　正治］春学期授業/Spring266
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0443】英語６（中級）［喜多　球美］春学期授業/Spring267
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0443】英語６（中級）［喜多　球美］春学期授業/Spring 268
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0445】英語６（上級）［西尾　洋子］春学期授業/Spring 269
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0445】英語６（上級）［西尾　洋子］春学期授業/Spring270
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0449,N0450】英語７（Reading）［髙取　康之］春学期授業/Spring 270
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0449,N0450】英語７（Reading）［髙取　康之］春学期授業/Spring 271
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0446,N0447】英語７（Listening）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 271
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0446,N0447】英語７（Listening）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 272
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0451】英語７（Speaking）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 272

臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0451】英語７（Speaking）［ANA M C MINDOG］春学期授業/Spring 273
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0452】英語７（Speaking）［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 274
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0452】英語７（Speaking）［ジェイソン　ポール　スミス］春学期授業/Spring 275
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0453,N0454】英語７（Writing）［喜多　球美］春学期授業/Spring 276
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0453,N0454】英語７（Writing）［喜多　球美］春学期授業/Spring 277
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0448】英語７（Listening）［西尾　洋子］春学期授業/Spring 278
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0448】英語７（Listening）［西尾　洋子］春学期授業/Spring 279
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0459,N0460,N0461】英語８（Reading）［宮本　正治］秋学期授業/Fall 279
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0459,N0460,N0461】英語８（Reading）［宮本　正治］秋学期授業/Fall 280
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0462】英語８（Speaking）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 281
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0462】英語８（Speaking）［ANA M C MINDOG］秋学期授業/Fall 282
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0466】英語８（Reading）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall283
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0466】英語８（Reading）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall 284
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0455,N0456,N0457】英語８（Listening）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 285
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0455,N0456,N0457】英語８（Listening）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 286
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0463】英語８（Speaking）［喜多　球美］秋学期授業/Fall 286
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0463】英語８（Speaking）［喜多　球美］秋学期授業/Fall287
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0464,N0465】英語８（Writing）［喜多　球美］秋学期授業/Fall 288
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0464,N0465】英語８（Writing）［喜多　球美］秋学期授業/Fall 289
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0458】英語８（Listening）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall 290
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0458】英語８（Listening）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall291
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0475】英語９（上級）［浦川　智子］秋学期授業/Fall . 291
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0475】英語９（上級）［浦川　智子］秋学期授業/Fall 292
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0467,N0468,N0469】英語９（基礎）［髙取　康之］秋学期授業/Fall 292
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0467,N0468,N0469】英語９（基礎）［髙取　康之］秋学期授業/Fall 293
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0470】英語９（中級）［髙取　康之］秋学期授業/Fall 294
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0470】英語９（中級）［髙取　康之］秋学期授業/Fall . 295
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0471,N0472,N0473】英語９（中級）［相馬　美明］秋学期授業/Fall 296
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0471,N0472,N0473】英語９（中級）［相馬　美明］秋学期授業/Fall 297
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0476,N0477】英語９（上級）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall 298
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0476,N0477】英語９（上級）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall 299

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0474】英語９（中級）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall 300
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0474】英語９（中級）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall . 301
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0478】英語９（上級）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall . 301
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0478】英語９（上級）［西尾　洋子］秋学期授業/Fall 302
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0479,N0480】英語１０（異文化コミュニケーション）［髙取　康之］春学期授業/Spring 302
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0479,N0480】英語１０（異文化コミュニケーション）［髙取　康之］春学期授業/Spring 303
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0481】英語１０（アメリカンコミュニケーションパターン）［相馬　美明］春学期授業/Spring 303
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0481】英語１０（アメリカンコミュニケーションパターン）［相馬　美明］春学期授業/Spring 304
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0482】英語１０（時事英語）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 305
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0482】英語１０（時事英語）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 306
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0483】英語１０（ビジネス英語）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 307
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0483】英語１０（ビジネス英語）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 308
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0484】英語１０（メディア英語）［西尾　洋子］春学期授業/Spring 308
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0484】英語１０（メディア英語）［西尾　洋子］春学期授業/Spring 309
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0485】英語１０（現代社会を考える）［宮本　正治］春学期授業/Spring 309
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0485】英語１０（現代社会を考える）［宮本　正治］春学期授業/Spring 310
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0541】英語補講（春学期）［山本　五郎］春学期授業/Spring 311
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0541】英語補講（春学期）［山本　五郎］春学期授業/Spring 312
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0551】英語補講（秋学期）［山本　五郎］秋学期授業/Fall 313
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0551】英語補講（秋学期）［山本　五郎］秋学期授業/Fall 314
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0523】TOEIC ３Ａ（上級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 315
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0523】TOEIC ３Ａ（上級）［深津　勇仁］春学期授業/Spring 316
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0524】TOEIC ３Ｂ（上級）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall 317
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0524】TOEIC ３Ｂ（上級）［深津　勇仁］秋学期授業/Fall 318
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0627】国際コミュニケーション中１Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 318
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0627】国際コミュニケーション中１Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 319
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0628】国際コミュニケーション中１Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 319
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0628】国際コミュニケーション中１Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 320
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0629】国際コミュニケーション中２Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 320
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0629】国際コミュニケーション中２Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 321
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0630】国際コミュニケーション中２Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 321

臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0630】国際コミュニケーション中２Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 322
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0631】国際コミュニケーション中３Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 322
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0631】国際コミュニケーション中３Ａ［謝　荔］春学期授業/Spring 323
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0632】国際コミュニケーション中３Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 323
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0632】国際コミュニケーション中３Ｂ［謝　荔］秋学期授業/Fall 324
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0571】中国語１Ａ［邱　奎福］春学期授業/Spring 324
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0571】中国語１Ａ［邱　奎福］春学期授業/Spring . . . 325
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0572】中国語１Ｂ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 325
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0572】中国語１Ｂ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 326
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0575】中国語２Ａ［劉　紅］春学期授業/Spring 326
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0575】中国語２Ａ［劉　紅］春学期授業/Spring 327
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0576】中国語２Ｂ［劉　紅］秋学期授業/Fall 327
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0576】中国語２Ｂ［劉　紅］秋学期授業/Fall 328
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0577】中国語３Ａ［邱　奎福］春学期授業/Spring 328
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0577】中国語３Ａ［邱　奎福］春学期授業/Spring . . . 329
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0578】中国語３Ｂ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 329
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0578】中国語３Ｂ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 330
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0601】日本語１Ａ［李　址遠］春学期授業/Spring 330
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0601】日本語１Ａ［李　址遠］春学期授業/Spring . . . 331
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0603】日本語１Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 331
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0603】日本語１Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 332
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0605】日本語１Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 332
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0605】日本語１Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 333
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0607】日本語１Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 333
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0607】日本語１Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring . 334
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0602】日本語１Ｂ［李　址遠］秋学期授業/Fall 334
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0602】日本語１Ｂ［李　址遠］秋学期授業/Fall 335
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0604】日本語１Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 335
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0604】日本語１Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 336
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0606】日本語１Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 336
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0606】日本語１Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 337
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0608】日本語１Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 337
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0608】日本語１Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 338
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0609】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 338
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0609】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 339
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0611】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 339
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0611】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 340
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0613】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 340
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0613】日本語２Ａ［乾　浩］春学期授業/Spring 341
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0615】日本語２Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring . 341
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0615】日本語２Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 342
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0610】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 342
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0610】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 343
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0612】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 343
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0612】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 344
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0614】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 344
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0614】日本語２Ｂ［乾　浩］秋学期授業/Fall 345
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0616】日本語２Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 345
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0616】日本語２Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 346
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0617】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 346

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0617】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 347
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0619】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 348
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0619】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 349
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0621】日本語３Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring . 350
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0621】日本語３Ａ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 351
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0623】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 351
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0623】日本語３Ａ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 352
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0618】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 353
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0618】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall . . 354
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0620】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 355
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0620】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall . . 356
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0622】日本語３Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 357
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0622】日本語３Ｂ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall358
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0624】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 358
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0624】日本語３Ｂ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall . . 359
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0527】Intensive English 1A［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 360
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0527】Intensive English 1A［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 361
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0528】Intensive English 1B［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 362
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0528】Intensive English 1B［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 363
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0529】Intensive English 1C［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 364
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0529】Intensive English 1C［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 365
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0530】Intensive English 1D［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 366
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0530】Intensive English 1D［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 367
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0531】インテンシヴ・イングリッシュ５［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 368
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0531】インテンシヴ・イングリッシュ５［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 369
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0532】インテンシヴ・イングリッシュ６［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 370
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0532】インテンシヴ・イングリッシュ６［(株）ウエストゲイト］春学期授業/Spring 371
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0533】インテンシヴ・イングリッシュ７［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 372
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0533】インテンシヴ・イングリッシュ７［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 373
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0534】インテンシヴ・イングリッシュ８［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 374
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0534】インテンシヴ・イングリッシュ８［(株）ウエストゲイト］秋学期授業/Fall 375
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0581,N0582】日本手話１Ａ（初級）［宮本　一郎］春学期授業/Spring 376

福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0581,N0582】日本手話１Ａ（初級）［宮本一郎］春学期授業/Spring 377
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0583,N0584】日本手話１Ｂ（初級）［宮本一郎］秋学期授業/Fall 378
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0583,N0584】日本手話１Ｂ（初級）［宮本　一郎］秋学期授業/Fall 379
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0585】日本手話２Ａ（中級）［宮本　一郎］春学期授業/Spring 380
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0585】日本手話２Ａ（中級）［宮本　一郎］春学期授業/Spring 381
臨床心理学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0586】日本手話２Ｂ（中級）［宮本　一郎］秋学期授業/Fall 382
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_言語コミュニケーション科目【N0586】日本手話２Ｂ（中級）［宮本　一郎］秋学期授業/Fall 383
臨床心理学科_専門教育科目_専門基礎科目【N0054】心理学［服部　環］春学期授業/Spring 384
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1001】社会福祉概論［平野　寛弥］秋学期授業/Fall 385
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1002,N1007】ソーシャルワークⅠ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 386
臨床心理学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1401】心理学概論［小野　純平］秋学期授業/Fall 387
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1003】地域問題入門［野田　岳仁］春学期授業/Spring 387
臨床心理学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1402,N1403】心理学実験［長内　優樹］春学期授業/Spring 388
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1004】まちづくりの思想［水野　雅男、図司　直也、土肥将敦、佐野　竜平、野田　岳仁］春学期授業/Spring 389
臨床心理学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1404,N1405】心理学応用実験［長内　優樹］秋学期授業/Fall 390
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1005】社会問題論［髙良　麻子］春学期授業/Spring 391
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1002,N1007】ソーシャルワークⅠ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall . . 392
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1051】地域福祉論［金　吾燮］秋学期授業/Fall 393
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目　ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ［髙良　麻子］ 394
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目　ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ［髙良　麻子］ 394
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1003】地域問題入門［野田　岳仁］春学期授業/Spring 395
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1063,N1068】ソーシャルワークⅡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 396
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1063,N1068】ソーシャルワークⅡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 396
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1005】社会問題論［髙良　麻子］春学期授業/Spring 397
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1053】地域計画論［保井　美樹］秋学期授業/Fall 397
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1054】ボランタリーアクション［長濵　洋二］春学期授業/Spring 398
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1057】心理学的支援法［末武　康弘］春学期授業/Spring 399
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1055】コミュニティビジネス論［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 400
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1301】発達心理学［前田　基成］春学期授業/Spring 401
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1056】社会的包摂論［水野　雅男］秋学期授業/Fall 402
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1451】コミュニティ心理学［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 403
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1057】心理学的支援法［末武　康弘］春学期授業/Spring . . . 404
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1452,N1453】心理的アセスメント［小野　純平］春学期授業/Spring 405
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1058】福祉国家論［布川　日佐史］春学期授業/Spring 406
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1454】臨床心理学概論［金築　優］春学期授業/Spring 407
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1059】ケアマネジメント論［柴崎　祐美］春学期授業/Spring 408
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1455】心理療法［久保田　幹子］春学期授業/Spring 409
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1060,N1069】ソーシャルワークⅢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 410
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1456】精神疾患とその治療［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 411
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1457】公認心理師の職責［宮田　はる子］秋学期授業/Fall 412
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1101】社会福祉原理［平野　寛弥］秋学期授業/Fall 413
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1060,N1069】ソーシャルワークⅢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall . . 414
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1102】公的扶助論［大澤　優真］秋学期授業/Fall 415
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1103】社会保障論［足利　聖治］春学期授業/Spring 415
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1204】精神保健学［行實　志都子］春学期授業/Spring 416
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1104】地域経済論［図司　直也］秋学期授業/Fall 417
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1205】精神保健福祉論Ⅰ［三木　良子］秋学期授業/Fall 418

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1105】地域文化政策論［須田　英一］春学期授業/Spring . . . 419
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1206】精神保健福祉論Ⅱ［三木　良子］秋学期授業/Fall 420
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N0158】地方財政論［関口　浩］秋学期授業/Fall 420
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1302】高齢者福祉論［中村　律子］春学期授業/Spring 421
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1107】地方自治論［中嶋　学］秋学期授業/Fall 422
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1303】児童福祉論［岩田　美香］春学期授業/Spring 423
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1108】都市住宅政策論［水野　雅男］春学期授業/Spring . . . 424
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1304】障害者福祉論［眞保　智子］秋学期授業/Fall 425
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1109】福祉行財政と福祉計画［金　吾燮］春学期授業/Spring 426
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1307】家族福祉論［新藤　こずえ］サマーセッション/Summer Session427
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1110】保健医療サービス［岡田　栄作］秋学期授業/Fall 428
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1308】精神科リハビリテーション学［行實　志都子］春学期授業/Spring429
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1121】政策評価論［石井　義之］秋学期授業/Fall 430
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1309】異文化心理学［奥山　今日子］春学期授業/Spring 431
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1112】司法福祉論［辰野　文理］春学期授業/Spring 432
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1311】家族心理学［松本　聡子］秋学期授業/Fall 433
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1113】国際協力論［佐野　竜平］春学期授業/Spring 434
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1312】教育・学校心理学［前田　基成］秋学期授業/Fall 434
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1114】福祉の思想と歴史［白川　耕一］春学期授業/Spring . 435
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1313】教育心理学特講［安齊　順子］春学期授業/Spring 436
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1115】環境政策論［藤澤　浩子］春学期授業/Spring 437
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1314,N1315】芸術療法［蜂谷　和郎］春学期授業/Spring 438
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1116】医療政策論［小磯　明］春学期授業/Spring 439
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1316】福祉心理学［山田　勝美］秋学期授業/Fall 440
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1118】Community Based Inclusive Development［佐野竜平］春学期授業/Spring 441
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1318】障害者・障害児心理学［小林　玄］サマーセッション/Summer Session 442
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1119】アジア地域開発論 (2021 年度以降入学者)［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 443
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1119】アジア地域開発論 (2020 年度以前入学者)［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 444
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1319】スクールソーシャルワーク［岩田　美香］秋学期授業/Fall 445
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1120】Disability and Development in Asia［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 446
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1320】精神保健ソーシャルワークⅠ［國重　智宏］春学期授業/Spring 447
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1201,N1223】コミュニティアート［吉野　裕之］秋学期授業/Fall 448
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1321】精神保健ソーシャルワークⅡ［山口　創生］秋学期授業/Fall . 449
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1202】コミュニティスポーツ［遠藤　華英］春学期授業/Spring450
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1322】セルフヘルプグループ［横川　剛毅］春学期授業/Spring 451
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1203】住民参加の手法［杉崎　和久］春学期授業/Spring . . . 452
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1327】若者支援論［眞保　智子］春学期授業/Spring 453
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1204】精神保健学［行實　志都子］春学期授業/Spring 454
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1328】女性福祉論［堀　千鶴子］秋学期授業/Fall 455
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1205】精神保健福祉論Ⅰ［三木　良子］秋学期授業/Fall . . . 456
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1329】死生観とソーシャルワーク［佐藤　繭美］春学期授業/Spring . 456
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1206】精神保健福祉論Ⅱ［三木　良子］秋学期授業/Fall . . . 457
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1501】グループアプローチ［大竹　直子］秋学期授業/Fall 458
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1207】地域遺産マネジメント論［須田　英一］春学期授業/Spring459
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1502】社会・集団・家族心理学［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 460
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1208,N1224】地域経営論［松本　昭］春学期授業/Spring . . 461
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1503】児童精神医学［関谷　秀子］春学期授業/Spring 462
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1209,N1225】地域ツーリズム［野田　岳仁］秋学期授業/Fall462
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1504】感情・人格心理学［松﨑　圭佑］秋学期授業/Fall 463
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目　地域リハビリテーション［熊坂　隆行］ 464

臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1505,N1506】心理検査法特講［小野　純平］秋学期授業/Fall 465
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1211】都市とコミュニティ［保井　美樹］春学期授業/Spring 466
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1507】精神分析学［中　康］秋学期授業/Fall 467
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1212】農山村とコミュニティ［図司　直也］春学期授業/Spring468
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1508】投映法特講［須永　聖大］秋学期授業/Fall 469
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1213】文化環境創造論［須田　英一］秋学期授業/Fall 470
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1509】臨床心理学特講［末武　康弘］秋学期授業/Fall 471
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1215】福祉サービスの組織と経営［千葉　正展］春学期授業/Spring 472
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1510】健康・医療心理学［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 473
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1216】ソーシャルマネジメント論［樋口　邦史］秋学期授業/Fall474
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1511】認知行動療法［金築　優］秋学期授業/Fall 475
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1217】ソーシャルファイナンス論［徳永　洋子］春学期授業/Spring 476
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1512】産業・組織心理学［小林　由佳］春学期授業/Spring 477
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N0161】社会心理学Ⅰ［土倉　英志］春学期授業/Spring 477
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1218】協同組合論［阿高　あや］秋学期授業/Fall 478
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N0162】社会心理学Ⅱ［土倉　英志］秋学期授業/Fall 479
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1235】災害支援論［青木　信夫、松井　正雄、正谷　絵美］秋学期授業/Fall 480
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1220】人権活動論［寺中　誠］春学期授業/Spring 481
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1553】司法・犯罪心理学［西田　俊男］春学期授業/Spring 482
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1221,N1226】ＮＰＯ論［渡真利　紘一］春学期授業/Spring 483
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1601】学習・言語心理学［金子　真人］春学期授業/Spring 484
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1222】居住福祉論［大原　一興］春学期授業/Spring 485
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1602,N1603】心理学研究法［腰冢　由子］春学期授業/Spring 486
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1301】発達心理学［前田　基成］春学期授業/Spring 487
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1604,N1605】心理測定法［腰冢　由子］秋学期授業/Fall 488
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1302】高齢者福祉論［中村　律子］春学期授業/Spring 489
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1606】神経・生理心理学［長山　恵一］春学期授業/Spring 490
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1303】児童福祉論［岩田　美香］春学期授業/Spring 491
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1607】精神生理学特講［望月　聡］秋学期授業/Fall 492
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1304】障害者福祉論［眞保　智子］秋学期授業/Fall. 493
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1608】知覚・認知心理学［望月　聡］春学期授業/Spring. 494
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1306】権利擁護と成年後見［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 495
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1609】認知心理学特講［望月　聡］秋学期授業/Fall 496
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1307】家族福祉論［新藤　こずえ］サマーセッション/Summer Session 497
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1610】関係行政論［小磯　明］春学期授業/Spring 498
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1308】精神科リハビリテーション学［行實　志都子］春学期授業/Spring 499
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1309】異文化心理学［奥山　今日子］春学期授業/Spring . . . 500
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1310】介護福祉論［奈良　環］秋学期授業/Fall 501
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1311】家族心理学［松本　聡子］秋学期授業/Fall 502
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1312】教育・学校心理学［前田　基成］秋学期授業/Fall 503
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2005】専門演習ＩＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring . . . 504
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2016】専門演習ＩＡ［小野　純平］春学期授業/Spring. 505
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1313】教育心理学特講［安齊　順子］春学期授業/Spring . . . 505
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2001】専門演習ＩＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring . . . 506
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2017】専門演習ＩＡ［金築　優］春学期授業/Spring 507
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1314,N1315】芸術療法［蜂谷　和郎］春学期授業/Spring . . 508
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2002】専門演習ＩＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring . . . 509
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2018】専門演習ＩＡ［久保田　幹子］春学期授業/Spring. 509
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1316】福祉心理学［山田　勝美］秋学期授業/Fall 510
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2003】専門演習ＩＡ［岩田　美香］春学期授業/Spring . . . 511
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2019】専門演習ＩＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring. 512

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1317】コミュニティソーシャルワーク［洪　シンロ］春学期授業/Spring 513
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1317】コミュニティソーシャルワーク［洪　シンロ］春学期授業/Spring 514
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2006】専門演習ＩＡ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring . . . 515
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2020】専門演習ＩＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 516
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1318】障害者・障害児心理学［小林　玄］サマーセッション/Summer Session 517
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2007】専門演習ＩＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring . . . 518
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2022】専門演習ＩＡ［服部　環］春学期授業/Spring 518
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1319】スクールソーシャルワーク［岩田　美香］秋学期授業/Fall519
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2008】専門演習ＩＡ［眞保　智子］春学期授業/Spring . . . 520
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2023】専門演習ＩＡ［望月　聡］春学期授業/Spring 521
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1320】精神保健ソーシャルワークⅠ［國重　智宏］春学期授業/Spring 522
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2009】専門演習ＩＡ［図司　直也］春学期授業/Spring . . . 523
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2046】専門演習ＩＢ［小野　純平］秋学期授業/Fall 524
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1321】精神保健ソーシャルワークⅡ［山口　創生］秋学期授業/Fall 525
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2011】専門演習ＩＡ［中村　律子］春学期授業/Spring . . . 526
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2047】専門演習ＩＢ［金築　優］秋学期授業/Fall 527
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1322】セルフヘルプグループ［横川　剛毅］春学期授業/Spring528
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2012】専門演習ＩＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring . . . 529
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2048】専門演習ＩＢ［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 530
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1323】多文化ソーシャルワーク［伊藤　正子］春学期授業/Spring531
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2013】専門演習ＩＡ［布川　日佐史］春学期授業/Spring . 532
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2049】専門演習ＩＢ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 532
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1327】若者支援論［眞保　智子］春学期授業/Spring 533
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2014】専門演習ＩＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring . . . 534
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2050】専門演習ＩＢ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 535
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目　専門演習ＩＡ［宮城　孝］ 535
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1328】女性福祉論［堀　千鶴子］秋学期授業/Fall 536
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2052】専門演習ＩＢ［服部　環］秋学期授業/Fall 537
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1329】死生観とソーシャルワーク［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 538
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2015】専門演習ＩＡ［保井　美樹、今井　裕久］春学期授業/Spring 539
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2053】専門演習ＩＢ［望月　聡］秋学期授業/Fall 540
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1451】コミュニティ心理学［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 541
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2035】専門演習ＩＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 542
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2116】専門演習ⅡＡ［小野　純平］春学期授業/Spring 543
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1454】臨床心理学概論［金築　優］春学期授業/Spring 544
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2031】専門演習ＩＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 545
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2117】専門演習ⅡＡ［金築　優］春学期授業/Spring 546
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1456】精神疾患とその治療［関谷　秀子］秋学期授業/Fall . . 547
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2032】専門演習ＩＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 548
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2118】専門演習ⅡＡ［久保田　幹子］春学期授業/Spring 548
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目　雇用政策論［布川　日佐史］ 549
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2033】専門演習ＩＢ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 550
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2119】専門演習ⅡＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring 551
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1210】ソーシャルイノベーション論［土肥　将敦］春学期授業/Spring 552
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2036】専門演習ＩＢ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 553
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2120】専門演習ⅡＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 554
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1325】老いの文化と福祉［中村　律子］秋学期授業/Fall 554
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2037】専門演習ＩＢ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 555
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2038】専門演習ＩＢ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 556

臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2121】専門演習ⅡA［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 557
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2039】専門演習ⅠB［図司　直也］秋学期授業/Fall 557
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2122】専門演習ⅡA［服部　環］春学期授業/Spring 558
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2041】専門演習ⅠB［中村　律子］秋学期授業/Fall 559
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2123】専門演習ⅡA［望月　聡］春学期授業/Spring 560
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2042】専門演習ⅠB［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 561
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2146】専門演習ⅡB［小野　純平］秋学期授業/Fall 562
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2043】専門演習ⅠB［布川　日佐史］秋学期授業/Fall 563
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2147】専門演習ⅡB［金築　優］秋学期授業/Fall 563
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2044】専門演習ⅠB［水野　雅男］秋学期授業/Fall 564
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2148】専門演習ⅡB［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 565
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目　専門演習ⅠB［宮城　孝］ 566
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2149】専門演習ⅡB［末武　康弘］秋学期授業/Fall 566
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2045】専門演習ⅠB［保井　美樹、今井　裕久］秋学期授業/Fall 567
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2150】専門演習ⅡB［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 568
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目　専門演習ⅡA［石井　享子］ 569
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2108】専門演習ⅡA［図司　直也］春学期授業/Spring . . . 569
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2151】専門演習ⅡB［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 570
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2104】専門演習ⅡA［髙良　麻子］春学期授業/Spring . . . 570
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2152】専門演習ⅡB［服部　環］秋学期授業/Fall 571
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2103】専門演習ⅡA［岩田　美香］春学期授業/Spring . . . 572
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2153】専門演習ⅡB［望月　聡］秋学期授業/Fall 573
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2105】専門演習ⅡA［佐藤　繭美］春学期授業/Spring . . . 574
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2216】専門演習ⅢA［小野　純平］春学期授業/Spring 575
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2106】専門演習ⅡA［佐野　竜平］春学期授業/Spring . . . 575
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2217】専門演習ⅢA［金築　優］春学期授業/Spring 576
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2107】専門演習ⅡA［眞保　智子］春学期授業/Spring . . . 576
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2218】専門演習ⅢA［久保田　幹子］春学期授業/Spring 577
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2109】専門演習ⅡA［土肥　将敦］春学期授業/Spring . . . 578
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2219】専門演習ⅢA［末武　康弘］春学期授業/Spring 579
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2110】専門演習ⅡA［中村　律子］春学期授業/Spring . . . 580
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2220】専門演習ⅢA［関谷　秀子］春学期授業/Spring 581
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2111】専門演習ⅡA［野田　岳仁］春学期授業/Spring . . . 581
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2221】専門演習ⅢA［長山　恵一］春学期授業/Spring 582
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2112】専門演習ⅡA［布川　日佐史］春学期授業/Spring . 583
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2222】専門演習ⅢA［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 583
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目　専門演習ⅢA［服部　環］ 584
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2113】専門演習ⅡA［水野　雅男］春学期授業/Spring . . . 584
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2115】専門演習ⅡA［張　梦瑶］春学期授業/Spring 585
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2224】専門演習ⅢA［望月　聡］春学期授業/Spring 585
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2114】専門演習ⅡA［今井　裕久］春学期授業/Spring . . . 586
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2246】専門演習ⅢB［小野　純平］秋学期授業/Fall 587
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2247】専門演習ⅢB［金築　優］秋学期授業/Fall 588
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2131】専門演習ⅡB［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 588
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2248】専門演習ⅢB［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 589
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2102】専門演習ⅡA［岩崎　晋也］春学期授業/Spring . . . 590
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2132】専門演習ⅡB［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 591
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2249】専門演習ⅢB［末武　康弘］秋学期授業/Fall 591
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2133】専門演習ⅡB［岩田　美香］秋学期授業/Fall 592
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2250】専門演習ⅢB［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 593
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2135】専門演習ⅡB［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 593
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2251】専門演習ⅢB［長山　恵一］秋学期授業/Fall 594
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2136】専門演習ⅡB［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 595
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2252】専門演習ⅢB［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 596
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2137】専門演習ⅡB［眞保　智子］秋学期授業/Fall 596
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2253】専門演習ⅢB［服部　環］秋学期授業/Fall 597

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2134】専門演習ⅡＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 598
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2254】専門演習ⅢＢ［望月　聡］秋学期授業/Fall 598
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2139】専門演習ⅡＢ［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 599
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2316】卒業論文［小野　純平］年間授業/Yearly 600
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2412,N2413,N2414,N2415】ソーシャルワーク演習Ⅰ［西田　ちゆき、根岸　弓、杉本　豊和、西田　純子］秋学期授業/Fall 601
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2140】専門演習ⅡＢ［中村　律子］秋学期授業/Fall 602
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2317】卒業論文［金築　優］年間授業/Yearly 603
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2141】専門演習ⅡＢ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 604
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2318】卒業論文［久保田　幹子］年間授業/Yearly 605
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2142】専門演習ⅡＢ［布川　日佐史］秋学期授業/Fall 606
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2319】卒業論文［末武　康弘］年間授業/Yearly 607
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2143】専門演習ⅡＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 608
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2320】卒業論文［関谷　秀子］年間授業/Yearly 608
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2145】専門演習ⅡＢ［張　梦瑶］秋学期授業/Fall 609
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2321】卒業論文［長山　恵一］年間授業/Yearly 610
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2144】専門演習ⅡＢ［今井　裕久］秋学期授業/Fall 611
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2322】卒業論文［丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 612
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2214】専門演習ⅢＡ［篠原　亮次］春学期授業/Spring . . . 612
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2323】卒業論文［服部　環］年間授業/Yearly 613
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2201】専門演習ⅢＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring . . . 614
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2324】卒業論文［望月　聡］年間授業/Yearly 615
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2202】専門演習ⅢＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring . . . 616
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2351】英語専門演習ＩＡ［髙取　康之］春学期授業/Spring 616
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2203】専門演習ⅢＡ［岩田　美香］春学期授業/Spring . . . 617
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2352】英語専門演習ＩＢ［髙取　康之］秋学期授業/Fall 617
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2204】専門演習ⅢＡ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring . . . 618
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2505】心理実習［金築　優、長山　恵一、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、久保田　幹子、服部　環、関谷　秀子］年間授業/Yearly 619
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2205】専門演習ⅢＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring . . . 620
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2502】心理演習Ⅰ［金築　優、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、望月　聡、津村　麻紀］春学期授業/Spring 620
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2206】専門演習ⅢＡ［眞保　智子］春学期授業/Spring . . . 621
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2503】心理演習Ⅱ［金築　優、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、望月　聡、津村　麻紀］秋学期授業/Fall 622
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2208】専門演習ⅢＡ［土肥　将敦］春学期授業/Spring . . . 623
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2021】専門演習ＩＡ［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 624
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2209】専門演習ⅢＡ［中村　律子］春学期授業/Spring . . . 625
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2211】専門演習ⅢＡ［布川　日佐史］春学期授業/Spring . 626
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2051】専門演習ＩＢ［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 627
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2212】専門演習ⅢＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring . . . 627
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2377】コミュニティスタディ演習 (2017 年度以前入学生)［土肥　将敦、水野　雅男］秋学期授業/Fall 628
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2215】専門演習ⅢＡ［張　梦瑶］春学期授業/Spring 629
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2213】専門演習ⅢＡ［今井　裕久］春学期授業/Spring . . . 629
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2207】専門演習ⅢＡ［図司　直也］春学期授業/Spring . . . 630
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2244】専門演習ⅢＢ［篠原　亮次］秋学期授業/Fall 631
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2231】専門演習ⅢＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 632
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2232】専門演習ⅢＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 633
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2233】専門演習ⅢＢ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 633
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2234】専門演習ⅢＢ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 634
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2235】専門演習ⅢＢ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 635
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2236】専門演習ⅢＢ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 635
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2237】専門演習ⅢＢ［図司　直也］秋学期授業/Fall 636
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2238】専門演習ⅢＢ［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 637
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2239】専門演習ⅢＢ［中村　律子］秋学期授業/Fall 638
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2241】専門演習ⅢＢ［布川　日佐史］秋学期授業/Fall 638

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2242】専門演習ⅢＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 639
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2245】専門演習ⅢＢ［張　梦瑶］秋学期授業/Fall 639
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2243】専門演習ⅢＢ［今井　裕久］秋学期授業/Fall 640
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2315】卒業論文［篠原　亮次］年間授業/Yearly 641
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2301】卒業論文［伊藤　正子］年間授業/Yearly 642
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2302】卒業論文［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 643
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2303】卒業論文［岩田　美香］年間授業/Yearly 643
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2304】卒業論文［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 644
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2305】卒業論文［佐野　竜平］年間授業/Yearly 645
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2306】卒業論文［眞保　智子］年間授業/Yearly 646
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2307】卒業論文［図司　直也］年間授業/Yearly 647
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2308】卒業論文［土肥　将敦］年間授業/Yearly 648
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2309】卒業論文［中村　律子］年間授業/Yearly 649
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2311】卒業論文［布川　日佐史］年間授業/Yearly 650
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2312】卒業論文［水野　雅男］年間授業/Yearly 651
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2314】卒業論文［張　梦瑶］年間授業/Yearly 652
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2313】卒業論文［今井　裕久］年間授業/Yearly 653
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2351】英語専門演習ⅠＡ［髙取　康之］春学期授業/Spring 654
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2352】英語専門演習ⅠＢ［髙取　康之］秋学期授業/Fall . . 654
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2354】英語専門演習ⅡＡ［山本　五郎］春学期授業/Spring 655
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2354】英語専門演習ⅡＡ［山本　五郎］春学期授業/Spring 656
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2355】英語専門演習ⅡＢ［山本　五郎］秋学期授業/Fall 657
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2355】英語専門演習ⅡＢ［山本　五郎］秋学期授業/Fall . . 658
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2371】コミュニティマネジメント・リサーチ［土肥　将敦、水野　雅男］秋学期授業/Fall 659
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2372】コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］春学期授業/Spring 660
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2373】コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］秋学期授業/Fall 660
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2374】コミュニティスタディ実習 (2017 年度以前入学生)［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］年間授業/Yearly 661
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2375】コミュニティスタディ実習指導Ⅰ (2017 年度以前入学生)［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］春学期授業/Spring 661
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2376】コミュニティスタディ実習指導Ⅱ (2017 年度以前入学生)［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］秋学期授業/Fall 662
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2391】スクールソーシャルワーク演習［岩田　美香］春学期授業/Spring 662
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2392】スクールソーシャルワーク実習［岩田　美香］年間授業/Yearly 663
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2393】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ［岩田　美香］春学期授業/Spring 663
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2394】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 664
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2401,N2402】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ［眞保　智子、岡田　栄作］春学期授業/Spring 664
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2403,N2404】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ［眞保　智子、岡田　栄作］秋学期授業/Fall 665
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2405,N2406】精神保健ソーシャルワーク実習［眞保　智子、岡田　栄作］年間授業/Yearly 666
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2407】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 667
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2408,N2409】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［眞保　智子］春学期授業/Spring 668
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2410,N2411】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 669

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2421,N2422,N2423,N2424,N2425,N2426,N2427,N2428】
ソーシャルワーク演習Ⅱ［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓］春学期授業/Spring 670
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2431,N2432,N2433,N2434】ソーシャルワーク演習Ⅲ［西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓、西田　純子］春学期授業/Spring 671
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2441,N2442,N2443,N2444】ソーシャルワーク演習Ⅳ［眞保　智子］春学期授業/Spring 672
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2451,N2452,N2453,N2454,N2455,N2456,N2457,N2458】
ソーシャルワーク演習Ⅴ［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓］秋学期授業/Fall 673
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2461,N2462,N2463,N2464,N2465,N2466,N2467,N2468】
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、岡田　栄作、西田　ちゆき、根岸　弓］秋学期授業/Fall 674
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2471,N2472,N2473,N2474,N2475,N2476,N2477,N2478】
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓］春学期授業/Spring 675
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2481,N2482,N2483,N2484,N2485,N2486,N2487,N2488】
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓］秋学期授業/Fall 675
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2491,N2492,N2493,N2494,N2495,N2496,N2497,N2498】
ソーシャルワーク実習［中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓］年間授業/Yearly 676

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講となる場合があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）。オンラインでの開講となった際にはそれにともない、成績評価の方法や基準も変更になる場合があります。その具体的な方法や基準は学習支援システムを通してお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。新型コロナ感染の防止に留意しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

小田　友理恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で学んだ基礎的な知識やスキルを活かして、自ら問題を設定し、グループによって主体的に行動できる能力を養成します。

【到達目標】
グループワークの技法、フィールドワークの技法を学びます。またそれとともに、自ら研究計画を組み立て、フィールド調査、報告という一連のプロセスを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループを作り、各グループの問題関心に従って「問い・仮説を立てる」、「文献・資料を調べる」、「フィールド調査をする」、「報告・プレゼンテーションをする」という一連のプロセスを体験します。授業は、状況に応じてオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題へのフィードバックについては、必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクション	秋学期全体の内容を確認するとともに、夏休み中の成果等について報告する。
第 2 回	自らの問題関心を報告する・グループ分け	履修者の問題関心をレジュメで報告する。
第 3 回	文献・資料を集める①	グループ毎に、読むべき基礎文献や資料（新聞・雑誌記事など）を収集し、それをもとに議論する。
第 4 回	文献・資料を集める②	第 3 回での議論をもとに、再度グループ毎に、読むべき基礎文献や資料を収集し、それを元に議論する。
第 5 回	調査対象を設定する	グループ毎にフィールド調査を行う調査対象を設定し、2 次資料から分かる内容を報告する。
第 6 回	「問いを立てる・仮説を鍛える」①	調査先に対して送るインタビューシートを作成する。
第 7 回	「問いを立てる・仮説を鍛える」②	調査先に対して送るインタビューシートを作成し、その内容について報告、議論する。
第 8 回	グループワーク・報告①	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（A グループ）
第 9 回	グループワーク・報告②	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（B グループ）
第 10 回	グループワーク・報告③	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（C グループ）
第 11 回	プレゼンテーションの技法①	最終プレゼンテーションに役立つ、プレゼンテーションの技法について学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーションの技法②	最終プレゼンテーションに役立つ、報告・質疑応答の対応方法等について学ぶ。
第 13 回	最終プレゼンテーション①	問題関心、問いの設定、フィールド調査、分析・考察、導きだされる知見等についてグループごとに報告し、履修者全員で相互評価を行う。（A グループ）
第 14 回	最終プレゼンテーション②	問題関心、問いの設定、フィールド調査、分析・考察、導きだされる知見等についてグループごとに報告し、履修者全員で相互評価を行う。（B グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期の講義時間はグループワークや報告の時間になるため、秋学期に指定するテキストの内容を授業外で理解することが求められます。講義中には適宜、理解状況を確認するミニテスト等を盛り込んでいきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
『フィールドワーク一書を持って街へ出よう（ワードマップ）』佐藤郁哉著（新曜社）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンなどオンライン授業に必要な機器が確保できない場合には申し出てください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to develop student's basic skill and knowledge in our faculty. The course also includes an assignment to various practical workshops that works with students and professional academic staffs.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

小田　友理恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で学んだ基礎的な知識やスキルを活かして、自ら問題を設定し、グループによって主体的に行動できる能力を養成します。

【到達目標】
グループワークの技法、フィールドワークの技法を学びます。またそれとともに、自ら研究計画を組み立て、フィールド調査、報告という一連のプロセスを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループを作り、各グループの問題関心に従って「問い・仮説を立てる」、「文献・資料を調べる」、「フィールド調査をする」、「報告・プレゼンテーションをする」という一連のプロセスを体験します。授業は、状況に応じてオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題へのフィードバックについては、必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクション	秋学期全体の内容を確認するとともに、夏休み中の成果等について報告する。
第 2 回	自らの問題関心を報告する・グループ分け	履修者の問題関心をレジュメで報告する。
第 3 回	文献・資料を集める①	グループ毎に、読むべき基礎文献や資料（新聞・雑誌記事など）を収集し、それをもとに議論する。
第 4 回	文献・資料を集める②	第 3 回での議論をもとに、再度グループ毎に、読むべき基礎文献や資料を収集し、それを元に議論する。
第 5 回	調査対象を設定する	グループ毎にフィールド調査を行う調査対象を設定し、2 次資料から分かる内容を報告する。
第 6 回	「問いを立てる・仮説を鍛える」①	調査先に対して送るインタビューシートを作成する。
第 7 回	「問いを立てる・仮説を鍛える」②	調査先に対して送るインタビューシートを作成し、その内容について報告、議論する。
第 8 回	グループワーク・報告①	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（A グループ）
第 9 回	グループワーク・報告②	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（B グループ）
第 10 回	グループワーク・報告③	各グループのフィールド調査の内容を報告し、全員でディスカッションを行う。（C グループ）
第 11 回	プレゼンテーションの技法①	最終プレゼンテーションに役立つ、プレゼンテーションの技法について学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーションの技法②	最終プレゼンテーションに役立つ、報告・質疑応答の対応方法等について学ぶ。
第 13 回	最終プレゼンテーション①	問題関心、問いの設定、フィールド調査、分析・考察、導きだされる知見等についてグループごとに報告し、履修者全員で相互評価を行う。（A グループ）
第 14 回	最終プレゼンテーション②	問題関心、問いの設定、フィールド調査、分析・考察、導きだされる知見等についてグループごとに報告し、履修者全員で相互評価を行う。（B グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期の講義時間はグループワークや報告の時間になるため、秋学期に指定するテキストの内容を授業外で理解することが求められます。講義中には適宜、理解状況を確認するミニテスト等を盛り込んでいきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
『フィールドワーク一書を持って街へ出よう（ワードマップ）』佐藤郁哉著（新曜社）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンなどオンライン授業に必要な機器が確保できない場合には申し出てください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to develop student's basic skill and knowledge in our faculty. The course also includes an assignment to various practical workshops that works with students and professional academic staffs.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

水野　雅男

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

水野　雅男

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とする。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・コミュニティマネジメント・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数で行う。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	コミュニティマネジメントについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいので、授業の予習と復習をしてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウトを配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していく。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

水野　雅男

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施する。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する協同作業を通じて答えを創り出す力を養う。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につく。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養う。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につく。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養う。
・社会を見つめる視野が広がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視する。同時に、疑問 → 仮説 → リサーチ → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養う。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンテーションを交互に織り交ぜながら進める。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 課題発表１	学習目標の確認, 夏休みの課題発表
第 2 回	課題発表２	夏休みの課題発表
第 3 回	課題発表３	引き続き夏休みの課題発表
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定める
第 5 回	リサーチ１	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討し、更に必要な調査を検討し実施する
第 6 回	リサーチ２	提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行う
第 7 回	中間報告準備１	中間報告に向けてプレゼン資料を作成する
第 8 回	中間報告準備２	プレゼンの完成度を高める作業を行う
第 9 回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックする
第 10 回	修正１	中間報告を受けた修正を行う
第 11 回	修正２	中間報告を受けた修正を引き続き実施
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選１	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選２	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基礎ゼミコンペについては、他のクラスと連携して公平・公正に運営する。

【Outline and objectives】
This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. Based on the contents of Freshman Seminar I in the spring semester, students will embark on setting up challenging research topics for the Japanese presentation and prepare for the presentation competition as a groupwork task. The course involves three presentation sessions, namely the in-class presentation session with classmates only, the joint presentation session in which representative groups from multiple Freshman Seminar II classes make presentations, and the final presentation competition where all Freshman Seminar II classes get together and some of the best presentations performed by students will be given.
The presentation topics are usually, but not necessarily, connected to issues in the fields of community development, social welfare, or clinical psychology. Students will be expected to support their discussions and suggestions with objective facts and figures obtained through questionnaires, interviews, meta-analysis of previous studies, and so forth, each of which will be introduced in accordance with the progress of the course.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

水野　雅男

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施する。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する協同作業を通じて答えを創り出す力を養う。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につく。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養う。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につく。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養う。
・社会を見つめる視野が広がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視する。同時に、疑問 → 仮説 → リサーチ → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養う。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンテーションを交互に織り交ぜながら進める。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 課題発表 1	学習目標の確認, 夏休みの課題発表
第 2 回	課題発表 2	夏休みの課題発表
第 3 回	課題発表 3	引き続き夏休みの課題発表
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定める
第 5 回	リサーチ 1	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討し、更に必要な調査を検討し実施する
第 6 回	リサーチ 2	提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行う
第 7 回	中間報告準備 1	中間報告に向けてプレゼン資料を作成する
第 8 回	中間報告準備 2	プレゼンの完成度を高める作業を行う
第 9 回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックする
第 10 回	修正 1	中間報告を受けた修正を行う
第 11 回	修正 2	中間報告を受けた修正を引き続き実施
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基礎ゼミコンペについては、他のクラスと連携して公平・公正に運営する。

【Outline and objectives】
This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. Based on the contents of Freshman Seminar I in the spring semester, students will embark on setting up challenging research topics for the Japanese presentation and prepare for the presentation competition as a groupwork task. The course involves three presentation sessions, namely the in-class presentation session with classmates only, the joint presentation session in which representative groups from multiple Freshman Seminar II classes make presentations, and the final presentation competition where all Freshman Seminar II classes get together and some of the best presentations performed by students will be given.
The presentation topics are usually, but not necessarily, connected to issues in the fields of community development, social welfare, or clinical psychology. Students will be expected to support their discussions and suggestions with objective facts and figures obtained through questionnaires, interviews, meta-analysis of previous studies, and so forth, each of which will be introduced in accordance with the progress of the course.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

小田　友理恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%で総合的に評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのやり取りを踏まえながら授業を進めます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

小田　友理恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのやり取りを踏まえながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業においては、パソコンやネット環境が必要になります。貸与パソコン等、必要な機材を確保できない場合には申し出てください。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

柴崎　祐美

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自ら研究テーマを設定しデータ収集と分析、成果を発表する経験を通じて、情報リテラシー、論理的思考を磨き、さらに、議論、 発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につけます。

【到達目標】
大学での研究（学び）のために必要な基礎的能力を習得します。
・文献・資料を正確に理解し、対する自分の意見を構築できる
・他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深めることができる
・テーマに関連するトピックについて調査、考察し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ学習を中心に進めます。自分たちの問題意識に従ってテーマを設定し、自分たちで仮説を立て、データを集め、なんらかの答えを出して発表する（基礎ゼミコンペ）という一連のプロセスを体験します。
課題等の提出・フィードバック、授業に関する連絡は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要説明
第 2 回	多様な社会問題に触れる①	夏休み課題の発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる②	夏休み課題の発表
第 4 回	研究テーマ、仮説設定①	グループごとに研究テーマを考える
第 5 回	文献・資料収集と分析	図書館で DB、統計情報検索行う
第 6 回	現状分析、課題設定①	資料収集の継続と分析
第 7 回	中間報告①	現状分析結果について他者と意見交換を行う
第 8 回	現状分析、課題設定②	テーマに関する解決策、提案を考える
第 9 回	中間発表②	解決策、提案内容について他者と意見交換を行う
第 10 回	プレゼンテーション準備①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
第 11 回	プレゼンテーション準備②	リハーサルと発表内容の修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	3時限クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心あるテーマについて、図書館等の大学の機能を活用しながら、新聞記事や文献・雑誌等の情報収集に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
The last objective of this course is to master information literacy, logical thinking and presentation skills. Students will examine various well-being topics and present the results.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

柴崎　祐美

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自ら研究テーマを設定しデータ収集と分析、成果を発表する経験を通じて、情報リテラシー、論理的思考を磨き、さらに、議論、 発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につけます。

【到達目標】
大学での研究（学び）のために必要な基礎的能力を習得します。
・文献・資料を正確に理解し、対する自分の意見を構築できる
・他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深めることができる
・テーマに関連するトピックについて調査、考察し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ学習を中心に進めます。自分たちの問題意識に従ってテーマを設定し、自分たちで仮説を立て、データを集め、なんらかの答えを出して発表する（基礎ゼミコンペ）という一連のプロセスを体験します。
課題等の提出・フィードバック、授業に関する連絡は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要説明
第 2 回	多様な社会問題に触れる①	夏休み課題の発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる②	夏休み課題の発表
第 4 回	研究テーマ、仮説設定①	グループごとに研究テーマを考える
第 5 回	文献・資料収集と分析	図書館で DB、統計情報検索行う
第 6 回	現状分析、課題設定①	資料収集の継続と分析
第 7 回	中間報告①	現状分析結果について他者と意見交換を行う
第 8 回	現状分析、課題設定②	テーマに関する解決策、提案を考える
第 9 回	中間発表②	解決策、提案内容について他者と意見交換を行う
第 10 回	プレゼンテーション準備①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
第 11 回	プレゼンテーション準備②	リハーサルと発表内容の修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	3時限クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心あるテーマについて、図書館等の大学の機能を活用しながら、新聞記事や文献・雑誌等の情報収集に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
The last objective of this course is to master information literacy, logical thinking and presentation skills. Students will examine various well-being topics and present the results.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

図司　直也

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とする。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
20 人程度の少人数で実施する。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行う。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストの内容理解
第 12 回	レポートの書き方②	テキストを基にした実践演習
第 13 回	地域サポート活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてもらいたい。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しく、授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布するハンドアウトを利用する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%，レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
過年度に担当した経験や受講学生の声をもとに、今年度の内容の充実を積極的に図りたい。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

図司　直也

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

図司　直也

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学部の理念である Well-being の考え方や学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】
学部の理念である Well-being の考え方を理解し、2 年次以降の専門演習や実習の履修に向けて、自分の学びの方向性を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークを中心に、各グループの問題関心に従って、テーマ設定、資料収集、フィールド調査、ディスカッション、プレゼンテーションのプロセスを体験する。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の内容・方針の共有と夏休みの活動報告
第 2 回	多彩な社会問題に触れる（前半）	新聞記事の内容発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる（後半）	新聞記事の論点整理と議論
第 4 回	関心テーマワークショップ（前半）	問題関心ごとにグループ分け
第 5 回	関心テーマワークショップ（後半）	グループごとに研究テーマを考える
第 6 回	事例・文献収集	テーマに関する事例や文献を収集する
第 7 回	課題の整理	テーマに関する課題を整理する
第 8 回	課題解決の方策の検討	テーマに関する課題解決の方策を考える
第 9 回	グループ研究のまとめ	グループ研究を論理的に組み立てる
第 10 回	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料準備
第 11 回	プレゼンテーション練習	プレゼンテーションの練習と修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。毎回の授業に向けたグループワークの準備作業は不可欠であり、グループ内で相談し、役割分担しながら、期日に合わせて必要な作業を進める姿勢が求められる。

【テキスト（教科書）】
講義内で配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%，レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや履修者とのコミュニケーションをもとに授業に反映したい。

【Outline and objectives】
This seminar is designed to clarify which topics could be focused in the fi eld of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

図司　直也

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学部の理念である Well-being の考え方や学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】
学部の理念である Well-being の考え方を理解し、2 年次以降の専門演習や実習の履修に向けて、自分の学びの方向性を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークを中心に、各グループの問題関心に従って、テーマ設定、資料収集、フィールド調査、ディスカッション、プレゼンテーションのプロセスを体験する。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の内容・方針の共有と夏休みの活動報告
第 2 回	多彩な社会問題に触れる（前半）	新聞記事の内容発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる（後半）	新聞記事の論点整理と議論
第 4 回	関心テーマワークショップ（前半）	問題関心ごとにグループ分け
第 5 回	関心テーマワークショップ（後半）	グループごとに研究テーマを考える
第 6 回	事例・文献収集	テーマに関する事例や文献を収集する
第 7 回	課題の整理	テーマに関する課題を整理する
第 8 回	課題解決の方策の検討	テーマに関する課題解決の方策を考える
第 9 回	グループ研究のまとめ	グループ研究を論理的に組み立てる
第 10 回	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料準備
第 11 回	プレゼンテーション練習	プレゼンテーションの練習と修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。毎回の授業に向けたグループワークの準備作業は不可欠であり、グループ内で相談し、役割分担しながら、期日に合わせて必要な作業を進める姿勢が求められる。

【テキスト（教科書）】
講義内で配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%，レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや履修者とのコミュニケーションをもとに授業に反映したい。

【Outline and objectives】
This seminar is designed to clarify which topics could be focused in the fi eld of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

土肥　将敦

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

土肥　将敦

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

土肥　将敦

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次以降の「専門演習」や実習に向けて、自分の関心のある分野を見つけ出し、その専門的な知見を深める術を身につける。

【到達目標】
大学生として学習する姿勢と方法を身につけるとともに、グループワークを通じて専門分野への幅広い関心を持てるようになる。関心のある分野やテーマについて、社会で起きている問題構造を掘り下げて、その解決策を具現化する社会的起業家の姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の問題関心を持ち寄り、共通するテーマごとにグループを組織する。関心テーマごとにグループワークを行い、レポート作成とプレゼンテーション、ディスカッションの演習を行う。COVID-19 に伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていきます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	夏休みヒアリング報告①	各自プレゼンテーション、国内外視察報告
第 3 回	夏休みヒアリング報告②	各自プレゼンテーション、well-being 事例紹介（社会福祉関連）
第 4 回	夏休みヒアリング報告③	各自プレゼンテーション、well-being 事例紹介（コミュニティ関連）
第 5 回	関心テーマワークショップ①	関心のあるテーマを 5 つにグルーピング（KJ 法）
第 6 回	関心テーマワークショップ②	グルーピングされた分野について基礎ゼミコンペ向けにテーマを厳選する
第 7 回	グループワーク①	設定されたテーマに関するデータの収集整理　資料室・図書館・web 検索
第 8 回	グループワーク②	設定されたテーマに関する提案内容の検討 主体関係、現状と課題、先進事例など
第 9 回	グループワーク③	プレゼンテーションシートの作成 プレゼンテーション参考事例紹介①
第 10 回	グループワーク④	発表原稿作成 プレゼンテーション参考事例紹介②
第 11 回	グループワーク⑤	中間発表と質疑応答 プレゼンテーション参考事例紹介③
第 12 回	基礎ゼミコンペ①	クラス内予選プレゼンテーション
第 13 回	基礎ゼミコンペ②	同じ時限の代表グループのプレゼン 投票による最優秀グループの選出
第 14 回	基礎ゼミコンペ③	最優秀 3 グループの公開プレゼン グループワークの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報入手を中心に授業の前に作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
発表中心なので、統一のテキストは使用しない。各自の関心事を調べるのに必要な本がテキストになる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケート調査結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを通じて情報伝達する。

【Outline and objectives】
For the "specialized exercises" and practical training after the 2nd year, students will find skills to find their own interests and deepen their professional knowledge.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

土肥　将敦

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次以降の「専門演習」や実習に向けて、自分の関心のある分野を見つけ出し、その専門的な知見を深める術を身につける。

【到達目標】
大学生として学習する姿勢と方法を身につけるとともに、グループワークを通じて専門分野への幅広い関心を持てるようになる。関心のある分野やテーマについて、社会で起きている問題構造を掘り下げて、その解決策を具現化する社会的起業家の姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の問題関心を持ち寄り、共通するテーマごとにグループを組織する。関心テーマごとにグループワークを行い、レポート作成とプレゼンテーション、ディスカッションの演習を行う。COVID-19 に伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていきます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	夏休みヒアリング報告①	各自プレゼンテーション、国内外視察報告
第 3 回	夏休みヒアリング報告②	各自プレゼンテーション、well-being 事例紹介（社会福祉関連）
第 4 回	夏休みヒアリング報告③	各自プレゼンテーション、well-being 事例紹介（コミュニティ関連）
第 5 回	関心テーマワークショップ①	関心のあるテーマを 5 つにグルーピング（KJ 法）
第 6 回	関心テーマワークショップ②	グルーピングされた分野について基礎ゼミコンペ向けにテーマを厳選する
第 7 回	グループワーク①	設定されたテーマに関するデータの収集整理　資料室・図書館・web 検索
第 8 回	グループワーク②	設定されたテーマに関する提案内容の検討 主体関係、現状と課題、先進事例など
第 9 回	グループワーク③	プレゼンテーションシートの作成 プレゼンテーション参考事例紹介①
第 10 回	グループワーク④	発表原稿作成 プレゼンテーション参考事例紹介②
第 11 回	グループワーク⑤	中間発表と質疑応答 プレゼンテーション参考事例紹介③
第 12 回	基礎ゼミコンペ①	クラス内予選プレゼンテーション
第 13 回	基礎ゼミコンペ②	同じ時限の代表グループのプレゼン 投票による最優秀グループの選出
第 14 回	基礎ゼミコンペ③	最優秀 3 グループの公開プレゼン グループワークの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報入手を中心に授業の前に作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
発表中心なので、統一のテキストは使用しない。各自の関心事を調べるのに必要な本がテキストになる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケート調査結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを通じて情報伝達する。

【Outline and objectives】
For the "specialized exercises" and practical training after the 2nd year, students will find skills to find their own interests and deepen their professional knowledge.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『新版論文の教室レポートから卒論まで』戸田山和久著（NHK BOOKS）
『論文・レポートの基本』石黒圭著（日本実業出版社）
『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』石井一成著（ナツメ社）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とする。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな 3 つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
20 人程度の少人数。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の 3 分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の 3 分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の 3 分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習を行うこと。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しく、授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定はないが、関連資料をまとめて共有・使用予定。

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）。必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）
具体的な内容等は学習支援システムで提示。

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部の理念であるウェルビーイングに照らして、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】
2 年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要・ポイントの紹介
第 2 回	夏休み課題報告①	プレゼンテーションおよび質疑①
第 3 回	夏休み課題報告②	プレゼンテーションおよび質疑②
第 4 回	グループワーク①	企画のポイント、グループづくり
第 5 回	グループワーク②	特定のテーマを議論
第 6 回	グループワーク③	データ・資料の収集・整理
第 7 回	グループワーク④	内容検討および事例研究
第 8 回	グループワーク⑤	グループ毎に発表原稿作成
第 9 回	グループワーク⑥	経験者からのフィードバック
第 10 回	グループワーク⑦	グループ毎にリハーサル
第 11 回	プレゼンテーション①	グループ研究成果を発表①
第 12 回	プレゼンテーション②	グループ研究成果を発表②
第 13 回	プレゼンテーション③	グループ研究成果を発表③
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、発表・レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
This seminar is designed to clarify which topics could be focused in the field of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部の理念であるウェルビーイングに照らして、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】
2 年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要・ポイントの紹介
第 2 回	夏休み課題報告①	プレゼンテーションおよび質疑①
第 3 回	夏休み課題報告②	プレゼンテーションおよび質疑②
第 4 回	グループワーク①	企画のポイント、グループづくり
第 5 回	グループワーク②	特定のテーマを議論
第 6 回	グループワーク③	データ・資料の収集・整理
第 7 回	グループワーク④	内容検討および事例研究
第 8 回	グループワーク⑤	グループ毎に発表原稿作成
第 9 回	グループワーク⑥	経験者からのフィードバック
第 10 回	グループワーク⑦	グループ毎にリハーサル
第 11 回	プレゼンテーション①	グループ研究成果を発表①
第 12 回	プレゼンテーション②	グループ研究成果を発表②
第 13 回	プレゼンテーション③	グループ研究成果を発表③
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、発表・レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
This seminar is designed to clarify which topics could be focused in the field of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは授業や学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用します。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度からの専門演習へ向けて、必要となる論理的な考え方、社会調査の基礎知識、学術的な文章表現やプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。あわせて、本学部の理念である”ウェルビーイング”をめぐって関心のある学問領域や研究テーマを絞り込んでいくことを目指す。

【到達目標】
次年度からの専門演習へ向けて、下記の能力や技能を習得することを目標とする。
・論理的な思考を身につけること
・社会調査の基礎知識を習得すること
・学問的な表現方法や論理的な記述力を養うこと
・グループワークにおけるディスカッションやディベートを通じて、異なる意見を持つ人たちと合意を形成していく手法を身につけること
・プレゼンテーション能力を身につけること
・関心のある学問領域や研究テーマを自分の言葉で表現できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
課題文献の精読、フィールドワーク、レジュメやレポートの作成、グループワークやプレゼンテーションを通じて、論理的思考や学術的なライティングスキルを身に付けていく。授業の展開によって若干の変更がありうる。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第 3 回	フィールドワークとは？	社会調査の基礎知識とフィールドワークの技法
第 4 回	問題関心のつくり方	関心のある学問領域に応じてグループワーク
第 5 回	文献調査の方法	グループごとに先行研究と分析視角の検討
第 6 回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第 7 回	研究テーマ発表	グループごとに研究テーマを発表
第 8 回	データの収集（1）	フィールドワークや文献調査によってデータを収集する
第 9 回	データの収集（2）	フィールドワークや文献調査によってデータを収集する
第 10 回	データの解釈・分析（1）	調査で得られたデータを解釈する
第 11 回	データの解釈・分析（2）	調査で得られたデータを分析する
第 12 回	追加データの収集	調査の振り返りと不足しているデータ収集
第 13 回	結論の提示	調査データから導き出される結論を検討する
第 14 回	プレゼンテーション	グループごとに研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメ・レポートの作成、プレゼンテーション発表の準備など事前学習は不可欠である。各自の関心を絞り込むなかで、必要に応じてフィールドワークを求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、レポート等課題（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation, academic writing and self-regulated learning.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度からの専門演習へ向けて、必要となる論理的な考え方、社会調査の基礎知識、学術的な文章表現やプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。あわせて、本学部の理念である”ウェルビーイング”をめぐって関心のある学問領域や研究テーマを絞り込んでいくことを目指す。

【到達目標】
次年度からの専門演習へ向けて、下記の能力や技能を習得することを目標とする。
・論理的な思考を身につけること
・社会調査の基礎知識を習得すること
・学問的な表現方法や論理的な記述力を養うこと
・グループワークにおけるディスカッションやディベートを通じて、異なる意見を持つ人たちと合意を形成していく手法を身につけること
・プレゼンテーション能力を身につけること
・関心のある学問領域や研究テーマを自分の言葉で表現できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
課題文献の精読、フィールドワーク、レジュメやレポートの作成、グループワークやプレゼンテーションを通じて、論理的思考や学術的なライティングスキルを身に付けていく。授業の展開によって若干の変更がありうる。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第 3 回	フィールドワークとは？	社会調査の基礎知識とフィールドワークの技法
第 4 回	問題関心のつくり方	関心のある学問領域に応じてグループワーク
第 5 回	文献調査の方法	グループごとに先行研究と分析視角の検討
第 6 回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第 7 回	研究テーマ発表	グループごとに研究テーマを発表
第 8 回	データの収集（1）	フィールドワークや文献調査によってデータを収集する
第 9 回	データの収集（2）	フィールドワークや文献調査によってデータを収集する
第 10 回	データの解釈・分析（1）	調査で得られたデータを解釈する
第 11 回	データの解釈・分析（2）	調査で得られたデータを分析する
第 12 回	追加データの収集	調査の振り返りと不足しているデータ収集
第 13 回	結論の提示	調査データから導き出される結論を検討する
第 14 回	プレゼンテーション	グループごとに研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメ・レポートの作成、プレゼンテーション発表の準備など事前学習は不可欠である。各自の関心を絞り込むなかで、必要に応じてフィールドワークを求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、レポート等課題（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation, academic writing and self-regulated learning.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）、その他、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）、その他、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自ら研究テーマを設定しデータ収集と分析、成果を発表する経験を通じて、情報リテラシー、論理的思考を磨き、さらに、議論、 発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につけます。

【到達目標】
大学での研究（学び）のために必要な基礎的能力を習得します。
・文献・資料を正確に理解し、対する自分の意見を構築できる
・他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深めることができる
・テーマに関連するトピックについて調査、考察し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ学習を中心に進めます。自分たちの問題意識に従ってテーマを設定し、自分たちで仮説を立て、データを集め、なんらかの答えを出して発表する（基礎ゼミコンペ）という一連のプロセスを体験します。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要説明
第 2 回	多様な社会問題に触れる①	各自の関心に応じた新聞記事の発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる②	新聞記事の発表の続きとグループ分け
第 4 回	研究テーマ、仮説設定①	グループごとに研究テーマを考える
第 5 回	文献・資料収集と分析	図書館で DB、統計情報検索行う
第 6 回	現状分析、課題設定①	資料収集の継続と分析
第 7 回	中間報告①	現状分析結果について他者と意見交換を行う
第 8 回	現状分析、課題設定②	テーマに関する解決策、提案を考える
第 9 回	中間発表②	解決策、提案内容について他者と意見交換を行う
第 10 回	プレゼンテーション準備①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
第 11 回	プレゼンテーション準備②	リハーサルと発表内容の修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心あるテーマについて、図書館等の大学の機能を活用しながら、新聞記事や文献・雑誌等の情報収集に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
The objective of this course is to master information literacy, logical thinking and presentation skills. Students will examine various well-being topics and present the results.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自ら研究テーマを設定しデータ収集と分析、成果を発表する経験を通じて、情報リテラシー、論理的思考を磨き、さらに、議論、 発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につけます。

【到達目標】
大学での研究（学び）のために必要な基礎的能力を習得します。
・文献・資料を正確に理解し、対する自分の意見を構築できる
・他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深めることができる
・テーマに関連するトピックについて調査、考察し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループ学習を中心に進めます。自分たちの問題意識に従ってテーマを設定し、自分たちで仮説を立て、データを集め、なんらかの答えを出して発表する（基礎ゼミコンペ）という一連のプロセスを体験します。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要説明
第 2 回	多様な社会問題に触れる①	各自の関心に応じた新聞記事の発表
第 3 回	多様な社会問題に触れる②	新聞記事の発表の続きとグループ分け
第 4 回	研究テーマ、仮説設定①	グループごとに研究テーマを考える
第 5 回	文献・資料収集と分析	図書館で DB、統計情報検索行う
第 6 回	現状分析、課題設定①	資料収集の継続と分析
第 7 回	中間報告①	現状分析結果について他者と意見交換を行う
第 8 回	現状分析、課題設定②	テーマに関する解決策、提案を考える
第 9 回	中間発表②	解決策、提案内容について他者と意見交換を行う
第 10 回	プレゼンテーション準備①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
第 11 回	プレゼンテーション準備②	リハーサルと発表内容の修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	本選を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心あるテーマについて、図書館等の大学の機能を活用しながら、新聞記事や文献・雑誌等の情報収集に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
The objective of this course is to master information literacy, logical thinking and presentation skills. Students will examine various well-being topics and present the results.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

柴崎　祐美

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

柴崎　祐美

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。
課題等の提出・フィードバック、授業に関する連絡は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）、その他、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味のある課題についてグループで対応等を検討し、プレゼンテーションを行う。その中から代表となったグループが他のクラスも含めた全体のコンペで発表を行う。これらのプロセスから、大学生として必要なスキルを習得する。

【到達目標】
・課題に関する情報を収集・分析することができる。
・グループで協働することができる。
・自分たちの考えを他者にプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに課題を設定し、その多面的な把握および対応検討を行う。そして、それを他者に効果的に伝えることができるようプレゼンテーションのあり方を検討する。その後、クラス内で発表を行い、質を高め合う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	課題発表 1	興味のある課題の発表
第 3 回	課題発表 2	興味のある課題の発表
第 4 回	グループ分けと計画立案	似通った課題ごとにグループを構築 グループごとの活動計画の立案
第 5 回	課題に関する情報収集・分析 1	グループごとの課題に関する情報収集と分析
第 6 回	課題に関する情報収集・分析 2	グループごとの課題に関する情報収集と分析
第 7 回	プレゼンテーション準備 1	グループごとのプレゼンテーション資料の作成
第 8 回	プレゼンテーション準備 2	グループごとのプレゼンテーション資料の作成
第 9 回	中間報告	クラス内での中間報告会による相互コメント
第 10 回	プレゼンテーションの再考 1	中間報告でのコメントを踏まえた修正等
第 11 回	プレゼンテーションの再考 2	中間報告でのコメントを踏まえた修正等
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームの確定
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、課題に関する情報収集等をグループで行う。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 50%
・プレゼンテーション 50%
オンラインでの開講となった際にはそれにともない、成績評価の方法や基準も変更になる場合があります。その具体的な方法や基準は学習支援システムを通してお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ感染の防止に留意しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
This course is the second semester for a two-semester integrative Freshman Seminar. This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味のある課題についてグループで対応等を検討し、プレゼンテーションを行う。その中から代表となったグループが他のクラスも含めた全体のコンペで発表を行う。これらのプロセスから、大学生として必要なスキルを習得する。

【到達目標】
・課題に関する情報を収集・分析することができる。
・グループで協働することができる。
・自分たちの考えを他者にプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに課題を設定し、その多面的な把握および対応検討を行う。そして、それを他者に効果的に伝えることができるようプレゼンテーションのあり方を検討する。その後、クラス内で発表を行い、質を高め合う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	課題発表１	興味のある課題の発表
第 3 回	課題発表２	興味のある課題の発表
第 4 回	グループ分けと計画立案	似通った課題ごとにグループを構築 グループごとの活動計画の立案
第 5 回	課題に関する情報収集・分析１	グループごとの課題に関する情報収集と分析
第 6 回	課題に関する情報収集・分析２	グループごとの課題に関する情報収集と分析
第 7 回	プレゼンテーション準備１	グループごとのプレゼンテーション資料の作成
第 8 回	プレゼンテーション準備２	グループごとのプレゼンテーション資料の作成
第 9 回	中間報告	クラス内での中間報告会による相互コメント
第 10 回	プレゼンテーションの再考１	中間報告でのコメントを踏まえた修正等
第 11 回	プレゼンテーションの再考２	中間報告でのコメントを踏まえた修正等
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選１	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選２	クラス合同で予選を行い、本選進出チームの確定
第 14 回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、課題に関する情報収集等をグループで行う。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 50%
・プレゼンテーション 50%
オンラインでの開講となった際にはそれにともない、成績評価の方法や基準も変更になる場合があります。その具体的な方法や基準は学習支援システムを通してお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ感染の防止に留意しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
This course is the second semester for a two-semester integrative Freshman Seminar. This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

岡田　栄作

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。場合によっては、対面とオンラインを組み合わせた【ハイブリッド型授業】での開講となる可能性もあります。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように、受講する学生の理解度や意見を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用いたプレゼンテーションの作成を行う際には、必要に応じ、貸与パソコン等の手配が必要になります。また、課題提出等で授業支援システムを使用する可能性があります。

【その他の重要事項】
基礎演習Ⅰは、基礎演習 II での学びの基礎になるものです。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

岡田　栄作

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように、受講する学生の理解度や意見を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用いたプレゼンテーションの作成を行う際には、必要に応じ、貸与パソコン等の手配が必要になります。また、課題提出等で授業支援システムを使用する可能性があります。

【その他の重要事項】
基礎演習Ⅰは、基礎演習 II での学びの基礎になるものです。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

岡田　栄作

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施します。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する共同作業を通じて答えを創り出す力を養います。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につきます。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養います。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につきます。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養います。
・社会を見つめる視野が広がります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視します。同時に、疑問 → リサーチ → 仮説 → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養います。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンを交互に織り交ぜながら進めます。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。場合によっては、対面とオンラインを組み合わせた【ハイブリッド型授業】での開講となる可能性もあります。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 課題発表 1	後期の進め方を共有します。夏休みの課題発表を行います。
第 2 回	課題発表 2	夏休みの課題発表を行います。
第 3 回	課題発表 3	引き続き夏休みの課題発表を行います。
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定めます。
第 5 回	リサーチ 1	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討します。更に必要な調査を検討し、その方法を定めます。
第 6 回	リサーチ 2	自分たちの提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行います。
第 7 回	中間報告準備 1	中間報告に向けてプレゼン資料を作成します。
第 8 回	中間報告準備 2	プレゼンの完成度を高める作業を行います。
第 9 回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックを行います。
第 10 回	修正 1	中間報告を受けた修正を行います。
第 11 回	修正 2	中間報告を受けた修正を引き続き行います。
第 12 回	プランコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定します。
第 13 回	プランコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定します。
第 14 回	プランコンペ本選	参加するほかのゼミとともに、本選を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を聞き、進め方を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
By participating in the idea competition with other classes, students work in the group to set and test a hypothesis and create their own proposal.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

岡田　栄作

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施します。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する共同作業を通じて答えを創り出す力を養います。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につきます。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養います。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につきます。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養います。
・社会を見つめる視野が広がります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視します。同時に、疑問 → リサーチ → 仮説 → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養います。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンを交互に織り交ぜながら進めます。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。場合によっては、対面とオンラインを組み合わせた【ハイブリッド型授業】での開講となる可能性もあります。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 課題発表 1	後期の進め方を共有します。夏休みの課題発表を行います。
第 2 回	課題発表 2	夏休みの課題発表を行います。
第 3 回	課題発表 3	引き続き夏休みの課題発表を行います。
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定めます。
第 5 回	リサーチ 1	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討します。更に必要な調査を検討し、その方法を定めます。
第 6 回	リサーチ 2	自分たちの提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行います。
第 7 回	中間報告準備 1	中間報告に向けてプレゼン資料を作成します。
第 8 回	中間報告準備 2	プレゼンの完成度を高める作業を行います。
第 9 回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックを行います。
第 10 回	修正 1	中間報告を受けた修正を行います。
第 11 回	修正 2	中間報告を受けた修正を引き続き行います。
第 12 回	プランコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定します。
第 13 回	プランコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定します。
第 14 回	プランコンペ本選	参加するほかのゼミとともに、本選を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を聞き、進め方を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
By participating in the idea competition with other classes, students work in the group to set and test a hypothesis and create their own proposal.

BSP100JC

基礎演習Ⅰ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅰ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
１）２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。
２）リアクションペーパー等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第 8 回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第 13 回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第 14 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
各自の課題を見つけること、レポートにまとめることが、大きな一歩になります。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）自分の関心にそったテーマを明確にし、レポートをまとめる。
2）グループで、社会的課題の解決策を検討する。

【到達目標】
1）共通のテーマを決める。
2）テーマに関する資料を集める力をつける。
3）グループで課題に取り組む力をつける。
4）プレゼンテーションの能力を高める。
5）レポートを作成する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1）グループでの課題発掘・解決策の検討を行う。
2）問題発掘・解決策提起の発表を行う。
3）個人の研究テーマについて、学習を進め、レポートをまとめる。
4）発表やレポートにおけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	目標、課題、スケジュールの確認 夏休みの成果報告
第 2 回	グループワークの説明	目標と進め方の説明
第 3 回	グループワークの事例	これまでの事例の検討
第 4 回	グループ課題検討（1）	社会問題の選択、決定
第 5 回	グループ課題検討（2）	課題の明確化
第 6 回	文献・資料検索	資料や文献の収集
第 7 回	グループ問題提起（1）	問題提起の社会的意義
第 8 回	グループ問題提起（2）	問題提起の実現可能性
第 9 回	グループ発表準備（1）	データ収集の手法
第 10 回	グループ発表準備（2）	主張の明確さ
第 11 回	グループ発表準備（3）	パワーポイントの完成
第 12 回	グループ発表（1）	ゼミ内予選
第 13 回	グループ発表（2）	選抜グループ報告
第 14 回	1 年間の振り返り	意見交換と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料収集や、グループごとのまとめの議論をしてください。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に指定します。

【参考書】
授業時に、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
グループとして積極的に問題提起ができるようにしていきたい。
各自のテーマの追求と、グループワークとのバランスをうまくとるようにしたい。

【Outline and objectives】
1) Clarify the theme according to your interest and summarize in the report.
2) Make a group and discuss social issues.

BSP100JC

基礎演習Ⅱ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）自分の関心にそったテーマを明確にし、レポートをまとめる。
2）グループで、社会的課題の解決策を検討する。

【到達目標】
1）共通のテーマを決める。
2）テーマに関する資料を集める力をつける。
3）グループで課題に取り組む力をつける。
4）プレゼンテーションの能力を高める。
5）レポートを作成する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1）グループでの課題発掘・解決策の検討を行う。
2）問題発掘・解決策提起の発表を行う。
3）個人の研究テーマについて、学習を進め、レポートをまとめる。
4）発表やレポートにおけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	目標、課題、スケジュールの確認 夏休みの成果報告
第 2 回	グループワークの説明	目標と進め方の説明
第 3 回	グループワークの事例	これまでの事例の検討
第 4 回	グループ課題検討（1）	社会問題の選択、決定
第 5 回	グループ課題検討（2）	課題の明確化
第 6 回	文献・資料検索	資料や文献の収集
第 7 回	グループ問題提起（1）	問題提起の社会的意義
第 8 回	グループ問題提起（2）	問題提起の実現可能性
第 9 回	グループ発表準備（1）	データ収集の手法
第 10 回	グループ発表準備（2）	主張の明確さ
第 11 回	グループ発表準備（3）	パワーポイントの完成
第 12 回	グループ発表（1）	ゼミ内予選
第 13 回	グループ発表（2）	選抜グループ報告
第 14 回	1 年間の振り返り	意見交換と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料収集や、グループごとのまとめの議論をしてください。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に指定します。

【参考書】
授業時に、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
グループとして積極的に問題提起ができるようにしていきたい。
各自のテーマの追求と、グループワークとのバランスをうまくとるようにしたい。

【Outline and objectives】
1) Clarify the theme according to your interest and summarize in the report.
2) Make a group and discuss social issues.

BSP100JC

フィールドスタディ入門

水野　雅男、岩田　美香、長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

【到達目標】
現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
３領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。基本的に各回とも Zoom によるリアルタイム・オンライン授業形式とする。授業の内容は期限つきの動画と PDF 資料を掲載する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。
ソーシャルワーク実習、心理実習、コミュニティマネジメント・リサーチ、コミュニティマネジメント・インターンシップの先行履修科目である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第 2 回	社会福祉分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（岩田）
第 3 回	社会福祉分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（岩田）
第 4 回	社会福祉分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（岩田）
第 5 回	社会福祉分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（岩田）
第 6 回	コミュニティマネジメント分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（水野）
第 7 回	コミュニティマネジメント分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（水野）
第 8 回	コミュニティマネジメント分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（水野）
第 9 回	コミュニティマネジメント分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（水野）
第 10 回	臨床心理分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（長山）
第 11 回	臨床心理分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（長山）
第 12 回	臨床心理分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（長山）
第 13 回	臨床心理分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（長山）
第 14 回	３年生の実習体験報告	各分野の実習体験内容の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）で評価する。
＊学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。
＊欠席 5 回以上の場合は評価をしない。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーで評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

【Outline and objectives】
Understand the contents and issues of practical areas related to social welfare, community management, clinical psychology.

BSP100JB

フィールドスタディ入門

水野　雅男、岩田　美香、長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

【到達目標】
現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
３領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。基本的に各回とも Zoom によるリアルタイム・オンライン授業形式とする。授業の内容は期限つきの動画と PDF 資料を掲載する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。
ソーシャルワーク実習、心理実習、コミュニティマネジメント・リサーチ、コミュニティマネジメント・インターンシップの先行履修科目である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第 2 回	社会福祉分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（岩田）
第 3 回	社会福祉分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（岩田）
第 4 回	社会福祉分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（岩田）
第 5 回	社会福祉分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（岩田）
第 6 回	コミュニティマネジメント分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（水野）
第 7 回	コミュニティマネジメント分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（水野）
第 8 回	コミュニティマネジメント分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（水野）
第 9 回	コミュニティマネジメント分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（水野）
第 10 回	臨床心理分野①	実務内容と担当教員によるまとめ①（長山）
第 11 回	臨床心理分野②	実務内容と担当教員によるまとめ②（長山）
第 12 回	臨床心理分野③	実務内容と担当教員によるまとめ③（長山）
第 13 回	臨床心理分野④	実務内容と担当教員によるまとめ④（長山）
第 14 回	３年生の実習体験報告	各分野の実習体験内容の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）で評価する。
＊学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。
＊欠席 5 回以上の場合は評価をしない。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーで評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

【Outline and objectives】
Understand the contents and issues of practical areas related to social welfare, community management, clinical psychology.

IDN100JB

多摩地域形成論

池田　寛二

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。
○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

IDN100JC

多摩地域形成論

池田　寛二

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。
○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

CAR100JC

キャリアデザイン論

大八木　智一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】
①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【本科目はオンデマンド型での授業実施です】
この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用の方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 %以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートホンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】
質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

【受講上の注意】
月曜１限と月曜３限は同内容での授業実施になります。

【Outline and objectives】
Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

CAR100JB

キャリアデザイン論

大八木　智一

科目分類・科目群：**総合教育科目　学部共通科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】
①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【本科目はオンデマンド型での授業実施です】
この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用の方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 %以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートホンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】
質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

【受講上の注意】
月曜１限と月曜３限は同内容での授業実施になります。

【Outline and objectives】
Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

PHL100JB

環境倫理

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものであるから、様々な現実の社会問題を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】
科学的合理性は「時」の概念から説明されうる。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の環境問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。まとめの講義で 15 分グループディスカッションを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション －クロスロード－	寄生、共生、侵略とは何か
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境－ダム	八ッ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境－原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境－ドイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音－新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	生態学における生産者と消費者	ストロマトライトから哺乳類の誕生、農耕民族と侵略民族
8	交通と土壌汚染－豊洲市場問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事－沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事－辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興－阪神淡路大震災と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何か考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何か〜キリスト教と侵略	旧約聖書　申命記 7 章を考える
14	まとめ －時を超える－	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。当初は講義録画（ビデオクリップ）をアップする。

【テキスト（教科書）】
テキスト、参考書は授業内に配布する。（購入不要）

【参考書】
・『人間とは何か―その誕生からネット化社会まで』, ボルツ,2009 年, 法政大学出版局
・『境界線を破る!：エコ・フェミ社会主義に向かって』, メアリ・メラー, 壽福・後藤訳,1993, 新評論

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間のレポート提出による。
②レポート課題は、第 14 回講義内で示す。
＊講義で言及した主題から 10 項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する (30%)、自分の意見とその論拠を記述する (50%)、課題論文についての感想を記述する (20%) の 3 点である。
③評価基準は、主題把握の的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくりと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】
国や地方自治体の都市計画業務に 25 年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】
What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It have to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.
I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

PHL100JC

環境倫理

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものであるから、様々な現実の社会問題を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】
科学的合理性は「時」の概念から説明されうる。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の環境問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。まとめの講義で 15 分グループディスカッションを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション －クロスロード－	寄生、共生、侵略とは何か
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境－ダム	八ッ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境－原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境－ドイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音－新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	生態学における生産者と消費者	ストロマトライトから哺乳類の誕生、農耕民族と侵略民族
8	交通と土壌汚染－豊洲市場問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事－沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事－辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興－阪神淡路大震災と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何か考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何か〜キリスト教と侵略	旧約聖書　申命記 7 章を考える
14	まとめ －時を超える－	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。当初は講義録画（ビデオクリップ）をアップする。

【テキスト（教科書）】
テキスト、参考書は授業内に配布する。（購入不要）

【参考書】
・『人間とは何か―その誕生からネット化社会まで』, ボルツ,2009 年, 法政大学出版局
・『境界線を破る!：エコ・フェミ社会主義に向かって』, メアリ・メラー, 壽福・後藤訳,1993, 新評論

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間のレポート提出による。
②レポート課題は、第 14 回講義内で示す。
＊講義で言及した主題から 10 項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する (30%)、自分の意見とその論拠を記述する (50%)、課題論文についての感想を記述する (20%) の 3 点である。
③評価基準は、主題把握の的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくりと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】
国や地方自治体の都市計画業務に 25 年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】
What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It have to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.
I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

EDU100JC

生涯学習論Ⅰ

荒井　容子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】
人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。
講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題２を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。
毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
全学行動制限レベル「０」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第１ラウンド　社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第１ラウンド　社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第１ラウンド　社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　1
5	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　2
6	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について　貧困と識字
7	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史１
10	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史２
11	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例１
12	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例２
13	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加　報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援シテスムを通じて提出してもらう。
従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第７版）2005 年、（第８版）2011 年、（第９版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
社会教育事業参加レポート（課題２）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題１）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で 40%、後一者で 60%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】
「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

EDU100JB

生涯学習論Ⅰ

荒井　容子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】
人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。
講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加て課題２を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。
毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
全学行動制限レベル「０」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第１ラウンド　社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第１ラウンド　社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第１ラウンド　社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　1
5	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか　2
6	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について　貧困と識字
7	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史１
10	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史２
11	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例１
12	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例２
13	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加　報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援シテスムを通じて提出してもらう。
従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第７版）2005 年、（第８版）2011 年、（第９版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
社会教育事業参加レポート（課題２）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題１）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で 40%、後一者で 60%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】
「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

EDU100JC

生涯学習論Ⅱ

荒井　容子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】
人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。
毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。
全学行動制限レベル「０」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2　ビデオ鑑賞（宿題）をともに ②「通俗教育」政策の展開
4	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開 (労働学校運動、自由大学運動)
5	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開　－「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 　軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 　シリアでの青年たちよる「秘密」図書館づくり
14	第４ラウンド　総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援シテスムを通じて提出してもらう。
従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を 60 %、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は 40 %で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料はすべす学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさけることができた。特に提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮したことで、学生への負担を軽減できた。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

EDU100JB

生涯学習論Ⅱ

荒井　容子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】
人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。
毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。
全学行動制限レベル「０」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2　ビデオ鑑賞（宿題）をともに ②「通俗教育」政策の展開
4	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開 (労働学校運動、自由大学運動)
5	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開　－「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 　軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 　シリアでの青年たちよる「秘密」図書館づくり
14	第４ラウンド　総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。
従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を 60 %、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は 40 %で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料はすべす学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさけることができた。特に提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮したことで、学生への負担を軽減できた。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】
This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

PSY100JB

心理学 (2020 年度以前入学者)

服部　環

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】
心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】
福田由紀（編著）　心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】
This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

PSY100JB

心理学 (2021 年度以降入学者)

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】
心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】
福田由紀（編著）　心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】
This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

PHL100JC

哲学Ⅰ

大橋　基

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「善／悪」や「美／醜」など、私たちの「常識」を形成している諸概念の内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「私の在り方」を探る。

【到達目標】
私たちが普段何気なく用いている「日本文化」・「アイデンティティ」・「倫理規範」といった諸概念に関して、その特徴や歴史的由来を説明できる。
現在の社会生活を方向づけている「服飾」・「性愛」・「虚言」に関する規範に関して、その利点と難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。
毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	日本人にとっての「日本文化」とは？	和辻哲郎『風土』とベネディクト『菊と刀』
3	「自由意志」は西洋固有のものか？	デカルトの「自由意志」とアリストテレスの「政治的動物」の相違
4	「私」とは誰のことか？	法律上の「人格の同一性」と現実的な「自己同一性」の違い
5	「アイデンティティ」が成立する条件	ヘーゲルにおける「自己意識」と「相互承認」の関係
6	もろく曖昧な「善／悪」の境界線	「記憶の喪失」や「集団の狂気」は何をもたらすか？
7	「善悪の彼岸」から眺めた世界	ニーチェの「宗教批判」と「永遠回帰」の思想
8	お仕着せの「らしさ」への反抗	シャネルの「モード革命」とカントの「人間学」
9	高潔な「理性」と狡猾な「理性」	人間の本質は「善意志」（カント）か「生存本能」（ホッブズ）か？
10	「恋愛」に見出された対照的な目的	「結婚の準備」（ヘーゲル）と「性欲の偽装」（ショーペンハウアー）
11	「結婚生活」の近未来像	ラッセルの「試験結婚」とフロムの「愛する技術」
12	「嘘も方便」ではいけないのか？	「処世術」や「必要悪」といった日常的な許容条件
13	「正直でいること」の難しさ	カントの「定言命法」は今日でも通用するか？
14	期末試験	「日本」で実現されるべき「自由意志」のあり方とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）

【参考書】
授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやＥメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the conflicts between the japanese culture and the free will, 2. the difference between juridical person and self-identity recognized in our social life, 3. the disintegration of the social norm to distinguish between "good" and "evil", 4. the attempt to change the instituted standard of "beauty" and "ugliness", 5. the modernization of the relation of love and sexual desire, 6. the reason to prohibit a lie.

PHL100JB

哲学Ⅰ

大橋　基

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「善／悪」や「美／醜」など、私たちの「常識」を形成している諸概念の内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「私の在り方」を探る。

【到達目標】
私たちが普段何気なく用いている「日本文化」・「アイデンティティ」・「倫理規範」といった諸概念に関して、その特徴や歴史的由来を説明できる。
現在の社会生活を方向づけている「服飾」・「性愛」・「虚言」に関する規範に関して、その利点と難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。
毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	日本人にとっての「日本文化」とは？	和辻哲郎『風土』とベネディクト『菊と刀』
3	「自由意志」は西洋固有のものか？	デカルトの「自由意志」とアリストテレスの「政治的動物」の相違
4	「私」とは誰のことか？	法律上の「人格の同一性」と現実的な「自己同一性」の違い
5	「アイデンティティ」が成立する条件	ヘーゲルにおける「自己意識」と「相互承認」の関係
6	もろく曖昧な「善／悪」の境界線	「記憶の喪失」や「集団の狂気」は何をもたらすか？
7	「善悪の彼岸」から眺めた世界	ニーチェの「宗教批判」と「永遠回帰」の思想
8	お仕着せの「らしさ」への反抗	シャネルの「モード革命」とカントの「人間学」
9	高潔な「理性」と狡猾な「理性」	人間の本質は「善意志」（カント）か「生存本能」（ホッブズ）か？
10	「恋愛」に見出された対照的な目的	「結婚の準備」（ヘーゲル）と「性欲の偽装」（ショーペンハウアー）
11	「結婚生活」の近未来像	ラッセルの「試験結婚」とフロムの「愛する技術」
12	「嘘も方便」ではいけないのか？	「処世術」や「必要悪」といった日常的な許容条件
13	「正直でいること」の難しさ	カントの「定言命法」は今日でも通用するか？
14	期末試験	「日本」で実現されるべき「自由意志」のあり方とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）

【参考書】
授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやＥメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the conflicts between the japanese culture and the free will, 2. the difference between juridical person and self-identity recognized in our social life, 3. the disintegration of the social norm to distinguish between "good" and "evil", 4. the attempt to change the instituted standard of "beauty" and "ugliness", 5. the modernization of the relation of love and sexual desire, 6. the reason to prohibit a lie.

PHL100JC

哲学Ⅱ

大橋　基

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの「常識」のなかに組みまれている「生命」や「差別」をめぐる諸概念に関して、それらの内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「倫理的態度」を探る。

【到達目標】
医療技術の進歩に応じて生じた「病院死」や「安楽死」といった事例を通して、「生／死」に関する「常識」の歴史的変遷と問題点を説明できる。
「異文化問題」・「自然破壊」・「人命軽視」といった事例を通して、「生命」の扱い方に関する現代哲学の提言とその難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。
毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	「死に場所」としての「病院」	現代医療の「進歩」が要求した「死の処方」
3	「孤独死」は「不幸な死」なのか？	「死」にまつわる偏見とメイヤロフの「ケアの倫理」
4	「人格」と「ヒト」の境界線は存在するか？	シンガーによる「パーソン論」と「功利主義」の接合
5	「障害」を避けたいのは誰？	「大人の事情」に抗うディドロの「身体」論
6	「職業に貴賤はない」は本当か？	「リベラリズム」における「平等」の扱い方
7	「格差是正」は「もしも」のために	ロールズが導出した「正義」の理論とその難点
8	「管理社会」の心地よさ	「安心・安全」は「自由」に優先されるべきか？
9	「異文化共生」は云うに易く	国際化がもたらす「承認の欠如」や「歪んだ承認」
10	「名前」という呪縛	「自然保護」から「環境倫理」への転換
11	「ミート・イズ・マーダー？」	シンガーの「種差別」批判とネスの「ディープ・エコロジー」
12	なぜ「人」を殺してはいけないのか？	サルトルとレヴィナスが見出した「禁止理由」
13	価値観が対立しても「善／悪」は成り立つか？	ハーバーマスの「討議倫理学」の意義と限界
14	期末試験	不透明な「現実」において望みうる「倫理」とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）

【参考書】
授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやＥメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the forms of death in the modern society and the difficulty of "caring", 2. the grave situation of modern medicine resulted from the redefinition of "person" , 3. the permission limit of the inequity in the liberal society, 4. the ethical attitude to "the others" in the multi-cultural society, 5. the human responsibility for "nature" as the victim of the industrial society, 6. the reason to prohibit murder.

PHL100JB

哲学Ⅱ

大橋　基

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの「常識」のなかに組みまれている「生命」や「差別」をめぐる諸概念に関して、それらの内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「倫理的態度」を探る。

【到達目標】
医療技術の進歩に応じて生じた「病院死」や「安楽死」といった事例を通して、「生／死」に関する「常識」の歴史的変遷と問題点を説明できる。
「異文化問題」・「自然破壊」・「人命軽視」といった事例を通して、「生命」の扱い方に関する現代哲学の提言とその難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。
毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	「死に場所」としての「病院」	現代医療の「進歩」が要求した「死の処方」
3	「孤独死」は「不幸な死」なのか？	「死」にまつわる偏見とメイヤロフの「ケアの倫理」
4	「人格」と「ヒト」の境界線は存在するか？	シンガーによる「パーソン論」と「功利主義」の接合
5	「障害」を避けたいのは誰？	「大人の事情」に抗うディドロの「身体」論
6	「職業に貴賤はない」は本当か？	「リベラリズム」における「平等」の扱い方
7	「格差是正」は「もしも」のために	ロールズが導出した「正義」の理論とその難点
8	「管理社会」の心地よさ	「安心・安全」は「自由」に優先されるべきか？
9	「異文化共生」は云うに易く	国際化がもたらす「承認の欠如」や「歪んだ承認」
10	「名前」という呪縛	「自然保護」から「環境倫理」への転換
11	「ミート・イズ・マーダー？」	シンガーの「種差別」批判とネスの「ディープ・エコロジー」
12	なぜ「人」を殺してはいけないのか？	サルトルとレヴィナスが見出した「禁止理由」
13	価値観が対立しても「善／悪」は成り立つか？	ハーバーマスの「討議倫理学」の意義と限界
14	期末試験	不透明な「現実」において望みうる「倫理」とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大橋 基『18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）

【参考書】
授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーやＥメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the forms of death in the modern society and the difficulty of "caring", 2. the grave situation of modern medicine resulted from the redefinition of "person" , 3. the permission limit of the inequity in the liberal society, 4. the ethical attitude to "the others" in the multi-cultural society, 5. the human responsibility for "nature" as the victim of the industrial society, 6. the reason to prohibit murder.

LIT100JC

文学

彭　丹

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：　いにしえの恋歌　―漢詩と和歌の世界
授業の概要と目的：この講義は、詩歌と人生最大の主題である「恋」を取りあげる。中国の漢詩と日本の和歌は、どのように恋を表現し、人生を豊かにしてきたのか。日本と中国の文学・文化の歴史を学ぶとともに、その比較を通じて、人間の生き方や歴史社会についての理解を深める。

【到達目標】
現代文学を生み出す源流である和歌や漢詩の中から、恋を主題とする作品をとりあげ、その鑑賞と批評を通して、東洋文学の精神と古代から未来への展望を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 オンライン形式か対面形式かはその時の学校規定に従います。
2 オンライン形式の場合は、学習支援システムにて資料を配布します。
3 皆さまに配布資料を読んでいただき、自分なりの感想や意見 (リアクションペーパー　字数自由) をインラインで提出していただきます。
4 皆さまのリアクションペーパーに対して、必要に応じてコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本文学と中国文学における恋歌の系譜の概観。授業内容の概説及び評価方法について説明する。
第 2 回	若菜 1	『万葉集』の巻頭歌・籠もよみ籠持ちに見る古代日本の恋のかたち
第 3 回	若菜 2	『詩経』の巻頭歌・関雎に見る古代中国の恋のかたち
第 4 回	恋の声 1	琴と雨の音に寄せる恋歌
第 5 回	恋の声 2	和歌と漢詩の美　無声は有声に勝る
第 6 回	秘すれば恋 1	在原業平と二条后高子の忍ぶ恋　なぜ歌人は忍ぶ恋をするのか
第 7 回	秘すれば恋 2	神女に恋する　なぜ詩人は神女に恋するのか
第 8 回	秘すれば恋 3	和歌と漢詩の美　秘すれば花
第 9 回	恋と宇宙 1	建礼門院右京大夫と李清照、その恋と作品
第 10 回	恋と宇宙 2	悲劇の帝王詩人後鳥羽院と李后主
第 11 回	長恨歌 1	亡国の恋のものがたり
第 12 回	長恨歌 2	和歌と漢詩の美　もののあはれと雅怨
第 13 回	長恨歌 3	和歌と漢詩の美　憂国と恋
第 14 回	まとめ	まとめと試験ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
和歌と漢詩を朗読してみる。ジャンル・題材を問わず、内外の文学作品を広く読む。映画・演劇・美術・音楽を鑑賞する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布。

【参考書】
授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】
レポート (40%) ：毎回の授業内容についてのリアクションペーパー（字数自由）。
期末試験 (60%) ：小論文 (字数自由)

【学生の意見等からの気づき】
近年は古典文学に馴染みのない受講生が多いので、近現代の文学作品、小説・演劇・映画なども取り入れて分かりやすく解説し、古典への理解と興味を高めてゆく。

【Outline and objectives】
Ancient Love Songs: The World of Chinese Poetry and Japanese Poetry

This course examines poetry and "love", which is the most important them for people's life. How did Chinese poetry (kanshi) and Japanese poetry (waka) express love and enrich our life? In this course we acquire basic knowledge of Japanese-Chinese literature and culture and deepen understanding about the way of life, history and society of human being through comparison on these topics.

LIT100JB

文学

彭　丹

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：　いにしえの恋歌　―漢詩と和歌の世界
授業の概要と目的：この講義は、詩歌と人生最大の主題である「恋」を取りあげる。中国の漢詩と日本の和歌は、どのように恋を表現し、人生を豊かにしてきたのか。日本と中国の文学・文化の歴史を学ぶとともに、その比較を通じて、人間の生き方や歴史社会についての理解を深める。

【到達目標】
現代文学を生み出す源流である和歌や漢詩の中から、恋を主題とする作品をとりあげ、その鑑賞と批評を通して、東洋文学の精神と古代から未来への展望を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 オンライン形式か対面形式かはその時の学校規定に従います。
2 オンライン形式の場合は、学習支援システムにて資料を配布します。
3 皆さまに配布資料を読んでいただき、自分なりの感想や意見 (リアクションペーパー　字数自由) をインラインで提出していただきます。
4 皆さまのリアクションペーパーに対して、必要に応じてコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本文学と中国文学における恋歌の系譜の概観。授業内容の概説及び評価方法について説明する。
第 2 回	若菜 1	『万葉集』の巻頭歌・籠もよみ籠持ちに見る古代日本の恋のかたち
第 3 回	若菜 2	『詩経』の巻頭歌・関雎に見る古代中国の恋のかたち
第 4 回	恋の声 1	琴と雨の音に寄せる恋歌
第 5 回	恋の声 2	和歌と漢詩の美　無声は有声に勝る
第 6 回	秘すれば恋 1	在原業平と二条后高子の忍ぶ恋　なぜ歌人は忍ぶ恋をするのか
第 7 回	秘すれば恋 2	神女に恋する　なぜ詩人は神女に恋するのか
第 8 回	秘すれば恋 3	和歌と漢詩の美　秘すれば花
第 9 回	恋と宇宙 1	建礼門院右京大夫と李清照、その恋と作品
第 10 回	恋と宇宙 2	悲劇の帝王詩人後鳥羽院と李后主
第 11 回	長恨歌 1	亡国の恋のものがたり
第 12 回	長恨歌 2	和歌と漢詩の美　もののあはれと雅怨
第 13 回	長恨歌 3	和歌と漢詩の美　憂国と恋
第 14 回	まとめ	まとめと試験ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
和歌と漢詩を朗読してみる。ジャンル・題材を問わず、内外の文学作品を広く読む。映画・演劇・美術・音楽を鑑賞する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布。

【参考書】
授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】
レポート (40%) ：毎回の授業内容についてのリアクションペーパー（字数自由）。
期末試験 (60%) ：小論文 (字数自由)

【学生の意見等からの気づき】
近年は古典文学に馴染みのない受講生が多いので、近現代の文学作品、小説・演劇・映画なども取り入れて分かりやすく解説し、古典への理解と興味を高めてゆく。

【Outline and objectives】
Ancient Love Songs: The World of Chinese Poetry and Japanese Poetry

This course examines poetry and "love", which is the most important them for people's life. How did Chinese poetry (kanshi) and Japanese poetry (waka) express love and enrich our life? In this course we acquire basic knowledge of Japanese-Chinese literature and culture and deepen understanding about the way of life, history and society of human being through comparison on these topics.

LIT100JC

文化人類学

松井　生子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる社会・文化の研究を通じて展開してきた文化人類学は、他者理解・自己理解の学問です。本講義ではさまざまな社会の事例を比較検討しながら、人類の多様性と共通性を把握し、理解することをめざします。

【到達目標】
具体的な事例をもとに、自分とは違う他者を理解することの重要性を考えることができる。異なる社会を鏡として、自らが生きる社会とその文化について相対的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこない、適宜関連する音声教材、映像資料を用いる。講義全体の前半部で人類学の古典的ともいえるテーマを取り上げ、後半部で今日的な問題意識に基づいたテーマを取り上げる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	文化人類学の特徴、社会・文化をめぐる議論
第 2 回	文化相対主義	文化を相対的に捉えることの意義
第 3 回	世界の中に自己を位置づける－儀礼・象徴	人が世界を認識する方法、社会での自己の位置づけ方
第 4 回	社会におけるコミュニケーション－贈与交換	モノのやりとりを通したコミュニケーション
第 5 回	社会に埋め込まれた経済	経済の多様な側面・他領域との連関
第 6 回	むすぶ行為としての結婚	結婚が人びとをむすびつける働き、さまざまな結婚形態
第 7 回	「関係性」の中の親子・親族	親子・親族の「関係性」のあり方
第 8 回	「民族」とは何か	「民族」の捉え方
第 9 回	マイノリティとマジョリティ	人びとの間に存在する力関係
第 10 回	国境を越える人びと	外国人労働者との協働・共生
第 11 回	性の多様性	人間における性の多様性
第 12 回	争いと平和	戦争および災害後の社会の再生
第 13 回	環境と人間	環境の文化的・社会的側面
第 14 回	総括	これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、準備・復習として前週の配布プリントを見ておくことが望ましい。授業後は関心を持った事柄について文献等を用いて自分自身で調べ、メモなどをとっておき、最終レポートの作成に活かす。準備・復習、および事後の発展学習の時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点（40 %）および最終レポート（60 %）により、総合的に評価する。。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方について随時受講生の意見を聞き、授業に反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いて資料を配布することがあります。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更がありえます。

【Outline and objectives】
Using anthropological theories and methodology, this class seeks to explore diversity, differences and similarities among humans. Its overall aim is to offer students an analytical toolkit for thinking about ourselves and “the others”. We will examine a wide range of case-studies around the globe, in an effort to gain comparative understanding of human cultures. At the same time, we will examine our own society and culture from a relativistic standpoint. Topics include gift exchange, ritual, marriage, kinship, ethnicity, global processes, gender and human/non-human relationships.

CUA100JB

文化人類学

松井　生子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる社会・文化の研究を通じて展開してきた文化人類学は、他者理解・自己理解の学問です。本講義ではさまざまな社会の事例を比較検討しながら、人類の多様性と共通性を把握し、理解することをめざします。

【到達目標】
具体的な事例をもとに、自分とは違う他者を理解することの重要性を考えることができる。異なる社会を鏡として、自らが生きる社会とその文化について相対的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこない、適宜関連する音声教材、映像資料を用いる。講義全体の前半部で人類学の古典的ともいえるテーマを取り上げ、後半部で今日的な問題意識に基づいたテーマを取り上げる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	文化人類学の特徴、社会・文化をめぐる議論
第 2 回	文化相対主義	文化を相対的に捉えることの意義
第 3 回	世界の中に自己を位置づける－儀礼・象徴	人が世界を認識する方法、社会での自己の位置づけ方
第 4 回	社会におけるコミュニケーション－贈与交換	モノのやりとりを通したコミュニケーション
第 5 回	社会に埋め込まれた経済	経済の多様な側面・他領域との連関
第 6 回	むすぶ行為としての結婚	結婚が人びとをむすびつける働き、さまざまな結婚形態
第 7 回	「関係性」の中の親子・親族	親子・親族の「関係性」のあり方
第 8 回	「民族」とは何か	「民族」の捉え方
第 9 回	マイノリティとマジョリティ	人びとの間に存在する力関係
第 10 回	国境を越える人びと	外国人労働者との協働・共生
第 11 回	性の多様性	人間における性の多様性
第 12 回	争いと平和	戦争および災害後の社会の再生
第 13 回	環境と人間	環境の文化的・社会的側面
第 14 回	総括	これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、準備・復習として前週の配布プリントを見ておくことが望ましい。授業後は関心を持った事柄について文献等を用いて自分自身で調べ、メモなどをとっておき、最終レポートの作成に活かす。準備・復習、および事後の発展学習の時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点（40 %）および最終レポート（60 %）により、総合的に評価する。。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方について随時受講生の意見を聞き、授業に反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを用いて資料を配布することがあります。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更がありえます。

【Outline and objectives】
Using anthropological theories and methodology, this class seeks to explore diversity, differences and similarities among humans. Its overall aim is to offer students an analytical toolkit for thinking about ourselves and “the others”. We will examine a wide range of case-studies around the globe, in an effort to gain comparative understanding of human cultures. At the same time, we will examine our own society and culture from a relativistic standpoint. Topics include gift exchange, ritual, marriage, kinship, ethnicity, global processes, gender and human/non-human relationships.

LIT100JC

創作表現論

金原　瑞人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治時代からの日本語の変遷を学ぶ一方、創作の基本を身につける。

【到達目標】
明治時代の日本語の変遷についての基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義＋実際の創作指導。明治時代の日本語の変遷、変革について 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また、2 週間に 1 冊、日本の文学作品を読んでもらう。なお、講義はすべて文章ファイルで送付。毎回の課題も文章ファイルで提出してもらう。提出してもらった課題に関してはすべて「講評」の形にまとめて、授業支援システムで送付する。また、毎週火曜日の 2 限に zoom の授業も行うが、これは質問のある人、議論したい人、最近の小説・映画・演劇などに関する話をしたい人・聞きたい人のためのもので、参加は自由。成績には関係ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	小説と novel と落語	三遊亭圓朝
2	言文一致運動	『浮雲』
3	速記と言文一致運動	『怪談牡丹灯籠』
4	明治時代の日本語改革論	前島密と福沢諭吉
5	日本語とローマ字	森有礼と西周
6	国語教科書の変遷	文語から口語へ
7	日本語における横書きの誕生	幕末から明治初期にかけての変革
8	絵本と横書きと縦書き	戦前と戦後の比較
9	マンガと横書きと縦書き	日本のコミックの欧米版
10	様々な言語の表記	右縦書き、左縦書き、右横書き、左横書き
11	辞書の縦書きと横書き	中国と日本
12	明治の小説が目指したもの	近代リアリズム小説
13	一人称の小説と三人称の小説	どちらが書きやすい？
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義内容を読み、作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を書いて提出する。また、2 週間に 1 冊、文学作品を読む。本授業の準備・復習時間は 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
提出された課題 100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
読んでもらう文学作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】
Learn about Japanese cultural history in the Meiji Era and learn the basics of creative writing in Japanese.

LIT100JB

創作表現論

金原　瑞人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治時代からの日本語の変遷を学ぶ一方、創作の基本を身につける。

【到達目標】
明治時代の日本語の変遷についての基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義＋実際の創作指導。明治時代の日本語の変遷、変革について 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また、2 週間に 1 冊、日本の文学作品を読んでもらう。なお、講義はすべて文章ファイルで送付。毎回の課題も文章ファイルで提出してもらう。提出してもらった課題に関してはすべて「講評」の形にまとめて、授業支援システムで送付する。また、毎週火曜日の 2 限に zoom の授業も行うが、これは質問のある人、議論したい人、最近の小説・映画・演劇などに関する話をしたい人・聞きたい人のためのもので、参加は自由。成績には関係ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	小説と novel と落語	三遊亭圓朝
2	言文一致運動	『浮雲』
3	速記と言文一致運動	『怪談牡丹灯籠』
4	明治時代の日本語改革論	前島密と福沢諭吉
5	日本語とローマ字	森有礼と西周
6	国語教科書の変遷	文語から口語へ
7	日本語における横書きの誕生	幕末から明治初期にかけての変革
8	絵本と横書きと縦書き	戦前と戦後の比較
9	マンガと横書きと縦書き	日本のコミックの欧米版
10	様々な言語の表記	右縦書き、左縦書き、右横書き、左横書き
11	辞書の縦書きと横書き	中国と日本
12	明治の小説が目指したもの	近代リアリズム小説
13	一人称の小説と三人称の小説	どちらが書きやすい？
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義内容を読み、作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を書いて提出する。また、2 週間に 1 冊、文学作品を読む。本授業の準備・復習時間は 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
提出された課題 100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
読んでもらう文学作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】
Learn about Japanese cultural history in the Meiji Era and learn the basics of creative writing in Japanese.

PHL100JC

生命倫理

渡部　麻衣子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理学は、生命の倫理的取り扱い方について検討する学問です。この授業では、社会の中に生まれて死んでいく人の生命の取り扱い方をトピックとしながら、概念、事例、異なる立場の議論を通して、生命倫理学の基礎を学びます。

【到達目標】
1. 生命倫理学の基礎概念を学ぶ。
2. 事例を通して、生命倫理学的議論の方法を学ぶ。
3. 授業内での発言を通して、生命倫理学的な議論を実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（講義）、授業内でディスカションを促します。リアクションペーパー、課題は hoppii 上で提出して頂きます。回答も hoppii 上で行うこととしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、評価について説明する。
第 2 回	基礎概念（1）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 3 回	基礎概念（2）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 4 回	基礎概念（3）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 5 回	生まれる時（1）	人工妊娠中絶に関する事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 6 回	生まれる時（2）	着床前、出生前検査に関する事例と、異なる立場からの議論を学ぶ。
第 7 回	生まれる時（3）	生殖医療全般に関する事例と、異なる立場からの議論を学ぶ。
第 8 回	ケア倫理（1）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 9 回	ケア倫理（2）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 10 回	ケア倫理（3）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 11 回	死にいく時（1）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 12 回	死にいく時（2）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 13 回	死にいく時（3）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 14 回	総括	これまでに学んだことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に参加するにあたり、配布資料を読んでくること。所要時間は約２時間である。
毎回、配布資料と前回の講義の内容に関する小テストを行うので、約２時間程度の復習をすること。

【テキスト（教科書）】
教科書は利用しない。

【参考書】
授業内で資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％
小テスト３０％
大テスト３０％
授業内の発言等、参加点１０％

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業内容を振り返り、今年度からは、生命倫理学で重視されている具体例を取り上げ、生命倫理学での議論を背景も含めて体系化して解説し、クラスでの有意義な議論につなげることにした。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆はパソコンで行う。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
Bioethics is the field of study to speculate on the ethical treatment of "life". In this class, students will learn the basics of bioethics by studying concepts, cases, and discussions based on diverse standpoints, relating to the issues on human life, which begins and ends in society.

PHL100JB

生命倫理

渡部　麻衣子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理学は、生命の倫理的取り扱い方について検討する学問です。この授業では、社会の中に生まれて死んでいく人の生命の取り扱い方をトピックとしながら、概念、事例、異なる立場の議論を通して、生命倫理学の基礎を学びます。

【到達目標】
1. 生命倫理学の基礎概念を学ぶ。
2. 事例を通して、生命倫理学的議論の方法を学ぶ。
3. 授業内での発言を通して、生命倫理学的な議論を実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（講義）、授業内でディスカションを促します。リアクションペーパー、課題は hoppii 上で提出して頂きます。回答も hoppii 上で行うこととしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、評価について説明する。
第 2 回	基礎概念（1）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 3 回	基礎概念（2）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 4 回	基礎概念（3）	生命倫理学の基礎的概念を３回に分けて学ぶ。
第 5 回	生まれる時（1）	人工妊娠中絶に関する事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 6 回	生まれる時（2）	着床前、出生前検査に関する事例と、異なる立場からの議論を学ぶ。
第 7 回	生まれる時（3）	生殖医療全般に関する事例と、異なる立場からの議論を学ぶ。
第 8 回	ケア倫理（1）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 9 回	ケア倫理（2）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 10 回	ケア倫理（3）	他者との関係性の中に生じる倫理を論じる「ケア論」について３回に分けて学ぶ。
第 11 回	死にいく時（1）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 12 回	死にいく時（2）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 13 回	死にいく時（3）	人が死にいく時に関して生じる倫理的課題をめぐる事例と異なる立場からの議論を学ぶ。
第 14 回	総括	これまでに学んだことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に参加するにあたり、配布資料を読んでくること。所要時間は約２時間である。
毎回、配布資料と前回の講義の内容に関する小テストを行うので、約２時間程度の復習をすること。

【テキスト（教科書）】
教科書は利用しない。

【参考書】
授業内で資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％
小テスト３０％
大テスト３０％
授業内の発言等、参加点１０％

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業内容を振り返り、今年度からは、生命倫理学で重視されている具体例を取り上げ、生命倫理学での議論を背景も含めて体系化して解説し、クラスでの有意義な議論につなげることにした。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆はパソコンで行う。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
Bioethics is the field of study to speculate on the ethical treatment of "life". In this class, students will learn the basics of bioethics by studying concepts, cases, and discussions based on diverse standpoints, relating to the issues on human life, which begins and ends in society.

TRS100JC

ホスピタリティ論

野口　洋平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】
ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次回の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
第 2 回	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
第 3 回	ホスピタリティとサービス（1）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
第 4 回	ホスピタリティとサービス（2）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 5 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味（1）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
第 6 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味（2）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 7 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング（1）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
第 8 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング（2）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 9 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス（1）	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
第 10 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス（2）	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 11 回	国際観光とホスピタリティとサービス（1）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
第 12 回	国際観光とホスピタリティとサービス（2）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 13 回	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 14 回	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験（サービス提供、サービス享受）について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業ないで資料を配布して周知する。教員への連絡方法は授業内で提示する。
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

TRS100JB

ホスピタリティ論

野口　洋平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】
ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次回の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
第 2 回	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
第 3 回	ホスピタリティとサービス（1）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
第 4 回	ホスピタリティとサービス（2）	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 5 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味（1）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
第 6 回	ホスピタリティとサービスの現代的意味（2）	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 7 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング（1）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
第 8 回	ホスピタリティとサービスのマーケティング（2）	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 9 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス（1）	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
第 10 回	消費者にとってのホスピタリティとサービス（2）	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 11 回	国際観光とホスピタリティとサービス（1）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
第 12 回	国際観光とホスピタリティとサービス（2）	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 13 回	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第 14 回	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験（サービス提供、サービス享受）について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業ないで資料を配布して周知する。教員への連絡方法は授業内で提示する。
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

CUA100JC

日本人の心理特性と文化

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の童話 (「だれも知らない小さな国」佐藤さとる) を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】
童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性があります。その場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と童話ー「だれも知らない小さな国」ーの概説	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
第 2 回	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回	第 2 章「小さな黒いかげ」1〜5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回	第 2 章「小さな黒いかげ」6〜10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回	第 3 章「矢印の先っぽ」1〜5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回	第 3 章「矢印の先っぽ」6〜10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回	第 4 章「わるいゆめ」1〜5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回	第 4 章「わるいゆめ」6〜10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のトーリーにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく
第 12 回	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく
第 13 回	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「だれも知らない小さな国ーコロボックル物語 1」佐藤さとる 著 (講談社 青い鳥文庫) 670 円

【参考書】
その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末の筆記試験（６０％）と平常点（４０％）を合計して最終的な成績評価を行います。
新型コロナの感染によってオンライン授業に変更になった場合、上記の成績評価の方法や基準は変更になります。その場合は学習支援システムを通して変更点を周知しますので、必ずチェックを忘れないでください。

【学生の意見等からの気づき】
日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
講義にはかならず「テキスト (童話)」を持参してくること。

【Outline and objectives】
In this course, students will explore Japanese culture and psychological charactristics from a perspective of depth pshychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

CUA100JB

日本人の心理特性と文化

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の童話 (「だれも知らない小さな国」佐藤さとる) を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】
童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性があります。その場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と童話ー「だれも知らない小さな国」ーの概説	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
第 2 回	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回	第 2 章「小さな黒いかげ」1〜5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回	第 2 章「小さな黒いかげ」6〜10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回	第 3 章「矢印の先っぽ」1〜5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回	第 3 章「矢印の先っぽ」6〜10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回	第 4 章「わるいゆめ」1〜5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回	第 4 章「わるいゆめ」6〜10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のトーリーにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく
第 12 回	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく
第 13 回	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「だれも知らない小さな国ーコロボックル物語 1」佐藤さとる 著 (講談社 青い鳥文庫) 670 円

【参考書】
その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末の筆記試験（６０％）と平常点（４０％）を合計して最終的な成績評価を行います。
新型コロナの感染によってオンライン授業に変更になった場合、上記の成績評価の方法や基準は変更になります。その場合は学習支援システムを通して変更点を周知しますので、必ずチェックを忘れないでください。

【学生の意見等からの気づき】
日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
講義にはかならず「テキスト (童話)」を持参してくること。

【Outline and objectives】
In this course, students will explore Japanese culture and psychological charactristics from a perspective of depth pshychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

EDU100JC

教育学

藤本　典裕

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】
下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
1．教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2．人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4．現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。
学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。
下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。春学期の授業形態・授業計画などについては、学習支援システムでその都度提示する。その他、大学からの連絡にも注意すること。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第 2 回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第 3 回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第 4 回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第 5 回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第 6 回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第 7 回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第 8 回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第 9 回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 10 回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 11 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 12 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 13 回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響ついて検討する。
第 14 回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】
堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989 年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997 年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990 年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994 年
橘木俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010 年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）、小レポート（20 %）、平常点（20 %）を総合的に評価する（配点は目安）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることを主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。
昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline and objectives】
We will learn about "education" as a nessesary social function for human-beeing.
At first, basic educational concepts will be discussed through daily- life experiences. We will learn how and why we human-beeing have kept "education" as a basic social function.
Second, we will learn about the functions of schooling system.
Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education , and why so, who guarantee the rights.

EDU100JB

教育学

藤本　典裕

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（人文系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】
下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
1．教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2．人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4．現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。
学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。
下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。春学期の授業形態・授業計画などについては、学習支援システムでその都度提示する。その他、大学からの連絡にも注意すること。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第 2 回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第 3 回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第 4 回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第 5 回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第 6 回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第 7 回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第 8 回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第 9 回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 10 回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 11 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 12 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 13 回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響ついて検討する。
第 14 回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】
堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989 年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997 年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990 年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994 年
橘木俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010 年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）、小レポート（20 %）、平常点（20 %）を総合的に評価する（配点は目安）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることを主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。
昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline and objectives】
We will learn about "education" as a nessesary social function for human-beeing.
At first, basic educational concepts will be discussed through daily- life experiences. We will learn how and why we human-beeing have kept "education" as a basic social function.
Second, we will learn about the functions of schooling system.
Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education , and why so, who guarantee the rights.

SOC100JC

コミュニケーション論

西田　善行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】
受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだテクストで、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について (テキスト 1 章)
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて (テキスト２章)
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト 3 章）
5	映像の技巧と意味④	語りについて（テキスト 5 章）
6	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
7	映像分析の実際①	歴史的分析（テキスト８章）
8	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト９章）
9	言説分析とは	言説分析の原理を知る
10	言説分析の応用	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析とは	計量言語分析の原理を知る
12	計量言語分析の応用①	計量言語分析を応用した成果を知る
13	計量言語分析の応用②	言説分析を応用した成果を知る
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】
マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

【参考書】
末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門　Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税
これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
中間と学期末に２回 3000 字程度（最低でも 2000 字）の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。
①レポート（２回）＝ 80 %　③毎回の課題＝ 20 %による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業プリントは、授業支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も授業支援システムで行います。受講する学生は、２回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】
この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに授業支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline and objectives】
Students will learn about the image and discourse theory.

SOC100JB

コミュニケーション論

西田　善行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】
受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだテクストで、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について (テキスト 1 章)
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて (テキスト２章)
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト 3 章）
5	映像の技巧と意味④	語りについて（テキスト 5 章）
6	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
7	映像分析の実際①	歴史的分析（テキスト８章）
8	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト９章）
9	言説分析とは	言説分析の原理を知る
10	言説分析の応用	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析とは	計量言語分析の原理を知る
12	計量言語分析の応用①	計量言語分析を応用した成果を知る
13	計量言語分析の応用②	言説分析を応用した成果を知る
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】
マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

【参考書】
末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門　Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税
これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
中間と学期末に２回 3000 字程度（最低でも 2000 字）の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。
①レポート（２回）＝ 80 %　③毎回の課題＝ 20 %による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業プリントは、授業支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も授業支援システムで行います。受講する学生は、２回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】
この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに授業支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline and objectives】
Students will learn about the image and discourse theory.

GDR100JB

女性学

藤田　和美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー研究は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women's　Studies) として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後 1980 年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men's Studies）という専門領域になっていきます。
ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争の的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。
こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980 年代後半から 1990 年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。

【到達目標】
1）フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること
2）ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的考え方を理解し、説明できるようになること
3）現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、パワーポイントのデータを前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。秋学期は対面での開講となりますが、変更される場合には学習支援システムでその都度提示します。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＆イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第 2 回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第 3 回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動
第 4 回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第 5 回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、コンパラブル・ワース、ガラスの天井、ガラスのエスカレーテード家父長制、ダブル・スタンダー
第 6 回	アンペイド・ワーク	キーワード：家庭内分業、ロッタ・フェミニスタ、「家事労働に賃金を」ップ、ジェンダー分離
第 7 回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第 8 回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第 9 回	デート DV	キーワード：セクシュアル・コンセント
第 10 回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイト・リボン
第 11 回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第 12 回	職場における性の多様性	キーワード：エイズ・アクティヴィズム、クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第 13 回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度 CM、炎上 CM
第 14 回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用するスライドがアップロードされています。学生には授業開始前にスライドをダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。
【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には講義後 5 日以内に課題を提出することが求められます。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン（片山亜紀他訳）『キーコンセプトージェンダー・スタディーズ』新曜社　2008 年

【成績評価の方法と基準】
1）平常点・授業感想（14 回）40 %
2）ミニレポート（2 回）10 %
3）期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義スライドの配布やミニレポートの提出にあたって授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Gender Studies is an interdisplinary academic field spannning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist thoery such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

GDR100JC

女性学

藤田　和美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー研究は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women's　Studies) として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後 1980 年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men's Studies）という専門領域になっていきます。
ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争の的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。
こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980 年代後半から 1990 年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。

【到達目標】
1）フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること
2）ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的考え方を理解し、説明できるようになること
3）現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、パワーポイントのデータを前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。秋学期は対面での開講となりますが、変更される場合には学習支援システムでその都度提示します。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＆イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第 2 回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第 3 回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動
第 4 回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第 5 回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、コンパラブル・ワース、ガラスの天井、ガラスのエスカレーテード家父長制、ダブル・スタンダー
第 6 回	アンペイド・ワーク	キーワード：家庭内分業、ロッタ・フェミニスタ、「家事労働に賃金を」ップ、ジェンダー分離
第 7 回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第 8 回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第 9 回	デート DV	キーワード：セクシュアル・コンセント
第 10 回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイト・リボン
第 11 回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第 12 回	職場における性の多様性	キーワード：エイズ・アクティヴィズム、クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第 13 回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度 CM、炎上 CM
第 14 回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用するスライドがアップロードされています。学生には授業開始前にスライドをダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。
【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には講義後 5 日以内に課題を提出することが求められます。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン（片山亜紀他訳）『キーコンセプトージェンダー・スタディーズ』新曜社　2008 年

【成績評価の方法と基準】
1）平常点・授業感想（14 回）40 %
2）ミニレポート（2 回）10 %
3）期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義スライドの配布やミニレポートの提出にあたって授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Gender Studies is an interdisplinary academic field spannning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist thoery such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

GDR100JC

ジェンダー論

藤田　和美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー研究は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women's　Studies) として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後 1980 年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men's Studies）という専門領域になっていきます。
ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争の的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。
こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980 年代後半から 1990 年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。

【到達目標】
1）フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること
2）ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的考え方を理解し、説明できるようになること
3）現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、パワーポイントのデータを前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。秋学期は対面での開講となりますが、変更される場合には学習支援システムでその都度提示します。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＆イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第 2 回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第 3 回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動
第 4 回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第 5 回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、コンパラブル・ワース、ガラスの天井、ガラスのエスカレーテード家父長制、ダブル・スタンダー
第 6 回	アンペイド・ワーク	キーワード：家庭内分業、ロッタ・フェミニスタ、「家事労働に賃金を」ップ、ジェンダー分離
第 7 回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第 8 回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第 9 回	デート DV	キーワード：セクシュアル・コンセント
第 10 回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイト・リボン
第 11 回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第 12 回	職場における性の多様性	キーワード：エイズ・アクティヴィズム、クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第 13 回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度 CM、炎上 CM
第 14 回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用するスライドがアップロードされています。学生には授業開始前にスライドをダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。
【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には講義後 5 日以内に課題を提出することが求められます。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン（片山亜紀他訳）『キーコンセプトージェンダー・スタディーズ』新曜社　2008 年

【成績評価の方法と基準】
1）平常点・授業感想（14 回）40 %
2）ミニレポート（2 回）10 %
3）期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義スライドの配布やミニレポートの提出にあたって授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Gender Studies is an interdisplinary academic field spannning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist thoery such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

GDR100JB

ジェンダー論

藤田　和美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー研究は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women's　Studies）として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後 1980 年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men's Studies）という専門領域になっていきます。
ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争の的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。
こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980 年代後半から 1990 年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。

【到達目標】
1）フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること
2）ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的考え方を理解し、説明できるようになること
3）現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、パワーポイントのデータを前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。秋学期は対面での開講となりますが、変更される場合には学習支援システムでその都度提示します。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＆イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第 2 回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第 3 回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動
第 4 回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第 5 回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、コンパラブル・ワース、ガラスの天井、ガラスのエスカレーテード家父長制、ダブル・スタンダー
第 6 回	アンペイド・ワーク	キーワード：家庭内分業、ロッタ・フェミニスタ、「家事労働に賃金を」ップ、ジェンダー分離
第 7 回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第 8 回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第 9 回	デート DV	キーワード：セクシュアル・コンセント
第 10 回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイト・リボン
第 11 回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第 12 回	職場における性の多様性	キーワード：エイズ・アクティヴィズム、クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第 13 回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度 CM、炎上 CM
第 14 回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用するスライドがアップロードされています。学生には授業開始前にスライドをダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。
【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には講義後 5 日以内に課題を提出することが求められます。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン（片山亜紀他訳）『キーコンセプトージェンダー・スタディーズ』新曜社　2008 年

【成績評価の方法と基準】
1）平常点・授業感想（14 回）40 %
2）ミニレポート（2 回）10 %
3）期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義スライドの配布やミニレポートの提出にあたって授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Gender Studies is an interdisplinary academic field spannning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist thoery such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

LAW100JB

行政法 I

氏家　裕順

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、それによって私人の権利義務を規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。
授業では、行政活動の主体と組織、法治主義などの基本的事項を学習した後で、行政活動のうち、行政規範の制定（伝統的に行政立法と呼ばれてきた）、行政処分（行政行為と呼ばれることが多い）、行政上の強制執行、即時強制、行政指導に注目して、その法的規制を主に学ぶ。残される行政の行為は、行政法 II で学習する。

【到達目標】
①行政法の法源、②行政の各種の行為、③法治主義の具体的内容、④信頼保護の必要性と方法、⑤行政規範の制定（行政立法）、⑥行政処分（行政行為）、⑦行政上の代執行と行政上の強制徴収の概要、⑧即時強制の法的規制、⑨行政上の制裁の概念と種別、⑩行政指導の概念・種別と法的規制を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法のイメージ	講義概要と進め方
第 2 回	行政と行政法	行政の概念　行政法の法源
第 3 回	行政活動の種別	公行政と私行政　行政の各種の行為
第 4 回	行政活動の主体と組織	行政活動の主体　行政組織の構成
第 5 回	法治主義・信頼保護	法治主義の内容　信頼保護
第 6 回	行政規範の制定	概念　種別　法律の委任のあり方
第 7 回	行政処分（1）	概念と成立過程
第 8 回	行政処分（2）	行政行為の効力
第 9 回	行政処分（3）	行政行為の職権取消しと撤回
第 10 回	行政処分（4）	行政行為の手続
第 11 回	行政上の強制執行	行政上の代執行（代執行）　行政上の強制徴収
第 12 回	即時強制と行政上の制裁	即時強制の法的規制　行政上の制裁の概念・種別
第 13 回	行政指導（1）	概念　種別
第 14 回	行政指導（2）	法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は 1 時間を、復習時間は 3 時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】
芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）、￥3,000 ＋税

【参考書】
宇賀克也『行政法概説 I〔第 6 版〕』（有斐閣、2017 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第 7 版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100 %）。通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウエア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】
In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW100JC

行政法 I

氏家　裕順

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、それによって私人の権利義務を規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。
授業では、行政活動の主体と組織、法治主義などの基本的事項を学習した後で、行政活動のうち、行政規範の制定（伝統的に行政立法と呼ばれてきた）、行政処分（行政行為と呼ばれることが多い）、行政上の強制執行、即時強制、行政指導に注目して、その法的規制を主に学ぶ。残される行政の行為は、行政法 II で学習する。

【到達目標】
①行政法の法源、②行政の各種の行為、③法治主義の具体的内容、④信頼保護の必要性と方法、⑤行政規範の制定（行政立法）、⑥行政処分（行政行為）、⑦行政上の代執行と行政上の強制徴収の概要、⑧即時強制の法的規制、⑨行政上の制裁の概念と種別、⑩行政指導の概念・種別と法的規制を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法のイメージ	講義概要と進め方
第 2 回	行政と行政法	行政の概念　行政法の法源
第 3 回	行政活動の種別	公行政と私行政　行政の各種の行為
第 4 回	行政活動の主体と組織	行政活動の主体　行政組織の構成
第 5 回	法治主義・信頼保護	法治主義の内容　信頼保護
第 6 回	行政規範の制定	概念　種別　法律の委任のあり方
第 7 回	行政処分（1）	概念と成立過程
第 8 回	行政処分（2）	行政行為の効力
第 9 回	行政処分（3）	行政行為の職権取消しと撤回
第 10 回	行政処分（4）	行政行為の手続
第 11 回	行政上の強制執行	行政上の代執行（代執行）　行政上の強制徴収
第 12 回	即時強制と行政上の制裁	即時強制の法的規制　行政上の制裁の概念・種別
第 13 回	行政指導（1）	概念　種別
第 14 回	行政指導（2）	法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は 1 時間を、復習時間は 3 時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】
芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）、￥3,000 ＋税

【参考書】
宇賀克也『行政法概説 I〔第 6 版〕』（有斐閣、2017 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第 7 版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100 %）。通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウエア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】
In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW100JC

行政法Ⅱ

氏家　裕順

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政法 II では、行政法 I に引き続き行政の行為に注目して、行政契約の法的規制を学習する。また、行政計画、行政調査の法的規制の学習にも取り組む。
また、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（行政機関情報公開法）と行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（行政機関個人情報保護法）の概要を、すなわち、情報公開と個人情報保護の制度を学ぶ。
上記のものや行政法 I で学んだ法的規制によって適法な行政活動が実現し、それにより私人の権利利益が保護されるはずだが、私人が被害を被った場合にはそれが回復され、また、被害の発生は予防されるべきである。行政活動によって被害を被った（被るおそれがある）私人の権利利益の回復（予防）のことを、行政救済という。この行政救済のための各種の制度をも学ぶ。

【到達目標】
行政計画の概念・種別及び法的規制、行政契約の概念・種別及び法的規制、行政調査の概念・種別及び法的規制、行政機関情報公開法の概要、行政機関個人情報保護法の概要、各種の行政救済と行政訴訟の諸形式、取消訴訟の概要、無効確認訴訟の訴訟要件、差止訴訟の訴訟要件、不作為違法確認訴訟の訴訟要件、義務付け訴訟の訴訟要件、公権力行使責任の概要、営造物管理責任の概要、水害と国家賠償責任について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法 II での学び	講義概要と進め方
第 2 回	行政計画	概念・種別　法的規制
第 3 回	行政契約	概念・種別　法的規制
第 4 回	行政調査	概念・種別　法的規制
第 5 回	情報公開と個人情報保護	行政機関情報公開法と行政機関個人情報保護法の概要
第 6 回	行政救済と行政訴訟	各種の行政救済　行政訴訟の諸形式
第 7 回	取消訴訟（1）	処分性　原告適格
第 8 回	取消訴訟（2）	訴えの客観的利益　事情判決
第 9 回	無効確認訴訟と差止訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 10 回	不作為違法確認訴訟と義務付け訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 11 回	国家賠償（1）	公権力行使責任の成立要件
第 12 回	国家賠償（2）	規制権限の不行使による国賠責任
第 13 回	国家賠償（3）	営造物管理責任の成立要件
第 14 回	国賠責任（4）	水害と国家賠償責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は１時間を、復習時間は３時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】
芝池義一『行政法読本〔第４版〕』（有斐閣、2016 年）、¥3,000 ＋税

【参考書】
宇賀克也『行政法概説 II〔第６版〕』（有斐閣、2018 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第７版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100 %）。通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウエア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】
In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW100JB

行政法Ⅱ

氏家　裕順

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政法 II では、行政法 I に引き続き行政の行為に注目して、行政契約の法的規制を学習する。また、行政計画、行政調査の法的規制の学習にも取り組む。
また、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（行政機関情報公開法）と行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（行政機関個人情報保護法）の概要を、すなわち、情報公開と個人情報保護の制度を学ぶ。
上記のものや行政法 I で学んだ法的規制によって適法な行政活動が実現し、それにより私人の権利利益が保護されるはずだが、私人が被害を被った場合にはそれが回復され、また、被害の発生は予防されるべきである。行政活動によって被害を被った（被るおそれがある）私人の権利利益の回復（予防）のことを、行政救済という。この行政救済のための各種の制度をも学ぶ。

【到達目標】
行政計画の概念・種別及び法的規制、行政契約の概念・種別及び法的規制、行政調査の概念・種別及び法的規制、行政機関情報公開法の概要、行政機関個人情報保護法の概要、各種の行政救済と行政訴訟の諸形式、取消訴訟の概要、無効確認訴訟の訴訟要件、差止訴訟の訴訟要件、不作為違法確認訴訟の訴訟要件、義務付け訴訟の訴訟要件、公権力行使責任の概要、営造物管理責任の概要、水害と国家賠償責任について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法 II での学び	講義概要と進め方
第 2 回	行政計画	概念・種別　法的規制
第 3 回	行政契約	概念・種別　法的規制
第 4 回	行政調査	概念・種別　法的規制
第 5 回	情報公開と個人情報保護	行政機関情報公開法と行政機関個人情報保護法の概要
第 6 回	行政救済と行政訴訟	各種の行政救済　行政訴訟の諸形式
第 7 回	取消訴訟（1）	処分性　原告適格
第 8 回	取消訴訟（2）	訴えの客観的利益　事情判決
第 9 回	無効確認訴訟と差止訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 10 回	不作為違法確認訴訟と義務付け訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 11 回	国家賠償（1）	公権力行使責任の成立要件
第 12 回	国家賠償（2）	規制権限の不行使による国賠責任
第 13 回	国家賠償（3）	営造物管理責任の成立要件
第 14 回	国賠責任（4）	水害と国家賠償責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は１時間を、復習時間は３時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】
芝池義一『行政法読本〔第４版〕』（有斐閣、2016 年）、¥3,000 ＋税

【参考書】
宇賀克也『行政法概説 II〔第６版〕』（有斐閣、2018 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第７版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100 %）。通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウエア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】
In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

ECN100JB

経済学

赤石　秀之

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の中で安心して人々が暮らしていくために、福祉活動が必要なのは現代福祉学部の学生なら誰もが知っている事である。しかし、その社会の基盤には経済活動が存在し、それを福祉活動が支えているのを知っている学生は多くない。例えば、経済活動が機能していても福祉活動が不十分であったり、逆に福祉活動が十分であっても経済活動が機能していない、といった社会では、人々は安心して生活できないであろう。つまり、今後の社会が誰にとっても安心して暮らせるようにするには、福祉に関する知識だけではなく、経済に関する知識も欠かせないという事である。

また広い視野を持って現代社会の福祉を向上させ、国際社会で活躍するには、経済学の素養は大学生ならば誰しもが身につけておくべきである。この素養を効果的に身につけるためには、経済活動を三つの視点（微視・巨視・公共）から眺める方法がある事を知るのが重要である。

そこで授業では、経済活動を三つの視点から考えるポイントについて説明しながら、社会の基盤である経済活動の機能と、それを福祉活動がどのように支えていくべきかを考える事を目的とする。

【到達目標】

この授業を受ける事で、学生は次のような事が出来るようになる：

1．三つの視点から経済活動を眺める方法を、実生活で実践すること
2．経済活動を福祉活動が支える方法を、経済学の力を借りて説明すること
3．社会のために必要な経済・福祉政策が何かを、経済学の力を借りて説明すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式であり、毎回配布するレジメに沿って、各回のテーマについて説明がされる。一通りの理解ができた頃に、授業中または次の授業までに考えておくための「ミニ課題」が出される。この「ミニ課題」は、授業の理解度をチェックするための問題であり、数分で解けるものから、じっくり考えてもらうものまで様々である。いずれも授業の内容をしっかりと理解できていれば解けるものとなっている。そして、このミニ課題については、次の授業の始まりに回収をし、解説を行うことで前回の復習も兼ねている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「経済」とは？	経済活動の役割について
第 2 回	「微視」とは？	経済活動を細かく分けて考える方法について
第 3 回	「需要」とは？	人々が何かを欲しい時にしている行動について
第 4 回	「供給」とは？	人々が何かを渡したい時にしている行動について
第 5 回	「価格」とは？	人々が交換するときにしている行動について
第 6 回	「巨視」とは？	経済活動を大まかに分けて考える方法について
第 7 回	「消費」とは？	人々は物を買うために使うお金の決まり方について
第 8 回	「投資」とは？	会社が物を買うために使うお金の決まり方について
第 9 回	「所得」とは？	人々が稼げるお金の決まり方について
第 10 回	「公共」とは？	経済活動を中立的な立場で考える方法について
第 11 回	「効率」とは？	社会の無駄を出来るだけ少なくする方法について
第 12 回	「公平」とは？	社会の不満を出来るだけ少なくする方法について
第 13 回	「政策」とは？	効率と公平を両立するため方法について
第 14 回	期末試験、まとめと解説	授業のまとめ、期末試験、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・特に事前の学習が必要ではないが、日頃から新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。
・授業で学んだ知識を用いて経済に関する問題を考える習慣を身につける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業では作成したレジュメを配布する。

【参考書】

特に指定しないが、必要に応じて授業中に指示する場合もある。

【成績評価の方法と基準】

ミニ課題： 40 %
期末試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同様に、学生の目線に立った授業を行えるように心掛ける。

【Outline and objectives】

Any University student should have ‘an elementary knowledge of economics’ in order to improve and succeed overseas. This lecture explains the elementary knowledge of microeconomics, macroeconomics, public economics. Especially the students will study as follows:

1. The mechanism and cause of a price determination and change.
2. The mechanism and cause of national income determination and change.
3. The criterion for policy to improve or advance social welfare.

ECN100JC

経済学

赤石　秀之

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の中で安心して人々が暮らしていくために、福祉活動が必要なのは現代福祉学部の学生なら誰もが知っている事である。しかし、その社会の基盤には経済活動が存在し、それを福祉活動が支えているのを知っている学生は多くない。例えば、経済活動が機能していても福祉活動が不十分であったり、逆に福祉活動が十分であっても経済活動が機能していない、といった社会では、人々は安心して生活できないであろう。つまり、今後の社会が誰にとっても安心して暮らせるようにするには、福祉に関する知識だけではなく、経済に関する知識も欠かせないという事である。

また広い視野を持って現代社会の福祉を向上させ、国際社会で活躍するには、経済学の素養は大学生ならば誰しもが身につけておくべきである。この素養を効果的に身につけるためには、経済活動を三つの視点（微視・巨視・公共）から眺める方法がある事を知るのが重要である。

そこで授業では、経済活動を三つの視点から考えるポイントについて説明しながら、社会の基盤である経済活動の機能と、それを福祉活動がどのように支えていくべきかを考える事を目的とする。

【到達目標】
この授業を受ける事で、学生は次のような事が出来るようになる：
1．三つの視点から経済活動を眺める方法を、実生活で実践すること
2．経済活動を福祉活動が支える方法を、経済学の力を借りて説明すること
3．社会のために必要な経済・福祉政策が何かを、経済学の力を借りて説明すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式であり、毎回配布するレジメに沿って、各回のテーマについて説明がされる。一通りの理解ができた頃に、授業中または次の授業までに考えておくための「ミニ課題」が出される。この「ミニ課題」は、授業の理解度をチェックするための問題であり、数分で解けるものから、じっくり考えてもらうものまで様々である。いずれも授業の内容をしっかりと理解できていれば解けるものとなっている。そして、このミニ課題については、次の授業の始まりに回収をし、解説を行うことで前回の復習も兼ねている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「経済」とは？	経済活動の役割について
第 2 回	「微視」とは？	経済活動を細かく分けて考える方法について
第 3 回	「需要」とは？	人々が何かを欲しい時にしている行動について
第 4 回	「供給」とは？	人々が何かを渡したい時にしている行動について
第 5 回	「価格」とは？	人々が交換するときにしている行動について
第 6 回	「巨視」とは？	経済活動を大まかに分けて考える方法について
第 7 回	「消費」とは？	人々は物を買うために使うお金の決まり方について
第 8 回	「投資」とは？	会社が物を買うために使うお金の決まり方について
第 9 回	「所得」とは？	人々が稼げるお金の決まり方について
第 10 回	「公共」とは？	経済活動を中立的な立場で考える方法について
第 11 回	「効率」とは？	社会の無駄を出来るだけ少なくする方法について
第 12 回	「公平」とは？	社会の不満を出来るだけ少なくする方法について
第 13 回	「政策」とは？	効率と公平を両立するため方法について
第 14 回	期末試験、まとめと解説	授業のまとめ、期末試験、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・特に事前の学習が必要ではないが、日頃から新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。
・授業で学んだ知識を用いて経済に関する問題を考える習慣を身につける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業では作成したレジュメを配布する。

【参考書】
特に指定しないが、必要に応じて授業中に指示する場合もある。

【成績評価の方法と基準】
ミニ課題： 40 %
期末試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度と同様に、学生の目線に立った授業を行えるように心掛ける。

【Outline and objectives】
Any University student should have ‘an elementary knowledge of economics’ in order to improve and succeed overseas. This lecture explains the elementary knowledge of microeconomics, macroeconomics, public economics. Especially the students will study as follows:
1. The mechanism and cause of a price determination and change.
2. The mechanism and cause of national income determination and change.
3. The criterion for policy to improve or advance social welfare.

ECN100JB

財政学Ⅰ

関口　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「財政学Ⅰ」では、自らの経済生活を豊かにするために、経済学・政治学・行政学・経営学・会計学・社会学にまたがり「境界線上の学問」とも称される財政学の歴史と分析方法、財政学の広範な主題の重要部分とされる予算、そして政府の存在根拠を中心に公共経済学の基礎理論について学ぶ。

【到達目標】
講義を契機にして、財政の理論と実際そして財政制度の基本的な知識を習得をし、財政制度および政策の経済的な意義と問題点を明らかにすることを目標とする。また、本講義では財政学の特定分野に特化しないで、財政学全般を対象とするので、現実問題について幅広く受講生自ら考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．新型コロナウイルス感染症が収束しない間は遠隔講義形式を基本とする。毎回講義の感想等を学習支援システム経由で提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
2．事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。
→ 現時点では，今年度の「財政学Ⅱ」開講が不明です。詳しくは第1回授業でご確認ください。
3．講義に関する連絡は遠隔講義内で原則行う。講義で触れきれない事項等は大学の学習支援システムによるしかないので、随時同システムを確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)〈教科書：開講にあたり〉	1．法政大学元総長大内兵衛と財政学 2．経済学と財政学
第 2 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	3．財政学とは何か〈教科書：第1章〉
第 3 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	4．財政学と財政思想の変遷〈教科書：第2～3章〉
第 4 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	5．現代財政学の展開〈教科書：第3章〉
第 5 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	5．財政の機能と分析方法〈教科書：第3～4章〉
第 6 回	Ⅱ．予算論〈教科書：第5章〉	1．予算の意義 2．予算原則
第 7 回	Ⅱ．予算論	3．日本の予算・決算制度 (1)〈教科書：第6章〉
第 8 回	Ⅱ．予算論	3．日本の予算・決算制度 (2)〈教科書：第6～7章〉
第 9 回	Ⅱ．予算論	4．財政投融資制度〈教科書：第 20 章〉
第 10 回	Ⅱ．予算論	5．予算の改革〈教科書：第8章〉
第 11 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	1．政府が存在するための経済的根拠〈教科書：第9章〉
第 12 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	2．市場の失敗 (独占・外部性)〈教科書：第9章〉
第 13 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	3．公共財の理論（続・市場の失敗）〈教科書：第9章〉
第 14 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	4．政府の失敗〈教科書：第9章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、令和元年。

【参考書】
1．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
2．池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成 27 年。
3．参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
1．詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2．例年は目安として、夏の定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価している。本学期もこれに準じることになるが、具体的方法と基準は学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】
特に経済学的により深く学ぼうとする学生は、理論経済学 (ミクロ経済学・マクロ経済学）を履修済みもしくは同時履修することが望ましい。履修が難しい学生には独学の方法等について講義中に話す予定である。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】
時間の関係で扱えない「地方財政論」は別枠で半期講義 (水・秋学期3限) があるので、ぜひとも併せて受講してほしい。
→ 現時点では，今年度「地方財政論」の開講が不明です。詳しくは第1回授業でご確認ください。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

ECN100JC

財政学Ⅰ

関口　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「財政学Ⅰ」では、自らの経済生活を豊かにするために、経済学・政治学・行政学・経営学・会計学・社会学にまたがり「境界線上の学問」とも称される財政学の歴史と分析方法、財政学の広範な主題の重要部分とされる予算、そして政府の存在根拠を中心に公共経済学の基礎理論について学ぶ。

【到達目標】
講義を契機にして、財政の理論と実際そして財政制度の基本的な知識を習得をし、財政制度および政策の経済的な意義と問題点を明らかにすることを目標とする。また、本講義では財政学の特定分野に特化しないで、財政学全般を対象とするので、現実問題について幅広く受講生自ら考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．新型コロナウイルス感染症が収束しない間は遠隔講義形式を基本とする。毎回講義の感想等を学習支援システム経由で提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
2．事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。
→ 現時点では，今年度の「財政学Ⅱ」開講が不明です。詳しくは第1回授業でご確認ください。
3．講義に関する連絡は遠隔講義内で原則行う。講義で触れきれない事項等は大学の学習支援システムによるしかないので、随時同システムを確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)〈教科書：開講にあたり〉	1．法政大学元総長大内兵衛と財政学 2．経済学と財政学
第 2 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	3．財政学とは何か〈教科書：第1章〉
第 3 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	4．財政学と財政思想の変遷〈教科書：第2～3章〉
第 4 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	5．現代財政学の展開〈教科書：第3章〉
第 5 回	Ⅰ．緒論 (財政と財政学)	5．財政の機能と分析方法〈教科書：第3～4章〉
第 6 回	Ⅱ．予算論〈教科書：第5章〉	1．予算の意義 2．予算原則
第 7 回	Ⅱ．予算論	3．日本の予算・決算制度 (1)〈教科書：第6章〉
第 8 回	Ⅱ．予算論	3．日本の予算・決算制度 (2)〈教科書：第6～7章〉
第 9 回	Ⅱ．予算論	4．財政投融資制度〈教科書：第 20 章〉
第 10 回	Ⅱ．予算論	5．予算の改革〈教科書：第8章〉
第 11 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	1．政府が存在するための経済的根拠〈教科書：第9章〉
第 12 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	2．市場の失敗 (独占・外部性)〈教科書：第9章〉
第 13 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	3．公共財の理論（続・市場の失敗）〈教科書：第9章〉
第 14 回	Ⅲ．公共経済学の基礎理論	4．政府の失敗〈教科書：第9章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、令和元年。

【参考書】
1．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
2．池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成 27 年。
3．参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
1．詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2．例年は目安として、夏の定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価している。本学期もこれに準じることになるが、具体的方法と基準は学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】
特に経済学的により深く学ぼうとする学生は、理論経済学 (ミクロ経済学・マクロ経済学）を履修済みもしくは同時履修することが望ましい。履修が難しい学生には独学の方法等について講義中に話す予定である。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】
時間の関係で扱えない「地方財政論」は別枠で半期講義 (水・秋学期3限) があるので、ぜひとも併せて受講してほしい。
→ 現時点では，今年度「地方財政論」の開講が不明です。詳しくは第1回授業でご確認ください。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

ECN100JB

財政学Ⅱ

関口　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「財政学Ⅱ」では、「財政学Ⅰ」を踏まえて財政学の理解をより深めるために、古くから財政学の首座を占めてきた租税、そして社会保障、教育、財政赤字等の今日的な財政問題、また財政政策について学ぶ。

【到達目標】
「財政学Ⅰ」と同様に、財政の理論と実際そして財政制度の基本的知識を習得し、財政制度および政策の経済的意義と問題点を受講者自身が考える手助けをすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Ⅰ．基本的には「財政学Ⅰ」と同じように、講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
２．事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅳ．経費論〈教科書：第 10〜11 章〉	１．経費の意義と経費膨張の法則 ２．政府の範囲と国民経済計算・経費区分
第 2 回	Ⅳ．経費論	３．社会保障の財政問題〈教科書：第 12 章〉
第 3 回	Ⅳ．経費論	４．教育財政〈教科書：第 13 章〉
第 4 回	Ⅳ．経費論	５．費用便益分析〈教科書：第 14 章〉
第 5 回	Ⅴ．租税論 (総論)〈教科書：第 15 章〉	１．租税の意義と機能 ２．租税負担の根拠と負担配分の公平
第 6 回	Ⅴ．租税論 (総論)	３．租税体系と租税原則〈教科書：第 15 章〉
第 7 回	Ⅴ．租税論 (総論)〈教科書：第 15 章〉	４．最適課税論 ５．租税の転嫁と帰着
第 8 回	Ⅴ．租税論 (総論)	６．租税体系の変遷と国際比較〈教科書：第 15〜19 章〉
第 9 回	Ⅵ．租税論 (各論)	１．所得課税の理論と実際)〈教科書：第 16〜17 章〉 ２．消費課税の理論と実際)〈教科書：第 18 章〉
第 10 回	Ⅵ．租税論 (各論)	３．資産課税の理論と実際〈教科書：第 16 章〉
第 11 回	Ⅶ．公債論〈教科書：第 20〜21 章〉	１．公債の意義と種類 ２．公債原則論と公債負担論
第 12 回	Ⅶ．公債論	３．日本の公債問題〈教科書：第 22 章〉
第 13 回	Ⅷ．財政政策論〈教科書：第 23〜24 章〉	１．ケインズ経済学の基礎 ２．フィスカル・ポリシーとビルト・イン・スタビライザー
第 14 回	Ⅷ．財政政策論	３．ＩＳ－ＬＭ分析とポリシー・ミックス〈教科書：第 24 章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「準備学習にあたり２時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。あわせて、「財政学Ⅰ」で未消化の知識については、教科書を活用して、各自でその補修をしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に２時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、令和元年。

【参考書】
１．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
２．片桐正俊編『財政学 (第３版)』東洋経済新報社、平成 26 年。
３．参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
１．基本的に「財政学Ⅰ」と同じである。第１回講義の説明を必ず聞くこと。
２．目安として、冬の定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「財政学Ⅱ」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】
「地方財政論」(水・３限) を受講することを推奨したい。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

ECN100JC

財政学Ⅱ

関口　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「財政学Ⅱ」では、「財政学Ⅰ」を踏まえて財政学の理解をより深めるために、古くから財政学の首座を占めてきた租税、そして社会保障、教育、財政赤字等の今日的な財政問題、また財政政策について学ぶ。

【到達目標】
「財政学Ⅰ」と同様に、財政の理論と実際そして財政制度の基本的知識を習得し、財政制度および政策の経済的意義と問題点を受講者自身が考える手助けをすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．基本的には「財政学Ⅰ」と同じように、講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
2．事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅳ．経費論〈教科書：第 10〜11 章〉	1．経費の意義と経費膨張の法則 2．政府の範囲と国民経済計算・経費区分
第 2 回	Ⅳ．経費論	3．社会保障の財政問題〈教科書：第 12 章〉
第 3 回	Ⅳ．経費論	4．教育財政〈教科書：第 13 章〉
第 4 回	Ⅳ．経費論	5．費用便益分析〈教科書：第 14 章〉
第 5 回	Ⅴ．租税論 (総論)〈教科書：第 15 章〉	1．租税の意義と機能 2．租税負担の根拠と負担配分の公平
第 6 回	Ⅴ．租税論 (総論)	3．租税体系と租税原則〈教科書：第 15 章〉
第 7 回	Ⅴ．租税論 (総論)〈教科書：第 15 章〉	4．最適課税論 5．租税の転嫁と帰着
第 8 回	Ⅴ．租税論 (総論)	6．租税体系の変遷と国際比較〈教科書：第 15〜19 章〉
第 9 回	Ⅵ．租税論 (各論)	1．所得課税の理論と実際)〈教科書：第 16〜17 章〉 2．消費課税の理論と実際)〈教科書：第 18 章〉
第 10 回	Ⅵ．租税論 (各論)	3．資産課税の理論と実際〈教科書：第 16 章〉
第 11 回	Ⅶ．公債論〈教科書：第 20〜21 章〉	1．公債の意義と種類 2．公債原則論と公債負担論
第 12 回	Ⅶ．公債論	3．日本の公債問題〈教科書：第 22 章〉
第 13 回	Ⅷ．財政政策論〈教科書：第 23〜24 章〉	1．ケインズ経済学の基礎 2．フィスカル・ポリシーとビルト・イン・スタビライザー
第 14 回	Ⅷ．財政政策論	3．ＩＳ－ＬＭ分析とポリシー・ミックス〈教科書：第 24 章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「準備学習にあたり２時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。あわせて、「財政学Ⅰ」で未消化の知識については、教科書を活用して、各自でその補修をしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に２時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、令和元年。

【参考書】
1．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
2．片桐正俊編『財政学 (第３版)』東洋経済新報社、平成 26 年。
3．参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
1．基本的に「財政学Ⅰ」と同じである。第１回講義の説明を必ず聞くこと。
2．目安として、冬の定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「財政学Ⅱ」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】
「地方財政論」(水・３限) を受講することを推奨したい。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

SOC100JC

社会学

兼子　諭

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民社会の社会学／文化社会学の思考を学ぶことにより、現代社会を社会学的に理解し考察するとはどういうことかを学ぶ。

【到達目標】
市民社会の社会学・文化社会学の思考を学ぶことで、現代社会における市民の意見形成やその影響を社会学的に理解する方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
事前に指定テクストを予習する。また各講義で小題を提示する。小題についての回答は平常点として採点する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	市民社会とは何か	市民社会とはどのような社会領域なのかについて、その輪郭を学ぶ。
第 3 回	市民社会の社会学　(1) ハーバーマス	ハーバーマスの市民社会の社会学的思考法を検討する。
第 4 回	市民社会の社会学　(2) パーソンズ	パーソンズの市民社会の社会学的思考法を検討する。
第 5 回	社会学的文化理論　(1) ギアーツ	ギアーツの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 6 回	社会学的文化理論　(2) デュルケム	デュルケムの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 7 回	社会学的文化理論　(3) アレクサンダー	アレクサンダーの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 8 回	中間考察	中間考察を行う。
第 9 回	アレクサンダーの社会理論	アレクサンダーの社会理論の特性を概説する。
第 10 回	アレクサンダーの市民圏論　(1) 理論的概要	アレクサンダーの市民社会論である「市民圏」論の理論的性格を検討する。
第 11 回	アレクサンダーの市民圏論　(2) 公民権運動	市民圏論の立場から示されるアレクサンダーの公民権論を検討する。
第 12 回	東アジアの市民運動論	市民圏論の立場から示される東アジアの市民運動論を検討する。
第 13 回	最終考察と期末試験の概要	最終考察を行う。また期末試験の概要も説明する。
第 14 回	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキストと事前に配布される講義資料を熟読して理解を深めつつ疑問点を確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
兼子諭『市民社会の文化社会学』晃洋書房。

【参考書】
講義内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末レポート (60%)、の 2 点から評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義の内容や状況について、毎年適切な意見を聴取している。それらを元に、講師側で修正できる部分は適時修正していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定なし。

【その他の重要事項】
特に指定なし。

【Outline and objectives】
In this lecture, through learning of sociology / cultural sociology of civil society, we would like to think about what they mean to sociological grasp the contemporary society.

SOC100JB

社会学

兼子　諭

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民社会の社会学／文化社会学の思考を学ぶことにより、現代社会を社会学的に理解し考察するとはどういうことかを学ぶ。

【到達目標】
市民社会の社会学・文化社会学の思考を学ぶことで、現代社会における市民の意見形成やその影響を社会学的に理解する方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
事前に指定テクストを予習する。また各講義で小題を提示する。小題についての回答は平常点として採点する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	市民社会とは何か	市民社会とはどのような社会領域なのかについて、その輪郭を学ぶ。
第 3 回	市民社会の社会学　(1) ハーバーマス	ハーバーマスの市民社会の社会学的思考法を検討する。
第 4 回	市民社会の社会学　(2) パーソンズ	パーソンズの市民社会の社会学的思考法を検討する。
第 5 回	社会学的文化理論　(1) ギアーツ	ギアーツの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 6 回	社会学的文化理論　(2) デュルケム	デュルケムの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 7 回	社会学的文化理論　(3) アレクサンダー	アレクサンダーの社会学的文化理論の思考法を学ぶ。
第 8 回	中間考察	中間考察を行う。
第 9 回	アレクサンダーの社会理論	アレクサンダーの社会理論の特性を概説する。
第 10 回	アレクサンダーの市民圏論　(1) 理論的概要	アレクサンダーの市民社会論である「市民圏」論の理論的性格を検討する。
第 11 回	アレクサンダーの市民圏論　(2) 公民権運動	市民圏論の立場から示されるアレクサンダーの公民権論を検討する。
第 12 回	東アジアの市民運動論	市民圏論の立場から示される東アジアの市民運動論を検討する。
第 13 回	最終考察と期末試験の概要	最終考察を行う。また期末試験の概要も説明する。
第 14 回	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキストと事前に配布される講義資料を熟読して理解を深めつつ疑問点を確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
兼子諭『市民社会の文化社会学』晃洋書房。

【参考書】
講義内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末レポート (60%)、の 2 点から評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義の内容や状況について、毎年適切な意見を聴取している。それらを元に、講師側で修正できる部分は適時修正していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定なし。

【その他の重要事項】
特に指定なし。

【Outline and objectives】
In this lecture, through learning of sociology / cultural sociology of civil society, we would like to think about what they mean to sociological grasp the contemporary society.

SOC100JC

社会学理論

穐山　新

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学理論 B Ⅰに引き続き「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。

【到達目標】
国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが，どのような関係にあるのかについて，社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B Ⅰでの講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）：ナショナリズムの発生	近代主義と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）：国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）：ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義：国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割ついて
6	国家と民主主義（1）：アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール，イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
7	国家と民主主義（2）：民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
8	国家の社会福祉（1）：福祉国家の発生	福祉国家の発生について
9	国家と社会福祉（2）：福祉国家の「危機」	現代福祉国家の「危機」について
10	国家と社会福祉（3）福祉国家の多様性	エスピン- アンデルセンの比較福祉国家論について
11	国家のグローバル化：世界社会と国家	新制度主義について
12	国家の「崩壊」：アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化：「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在：国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から，授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】
前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B Ⅰを受講することを強く推奨する。社会学理論 B Ⅱは B Ⅰの内容を前提にして進められる。

【Outline and objectives】
In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC100JB

社会学理論

稲山　新

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学理論 B Ⅰに引き続き「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。

【到達目標】
国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが，どのような関係にあるのかについて，社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B Ⅰでの講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）：ナショナリズムの発生	近代主義と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）：国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）：ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義：国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割ついて
6	国家と民主主義（1）：アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール，イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
7	国家と民主主義（2）：民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
8	国家の社会福祉（1）：福祉国家の発生	福祉国家の発生について
9	国家と社会福祉（2）：福祉国家の「危機」	現代福祉国家の「危機」について
10	国家と社会福祉（3）福祉国家の多様性	エスピン- アンデルセンの比較福祉国家論について
11	国家のグローバル化：世界社会と国家	新制度主義について
12	国家の「崩壊」：アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化：「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在：国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から，授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】
前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B Ⅰを受講することを強く推奨する。社会学理論 B Ⅱは B Ⅰの内容を前提にして進められる。

【Outline and objectives】
In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC100JC

社会システム論

穐山　新

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。マックス・ウェーバー以来、社会学が「国家」をどう論じてきたのかを、様々な論者の所説を紹介しながら解説していく。

【到達目標】
国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが，どのような関係にあるのかについて，社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か：その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）：正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というウェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）：国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）：国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）：ウェーバーの官僚制論	ウェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）：官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）：国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）：間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）：「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）：官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）：国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）：社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャー的権力について
14	国家と情報管理：国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から，授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline and objectives】
In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC100JB

社会システム論

穐山　新

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。マックス・ウェーバー以来、社会学が「国家」をどう論じてきたのかを、様々な論者の所説を紹介しながら解説していく。

【到達目標】
国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが，どのような関係にあるのかについて，社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か：その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）：正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というウェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）：国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）：国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）：ウェーバーの官僚制論	ウェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）：官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）：国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）：間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）：「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）：官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）：国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）：社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャー的権力について
14	国家と情報管理：国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から，授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline and objectives】
In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC100JC

職業社会論

依田　素味

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】
①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインの場合、設定されている時間にリアルタイム、zoom で双方向授業を実施します。前もって、レジュメを Web 上の授業支援システムにアップしますので、授業前に予習しておいてください。最終授業で，確認試験と解説だけでなく、小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI の普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
11	個人のキャリアデザイン	個人のキャリアを形成するとは
12	教育訓練	職業人生を磨くプロセス
13	職業社会の今日的課題	「働き方改革」と今後の課題
14	試験・まとめと解説	オンラインによる確認テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
① web 上で期末確認テスト 40% (最終的な全体理解の確認)
②中間レポート　30% (課題に関する理解度の確認)
③授業内レポート 3 回 30% (積極的な授業参加の状況評価)

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでも、学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】
① 1 年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

【Outline and objectives】
We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.
As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

SOC100JB

職業社会論

依田　素味

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】
①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインの場合、設定されている時間にリアルタイム、zoom で双方向授業を実施します。前もって、レジュメを Web 上の授業支援システムにアップしますので、授業前に予習しておいてください。最終授業で，確認試験と解説だけでなく、小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI の普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
11	個人のキャリアデザイン	個人のキャリアを形成するとは
12	教育訓練	職業人生を磨くプロセス
13	職業社会の今日的課題	「働き方改革」と今後の課題
14	試験・まとめと解説	オンラインによる確認テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
① web 上で期末確認テスト 40% (最終的な全体理解の確認)
②中間レポート　30% (課題に関する理解度の確認)
③授業内レポート 3 回 30% (積極的な授業参加の状況評価)

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでも、学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】
① 1 年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

【Outline and objectives】
We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.
As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

POL100JC

政治学

岡﨑　加奈子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では、どのような政治的な問題が存在しているのか。私たちは、どのような課題に対峙し、解決する必要があるのか。
本講義では、政治の基礎的な概念や制度、歴史について幅広い知識を取得するとともに、現代における政治的な課題について思考する力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義では、以下の点を到達目標とします。
学生が政治をめぐる概念や制度、歴史について基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について、自ら学び思考する力を身につけること。
授業を通じて得た理解や自らの考えについて、論理的に表現すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、政治的な課題を理解するため、概念、制度、歴史について広く講義をおこなう。私たちが日々生活する「現代」における政治について、時事的な事象と関連付けながら考えていく。
本講義では、基本的には講義形式で行われる。変更がある場合はその都度告知する。この授業では、振り返りとして、意見や感想、質問を学生は提出し、次の授業ではその共有や質問にたいする解説をおこなう。講義全体としては、小テストやレポート課題を複数回実施し、講評・解説をおこなうことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体のテーマと目標
第 2 回	現代社会と政策	現代社会とは何か 政策とは何か
第 3 回	権力	権力・政治体制
第 4 回	近代議会の成立	近代議会政治の形成と発展
第 5 回	国会審議	国会の役割と制度
第 6 回	立法過程	法案の成立過程
第 7 回	内閣と官僚制	内閣と官僚制
第 8 回	政党・政党制	政党の役割と政党制
第 9 回	選挙	選挙制度と投票行動
第 10 回	マスメディア	メディアと世論
第 11 回	自治体	地方分権改革と自治体の課題
第 12 回	市民の政治参加	市民の政治意識と政治参加
第 13 回	現代の政治課題	現代社会にみる政治課題
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとにレジメおよびノートにもとづき復習をおこなってください（2時間）。
また予習として、日ごろから政治的な事象に関心を持ち、新聞等をよく読むほか、講義の中で提示する参考文献や関連資料を積極的に読み進めてください（2時間）。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
授業内で、適宜参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点により評価する。平常点の内容は、毎回の授業に対する取り組みのほか、レポートや小テストなどの提出物にたいする評価が含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
そのときどきに起きる実際の社会のうごきや政治的な動向と学問的な知識の架橋となるような講義としていく。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science.
This course deals with the modern politics in Japan.

POL100JB

政治学

岡﨑　加奈子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では、どのような政治的な問題が存在しているのか。私たちは、どのような課題に対峙し、解決する必要があるのか。
本講義では、政治の基礎的な概念や制度、歴史について幅広い知識を取得するとともに、現代における政治的な課題について思考する力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義では、以下の点を到達目標とします。
学生が政治をめぐる概念や制度、歴史について基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について、自ら学び思考する力を身につけること。
授業を通じて得た理解や自らの考えについて、論理的に表現すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、政治的な課題を理解するため、概念、制度、歴史について広く講義をおこなう。私たちが日々生活する「現代」における政治について、時事的な事象と関連付けながら考えていく。
本講義では、基本的には講義形式で行われる。変更がある場合はその都度告知する。この授業では、振り返りとして、意見や感想、質問を学生は提出し、次の授業ではその共有や質問にたいする解説をおこなう。講義全体としては、小テストやレポート課題を複数回実施し、講評・解説をおこなうことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体のテーマと目標
第 2 回	現代社会と政策	現代社会とは何か 政策とは何か
第 3 回	権力	権力・政治体制
第 4 回	近代議会の成立	近代議会政治の形成と発展
第 5 回	国会審議	国会の役割と制度
第 6 回	立法過程	法案の成立過程
第 7 回	内閣と官僚制	内閣と官僚制
第 8 回	政党・政党制	政党の役割と政党制
第 9 回	選挙	選挙制度と投票行動
第 10 回	マスメディア	メディアと世論
第 11 回	自治体	地方分権改革と自治体の課題
第 12 回	市民の政治参加	市民の政治意識と政治参加
第 13 回	現代の政治課題	現代社会にみる政治課題
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとにレジメおよびノートにもとづき復習をおこなってください（2時間）。
また予習として、日ごろから政治的な事象に関心を持ち、新聞等をよく読むほか、講義の中で提示する参考文献や関連資料を積極的に読み進めてください（2時間）。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
授業内で、適宜参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点により評価する。平常点の内容は、毎回の授業に対する取り組みのほか、レポートや小テストなどの提出物にたいする評価が含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
そのときどきに起きる実際の社会のうごきや政治的な動向と学問的な知識の架橋となるような講義としていく。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science.
This course deals with the modern politics in Japan.

LAW100JC

日本国憲法

清水　弥生

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】
①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、Ｍ４ａとｍｐ３の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第 2 回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第 3 回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第 5 回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリーン事件）
第 6 回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第 7 回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第 8 回	日本国憲法と平等	（夫婦別姓事件）（生後認知子国籍法事件）
第 9 回	13 条と新しい人権	13 条と幸福追求権
第 10 回	13 条と新しい人権	13 条と人格権
第 11 回	表現の自由	今日的意義。事前抑制と検閲の禁止。
第 12 回	表現の自由	名誉棄損、プライバシー侵害。（「宴のあと」事件）
第 13 回	平和主義	９条の歴史的背景と意味。平和主義と国際協調主義。
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習２時間。
＜復習＞小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習２時間

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
学びの助けとして、芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生方の「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】
①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計１０回以上を予定しています。２０％
②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計３回。５０％
③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは計２回以上を予定しています。３０％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすい言葉を用い、ゆっくり話すように心がけます。

【その他の重要事項】
①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しがたい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
① You learn　comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution.You learn　how the Japanese Constitution controls the state.　② From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy,you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics.And you learn how it affected the Supreme Court precedent

LAW100JB

日本国憲法

清水　弥生

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】
①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、Ｍ４ａとｍｐ３の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第 2 回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第 3 回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第 5 回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリーン事件）
第 6 回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第 7 回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第 8 回	日本国憲法と平等	（夫婦別姓事件）（生後認知子国籍法事件）
第 9 回	13 条と新しい人権	13 条と幸福追求権
第 10 回	13 条と新しい人権	13 条と人格権
第 11 回	表現の自由	今日的意義。事前抑制と検閲の禁止。
第 12 回	表現の自由	名誉棄損、プライバシー侵害。（「宴のあと」事件）
第 13 回	平和主義	９条の歴史的背景と意味。平和主義と国際協調主義。
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習２時間。
＜復習＞小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習２時間

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
学びの助けとして、芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生方の「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】
①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計１０回以上を予定しています。２０％
②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計３回。５０％
③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは計２回以上を予定しています。３０％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすい言葉を用い、ゆっくり話すように心がけます。

【その他の重要事項】
①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しがたい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
① You learn　comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution.You learn　how the Japanese Constitution controls the state.　② From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy,you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics.And you learn how it affected the Supreme Court precedent

LAW100JC

法学

清水　弥生

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】
①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任について法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、Ｍ４ ａとｍｐ３の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第 2 回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第 3 回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第 4 回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第 5 回	民法の役割と３原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第 6 回	民法の 3 原則の例外①	PL 法、時効
第 7 回	民法の 3 原則の例外②	制限行為能力者
第 8 回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第 9 回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第 10 回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第 11 回	労働法②	労働契約の成立まで
第 12 回	労働法③	労働時間
第 13 回	労働法④	賃金、休憩、休日
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習２時間。
＜復習＞小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習２時間

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
末川博、伊藤正巳、碧海純一先生等、どなたのでもよいので、「法学」の入門書を薦めます。

【成績評価の方法と基準】
①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計１０回以上を予定しています。２０％
②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計３回。５０％
③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは計２回以上予定しています。３０％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるようにこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
受信環境

【その他の重要事項】
①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しがたい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
① You learn the basic knoowledge of criminal law,civil law,labour law,of basic law which should have knowledge as citizen. ② You learn the mechanism of practical application of criminal law,civil law, labor law.

LAW100JB

法学

清水　弥生

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】
①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任について法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、Ｍ４ a とｍｐ３の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第 2 回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第 3 回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第 4 回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第 5 回	民法の役割と３原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第 6 回	民法の 3 原則の例外①	PL 法、時効
第 7 回	民法の 3 原則の例外②	制限行為能力者
第 8 回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第 9 回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第 10 回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第 11 回	労働法②	労働契約の成立まで
第 12 回	労働法③	労働時間
第 13 回	労働法④	賃金、休憩、休日
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習２時間。
＜復習＞小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習２時間

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
末川博、伊藤正巳、碧海純一先生等、どなたのでもよいので、「法学」の入門書を薦めます。

【成績評価の方法と基準】
①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計１０回以上を予定しています。２０％
②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計３回。５０％
③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは計２回以上予定しています。３０％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるようにこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
受信環境

【その他の重要事項】
①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しがたい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
① You learn the basic knoowledge of criminal law,civil law,labour law,of basic law which should have knowledge as citizen. ② You learn the mechanism of practical application of criminal law,civil law, labor law.

LAW100JB

民法Ⅰ

松田　佳久

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する

【到達目標】
１．民法の全体的なイメージを把握できる（レベルＣ）
２．民法の基本的な制度を理解できる（レベルＢ）
３．社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルＡ）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンドでの受講となります。
学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をＵＰしておきますので、教材を印刷し、ビデオを視聴してください。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメルアド： yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。
民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立１	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立２	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立３	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立４	代理
6	売買契約の有効な成立５	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務１	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務２	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務３	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務４	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務５	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務６	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転１	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転２	動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○テキストに事前に目を通してから授業を視聴すること
○視聴後に各自で内容を復習すること
○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみること。
○本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】
１．潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第８版、2018 年）
２．窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第８版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。
定期試験結果が 100 %。
民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には１４回の講義ビデオをきちんと視聴することが必要です。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメルアド　yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの「教材」に講義ビデオ、参考図、判例等をＵＰしますので、参考図等を印刷でき、ビデオを視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】
○秋学期の「民法（財産法)」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。
○授業視聴には小六法を必ず準備すること。
○民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】
常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】
Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law.

LAW100JC

民法Ⅰ

松田　佳久

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する

【到達目標】
1．民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2．民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3．社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンドでの受講となります。
学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をＵＰしておきますので、教材を印刷し、ビデオを視聴してください。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメルアド： yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。
民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立１	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立２	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立３	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立４	代理
6	売買契約の有効な成立５	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務１	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務２	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務３	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務４	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務５	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務６	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転１	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転２	動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○テキストに事前に目を通してから授業を視聴すること
○視聴後に各自で内容を復習すること
○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみること。
○本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】
1．潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第８版、2018 年）
2．窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第８版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。
定期試験結果が 100 %。
民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には１４回の講義ビデオをきちんと視聴することが必要です。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメルアド　yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの「教材」に講義ビデオ、参考図、判例等をＵＰしますので、参考図等を印刷でき、ビデオを視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】
○秋学期の「民法（財産法)」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。
○授業視聴には小六法を必ず準備すること。
○民法は昨年（2020 年）４月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っていてもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】
常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】
Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law.

LAW100JC

民法Ⅱ

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、民法の家族に関する法制度を学びます。

【到達目標】
法的な視点から家族間の紛争を分析・検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
家族を取り巻く社会状況や価値観には、近時、著しい変化がみられます。特に親族法の領域では、夫婦の別姓などの自由と平等をめぐる問題や、子の監護に関する紛争解決の基準やその手続など子の利益に関する問題が検討課題として山積しています。授業ではこれらの問題にも触れたいと考えています。授業は、講義形式によって行います。なお、授業計画は、授業の進行状況に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、家族法の概要、婚約	家族法を概観した後、婚約について学びます。
2	婚姻の成立	婚姻意思、婚姻の障害事由について学びます。
3	婚姻の効果	婚姻により夫婦間にどのような法律効果が生じるかを学びます。
4	婚姻の解消①（離婚の成立）	離婚制度の概要を解説し、有責配偶者からの離婚請求の問題を取り上げます。
5	婚姻の解消②（離婚の効果）	離婚の際の財産分与、子の監護、養育費の問題について学びます。
6	婚姻外の男女関係の法的保護	内縁、事実婚をめぐる問題について学びます。
7	親子関係の発生①（実親子関係）	嫡出親子関係、非嫡出親子関係について学びます。
8	親子関係の発生②（養親子関係）	普通養子縁組と特別養子縁組について学びます。
9	親子関係の効力（親権）、扶養	親権の内容とその制限、扶養の意義について学びます。
10	相続法の概要	相続法の基本構造、相続の根拠、相続の承認と放棄について学びます。
11	遺言と遺留分	遺言の方式と効力、遺留分減殺請求権について学びます。
12	法定相続①（相続人）	相続人の範囲と順位、相続欠格と相続人廃除について学びます。
13	法定相続②（相続分、相続財産、遺産分割）	相続分、特別受益、寄与分、遺産分割について学びます。
14	学期末試験・まとめと解説	授業内試験を実施します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマを確認し、テキストおよびレジュメにあらかじめ目を通してから授業に出席してください。授業後は、内容を振り返り、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松川正毅著『民法　親族・相続（第 6 版）』（有斐閣、2019 年）

【参考書】
本山敦『家族法の歩き方（第 2 版）』（日本評論社、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
(1) 小テスト（20 %）：2回実施します（第 6 回、第 12 回の授業時に実施予定）。夫婦、親子、相続について基本的な知識を修得しているかをテストします。
(2) 定期試験（70 %）：判例に基づいた設例を出題し、①設問の法的問題点を把握しているか、②論点についての学説や判例の考え方を理解し、それらを解説しながら、きちんと論理づけしているか、③解答全体が、論旨が明確になるように構成されているか、以上の観点から総合的に評価を行います。
(3) 平常点（10 %）：授業への参加度（質問や意見など）を加味します。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な内容をわかりやすく解説するように努めます。

【その他の重要事項】
春学期に「民法（入門）」を履修していることが必要です。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn the legal system related to the family of the Civil Code.

LAW100JB

民法Ⅱ

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、民法の家族に関する法制度を学びます。

【到達目標】
法的な視点から家族間の紛争を分析・検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
家族を取り巻く社会状況や価値観には、近時、著しい変化がみられます。特に親族法の領域では、夫婦の別姓などの自由と平等をめぐる問題や、子の監護に関する紛争解決の基準やその手続など子の利益に関する問題が検討課題として山積しています。授業ではこれらの問題にも触れたいと考えています。授業は、講義形式によって行います。なお、授業計画は、授業の進行状況に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、家族法の概要、婚約	家族法を概観した後、婚約について学びます。
2	婚姻の成立	婚姻意思、婚姻の障害事由について学びます。
3	婚姻の効果	婚姻により夫婦間にどのような法律効果が生じるかを学びます。
4	婚姻の解消①（離婚の成立）	離婚制度の概要を解説し、有責配偶者からの離婚請求の問題を取り上げます。
5	婚姻の解消②（離婚の効果）	離婚の際の財産分与、子の監護、養育費の問題について学びます。
6	婚姻外の男女関係の法的保護	内縁、事実婚をめぐる問題について学びます。
7	親子関係の発生①（実親子関係）	嫡出親子関係、非嫡出親子関係について学びます。
8	親子関係の発生②（養親子関係）	普通養子縁組と特別養子縁組について学びます。
9	親子関係の効力（親権）、扶養	親権の内容とその制限、扶養の意義について学びます。
10	相続法の概要	相続法の基本構造、相続の根拠、相続の承認と放棄について学びます。
11	遺言と遺留分	遺言の方式と効力、遺留分減殺請求権について学びます。
12	法定相続①（相続人）	相続人の範囲と順位、相続欠格と相続人廃除について学びます。
13	法定相続②（相続分、相続財産、遺産分割）	相続分、特別受益、寄与分、遺産分割について学びます。
14	学期末試験・まとめと解説	授業内試験を実施します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマを確認し、テキストおよびレジュメにあらかじめ目を通してから授業に出席してください。授業後は、内容を振り返り、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松川正毅著『民法　親族・相続（第 6 版）』（有斐閣、2019 年）

【参考書】
本山敦『家族法の歩き方（第 2 版）』（日本評論社、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
(1) 小テスト（20 %）：2回実施します（第 6 回、第 12 回の授業時に実施予定）。夫婦、親子、相続について基本的な知識を修得しているかをテストします。
(2) 定期試験（70 %）：判例に基づいた設例を出題し、①設問の法的問題点を把握しているか、②論点についての学説や判例の考え方を理解し、それらを解説しながら、きちんと論理づけしているか、③解答全体が、論旨が明確になるように構成されているか、以上の観点から総合的に評価を行います。
(3) 平常点（10 %）：授業への参加度（質問や意見など）を加味します。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な内容をわかりやすく解説するように努めます。

【その他の重要事項】
春学期に「民法（入門）」を履修していることが必要です。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn the legal system related to the family of the Civil Code.

SOC100JB

社会学特講

左古　輝人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】
社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。
　授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。
　不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要が生じた場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第 2 回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第 3 回	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第 4 回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第 5 回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第 6 回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 7 回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
第 8 回	消費化社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第 9 回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
第 10 回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 11 回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第 12 回	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第 13 回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第 14 回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
左古輝人『畏怖する近代』法大出版２００６年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書１９９２年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書１９９８年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房２０１１年。

【参考書】
適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太 (youtube)」「信州読書会 (youtube) を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、平常点３０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設定していない。面談したい場合は必ず事前に電子メールで問い合わせること。

【Outline and objectives】
The students learn the basic structure of modern society and its history.

SOC100JC

社会学特講

左古　輝人

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】
社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。
　授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。
　不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要が生じた場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第 2 回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第 3 回	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第 4 回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第 5 回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第 6 回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 7 回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
第 8 回	消費化社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第 9 回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
第 10 回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第 11 回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第 12 回	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第 13 回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第 14 回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
左古輝人『畏怖する近代』法大出版２００６年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書１９９２年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書１９９８年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房２０１１年。

【参考書】
適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太 (youtube)」「信州読書会 (youtube) を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、平常点３０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設定していない。面談したい場合は必ず事前に電子メールで問い合わせること。

【Outline and objectives】
The students learn the basic structure of modern society and its history.

SOC100JC

社会思想史

楠　秀樹

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ナチズムの基礎にあるレイシズムと優生思想の社会思想史を講義する。人間を生物学や医学の見地から異なった存在として位置づけ、優劣や序列をつけ、区別し、分離し、排除し、殺戮する論理を、歴史的に考察し、現代日本と比較する。

【到達目標】
・優生思想の歴史を知ることで、「内なる優生思想」に気づく。
・「社会」についての多様な視点、それぞれのモデルの強みと弱み、自分の社会観に気づく。
・安楽死、動物保護自然保護、出生前診断など、死のケアにまつわる社会思想史的背景理解ができる。
・統計資料や新聞報道等の素材から、自分で問題点を抽出し、議論を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、毎回のリアクションペーパーから、その都度授業のふりかえりを行う。オンラインでの開講となる。具体的なオンライン授業の方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション―授業の概要・目的・意義の共有	講義内容全体を予告するが、学生にいくらか問いかけ、講義内容を調整するヒントを得られるようにしたい。
第 2 回	社会を考える―オーギュスト・コントの全体	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人コントの思想を紹介する。
第 3 回	社会進化を考える―ハーバート・スペンサーの個人	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人スペンサーの思想を紹介する。
第 4 回	コントとスペンサー	コントとスペンサーの考え方から自らの考える「社会」とその「進化」についてまとめてみる。
第 5 回	優生思想の出現	社会の「進化」ということから、ダーウィン、ラマルクなどの進化論の社会に対する影響を考え、その思想がアメリカにおいて優生思想の実験につながっていくことを確認する。
第 6 回	刑罰国家―社会保障か刑務所か	優れた人間を生み出し、劣った人間を排除する優生思想は、人間の優劣を決定する政策につながる。その際、「劣」とされたものは救済の対象となるのか、排除隔離の対象となるのか。「刑罰国家」をキーワードとして確認する。
第 7 回	ナチスドイツの出現 ・ナチスドイツ出現の歴史の共有 ・ナチスドイツの優生思想を確認する。	アメリカで実践された優生学はドイツに渡った。ナチスドイツのアメリカ優生思想との連続性と非連続性を確認する。
第 8 回	ナチスドイツの優生思想―ナチスドイツの優生政策の非人道性が極まった障害者虐殺	優生政策は生殖力の剥奪である「断種」であった。しかしナチスドイツではとうとう生命の剥奪が「安楽死」と称して行われるようになった。このことを考える。
第 9 回	T4 作戦と動物権利―動物と人間の価値の組み換え	動物権利と動物福祉という概念がある。現代社会においては動物と人間の共生、自然との共生が問われているが、ナチスの優生政策は、進化論、遺伝などの生物学の思想を疑似科学的に取り入れ、生命の価値の序列を組み換えた。これについて考える。
第 10 回	T4 作戦と安楽死―安楽死、尊厳死、自殺幇助	ナチスが「安楽死」といった内実を、現代社会に問われる「死のケア」「安楽死」「尊厳死」「自殺幇助」と照らし合わせて考える。
第 11 回	北欧の福祉と優生思想	社会福祉先進国である北欧の優生政策もナチスドイツの優生思想の源流であったことを確認する。その他ナチスドイツの社会保障政策が「誰かを犠牲にして誰かを幸福にする」という発想であったことを確認する。
第 12 回	日本の優生思想と政策	ナチスドイツと日本の優生思想・政策に連続性があるのか?日本の優生思想を考える上で、「家」家族の位置づけが重要となる。このことを考える。
第 13 回	出生前診断 ・出生前診断の現状 ・バイオ科学と生殖技術のもたらす未来 ・相模原事件	ナチスドイツと現代日本の連続性を、生殖において日常生じていることと同時に、特異な事件からも考える。
第 14 回	全体を振り返る ・個人の意見の確認 ・意見の交換	いままでの講義に対する学生の結論を確認し、意見交換する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、教員がその都度指示する参考図書や新聞、統計資料に目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
楠秀樹・春日清隆・牧野修也『社会のセキュリティを生きる―「安全」「安心」と「幸福」との関係』

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
抽象度の高いテーマを、できるだけ理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
This course deals with the history of social thought about racism and eugenics as the basic principles of Nazism. It compares Nazism and Japanese contemporary situation. It also enhances the development of students' skill in making self-regulated learning.

SOC100JB

社会思想史

楠　秀樹

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ナチズムの基礎にあるレイシズムと優生思想の社会思想史を講義する。人間を生物学や医学の見地から異なった存在として位置づけ、優劣や序列をつけ、区別し、分離し、排除し、殺戮する論理を、歴史的に考察し、現代日本と比較する。

【到達目標】
・優生思想の歴史を知ることで、「内なる優生思想」に気づく。
・「社会」についての多様な視点、それぞれのモデルの強みと弱み、自分の社会観に気づく。
・安楽死、動物保護自然保護、出生前診断など、死のケアにまつわる社会思想史的背景理解ができる。
・統計資料や新聞報道等の素材から、自分で問題点を抽出し、議論を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、毎回のリアクションペーパーから、その都度授業のふりかえりを行う。オンラインでの開講となる。具体的なオンライン授業の方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション―授業の概要・目的・意義の共有	講義内容全体を予告するが、学生にいくらか問いかけ、講義内容を調整するヒントを得られるようにしたい。
第 2 回	社会を考える―オーギュスト・コントの全体	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人コントの思想を紹介する。
第 3 回	社会進化を考える―ハーバート・スペンサーの個人	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人スペンサーの思想を紹介する。
第 4 回	コントとスペンサー	コントとスペンサーの考え方から自らの考える「社会」とその「進化」についてまとめてみる。
第 5 回	優生思想の出現	社会の「進化」ということから、ダーウィン、ラマルクなどの進化論の社会に対する影響を考え、その思想がアメリカにおいて優生思想の実験につながっていくことを確認する。
第 6 回	刑罰国家―社会保障か刑務所か	優れた人間を生み出し、劣った人間を排除する優生思想は、人間の優劣を決定する政策につながる。その際、「劣」とされたものは救済の対象となるのか、排除隔離の対象となるのか。「刑罰国家」をキーワードとして確認する。
第 7 回	ナチスドイツの出現 ・ナチスドイツ出現の歴史の共有 ・ナチスドイツの優生思想を確認する。	アメリカで実践された優生学はドイツに渡った。ナチスドイツのアメリカ優生思想との連続性と非連続性を確認する。
第 8 回	ナチスドイツの優生思想―ナチスドイツの優生政策の非人道性が極まった障害者虐殺	優生政策は生殖力の剥奪である「断種」であった。しかしナチスドイツではとうとう生命の剥奪が「安楽死」と称して行われるようになった。このことを考える。
第 9 回	T4 作戦と動物権利―動物と人間の価値の組み換え	動物権利と動物福祉という概念がある。現代社会においては動物と人間の共生、自然との共生が問われているが、ナチスの優生政策は、進化論、遺伝などの生物学の思想を疑似科学的に取り入れ、生命の価値の序列を組み換えた。これについて考える。
第 10 回	T4 作戦と安楽死―安楽死、尊厳死、自殺幇助	ナチスが「安楽死」といった内実を、現代社会に問われる「死のケア」「安楽死」「尊厳死」「自殺幇助」と照らし合わせて考える。
第 11 回	北欧の福祉と優生思想	社会福祉先進国である北欧の優生政策もナチスドイツの優生思想の源流であったことを確認する。その他ナチスドイツの社会保障政策が「誰かを犠牲にして誰かを幸福にする」という発想であったことを確認する。
第 12 回	日本の優生思想と政策	ナチスドイツと日本の優生思想・政策に連続性があるのか?日本の優生思想を考える上で、「家」家族の位置づけが重要となる。このことを考える。
第 13 回	出生前診断 ・出生前診断の現状 ・バイオ科学と生殖技術のもたらす未来 ・相模原事件	ナチスドイツと現代日本の連続性を、生殖において日常生じていることと同時に、特異な事件からも考える。
第 14 回	全体を振り返る ・個人の意見の確認 ・意見の交換	いままでの講義に対する学生の結論を確認し、意見交換する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、教員がその都度指示する参考図書や新聞、統計資料に目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
楠秀樹・春日清隆・牧野修也『社会のセキュリティを生きる―「安全」「安心」と「幸福」との関係』

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
抽象度の高いテーマを、できるだけ理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
This course deals with the history of social thought about racism and eugenics as the basic principles of Nazism. It compares Nazism and Japanese contemporary situation. It also enhances the development of students' skill in making self-regulated learning.

MAN100JC

企業と労働

澤木　朋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業で「働く」ということはどのようなことであるのか、個人レベル、組織レベル、社会レベルの３つのレベルで検討を行います。
私たちは企業で「働く」ことを通じて、もちろん賃金を得ますが、「働く」ということは、それに留まりません。「働く」という現場は、生計費を得る場のみならず、能力を形成・発揮する場であり、仕事を通じて社会貢献をする場でもあります。さらに社会全体で見れば、労働力を確保するだけでなく、個人レベル、あるいは世代間レベルで労働力を再生産する必要があり、労働力が枯渇しないように労働力を保護し、陶冶することも求められます。
「働く」ということは、今日の企業において、あるいは社会全体において、どのような意味があるのか、社会政策、労働経済学、経営学などを交え、できるだけ多面的に、学際的に講義を行います。

【到達目標】
① 企業とは社会的に如何なる存在であるのか、そこで働くということはどのようなことであるのか、基礎的な理解力を身につける。
② 企業における人事労務管理は、どのような位置にあり、その機能は、どのようなものであるのか、将来、大学を卒業し、「働く」ことを念頭におきながら、自分なりの意見や考えを導き出す。
③ 社会全体で見たときに、「働く」ということはどのような意味があり、労働政策としてどのような対応が求められるのか、今日の現状を踏まえ、ありうべき対策について検討を加えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①本講義は、理論的な内容も取り上げるが、理論と現実の往復を重視する。
②時事問題を取り上げる他、視聴覚教材を用い、現実に生じている問題としての視点を大切にする。
③課題に対するフィードバックは特にしませんが、出席しているかどうか、成績評価の対象になります。質問等ある方はメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	・授業の概要、目的 ・評価方法 ・講義の進め方 ・本講義の対象領域
第二回	働く動機①	・人間モデル
第三回	働く動機②	・モチベーション論
第四回	企業の人的資源管理①	・雇用管理
第五回	企業の人的資源管理②	・人材育成 ・人材評価
第六回	企業の人的資源管理③	・賃金制度
第七回	企業の人的資源管理④	・最低賃金 ・春闘
第八回	非正規労働者①	・パートタイム
第九回	非正規労働者②	・派遣労働者 ・請負労働者 ・偽装請負
第十回	雇用されていない労働者	・個人事業主 ・フリータンス
第十一回	ジェンダーとは	・性差とジェンダー
第十二回	女性の働き方	・配偶者控除 ・配偶者特別控除
第十三回	テレワークという働き方	・テレワークの現状
第十四回	外国人労働者	・外国人技能実習制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内で指示された論文・文献・資料等について必ず読んだ上で出席すること
・講義のテーマに関する文献、資料や事例などについて、主体的に学習すること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。毎回レジュメ、資料等を配布する。

【参考書】
講義の中で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回講義後の課題 10%
・期末試験： 90 %

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚教材についても、学生の理解を促進する上で効果的であり、講義のなかで、視聴覚教材を適宜、活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・受講生の人数、授業の進度によって、講義計画を若干、変更・調整することもあり得る。
・授業時間内に必ず講義を聴くこと

【Outline and objectives】
This Lecture is going to deal with many topics concerning "corporations and labor" such as wage systems, working hours, the labor market and so on. An example of the contents in this lecture is as follows.

Wage differentials in Japan have been argued in the context of the Japanese payment system, which is based on workers' attributes such as seniority, age, and capability rather than their jobs. They have been also discussed in light of the peculiarities of the Japanese appraisal system, such as the practice of not announcing appraisal results to workers and the lack of labor union regulations and the option for workers to voice their discontent with appraisal results. Previous studies have suggested two primary approaches to correcting these wage differentials. First, wage differentials should be corrected by strengthening regulations against the appraisal system. Second, they should be improved by changing the Japanese payment system to one based on jobs. By focusing on the latter, this lecture attempts to clarify wage differentials under a payment system based on "roles," which is regarded as a payment system closer to one based on jobs.

In summary, the results of this lecture show that switching to a payment system based on jobs cannot correct wage differentials instantly; however, other types of wage differentials can be possibly introduced by changing jobs, and request new regulations.

MAN100JB

企業と労働

澤木　朋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業で「働く」ということはどのようなことであるのか、個人レベル、組織レベル、社会レベルの３つのレベルで検討を行います。
私たちは企業で「働く」ことを通じて、もちろん賃金を得ますが、「働く」ということは、それに留まりません。「働く」という現場は、生計費を得る場のみならず、能力を形成・発揮する場であり、仕事を通じて社会貢献をする場でもあります。さらに社会全体で見れば、労働力を確保するだけでなく、個人レベル、あるいは世代間レベルで労働力を再生産する必要があり、労働力が枯渇しないように労働力を保護し、陶冶することも求められます。
「働く」ということは、今日の企業において、あるいは社会全体において、どのような意味があるのか、社会政策、労働経済学、経営学などを交え、できるだけ多面的に、学際的に講義を行います。

【到達目標】
① 企業とは社会的に如何なる存在であるのか、そこで働くということはどのようなことであるのか、基礎的な理解力を身につける。
② 企業における人事労務管理は、どのような位置にあり、その機能は、どのようなものであるのか、将来、大学を卒業し、「働く」ことを念頭におきながら、自分なりの意見や考えを導き出す。
③ 社会全体で見たときに、「働く」ということはどのような意味があり、労働政策としてどのような対応が求められるのか、今日の現状を踏まえ、ありうべき対策について検討を加えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①本講義は、理論的な内容も取り上げるが、理論と現実の往復を重視する。
②時事問題を取り上げる他、視聴覚教材を用い、現実に生じている問題としての視点を大切にする。
③課題に対するフィードバックは特にしませんが、出席しているかどうか、成績評価の対象になります。質問等ある方はメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	・授業の概要、目的 ・評価方法 ・講義の進め方 ・本講義の対象領域
第二回	働く動機①	・人間モデル
第三回	働く動機②	・モチベーション論
第四回	企業の人的資源管理①	・雇用管理
第五回	企業の人的資源管理②	・人材育成 ・人材評価
第六回	企業の人的資源管理③	・賃金制度
第七回	企業の人的資源管理④	・最低賃金 ・春闘
第八回	非正規労働者①	・パートタイム
第九回	非正規労働者②	・派遣労働者 ・請負労働者 ・偽装請負
第十回	雇用されていない労働者	・個人事業主 ・フリータンス
第十一回	ジェンダーとは	・性差とジェンダー
第十二回	女性の働き方	・配偶者控除 ・配偶者特別控除
第十三回	テレワークという働き方	・テレワークの現状
第十四回	外国人労働者	・外国人技能実習制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内で指示された論文・文献・資料等について必ず読んだ上で出席すること
・講義のテーマに関する文献、資料や事例などについて、主体的に学習すること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。毎回レジュメ、資料等を配布する。

【参考書】
講義の中で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回講義後の課題 10%
・期末試験： 90 %

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚教材についても、学生の理解を促進する上で効果的であり、講義のなかで、視聴覚教材を適宜、活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・受講生の人数、授業の進度によって、講義計画を若干、変更・調整することもあり得る。
・授業時間内に必ず講義を聴くこと

【Outline and objectives】
This Lecture is going to deal with many topics concerning "corporations and labor" such as wage systems, working hours, the labor market and so on. An example of the contents in this lecture is as follows.

Wage differentials in Japan have been argued in the context of the Japanese payment system, which is based on workers' attributes such as seniority, age, and capability rather than their jobs. They have been also discussed in light of the peculiarities of the Japanese appraisal system, such as the practice of not announcing appraisal results to workers and the lack of labor union regulations and the option for workers to voice their discontent with appraisal results. Previous studies have suggested two primary approaches to correcting these wage differentials. First, wage differentials should be corrected by strengthening regulations against the appraisal system. Second, they should be improved by changing the Japanese payment system to one based on jobs. By focusing on the latter, this lecture attempts to clarify wage differentials under a payment system based on "roles," which is regarded as a payment system closer to one based on jobs.

In summary, the results of this lecture show that switching to a payment system based on jobs cannot correct wage differentials instantly; however, other types of wage differentials can be possibly introduced by changing jobs, and request new regulations.

MAN100JB

経営学

山藤　竜太郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになっている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解していることには意味がある。また、現代福祉学部における経営学の授業の目的として、経営学の基本的な考え方を福祉の経営への応用についても理解する。

【到達目標】
①受講生が企業経営に関するニュースを理解できるようになる。
②受講生が福祉分野のマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。
毎回小レポートの提出を求める。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、資料の紹介、成績評価方法について説明する。
第 2 回	企業のマネジメント	企業の経営の基本となる戦略と組織について説明する。
第 3 回	事業戦略のマネジメント	事業戦略の基本となる競争する市場の選定について説明する。
第 4 回	組織構造のマネジメント	組織構造の基本となる組織設計について説明する。
第 5 回	キャリアのマネジメント	社会人生活におけるキャリア構築について説明する。
第 6 回	福祉のマネジメント	福祉分野におけるマネジメントについて説明する。
第 7 回	村田製作所の事例	村田製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 8 回	オムロンの事例	オムロンのマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 9 回	島津製作所の事例	島津製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 10 回	JT の事例	JT のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 11 回	味の素の事例	味の素のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 12 回	リクルート HD の事例	リクルート HD のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 13 回	資生堂の事例	資生堂のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 14 回	武田薬品工業の事例	武田薬品工業のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃からインターネットなどを通じて、経営に関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
加護野忠男、吉村典久編『1 からの経営学　第 2 版』碩学舎、2012 年。
一條和生、野村総合研究所グローバルマネジメント研究チーム編『グローバル・ビジネス・マネジメント―経営進化に向けた日本企業への処方箋』中央経済社、2017 年。

【成績評価の方法と基準】
小レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの内容に基づいて、単なるリアクション・ペーパーではなく、毎回小レポートを実施することで積極的な授業参加をうながす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンまたはパソコンなど、小レポートの入力が可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】
Understand the fundamental thinking of business administration.
Apply the basic thinking of business administration to the management of welfare.

MAN100JC

経営学

山藤　竜太郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになっている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解していることには意味がある。また、現代福祉学部における経営学の授業の目的として、経営学の基本的な考え方を福祉の経営への応用についても理解する。

【到達目標】
①受講生が企業経営に関するニュースを理解できるようになる。
②受講生が福祉分野のマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。
毎回小レポートの提出を求める。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、資料の紹介、成績評価方法について説明する。
第 2 回	企業のマネジメント	企業の経営の基本となる戦略と組織について説明する。
第 3 回	事業戦略のマネジメント	事業戦略の基本となる競争する市場の選定について説明する。
第 4 回	組織構造のマネジメント	組織構造の基本となる組織設計について説明する。
第 5 回	キャリアのマネジメント	社会人生活におけるキャリア構築について説明する。
第 6 回	福祉のマネジメント	福祉分野におけるマネジメントについて説明する。
第 7 回	村田製作所の事例	村田製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 8 回	オムロンの事例	オムロンのマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 9 回	島津製作所の事例	島津製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 10 回	JT の事例	JT のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 11 回	味の素の事例	味の素のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 12 回	リクルート HD の事例	リクルート HD のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 13 回	資生堂の事例	資生堂のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 14 回	武田薬品工業の事例	武田薬品工業のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃からインターネットなどを通じて、経営に関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
加護野忠男、吉村典久編『1 からの経営学　第 2 版』碩学舎、2012 年。
一條和生、野村総合研究所グローバルマネジメント研究チーム編『グローバル・ビジネス・マネジメント―経営進化に向けた日本企業への処方箋』中央経済社、2017 年。

【成績評価の方法と基準】
小レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの内容に基づいて、単なるリアクション・ペーパーではなく、毎回小レポートを実施することで積極的な授業参加をうながす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンまたはパソコンなど、小レポートの入力が可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】
Understand the fundamental thinking of business administration.
Apply the basic thinking of business administration to the management of welfare.

SOC100JB

老年学

新名　正弥

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックは LMS 等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第 2 回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第 3 回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第 4 回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第 5 回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第 6 回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第 7 回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第 8 回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第 9 回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第 10 回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第 11 回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第 12 回	老いと経済	経済格差と政策対応
第 13 回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第 14 回	高齢者を取り巻く環境変化と地域包括ケア	住宅、交通、商業施設、コミュニティの変化と包接型ケアに向けての課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健帛社

【参考書】
国民の福祉と介護の動向 2020/2021（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り（40 %）、期末レポート（60 %）によって総合的に判定する。対面授業に変更になった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline and objectives】
Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the ageing of a human and society surrounding the elderly. The lecture aims at comprehensively describe the biological, psychological, social psychological and sociological perspectives of gerontology, as well as explaining the themes especially in the area of social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding ageing and its policy response.

SOC100JC

老年学

新名　正弥

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックは LMS 等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第 2 回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第 3 回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第 4 回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第 5 回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第 6 回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第 7 回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第 8 回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第 9 回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第 10 回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第 11 回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第 12 回	老いと経済	経済格差と政策対応
第 13 回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第 14 回	高齢者を取り巻く環境変化と地域包括ケア	住宅、交通、商業施設、コミュニティの変化と包接型ケアに向けての課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健帛社

【参考書】
国民の福祉と介護の動向 2020/2021（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り（40 %）、期末レポート（60 %）によって総合的に判定する。対面授業に変更になった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline and objectives】
Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the ageing of a human and society surrounding the elderly. The lecture aims at comprehensively describe the biological, psychological, social psychological and sociological perspectives of gerontology, as well as explaining the themes especially in the area of social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding ageing and its policy response.

SOW100JC

社会福祉概論

平野　寛弥

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉についての基本的事柄を学ぶ．それにより，社会福祉についての包括的理解を深める．

【到達目標】
社会福祉における基本的な概念や知識，理論を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書に重要事項は記載されているため，事前に眼を通しておいていただき，そのうえで受講してもらうことになる．
講義では，口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること．適宜メモを取ることは理解にとって極めて効果的である．この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である．
また，授業でのコメントや質問については，できる限り次回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である．
なお秋学期は，オンラインまたは対面での開講となる（詳細は未定）ため，それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：社会変動とそれに対応する福祉政策	現代社会がこれまで経てきた社会経済の変化と，それに合わせて発展してきた福祉政策の関係を理解する．
第 2 回	福祉政策とはなにか	福祉政策の定義やその目的・対象について理解を深める．
第 3 回	福祉政策の構成要素	福祉政策を形作る様々な校正要素（政府，市場，家族，中間団体など）について概観する．
第 4 回	福祉政策の理念	現在の福祉政策が掲げる主要な理念について理解を深める．
第 5 回	福祉政策における「必要（ニーズ）」と資源	社会政策における必要概念の重要性を学ぶとともに，それを充足するための資源の類型について学ぶ．
第 6 回	社会福祉の思想と哲学	社会福祉を基礎付けている様々な思想や哲学の概要について学ぶ．
第 7 回	社会福祉の理論	福祉国家をどのように説明するかを目的に生み出された国内外の様々な理論について概説する．
第 8 回	海外における福祉政策の歴史的展開	今日の福祉政策に影響を与えた，海外における福祉政策の発展を概観する．
第 9 回	日本における福祉政策の歴史的展開（戦前編）	戦前日本の福祉政策の展開を概説する．
第 10 回	日本における福祉政策の歴史的展開（戦後編）	戦後の GHQ の影響下で作り出された日本の福祉政策の方向性とその後の展開を学ぶ．
第 11 回	福祉サービスの供給過程	日本における福祉サービスの実施体制と供給プロセスについて概説する．
第 12 回	現代日本の福祉政策の動向と課題	現在の日本の福祉政策の特徴と直面する課題について概説する．
第 13 回	福祉政策の国際比較	各国の福祉政策の特徴を紹介したうえで国際比較を行い，日本の福祉政策の個別性を理解する．
第 14 回	まとめ：福祉政策とひとの「福祉」	これまでの学習内容を振り返りながら，福祉政策とひとの「福祉」の密接な関わりを改めて考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読むこと。授業後に教科書の確認問題などで復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座４　社会福祉の原理と政策』中央法規，2021 年．
なお，授業自体は PowerPoint を用いて講義を行う．その際，ハンドアウトを配布する．
したがって，教科書は各自が講義内容を確認したり，さらに理解を深めるために使用するものである．

【参考書】
社会福祉辞典（各種有）を購入し、分からない専門用語などを確認しながら学習することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
①評価方法：リアクションペーパー（30 %），期末試験（70%）
②採点基準：
講義内容の理解度を評価する春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各回の内容については，教科書の該当箇所を授業前に一度眼を通してから受講していただくと内容の理解が深まると思います．

【その他の重要事項】
・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし，情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline and objectives】
1. Studying　principles and fundamentals of welfare policy.
2. Understanding welfare policy comprehensively.

ARSx100JC

まちづくりの思想

水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、佐野　竜平、野田　岳仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 11 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 12 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 13 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	ＮＰＯと行政のパートナーシップの必要性と実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】
Understand what community management is, what principles and policies of town development, how to catch rural areas, urban areas, communities, through urban planning activities and practical examples of social business.

SOW100JC

地域福祉論

金　吾燮

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

【到達目標】
・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫す
ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO 法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。課題やリアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第 2 回	今日の地域福祉のシステムと実践	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第 3 回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と 1960 年代まで
第 4 回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970 年代から 1980 年代まで
第 5 回	地域福祉の歴史的発発展と展開③理念と概念、諸理論	1990 年代から 2000 年代まで
第 6 回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第 7 回	地域福祉の構成要件①	在宅福祉サービスの内容と提供のあり方
第 8 回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第 9 回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動（権利擁護など）
第 10 回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第 11 回	地域福祉の推進主体②	ＮＰＯ、ボランティア団体
第 12 回	地域福祉の推進主体③	地域包括支援センター、福祉事務所、社会福祉施設など
第 13 回	地域福祉の政策と財源	地域福祉の政策と財源（公的財源、民間財源）
第 14 回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、２〜３のテーマとする。
準備・復習時間は、１回につき４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008 年

【参考書】
地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006 年
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018 年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点、２〜３のテーマの課題についてのレポート（３０％）
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

【その他の重要事項】
・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。
・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

【Outline and objectives】
This subject learn basic understanding and thinking skills about the Commmunity welfare, and it cultivates the way to consider about Community welfare problem having to do with today.

SOW100JC

ボランタリーアクション

長濵　洋二

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。
社会の課題解決や価値の創造に関する基本的な知識を習得するとともに、ボランタリーアクションを実践するための計画書『My ボラ』を策定し発表する。ボランタリーアクションとは、地域や社会の課題を自分ごととして捉え、課題解決や新しい価値の創造に向けて自発的・主体的に起こしていくアクションであり、地域で活動する団体や NPO 等でのボランティアにとどまらず、寄付、情報発信、自らの消費行動の見直し、自主イベントの開催、社会起業（団体設立）など多岐にわたる。
※『My ボラ』：取り組む社会課題の実態、自己分析、具体的なアクション、期待される成果などを盛り込んだ計画書

【到達目標】
（1）個人で実践できる身近なものから組織として取り組む規模の大きなものまで、様々なボランタリーアクションがあることを理解する
（2）地域や社会にどのような課題があるかを知るとともに、それらの解決に向けて活用できる資源や方法があることを認識できる
（3）地域や社会の課題解決に向けた自発的・主体的なアクションプランが策定できる
（4）ボランタリーアクションを実践するにあたり、自分が大事にしている価値観や行動原理、コミュニケーションの特徴などを明らかになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。
講師による一方向の講義形式ではなく、授業の大半を学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを中心としたワークショップ形式で行う。また、学びを深めるために毎回簡単な課題レポートを提出する。課題レポートの記述内容は、授業最後もしくは次回授業の冒頭で全体に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容（ボランタリーアクションとは何か？）、到達目標、成績評価などの説明と質疑応答などを行う
第 2 回	『My ボラ』策定に向けた自己分析	どのような分野や方法でボランタリーアクションを実践していくか整理するための自己分析ワークを行う
第 3 回	コミュニケーション	自分のコミュニケーションの特徴を把握するとともに、他者との対話や関係性づくりについて学ぶ
第 4 回	ファシリテーション	グループの対話を促進するためのファシリテーション技術について学ぶ
第 5 回	SDGs と社会課題	SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標の詳細や取組事例を通じて、社会課題の分野や種類を理解する
第 6 回	社会課題の実態を把握する	社会や地域の課題の実態を把握するために必要な調査/リサーチの手法について学ぶ
第 7 回	外部ゲストによる講演と対話①	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランタリーアクションを学ぶ
第 8 回	NPO・市民活動とボランティア	NPO や市民活動が登場した歴史的背景や、ボランタリーアクションの 1 つであるボランティアについて学ぶ
第 9 回	寄付をする	ボランタリーアクションの 1 つである寄付について学ぶ
第 10 回	情報発信する	ボランタリーアクションの 1 つである情報発信について学ぶ
第 11 回	一歩踏み込んで行動を起こす	ボランタリーアクションには多様な形態があることを学ぶ
第 12 回	ボランタリーアクションの整理	『My ボラ』の策定に向けて、これまでの授業の学びを整理する
第 13 回	外部ゲストによる講演と対話②	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランタリーアクションを学ぶ
第 14 回	『My ボラ』最終発表	グループに分かれて『My ボラ』の相互発表と評価を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・インターネットでの情報収集や学生同士の情報交換、ボランティア活動の実践、地域で活動する団体や NPO 等が主催する勉強会・イベントへの参加など、授業以外の時間を有効に使いながら理解を深めるとともに、『My ボラ』策定に向けた自分の関心領域を整理しておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。
授業の都度、「授業支援システム」をつうじて事前に資料を提供する。
※必要に応じて、授業当日に自分で印刷したものを用意しておく

【参考書】
『学生のためのボランティア論』 岡本栄一著（大阪ボランティア協会 : 2006)
『テキスト市民活動論〜ボランティア・NPO の実践から学ぶ』大阪ボランティア協会編（大阪ボランティア協会: 2011)
『NPO のためのマーケティング講座』長浜洋二著（学芸出版社： 2014）

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（『My ボラ』）の提出（40 %）
・毎回の授業内課題レポートの提出（40%）
・平常点（授業への主体的参加など）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
・講師による一方向の講義ではなく、学生同士がディスカッションしたり、意見やアイデアを共有できるようにする
・テストによる知識習得ではなく、毎回の課題レポート作成をつうじて、自らの考えやアイデアを深め、整理することに主眼を置く
・座学による講義だけでなく、個人ワークやディスカッションによる体感的な学びを取り入れる

【学生が準備すべき機器他】
『My ボラ』の作成提出は、Microsoft PowerPoint にて行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けていないため、授業時やメール等で相談・連絡が可能。大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
This class will be provided by the online communication tool, "ZOOM", throughout the semester.
"Voluntary Action" provides students with opportunities to: (1) learn about definition, historical background, types, and current situations of voluntary actions, (2) analyze local and social problems to to be solved while identifying local resources to cope with those problems, and (3) make a "My Voluntary Action Plan", specifying an area of interest of local and social problems, action plans, expected outcome, etc.

SOW300JC

国際協力論

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
外務省　開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JC

Community Based Inclusive Development

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】
This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settins (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settins (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settins (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/
World Health Orgzniation https://www.who.int/health-topics/disability

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW100JC

アジア地域開発論

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 60 %、発表： 40%

【学生の意見等からの気づき】
東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JC

Disability and Development in Asia

佐野　竜平

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】
Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx
States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

BAM100JC

人体の構造と機能及び疾病

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

【到達目標】
心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第 2 回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第 3 回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第 4 回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第 5 回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第 6 回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第 7 回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第 8 回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第 9 回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第 10 回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第 11 回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第 12 回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第 13 回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　第１巻「人体の構造と機能及び疾病（第３版）』中央法規、2376 円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて随時、出欠カードにて出席を確認する。

②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100 %）行う。評価に関しては出席等の平常点は一切考慮しない。ただし、期末テストの点数が D（60 点未満）に相当する者についてのみ、出席等の平常点の状況を勘案して、C- 評価とするか否かの判断材料とする（この場合でも加点は 10～20 %程度）。新型コロナ感染によってオンライン授業になった場合、上記の成績評価の方法や評価基準は変更になります。その場合は、学習支援システムを通して通知しますので必ずチェックするようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の要望に応えて、時間の許す限りビデオ等の視聴覚教材を利用した授業を行いたいと考えています。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure,function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.

BAM100JB

人体の構造と機能及び疾病

長山　恵一

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

【到達目標】
心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第 2 回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第 3 回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第 4 回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第 5 回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第 6 回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第 7 回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第 8 回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第 9 回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第 10 回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第 11 回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第 12 回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第 13 回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　第１巻「人体の構造と機能及び疾病（第３版）』中央法規、2376 円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて随時、出欠カードにて出席を確認する。

②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100 %）行う。評価に関しては出席等の平常点は一切考慮しない。ただし、期末テストの点数が D（60 点未満）に相当する者についてのみ、出席等の平常点の状況を勘案して、C- 評価とするか否かの判断材料とする（この場合でも加点は 10～20 %程度）。新型コロナ感染によってオンライン授業になった場合、上記の成績評価の方法や評価基準は変更になります。その場合は、学習支援システムを通して通知しますので必ずチェックするようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の要望に応えて、時間の許す限りビデオ等の視聴覚教材を利用した授業を行いたいと考えています。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure,function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.

MAT100JB

基礎数学Ⅰ

鈴木　麻美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段何気なく接している自然現象や、生活の仕組みは「数学」のもとに成り立っているものが多い。この「数学」とはどんな学問なのか。世界文化の変遷の中での数学のルーツと発展へ目を向け、様々な問題を取り上げて「数学的思考」を学ぶ。その中で「論理的な考え方・数学的思考力の重要性」を考える。

【到達目標】
この講義を通して社会生活における「論理的な考え方・数学的思考力の必要性」と「生活の中に存在する数学」に気づくことを目的とする。この気づきから、その重要性と数学へ興味を持ち、更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom による講義では、身近で具体的な問題について取り組む他、それらの問題の時代背景も紹介する。また、数学的論証として「帰納法」・「背理法」の基本を学ぶ。各テーマごとに証明問題や演習問題に取り組み、理解を深める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数学の始まり。	「数学」の紹介と、講義の進め方・成績評価の説明。および人と数学のルーツと、学問の成り立ちの紹介。
2	ピタゴラス学派の数学上の発見	「ピタゴラスの定理」で有名な、ピタゴラス学派が発見した様々な数学の問題。
3	ピタゴラス数の構築	ピタゴラス数の構築
4	オイラーの等式	いろいろな多面体に注目し、新しい幾何学「位相幾何学」を学ぶ。
5	正多面体の決定	オイラーの等式を用いて、３次元空間の正多面体を定める。
6	グラフ理論と散歩道	位相幾何学・グラフ理論のルーツとグラフ理論の基礎定理。
7	一筆書きの原理	グラフ理論から「一筆書きの原理」を導く。
8	あみだくじ	「あみだくじ」を題材にして、置換・互換を学ぶ。
9	１５ゲームの群論的考察	置換から学ぶ身近なゲーム「１５ゲーム」。
10	１５ゲームの応用	15 ゲームの応用問題に取り組む。
11	合同式	日常に見られる「合同式」の仕組みを学ぶ。
12	暗号通信（１）	ある暗号システムの作り方と、解読システムを学ぶ
13	暗号通信（２）	暗号の作成・解読の演習。
14	まとめ。	これまでの講義の内容に関するまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
一つ一つの理論は難しく無くとも、それが積み重なると煩雑に思えるだろう。毎回の授業の内容をノートに丁寧にまとめ、ノートと教科書の内容を毎週復習してから出席して欲しい。特に証明問題に関しては、授業中のノートの内容を何度も読み返し、自分でその証明を繰り返し再現することでしか身につけることはできない。面倒に思えても、その作業により数学的思考が徐々に身に着くことであろう。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】
「数学の視界 改訂版」 志賀弘典　著, 数学書房

【参考書】
適宜指定

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%) および、授業内テスト (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを書く科目が少ない中，自分で書くことで，復習の際の理解が深まる様子。丁寧にノートを書くことがこの科目では重要である。

【その他の重要事項】
上記にもあるように、必ず継続してノートを取る必要があります。

【Outline and objectives】
What is "Mathematics"? We consider the history of "Mathematics" and we lean some examples of mathematical problems, Furthermore we learn the mathematical thinking which are very important in the social life.

MAT100JC

基礎数学Ⅰ

鈴木　麻美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段何気なく接している自然現象や、生活の仕組みは「数学」のもとに成り立っているものが多い。この「数学」とはどんな学問なのか。世界文化の変遷の中での数学のルーツと発展へ目を向け、様々な問題を取り上げて「数学的思考」を学ぶ。その中で「論理的な考え方・数学的思考力の重要性」を考える。

【到達目標】
この講義を通して社会生活における「論理的な考え方・数学的思考力の必要性」と「生活の中に存在する数学」に気づくことを目的とする。この気づきから、その重要性と数学へ興味を持ち、更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom による講義では、身近で具体的な問題について取り組む他、それらの問題の時代背景も紹介する。また、数学的論証として「帰納法」・「背理法」の基本を学ぶ。各テーマごとに証明問題や演習問題に取り組み、理解を深める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数学の始まり。	「数学」の紹介と、講義の進め方・成績評価の説明。および人と数学のルーツと、学問の成り立ちの紹介。
2	ピタゴラス学派の数学上の発見	「ピタゴラスの定理」で有名な、ピタゴラス学派が発見した様々な数学の問題。
3	ピタゴラス数の構築	ピタゴラス数の構築
4	オイラーの等式	いろいろな多面体に注目し、新しい幾何学「位相幾何学」を学ぶ。
5	正多面体の決定	オイラーの等式を用いて、３次元空間の正多面体を定める。
6	グラフ理論と散歩道	位相幾何学・グラフ理論のルーツとグラフ理論の基礎定理。
7	一筆書きの原理	グラフ理論から「一筆書きの原理」を導く。
8	あみだくじ	「あみだくじ」を題材にして、置換・互換を学ぶ。
9	１５ゲームの群論的考察	置換から学ぶ身近なゲーム「１５ゲーム」。
10	１５ゲームの応用	15 ゲームの応用問題に取り組む。
11	合同式	日常に見られる「合同式」の仕組みを学ぶ。
12	暗号通信（1）	ある暗号システムの作り方と、解読システムを学ぶ
13	暗号通信（2）	暗号の作成・解読の演習。
14	まとめ。	これまでの講義の内容に関するまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
一つ一つの理論は難しく無くとも、それが積み重なると煩雑に思えるだろう。毎回の授業の内容をノートに丁寧にまとめ、ノートと教科書の内容を毎週復習してから出席して欲しい。特に証明問題に関しては、授業中のノートの内容を何度も読み返し、自分でその証明を繰り返し再現することでしか身につけることはできない。面倒に思えても、その作業により数学的思考が徐々に身に着くことであろう。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】
「数学の視界 改訂版」 志賀弘典　著, 数学書房

【参考書】
適宜指定

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%) および、授業内テスト (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを書く科目が少ない中，自分で書くことで，復習の際の理解が深まる様子。丁寧にノートを書くことがこの科目では重要である。

【その他の重要事項】
上記にもあるように、必ず継続してノートを取る必要があります。

【Outline and objectives】
What is "Mathematics"? We consider the history of "Mathematics" and we lean some examples of mathematical problems, Furthermore we learn the mathematical thinking which are very important in the social life.

MAT100JB

基礎数学Ⅱ

鈴木　麻美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然界の現象や，生活の中の現象の仕組みは，様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い．この講義では，高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して，その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ．

【到達目標】
数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ．次に，変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して，経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする，ここで学んだ基礎的な内容を，専門学習に役立ててほしい．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom による講義では，具体的な問題を考えながら，その仕組みの基礎を学ぶ．黒板で説明することをしっかりノートに記録し，授業後に自己学習にて身につけて欲しい．この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので，前回までの復習を前提として授業を進める．授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話し．
3	積み立て預金の話し	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ．
4	物やお金は，時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と．借金の仕組みを学ぶ．
6	数列の極限と無限級数	数列の極限値について，その概念と極限値の求め方を学ぶ．
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と，関数の微分可能性について学ぶ．
9	導関数	簡単な関数について，その微分と導関数の導出方法を学ぶ．
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ．
11	微分の応用（１）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ．
12	微分の応用（２）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ．
13	微分の応用（３）	いくつかの条件の下で，利潤最大化を考える．
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
一つ一つ出てくる理論は難しくないものの，それらをたくさん積み重ねると，煩雑なものに思えることと思う．授業の内容はすべてノートに丁寧にきちんとまとめ，毎週教科書とノートを復習をしてから出席して欲しい．毎回の授業の予習復習は、通常合わせ 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】
「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著，牧野書店．

【参考書】
1.「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」 エドワード・T. ドウリング (原著), 大住 栄治 (著), 川島 康男 (著), シーエーピー出版.
2.「金利利息のしくみがわかる本」」小向 宏美 (著), 古橋 隆之 (監修), 総合法令出版.

【成績評価の方法と基準】
授業内テスト (60 %)・期末試験 (40%) により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが，この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは，初めて学生が多い．数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline and objectives】
Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we study some examples in economic problems and business problems.

MAT100JC

基礎数学Ⅱ

鈴木　麻美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然界の現象や，生活の中の現象の仕組みは，様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い．この講義では，高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して，その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ．

【到達目標】
数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ．次に，変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して，経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする，ここで学んだ基礎的な内容を，専門学習に役立ててほしい．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom による講義では，具体的な問題を考えながら，その仕組みの基礎を学ぶ．黒板で説明することをしっかりノートに記録し，授業後に自己学習にて身につけて欲しい．この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので，前回までの復習を前提として授業を進める．授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話し．
3	積み立て預金の話し	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ．
4	物やお金は，時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と．借金の仕組みを学ぶ．
6	数列の極限と無限級数	数列の極限値について，その概念と極限値の求め方を学ぶ．
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と，関数の微分可能性について学ぶ．
9	導関数	簡単な関数について，その微分と導関数の導出方法を学ぶ．
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ．
11	微分の応用（１）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ．
12	微分の応用（２）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ．
13	微分の応用（３）	いくつかの条件の下で，利潤最大化を考える．
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
一つ一つ出てくる理論は難しくないものの，それらをたくさん積み重ねると，煩雑なものに思えることと思う．授業の内容はすべてノートに丁寧にきちんとまとめ，毎週教科書とノートを復習をしてから出席して欲しい．毎回の授業の予習復習は、通常合わせ 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】
「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著，牧野書店．

【参考書】
1.「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」 エドワード・T. ドウリング (原著), 大住 栄治 (著), 川島 康男 (著), シーエーピー出版.
2.「金利利息のしくみがわかる本」」小向 宏美 (著), 古橋 隆之 (監修), 総合法令出版.

【成績評価の方法と基準】
授業内テスト (60 %)・期末試験 (40%) により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが，この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは，初めて学生が多い．数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline and objectives】
Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we study some examples in economic problems and business problems.

ENV100JB

自然環境論Ⅰ

澤柿　教伸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間社会の多様な姿が生まれた背景には，歴史や文化の地域的特色，自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり，それらは互いに密接に関連しています．本講義では自然本来の多様性に着目して，自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます．

【到達目標】
母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が，物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる．特に，高校までに地球化学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し系統だった理学概念に置き換えることができるようになる．その上で，人間社会の歴史や，生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる．これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を，地球的思考を通して理解し，解決に向けて考察できる力を養う．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 年次〜 4 年次の受講が可能です．春学期の開講です．この授業は例年，1 年生の 8 割以上が受講する科目です．入学ガイダンスが未実施のままのため，新入生はいろいろ不案内で迷っていることと思います．是非，手元に郵送されている「履修要項」を精読の上「履修登録」する授業を決めていただきたいと思います．それでもこの授業は，「視野形成科目」に指定されているため「履修登録」していただいて間違いのない，お勧めの授業です．
地球の全体像を広く理解するために，多方面から基礎的な項目を取り上げて解説します．スライド・動画・講義資料等をスクリーンや TV モニターに投影しながら実施します．授業支援システムを通じて，事前に講義資料および作業シートを配布します．この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します．
対面・オンラインにかかわらず，毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい，そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて，全体・個別に回答します．授業進行に従い，全体の理解度に応じて，資料を捕捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介，講義の進め方・成績評価等について
第 2 回	地球科学入門と素朴概念	地球科学を構成する学問体系
第 3 回	メンタルマップ	地理学の手法としての地図
第 4 回	地誌モノグラフ	北海道のモノグラフを例として自然地理学的に地域を総合理解する方法を紹介
第 5 回	地質学のスケール	地球科学が扱う時間や空間スケール
第 6 回	地質学の原理	地球科学の基礎的理念・理論
第 7 回	地球科学と社会	日常の中の地球科学と防災
第 8 回	プレートテクトニクス	マントル対流と地磁気の基礎
第 9 回	地震と災害	地震の発生メカニズムと災害への備え方
第 10 回	大気と気象	地球の大気組成，気象と気候，世界の多様性と地域の特色
第 11 回	海洋	海洋の成り立ちと歴史，熱塩循環
第 12 回	南極観測事業	国家事業としての南極観測隊
第 13 回	南極の科学	南極観測の詳細
第 14 回	まとめと試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので，あらかじめ目を通してきてください．
・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を，授業後に学習支援システムを通じて配布しますので，答え合わせをしてください．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じてレジュメを配付．

【参考書】
もう一度読む数研の高校地学（数研出版），地球惑星科学入門（北海道大学出版会）、その他適宜授業中に紹介します．

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出，その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%) および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
大規模授業なので，個別対応は気迫になりがちなので，こまめに質問などにオンラインで対応します．

【学生が準備すべき機器他】
・コロナ感染対策でオンラインの場合は，録画した動画をオンデマンドで配信しますので，動画をみながらノートテイクできるネット・PC 環境を整えてください．

【その他の重要事項】
・対面の場合は，授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください．
・対面の場合は，リアクションペーパーを指定します．事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください．

【Outline and objectives】
This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

ENV100JC

自然環境論 I

澤柿　教伸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間社会の多様な姿が生まれた背景には，歴史や文化の地域的特色，自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり，それらは互いに密接に関連しています．本講義では自然本来の多様性に着目して，自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます．

【到達目標】
母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が，物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる．特に，高校までに地球化学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し系統だった理学概念に置き換えることができるようになる．その上で，人間社会の歴史や，生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる．これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を，地球的思考を通して理解し，解決に向けて考察できる力を養う．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 年次〜 4 年次の受講が可能です．春学期の開講です．この授業は例年，1 年生の 8 割以上が受講する科目です．入学ガイダンスが未実施のままのため，新入生はいろいろ不案内で迷っていることと思います．是非，手元に郵送されている「履修要項」を精読の上「履修登録」する授業を決めていただきたいと思います．それでもこの授業は，「視野形成科目」に指定されているため「履修登録」していただいて間違いのない，お勧めの授業です．
地球の全体像を広く理解するために，多方面から基礎的な項目を取り上げて解説します．スライド・動画・講義資料等をスクリーンや TV モニターに投影しながら実施します．授業支援システムを通じて，事前に講義資料および作業シートを配布します．この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します．
対面・オンラインにかかわらず，毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい，そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて，全体・個別に回答します．授業進行に従い，全体の理解度に応じて，資料を補捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介，講義の進め方・成績評価等について
第 2 回	地球科学入門と素朴概念	地球科学を構成する学問体系
第 3 回	メンタルマップ	地理学の手法としての地図
第 4 回	地誌モノグラフ	北海道のモノグラフを例として自然地理学的に地域を総合理解する方法を紹介
第 5 回	地質学のスケール	地球科学が扱う時間や空間スケール
第 6 回	地質学の原理	地球科学の基礎的理念・理論
第 7 回	地球科学と社会	日常の中の地球科学と防災
第 8 回	プレートテクトニクス	マントル対流と地磁気の基礎
第 9 回	地震と災害	地震の発生メカニズムと災害への備え方
第 10 回	大気と気象	地球の大気組成，気象と気候，世界の多様性と地域の特色
第 11 回	海洋	海洋の成り立ちと歴史，熱塩循環
第 12 回	南極観測事業	国家事業としての南極観測隊
第 13 回	南極の科学	南極観測の詳細
第 14 回	まとめと試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので，あらかじめ目を通してきてください．
・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を，授業後に学習支援システムを通じて配布しますので，答え合わせをしてください．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じてレジュメを配付．

【参考書】
もう一度読む数研の高校地学（数研出版），地球惑星科学入門（北海道大学出版会）、その他適宜授業中に紹介します．

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出，その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%) および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
大規模授業なので，個別対応は気迫になりがちなので，こまめに質問などにオンラインで対応します．

【学生が準備すべき機器他】
・コロナ感染対策でオンラインの場合は，録画した動画をオンデマンドで配信しますので，動画をみながらノートテイクできるネット・PC 環境を整えてください．

【その他の重要事項】
・対面の場合は，授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください．
・対面の場合は，リアクションペーパーを指定します．事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください．

【Outline and objectives】
This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

ENV100JB

自然環境論Ⅱ

吉岡　美紀

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，春学期の講義内容を基礎として，様々な自然現象と社会問題とが結びついている事項を学びます．特に極域の環境や日頃の身近にある例を題材にしながら，地球科学の知識や理念をどのように社会科学的諸問題の解決に生かしていくかについて理解を深めます．

【到達目標】
・人間社会の活動や構造と地球科学との関わりに気づく素養を培う．
・社会と地球科学のつながりを考える意義・影響・展望について自ら考察できる基礎力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講していることを前提に進めます．
・スライド・動画・講義資料等をスクリーンに投影しながら実施します．
・学習支援システム (Hoppii) を通じて講義資料を配布します．
・授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等を元に、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	地球科学概論	春学期未履修者や地球科学初学者のための概論、身近な地図
第 3 回	地球科学と社会	主題図、地理情報システム
第 4 回	風成堆積物	火山と火山噴出物
第 5 回	河川	河川地形と河川管理
第 6 回	段丘地形	武蔵野台地の地形
第 7 回	雪氷圏	雪と氷の科学
第 8 回	地球温暖化	温暖化論争、IPCC
第 9 回	気候変動	古気候、氷期、間氷期
第 10 回	北極域	極域の自然と観測
第 11 回	核と地球	放射性物質や同位体と地球
第 12 回	自然環境と人類	人類の進化と自然環境との関わり
第 13 回	地図	地図利用の変遷、人類活動範囲の拡大
第 14 回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので，あらかじめ目を通してきてください．
・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を，授業後に学習支援システムを通じて配布しますので，答え合わせをしてください．
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じてレジュメを配付します．

【参考書】
・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス、2017 年

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出，その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%)、および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
前期担当教員からの申し送りとして、マイクの音量や投影資料の見やすさに注意します．

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください．
・リアクションペーパーを指定します．事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください．

【Outline and objectives】
This course inherits the spring semester course of geology, provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, especially focusing on the science-base understandings of climate change and its connection with social issues.

ENV100JC

自然環境論Ⅱ

吉岡　美紀

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，春学期の講義内容を基礎として，様々な自然現象と社会問題とが結びついている事項を学びます．特に極域の環境や日頃の身近にある例を題材にしながら，地球科学の知識や理念をどのように社会科学的諸問題の解決に生かしていくかについて理解を深めます．

【到達目標】
・人間社会の活動や構造と地球科学との関わりに気づく素養を培う．
・社会と地球科学のつながりを考える意義・影響・展望について自ら考察できる基礎力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講していることを前提に進めます．
・スライド・動画・講義資料等をスクリーンに投影しながら実施します．
・学習支援システム (Hoppii) を通じて講義資料を配布します．
・授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等を元に、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	地球科学概論	春学期未履修者や地球科学初学者のための概論、身近な地図
第 3 回	地球科学と社会	主題図、地理情報システム
第 4 回	風成堆積物	火山と火山噴出物
第 5 回	河川	河川地形と河川管理
第 6 回	段丘地形	武蔵野台地の地形
第 7 回	雪氷圏	雪と氷の科学
第 8 回	地球温暖化	温暖化論争、IPCC
第 9 回	気候変動	古気候、氷期、間氷期
第 10 回	北極域	極域の自然と観測
第 11 回	核と地球	放射性物質や同位体と地球
第 12 回	自然環境と人類	人類の進化と自然環境との関わり
第 13 回	地図	地図利用の変遷、人類活動範囲の拡大
第 14 回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので，あらかじめ目を通してきてください．
・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を，授業後に学習支援システムを通じて配布しますので，答え合わせをしてください．
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じてレジュメを配付します．

【参考書】
・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス、2017 年

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出，その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%)、および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
前期担当教員からの申し送りとして、マイクの音量や投影資料の見やすさに注意します．

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください．
・リアクションペーパーを指定します．事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください．

【Outline and objectives】
This course inherits the spring semester course of geology, provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, especially focusing on the science-base understandings of climate change and its connection with social issues.

BLS100JC

生命の科学Ⅰ

鞠子　茂

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では生命科学に関する様々な話題を設定し、ヒトとの関連性を確認しながら授業を展開していく。学生は人間が生物の一員であることを再認識することで、現代社会における多種多様な問題を解決していくための規範の一つを学ぶ。

【到達目標】
ゲノムや新たな遺伝子発現に関する知識を得た上で、バイオテクノロジーによる生命操作や生殖補助医療の是非について考えるための遺伝子または科学リテラシーを身に着けることができる。また、病の一部は生物進化の産物であることを学び、病との向き合い方について新しい視点を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし，予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し，解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと生命の特性について講義	授業の進め方と生命の共通性と多様性について講義する
第 2 回	生命の誕生物語	宇宙生物学が描く生命誕生誌の紹介
第 3 回	なぜ生命はそうなっているのか	エネルギーが生命の誕生と進化に制約を与えてきたことを論じる
第 4 回	遺伝子・DNA・ゲノムの違いを学ぼう	遺伝子リテラシーとセントラルドグマを講義する
第 5 回	全能なる受精卵と多能なる iPS 細胞	エピジェネティクスという遺伝子発現を調節する仕組みを学ぶ
第 6 回	生命操作技術の光と闇	バイオテクノロジーの功罪を検証する
第 7 回	ウィルスは究極の寄生性微生物である	ウィルスの誕生と生物との進化的な関わりについて学ぶ
第 8 回	人獣共通感染症と人類の戦いを科学する	未曽有の災害であるコロナウィルス感染症について講義する
第 9 回	免疫という生体防御機構	免疫のメカニズムについて学ぶ
第 10 回	メタボと倹約表現型仮説	ヒトがメタボになる仕組みを学ぶ
第 11 回	魚にもうつ病がある	うつ病の進化的起源について解説する
第 12 回	性が存在するわけ	ヒトの基本形は女であることを学ぶ
第 13 回	生殖補助医療という人為選択がもたらすもの	体外受精などの生殖補助医療における生物学的な問題点について論じる
第 14 回	生物に流れる時間と全体のまとめ	生物が時間という物理量を感じ取り方について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし，あらかじめ予習しておくこと。また，授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「これが生物学だ」(E. マイア著（八杉貞雄・松田学翻訳）　シュプリンガー・フェアラーク東京　1999 年）,「人間のための 一般生物学」(武村政春著　裳華房　2007 年),「人体 600 万年史 (上・下):科学が明かす進化・健康・疾病」(ダニエル・E・ リーバーマン著（塩原通緒翻訳) 早川書房　2015)

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（80 %），平常点（20 %）
〔評価基準〕期末試験では，3〜4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し，出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【Outline and objectives】
This course aims to develop an understanding of what life is at the genetic level. Based on the life sciences, the students also learn about pros and cons of biotechnology and origins of humanity and diseases.

BLS100JB

生命の科学Ⅰ

鞠子　茂

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では生命科学に関する様々な話題を設定し、ヒトとの関連性を確認しながら授業を展開していく。学生は人間が生物の一員であることを再認識することで、現代社会における多種多様な問題を解決していくための規範の一つを学ぶ。

【到達目標】
ゲノムや新たな遺伝子発現に関する知識を得た上で、バイオテクノロジーによる生命操作や生殖補助医療の是非について考えるための遺伝子または科学リテラシーを身に着けることができる。また、病の一部は生物進化の産物であることを学び、病との向き合い方について新しい視点を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし，予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し，解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと生命の特性について講義	授業の進め方と生命の共通性と多様性について講義する
第 2 回	生命の誕生物語	宇宙生物学が描く生命誕生誌の紹介
第 3 回	なぜ生命はそうなっているのか	エネルギーが生命の誕生と進化に制約を与えてきたことを論じる
第 4 回	遺伝子・DNA・ゲノムの違いを学ぼう	遺伝子リテラシーとセントラルドグマを講義する
第 5 回	全能なる受精卵と多能なる iPS 細胞	エピジェネティクスという遺伝子発現を調節する仕組みを学ぶ
第 6 回	生命操作技術の光と闇	バイオテクノロジーの功罪を検証する
第 7 回	ウィルスは究極の寄生性微生物である	ウィルスの誕生と生物との進化的な関わりについて学ぶ
第 8 回	人獣共通感染症と人類の戦いを科学する	未曽有の災害であるコロナウィルス感染症について講義する
第 9 回	免疫という生体防御機構	免疫のメカニズムについて学ぶ
第 10 回	メタボと倹約表現型仮説	ヒトがメタボになる仕組みを学ぶ
第 11 回	魚にもうつ病がある	うつ病の進化的起源について解説する
第 12 回	性が存在するわけ	ヒトの基本形は女であることを学ぶ
第 13 回	生殖補助医療という人為選択がもたらすもの	体外受精などの生殖補助医療における生物学的な問題点について論じる
第 14 回	生物に流れる時間と全体のまとめ	生物が時間という物理量を感じ取り方について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし，あらかじめ予習しておくこと。また，授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「これが生物学だ」(E. マイア著（八杉貞雄・松田学翻訳）　シュプリンガー・フェアラーク東京　 1999 年）,「人間のための 一般生物学」(武村政春著　裳華房　 2007 年),「人体 600 万年史 (上・下):科学が明かす進化・健康・疾病」(ダニエル・E・ リーバーマン著（塩原通緒翻訳) 早川書房　 2015)

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（80 %），平常点（20 %）
〔評価基準〕期末試験では，3〜4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し，出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【Outline and objectives】
This course aims to develop an understanding of what life is at the genetic level. Based on the life sciences, the students also learn about pros and cons of biotechnology and origins of humanity and diseases.

BLS100JB

生命の科学Ⅱ

鞠子　茂

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学をディシプリンとして，環境論，環境と生物の関わり、生物の多様性，グローカルな環境問題，人類存続に関する具体的なテーマを設定・詳説し，人類の未来について考える。

【到達目標】
人間の脱生物的活動によって生じた多種多様な環境問題の理解と解決に資する科学リテラシー・リスクリテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし，予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し，解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容と生態学の説明	授業の進め方と生態学の紹介
第 2 回	環境とは何か	環境の定義について考える
第 3 回	生物と生態系の多様性と地理的分布	生物多様性の地理的変化を概説する
第 4 回	生態系は常に変化している	最新の生態学が描く生態系の姿について紹介する
第 5 回	生物適応の戦略的進化	環境適応の具体例を挙げて説明する
第 6 回	生態系からの恩恵としっぺ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第 7 回	公害から学ぶべきこと	水俣病から学ぶ科学リテラシーの必要性
第 8 回	環境ホルモン再考	内分泌かく乱ホルモンについて考える
第 9 回	外来生物は悪か	外来種問題の是非論について考究する
第 10 回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第 11 回	地球温暖化と生物および生態系	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第 12 回	紫外線と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能について考究する
第 13 回	衣食住環境とヒトの健康	衣食住環境の問題点について考える
第 14 回	人類存続のための生態学と全体のまとめ	人類存続に関する講義と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし，あらかじめ予習しておくこと。また，授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「生物多様性と生態学―遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著，朝倉書店 (2012) ；「森のバランス」森林立地学会編，東海大学出版 (2012) ；「大学 1 年生のなっとく!生態学」鷲谷いづみ著，講談社（2017）；「環境サイエンス入門 人と自然の持続可能な関係を考える」前迫ゆり他著，学術研究出版（2017）；「生態学は環境問題を解決できるか? 」巌佐庸・伊勢武史著，(2020)

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（80 %），平常点（20 %）
〔評価基準〕期末試験では，3〜4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し，出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline and objectives】
The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

BLS100JC

生命の科学Ⅱ

鞠子　茂

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学をディシプリンとして，環境論，環境と生物の関わり、生物の多様性，グローカルな環境問題，人類存続に関する具体的なテーマを設定・詳説し，人類の未来について考える。

【到達目標】
人間の脱生物的活動によって生じた多種多様な環境問題の理解と解決に資する科学リテラシー・リスクリテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし，予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し，解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容と生態学の説明	授業の進め方と生態学の紹介
第 2 回	環境とは何か	環境の定義について考える
第 3 回	生物と生態系の多様性と地理的分布	生物多様性の地理的変化を概説する
第 4 回	生態系は常に変化している	最新の生態学が描く生態系の姿について紹介する
第 5 回	生物適応の戦略的進化	環境適応の具体例を挙げて説明する
第 6 回	生態系からの恩恵としっぺ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第 7 回	公害から学ぶべきこと	水俣病から学ぶ科学リテラシーの必要性
第 8 回	環境ホルモン再考	内分泌かく乱ホルモンについて考える
第 9 回	外来生物は悪か	外来種問題の是非論について考究する
第 10 回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第 11 回	地球温暖化と生物および生態系	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第 12 回	紫外線と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能について考究する
第 13 回	衣食住環境とヒトの健康	衣食住環境の問題点について考える
第 14 回	人類存続のための生態学と全体のまとめ	人類存続に関する講義と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし，あらかじめ予習しておくこと。また，授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「生物多様性と生態学―遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著，朝倉書店 (2012)；「森のバランス」森林立地学会編，東海大学出版 (2012)；「大学 1 年生のなっとく!生態学」鷲谷いづみ著，講談社（2017）；「環境サイエンス入門 人と自然の持続可能な関係を考える」前迫ゆり他著，学術研究出版（2017）；「生態学は環境問題を解決できるか? 」巌佐庸・伊勢武史著，（2020）

【成績評価の方法と基準】
〔配分〕期末試験（80 %），平常点（20 %）
〔評価基準〕期末試験では，3〜4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し，出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline and objectives】
The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

HSS100JB

ヘルスプロモーション

熊坂　隆行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。
本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL（Quality of Life）を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】
1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
2) 健康教育について理解し、説明できる。
3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
4) 健康増進法について理解し、説明できる。
5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行ないます。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成 1
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成 2
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 1
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 2
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開．株式会社保健同人社、東京、2006.
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論．株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

【Outline and objectives】
This subject will pay attention to "health" "education" "medical treatment" "area", learn about the match to raise QOL and the environment and make the positive health one considers.

HSS100JC

ヘルスプロモーション

熊坂　隆行

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。
本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL（Quality of Life）を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】
1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
2) 健康教育について理解し、説明できる。
3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
4) 健康増進法について理解し、説明できる。
5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行ないます。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成 1
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成 2
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 1
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 2
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開．株式会社保健同人社、東京、2006.
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論．株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

【Outline and objectives】
This subject will pay attention to "health" "education" "medical treatment" "area", learn about the match to raise QOL and the environment and make the positive health one considers.

BME100JB

リハビリテーション概論

渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。

【到達目標】
各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感手出来ることを目指ざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。秋学期はオンラインまたは対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また講義の最後にリアクションペーパーに質問等を記載してもらい、翌回の講義内にてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(渡邊)
第 2 回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(渡邊)
第 3 回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションが関わる多様な障害像について、その概要。(渡邊)
第 4 回	ヒトの身体・認知機能の基本 1	発達や加齢の身体・認知機能との関係性の理解。(酒井)
第 5 回	ヒトの身体・認知機能の基本 2	疾患による障害が及ぼす影響の理解。(酒井)
第 6 回	脳卒中のリハビリテーション 1	脳卒中の病態から障害の理解。(渡邊)
第 7 回	脳卒中のリハビリテーション 2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(渡邊)
第 8 回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第 9 回	高齢者に対するリハビリテーション	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第 10 回	難病のリハビリテーション	神経難病からリウマチまで、難病へのリハビリテーションの理解。(後藤)
第 11 回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーショの現実。(後藤)
第 12 回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)
第 13 回	地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたリハビリについて。(渡邊)
第 14 回	テスト	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(渡邊)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を中心に進め，参考資料は適時紹介する。

【参考書】
特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
出欠確認：毎回出席を取る。
試験：期末試験を実施する。
採点基準：平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。また、期末テスト時にも希望者には感想を書いてもらい、次年度の講義に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The aim of this class is to learn a variety of disabilities arising from a lot of diseases, and focus on the rehabilitation concept which treats those disabilities. Furthermore, this class is going to share the substantial point of comprehensive rehabilitation that covers not only physical states but social and welfare perspective.

BME100JC

リハビリテーション概論

渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。

【到達目標】
各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感手出来ることを目指ざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。秋学期はオンラインまたは対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また講義の最後にリアクションペーパーに質問等を記載してもらい、翌回の講義内にてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(渡邊)
第 2 回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(渡邊)
第 3 回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションが関わる多様な障害像について、その概要。(渡邊)
第 4 回	ヒトの身体・認知機能の基本 1	発達や加齢の身体・認知機能との関係性の理解。(酒井)
第 5 回	ヒトの身体・認知機能の基本 2	疾患による障害が及ぼす影響の理解。(酒井)
第 6 回	脳卒中のリハビリテーション 1	脳卒中の病態から障害の理解。(渡邊)
第 7 回	脳卒中のリハビリテーション 2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(渡邊)
第 8 回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第 9 回	高齢者に対するリハビリテーション	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第 10 回	難病のリハビリテーション	神経難病からリウマチまで、難病へのリハビリテーションの理解。(後藤)
第 11 回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーショの現実。(後藤)
第 12 回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)
第 13 回	地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたリハビリについて。(渡邊)
第 14 回	テスト	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(渡邊)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を中心に進め，参考資料は適時紹介する。

【参考書】
特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
出欠確認：毎回出席を取る。
試験：期末試験を実施する。
採点基準：平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。また、期末テスト時にも希望者には感想を書いてもらい、次年度の講義に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The aim of this class is to learn a variety of disabilities arising from a lot of diseases, and focus on the rehabilitation concept which treats those disabilities. Furthermore, this class is going to share the substantial point of comprehensive rehabilitation that covers not only physical states but social and welfare perspective.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズ実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズ実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
ヨガマット
オンラインクラスを受講するための、スマホやパソコンなどのタブレット
※現在お持ちで無い方は、購入する必要はありません。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
ヨガマット
オンラインクラスを受講するための、スマホやパソコンなどのタブレット
※現在お持ちで無い方は、購入する必要はありません。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ 。
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは？ ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ 。
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは？ ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、出席率、授業態度
技術点 20%、
その他 10%　レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
・ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
・ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更がありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・完全呼吸 ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践。
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランス
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
出席率、授業態度、レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度と同様に、ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（ヨガ）

鈴木　伸枝

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。
自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】
・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を惑わされない、安定した自己を育む。
・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点をみつけ、行動に移せるようになる。
・冥想の実践を通し、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・アーサナ（ポーズ)/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック
・ヨガの科学的側面と精神的側面の講義
・ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更がありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣）の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・完全呼吸 ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践。
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランス
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わりの深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
出席率、授業態度、レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度と同様に、ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー　）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills ofthe game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー　）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills ofthe game.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者による講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者による講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者による講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中　善則

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。
ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】
キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 7 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 （チームプレー）	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 （レベルアップ）	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 （勝敗にこだわる）	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワークについて	有識者による講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】
「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」
男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）
配当年次／単位数：2〜4 年次／ 1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）
配当年次／単位数：2〜4 年次／ 1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（テニス）

宮崎　靖雄

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テニスの基本技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニスを通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツである事を学習する。

【到達目標】
①ショットの基礎技術を習得する。
②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
③ダブルス、シングルスの試合を学習する。
④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
実技では、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
雨天時の場合は原則として教室にて講義を行う。
授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ＆ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ＆ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルスの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルスの試合形式練習
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70 %）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20 %）、授業態度（10 %）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については個別に対応、評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなすため、遅刻、欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（テニス）

宮崎　靖雄

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テニスの基本技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニスを通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツである事を学習する。

【到達目標】
①ショットの基礎技術を習得する。
②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
③ダブルス、シングルスの試合を学習する。
④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
実技では、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
雨天時の場合は原則として教室にて講義を行う。
授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ＆ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ＆ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルスの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルスの試合形式練習
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70 %）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20 %）、授業態度（10 %）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については個別に対応、評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなすため、遅刻、欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（テニス）

宮崎　靖雄

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テニスの基本技術、応用技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニス実技を通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツであることを学習する。

【到達目標】
①ショットの基礎技術を習得する。
②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
③ダブルス、シングルスの試合を学習する。
④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・試合の進め方・ルールの説明	授業の進め方の説明と、テニスの映像を用いて、試合の進め方などを学ぶ
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ＆ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ＆ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルスの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルスの試合形式練習学ぶ
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
「テニスマガジン・テニスクラッシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢などの平常点（70 %）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20 %）、授業態度（10 %）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については、個別に対応、評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻や欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（テニス）

宮崎　靖雄

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テニスの基本技術、応用技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニス実技を通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツであることを学習する。

【到達目標】
①ショットの基礎技術を習得する。
②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
③ダブルス、シングルスの試合を学習する。
④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・試合の進め方・ルールの説明	授業の進め方の説明と、テニスの映像を用いて、試合の進め方などを学ぶ
第 2 回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 3 回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 4 回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第 5 回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第 6 回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 7 回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第 8 回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ＆ネットプレー、ミニゲーム
第 9 回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第 10 回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第 11 回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ＆ネットプレー、試合形式練習
第 12 回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルスの試合の進め方
第 13 回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルスの試合形式練習学ぶ
第 14 回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
「テニスマガジン・テニスクラッシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢などの平常点（70 %）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20 %）、授業態度（10 %）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については、個別に対応、評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻や欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具代的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右楼膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒巻肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾 （八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭 （十）雲手 （十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬 （十三）右蹬腳 （十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。
毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】
普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具代的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右楼膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒巻肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾 （八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭 （十）雲手 （十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬 （十三）右蹬腳 （十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1の動作から6動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。
毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】
普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具代的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右楼膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒巻肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾 （八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭 （十）雲手 （十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬 （十三）右蹬腳 （十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。
毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】
普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具代的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右楼膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒巻肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾 （八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭 （十）雲手 （十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬 （十三）右蹬腳 （十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1の動作から6動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。
毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】
普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得（十五）轉身左蹬腳
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針 （二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘 （二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら２４式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	２４式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら２４式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得（十五）轉身左蹬腳
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針 （二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘 （二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら２４式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	２４式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら２４式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得（十五）轉身左蹬腳
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針 （二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘 （二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら２４式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	２４式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら２４式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（太極拳）

シン　イェンリン

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】
腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得（十五）轉身左蹬腳
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針 （二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘 （二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習 。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。 二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら２４式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	２４式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら２４式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に資料を配付します。

【参考書】
著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内　友美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】
工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。
運動のみならず、地域や職場等どのような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。
車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。
動きやすい服装で参加すること。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／感覚を研ぎ澄ます	ゴールボール、ミニ実践、レポート作成
第 2 回	障がいの理解／実践	脊髄・頚髄損傷について／バスケット用車いすの操作
第 3 回	障がいの理解／実践	障がいとは？ ／車いすツインバスケットボール
第 4 回	運動の効果の理解／実践	運動が身体に与える影響について／車いすツインバスケットボール
第 5 回	運動の効果の理解／実践	運動が脳に与える影響について／ボッチャ
第 6 回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第 7 回	障がいの理解／実践	脳血管障害：食事と運動と血管／四面卓球バレー
第 8 回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第 9 回	ターゲット型スポーツ	ディスクゴルフ
第 10 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フライングディスク（アキュラシー競技ディスリート・ファイブ等）
第 11 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ゴールボール
第 12 回	感覚を研ぎ澄ます	見えない・見えにくい世界の体験／サウンドテーブルテニス
第 13 回	車いすを使った運動	車いす卓球
第 14 回	海と障がいとスポーツ	障がいのある人とスキューバダイビング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内　友美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】
工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。
運動のみならず、地域や職場等どのような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。
車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。
動きやすい服装で参加すること。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／感覚を研ぎ澄ます	ゴールボール、ミニ実践、レポート作成
第 2 回	障がいの理解／実践	脊髄・頚髄損傷について／バスケット用車いすの操作
第 3 回	障がいの理解／実践	障がいとは？ ／車いすツインバスケットボール
第 4 回	運動の効果の理解／実践	運動が身体に与える影響について／車いすツインバスケットボール
第 5 回	運動の効果の理解／実践	運動が脳に与える影響について／ボッチャ
第 6 回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第 7 回	障がいの理解／実践	脳血管障害：食事と運動と血管／四面卓球バレー
第 8 回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第 9 回	ターゲット型スポーツ	ディスクゴルフ
第 10 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フライングディスク（アキュラシー競技ディスリート・ファイブ等）
第 11 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ゴールボール
第 12 回	感覚を研ぎ澄ます	見えない・見えにくい世界の体験／サウンドテーブルテニス
第 13 回	車いすを使った運動	車いす卓球
第 14 回	海と障がいとスポーツ	障がいのある人とスキューバダイビング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内　友美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】
工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。
運動のみならず、地域や職場等どのような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。
車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。
動きやすい服装で参加すること。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明／バスケット用車いすの操作
第 2 回	運動の効果の理解／実践	なぜ運動が必要なのか／車いすラグビー
第 3 回	運動の効果の理解／実践	運動と健康／車いすラグビー
第 4 回	運動の効果の理解／実践	運動による精神面への効果／車いすバドミントン
第 5 回	車いすを使った運動	車いすテニス
第 6 回	車いすを使った運動	車いすテニス
第 7 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ブラインドテニス
第 8 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フロアバレーボール
第 9 回	ネット型スポーツ	シッティングバレーボール
第 10 回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第 11 回	ターゲット型スポーツ	障がいとは？ ／ボッチャ
第 12 回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第 13 回	障がいの理解／実践	精神障がいと全国障害者スポーツ大会／ソフトバレーボール
第 14 回	障がいの理解／実践	事業所製品：福祉事業所が地域を救う／幻覚妄想かるた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内　友美

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】
工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。
運動のみならず、地域や職場等どのような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。
車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。
動きやすい服装で参加すること。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明／バスケット用車いすの操作
第 2 回	運動の効果の理解／実践	なぜ運動が必要なのか／車いすラグビー
第 3 回	運動の効果の理解／実践	運動と健康／車いすラグビー
第 4 回	運動の効果の理解／実践	運動による精神面への効果／車いすバドミントン
第 5 回	車いすを使った運動	車いすテニス
第 6 回	車いすを使った運動	車いすテニス
第 7 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ブラインドテニス
第 8 回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フロアバレーボール
第 9 回	ネット型スポーツ	シッティングバレーボール
第 10 回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第 11 回	ターゲット型スポーツ	障がいとは？ ／ボッチャ
第 12 回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第 13 回	障がいの理解／実践	精神障がいと全国障害者スポーツ大会／ソフトバレーボール
第 14 回	障がいの理解／実践	事業所製品：福祉事業所が地域を救う／幻覚妄想かるた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
以下の基準に従い評価する
平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（サッカー）

星　貴洋

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切にし、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第 2 回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第 3 回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第 4 回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第 5 回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第 6 回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第 7 回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第 8 回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第 9 回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第 10 回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第 11 回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第 12 回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第 13 回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第 14 回	チーム戦術	状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書や DVD の映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】
ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー　ペネトレイション編（DVD）

【成績評価の方法と基準】
平常点　55%　技能点　40%　その他　5%

【学生の意見等からの気づき】
授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】
Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football
Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（バレーボール基礎）

野中　俊英

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。なお、本科目の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
　必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（バレーボール基礎）

野中　俊英

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。なお、本科目の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（バレーボール応用）

野中　俊英

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（バレーボール応用）

野中　俊英

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅰ（サッカー・フットサル基礎）

水野　浩幸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーの基礎技術、戦術の習得
②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第 2 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第 4 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第 5 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム
第 6 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第 7 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第 8 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第 9 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3 人目の動き
第 10 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第 11 回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅰ（サッカー・フットサル基礎）

水野　浩幸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーの基礎技術、戦術の習得
②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第 2 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第 4 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第 5 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム
第 6 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第 7 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第 8 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第 9 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3 人目の動き
第 10 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第 11 回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100JC

スポーツ種目Ⅱ（サッカー・フットサル応用）

水野　浩幸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーのポジションごとの役割を理解する
②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 2 回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第 4 回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第 5 回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第 6 回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第 7 回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第 8 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 9 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 10 回	チーム編成，チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第 11 回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100JB

スポーツ種目Ⅱ（サッカー・フットサル応用）

水野　浩幸

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーのポジションごとの役割を理解する
②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 2 回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第 4 回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第 5 回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第 6 回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第 7 回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第 8 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 9 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 10 回	チーム編成，チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第 11 回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100JB

スポーツ総合Ⅰ

坪田　智夫

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第 2 回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第 3 回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第 4 回	サッカー②	・ゲーム
第 5 回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第 6 回	アルティメット②	・ゲーム
第 7 回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第 8 回	バスケットボール②	・ゲーム
第 9 回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第 10 回	テニス②	・ゲーム
第 11 回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第 12 回	ソフトボール②	・ゲーム
第 13 回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第 14 回	バトミントン②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい.
準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０%）
運動の習得率（２０%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline and objectives】
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

HSS100JC

スポーツ総合Ⅰ

坪田　智夫

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第 2 回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第 3 回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第 4 回	サッカー②	・ゲーム
第 5 回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第 6 回	アルティメット②	・ゲーム
第 7 回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第 8 回	バスケットボール②	・ゲーム
第 9 回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第 10 回	テニス②	・ゲーム
第 11 回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第 12 回	ソフトボール②	・ゲーム
第 13 回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第 14 回	バトミントン②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい.
準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline and objectives】
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

HSS100JC

スポーツ総合Ⅱ

坪田　智夫

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゴルフ①	・ルール説明 ・基本練習
第 2 回	ゴルフ②	・ゲーム
第 3 回	フットサル①	・ルール説明 ・基本練習
第 4 回	フットサル②	・ゲーム
第 5 回	バレーボール①	・ルール説明 ・基本練習
第 6 回	バレーボール②	・ゲーム
第 7 回	テニス①	・ルール説明 ・基本練習
第 8 回	テニス②	・ゲーム
第 9 回	ソフトラクロス①	・ルール説明 ・基本練習
第 10 回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第 11 回	バトミントン①	・ルール説明 ・基本練習
第 12 回	バトミントン②	・ゲーム
第 13 回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基本練習
第 14 回	ソフトボール②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。
準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline and objectives】
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

HSS100JB

スポーツ総合Ⅱ

坪田　智夫

科目分類・科目群：**総合教育科目　視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゴルフ①	・ルール説明 ・基本練習
第 2 回	ゴルフ②	・ゲーム
第 3 回	フットサル①	・ルール説明 ・基本練習
第 4 回	フットサル②	・ゲーム
第 5 回	バレーボール①	・ルール説明 ・基本練習
第 6 回	バレーボール②	・ゲーム
第 7 回	テニス①	・ルール説明 ・基本練習
第 8 回	テニス②	・ゲーム
第 9 回	ソフトラクロス①	・ルール説明 ・基本練習
第 10 回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第 11 回	バトミントン①	・ルール説明 ・基本練習
第 12 回	バトミントン②	・ゲーム
第 13 回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基本練習
第 14 回	ソフトボール②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。
準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline and objectives】
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.

PRI100JC

Web デザイン

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の情報収集・発信手段として欠かせないものとなった Web を中心に据え、ICT・情報リテラシーの関連知識と基礎的なスキルの習得を目指します。

【到達目標】
Web の基盤技術を中心に基礎的なコンピュータの活用ができる。必要とする情報を調べ、解決し、必要に応じて発信・公開できる知識・技術・論理的思考力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
簡易なコンピュータ言語を用いた作成演習を中心とし、並行して基礎知識や周辺情報の説明を行います。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	Web の基本概念	基礎知識、操作、雛形の作成
第 3 回	文章の記述と制御	文字入力、文章記述、修飾と制御
第 4 回	画像の表示とリンク	画像の表示、リンクの作成
第 5 回	画像・リンクの応用	画像・リンクの制御、レイアウト
第 6 回	リストとテーブル	ページの構成（箇条書きと表）
第 7 回	ページの分割表現	メニューの作成、全体の構成
第 8 回	パスの設定、CSS	ページの修飾、基本部分のまとめ
第 9 回	フォームと作成ツール	フォームとページ作成の現状
第 10 回	Web デザインの基本	Web ページのデザイン技術
第 11 回	スクリプト言語の基本	プログラムの基礎と文字表示
第 12 回	イベントと応答	動きのあるページの作成
第 13 回	変数と繰り返し	変数の利用、処理の繰り返し
第 14 回	総合的な Web 作成	総合実習・全般的な補足と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
Web 作成関連の書籍のうち、比較的初心者向けのものが広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
「コンピュータ入門」の類の履修、または同等の知識を習得しておくことを勧めます。

【Outline and objectives】
The web and related applications are useful as a means of obtaining and publication of various information. The objective is studying basic skills and knowledge of the web and related technologies. This lesson will focus on practical training.

PRI100JB

Web デザイン

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の情報収集・発信手段として欠かせないものとなった Web を中心に据え、ICT・情報リテラシーの関連知識と基礎的なスキルの習得を目指します。

【到達目標】
Web の基盤技術を中心に基礎的なコンピュータの活用ができる。必要とする情報を調べ、解決し、必要に応じて発信・公開できる知識・技術・論理的思考力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
簡易的なコンピュータ言語を用いた作成演習を中心とし、並行して基礎知識や周辺情報の説明を行います。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	Web の基本概念	基礎知識、操作、雛形の作成
第 3 回	文章の記述と制御	文字入力、文章記述、修飾と制御
第 4 回	画像の表示とリンク	画像の表示、リンクの作成
第 5 回	画像・リンクの応用	画像・リンクの制御、レイアウト
第 6 回	リストとテーブル	ページの構成（箇条書きと表）
第 7 回	ページの分割表現	メニューの作成、全体の構成
第 8 回	パスの設定、CSS	ページの修飾、基本部分のまとめ
第 9 回	フォームと作成ツール	フォームとページ作成の現状
第 10 回	Web デザインの基本	Web ページのデザイン技術
第 11 回	スクリプト言語の基本	プログラムの基礎と文字表示
第 12 回	イベントと応答	動きのあるページの作成
第 13 回	変数と繰り返し	変数の利用、処理の繰り返し
第 14 回	総合的な Web 作成	総合実習・全般的な補足と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
Web 作成関連の書籍のうち、比較的初心者向けのものが広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
「コンピュータ入門」の類の履修、または同等の知識を習得しておくことを勧めます。

【Outline and objectives】
The web and related applications are useful as a means of obtaining and publication of various information. The objective is studying basic skills and knowledge of the web and related technologies. This lesson will focus on practical training.

PRI100JB

コンピュータ応用（ビジネススキル）

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ言語による表計算環境の制御を実習の中心に据え、ICT・情報リテラシーのスキル習得の一環として、応用的・実践的な知識や技能の習得を目指します。

【到達目標】
社会生活にて必要な ICT 関連の知識・技術を習得し、使用できる。資格取得や業務・実践的な用途など各自の目的に対し、問題解決に必要な知識・技術や論理的思考力をもち、適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ言語を用いた作成演習を中心とし、並行して基礎知識や周辺情報の説明を行います。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	ビジネスソフトの基本	基礎知識・操作、復習
第 3 回	表計算ソフトの制御	制御の概念と言語の使用
第 4 回	文書作成の基本から	基礎的な文書作成、資格試験
第 5 回	応用的な文書作成	実務で必要な技術、応用
第 6 回	プレゼンの応用	スライドデザインと発表
第 7 回	表計算の基礎と復習	基本的な知識・技術の確認
第 8 回	表計算の応用	応用的な使い方・グラフ
第 9 回	表計算データ活用	小計・集計の応用例
第 10 回	プログラムの基本	プログラムの基礎と文書の制御
第 11 回	計算処理の基本	集計データの取り扱い
第 12 回	自作関数と命令	必要な処理の作成
第 13 回	条件分岐と制御	計算処理・分岐処理・処理の分割
第 14 回	総合的な演習	総合実習・全般的な補足やまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
情報リテラシー関連の書籍のうち、初心者向け以降のもの。逆に実習で使用する Excel マクロ関連は初心者向けのものが広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
「コンピュータ入門」の類の履修、または同等の知識を習得しておくことを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire applied and practical skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100JC

コンピュータ応用（ビジネススキル）

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ言語による表計算環境の制御を実習の中心に据え、ICT・情報リテラシーのスキル習得の一環として、応用的・実践的な知識や技能の習得を目指します。

【到達目標】
社会生活にて必要な ICT 関連の知識・技術を習得し、使用できる。資格取得や業務・実践的な用途など各自の目的に対し、問題解決に必要な知識・技術や論理的思考力をもち、適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ言語を用いた作成演習を中心とし、並行して基礎知識や周辺情報の説明を行います。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	ビジネスソフトの基本	基礎知識・操作、復習
第 3 回	表計算ソフトの制御	制御の概念と言語の使用
第 4 回	文書作成の基本から	基礎的な文書作成、資格試験
第 5 回	応用的な文書作成	実務で必要な技術、応用
第 6 回	プレゼンの応用	スライドデザインと発表
第 7 回	表計算の基礎と復習	基本的な知識・技術の確認
第 8 回	表計算の応用	応用的な使い方・グラフ
第 9 回	表計算データ活用	小計・集計の応用例
第 10 回	プログラムの基本	プログラムの基礎と文書の制御
第 11 回	計算処理の基本	集計データの取り扱い
第 12 回	自作関数と命令	必要な処理の作成
第 13 回	条件分岐と制御	計算処理・分岐処理・処理の分割
第 14 回	総合的な演習	総合実習・全般的な補足やまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
情報リテラシー関連の書籍のうち、初心者向け以降のもの。逆に実習で使用する Excel マクロ関連は初心者向けのものが広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
「コンピュータ入門」の類の履修、または同等の知識を習得しておくことを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire applied and practical skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100JB

コンピュータ入門Ⅰ

但馬　文昭

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本学部の柱となる福祉、心理、地域づくりを学習する上で必須となる Information and Communication Technology (ICT) 活用技術の習得を目的として、コンピュータの基本操作技能、知識、情報収集、文書作成・管理等を学びます。

【到達目標】
・コンピュータの基本操作技能を持ち、情報収集、文書作成・管理等ができる。
・Word を使って図・写真・画像を交えた公式文書等を作成できる。
・HTML 言語を使って基本的な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Word および HTML 言語を使用して公式文書作成技能と基本的な Web ページを作成技能を実習形式で学習します。概ね授業計画に沿って実施しますが、進度状況等により変更する場合があります。授業では、オンライン授業または対面授業を適宜判断して実施します。各回の授業計画や方法に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。毎回授業の課題の解答説明は締め切り後の授業で説明します。修正がある場合は修正して再提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、個人情報管理等
第 2 回	インターネット、電子メール等の利用	コンピュータの基本操作と情報セキュリティ
第 3 回	文書作成と保存・管理	文章入力・保存、フォルダによる管理
第 4 回	文書の体裁	文字飾りとレイアウト機能
第 5 回	表入り文書作成	表の文章のデザイン
第 6 回	図入り文書作成	図と文章のデザイン
第 7 回	図表入り文書作成	図表入り文書の完成
第 8 回	Web ページ作成-基礎	HTML 言語による文章表示
第 9 回	Web ページ作成-応用	箇条書・表等の表示
第 10 回	Web ページ作成-画像等	画像・アニメーション表示
第 11 回	公式文書作成基礎	初級公式文書の作成
第 12 回	公式文書作成応用	中級公式文書の作成
第 13 回	公式文書作成発展	上級公式文書の作成
第 14 回	全体のまとめ	文書作成の総合的課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや毎回の授業課題は学習支援システムで事前事後公開していますので、準備学習・復習に利用してください。
授業中に終えることができなかった課題は宿題として完成させ、学習支援システムに期限までに提出してください。やむを得ず授業を欠席した場合、次の授業の開始前までにその課題の解答を学習支援システムに提出すれば成績評価に反映します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に説明する PDF のテキストを各自がダウンロードします。

【参考書】
情報処理系の教科書、入門書籍、インターネット上の関係する資料等

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で実施する例題や練習課題（３０％程度）
・半期の授業期間の中途での課題（１，２回程度、３０％程度）
・最終授業の課題（４０％程度）

【学生の意見等からの気づき】
学生が様々な事情により、やむを得ず欠席する場合があります。それに対応できるように、学習支援システムにテキストや毎回の授業内容と課題を公開して質問を受け付け、欠席者や準備学習、復習等における学修の支援に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
個人所有のパソコンを使用する場合は、春学期の授業開始前までに、個人所有のパソコンに Office（オンラインバージョンでないもの）がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、大学の情報センター（https://software.k.hosei.ac.jp/win-office/）に問い合わせて、大学で包括契約している Office365 Pro Plus をインストールしてください。

【Outline and objectives】
Information and Communication Technology (ICT) is indispensable in learning about the welfare, psychology and community development. In this course, students aim to be able to utilize ICT effectively.

PRI100JC

コンピュータ入門Ⅰ

但馬　文昭

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本学部の柱となる福祉、心理、地域づくりを学習する上で必須となる Information and Communication Technology (ICT) 活用技術の習得を目的として、コンピュータの基本操作技能、知識、情報収集、文書作成・管理等を学びます。

【到達目標】
・コンピュータの基本操作技能を持ち、情報収集、文書作成・管理等ができる。
・Word を使って図・写真・画像を交えた公式文書等を作成できる。
・HTML 言語を使って基本的な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Word および HTML 言語を使用して公式文書作成技能と基本的な Web ページを作成技能を実習形式で学習します。概ね授業計画に沿って実施しますが、進度状況等により変更する場合があります。授業では、オンライン授業または対面授業を適宜判断して実施します。各回の授業計画や方法に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。毎回授業の課題の解答説明は締め切り後の授業で説明します。修正がある場合は修正して再提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、個人情報管理等
第 2 回	インターネット、電子メール等の利用	コンピュータの基本操作と情報セキュリティ
第 3 回	文書作成と保存・管理	文章入力・保存、フォルダによる管理
第 4 回	文書の体裁	文字飾りとレイアウト機能
第 5 回	表入り文書作成	表の文章のデザイン
第 6 回	図入り文書作成	図と文章のデザイン
第 7 回	図表入り文書作成	図表入り文書の完成
第 8 回	Web ページ作成-基礎	HTML 言語による文章表示
第 9 回	Web ページ作成-応用	箇条書・表等の表示
第 10 回	Web ページ作成-画像等	画像・アニメーション表示
第 11 回	公式文書作成基礎	初級公式文書の作成
第 12 回	公式文書作成応用	中級公式文書の作成
第 13 回	公式文書作成発展	上級公式文書の作成
第 14 回	全体のまとめ	文書作成の総合的課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや毎回の授業課題は学習支援システムで事前事後公開していますので、準備学習・復習に利用してください。
授業中に終えることができなかった課題は宿題として完成させ、学習支援システムに期限までに提出してください。やむを得ず授業を欠席した場合、次の授業の開始前までにその課題の解答を学習支援システムに提出すれば成績評価に反映します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に説明する PDF のテキストを各自がダウンロードします。

【参考書】
情報処理系の教科書、入門書籍、インターネット上の関係する資料等

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で実施する例題や練習課題（３０％程度）
・半期の授業期間の中途での課題（1，２回程度、３０％程度）
・最終授業の課題（４０％程度）

【学生の意見等からの気づき】
学生が様々な事情により、やむを得ず欠席する場合があります。それに対応できるように、学習支援システムにテキストや毎回の授業内容と課題を公開して質問を受け付け、欠席者や準備学習、復習等における学修の支援に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
個人所有のパソコンを使用する場合は、春学期の授業開始前までに、個人所有のパソコンに Office（オンラインバージョンでないもの）がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、大学の情報センター（https://software.k.hosei.ac.jp/win-office/）に問い合わせて、大学で包括契約している Office365 Pro Plus をインストールしてください。

【Outline and objectives】
Information and Communication Technology (ICT) is indispensable in learning about the welfare, psychology and community development. In this course, students aim to be able to utilize ICT effectively.

PRI100JB

コンピュータ入門Ⅰ

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100JC

コンピュータ入門Ⅰ

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100JC

コンピュータ入門Ⅱ

但馬　文昭

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本学部の柱となる福祉、心理、地域づくりを学習する上で必須となる Information and Communication Technology(ICT) 活用技術の習得を目的として、コンピュータの基本操作技能、表計算、データ処理等の基礎を学びます。

【到達目標】
・コンピュータの基本操作技能を身につけ、情報収集、データ処理等ができる。
・Excel を使ってデータ入力、編集、集計、表計算等のデータ処理ができる。
・PowerPoint を使ってプレゼン用の資料を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Excel による表データの入力・編集、集計、表計算等、及び PowerPoint によるプレゼン用スライド作成の技能を実習を通じて学びます。概ね授業計画に沿って実施しますが、進度状況等により変更する場合があります。授業は、オンライン授業または対面授業を適宜判断して実施します。各回の授業計画や方法に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。毎回授業の課題の解答説明は締め切り後の授業で説明します。修正がある場合は修正して再提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、個人情報管理等
第 2 回	コンピュータ操作基礎	PC の基本操作と情報セキュリティ
第 3 回	データの入力	データの入力と保存・管理
第 4 回	データの編集	データの編集、連続データ生成
第 5 回	表の集計	データの一括処理、オートフィル機能
第 6 回	いろいろな関数	いろいろな関数の使い方
第 7 回	表集計課題	これまでの復習と課題演習
第 8 回	グラフ作成	いろいろなグラフ作成
第 9 回	数式・関数	数式作成と関数応用
第 10 回	統計基礎	統計関数の利用
第 11 回	プレゼン用スライド作成	PowerPoint によるスライド作成
第 12 回	プレゼン資料作成	Excel と連携した資料作成
第 13 回	Excel 課題演習	課題毎の適切なグラフ作成
第 14 回	全体のまとめ	表・グラフ・関数計算課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや毎回の授業課題は学習支援システムで事前事後公開していますので、準備学習・復習に利用してください。授業中に終えることができなかった課題は宿題として完成させ、学習支援システムに期限までに提出してください。やむを得ず授業を欠席した場合、次の授業の開始前までにその課題の解答を学習支援システムに提出すれば成績評価に反映します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに用意したテキストを各自が閲覧またはダウンロードします。

【参考書】
情報処理系の教科書、入門書籍、インターネット上の関係する資料等

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で実施する例題や練習課題（３０％程度）
・半期の授業期間の中途での課題（１，２回程度、３０％程度）
・最終授業の課題（４０％程度）

【学生の意見等からの気づき】
学生が様々な事情により、やむを得ず欠席する場合があります。それに対応できるように、学習支援システムにテキストや毎回の授業内容と課題を公開して質問を受け付け、欠席者や準備学習、復習等における学修の支援に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
個人所有のパソコンを使用する場合は、春学期の授業開始前までに、個人所有のパソコンに Office（オンラインバージョンでないもの）がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、大学の情報センター（https://software.k.hosei.ac.jp/win-office/）に問い合わせて、大学で包括契約している Office365 Pro Plus をインストールしてください。

【Outline and objectives】
Information and Communication Technology (ICT) is indispensable in learning about the welfare, psychology and community development. In this course, students aim to be able to utilize ICT effectively.

PRI100JB

コンピュータ入門Ⅱ

但馬　文昭

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本学部の柱となる福祉、心理、地域づくりを学習する上で必須となる Information and Communication Technology(ICT) 活用技術の習得を目的として、コンピュータの基本操作技能、表計算、データ処理等の基礎を学びます。

【到達目標】
・コンピュータの基本操作技能を身につけ、情報収集、データ処理等ができる。
・Excel を使ってデータ入力、編集、集計、表計算等のデータ処理ができる。
・PowerPoint を使ってプレゼン用の資料を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Excel による表データの入力・編集、集計、表計算等、及び PowerPoint によるプレゼン用スライド作成の技能を実習を通じて学びます。概ね授業計画に沿って実施しますが、進度状況等により変更する場合があります。授業は、オンライン授業または対面授業を適宜判断して実施します。各回の授業計画や方法に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。毎回授業の課題の解答説明は締め切り後の授業で説明します。修正がある場合は修正して再提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、個人情報管理等
第 2 回	コンピュータ操作基礎	PC の基本操作と情報セキュリティ
第 3 回	データの入力	データの入力と保存・管理
第 4 回	データの編集	データの編集、連続データ生成
第 5 回	表の集計	データの一括処理、オートフィル機能
第 6 回	いろいろな関数	いろいろな関数の使い方
第 7 回	表集計課題	これまでの復習と課題演習
第 8 回	グラフ作成	いろいろなグラフ作成
第 9 回	数式・関数	数式作成と関数応用
第 10 回	統計基礎	統計関数の利用
第 11 回	プレゼン用スライド作成	PowerPoint によるスライド作成
第 12 回	プレゼン資料作成	Excel と連携した資料作成
第 13 回	Excel 課題演習	課題毎の適切なグラフ作成
第 14 回	全体のまとめ	表・グラフ・関数計算課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや毎回の授業課題は学習支援システムで事前事後公開していますので、準備学習・復習に利用してください。授業中に終えることができなかった課題は宿題として完成させ、学習支援システムに期限までに提出してください。やむを得ず授業を欠席した場合、次の授業の開始前までにその課題の解答を学習支援システムに提出すれば成績評価に反映します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに用意したテキストを各自が閲覧またはダウンロードします。

【参考書】
情報処理系の教科書、入門書籍、インターネット上の関係する資料等

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で実施する例題や練習課題（３０％程度）
・半期の授業期間の中途での課題（1，２回程度、３０％程度）
・最終授業の課題（４０％程度）

【学生の意見等からの気づき】
学生が様々な事情により、やむを得ず欠席する場合があります。それに対応できるように、学習支援システムにテキストや毎回の授業内容と課題を公開して質問を受け付け、欠席者や準備学習、復習等における学修の支援に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
個人所有のパソコンを使用する場合は、春学期の授業開始前までに、個人所有のパソコンに Office（オンラインバージョンでないもの）がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、大学の情報センター（https://software.k.hosei.ac.jp/win-office/）に問い合わせて、大学で包括契約している Office365 Pro Plus をインストールしてください。

【Outline and objectives】
Information and Communication Technology (ICT) is indispensable in learning about the welfare, psychology and community development. In this course, students aim to be able to utilize ICT effectively.

PRI100JC

コンピュータ入門Ⅱ

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】
事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100JB

コンピュータ入門Ⅱ

名児耶　厚

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】
事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書（書籍）は使用しません。進捗に合わせて電子データでテキストを配布します。

【参考書】
基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI200JB

社会調査法Ⅰ

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、社会調査の歴史や方法および具体的な事例の学習を通じて、その社会的・学術的意義に関する理解を深める。またそのことを通じて、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを向上させることが、社会調査を取り巻く現在の状況との関連で今後ますます重要となることを学ぶ。

【到達目標】
社会調査とはどのようなものであるかをイメージすることができるようになる。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は秋学期の「社会調査の方法（社会調査Ⅱ）」とセットで受講することが望ましい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査の目的と意義	社会調査の目的と意義
2	社会調査の歴史（1）	社会調査とその時代的背景
3	社会調査の歴史（2）	社会調査とその時代的背景
4	国による調査の紹介	国勢調査などの基幹統計とその意義
5	社会調査の種類	さまざまな分類方法の紹介
6	量的調査と質的調査	共通点と相違点
7	量的調査を用いた研究の紹介（1）	自殺論を読む
8	量的調査を用いた研究の紹介（2）	自殺論を読む
9	質的調査を用いた研究の紹介（1）	ストリートコーナーソサエティを読む
10	質的調査を用いた研究の紹介（2）	ストリートコーナーソサエティを読む
11	量的調査と質的調査の組み合わせ（1）	方法の組み合わせ（トライアンギュレーション、ミックスドメソッド）
12	量的調査と質的調査の組み合わせ（2）	担当教員がおこなう調査・研究の紹介
13	学術的調査以外の調査の紹介	マーケティング調査など
14	社会調査を取り巻く現状と課題	調査倫理・個人情報の保護・調査リテラシーまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業資料や参考書をもとに、準備学習・復習をすすめる。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
轟亮・杉野勇編，2013,『入門・社会調査法 [第 2 版]』法律文化社.
佐藤郁哉，2006,『フィールドワーク――書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社.
E. デュルケム（宮島喬訳），『自殺論』中公文庫.
W.F. ホワイト（奥田道大・有里典三訳），『ストリート・コーナーソサエティ』有斐閣.
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（25 %）、コメントシート（5 %）、試験（70 %）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
To develop a basic understanding of histories and the different methodological traditions of the social research.

PRI200JC

心理学統計法

服部　環

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計解析用ソフトウェアの R 言語を使い、心理学統計法について、特に心理学で用いられる記述統計と推測統計を中心に実践的技術を習得します。

【到達目標】
心理学で用いられる統計学的方法を理解し、研究仮説に応じて適切なデータ解析法を選択でき、心理学統計法を実践的に実行できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と PC を用いた実習を並行します。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	内容説明、使用する機材等の確認
第 2 回	基本的演算	基礎知識、演算記号の理解と使用
第 3 回	代表値と散布度	基本的な統計量とデータについて
第 4 回	2 変数の関係	変数同士の関係性について
第 5 回	相関係数	共分散と相関係数、データの把握
第 6 回	連関	連関、χ 2 乗値、連関係数
第 7 回	回帰分析	単回帰分析と統計量
第 8 回	正規分布	確率分布の基本について
第 9 回	2 項分布	2 項分布から様々な分布へ
第 10 回	有意性検定	推測統計の基礎と考え方
第 11 回	1 標本の t 検定	平均値の検定から様々な検定へ
第 12 回	2 標本の t 検定	推測統計の概要・応用
第 13 回	無相関検定	各種検定・推定の利用
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト・課題等を課しますので、必ず提出して下さい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
読んでわかる心理統計法（服部　環・山際勇一郎［著］　サイエンス社）

【参考書】
服部　環・海保博之　Q&A 心理データ解析（福村出版）
山際勇一郎・服部　環　文系のための SPSS データ解析（ナカニシヤ出版）
服部　環　心理・教育のための R によるデータ解析（福村出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト（50 %）と期末試験の結果（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
はじめて R 言語を使用する人が多いと思いますので、最初に説明します。また、自宅の Windows パソコンで R 言語を使用する方法を説明します。なお、情報実習室で利用するパソコンは Windows パソコンです。
受講生が積極的に授業へ参加できるよう工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。
学習支援システムを用いて資料を配付しますので、読み取りができるよう準備をしておいて下さい。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。

【Outline and objectives】
This course will provide students with basic concepts of psychological statistics and statistical computing methods. Topics covered include descriptive measures, measures of relationship, statistical inference, and hypothesis testing. The primary purpose of the course is to help students become familiar with basic concepts of psychological statistics and data analysis using R.

PRI200JB

社会調査法 Ⅱ

現代福祉学部教員

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、社会調査データの創出・整理・保存・公開というサイクルを踏まえ、それぞれの段階における具体的な手続きを学んでいく。とりわけ、社会調査の企画段階からその実施に至るまでのプロセスについては、複数のトピックに分けて細かく検討していく。

【到達目標】
本講義を通じ、受講生は社会調査を企画した上で実施し、得られたデータを適切な形で整理・保存・寄託するための一連の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
Hoppii を利用して配布する授業資料をもとに、学習をすすめます。
授業資料は PowerPoint で作成し、PDF で配布します。
この科目は春学期の「社会調査入門（社会調査 I ）」とセットで履修することが望ましい。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査の企画	目的　予算　組織　調査デザイン
2	調査方法を選ぶ（1）	面接　郵送　電話　インターネット
3	調査方法を選ぶ（2）	フィールドワーク　インタビュー　参与観察
4	調査対象を確定する	母集団と標本　サンプリング
5	社会調査に伴う誤差	標本誤差と非標本誤差
6	質問文・調査票の作成（1）	概念から指標へ　変数と値
7	質問文・調査票の作成（2）	質問の形式　ワーディング
8	質問文・調査票の作成（3）	選択肢のつくり方
9	質問文・調査票の作成（4）	調査趣旨書のつくり方
10	調査の実施方法	具体的な手順を考える
11	調査データの整理	エディティング　コーディング　データ入力　クリーニング　フィールドノート
12	データを保存する	調査票の管理、基礎集計表・コードブック・記録文書・報告書の作成
13	データを寄託する	公共財としての社会調査　一次データと二次データ　データアーカイブの紹介
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業資料や参考書をもとに、準備学習・復習をすすめる。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
盛山和夫，2004，『社会調査法入門』有斐閣.
佐藤博樹・石田浩・池田謙一編，2000，『社会調査の公開データ―― 2 次分析への招待』東京大学出版会.
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標の達成を中間・期末試験で評価し（80 %）、講義への積極性（20 %）を毎回のリアクションの提出状況と内容から評価します。
・中間・期末試験は、レポート形式を予定しています。
・リアクションは、Hoppii で受け付けます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This class intends students to understand general procedures to conduct quantitative survey in order to answer a research question of their choice. Covering topics include constructing a good questionnaire, sampling methods, secondary analysis of existing data, and so on.

PRI200JC

心理データ解析

服部　環

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計的仮説検定と多変量解析法を中心として，主に統計解析用パソコンソフトウェア R 言語を利用しながら心理データ解析の技法を学びます。

【到達目標】
心理学の研究で頻繁に利用される技法の考え方と心理データへの適用方法を理解すること，さらに，そうした技法が算出する統計量を適切に解釈できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿った講義と実習を繰り返していきます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と計画，使用機器，必要なパッケージを確認します
第 2 回	基本的統計量（代表値と散布度）	代表値と散布度について学びます
第 3 回	基本的統計量（共分散と相関係数）	共分散と相関係数を学びます
第 4 回	統計的仮説検定	統計的仮説検定を復習します
第 5 回	分散分析の基礎	分散分析の考え方を学びます
第 6 回	参加者間 1 要因の分散分析	参加者間 1 要因の分散分析を学びます
第 7 回	参加者内 1 要因の分散分析	参加者内 1 要因の分散分析を学びます
第 8 回	参加者間 2 要因の分散分析	参加者間 2 要因の分散分析を学びます
第 9 回	単回帰分析	単回帰分析を通して回帰分析の考え方を学びます
第 10 回	重回帰分析	重回帰分析の基礎、変数選択法について学びます
第 11 回	因子分析	因子分析の基礎、因子負荷量の推定、因子軸の回転方法について学びます
第 12 回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの基礎を学びます
第 13 回	統計的仮説検定に関する復習	平均値、相関係数、連関、分散分析に関する検定を復習します
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
段階的に解析法を学んでいきますので，復習が大切です。課題を課しますので、提出して下さい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
読んでわかる心理統計法（服部　環・山際勇一郎［著］　サイエンス社）

【参考書】
服部　環・海保博之　Q&A 心理データ解析（福村出版）
山際勇一郎・服部　環　文系のための SPSS データ解析（ナカニシヤ出版）
服部　環　心理と教育のための R によるデータ解析（福村出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト（50 %）と期末試験の結果（50 %）を総合して評価します。。

【学生の意見等からの気づき】
最初に心理学統計法（春学期）の復習をしますが、心理学統計法で説明した基礎的事項を受講生が理解・習得できていることを前提に授業を進めます。受講生が積極的に授業へ参加できるよう工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いて資料を配付しますので、読み取りができるよう準備をしておいて下さい。

【Outline and objectives】
This course is the second part of a two-part series for statistical methods in psychology. Students will learn about one- and two-way ANOVA, multiple comparison of means, multiple regression analysis, and factor analysis. The primary goal of the course is to help students develop skills necessary to conduct multivariate statistical analysis.

PRI100JB

社会福祉調査

岡田　栄作

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉士には、Evidence Based Practice (EBP; 根拠に基づいた実践) が必要とされています。また、社会調査のスキルは、社会福祉の学習において、身に着けるべき基礎的能力の 1 つです。この講義では、基礎的な社会福祉調査に関するポイントやリサーチ・リテラシーを身に着けることを通じて、より信頼性や妥当性の高い研究成果を創出できるようになることを目指します。

【到達目標】
①社会福祉調査の目的や意義について理解を深める。
②研究課題の設定とその手順について理解する。
③情報・データの収集と分析方法について理解をする。
④調査計画書を作成できる。
⑤面接紙やインタビューガイドの作成方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、教室内での講義のほか、グループディスカッションなどのグループワークや、プレゼンテーションを行います。また、授業内容の理解度を確認するため、リアクションペーパーを提出してもらいます。さらに、教室外での問題解決学習や調査学習を行います。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会福祉調査の意義と目的
第 2 回	調査研究の倫理	社会調査における倫理・個人情報保護
第 3 回	研究課題の設定と手順	研究の流れや問いの設定
第 4 回	文献研究	文献検索と文献研究の方法
第 5 回	データの収集方法と種類	量的調査と質的調査の特徴
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成意義・作成方法
第 7 回	量的調査の方法①	量的調査の性質と情報収集方法
第 8 回	量的調査の方法②	量的調査の集計と分析
第 9 回	質的調査の方法①	質的調査の性質と情報収集方法
第 10 回	質的調査の方法②	質的調査のデータの整理と分析方法
第 11 回	社会調査における IT の活用	課題設定・情報収集・分析における IT の活用
第 12 回	調査のまとめと発表方法	報告書・論文の作成、口頭発表の方法
第 13 回	調査論文のクリティーク	調査論文のクリティークの実施
第 14 回	まとめ	調査研究計画書の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究計画書を最終レポートとして提出してもらいますので、授業と並行して、調査研究計画書の作成に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】
・平岩尚ら（2008）ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法、ミネルヴァ書房
・宮本和彦ら（2019）社会調査の基礎、弘文堂
・岩田正美ら（2011）社会福祉研究法、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度 30 %、小テスト 20 %、最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
適宜、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
Evidence Based Practice is urgently required for social workers. Social work research skill is one of the basic abilities for students of social work. This course aims at having students a basic knowledge of social work research and research literacy. And this course also helps acquire academic skills to produce more appropriate and credible research results.

PRI100JC

統計学

松﨑　圭佑

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの情報が錯そうしている昨今では，データに振り回されるのではなく，データを正しく把握し，分析する能力を培うことが求められている。そこで，本授業では，現代社会のさまざまな問題を理解し，把握するための統計データによる分析方法を学ぶ。基本概念の正しい理解と基礎的手法の活用を学習する。

【到達目標】
統計学の基本概念と基礎的な統計手法を理解し，適切な統計手法を用いて調査データの分析を行うことができるようになることを目標とする。また、社会生活の様々な場面において統計的な視点から考えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回一つの統計手法を学ぶ。授業では，統計的なものの見方・考え方を講義で伝えた上で，実際に手計算やパソコンを使った実習を行う。
分析に用いるソフトは，Excel，R，SPSS を予定している。オンラインでの開講の場合には SPSS は使用しない予定です。
受講者の人数や理解度，関心に合わせて授業計画は適宜変更することがあります。
授業ごとに小テストを設け，授業の理解度を確認すると共に質問を受け付け，次の授業時に回答する時間を設ける。
オンラインでの開講となる場合にはオンデマンド形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・統計学の意義	統計学を用いる意義を学び，データに騙されない素地を作る。
第 2 回	社会調査と標本調査法	統計学を用いる前提となる，社会調査における標本抽出法について説明する。
第 3 回	度数分布表とヒストグラム	様々な分布（正規分布や確率分布）について説明する。
第 4 回	平均値と標準偏差	標準偏差の意味について説明する。平均値，標準偏差を計算する。
第 5 回	記述統計と推測統計 (1)	基本的な記述統計量について扱う。エクセル，SPSS，R を使った方法を紹介する。
第 6 回	記述統計と推測統計 (2)	推測統計の原理，推測統計量について紹介する。エクセル，SPSS，R を使った方法を紹介する。
第 7 回	２つの変数の関係を調べる (1)	カイ 2 乗検定の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 8 回	２つの変数の関係を調べる (2)	相関係数の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 9 回	２つの変数の関係を調べる (3)	回帰分析の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 10 回	統計的検定	統計的検定の原理の説明とエクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 11 回	平均値の差の検定	2 つのグループ間の平均値の差の検定を行う。
第 12 回	分散分析	分散分析の考え方を説明する。分散分析の実際の手順を説明する。
第 13 回	妥当性と信頼性	調査や実験の妥当性と信頼性について説明する。
第 14 回	手法の活用	学んだ手法を活用して，調査データを分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高度な数学の知識は必要ない。表計算ソフト（Excel）や場合によっては、統計ソフト（SPSS または R）を用いて分析を行う。内容によっては難しい分析があるので，予習復習は欠かさないこと。また，簡単な課題の提出を求めるときがある 。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内にて適宜資料を配布する。

【参考書】
ダレル・ハフ (著), 高木 秀玄 (訳)　統計でウソをつく法―数式を使わない統計学入門 (ブルーバックス)
トーマス ギロビッチ (著), 守 一雄, 守 秀子 (訳) 人間この信じやすきもの―迷信・誤信はどうして生まれるか 新曜社
山田剛史・村井潤一郎 (著) よくわかる心理統計　ミネルヴァ書房
その他，必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合には，期末課題（50%），小テストなど授業中の課題（50%）で評価します。
オンラインで開講する場合には，小テスト（50%），期末課題（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エクセルを使った実習の際には，不慣れな学生にもわかりやすい手順の説明を心がけたい。
また，SPSS，R など統計分析ソフトの使い方も随時，紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内ではパソコンを使用することがあるため，USB または SD カードなどの電子記録媒体を用意することが望ましい。ただし，第 1 回目には持参の必要はない。詳細は追って授業内で説明するため，受講希望者は授業初回のガイダンスに出席すること。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システム等を通じ伝達する。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to provide a theoretical background and practical experience to statistics for psychology, sociology, social welfare, and other behavioral sciences.　Statistics are the tools we use to summarize and describe the world around us and to explore the causal processes at work.　In this course will cover topics including: principles of measurement, measures of central tendency and variability, probability and distributions, correlation and regression, hypothesis testing, t-tests, and chi-square tests.

PRI100JB

統計学

松﨑　圭佑

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの情報が錯そうしている昨今では，データに振り回されるのではなく，データを正しく把握し，分析する能力を培うことが求められている。そこで，本授業では，現代社会のさまざまな問題を理解し，把握するための統計データによる分析方法を学ぶ。基本概念の正しい理解と基礎的手法の活用を学習する。

【到達目標】
統計学の基本概念と基礎的な統計手法を理解し，適切な統計手法を用いて調査データの分析を行うことができるようになることを目標とする。また、社会生活の様々な場面において統計的な視点から考えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回一つの統計手法を学ぶ。授業では，統計的なものの見方・考え方を講義で伝えた上で，実際に手計算やパソコンを使った実習を行う。
分析に用いるソフトは，Excel，R，SPSS を予定している。オンラインでの開講の場合には SPSS は使用しない予定です。
受講者の人数や理解度，関心に合わせて授業計画は適宜変更することがあります。
授業ごとに小テストを設け，授業の理解度を確認すると共に質問を受け付け，次の授業時に回答する時間を設ける。
オンラインでの開講となる場合にはオンデマンド形式を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・統計学の意義	統計学を用いる意義を学び，データに騙されない素地を作る。
第 2 回	社会調査と標本調査法	統計学を用いる前提となる，社会調査における標本抽出法について説明する。
第 3 回	度数分布表とヒストグラム	様々な分布（正規分布や確率分布）について説明する。
第 4 回	平均値と標準偏差	標準偏差の意味について説明する。平均値，標準偏差を計算する。
第 5 回	記述統計と推測統計 (1)	基本的な記述統計量について扱う。エクセル，SPSS，R を使った方法を紹介する。
第 6 回	記述統計と推測統計 (2)	推測統計の原理，推測統計量について紹介する。エクセル，SPSS，R を使った方法を紹介する。
第 7 回	２つの変数の関係を調べる (1)	カイ 2 乗検定の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 8 回	２つの変数の関係を調べる (2)	相関係数の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 9 回	２つの変数の関係を調べる (3)	回帰分析の紹介，エクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 10 回	統計的検定	統計的検定の原理の説明とエクセルを用いた実習。SPSS，R を使った方法も紹介する。
第 11 回	平均値の差の検定	2 つのグループ間の平均値の差の検定を行う。
第 12 回	分散分析	分散分析の考え方を説明する。分散分析の実際の手順を説明する。
第 13 回	妥当性と信頼性	調査や実験の妥当性と信頼性について説明する。
第 14 回	手法の活用	学んだ手法を活用して，調査データを分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高度な数学の知識は必要ない。表計算ソフト（Excel）や場合によっては、統計ソフト（SPSS または R）を用いて分析を行う。内容によっては難しい分析があるので，予習復習は欠かさないこと。また，簡単な課題の提出を求めるときがある 。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内にて適宜資料を配布する。

【参考書】
ダレル・ハフ (著), 高木 秀玄 (訳)　統計でウソをつく法―数式を使わない統計学入門 (ブルーバックス)
トーマス ギロビッチ (著), 守 一雄, 守 秀子 (訳) 人間この信じやすきもの―迷信・誤信はどうして生まれるか 新曜社
山田剛史・村井潤一郎 (著) よくわかる心理統計　ミネルヴァ書房
その他，必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合には，期末課題（50%），小テストなど授業中の課題（50%）で評価します。
オンラインで開講する場合には，小テスト（50%），期末課題（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エクセルを使った実習の際には，不慣れな学生にもわかりやすい手順の説明を心がけたい。
また，SPSS，R など統計分析ソフトの使い方も随時，紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内ではパソコンを使用することがあるため，USB または SD カードなどの電子記録媒体を用意することが望ましい。ただし，第 1 回目には持参の必要はない。詳細は追って授業内で説明するため，受講希望者は授業初回のガイダンスに出席すること。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針レベルが 2 となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システム等を通じ伝達する。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to provide a theoretical background and practical experience to statistics for psychology, sociology, social welfare, and other behavioral sciences.　Statistics are the tools we use to summarize and describe the world around us and to explore the causal processes at work.　In this course will cover topics including: principles of measurement, measures of central tendency and variability, probability and distributions, correlation and regression, hypothesis testing, t-tests, and chi-square tests.

PRI100JB

データの収集と分析 I

澤岡　詩野

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まちづくりや福祉の現場での実習，卒業研究や就職活動，これからの仕事の現場では，自分の想いや考えを数値という根拠を示しつつ，プレゼンテーションする機会がますます増えていきます．
データの収集と分析 I では，貴方が発信したいことを証明するための正しい「データの収集の方法」と「分析の方法」を学ぶことを目的とします．
講義で扱うのは難しい統計解析ではなく，基本に立ち返り，正しくデータを見ること，データをシンプルに見せる方法です．

【到達目標】
簡単に使える統計ソフトの普及で，誰もが高度な（にみえる）分析ができる時代になりつつあります．
そんな時代に求められのが，データを正しく見る目，氾濫するデータに騙されない目といえます．
これは今後，業種に関わらずすべての仕事で求められ，生活者としても持っておかなければならない能力といえます．
この講義では，データの収集方法からエクセルでできる基本的な分析までを実習形式で体験することで，データを正しく使える目を養うことを到達目標としています．
これに加え，Ⅱでは集めたデータをわかりやすく見せるプレゼンテーション技術を学びます．ⅠとⅡを併せて受講することを強く推奨します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，正しいデータ収集の方法を学びながら，「法政大学の学生生活実態調査」を題材に，より有用な質問文や選択肢の作り方を考えます．
後半は，実際に作成した「生活実態調査」でアンケート調査を実施して収集したデータを使い，基本となる分析方法と結果の見せ方を学びます．
また，各授業の最初には「今日の気になる数字」と題し，最近の社会を騒がすデータを紹介し，データの集め方や見せ方の問題点をお話しします．
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回目	ガイダンス	授業の意図，進め方について説明．受講者が講義で取り組みたい内容についても意見交換．
第二回目	データの落とし穴を考えてみよう！	世の中に氾濫するデータを例に，読み取る際に気を付けるポイントを学ぶ．
第三回目	アンケートを失敗しないためのデータの集め方とは？	データ収集の代表的な調査であるアンケートの「サンプリング」について学ぶ．
第四回目	アンケートを失敗しないための言葉の使い方とは？	データ収集の代表的な調査であるアンケートの「ワーディング」について学ぶ．
第五回目	アンケートを作成してみよう！	正確なデータを収集するための調査票の作成方法を学ぶ．

第六回目	プレ調査でアンケートの完成度を高めよう！	質問文や選択肢の妥当性を検討する方法を学ぶ.
第七回目	アンケートを実施してデータをつくってみよう！	アンケートの実施から，分析するためのデータシートのつくり方を学ぶ.
第八回目	データをクリーニンしてみよう！	分析にむけてデータを加工する方法を学ぶ.
第九回目	データの特徴を数値で現す方法を学ぼう！	J リーガーの年棒データを使い，「代表値」の考え方，使い方を学ぶ.
第十回目	データの特徴を数値で伝えてみよう！	第八回目までに収集したデータを使い，「代表値」への理解を深める.
第十一回目	データの特徴をビジュアルで現す方法を学ぼう！	J リーガーの年棒データを使い，グラフなど，「視覚的」に数値の特徴を見せる方法を学ぶ.
第十二回目	相手を意識したビジュアル表現の方法を学ぼう！	J リーガーの年棒データを使い，「対象に応じた」グラフの見せ方を学ぶ.
第十三回目	データの特徴をビジュアルで伝えてみよう！	第八回目までに収集したデータを使い，「ビジュアル」で表現する方法への理解を深める.
第十四回目	レポートで結果を発信する	第三者に簡潔に結果を伝えるための「レポートのまとめ方」を学ぶ.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題は出しませんが，毎回の課題を授業内に完成させるための下調べと復習に各 2 時間程度の時間を確保してください.
併せて，授業外でネットやテレビのニュースを見るときには，常に「どうやって集めたデータなのだろう？」「どういう分析をしたのだろう？」と疑ってかかることを繰り返して下さい．世間に氾濫するデータや情報をそのまま受け入れない正しい目を養うことができます.

【テキスト（教科書）】
授業中に資料を配布します.

【参考書】
必要に応じて，適時，紹介します.

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません.
講義への出席 (50%)，講義内で行う課題の提出 (30%)，最終のプレゼンテーション (20%) で総合的に評価します.
課題は講義時間内にできた範囲の成果物を提出してもらいます.
原則的に講義で自分の頭で考え，課題として提出することが必須になります.

【学生の意見等からの気づき】
何が学びたいのかを受講者のみなさんと意見交換し，授業のなかに加えていきたいと考えています．リクエストをお待ちしています！

【学生が準備すべき機器他】
実習室のパソコンを使いますので特に準備すべき機器はありません．普段使っているパソコンを使いたいという希望がある場合は相談して下さい.

【その他の重要事項】
Ⅱでは，Ⅰで習得したことをより的確に相手にプレゼンテーションするための方法を学びます．ⅠとⅡは連続で履修することを強く推奨します.

【Outline and objectives】
In town planning and welfare workshops, opportunities to present presentation as evidence will increase more and more. The purpose of lecture is to learn "how to collect correct data" and "how to analyze".
We do not handle difficult statistical analysis in the lecture. In the lecture, you will learn how to view the data correctly and show the data simple.

PRI100JB

データの収集と分析Ⅱ

澤岡　詩野

科目分類・科目群：**総合教育科目　情報・調査系科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の想いや考えを数値という根拠を示しつつプレゼンテーションできる能力は，まちづくりなどのフィールドワークやインターン，就職してからも求められるチカラといえます.
データの収集と分析Ⅱでは，Ⅰで学んできた「テーマ・仮説に応じたデータの分析」方法を継続して学ぶと共に，「効果的なプレゼンテーション」の方法を学ぶことを目的とします.
なお，プレゼンテーションは聴く人との対話であり，派手でかっこよく見えても相手に伝わっていなければ意味がありません．聴く人に応じた見せ方を体得することを目指します.

【到達目標】
Ⅰに引き続き，あなたの抱えるテーマ・仮説に応じた基本的な分析方法の習得を目指します.
同時に，それらを聴く人の年齢や立場により「いかにシンプルに伝えるか？」をテーマに，効果的なプレゼンテーションの方法を学びます.
講義では毎回，小グループで各回に設定したテーマについてのグループディスカッションを行います．このことで，客観的に物事を考える視点，チームでプレゼンテーションを組み立てる力が得られることが期待されます.
「データの収集と分析Ⅱ」はⅠで学んだ内容をベースに実習を行いますので，「データの収集と分析Ⅰ」は必ず履修してください.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
「データでみる県勢 2020」(人口・産業・教育・電子機器の普及状況など，多様な視点から都道府県の力を現したデータ) を用い，仮説に基づいた分析方法を体得します.
同時に，パワーポイントを使い，対象に応じて効果的にプレゼンテーションする方法を実習します.
また，各授業の最初には「今日の気になる数字」と題し，最近の社会を騒がすデータを紹介し，データの集め方や見せ方の問題点をお話しします.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回目	ガイダンス	授業の意図，進め方について説明．受講者が講義で取り組みたい内容についても意見交換.
第二回目	「共感」を呼ぶとは？	そもそもの「共感」を呼ぶ方法を考える.
第三回目	「仮説」を考えてみよう！	「仮説」をたてる意味と考え方を学ぶ.
第四回目	「相関係数」を使って仮説を分析してみよう！	変数間の関係性を分析する「相関係数」の考え方を学ぶ.
第五回目	正しく相関係数を読み取るための方法を学んでみよう！	自分で仮説をたて，変数間の関係性を検証する.
第六回目	「クロス集計」を使って仮説を分析してみよう！	「クロス集計」の考え方を学ぶ.
第七回目	数字と数字の関係を「ビジュアル」で現してみよう	相関係数をビジュアル「散布図」で現す方法を学ぶ.
第八回目	パワーポイントで発表するために必要な「準備」とは？	「パワーポイント」を作成する前に必要な準備メモの作り方を学ぶ.
第九回目	パワーポイント作成のための「基礎」	スライドの構成から文字の大きさ，色の使い方などの基礎を学ぶ.
第十回目	「共感」を呼ぶパワーポイントの作り方	パワーポイントを「バージョンアップ」する方法を学ぶ.
第十一回目	「子どもの貧困」を分析してみよう！	県勢 2020 のデータを用い，子どもの貧困に関する仮説を考え，分析する
第十二回目	分析結果をパワーポイントにまとめてみよう！	分析結果を発信するためのパワーポイントを作成しつつ，相手を意識した作成方法を学ぶ.
第十三回目	改めて「共感」をよぶプレゼンテーションを考えよう！	「共感」をよぶプレゼンテーションのポイントを学ぶ.

第十四回 「プレゼンテーション」し 実際に発表し，質疑応答を行う．
目 てみよう！

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題は出しませんが，毎回の課題を授業内に完成させるための下調べと復習に各 2 時間程度の時間を確保してください．
併せて，プレゼンテーションしたい相手にとっての「わかりやすさ」を知るために，通学途中やバイトなどで出会う多様な人に関心をもち，様々な場を体験するようにしてください．これにより，伝えたい相手の理解力，心に刺さるキーワード，おかれている立場を想像する力が養われます．

【テキスト（教科書）】
授業中に資料を配布します．

【参考書】
必要に応じて，適時，紹介します．

【成績評価の方法と基準】
授業への出席 (50%)，授業内で出される課題 (30%)，最終のプレゼンテーション (20%) で総合的に評価します．
授業で自分の頭で考え，その結果を課題という形で提出することが必須の科目です．
なお，データの収集と分析Ⅰと連動した内容になりますので，Ⅱのみを受講する際は事前に講師に相談して下さい．

【学生の意見等からの気づき】
何が学びたいのかを受講者のみなさんと意見交換し，授業のなかに加えていきたいと考えています．リクエストをお待ちしています！

【学生が準備すべき機器他】
実習室のパソコンを使いますので，特に準備の必要な機器はありません．普段使っているパソコンを使用したい場合は相談してください．

【その他の重要事項】
データの収集と分析Ⅰで学んだ内容を基本に実習を進めていきますので，Ⅰと併せて履修してください．

【Outline and objectives】
In Data Collection and Analysis II, we will continue to learn "Analysis of data according to theme" . In addition, in the lecture we will learn the method of "effective presentation".
The presentation is dialogue with the listener. Even if it looks flashy and cool, it has no meaning unless it is transmitted to the other party. In the lecture, we aim to master how to show according to the listener.

LANe100JB

英語 1

浦川 智子

科目分類・科目群：**総合教育科目 言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	When Do You Eat?
3	Unit 2 (1)	Before You Go to England...(1)
4	Unit 2 (2)	Before You Go to England...(2)
5	プレゼンテーションに関して	プレゼンの進め方や機材を利用した方法など
6	Unit 3 (1)	Future of the Shopping Mall (1)
7	Unit 3 (2)	Future of the Shopping Mall (2)
8	Unit 4 (1)	Basic of Apartment Renting (1)
9	Unit 4 (2)	Basic of Apartment Renting (2)
10	Unit 5 (1)	Is That Really English? (1)
11	Unit 5 (2)	Is That Really English? (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JC

英語 1

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	When Do You Eat?
3	Unit 2 (1)	Before You Go to England...(1)
4	Unit 2 (2)	Before You Go to England...(2)
5	プレゼンテーションに関して	プレゼンの進め方や機材を利用した方法など
6	Unit 3 (1)	Future of the Shopping Mall (1)
7	Unit 3 (2)	Future of the Shopping Mall (2)
8	Unit 4 (1)	Basic of Apartment Renting (1)
9	Unit 4 (2)	Basic of Apartment Renting (2)
10	Unit 5 (1)	Is That Really English? (1)
11	Unit 5 (2)	Is That Really English? (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JB

英語 1

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1-2	Friends / Hobbies
3 回目	Unit3-4	Commuting / Fashion
4 回目	Unit5-6	Personality / Sleep
5 回目	Unit7-8	Travel / Diets
6 回目	Unit9-10	Money / E-books
7 回目	Mid-term Exam	Paper test
8 回目	Uni11-12	Online Friends / Productivity
9 回目	Unit13-14	Pets / Made by Hand
10 回目	Unit15-16	Writing / Food Culture
11 回目	Unit17-18	Stress / Ghosts
12 回目	Unit19-20	Housing / Gender Equality
13 回目	Review (1-20)	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Companion to English Communicaiton 南雲堂　2,200 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

英語 1

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1-2	Friends / Hobbies
3 回目	Unit3-4	Commuting / Fashion
4 回目	Unit5-6	Personality / Sleep
5 回目	Unit7-8	Travel / Diets
6 回目	Unit9-10	Money / E-books
7 回目	Mid-term Exam	Paper test
8 回目	Uni11-12	Online Friends / Productivity
9 回目	Unit13-14	Pets / Made by Hand
10 回目	Unit15-16	Writing / Food Culture
11 回目	Unit17-18	Stress / Ghosts
12 回目	Unit19-20	Housing / Gender Equality
13 回目	Review (1-20)	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Companion to English Communicaiton 南雲堂　2,200 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JB

基礎英語 A

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	When Do You Eat?
3	Unit 2 (1)	Before You Go to England...(1)
4	Unit 2 (2)	Before You Go to England...(2)
5	プレゼンテーションに関して	プレゼンの進め方や機材を利用した方法など
6	Unit 3 (1)	Future of the Shopping Mall (1)
7	Unit 3 (2)	Future of the Shopping Mall (2)
8	Unit 4 (1)	Basic of Apartment Renting (1)
9	Unit 4 (2)	Basic of Apartment Renting (2)
10	Unit 5 (1)	Is That Really English? (1)
11	Unit 5 (2)	Is That Really English? (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JC

基礎英語 A

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	When Do You Eat?
3	Unit 2 (1)	Before You Go to England...(1)
4	Unit 2 (2)	Before You Go to England...(2)
5	プレゼンテーションに関して	プレゼンの進め方や機材を利用した方法など
6	Unit 3 (1)	Future of the Shopping Mall (1)
7	Unit 3 (2)	Future of the Shopping Mall (2)
8	Unit 4 (1)	Basic of Apartment Renting (1)
9	Unit 4 (2)	Basic of Apartment Renting (2)
10	Unit 5 (1)	Is That Really English? (1)
11	Unit 5 (2)	Is That Really English? (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JB

基礎英語 A

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1-2	Friends / Hobbies
3 回目	Unit3-4	Commuting / Fashion
4 回目	Unit5-6	Personality / Sleep
5 回目	Unit7-8	Travel / Diets
6 回目	Unit9-10	Money / E-books
7 回目	Mid-term Exam	Paper test
8 回目	Uni11-12	Online Friends / Productivity
9 回目	Unit13-14	Pets / Made by Hand
10 回目	Unit15-16	Writing / Food Culture
11 回目	Unit17-18	Stress / Ghosts
12 回目	Unit19-20	Housing / Gender Equality
13 回目	Review (1-20)	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Companion to English Communicaiton 南雲堂　2,200 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

基礎英語 A

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1-2	Friends / Hobbies
3 回目	Unit3-4	Commuting / Fashion
4 回目	Unit5-6	Personality / Sleep
5 回目	Unit7-8	Travel / Diets
6 回目	Unit9-10	Money / E-books
7 回目	Mid-term Exam	Paper test
8 回目	Uni11-12	Online Friends / Productivity
9 回目	Unit13-14	Pets / Made by Hand
10 回目	Unit15-16	Writing / Food Culture
11 回目	Unit17-18	Stress / Ghosts
12 回目	Unit19-20	Housing / Gender Equality
13 回目	Review (1-20)	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Companion to English Communicaiton 南雲堂　2,200 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

英語 1

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題や個人的に関心のある話題について，英文を読み，英語でプレゼンテーションができる能力を習得する。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的に英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語の情報を適切に理解し，身近な話題や個人的に関心のある話題について，話かかりやすく英語で伝えることができるようになること。
プレゼンテーションで用いるスライドを英語で作成できるようになること。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス Self-introduction	授業の進め方，評価方法，使用教材・授業内演習についての説明
第 2 回	on-stage performance 1	Making eye contact / TOEIC Listening 1
第 3 回	on-stage performance 2	Maintaining posture / TOEIC Reading 1
第 4 回	on-stage performance 3	Using gestures / TOEIC Listening 2
第 5 回	Linguistic skill 1	Projecting / TOEIC Reading 2
第 6 回	Linguistic skill 2	Pacing / TOEIC Listening 3
第 7 回	Linguistic skill 3	Expressing / TOEIC Reading 3
第 8 回	Linguistic skill 4	Repetition / TOEIC Listening 4
第 9 回	Linguistic skill 5	Sentence structure / TOEIC Reading 4
第 10 回	Presentation skill 1	Using visual aids / TOEIC Listening 5
第 11 回	Presentation skill 2	Concluding / TOEIC Reading 5
第 12 回	Presentation skill 3	Answering questions / TOEIC Listening 6
第 13 回	Presentation skill 4	Presentation contest / TOEIC Reading 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションスキルや資格英語に対応できる総合的な英語力を積み上げていけるように，学習した内容については各自授業外で復習・演習すること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 20%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' English presentation skills. Students will understand what a good presentation entails and be able to apply their knowledge to deliver English presentations. In the semester, students will learn basic presentation skills and on-stage performance including posture, gesture, and position, as well as English prosody and useful expressions and vocabulary items. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on topics that are familiar or of personal interest, ranging from future plans, on-campus events, club or circle activities to domestic or international current news and social or global issues. Students will also be able to appropriately design and use visual aids (PowerPoint slides). For the purpose of this course, each class meeting involves various activities such as group discussions, writing scripts, peer reviews, and creating visual aids. Students are encouraged to work on such activities in English.

LANe100JB

英語 1

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題や個人的に関心のある話題について，英文を読み，英語でプレゼンテーションができる能力を習得する。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的に英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語の情報を適切に理解し，身近な話題や個人的に関心のある話題について，話かかりやすく英語で伝えることができるようになること。
プレゼンテーションで用いるスライドを英語で作成できるようになること。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス Self-introduction	授業の進め方，評価方法，使用教材・授業内演習についての説明
第 2 回	on-stage performance 1	Making eye contact / TOEIC Listening 1
第 3 回	on-stage performance 2	Maintaining posture / TOEIC Reading 1
第 4 回	on-stage performance 3	Using gestures / TOEIC Listening 2
第 5 回	Linguistic skill 1	Projecting / TOEIC Reading 2
第 6 回	Linguistic skill 2	Pacing / TOEIC Listening 3
第 7 回	Linguistic skill 3	Expressing / TOEIC Reading 3
第 8 回	Linguistic skill 4	Repetition / TOEIC Listening 4
第 9 回	Linguistic skill 5	Sentence structure / TOEIC Reading 4
第 10 回	Presentation skill 1	Using visual aids / TOEIC Listening 5
第 11 回	Presentation skill 2	Concluding / TOEIC Reading 5
第 12 回	Presentation skill 3	Answering questions / TOEIC Listening 6
第 13 回	Presentation skill 4	Presentation contest / TOEIC Reading 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションスキルや資格英語に対応できる総合的な英語力を積み上げていけるように，学習した内容については各自授業外で復習・演習すること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 20%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' English presentation skills. Students will understand what a good presentation entails and be able to apply their knowledge to deliver English presentations. In the semester, students will learn basic presentation skills and on-stage performance including posture, gesture, and position, as well as English prosody and useful expressions and vocabulary items. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on topics that are familiar or of personal interest, ranging from future plans, on-campus events, club or circle activities to domestic or international current news and social or global issues. Students will also be able to appropriately design and use visual aids (PowerPoint slides). For the purpose of this course, each class meeting involves various activities such as group discussions, writing scripts, peer reviews, and creating visual aids. Students are encouraged to work on such activities in English.

LANe100JB

基礎英語 A

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題や個人的に関心のある話題について，英文を読み，英語でプレゼンテーションができる能力を習得する。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的に英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語の情報を適切に理解し，身近な話題や個人的に関心のある話題について，話かかりやすく英語で伝えることができるようになること。
プレゼンテーションで用いるスライドを英語で作成できるようになること。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス Self-introduction	授業の進め方，評価方法，使用教材・授業内演習についての説明
第 2 回	on-stage performance 1	Making eye contact / TOEIC Listening 1
第 3 回	on-stage performance 2	Maintaining posture / TOEIC Reading 1
第 4 回	on-stage performance 3	Using gestures / TOEIC Listening 2
第 5 回	Linguistic skill 1	Projecting / TOEIC Reading 2
第 6 回	Linguistic skill 2	Pacing / TOEIC Listening 3
第 7 回	Linguistic skill 3	Expressing / TOEIC Reading 3
第 8 回	Linguistic skill 4	Repetition / TOEIC Listening 4
第 9 回	Linguistic skill 5	Sentence structure / TOEIC Reading 4
第 10 回	Presentation skill 1	Using visual aids / TOEIC Listening 5
第 11 回	Presentation skill 2	Concluding / TOEIC Reading 5
第 12 回	Presentation skill 3	Answering questions / TOEIC Listening 6
第 13 回	Presentation skill 4	Presentation contest / TOEIC Reading 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションスキルや資格英語に対応できる総合的な英語力を積み上げていけるように，学習した内容については各自授業外で復習・演習すること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 20%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' English presentation skills. Students will understand what a good presentation entails and be able to apply their knowledge to deliver English presentations. In the semester, students will learn basic presentation skills and on-stage performance including posture, gesture, and position, as well as English prosody and useful expressions and vocabulary items. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on topics that are familiar or of personal interest, ranging from future plans, on-campus events, club or circle activities to domestic or international current news and social or global issues. Students will also be able to appropriately design and use visual aids (PowerPoint slides). For the purpose of this course, each class meeting involves various activities such as group discussions, writing scripts, peer reviews, and creating visual aids. Students are encouraged to work on such activities in English.

LANe100JC

基礎英語 A

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題や個人的に関心のある話題について，英文を読み，英語でプレゼンテーションができる能力を習得する。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的に英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語の情報を適切に理解し，身近な話題や個人的に関心のある話題について，話かかりやすく英語で伝えることができるようになること。
プレゼンテーションで用いるスライドを英語で作成できるようになること。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス Self-introduction	授業の進め方，評価方法，使用教材・授業内演習についての説明
第 2 回	on-stage performance 1	Making eye contact / TOEIC Listening 1
第 3 回	on-stage performance 2	Maintaining posture / TOEIC Reading 1
第 4 回	on-stage performance 3	Using gestures / TOEIC Listening 2
第 5 回	Linguistic skill 1	Projecting / TOEIC Reading 2
第 6 回	Linguistic skill 2	Pacing / TOEIC Listening 3
第 7 回	Linguistic skill 3	Expressing / TOEIC Reading 3
第 8 回	Linguistic skill 4	Repetition / TOEIC Listening 4
第 9 回	Linguistic skill 5	Sentence structure / TOEIC Reading 4
第 10 回	Presentation skill 1	Using visual aids / TOEIC Listening 5
第 11 回	Presentation skill 2	Concluding / TOEIC Reading 5
第 12 回	Presentation skill 3	Answering questions / TOEIC Listening 6
第 13 回	Presentation skill 4	Presentation contest / TOEIC Reading 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションスキルや資格英語に対応できる総合的な英語力を積み上げていけるように，学習した内容については各自授業外で復習・演習すること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 20%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to develop students' English presentation skills. Students will understand what a good presentation entails and be able to apply their knowledge to deliver English presentations. In the semester, students will learn basic presentation skills and on-stage performance including posture, gesture, and position, as well as English prosody and useful expressions and vocabulary items. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on topics that are familiar or of personal interest, ranging from future plans, on-campus events, club or circle activities to domestic or international current news and social or global issues. Students will also be able to appropriately design and use visual aids (PowerPoint slides). For the purpose of this course, each class meeting involves various activities such as group discussions, writing scripts, peer reviews, and creating visual aids. Students are encouraged to work on such activities in English.

LANe100JB

英語２（基礎）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a mid-term and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	UNIT 1: People	Listening Activities
2	UNIT 1: People	Speaking Activities
3	UNIT 1: People	Critical Thinking Activities
4	UNIT 2: Seasons	Listening Activities
5	UNIT 2: Seasons	Speaking Activities
6	Midterm review	Prepare for the midterm test
7	Midterm speaking and writing test	Midterm speaking and writing test
8	UNIT 2: Seasons	Critical Thinking Activities
9	UNIT 3: Lifestyle	Listening Activities
10	UNIT 3: Lifestyle	Speaking Activities
11	UNIT 3: Lifestyle	Critical Thinking Activities
12	UNIT 4: Places	Listening Activities
13	UNIT 4: Places	Speaking and Critical Thinking Activities
14	Final written and speaking test	Final written and speaking test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語２（基礎）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a mid-term and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	UNIT 1: People	Listening Activities
2	UNIT 1: People	Speaking Activities
3	UNIT 1: People	Critical Thinking Activities
4	UNIT 2: Seasons	Listening Activities
5	UNIT 2: Seasons	Speaking Activities
6	Midterm review	Prepare for the midterm test
7	Midterm speaking and writing test	Midterm speaking and writing test
8	UNIT 2: Seasons	Critical Thinking Activities
9	UNIT 3: Lifestyle	Listening Activities
10	UNIT 3: Lifestyle	Speaking Activities
11	UNIT 3: Lifestyle	Critical Thinking Activities
12	UNIT 4: Places	Listening Activities
13	UNIT 4: Places	Speaking and Critical Thinking Activities
14	Final written and speaking test	Final written and speaking test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語２（中級）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 1: Places	Listening Activities
Week 2	UNIT 1: Places	Speaking Activities
Week 3	UNIT 1: Places	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 2: Festivals and celebrations	Listening Activities
Week 5	UNIT 2: Festivals and celebrations	Speaking Activities
Week 6	UNIT 2: Festivals and celebrations	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 3: School and education	Listening activities
Week 8	UNIT 3: School and education	Speaking Activities
Week 9	UNIT 3: School and education	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 4: The internet and technology	Listening Activities
Week 11	UNIT 4: The internet and technology	Speaking Activities
Week 12	UNIT 4: The internet and technology	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 5: Language and Communication	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing test	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be brought by the instructor if the level of the textbook is too low or too high.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語２（中級）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 1: Places	Listening Activities
Week 2	UNIT 1: Places	Speaking Activities
Week 3	UNIT 1: Places	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 2: Festivals and celebrations	Listening Activities
Week 5	UNIT 2: Festivals and celebrations	Speaking Activities
Week 6	UNIT 2: Festivals and celebrations	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 3: School and education	Listening activities
Week 8	UNIT 3: School and education	Speaking Activities
Week 9	UNIT 3: School and education	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 4: The internet and technology	Listening Activities
Week 11	UNIT 4: The internet and technology	Speaking Activities
Week 12	UNIT 4: The internet and technology	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 5: Language and Communication	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing test	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be brought by the instructor if the level of the textbook is too low or too high.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語２（上級）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

英語２（上級）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

English Communication 1A Basic

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a mid-term and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	UNIT 1: People	Listening Activities
2	UNIT 1: People	Speaking Activities
3	UNIT 1: People	Critical Thinking Activities
4	UNIT 2: Seasons	Listening Activities
5	UNIT 2: Seasons	Speaking Activities
6	Midterm review	Prepare for the midterm test
7	Midterm speaking and writing test	Midterm speaking and writing test
8	UNIT 2: Seasons	Critical Thinking Activities
9	UNIT 3: Lifestyle	Listening Activities
10	UNIT 3: Lifestyle	Speaking Activities
11	UNIT 3: Lifestyle	Critical Thinking Activities
12	UNIT 4: Places	Listening Activities
13	UNIT 4: Places	Speaking and Critical Thinking Activities
14	Final written and speaking test	Final written and speaking test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Basic

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a mid-term and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	UNIT 1: People	Listening Activities
2	UNIT 1: People	Speaking Activities
3	UNIT 1: People	Critical Thinking Activities
4	UNIT 2: Seasons	Listening Activities
5	UNIT 2: Seasons	Speaking Activities
6	Midterm review	Prepare for the midterm test
7	Midterm speaking and writing test	Midterm speaking and writing test
8	UNIT 2: Seasons	Critical Thinking Activities
9	UNIT 3: Lifestyle	Listening Activities
10	UNIT 3: Lifestyle	Speaking Activities
11	UNIT 3: Lifestyle	Critical Thinking Activities
12	UNIT 4: Places	Listening Activities
13	UNIT 4: Places	Speaking and Critical Thinking Activities
14	Final written and speaking test	Final written and speaking test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1A Intermediate

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 1: Places	Listening Activities
Week 2	UNIT 1: Places	Speaking Activities
Week 3	UNIT 1: Places	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 2: Festivals and celebrations	Listening Activities
Week 5	UNIT 2: Festivals and celebrations	Speaking Activities
Week 6	UNIT 2: Festivals and celebrations	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 3: School and education	Listening activities
Week 8	UNIT 3: School and education	Speaking Activities
Week 9	UNIT 3: School and education	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 4: The internet and technology	Listening Activities
Week 11	UNIT 4: The internet and technology	Speaking Activities
Week 12	UNIT 4: The internet and technology	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 5: Language and Communication	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing test	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be brought by the instructor if the level of the textbook is too low or too high.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Intermediate

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 1: Places	Listening Activities
Week 2	UNIT 1: Places	Speaking Activities
Week 3	UNIT 1: Places	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 2: Festivals and celebrations	Listening Activities
Week 5	UNIT 2: Festivals and celebrations	Speaking Activities
Week 6	UNIT 2: Festivals and celebrations	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 3: School and education	Listening activities
Week 8	UNIT 3: School and education	Speaking Activities
Week 9	UNIT 3: School and education	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 4: The internet and technology	Listening Activities
Week 11	UNIT 4: The internet and technology	Speaking Activities
Week 12	UNIT 4: The internet and technology	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 5: Language and Communication	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing test	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be brought by the instructor if the level of the textbook is too low or too high.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1A Advanced

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

English Communication 1A Advanced

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

英語２（基礎）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction
	Unit 1 People	Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons	Speaking, Critical Thinking,
	Graded Presentation 1	Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle	Speaking, Critical Thinking,
	Graded Presentation 2	Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語２（基礎）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語２（中級）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for playing audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語２（中級）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for playing audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Basic

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1A Basic

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1A Intermediate

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for playing audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Intermediate

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 People	Introduction Watch and listen, Discussion pp.15~21
2	Unit 1 People	Grammar, listening, Discussion pp.22~28
3	Unit 1 People	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.29~35
4	Unit 2 Seasons	Watch and listen, Discussion pp.37~43
5	Unit 2 Seasons	Grammar, listening, Discussion pp.44~50
6	Unit 2 Seasons Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.51~57 Presentation
7	Unit 3 Lifestyle	Watch and listen, Discussion pp.59~65
8	Unit 3 Lifestyle	Grammar, listening, Discussion pp.66~72
9	Unit 3 Lifestyle Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.73~79 Presentation
10	Unit 4 Places	Watch and listen, Discussion pp.81~87
11	Unit 4 Places	Grammar, listening, Discussion pp.88~94
12	Unit 4 Places	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.95~101
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 1~4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for playing audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
The information above is the play for the course. Changes can be made in accordance with students' needs.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語２（中級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 1	Introduction to Course
Unit 1	It's nice to meet you	Introduce yourself to a partner
Unit 1	It's nice to meet you	Exchange personal information
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in a picture
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in your family
Unit 3	When do you start?	Make plans with someone
Unit 3	When do you start?	Ask and answer questions about schedules
Unit 4	Where does this go?	Describe where things are in a room
Unit 4	Where does this go?	Ask and answer questions about where things are
Unit 5	How do I get there?	Ask for and give directions to a place
Unit 5	How do I get there?	Identify places in your community
Unit 6	What happened?	Ask about past events
Unit 6	What happened?	Talk about things you did at different times in your life
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

英語２（中級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 1	Introduction to Course
Unit 1	It's nice to meet you	Introduce yourself to a partner
Unit 1	It's nice to meet you	Exchange personal information
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in a picture
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in your family
Unit 3	When do you start?	Make plans with someone
Unit 3	When do you start?	Ask and answer questions about schedules
Unit 4	Where does this go?	Describe where things are in a room
Unit 4	Where does this go?	Ask and answer questions about where things are
Unit 5	How do I get there?	Ask for and give directions to a place
Unit 5	How do I get there?	Identify places in your community
Unit 6	What happened?	Ask about past events
Unit 6	What happened?	Talk about things you did at different times in your life
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

英語２（上級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 2	Find someone who...
Unit 1	Have you two met?	Introductions and relationships
Unit 1	Have you two met?	Exchange information about your hobbies and interests
Unit 2	You must be excited	Describe your feelings
Unit 2	You must be excited	Ask about your partner's feelings
Unit 3	Where should I go?	Talk about a trip
Unit 3	Where should I go?	Make recommendations
Unit 4	I love that	Express agreement and disagreement
Unit 4	I love that	Share your opinions
Unit 5	What's you excuse?	Make requests
Unit 5	What's you excuse?	Make excuses
Unit 6	What's it like there?	Talk about the symbols and traditions of you country
Unit 6	What's it like there?	Ask about the symbols and traditions of your partner's country
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語２（上級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 2	Find someone who...
Unit 1	Have you two met?	Introductions and relationships
Unit 1	Have you two met?	Exchange information about your hobbies and interests
Unit 2	You must be excited	Describe your feelings
Unit 2	You must be excited	Ask about your partner's feelings
Unit 3	Where should I go?	Talk about a trip
Unit 3	Where should I go?	Make recommendations
Unit 4	I love that	Express agreement and disagreement
Unit 4	I love that	Share your opinions
Unit 5	What's you excuse?	Make requests
Unit 5	What's you excuse?	Make excuses
Unit 6	What's it like there?	Talk about the symbols and traditions of you country
Unit 6	What's it like there?	Ask about the symbols and traditions of your partner's country
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Intermediate

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 1	Introduction to Course
Unit 1	It's nice to meet you	Introduce yourself to a partner
Unit 1	It's nice to meet you	Exchange personal information
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in a picture
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in your family
Unit 3	When do you start?	Make plans with someone
Unit 3	When do you start?	Ask and answer questions about schedules
Unit 4	Where does this go?	Describe where things are in a room
Unit 4	Where does this go?	Ask and answer questions about where things are
Unit 5	How do I get there?	Ask for and give directions to a place
Unit 5	How do I get there?	Identify places in your community
Unit 6	What happened?	Ask about past events
Unit 6	What happened?	Talk about things you did at different times in your life
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

English Communication 1A Intermediate

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 1	Introduction to Course
Unit 1	It's nice to meet you	Introduce yourself to a partner
Unit 1	It's nice to meet you	Exchange personal information
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in a picture
Unit 2	Who are they talking about?	Describe people in your family
Unit 3	When do you start?	Make plans with someone
Unit 3	When do you start?	Ask and answer questions about schedules
Unit 4	Where does this go?	Describe where things are in a room
Unit 4	Where does this go?	Ask and answer questions about where things are
Unit 5	How do I get there?	Ask for and give directions to a place
Unit 5	How do I get there?	Identify places in your community
Unit 6	What happened?	Ask about past events
Unit 6	What happened?	Talk about things you did at different times in your life
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

English Communication 1A Advanced

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 2	Find someone who...
Unit 1	Have you two met?	Introductions and relationships
Unit 1	Have you two met?	Exchange information about your hobbies and interests
Unit 2	You must be excited	Describe your feelings
Unit 2	You must be excited	Ask about your partner's feelings
Unit 3	Where should I go?	Talk about a trip
Unit 3	Where should I go?	Make recommendations
Unit 4	I love that	Express agreement and disagreement
Unit 4	I love that	Share your opinions
Unit 5	What's you excuse?	Make requests
Unit 5	What's you excuse?	Make excuses
Unit 6	What's it like there?	Talk about the symbols and traditions of you country
Unit 6	What's it like there?	Ask about the symbols and traditions of your partner's country
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1A Advanced

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 0	Welcome to English Firsthand 2	Find someone who...
Unit 1	Have you two met?	Introductions and relationships
Unit 1	Have you two met?	Exchange information about your hobbies and interests
Unit 2	You must be excited	Describe your feelings
Unit 2	You must be excited	Ask about your partner's feelings
Unit 3	Where should I go?	Talk about a trip
Unit 3	Where should I go?	Make recommendations
Unit 4	I love that	Express agreement and disagreement
Unit 4	I love that	Share your opinions
Unit 5	What's you excuse?	Make requests
Unit 5	What's you excuse?	Make excuses
Unit 6	What's it like there?	Talk about the symbols and traditions of you country
Unit 6	What's it like there?	Ask about the symbols and traditions of your partner's country
Presentations	In-class presentations	All students make short presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語３

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con ﬁ dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1	Grammar(1)
3 回目	Unit2	Grammar(2)
4 回目	Unit3	Grammar(3)
5 回目	Unit4	Grammar(4)
6 回目	Unit5	Grammar(5)
7 回目	Mid-tem Exam	Paper test
8 回目	Unit6	Grammar(6)
9 回目	Unit7	Grammar(7)
10 回目	Unit8	Grammar(8)
11 回目	Unit9	Grammar(9)
12 回目	Unit10	Grammar(10)
13 回目	Unit11	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Essential English Grammar fo TOEIC test 南雲堂 1,900 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

英語３

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1	Grammar(1)
3 回目	Unit2	Grammar(2)
4 回目	Unit3	Grammar(3)
5 回目	Unit4	Grammar(4)
6 回目	Unit5	Grammar(5)
7 回目	Mid-tem Exam	Paper test
8 回目	Unit6	Grammar(6)
9 回目	Unit7	Grammar(7)
10 回目	Unit8	Grammar(8)
11 回目	Unit9	Grammar(9)
12 回目	Unit10	Grammar(10)
13 回目	Unit11	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Essential English Grammar fo TOEIC test 南雲堂 1,900 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JB

基礎英語Ｂ

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1	Grammar(1)
3 回目	Unit2	Grammar(2)
4 回目	Unit3	Grammar(3)
5 回目	Unit4	Grammar(4)
6 回目	Unit5	Grammar(5)
7 回目	Mid-tem Exam	Paper test
8 回目	Unit6	Grammar(6)
9 回目	Unit7	Grammar(7)
10 回目	Unit8	Grammar(8)
11 回目	Unit9	Grammar(9)
12 回目	Unit10	Grammar(10)
13 回目	Unit11	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Essential English Grammar fo TOEIC test 南雲堂 1,900 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

基礎英語Ｂ

奥脇　栄子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今授業では、様々なトピックを中心に、グループ内でコミュニケーションを取りながら、リーディングをはじめ、リスニングやスピーキングの向上に取り組んでいきます。また、グ ループ内でのショートプレゼンテーションといったコミュニカティブなアクティビティを通して、英語に対するモチベーションを高め、自信をもって英語を話していく授業を目指します。

【到達目標】
In this course, students develop reading, listening, and speaking skills through a lot of topics from the textbook. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates in English con fi dently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
感染拡大防止に配慮しながら、アクティブラーニング形式での対面授業の実施を目指します。しかしながら、今セメスターがオンライン授業となった場合は、具体的な授業の方法など、学習支援システムで提示致します。また、課題等に対するフィードバック等も、学習支援システム上で行いますので、毎回の授業前には必ず掲示板のご確認をお願い致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Getting to know each other
2 回目	Unit1	Grammar(1)
3 回目	Unit2	Grammar(2)
4 回目	Unit3	Grammar(3)
5 回目	Unit4	Grammar(4)
6 回目	Unit5	Grammar(5)
7 回目	Mid-tem Exam	Paper test
8 回目	Unit6	Grammar(6)
9 回目	Unit7	Grammar(7)
10 回目	Unit8	Grammar(8)
11 回目	Unit9	Grammar(9)
12 回目	Unit10	Grammar(10)
13 回目	Unit11	Wrap up
14 回目	Final Exam	Paper test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題の時間は、各 1 時間を 標準とします。

【テキスト（教科書）】
Essential English Grammar fo TOEIC test 南雲堂 1,900 円

【参考書】
授業内で提示致します。

【成績評価の方法と基準】
-Participation 10% -Homework 15% -Short quizzes 15% -Presentation 20% -Mid-term exam 20% -Final exam 20%
オンライン授業になった場合は、学習支援システムにて提示致します。

【学生の意見等からの気づき】
セルフスタディーに導けるような授業を目指して参ります。

【Outline and objectives】
This course will help students develop basic interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates.

LANe100JC

英語３

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 6 (1)	Dining Out: East and West (1)
3	Unit 6 (2)	Dining Out: East and West (2)
4	Unit 7 (1)	Careers and Promotions (1)
5	Unit 7 (2)	Careers and Promotions (2)
6	Unit 8 (1)	Bath or Shower? (1)
7	Unit 8 (2)	Bath or Shower? (2)
8	Unit 9 (1)	White=Right? (1)
9	Unit 9 (2)	White=Right? (2)
10	Unit 10 (1)	Money and Modern Weddings (1)
11	Unit 10 (2)	Money and Modern Weddings (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JB

英語３

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 6 (1)	Dining Out: East and West (1)
3	Unit 6 (2)	Dining Out: East and West (2)
4	Unit 7 (1)	Careers and Promotions (1)
5	Unit 7 (2)	Careers and Promotions (2)
6	Unit 8 (1)	Bath or Shower? (1)
7	Unit 8 (2)	Bath or Shower? (2)
8	Unit 9 (1)	White=Right? (1)
9	Unit 9 (2)	White=Right? (2)
10	Unit 10 (1)	Money and Modern Weddings (1)
11	Unit 10 (2)	Money and Modern Weddings (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JC

基礎英語Ｂ

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 6 (1)	Dining Out: East and West (1)
3	Unit 6 (2)	Dining Out: East and West (2)
4	Unit 7 (1)	Careers and Promotions (1)
5	Unit 7 (2)	Careers and Promotions (2)
6	Unit 8 (1)	Bath or Shower? (1)
7	Unit 8 (2)	Bath or Shower? (2)
8	Unit 9 (1)	White=Right? (1)
9	Unit 9 (2)	White=Right? (2)
10	Unit 10 (1)	Money and Modern Weddings (1)
11	Unit 10 (2)	Money and Modern Weddings (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JB

基礎英語Ｂ

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の講読にあたり次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。英文の構成を理解し、学期末のプレゼンテーションに活かす。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として 1〜2 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの和訳を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。また、プレゼンテーションをおこなうだけでなく、他グループのプレゼンテーションに対するリアクションペーパーも提出する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 6 (1)	Dining Out: East and West (1)
3	Unit 6 (2)	Dining Out: East and West (2)
4	Unit 7 (1)	Careers and Promotions (1)
5	Unit 7 (2)	Careers and Promotions (2)
6	Unit 8 (1)	Bath or Shower? (1)
7	Unit 8 (2)	Bath or Shower? (2)
8	Unit 9 (1)	White=Right? (1)
9	Unit 9 (2)	White=Right? (2)
10	Unit 10 (1)	Money and Modern Weddings (1)
11	Unit 10 (2)	Money and Modern Weddings (2)
12	プレゼンテーション (1)	グループ・プレゼンテーション (1)
13	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション (2)
14	試験とまとめ	学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備をグループで進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川田伸道、『世界の常識：小さいけれど大きな違い！』、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業への積極的な姿勢、提出物等) ： 20%、プレゼンテーション：20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60 %以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、英字新聞やプレゼンテーションをおこなうための資料を提示していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve presentation skills.

LANe100JC

英語３

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語 A で習得した基礎的なプレゼンテーションスキルを踏まえて，英語の発信力をさらに伸ばすことを目的とする。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
現代福祉学部の各学科で学ぶ専門領域に関連する国内外の話題や国際的な時事問題などについて，英文のテキストから学びプレゼンテーションが英語でできるようになること。
基礎英語 A での学習内容を踏まえて，英語の語彙力 ・読解力 ・表現力をさらに伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Pair work 1	Academic topics: Community development / TOEIC Reading 1
第 3 回	Group discussion 1	Academic topics: Social welfare / TOEIC Listening 1
第 4 回	Reading and Listening 1	Academic topics: Clinical psychology / TOEIC Reading 2
第 5 回	Group discussion 2	Research papers: Community development TOEIC Listening 2
第 6 回	Pair work 2	Research papers: Social welfare / TOEIC Reading 3
第 7 回	Reading and Listening 2	Research papers: Clinical psychology / TOEIC Listening 3
第 8 回	Group discussion 3	Graphs / TOEIC Reading 4
第 9 回	Pair work 3	Charts / TOEIC Listening 4
第 10 回	Reading and Listening 3	Images and pictures / TOEIC Reading 5
第 11 回	Group discussion 3	Preparation for presentation / TOEIC Listening 5
第 12 回	Pair work 3	Presentation 1 / TOEIC Reading 6
第 13 回	Reading and Listening 3	Presentation 2 / TOEIC Listening 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自選定したトピックについて授業外で情報を集めて整理し，内容を把握した上で授業に持ち込めるようにしておくこと。
毎回小テストを行うので，語彙を中心に復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This is the advanced course for the development of students' English presentation skills. Based on the contents covered in Kiso Eigo A, students will further cultivate their presentation skills. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on academic topics reflecting issues or findings in the fields of social welfare, community development, or clinical psychology. Such topics could be related to physical or mental health status, work and life balance, social connections, housing conditions, civic engagement, the role of orphanages in child welfare, disaster management, and so on. Through academic books, papers, and official websites, in this course, students will (1) gain knowledge on their selected topics, (2) learn how to summarize the findings or suggestions of previous studies and construct an appropriate discussion, and (3) suggest a solution or express their own findings or opinions. Students should be able to use objective facts and figures in the form of graphs or charts and defend their discussion in the question and answer session.

LANe100JB

英語３

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語 A で習得した基礎的なプレゼンテーションスキルを踏まえて，英語の発信力をさらに伸ばすことを目的とする。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
現代福祉学部の各学科で学ぶ専門領域に関連する国内外の話題や国際的な時事問題などについて，英文のテキストから学びプレゼンテーションが英語でできるようになること。
基礎英語 A での学習内容を踏まえて，英語の語彙力 ・読解力 ・表現力をさらに伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Pair work 1	Academic topics: Community development / TOEIC Reading 1
第 3 回	Group discussion 1	Academic topics: Social welfare / TOEIC Listening 1
第 4 回	Reading and Listening 1	Academic topics: Clinical psychology / TOEIC Reading 2
第 5 回	Group discussion 2	Research papers: Community development TOEIC Listening 2
第 6 回	Pair work 2	Research papers: Social welfare / TOEIC Reading 3
第 7 回	Reading and Listening 2	Research papers: Clinical psychology / TOEIC Listening 3
第 8 回	Group discussion 3	Graphs / TOEIC Reading 4
第 9 回	Pair work 3	Charts / TOEIC Listening 4
第 10 回	Reading and Listening 3	Images and pictures / TOEIC Reading 5
第 11 回	Group discussion 3	Preparation for presentation / TOEIC Listening 5
第 12 回	Pair work 3	Presentation 1 / TOEIC Reading 6
第 13 回	Reading and Listening 3	Presentation 2 / TOEIC Listening 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自選定したトピックについて授業外で情報を集めて整理し，内容を把握した上で授業に持ち込めるようにしておくこと。
毎回小テストを行うので，語彙を中心に復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This is the advanced course for the development of students' English presentation skills. Based on the contents covered in Kiso Eigo A, students will further cultivate their presentation skills. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on academic topics reflecting issues or findings in the fields of social welfare, community development, or clinical psychology. Such topics could be related to physical or mental health status, work and life balance, social connections, housing conditions, civic engagement, the role of orphanages in child welfare, disaster management, and so on. Through academic books, papers, and official websites, in this course, students will (1) gain knowledge on their selected topics, (2) learn how to summarize the findings or suggestions of previous studies and construct an appropriate discussion, and (3) suggest a solution or express their own findings or opinions. Students should be able to use objective facts and figures in the form of graphs or charts and defend their discussion in the question and answer session.

LANe100JB

基礎英語Ｂ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語 A で習得した基礎的なプレゼンテーションスキルを踏まえて，英語の発信力をさらに伸ばすことを目的とする。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
現代福祉学部の各学科で学ぶ専門領域に関連する国内外の話題や国際的な時事問題などについて，英文のテキストから学びプレゼンテーションが英語でできるようになること。
基礎英語 A での学習内容を踏まえて，英語の語彙力 ・読解力 ・表現力をさらに伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Pair work 1	Academic topics: Community development / TOEIC Reading 1
第 3 回	Group discussion 1	Academic topics: Social welfare / TOEIC Listening 1
第 4 回	Reading and Listening 1	Academic topics: Clinical psychology / TOEIC Reading 2
第 5 回	Group discussion 2	Research papers: Community development TOEIC Listening 2
第 6 回	Pair work 2	Research papers: Social welfare / TOEIC Reading 3
第 7 回	Reading and Listening 2	Research papers: Clinical psychology / TOEIC Listening 3
第 8 回	Group discussion 3	Graphs / TOEIC Reading 4
第 9 回	Pair work 3	Charts / TOEIC Listening 4
第 10 回	Reading and Listening 3	Images and pictures / TOEIC Reading 5
第 11 回	Group discussion 3	Preparation for presentation / TOEIC Listening 5
第 12 回	Pair work 3	Presentation 1 / TOEIC Reading 6
第 13 回	Reading and Listening 3	Presentation 2 / TOEIC Listening 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自選定したトピックについて授業外で情報を集めて整理し，内容を把握した上で授業に持ち込めるようにしておくこと。
毎回小テストを行うので，語彙を中心に復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This is the advanced course for the development of students' English presentation skills. Based on the contents covered in Kiso Eigo A, students will further cultivate their presentation skills. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on academic topics reflecting issues or findings in the fields of social welfare, community development, or clinical psychology. Such topics could be related to physical or mental health status, work and life balance, social connections, housing conditions, civic engagement, the role of orphanages in child welfare, disaster management, and so on. Through academic books, papers, and official websites, in this course, students will (1) gain knowledge on their selected topics, (2) learn how to summarize the findings or suggestions of previous studies and construct an appropriate discussion, and (3) suggest a solution or express their own findings or opinions. Students should be able to use objective facts and figures in the form of graphs or charts and defend their discussion in the question and answer session.

LANe100JC

基礎英語Ｂ

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語 A で習得した基礎的なプレゼンテーションスキルを踏まえて，英語の発信力をさらに伸ばすことを目的とする。
英語の資格試験の問題形式を用いて総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
現代福祉学部の各学科で学ぶ専門領域に関連する国内外の話題や国際的な時事問題などについて，英文のテキストから学びプレゼンテーションが英語でできるようになること。
基礎英語 A での学習内容を踏まえて，英語の語彙力 ・読解力 ・表現力をさらに伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Pair work 1	Academic topics: Community development / TOEIC Reading 1
第 3 回	Group discussion 1	Academic topics: Social welfare / TOEIC Listening 1
第 4 回	Reading and Listening 1	Academic topics: Clinical psychology / TOEIC Reading 2
第 5 回	Group discussion 2	Research papers: Community development TOEIC Listening 2
第 6 回	Pair work 2	Research papers: Social welfare / TOEIC Reading 3
第 7 回	Reading and Listening 2	Research papers: Clinical psychology / TOEIC Listening 3
第 8 回	Group discussion 3	Graphs / TOEIC Reading 4
第 9 回	Pair work 3	Charts / TOEIC Listening 4
第 10 回	Reading and Listening 3	Images and pictures / TOEIC Reading 5
第 11 回	Group discussion 3	Preparation for presentation / TOEIC Listening 5
第 12 回	Pair work 3	Presentation 1 / TOEIC Reading 6
第 13 回	Reading and Listening 3	Presentation 2 / TOEIC Listening 6
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自選定したトピックについて授業外で情報を集めて整理し，内容を把握した上で授業に持ち込めるようにしておくこと。
毎回小テストを行うので，語彙を中心に復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 20%, プレゼンテーション 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This is the advanced course for the development of students' English presentation skills. Based on the contents covered in Kiso Eigo A, students will further cultivate their presentation skills. At the completion of this course, students will be able to deliver a presentation in English on academic topics reflecting issues or findings in the fields of social welfare, community development, or clinical psychology. Such topics could be related to physical or mental health status, work and life balance, social connections, housing conditions, civic engagement, the role of orphanages in child welfare, disaster management, and so on. Through academic books, papers, and official websites, in this course, students will (1) gain knowledge on their selected topics, (2) learn how to summarize the findings or suggestions of previous studies and construct an appropriate discussion, and (3) suggest a solution or express their own findings or opinions. Students should be able to use objective facts and figures in the form of graphs or charts and defend their discussion in the question and answer session.

LANe100JB

英語４（基礎）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 5: Sports	Listening Activities
Week 2	UNIT 5: Sports	Speaking Activities
Week 3	UNIT 5: Sports	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 6: Jobs	Listening Activities
Week 5	UNIT 6: Jobs	Speaking Activities
Week 6	UNIT 6: Jobs	Critical Thinking Activities
Week 7	Midterm speaking and written test	Midterm
Week 8	UNIT 7: Homes and buildings	Listening Activities
Week 9	UNIT 7: Homes and buildings	Speaking Activities
Week 10	UNIT 7: Homes and buildings	Critical Thinking Activities
Week 11	UNIT 8: Food and culture	Listening Activities
Week 12	UNIT 8: Food and culture	Speaking Activities
Week 13	UNIT 8: Food and culture	Critical Thinking Activities
Week 14	Final written and speaking test	Review / Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語４（基礎）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 5: Sports	Listening Activities
Week 2	UNIT 5: Sports	Speaking Activities
Week 3	UNIT 5: Sports	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 6: Jobs	Listening Activities
Week 5	UNIT 6: Jobs	Speaking Activities
Week 6	UNIT 6: Jobs	Critical Thinking Activities
Week 7	Midterm speaking and written test	Midterm
Week 8	UNIT 7: Homes and buildings	Listening Activities
Week 9	UNIT 7: Homes and buildings	Speaking Activities
Week 10	UNIT 7: Homes and buildings	Critical Thinking Activities
Week 11	UNIT 8: Food and culture	Listening Activities
Week 12	UNIT 8: Food and culture	Speaking Activities
Week 13	UNIT 8: Food and culture	Critical Thinking Activities
Week 14	Final written and speaking test	Review / Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（中級）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 6: Weather and climate	Listening Activities
Week 2	UNIT 6: Weather and climate	Speaking Activities
Week 3	UNIT 6: Weather and climate	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 7: Sports and competition	Listening Activities
Week 5	UNIT 7: Sports and competition	Speaking Activities
Week 6	UNIT 7: Sports and competition	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 8: Business	Listening Activities
Week 8	UNIT 8: Business	Speaking Activities
Week 9	UNIT 8: Business	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 9: People	Listening Activities
Week 11	UNIT 9: People	Speaking Activities
Week 12	UNIT 9: People	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 10: Space and the universe	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing Examination	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final Examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials may be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語４（中級）

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 6: Weather and climate	Listening Activities
Week 2	UNIT 6: Weather and climate	Speaking Activities
Week 3	UNIT 6: Weather and climate	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 7: Sports and competition	Listening Activities
Week 5	UNIT 7: Sports and competition	Speaking Activities
Week 6	UNIT 7: Sports and competition	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 8: Business	Listening Activities
Week 8	UNIT 8: Business	Speaking Activities
Week 9	UNIT 8: Business	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 9: People	Listening Activities
Week 11	UNIT 9: People	Speaking Activities
Week 12	UNIT 9: People	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 10: Space and the universe	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing Examination	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final Examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials may be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（上級）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

英語４（上級）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

English Communication 1B Basic

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 5: Sports	Listening Activities
Week 2	UNIT 5: Sports	Speaking Activities
Week 3	UNIT 5: Sports	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 6: Jobs	Listening Activities
Week 5	UNIT 6: Jobs	Speaking Activities
Week 6	UNIT 6: Jobs	Critical Thinking Activities
Week 7	Midterm speaking and written test	Midterm
Week 8	UNIT 7: Homes and buildings	Listening Activities
Week 9	UNIT 7: Homes and buildings	Speaking Activities
Week 10	UNIT 7: Homes and buildings	Critical Thinking Activities
Week 11	UNIT 8: Food and culture	Listening Activities
Week 12	UNIT 8: Food and culture	Speaking Activities
Week 13	UNIT 8: Food and culture	Critical Thinking Activities
Week 14	Final written and speaking test	Review / Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Basic

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 5: Sports	Listening Activities
Week 2	UNIT 5: Sports	Speaking Activities
Week 3	UNIT 5: Sports	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 6: Jobs	Listening Activities
Week 5	UNIT 6: Jobs	Speaking Activities
Week 6	UNIT 6: Jobs	Critical Thinking Activities
Week 7	Midterm speaking and written test	Midterm
Week 8	UNIT 7: Homes and buildings	Listening Activities
Week 9	UNIT 7: Homes and buildings	Speaking Activities
Week 10	UNIT 7: Homes and buildings	Critical Thinking Activities
Week 11	UNIT 8: Food and culture	Listening Activities
Week 12	UNIT 8: Food and culture	Speaking Activities
Week 13	UNIT 8: Food and culture	Critical Thinking Activities
Week 14	Final written and speaking test	Review / Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Sabina Ostrowska (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 1 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-67810-1.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Tests = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials will be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook. This class needs to be in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Intermediate

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 6: Weather and climate	Listening Activities
Week 2	UNIT 6: Weather and climate	Speaking Activities
Week 3	UNIT 6: Weather and climate	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 7: Sports and competition	Listening Activities
Week 5	UNIT 7: Sports and competition	Speaking Activities
Week 6	UNIT 7: Sports and competition	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 8: Business	Listening Activities
Week 8	UNIT 8: Business	Speaking Activities
Week 9	UNIT 8: Business	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 9: People	Listening Activities
Week 11	UNIT 9: People	Speaking Activities
Week 12	UNIT 9: People	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 10: Space and the universe	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing Examination	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final Examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials may be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Intermediate

OLAGBOYEGA KOLAWOLE

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency at speaking
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar and talk about lots of different topics in English. There will be two tests: a midterm and a final.
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	UNIT 6: Weather and climate	Listening Activities
Week 2	UNIT 6: Weather and climate	Speaking Activities
Week 3	UNIT 6: Weather and climate	Critical Thinking Activities
Week 4	UNIT 7: Sports and competition	Listening Activities
Week 5	UNIT 7: Sports and competition	Speaking Activities
Week 6	UNIT 7: Sports and competition	Critical Thinking Activities
Week 7	UNIT 8: Business	Listening Activities
Week 8	UNIT 8: Business	Speaking Activities
Week 9	UNIT 8: Business	Critical Thinking Activities
Week 10	UNIT 9: People	Listening Activities
Week 11	UNIT 9: People	Speaking Activities
Week 12	UNIT 9: People	Critical Thinking Activities
Week 13	UNIT 10: Space and the universe	Listening, Speaking and Critical Thinking Activities
Week 14	Final speaking and writing Examination	Review / Tests

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Stephanie Dimond-Bayir (2014). Unlock - Listening and Speaking Skills 2 Student's Book with Online Workbook, Cambridge University Press, ISBN 978-1-107-68232-0.

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation = 10%
Homework = 30%
Final Examination = 60%

【学生の意見等からの気づき】
Supplementary materials may be introduced following student comments.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring a notebook. This class needs to take place in a room with a CD player.

【その他の重要事項】
The information above is the plan for the course. I may make changes depending on the needs of the students.

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Advanced

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JB

English Communication 1B Advanced

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
This course will empower students to better their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to insure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	go over syllabus and textbooks
2	A bit of history	WW What Was Life Like in a Medieval Castle? Unit 1
3	breakingnewsenglish	Short current news topic
4	Celebration	How Do the Hindus Celebrate the Diwali Festival? WW unit 3
5	breakingnewsenglish	Short current news topic
6	Ancestors and artifacts	WW What is Angkor Wat? Unit 5 Test review units 1, 3 and 5
7	Remembering details	Test units 1, 3 and 5
8	breakingnewsenglish	Short current news topic
9	Disposable goods	WW How Did Chopsticks Originate? Unit 7
10	breakingnewsenglish	Short current news topic
11	Walk Like an Egyptian	WW What is the Curse of King Tut? Unit 9
12	breakingnewsenglish	Short current news topic
13	get ready	WW What is the Most Popular Sport in the World? Unit 12 and test review units 7, 9
14	Remembering details	WW Test on units 7, 9 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Units must be read and the vocabulary and comprehension sections must be done before coming to class. Random questions may be asked to insure that students are doing the homework 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
WW= WHAT A WORLD 3 (ISBN 13:978-0-13-138201-5)

【参考書】
Breakingnewsenglish.org is an ESL website that will be used in class.

【成績評価の方法と基準】
Homework and participation = 40% Quizzes = 60% Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe100JC

英語４（基礎）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction
	Unit 5 Jobs	Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening, Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening, Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary
	Graded Presentation 1	pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening, Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary
	Graded Presentation 2	pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening, Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（基礎）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening, Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening, Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening, Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening, Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語４（中級）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（中級）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Basic

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening, Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening, Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening, Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening, Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Basic

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening, Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening, Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening, Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening, Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Intermediate

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Intermediate

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
The goals of this course are to:
1. increase students confidence and fluency in speaking and presentation
2. teach students useful words and expressions
3. give students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' workbook will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 5 Jobs	Introduction Watch and listen, Discussion pp.103~110
2	Unit 5 Jobs	Grammar, listening Discussion pp.111~118
3	Unit 5 Jobs	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.119~125
4	Unit 6 Homes and buildings	Watch and listen, Discussion pp.127~133
5	Unit 6 Homes and buildings	Grammar, listening Discussion pp.134~140
6	Unit 6 Homes and buildings Graded Presentation 1	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.141~147 Presentation
7	Unit 7 Food and culture	Watch and listen, Discussion pp.149~155
8	Unit 7 Food and culture	Grammar, listening Discussion pp.156~162
9	Unit 7 Food and culture Graded Presentation 2	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.163~169 Presentation
10	Unit 8 Transport	Watch and listen, Discussion pp.171~177
11	Unit 8 Transport	Grammar, listening Discussion pp.178~184
12	Unit 8 Transport	Speaking, Critical Thinking, Vocabulary pp.185~191
13	Graded Presentation 3	Presentation
14	Review, Wrap-Up	Review Units 5~8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the Workbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
UNLOCK 1 - Listening, Speaking & Critical Thinking Student's Book, Second Edition, Cambridge University Press, ISBN 978-1-108-56727-5. Authors: N.M. White, Susan Peterson and Nancy Jordan with Chris Sowton

【参考書】
No references

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a computer, monitor(TV), and speakers that allow for the playing of audio tracks and videos online.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語４（中級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	I'd love that job	Ask and answer questions about jobs and job skills
Unit 7	I'd love that job	Talk about jobs you would or would not like, and give reasons
Unit 8	What's playing?	Discuss your opinions
Unit 8	What's playing?	Make plans with a partner
Unit 9	What are you going to do?	Ask and answer questions about future plans and activities
Unit 9	What are you going to do?	Discuss goals
Unit 10	How much is this?	Ask and answer questions about shopping
Unit 10	How much is this?	Negotiate prices
Unit 11	How do you make it?	Give steps in instructions
Unit 11	How do you make it?	Teach someone a skill
Unit 12	Listen to the music	Listen and give opinions
Unit 12	Listen to the music	Express your thoughts about music
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（中級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	I'd love that job	Ask and answer questions about jobs and job skills
Unit 7	I'd love that job	Talk about jobs you would or would not like, and give reasons
Unit 8	What's playing?	Discuss your opinions
Unit 8	What's playing?	Make plans with a partner
Unit 9	What are you going to do?	Ask and answer questions about future plans and activities
Unit 9	What are you going to do?	Discuss goals
Unit 10	How much is this?	Ask and answer questions about shopping
Unit 10	How much is this?	Negotiate prices
Unit 11	How do you make it?	Give steps in instructions
Unit 11	How do you make it?	Teach someone a skill
Unit 12	Listen to the music	Listen and give opinions
Unit 12	Listen to the music	Express your thoughts about music
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

英語４（上級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	Do you remember when?	Talk about your past experiences
Unit 7	Do you remember when?	Ask about your partner's past experiences
Unit 8	Let's have a get-together	Make plans with a partner
Unit 8	Let's have a get-together	Discuss having get-together in different cultures
Unit 9	What should I do?	Give advice to your partner
Unit 9	What should I do?	Ask your partner for advice
Unit 10	Tell me a story!	Tell your partner a story
Unit 10	Tell me a story!	Ask questions about your partner's story
Unit 11	In my opinion	State your opinion
Unit 11	In my opinion	Agree or disagree with your partner's opinion
Unit 12	It's my dream	Talk about future goals and plans
Unit 12	It's my dream	Ask your partner about their goals and plans for the future
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

英語４（上級）

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	Do you remember when?	Talk about your past experiences
Unit 7	Do you remember when?	Ask about your partner's past experiences
Unit 8	Let's have a get-together	Make plans with a partner
Unit 8	Let's have a get-together	Discuss having get-together in different cultures
Unit 9	What should I do?	Give advice to your partner
Unit 9	What should I do?	Ask your partner for advice
Unit 10	Tell me a story!	Tell your partner a story
Unit 10	Tell me a story!	Ask questions about your partner's story
Unit 11	In my opinion	State your opinion
Unit 11	In my opinion	Agree or disagree with your partner's opinion
Unit 12	It's my dream	Talk about future goals and plans
Unit 12	It's my dream	Ask your partner about their goals and plans for the future
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Intermediate

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	I'd love that job	Ask and answer questions about jobs and job skills
Unit 7	I'd love that job	Talk about jobs you would or would not like, and give reasons
Unit 8	What's playing?	Discuss your opinions
Unit 8	What's playing?	Make plans with a partner
Unit 9	What are you going to do?	Ask and answer questions about future plans and activities
Unit 9	What are you going to do?	Discuss goals
Unit 10	How much is this?	Ask and answer questions about shopping
Unit 10	How much is this?	Negotiate prices
Unit 11	How do you make it?	Give steps in instructions
Unit 11	How do you make it?	Teach someone a skill
Unit 12	Listen to the music	Listen and give opinions
Unit 12	Listen to the music	Express your thoughts about music
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Intermediate

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	I'd love that job	Ask and answer questions about jobs and job skills
Unit 7	I'd love that job	Talk about jobs you would or would not like, and give reasons
Unit 8	What's playing?	Discuss your opinions
Unit 8	What's playing?	Make plans with a partner
Unit 9	What are you going to do?	Ask and answer questions about future plans and activities
Unit 9	What are you going to do?	Discuss goals
Unit 10	How much is this?	Ask and answer questions about shopping
Unit 10	How much is this?	Negotiate prices
Unit 11	How do you make it?	Give steps in instructions
Unit 11	How do you make it?	Teach someone a skill
Unit 12	Listen to the music	Listen and give opinions
Unit 12	Listen to the music	Express your thoughts about music
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class
Presentations	In-class presentations	Students will give presentations in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 1 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson 2018 (ISBN 9789813130227)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JB

English Communication 1B Advanced

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	Do you remember when?	Talk about your past experiences
Unit 7	Do you remember when?	Ask about your partner's past experiences
Unit 8	Let's have a get-together	Make plans with a partner
Unit 8	Let's have a get-together	Discuss having get-together in different cultures
Unit 9	What should I do?	Give advice to your partner
Unit 9	What should I do?	Ask your partner for advice
Unit 10	Tell me a story!	Tell your partner a story
Unit 10	Tell me a story!	Ask questions about your partner's story
Unit 11	In my opinion	State your opinion
Unit 11	In my opinion	Agree or disagree with your partner's opinion
Unit 12	It's my dream	Talk about future goals and plans
Unit 12	It's my dream	Ask your partner about their goals and plans for the future
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe100JC

English Communication 1B Advanced

IVAN BOTEV

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve students overall English ability.

【到達目標】
This course will help students improve their speaking, reading and listening comprehension in English. The class also offers cultural insights with a variety of exercises that will encourage student participation and enhance their desire to continue studying English.
Course Goals:
1. Increasing students confidence and fluency in speaking and presentation
2. Teaching students useful words and expressions
3. Giving students practice at listening, reading and writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will present specific cultural topics to students. We will do listening, speaking, reading and writing activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in English.
At the end of each lesson, general feedback will be given to class. In addition, students will receive both group and individual feedback in class. Students' presentations will also be followed by feedback from instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 7	Do you remember when?	Talk about your past experiences
Unit 7	Do you remember when?	Ask about your partner's past experiences
Unit 8	Let's have a get-together	Make plans with a partner
Unit 8	Let's have a get-together	Discuss having get-together in different cultures
Unit 9	What should I do?	Give advice to your partner
Unit 9	What should I do?	Ask your partner for advice
Unit 10	Tell me a story!	Tell your partner a story
Unit 10	Tell me a story!	Ask questions about your partner's story
Unit 11	In my opinion	State your opinion
Unit 11	In my opinion	Agree or disagree with your partner's opinion
Unit 12	It's my dream	Talk about future goals and plans
Unit 12	It's my dream	Ask your partner about their goals and plans for the future
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class
Presentations	In-class presentations	Students will present in front of class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be assigned homework activities from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English Firsthand 2 Fifth Edition, Helgesen, Wiltshier, Brown, Pearson (ISBN 9789813130234)

【参考書】
Not applicable

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework 10%
Presentation 70%

【学生の意見等からの気づき】
Changes can be made in accordance with students' needs.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course will improve students overall English ability.

LANe200JB

英語６（中級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的はアカデミックな文章の読解を通じて、大学生の基礎的な英語リーディング力を要請すると同時に、高校までに培った語彙力や文法力を再確認する場とする。また、読解だけでなく双方向のコミュニケーションや発信を練習するだけでなく、アカデミックな文章の作成にも力を入れていく。

【到達目標】
本講義の目標は学生がアカデミックなレベルの読解力や文章作成能力、また発信能力を要請することにある。そのため、2 週間に 1 回実施される授業内小テストや中間、期末エッセイの評価、またグループ発表といったスピーキングを設けて、学生が客観的に自身の英語力を知れるように工夫する。小テスト、エッセイ、期末試験の内容を客観的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を毎週 0.5chapter づつ進め、2 週間で 1Chapter が終了できるように調整する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Mapping the human Brain 人間の脳に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 2 回	Mapping the human Brain 人間の脳に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 3 回	It's about time 時間に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 4 回	It's about time 時間に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 5 回	Living with Bacteria バクテリアに関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 6 回	Living with Bacteria バクテリアに関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 7 回	A Changing World 世界の伝統に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 8 回	A Changing World 世界の伝統に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 9 回	Cities are Growing Up 世界の都市に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 10 回	Cities are Growing Up 世界の都市に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。

中間審査	中間発表	中間発表と中間エッセイの回収を行う。
第 12 回	Toeic 読解 TOEIC Prepa-ration	Toeic の内容に即した読解を行う。
第 13 回	Toeic 文法 TOEIC Prepa-ration	Toeic の内容に即した文法演習を行う。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストや期末テスト、エッセイといった内容に関しては授業の前に各自で予習をしてくる必要がある。また、グループ発表に関しては各グループで事前に発表の準備をする必要がある。
各自 1 時間の自習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading Intro, Oxford University Press.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ各 20%, 期末テスト 20%, 授業での発表と参加 20%を総合的に判断して 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より、ライティングに特化して授業内容を改善した。

【その他の重要事項】
質問はメールにて受け付けています。yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to develop students' reading skills through academic reading materials. It will be a good opportunity to practice your vocabulary and grammar you studied in high school. Moreover, interactive communication, speaking and academic writing will be taken into consideration.

LANe200JC

英語６（中級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的はアカデミックな文章の読解を通じて、大学生の基礎的な英語リーディング力を要請すると同時に、高校までに培った語彙力や文法力を再確認する場とする。また、読解だけでなく双方向のコミュニケーションや発信を練習するだけでなく、アカデミックな文章の作成にも力を入れていく。

【到達目標】
本講義の目標は学生がアカデミックなレベルの読解力や文章作成能力、また発信能力を要請することにある。そのため、2 週間に 1 回実施される授業内小テストや中間、期末エッセイの評価、またグループ発表といったスピーキングを設けて、学生が客観的に自身の英語力を知れるように工夫する。小テスト、エッセイ、期末試験の内容を客観的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を毎週 0.5chapter づつ進め、2 週間で 1Chapter が終了できるように調整する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Map-ping the human Brain 人間の脳に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 2 回	Map-ping the human Brain 人間の脳に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 3 回	It's about time 時間に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 4 回	It's about time 時間に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 5 回	Living with Bacteria バクテリアに関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 6 回	Living with Bacteria バクテリアに関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 7 回	A Chang-ing World 世界の伝統に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 8 回	A Chang-ing World 世界の伝統に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。
第 9 回	Cities are Grow-ing Up 世界の都市に関する記事の読解。前半	記事の内容に即したグループ発表を行う。
第 10 回	Cities are Grow-ing Up 世界の都市に関する記事の読解。後半	記事の内容に即した、小テストとエッセイを実施する。

中間審査	中間発表	中間発表と中間エッセイの回収を行う。
第 12 回 TOEIC Prepa-ration	Toeic 読解	Toeic の内容に即した読解を行う。
第 13 回 TOEIC Prepa-ration	Toeic 文法	Toeic の内容に即した文法演習を行う。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストや期末テスト、エッセイといった内容に関しては授業の前に各自で予習をしてくる必要がある。また、グループ発表に関しては各グループで事前に発表の準備をする必要がある。
各自 1 時間の自習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading Intro, Oxford University Press.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ各 20%, 期末テスト 20%, 授業での発表と参加 20%を総合的に判断して 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より、ライティングに特化して授業内容を改善した。

【その他の重要事項】
質問はメールにて受け付けています。yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to develop students' reading skills through academic reading materials. It will be a good opportunity to practice your vocabulary and grammar you studied in high school. Moreover, interactive communication, speaking and academic writing will be taken into consideration.

LANe200JB

英語６（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、上級レベルの英語読解の教科書を使用し、アカデミックなレベルの英語力の養成に特化した授業を運営していく。また、アカデミックなレベルの語彙や表現を学習する。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生がアカデミックな語彙や表現、文法項目をレベルの高い教科書を使用することで、アカデミックなレベルの英語に触れ、小テストやエッセイ、学期末試験といった機会を通じてその習熟度を確認することで、客観的な成績評価に結び付けれることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週 0.5 ユニット、2 週間に 1 ユニットづつ教科書を学習する。また習熟度を測定する為に、2 週間に 1 度は小テストを実施する。また、中間、期末エッセイや期末試験といった到達度を測定する試験を定期的に実施する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Riding Through History	歴史に関しての記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 2 回 Riding Through History	歴史に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 3 回 Fight-ing Dis-eases	病原菌に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 4 回 Fight-ing Dis-eases	病原菌に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 5 回 They Know What You Want	マーケティングに関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 6 回 They Know What You Want	マーケティングに関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 7 回 Iden-tifying People	人物に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 8 回 Iden-tifying People	人物に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
中間エッセイ	中間エッセイ	中間エッセイのテーマの選定と書き方の指導
第 10 回 Success Story	成功に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。

第 11 回 Success Story	成功に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
期末エッセイ	期末エッセイ指示	期末エッセイのテーマと内容を指示する。
総復習	総復習	セメスターの内容を総復習する。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、エッセイや学期末試験の際は、各自で自学する必要がある。各自 1 時間の予習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading 1 : The Academic Word List in Context.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト、20% 中間・期末エッセイ、20%づつ　　期末試験、20% 授業参加 20%を 100%に換算し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し、読解の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
読解や語彙など少し、難しい内容を取り扱う。

【Outline and objectives】
This course aims to enhance students' academic English using high level textbook. Moreover, the course will provide academic level vocabulary and expressions.

LANe200JC

英語６（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、上級レベルの英語読解の教科書を使用し、アカデミックなレベルの英語力の養成に特化した授業を運営していく。また、アカデミックなレベルの語彙や表現を学習する。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生がアカデミックな語彙や表現、文法項目をレベルの高い教科書を使用することで、アカデミックなレベルの英語に触れ、小テストやエッセイ、学期末試験といった機会を通じてその習熟度を確認することで、客観的な成績評価に結び付けれることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週 0.5 ユニット、2 週間に 1 ユニットづつ教科書を学習する。また習熟度を測定する為に、2 週間に 1 度は小テストを実施する。また、中間、期末エッセイや期末試験といった到達度を測定する試験を定期的に実施する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Riding Through History	歴史に関しての記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 2 回 Riding Through History	歴史に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 3 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 4 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 5 回 They Know What You Want	マーケティングに関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 6 回 They Know What You Want	マーケティングに関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 7 回 Identifying People	人物に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。
第 8 回 Identifying People	人物に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
中間エッセイ	中間エッセイ	中間エッセイのテーマの選定と書き方の指導
第 10 回 Success Story	成功に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイを書く。

第11回	成功に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
Success Story		
期末エッセイ	期末エッセイ指示	期末エッセイのテーマと内容を指示する。
総復習	総復習	セメスターの内容を総復習する。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、エッセイや学期末試験の際は、各自で自学する必要がある。各自 1 時間の予習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading 1 : The Academic Word List in Context.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト、20% 中間・期末エッセイ、20%づつ　　期末試験、20% 授業参加 20%を 100%に換算し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し、読解の時間を増やして欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
読解や語彙など少し、難しい内容を取り扱う。

【Outline and objectives】
This course aims to enhance students' academic English using high level textbook. Moreover, the course will provide academic level vocabulary and expressions.

LANe200JB

英語６（基礎）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面における実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。読解、文法問題のみならず、TOEFL・TOEIC などのリスニング・セクションの問題にもふれ、、毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に接しながら聴解力をも高めていく。

【到達目標】
最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。また，他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
読解の問題に加え、恒常的に毎週プリントによる文法問題をすすめていきたい。また、かんたんなリスニング問題にも触れ聴解力を高めていきたい。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。	イントロダクション、年間計画、諸注意など
(2)	英語の流れに慣れる，	Exercise 1, < True or False questions > , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer > , Questions
(4)	想像力を働かせ、意味をとらえる	Exercise 4, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	音を聞き取り、まねる	Exercise 4, Film ③〜④
(6)	聞こえたままに音をつくる	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer > , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る	Exercise 5, Halloween < True or False questions > , Film ⑤〜⑥
(8)	つながりでとらえる	Exercise 5, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。レポート指示	Exercise 7, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす	Exercise 7, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧〜⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ	Exercise 9, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る	Film ⑨〜⑩
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る	Exercise 9,　まとめ、レポート提出
(14)	試験、まとめ、既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %），レポート（10 %），平常点（20 %），それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。

出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200JC

英語６（基礎）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面における実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。読解、文法問題のみならず、TOEFL・TOEIC などのリスニング・セクションの問題にもふれ、、毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に接しながら聴解力をも高めていく。

【到達目標】
最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。また，他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
読解の問題に加え、恒常的に毎週プリントによる文法問題をすすめていきたい。また、かんたんなリスニング問題にも触れ聴解力を高めていきたい。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。	イントロダクション、年間計画、諸注意など
(2)	英語の流れに慣れる，	Exercise 1, < True or False questions > , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer > , Questions
(4)	想像力を働かせ、意味をとらえる	Exercise 4, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	音を聞き取り、まねる	Exercise 4, Film ③〜④
(6)	聞こえたままに音をつくる	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer > , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る	Exercise 5, Halloween < True or False questions > , Film ⑤〜⑥
(8)	つながりでとらえる	Exercise 5, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。 レポート指示	Exercise 7, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす	Exercise 7, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧〜⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ	Exercise 9, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る	Film ⑨〜⑩
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る	Exercise 9,　まとめ、レポート提出
(14)	試験、まとめ、既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %），レポート（10 %），平常点（20 %），それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。

出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200JC

英語６（中級）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面における実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。読解、文法問題のみならず、TOEFL・TOEIC などのリスニング・セクションの問題にもふれ、毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に接しながら聴解力をも高めていく。

【到達目標】
最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。また，他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。 Reading Stroy(Y)	イントロダクション、授業計画、諸注意など。 Story 1,
(2)	英語の流れに慣れる， Reading Stroy(Y)	Story 1, Halloween, < True or False questions > , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える。 Reading Stroy(Y)	Film ①～②,Story 1, Concord, Questions
(4)	想像力を働かせ、意味をとらえる。 Reading Stroy(Y)	Story 1, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	音を聞き取り、まねる。 Reading Stroy(Y)	Story 2, Film ③～④
(6)	聞こえたままに音をつくる Reading Stroy(A)	Film ④～⑤, Kathy's song, < Background of the singer > , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る Reading Stroy(A)	Story 2, Halloween < True or False questions > , Film ⑤～⑥
(8)	つながりでとらえる Reading Stroy(A)	Story 2, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。 レポート指示 Reading Stroy(A)	Story 3, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす Reading Stroy(A)	Story 3, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧～⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ Reading Stroy(A2)	Story 3, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る Reading Stroy(A2)	TOEIC Listening, Film ⑨～⑩, Story 3
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る Reading Stroy(A2)	Exercise,　まとめ、 レポート提出
(14)	まとめ　既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50 %），レポート（10 %），平常点（40 %），それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200JB

英語６（中級）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面における実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。読解、文法問題のみならず、TOEFL・TOEIC などのリスニング・セクションの問題にもふれ、毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に接しながら聴解力をも高めていく。

【到達目標】
最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。また，他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。	イントロダクション、授業計画、諸注意など。 Story 1,
(2)	英語の流れに慣れる， Reading Stroy(Y)	Story 1, Halloween, < True or False questions > , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える。 Reading Stroy(Y)	Film ①～②,Story 1, Concord, Questions
(4)	想像力を働かせ、意味をとらえる。 Reading Stroy(Y)	Story 1, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	音を聞き取り、まねる。 Reading Stroy(Y)	Story 2, Film ③～④
(6)	聞こえたままに音をつくる Reading Stroy(A)	Film ④～⑤, Kathy's song, < Background of the singer > , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る Reading Stroy(A)	Story 2, Halloween < True or False questions > , Film ⑤～⑥
(8)	つながりでとらえる Reading Stroy(A)	Story 2, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。 レポート指示 Reading Stroy(A)	Story 3, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす Reading Stroy(A)	Story 3, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧～⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ Reading Stroy(A2)	Story 3, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る Reading Stroy(A2)	TOEIC Listening, Film ⑨～⑩, Story 3
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る Reading Stroy(A2)	Exercise,　まとめ、 レポート提出
(14)	まとめ　既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50 %），レポート（10 %），平常点（40 %），それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200JC

英語６（基礎）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライティングおよびグラマーを中心に学びます。文法的に不正確な英語では真意が正しく伝わりません。この科目では TOEIC を意識しつつ、文法的に正確な英語を書く訓練をします。

【到達目標】
基本的な文法事項をマスターします。まずは高校で学んだ文法知識を確認したうえで、英作文で実践的に使えるようにします。簡潔な短文を書くことからはじめ、最終的にはパラグラフ・ライティングができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項を確認するためのプリント教材を配布します。毎週、復習のための小テストを行います。次にテキストの問題を解いていきます。例文を参考にしながら短い文が書けるようにします。これも復習テストを行います。最後に、その週に学習した事項を利用しながら作文をする予定です。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
2	構文選択編１ プリント：時制	「～してはいかがですか」
3	構文選択編２ プリント：完了形	「～すれば必ず…する」
4	構文選択編３ プリント：未来形	「～すればするほど」
5	構文選択編４ プリント：助動詞	「～するやいなや」
6	構文選択編５ プリント：受動態	「…せよ、そうすれば／さもないと」
7	構文選択編６ プリント：関係代名詞１	「たいへん～なので…だ」
8	構文選択編７ プリント：関係代名詞２	「たとえ～だとしても」
9	構文選択編８ プリント：比較１	「～だと思う」
10	構文選択編９ プリント：比較２	「まるで～のように」
11	構文選択編１０ プリント：仮定法	「～は…と同じ」
12	構文選択編１１ プリント：文法総復習	「もし～ならば」
13	構文・語句選択編総復習 自由作文 プリント：予備日	覚えた知識を生かして文章を作ります。
14	テスト、まとめ	自由作文、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を行ってください。翌週の小テストで出ます。授業内でできることは限られています。普段の生活の中で自発的に英語で表現してみようとする習慣を身につけてください。単位を取るためではなく、自分の英語力を高めるためという意識で授業を利用してほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『公式で作る英語表現 (English Translation Using BasicEnglish Formulas)』、金子光茂／リチャード・H・シンプソン、南雲堂

【参考書】
授業には必ず辞書を持参してください。スマホは不可です。その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎週の小テストの合計得点５０％と授業への積極的な参加態度５０％を総合して評価します。また、授業回数の３分の１以上欠席した場合、学期末に行う最終テストの受験資格を失うので注意してください。
体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、単位取得は不可能です。登録する前に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しつつ、進度およびチャプターを調整したいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn writing sentenses and basic grammar.

LANe200JB

英語６（基礎）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライティングおよびグラマーを中心に学びます。文法的に不正確な英語では真意が正しく伝わりません。この科目では TOEIC を意識しつつ、文法的に正確な英語を書く訓練をします。

【到達目標】
基本的な文法事項をマスターします。まずは高校で学んだ文法知識を確認したうえで、英作文で実践的に使えるようにします。簡潔な短文を書くことからはじめ、最終的にはパラグラフ・ライティングができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項を確認するためのプリント教材を配布します。毎週、復習のための小テストを行います。次にテキストの問題を解いていきます。例文を参考にしながら短い文が書けるようにします。これも復習テストを行います。最後に、その週に学習した事項を利用しながら作文をする予定です。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
2	構文選択編１ プリント：時制	「～してはいかがですか」
3	構文選択編２ プリント：完了形	「～すれば必ず…する」
4	構文選択編３ プリント：未来形	「～すればするほど」
5	構文選択編４ プリント：助動詞	「～するやいなや」
6	構文選択編５ プリント：受動態	「…せよ、そうすれば／さもないと」
7	構文選択編６ プリント：関係代名詞１	「たいへん～なので…だ」
8	構文選択編７ プリント：関係代名詞２	「たとえ～だとしても」
9	構文選択編８ プリント：比較１	「～だと思う」
10	構文選択編９ プリント：比較２	「まるで～のように」
11	構文選択編１０ プリント：仮定法	「～は…と同じ」
12	構文選択編１１ プリント：文法総復習	「もし～ならば」
13	構文・語句選択編総復習 自由作文 プリント：予備日	覚えた知識を生かして文章を作ります。
14	テスト、まとめ	自由作文、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を行ってください。翌週の小テストで出ます。授業内でできることは限られています。普段の生活の中で自発的に英語で表現してみようとする習慣を身につけてください。単位を取るためではなく、自分の英語力を高めるためという意識で授業を利用してほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『公式で作る英語表現 (English Translation Using BasicEnglish Formulas)』、金子光茂／リチャード・H・シンプソン、南雲堂

【参考書】
授業には必ず辞書を持参してください。スマホは不可です。その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎週の小テストの合計得点５０％と授業への積極的な参加態度５０％を総合して評価します。また、授業回数の３分の１以上欠席した場合、学期末に行う最終テストの受験資格を失うので注意してください。
体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、単位取得は不可能です。登録する前に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しつつ、進度およびチャプターを調整したいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn writing sentenses and basic grammar.

LANe200JB

英語６（中級）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライティングおよびグラマーを中心に学びます。文法的に不正確な英語では真意が正しく伝わりません。この科目では TOEIC を意識しつつ、文法的に正確な英語を書く訓練をします。

【到達目標】
基本的な文法事項をマスターします。まずは高校で学んだ文法知識を確認したうえで、英作文で実践的に使えるようにします。簡潔な短文を書くことからはじめ、最終的にはパラグラフ・ライティングができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項を確認するためのプリント教材を配布します。毎週、復習のための小テストを行います。次にテキストの問題を解いていきます。例文を参考にしながら短い文が書けるようにします。これも復習テストを行います。最後に、その週に学習した事項を利用しながら作文をする予定です。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
2	構文選択編１ プリント：時制	「～してはいかがですか」
3	構文選択編２ プリント：完了形	「～すれば必ず…する」
4	構文選択編３ プリント：未来形	「～すればするほど」
5	構文選択編４ プリント：助動詞	「～するやいなや」
6	構文選択編５ プリント：受動態	「…せよ、そうすれば／さもないと」
7	構文選択編６ プリント：関係代名詞１	「たいへん～なので…だ」
8	構文選択編７ プリント：関係代名詞２	「たとえ～だとしても」
9	構文選択編８ プリント：比較１	「～だと思う」
10	構文選択編９ プリント：比較２	「まるで～のように」
11	構文選択編１０ プリント：仮定法	「～は…と同じ」
12	構文選択編１１ プリント：文法総復習	「もし～ならば」
13	構文・語句選択編総復習 自由作文 プリント：予備日	覚えた知識を生かして文章を作ります。
14	テスト、まとめ	自由作文、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を行ってください。翌週の小テストで出ます。授業内でできることは限られています。普段の生活の中で自発的に英語で表現してみようとする習慣を身につけてください。単位を取るためではなく、自分の英語力を高めるためという意識で授業を利用してほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『公式で作る英語表現 (English Translation Using BasicEnglish Formulas)』、金子光茂／リチャード・H・シンプソン、南雲堂

【参考書】
授業には必ず辞書を持参してください。スマホは不可です。その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎週の小テストの合計得点５０％と授業への積極的な参加態度５０％を総合して評価します。また、授業回数の３分の１以上欠席した場合、学期末に行う最終テストの受験資格を失うので注意してください。
体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、単位取得は不可能です。登録する前に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しつつ、進度およびチャプターを調整したいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn writing sentenses and basic grammar.

LANe200JC

英語６（中級）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライティングおよびグラマーを中心に学びます。文法的に不正確な英語では真意が正しく伝わりません。この科目では TOEIC を意識しつつ、文法的に正確な英語を書く訓練をします。

【到達目標】
基本的な文法事項をマスターします。まずは高校で学んだ文法知識を確認したうえで、英作文で実践的に使えるようにします。簡潔な短文を書くことからはじめ、最終的にはパラグラフ・ライティングができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項を確認するためのプリント教材を配布します。毎週、復習のための小テストを行います。次にテキストの問題を解いていきます。例文を参考にしながら短い文が書けるようにします。これも復習テストを行います。最後に、その週に学習した事項を利用しながら作文をする予定です。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
2	構文選択編１ プリント：時制	「～してはいかがですか」
3	構文選択編２ プリント：完了形	「～すれば必ず…する」
4	構文選択編３ プリント：未来形	「～すればするほど」
5	構文選択編４ プリント：助動詞	「～するやいなや」
6	構文選択編５ プリント：受動態	「…せよ、そうすれば／さもないと」
7	構文選択編６ プリント：関係代名詞１	「たいへん～なので…だ」
8	構文選択編７ プリント：関係代名詞２	「たとえ～だとしても」
9	構文選択編８ プリント：比較１	「～だと思う」
10	構文選択編９ プリント：比較２	「まるで～のように」
11	構文選択編１０ プリント：仮定法	「～は…と同じ」
12	構文選択編１１ プリント：文法総復習	「もし～ならば」
13	構文・語句選択編総復習 自由作文 プリント：予備日	覚えた知識を生かして文章を作ります。
14	テスト、まとめ	自由作文、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を行ってください。翌週の小テストで出ます。授業内でできることは限られています。普段の生活の中で自発的に英語で表現してみようとする習慣を身につけてください。単位を取るためではなく、自分の英語力を高めるためという意識で授業を利用してほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『公式で作る英語表現 (English Translation Using BasicEnglish Formulas)』、金子光茂／リチャード・H・シンプソン、南雲堂

【参考書】
授業には必ず辞書を持参してください。スマホは不可です。その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎週の小テストの合計得点５０％と授業への積極的な参加態度５０％を総合して評価します。また、授業回数の３分の１以上欠席した場合、学期末に行う最終テストの受験資格を失うので注意してください。
体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、単位取得は不可能です。登録する前に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しつつ、進度およびチャプターを調整したいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn writing sentenses and basic grammar.

LANe200JC

英語６（中級）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。準備 (Listening, Reading)、分析まとめ（Writing）発表 (Speaking)、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになる。
・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語を総合的に身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配いりません。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。
提出された課題はメール、必要に応じて対面や Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
第 2 回	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、資料の見つけ方。Reading&Listening。
第 3 回	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、資料を読み聞き理解する。Reading&Listening。
第 4 回	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ。Opinion Writing。
第 5 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
第 6 回	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備 (Speaking&Listening)。
第 7 回	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践 (Speaking&Listening)。
第 8 回	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング基礎 (問題と解決策)。
第 9 回	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8。Project: Problem-solving（インプット）
第 10 回	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9。Project: Problem-solving（アウトプット）
第 11 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、Project: Problem-solving（アウトプット)。課題の提出準備。
第 12 回	プレゼンテーションについてガインダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
第 13 回	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
第 14 回	文化紹介	ハンドアウト 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of listening, reading, writing, and speaking tasks based on a theme covered during the semester.

LANe200JB

英語６（中級）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させます。準備 (Listening, Reading)、分析まとめ（Writing）発表 (Speaking)、そしてフィードバックを通して、トピックに対する理解を深めます。自分の意見を表現することを重視します。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになる。
・プレゼンテーションやライティング課題の準備を通して、アカデミック英語を総合的に身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
定期的に小テストを行います。会話、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティングなど、パフォーマンスで評価しますが、未経験でも心配いりません。準備の段階から、発表、フィードバックまで、すべて授業で説明します。
提出された課題はメール、必要に応じて対面や Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。今までの英語学習状況についての聞き取り。
第 2 回	英語雑誌・英字新聞 1	ハンドアウト 1、資料の見つけ方。Reading&Listening。
第 3 回	英語雑誌・英字新聞 2	ハンドアウト 2、資料を読み聞き理解する。Reading&Listening。
第 4 回	英語雑誌・英字新聞 3	ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ。Opinion Writing。
第 5 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
第 6 回	英語雑誌・英字新聞 4	ハンドアウト 5、スピーチ準備（Speaking&Listening)。
第 7 回	英語雑誌・英字新聞 5	ハンドアウト 6、スピーチ実践（Speaking&Listening)。
第 8 回	英語雑誌・英字新聞 6	ハンドアウト 7、ライティング基礎（問題と解決策）。
第 9 回	英語雑誌・英字新聞 7	ハンドアウト 8。Project: Problem-solving（インプット）
第 10 回	英語雑誌・英字新聞 8	ハンドアウト 9。Project: Problem-solving（アウトプット）
第 11 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 10、Project: Problem-solving（アウトプット）。課題の提出準備。
第 12 回	プレゼンテーションについてガインダンス	ハンドアウト 11、プレゼンテーション準備
第 13 回	プレゼンテーション	ハンドアウト 12、プレゼンテーション
第 14 回	文化紹介	ハンドアウト 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This module is designed to prepare you for your future studies and career in English, whilst developing your English skills, focusing on academic reading, writing, speaking, and listening. The authentic materials from magazines and newspaper will cover a wide range of international and cultural issues. You will be required to submit a series of listening, reading, writing, and speaking tasks based on a theme covered during the semester.

LANe200JB

英語６（上級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の英語ニュースや映画、インタビューなど、生きた躍動感に満ちたオーセンティックな素材を生で聞き取り理解できる、上級のリスニング・スキルを養うこととその方法の習得を目指す。さらには時事問題への興味も深め、発信能力へつなげたい。

【到達目標】
ニュース英語を使ったリスニング・トレーニングのメソッドを習得し、時々刻々と変化する社会情勢を英語で的確に把握できる素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に CNN のニュースを編集した CD 付属のテキストを用い、視聴覚機器を利用して段階的にタスクをこなしながら、リスニング・コンプリヘンションを高めていく。リスニングの向上には、おおまかな理解をしながら行う「多聴」と細部まで丁寧に聞き取る「精聴」のふたつが不可欠なので、教科書付属の自習用 DVD をフル活用して、授業外でも繰り返し視聴すると有効である。折々に映画の一場面やインタビュー、演説などを取り入れ、多様な素材に触れていく予定。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	ニュース英語への導入	ニュースを効果的に理解するためのリスニングメソッド
第 3 回	Unit 1	A Matter of Time
第 4 回	Unit 2	Japan's Royal Dilemma
第 5 回	Unit 3	Doing it Right
第 6 回	Unit 4	From the Comfort of Home
第 7 回	Unit 5	No Age Barrier
第 8 回	Movie based Listening	Hollywood Dialog
第 9 回	Unit 6	Royal Split
第 10 回	Unit 7	Grand Lady in Distress
第 11 回	Unit 10	Youths Demand their Future
第 12 回	Review	まとめと復習
第 13 回	Presentation	表現活動
第 14 回	学期末試験	テスト (まとめと解説)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、付属のＣＤを使ってリスニング、シャドーイング、リピーティング、ニュースの背景や予備知識への発展的学習本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『English for The Global Age with CNN 22』2021 年度版（朝日出版）

【参考書】
授業時に適宜指示します。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
毎回の授業時にエクササイズを通した小テストを行う。
平常点（授業への真摯な取り組み、積極的な参加、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
とりあげる素材は無機質な英語ではなく、面白く手ごたえのあるテーマが満載です。多少難しくても挑戦しがいのある教材。リスニング・トレーニングの様々なメソッドを学びながら、現代社会の問題を考え視野を広げる契機も獲得してほしいと思います。

【その他の重要事項】
意欲と好奇心をもって臨んでください。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating content through CNN news with a view to improve English proficiency, mainly listening skill of advanced-level students.

LANe200JC

英語６（上級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の英語ニュースや映画、インタビューなど、生きた躍動感に満ちたオーセンティックな素材を生で聞き取り理解できる、上級のリスニング・スキルを養うこととその方法の習得を目指す。さらには時事問題への興味も深め、発信能力へつなげたい。

【到達目標】
ニュース英語を使ったリスニング・トレーニングのメソッドを習得し、時々刻々と変化する社会情勢を英語で的確に把握できる素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に CNN のニュースを編集した CD 付属のテキストを用い、視聴覚機器を利用して段階的にタスクをこなしながら、リスニング・コンプリヘンションを高めていく。リスニングの向上には、おおまかな理解をしながら行う「多聴」と細部まで丁寧に聞き取る「精聴」のふたつが不可欠なので、教科書付属の自習用 DVD をフル活用して、授業外でも繰り返し視聴すると有効である。折々に映画の一場面やインタビュー、演説などを取り入れ、多様な素材に触れていく予定。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	ニュース英語への導入	ニュースを効果的に理解するためのリスニングメソッド
第 3 回	Unit 1	A Matter of Time
第 4 回	Unit 2	Japan's Royal Dilemma
第 5 回	Unit 3	Doing it Right
第 6 回	Unit 4	From the Comfort of Home
第 7 回	Unit 5	No Age Barrier
第 8 回	Movie based Listening	Hollywood Dialog
第 9 回	Unit 6	Royal Split
第 10 回	Unit 7	Grand Lady in Distress
第 11 回	Unit 10	Youths Demand their Future
第 12 回	Review	まとめと復習
第 13 回	Presentation	表現活動
第 14 回	学期末試験	テスト (まとめと解説)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、付属のＣＤを使ってリスニング、シャドーイング、リピーティング、ニュースの背景や予備知識への発展的学習本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『English for The Global Age with CNN 22』2021 年度版（朝日出版）

【参考書】
授業時に適宜指示します。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
毎回の授業時にエクササイズを通した小テストを行う。
平常点（授業への真摯な取り組み、積極的な参加、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
とりあげる素材は無機質な英語ではなく、面白く手ごたえのあるテーマが満載です。多少難しくても挑戦しがいのある教材。リスニング・トレーニングの様々なメソッドを学びながら、現代社会の問題を考え視野を広げる契機も獲得してほしいと思います。

【その他の重要事項】
意欲と好奇心をもって臨んでください。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating content through CNN news with a view to improve English proficiency, mainly listening skill of advanced-level students.

LANe200JB

英語７（Reading）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では環境問題と科学を通してリーディング・スキルを磨くことを目的とする。

【到達目標】
環境問題と科学に関する話題を取り上げより長い英文をより早く理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。２～３人でグループを形成し、環境問題や科学に関する話題に関してディスカッションを通して、グループ単位でそれぞれの話題に関して意見をまとめ発表してもらう。課題を科す場合は hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wellcome to a World within a Pair of Glassses	仮想現実の世界へようこそ
第 2 回	The Secret of the Stradivarius	ストラディバリウスの音色の秘密
第 3 回	Getting Rid of Plastic in the Ocean	海からプラスティックの廃棄物をなくす方法
第 4 回	Preventing the World's increasing Allergies	アレルギーとその予防策・対応策
第 5 回	Journy to the Lonely Outer World	冥王星への旅
第 6 回	Archaeologists, Aliens and Earth	考古学で探る古代ミステリー
第 7 回	Dinosaur and Human Co-Existence	恐竜と人類は共存していたのか
第 8 回	Face Recognistion System All Around Us	顔認証システムはあたたをどこまで知るべきか
第 9 回	Miracle Drink	緑茶とカテキンの効果
第 10 回	Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化
第 11 回	Time Warp	ブラックホールとタイムワープの関係
第 12 回	Plastic Surgery	美容整形手術は大丈夫か
第 13 回	Imaginative, Potable, Modular Houses to Set You Free	可動式モジュールは未来の新しい家
第 14 回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をしてください。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「science Adventure」kiriharashoten １９００円（税別）

【参考書】
英字新聞・雑誌を読んでください。

【成績評価の方法と基準】
テスト７０％・平常点３０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
トピカルな話題を取り上げるようにする。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through Science and Environmental issues.

LANe200JC

英語７（Reading）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では環境問題と科学を通してリーディング・スキルを磨くことを目的とする。

【到達目標】
環境問題と科学に関する話題を取り上げより長い英文をより早く理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。２～３人でグループを形成し、環境問題や科学に関する話題に関してディスカッションを通して、グループ単位でそれぞれの話題に関して意見をまとめ発表してもらう。課題を科す場合は hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	Wellcome to a World within a Pair of Glassses	仮想現実の世界へようこそ
第２回	The Secret of the Stradivarius	ストラディバリウスの音色の秘密
第３回	Getting Rid of Plastic in the Ocean	海からプラスティックの廃棄物をなくす方法
第４回	Preventing the World's increasing Allergies	アレルギーとその予防策・対応策
第５回	Journy to the Lonely Outer World	冥王星への旅
第６回	Archaeologists, Aliens and Earth	考古学で探る古代ミステリー
第７回	Dinosaur and Human Co-Existence	恐竜と人類は共存していたのか
第８回	Face Recognistion System All Around Us	顔認証システムはあたたをどこまで知るべきか
第９回	Miracle Drink	緑茶とカテキンの効果
第10回	Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化
第11回	Time Warp	ブラックホールとタイムワープの関係
第12回	Plastic Surgery	美容整形手術は大丈夫か
第13回	Imaginative, Potable, Modular Houses to Set You Free	可動式モジュールは未来の新しい家
第14回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をしてください。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「science Adventure」kiriharashoten １９００円（税別）

【参考書】
英字新聞・雑誌を読んでください。

【成績評価の方法と基準】
テスト７０％・平常点３０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
トピカルな話題を取り上げるようにする。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through Science and Environmental issues.

LANe200JC

英語７（Listening）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングをを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。世界の中の日本について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	授業の紹介等
第２回	UNIT 1	Long-Established Businesses
第３回	UNIT 2	Uniforms
第４回	UNIT 3	Volunteer Work
第５回	UNIT 4	High-Tech Living
第６回	UNIT 5	Japanese Tableware
第７回	UNIT 6	Homemakers of Japan
第８回	UNIT 7	Seafood
第９回	UNIT 8	Voice Actors
第10回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes
第11回	UNIT 10	Senior Citizens
第12回	UNIT 11	Homemakers of Japan: Report
第13回	UNIT 12	Money
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Discovering Cool Japan』堀江洋文 (成美堂:2019)￥ 2,500+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will enable students to improve listening skills through weekly activities. These skills will help students interact with English speakers.

LANe200JB

英語７（Listening）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングをを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。世界の中の日本について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Long-Established Businesses
第 3 回	UNIT 2	Uniforms
第 4 回	UNIT 3	Volunteer Work
第 5 回	UNIT 4	High-Tech Living
第 6 回	UNIT 5	Japanese Tableware
第 7 回	UNIT 6	Homemakers of Japan
第 8 回	UNIT 7	Seafood
第 9 回	UNIT 8	Voice Actors
第 10 回	UNIT 9	Japanized Foreign Dishes
第 11 回	UNIT 10	Senior Citizens
第 12 回	UNIT 11	Homemakers of Japan: Report
第 13 回	UNIT 12	Money
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Discovering Cool Japan』堀江洋文 (成美堂:2019) ￥ 2,500+税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will enable students to improve listening skills through weekly activities. These skills will help students interact with English speakers.

LANe200JB

英語７（Speaking）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

【到達目標】
In this course, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates and give presentations in English with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主にアクティブラーニングを実践していきます。
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' speeches will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Lesson 1 Global Warming and Climate Change	-Introduction / Course Overview -Students watch a video and listen to a recording about scientists collecting samples from the Arctic Ocean. pp.7~9
2	Lesson 1 Global Warming and Climate Change	Students read an article about environmental changes. pp.10~11
3	Lesson 1 Global Warming and Climate Change Graded Presentation 1	Collaborative Learning: Students work in groups, do research and discussion, and give a presentation about global warming countermeasures. p.12
4	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives	Students watch a video and listen to a recording about life expectancy. pp.13~16
5	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives	Students read an article about Jeanne Louise Calment, and the ingredients to long and healthy life. pp.16~18
6	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives Graded Presentation 2	Collaborative Learning: Students work in groups, do research and discussion, and give a presentation about super foods and longevity. p.18
7	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Students watch a video and listen to a recording about testing of self-driving cars. pp.19~22
8	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Students read an article about the advantages and disadvantages of using self-driving cars. pp.22~24
9	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Collaborative Learning: Students work in groups, conduct an interview/survey on self-driving cars technology, and present the results to the class. p.24

10	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species	Students watch a video and listen to a recording about pink dolphins in Hong Kong. pp.25~28
11	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species	Students read an article about economic progress and biodiversity.pp.28~30
12	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species Graded Presentation 3	Collaborative Learning: Students work in pairs, express an opinion on the conflict between urban development and biodiversity. p.30
13	Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts	Students watch a video and listen to a recording about 3D printing. pp.31~34
14	Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts Wrap-Up	Students read an article about the medical use of 3D printing.pp.34~36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題 (One-minute speech) の時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
AFP World Focus - Environment, Health, and Technology -
Authors: Makoto Shishido, Kevin Murphy, Mariko Takahashi
Publishing Company: SEIBIDO
Price: ￥2,500
ISBN: 978-4-7919-6034-7

【参考書】
News on Japan
http://www.newsonjapan.com/

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a CD/DVD player.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

LANe200JC

英語７（Speaking）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

【到達目標】
In this course, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates and give presentations in English with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主にアクティブラーニングを実践していきます。
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' speeches will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Lesson 1 Global Warming and Climate Change	-Introduction / Course Overview -Students watch a video and listen to a recording about scientists collecting samples from the Arctic Ocean. pp.7~9
2	Lesson 1 Global Warming and Climate Change	Students read an article about environmental changes. pp.10~11
3	Lesson 1 Global Warming and Climate Change Graded Presentation 1	Collaborative Learning: Students work in groups, do research and discussion, and give a presentation about global warming countermeasures. p.12
4	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives	Students watch a video and listen to a recording about life expectancy. pp.13~16
5	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives	Students read an article about Jeanne Louise Calment, and the ingredients to long and healthy life. pp.16~18
6	Lesson 2 Diet and Health for Long Lives Graded Presentation 2	Collaborative Learning: Students work in groups, do research and discussion, and give a presentation about super foods and longevity. p.18
7	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Students watch a video and listen to a recording about testing of self-driving cars. pp.19~22
8	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Students read an article about the advantages and disadvantages of using self-driving cars. pp.22~24
9	Lesson 3 Self-Driving for the Future	Collaborative Learning: Students work in groups, conduct an interview/survey on self-driving cars technology, and present the results to the class. p.24

10	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species	Students watch a video and listen to a recording about pink dolphins in Hong Kong. pp.25~28
11	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species	Students read an article about economic progress and biodiversity.pp.28~30
12	Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species Graded Presentation 3	Collaborative Learning: Students work in pairs, express an opinion on the conflict between urban development and biodiversity. p.30
13	Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts	Students watch a video and listen to a recording about 3D printing. pp.31~34
14	Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts Wrap-Up	Students read an article about the medical use of 3D printing.pp.34~36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題 (One-minute speech) の時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
AFP World Focus - Environment, Health, and Technology -
Authors: Makoto Shishido, Kevin Murphy, Mariko Takahashi
Publishing Company: SEIBIDO
Price: ￥2,500
ISBN: 978-4-7919-6034-7

【参考書】
News on Japan
http://www.newsonjapan.com/

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%
Homework 10%
Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a CD/DVD player.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

LANe200JC

英語７（Speaking）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
The purpose of this course is to provide students with an active approach to increasing their critical thinking skills in English through reading, speaking and listening.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to ensure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Insight	go over syllabus, introducing yourself
2	Unit 1	The Beauty of the Seasons
3	Unit 2	The History of the Hamburger
4	Unit 3	The Importance of English
5	Unit 4	How the Internet Evolved
6	Quiz: more info given in class	Short 3 minute quiz based on well rehearsed points covered in class
7	Language board games done in small groups	Let's Have fun in asking and answering questions on a game sheet.
8	Unit 7	The Secret of Happiness
9	Unit 8	Shopping on the Internet
10	Unit 9	Do Aliens and UFOs Really Exist?
11	Unit 10	The Happiest Country in the World
12	Oral Quiz	Short 3 minute quiz based on well rehearsed points covered in class
13	Language board games done in small groups	Let's Have fun in asking and answering questions on a game sheet. Provide HANDOUT for next week's lesson
14	Undecided	Current ESL news article

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each assigned unit must be read and highlighted as well as the exercises at the end of the unit completed before each class. Being absent the week before the unit is gone over in class is not an acceptable excuse. Incompletion of units will affect your final grade. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life Topics, A critical Thinking Approach to English Proficiency, ISBN978-4-523-17689-3 C00082

【参考書】
Students must have their textbooks and an electronic or standard English/Japanese dictionary in all classes.

【成績評価の方法と基準】
Participation and completing homework = 60% Oral quizes = 40%
Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe200JB

英語７（Speaking）

ジェイソン　ポール　スミス

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

【到達目標】
The purpose of this course is to provide students with an active approach to increasing their critical thinking skills in English through reading, speaking and listening.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students receive feedback (by email for online classes, or handwritten on the submitted assignment for in-person classes) as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. The plan is to have students do the readings before they come to class. Random questions will be asked to ensure this. Students must have a dictionary in all classes and be prepared to participate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Insight	go over syllabus, introducing yourself
2	Unit 1	The Beauty of the Seasons
3	Unit 2	The History of the Hamburger
4	Unit 3	The Importance of English
5	Unit 4	How the Internet Evolved
6	Quiz: more info given in class	Short 3 minute quiz based on well rehearsed points covered in class
7	Language board games done in small groups	Let's Have fun in asking and answering questions on a game sheet.
8	Unit 7	The Secret of Happiness
9	Unit 8	Shopping on the Internet
10	Unit 9	Do Aliens and UFOs Really Exist?
11	Unit 10	The Happiest Country in the World
12	Oral Quiz	Short 3 minute quiz based on well rehearsed points covered in class
13	Language board games done in small groups	Let's Have fun in asking and answering questions on a game sheet. Provide HANDOUT for next week's lesson
14	Undecided	Current ESL news article

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each assigned unit must be read and highlighted as well as the exercises at the end of the unit completed before each class. Being absent the week before the unit is gone over in class is not an acceptable excuse. Incompletion of units will affect your final grade. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life Topics, A critical Thinking Approach to English Proficiency, ISBN978-4-523-17689-3 C00082

【参考書】
Students must have their textbooks and an electronic or standard English/Japanese dictionary in all classes.

【成績評価の方法と基準】
Participation and completing homework = 60% Oral quizes = 40%
Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences.

【学生の意見等からの気づき】
The instructor reserves the right to make adjustment or changes when he feels it is necessary.

【Outline and objectives】
IMPROVING YOUR ENGLISH WITH AN INTERESTING APPROACH AS DESCRIBED BELOW

LANe200JB

英語７（Writing）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させる。アカデミックライティングは、英語資料でのリサーチ、ドラフト作成、提出、発表、フィードバックを一通り経験します。エッセイ作成のほかにも、大学生活および今後の社会生活に必要な英語ライティングの基礎知識を身に着けます。意見文の作成からスタートします。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになること。
・ライティング課題の準備を通して、アカデミック英語の基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
メール、必要に応じて対面、Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	ライティング基礎１	英語雑誌・英字新聞 1。 ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）。
第 3 回	ライティング基礎２	英語雑誌・英字新聞 2。 ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）2。 Email Writing
第 4 回	ライティング基礎３	英語雑誌・英字新聞 3 ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）3。
第 5 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
第 6 回	ライティングとスピーチ	英語雑誌・英字新聞 4 ハンドアウト 5、アカデミックスピーチのためのライティング準備。
第 7 回	ライティングとスピーチ	ハンドアウト 6、アカデミックスピーチのためのライティング準備。
第 8 回	問題提起と解決１	英語雑誌・英字新聞 5。 ハンドアウト 7、ライティング基礎（問題と解決策）。
第 9 回	問題提起と解決２	英語雑誌・英字新聞 6。 ハンドアウト 8、ライティング基礎（問題と解決策）2。
第 10 回	問題提起と解決２	ハンドアウト 9、ライティング基礎（問題と解決策）3。
第 11 回	到達度の確認	ライティング完成。到達度の確認。
第 12 回	ライティングのフィードバック	ライティング課題の確認。
第 13 回	試験	筆記試験 まとめと解説
第 14 回	前期まとめ	アカデミックイングリッシュの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ではハンドアウトを使います。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション、期末試験）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
辞書。タブレットやノートパソコンを使う回があります。※事前に連絡します。

【その他の重要事項】
課題提出には法政のメールアドレスを使用します。

【Outline and objectives】
To develop students' academic English skills which help students' future research and career development, this class basically focuses on academic writing. Students will experience research in English, making a draft, submitting assignments, giving a presentation, getting and giving feedback in English.

LANe200JC

英語７（Writing）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後の研究やキャリアに必要な英語力を養い、発展させる。アカデミックライティングは、英語資料でのリサーチ、ドラフト作成、提出、発表、フィードバックを一通り経験します。エッセイ作成のほかにも、大学生活および今後の社会生活に必要な英語ライティングの基礎知識を身に着けます。意見文の作成からスタートします。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになること。
・ライティング課題の準備を通して、アカデミック英語の基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
メール、必要に応じて対面、Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	ライティング基礎１	英語雑誌・英字新聞 1。 ハンドアウト 1、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）。
第 3 回	ライティング基礎２	英語雑誌・英字新聞 2。 ハンドアウト 2、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）2。 Email Writing
第 4 回	ライティング基礎３	英語雑誌・英字新聞 3 ハンドアウト 3、アウトプットアクティビティ、ライティング基礎（意見を述べる）3。
第 5 回	ライティングのフィードバック	ハンドアウト 4、ライティング完成。到達度の確認。
第 6 回	ライティングとスピーチ	英語雑誌・英字新聞 4 ハンドアウト 5、アカデミックスピーチのためのライティング準備。
第 7 回	ライティングとスピーチ	ハンドアウト 6、アカデミックスピーチのためのライティング準備。
第 8 回	問題提起と解決１	英語雑誌・英字新聞 5。 ハンドアウト 7、ライティング基礎（問題と解決策）。
第 9 回	問題提起と解決２	英語雑誌・英字新聞 6。 ハンドアウト 8、ライティング基礎（問題と解決策）2。
第 10 回	問題提起と解決２	ハンドアウト 9、ライティング基礎（問題と解決策）3。
第 11 回	到達度の確認	ライティング完成。到達度の確認。
第 12 回	ライティングのフィードバック	ライティング課題の確認。
第 13 回	試験	筆記試験 まとめと解説
第 14 回	前期まとめ	アカデミックイングリッシュの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。定期的に小テストを行うので、復習してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ではハンドアウトを使います。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、ライティング課題、スピーチ、プレゼンテーション、期末試験）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
辞書。タブレットやノートパソコンを使う回があります。※事前に連絡します。

【その他の重要事項】
課題提出には法政のメールアドレスを使用します。

【Outline and objectives】
To develop students' academic English skills which help students' future research and career development, this class basically focuses on academic writing. Students will experience research in English, making a draft, submitting assignments, giving a presentation, getting and giving feedback in English.

LANe200JB

英語７（Listening）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポップスのヒット曲を聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力を向上させる。TOEIC 形式のリスニング問題にも慣れ、スコアアップを目指すとともに、実社会で役立つ英語表現を身につけることを目的とする。

【到達目標】
洋楽を通して、英語特有の音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化の特徴を知り、音声変化のポイントを体系的に習得する。TOEIC 形式の問題演習にも慣れ、総合的な英語の運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
洋楽を通して、音の連結や同化、脱落など様々な音声変化のポイントを体系的に習得する。歌詞を中心に多彩な演習問題を行い、毎回平行して実践的な TOEIC 対策も進める。さらに異文化トピックを扱った英文に触れリスニング、ボキャブラリーの増強を目指す。自習用の CD 付属のテキストを用いるので、大いに活用されたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	Unit 1:Avril Lavigne	Complicated「音の同化」
第 3 回	listening challenge	TOEIC mini test
第 4 回	Unit 3 :Michael Jackson	You are not Alone「音の脱落」
第 5 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 6 回	Unit 5 ： Meja	How crazy are you?「破裂音」
第 7 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 8 回	Unit7 ： Review	復習、発展演習
第 9 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 10 回	Unit 9 ： Michael Bolton	How am I Spposed to Live Without You「音の連結、子音と [j]」
第 11 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 12 回	Unit 10:Save The Best For Last	Kiss of life「短縮形の聞き取り」
第 13 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 14 回	Review	まとめと学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、リスニング用のスクリプトの音読、付属ＣＤを繰り返し聞くこと等がスキルアップにつながります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Pop Hits(Seibido, 2014)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
ポップスを通して英語の自然なリズムを習得し、楽しみながらリスニング力の向上を図りましょう。洋楽が好きな人も普段聞かない人も、英語の世界や音楽で新しい発見が出来ることと期待します。

【Outline and objectives】
This class aims to improve listening skills of learners, providing phonetics materials through English songs and various exercises, giving a fascinating insight into a different culture.

LANe200JC

英語７（Listening）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポップスのヒット曲を聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力を向上させる。TOEIC 形式のリスニング問題にも慣れ、スコアアップを目指すとともに、実社会で役立つ英語表現を身につけることを目的とする。

【到達目標】
洋楽を通して、英語特有の音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化の特徴を知り、音声変化のポイントを体系的に習得する。TOEIC 形式の問題演習にも慣れ、総合的な英語の運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
洋楽を通して、音の連結や同化、脱落など様々な音声変化のポイントを体系的に習得する。歌詞を中心に多彩な演習問題を行い、毎回平行して実践的な TOEIC 対策も進める。さらに異文化トピックを扱った英文に触れリスニング、ボキャブラリーの増強を目指す。自習用の CD 付属のテキストを用いるので、大いに活用されたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	Unit 1:Avril Lavigne	Complicated「音の同化」
第 3 回	listening challenge	TOEIC mini test
第 4 回	Unit 3 :Michael Jackson	You are not Alone「音の脱落」
第 5 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 6 回	Unit 5 ： Meja	How crazy are you?「破裂音」
第 7 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 8 回	Unit7 ： Review	復習、発展演習
第 9 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 10 回	Unit 9 ： Michael Bolton	How am I Spposed to Live Without You「音の連結、子音と [j]」
第 11 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 12 回	Unit 10:Save The Best For Last	Kiss of life「短縮形の聞き取り」
第 13 回	Listening challenge	TOEIC mini test
第 14 回	Review	まとめと学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、リスニング用のスクリプトの音読、付属ＣＤを繰り返し聞くこと等がスキルアップにつながります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Pop Hits(Seibido, 2014)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
ポップスを通して英語の自然なリズムを習得し、楽しみながらリスニング力の向上を図りましょう。洋楽が好きな人も普段聞かない人も、英語の世界や音楽で新しい発見が出来ることと期待します。

【Outline and objectives】
This class aims to improve listening skills of learners, providing phonetics materials through English songs and various exercises, giving a fascinating insight into a different culture.

LANe200JC

英語８（Reading）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とします。
また、現代社会の問題を知り、考えることも目的とします。

【到達目標】
英文エッセイの基本的な構成に慣れていき，最終的には，読解に必要な考え方を身につけると同時に，現代社会の問題について自分の意見を持つことも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを精読するが，受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し，大意が発表できるよう準備してください。また、自分の意見を英語で表現する訓練をします。映画などを適宜紹介し、意見を発表してもらいます。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
第 2 回	Unit 13:遺伝子組み換え食品の倫理性	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など①
第 3 回	Unit 14:温暖化を止めるには	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など②
第 4 回	Unit 15:都市の緑化	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など③
第 5 回	Unit 16:有名人の慈善活動	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など④
第 6 回	Unit 17:自由貿易で得をするのは	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑤
第 7 回	Unit 18: 格差社会の原因	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑥
第 8 回	Unit 19:アフリカが抱える問題	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑦
第 9 回	Unit 20:開発援助の必要性	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑧
第 10 回	Unit 9:SF の未来予想	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑨
第 11 回	Unit 10:医療技術と長寿	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑩
第 12 回	Unit 11:ナノテクノロジーがもたらすもの	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑪
第 13 回	Unit 12:ロボット革命の影響	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑫
第 14 回	総復習	これまでのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、授業のはじめに単語テストを行います。パラグラフごとにトピックとなるセンテンスを見つけていくので、アンダーラインを引いておいてください。テキストに予習内容を書き込み、英文法、訳し方、内容についてなどの質問をメモして出席してください。１時間くらいを目安とします。

【テキスト（教科書）】
『新しい世界の読み方』（成美堂）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習および授業への参加態度 50%。レポートなど提出物 20%。試験 30%。（３分の１以上欠席した者は受験資格を失うので注意してください。特に、体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、履修はきわめて困難になると思われます。登録する前によく考えてください。）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当のため、特になし。

【その他の重要事項】
予習を毎週確認します。チェックを受けた人のみ出席とします。
辞書を持参してください。電子辞書、紙の辞書は問いません。

進度やチャプターなどは、受講者と相談のうえ変更することがあります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to practice grasping the points of English essays effectively. Also, you will learn problems of modern society, and think about them.

LANe200JB

英語８（Reading）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とします。
また、現代社会の問題を知り、考えることも目的とします。

【到達目標】
英文エッセイの基本的な構成に慣れていき，最終的には，読解に必要な考え方を身につけると同時に，現代社会の問題について自分の意見を持つことも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを精読するが，受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し，大意が発表できるよう準備してください。また、自分の意見を英語で表現する訓練をします。映画などを適宜紹介し、意見を発表してもらいます。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
第 2 回	Unit 13:遺伝子組み換え食品の倫理性	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など①
第 3 回	Unit 14:温暖化を止めるには	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など②
第 4 回	Unit 15:都市の緑化	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など③
第 5 回	Unit 16:有名人の慈善活動	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など④
第 6 回	Unit 17:自由貿易で得をするのは	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑤
第 7 回	Unit 18: 格差社会の原因	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑥
第 8 回	Unit 19:アフリカが抱える問題	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑦
第 9 回	Unit 20:開発援助の必要性	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑧
第 10 回	Unit 9:SF の未来予想	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑨
第 11 回	Unit 10:医療技術と長寿	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑩
第 12 回	Unit 11:ナノテクノロジーがもたらすもの	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑪
第 13 回	Unit 12:ロボット革命の影響	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑫
第 14 回	総復習	これまでのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、授業のはじめに単語テストを行います。パラグラフごとにトピックとなるセンテンスを見つけていくので、アンダーラインを引いておいてください。テキストに予習内容を書き込み、英文法、訳し方、内容についてなどの質問をメモして出席してください。１時間くらいを目安とします。

【テキスト（教科書）】
『新しい世界の読み方』（成美堂）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習および授業への参加態度 50%。レポートなど提出物 20%。試験 30%。（３分の１以上欠席した者は受験資格を失うので注意してください。特に、体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、履修はきわめて困難になると思われます。登録する前によく考えてください。）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当のため、特になし。

【その他の重要事項】
予習を毎週確認します。チェックを受けた人のみ出席とします。
辞書を持参してください。電子辞書、紙の辞書は問いません。

進度やチャプターなどは、受講者と相談のうえ変更することがあります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to practice grasping the points of English essays effectively. Also, you will learn problems of modern society, and think about them.

LANe200JB

英語８（Speaking）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

【到達目標】
In this course, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates and give presentations in English with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主にアクティブラーニングを実践していきます。
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' speeches will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Lesson 6 IT and Education	-Introduction / Course Overview -Students watch a video and listen to a recording about digital learning in Kenya. pp.37~40
2	Lesson 6 IT and Education	Students read an article about education and technology. pp.40~42
3	Lesson 6 IT and Education Graded Presentation 1	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about IT and Education. p.42
4	Lesson 7 Protection from Natural Disasters	Students watch a video and listen to a recording about anti-earthquake structures in Chile. pp.43~46
5	Lesson 7 Protection from Natural Disasters	Students read an article about minimizing the effects of natural disasters. pp.46~48
6	Lesson 7 Protection from Natural Disasters Graded Presentation 2	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about measures against various natural disasters. p.48
7	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Students watch a video and listen to a recording about dogs and drones helping farmers. pp.49~52
8	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Students read an article about the uses of drones. pp.52~54
9	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about the uses of drones and countermeasures for problems in using drones. p.54
10	Lesson 9 Garbage Problems	Students watch a video and listen to a recording about Sitie Park in Rio,an example of urban renewal. pp.55~58

11	Lesson 9 Garbage Problems	Students read an article about landfills and waste management. pp.58~60
12	Lesson 9 Garbage Problems Graded Presentation 3	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about necessary measures to reduce garbage. p.60
13	Lesson 10 Eating Disorders	Students watch a video and listen to a recording about Pulp Fashion in Paris. pp.61~64
14	Lesson 10 Eating Disorders Wrap-Up	Students read an article about obesity and dieting. pp.64~66

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題 (One-minute speech) の時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
AFP World Focus - Environment, Health, and Technology -
Authors: Makoto Shishido, Kevin Murphy, Mariko Takahashi
Publishing Company: SEIBIDO
Price: ￥2,500
ISBN: 978-4-7919-6034-7

【参考書】
News on Japan
http://www.newsonjapan.com/

【成績評価の方法と基準】
-Participation 15%
-Homework 10%
-Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a CD/DVD player.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

LANe200JC

英語８（Speaking）

ANA M C MINDOG

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

【到達目標】
In this course, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. To help improve their skills, students are expected to be positive about studying English, and are also expected to participate in classroom activities such as speaking in groups. By the end of this course, students should be able to communicate with classmates and give presentations in English with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主にアクティブラーニングを実践していきます。
If classes are conducted online, homework should be sent to the teacher via email. Homework will be marked and sent back to students. If classes are held in classrooms, students' speeches will be collected, marked and returned.
After each graded presentation, a general feedback will be given to the class. In addition, students will receive a group/individual feedback. Feedback will be written on a piece of paper if we have offline classes, or sent via email if classes are conducted remotely.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Lesson 6 IT and Education	-Introduction / Course Overview -Students watch a video and listen to a recording about digital learning in Kenya. pp.37~40
2	Lesson 6 IT and Education	Students read an article about education and technology. pp.40~42
3	Lesson 6 IT and Education Graded Presentation 1	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about IT and Education. p.42
4	Lesson 7 Protection from Natural Disasters	Students watch a video and listen to a recording about anti-earthquake structures in Chile. pp.43~46
5	Lesson 7 Protection from Natural Disasters	Students read an article about minimizing the effects of natural disasters. pp.46~48
6	Lesson 7 Protection from Natural Disasters Graded Presentation 2	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about measures against various natural disasters. p.48
7	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Students watch a video and listen to a recording about dogs and drones helping farmers. pp.49~52
8	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Students read an article about the uses of drones. pp.52~54
9	Lesson 8 Practical Uses of Drones	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about the uses of drones and countermeasures for problems in using drones. p.54
10	Lesson 9 Garbage Problems	Students watch a video and listen to a recording about Sitie Park in Rio,an example of urban renewal. pp.55~58

11	Lesson 9 Garbage Problems	Students read an article about landfills and waste management. pp.58~60
12	Lesson 9 Garbage Problems Graded Presentation 3	Collaborative Learning: Students work in groups, have a discussion, and give a presentation about necessary measures to reduce garbage. p.60
13	Lesson 10 Eating Disorders	Students watch a video and listen to a recording about Pulp Fashion in Paris. pp.61~64
14	Lesson 10 Eating Disorders Wrap-Up	Students read an article about obesity and dieting. pp.64~66

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習・課題 (One-minute speech) の時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
AFP World Focus - Environment, Health, and Technology -
Authors: Makoto Shishido, Kevin Murphy, Mariko Takahashi
Publishing Company: SEIBIDO
Price: ￥2,500
ISBN: 978-4-7919-6034-7

【参考書】
News on Japan
http://www.newsonjapan.com/

【成績評価の方法と基準】
-Participation 15%
-Homework 10%
-Presentation 75%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a notebook and a dictionary. This class needs to be in a room with a CD/DVD player.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
This course will help students develop intermediate interpersonal skills and promote interest and motivation in learning English by communicating with classmates. Also, they develop English learning skills, presentation literacy, and explore topics about the environment, health, and technology. English must be the main language spoken in class. Though explanations may be given in Japanese if necessary, frequent classroom instructions should only be in English.

LANe200JC

英語８（Reading）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、より実践的で高度なアカデミックレベルの英語読解能力を養成するため、特に学術的な文章の読解を重点的に行う。また、そのプロセスで必要となる語彙や表現、文法といった項目を適宜学習していく。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生が大学レベルの語彙や文法項目を習得し、アカデミックな文章読解を通じて実践的な英語力を養成することにある。具体的には、定期的に行う小テストや中間、期末テスト、並びにレポートの提出を通じて、学術的な語彙や表現を習得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業で教科書を 1 ユニットづつ進めていく。また、2 週間に 1 度の頻度で、語彙の確認のための小テストを実施する。また、中間、期末テストやレポートといった各自が自学する必要性もある。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Mapping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解前半、エッセイ	人間の脳に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 2 回 Mapping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解後半、小テスト	人間の脳に関する記事を読解する。小テストを実施する。
第 3 回 It's about time	時間に関する記事の読解、前半、エッセイ	時間に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 4 回 It's about time	時間に関する記事の読解、後半、小テスト	時間に関する記事を読解する。小テストを実施する
第 5 回 Living with Bacteria	バクテリアに関する記事の読解、前半、エッセイ	バクテリアに関する記事を読解する。エッセイの記述
第 6 回 Living with Bacteria	バクテリアに関する記事の読解、後半、小テスト	バクテリアに関する記事を読解する。小テストを実施する。
中間テスト	中間テスト	中間テストを実施する
第 8 回 A Changing World	世界の変化に関する記事の読解、前半、エッセイ	世界の変化に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 9 回 A Changing World	世界の変化に関する記事の読解、後半、小テスト	世界の変化に関する記事を読解する。小テストを実施する。
第 10 回 Cities are Growing Up	都市の人口増加に関する記事の読解、前半、エッセイ	都市の人口増加に関する記事を読解する。エッセイの記述

第 11 回 Cities are Growing Up	都市の人口増加に関する記事の読解、後半、小テスト	都市の人口増加に関する記事を読解する。小テストを実施する。
期末エッセイ	期末エッセイ指導	最終の期末エッセイのための、テーマ設定と指導
総復習	総復習	前期の総復習を実施する。
期末テスト	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、中間・期末テスト、期末レポートのために自学の時間を各自で確保する必要がある。
各自 1 時間の予習時間を毎回、確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading : The Academic Word List in Context, Oxford University Press,
Arline Burgmeier.

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間テスト 20%, 期末テスト 20%, レポート 20%, 平常点 20%の合計 100%を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの時間を増やして欲しい。板書が見えにくい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp に質問等はお願いします。

【Outline and objectives】
The goal of this class is to have the students practice practical academic English through reading academic English. In the process, we will study university level vocabulary, expression, and grammar.

LANe200JB

英語８（Reading）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、より実践的で高度なアカデミックレベルの英語読解能力を養成するため、特に学術的な文章の読解を重点的に行う。また、そのプロセスで必要となる語彙や表現、文法といった項目を適宜学習していく。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生が大学レベルの語彙や文法項目を習得し、アカデミックな文章読解を通じて実践的な英語力を養成することにある。具体的には、定期的に行う小テストや中間、期末テスト、並びにレポートの提出を通じて、学術的な語彙や表現を習得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業で教科書を 1 ユニットづつ進めていく。また、2 週間に 1 度の頻度で、語彙の確認のための小テストを実施する。また、中間、期末テストやレポートといった各自が自学する必要性もある。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Mapping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解前半、エッセイ	人間の脳に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 2 回 Mapping the human Brain	人間の脳に関する記事の読解後半、小テスト	人間の脳に関する記事を読解する。小テストを実施する。
第 3 回 It's about time	時間に関する記事の読解、前半、エッセイ	時間に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 4 回 It's about time	時間に関する記事の読解、後半、小テスト	時間に関する記事を読解する。小テストを実施する
第 5 回 Living with Bacteria	バクテリアに関する記事の読解、前半、エッセイ	バクテリアに関する記事を読解する。エッセイの記述
第 6 回 Living with Bacteria	バクテリアに関する記事の読解、後半、小テスト	バクテリアに関する記事を読解する。小テストを実施する。
中間テスト	中間テスト	中間テストを実施する
第 8 回 A Changing World	世界の変化に関する記事の読解、前半、エッセイ	世界の変化に関する記事を読解する。エッセイの記述
第 9 回 A Changing World	世界の変化に関する記事の読解、後半、小テスト	世界の変化に関する記事を読解する。小テストを実施する。
第 10 回 Cities are Growing Up	都市の人口増加に関する記事の読解、前半、エッセイ	都市の人口増加に関する記事を読解する。エッセイの記述

第 11 回 Cities are Growing Up	都市の人口増加に関する記事の読解、後半、小テスト	都市の人口増加に関する記事を読解する。小テストを実施する。
期末エッセイ	期末エッセイ指導	最終の期末エッセイのための、テーマ設定と指導
総復習	総復習	前期の総復習を実施する。
期末テスト	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、中間・期末テスト、期末レポートのために自学の時間を各自で確保する必要がある。
各自 1 時間の予習時間を毎回、確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading : The Academic Word List in Context, Oxford University Press,
Arline Burgmeier.

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間テスト 20%, 期末テスト 20%, レポート 20%, 平常点 20%の合計 100%を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの時間を増やして欲しい。板書が見えにくい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp に質問等はお願いします。

【Outline and objectives】
The goal of this class is to have the students practice practical academic English through reading academic English. In the process, we will study university level vocabulary, expression, and grammar.

LANe200JC

英語８（Listening）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングをを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題を科す場合は hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Dissolving Bags
第 3 回	UNIT 2	Farm beneath the Streets
第 4 回	UNIT 3	Mechanics are Men ? Think Again!
第 5 回	UNIT 4	Pets Get High-class Health Care
第 6 回	UNIT 5	Life with the Iron Lady
第 7 回	UNIT 6	Drone for the Disabled
第 8 回	UNIT 7	Crucial Minutes
第 9 回	UNIT 8	Mites vs Parasites
第 10 回	UNIT 9	Gearing up for a New Top Speed
第 11 回	UNIT 10	New Skin from a Printer
第 12 回	UNIT 11	Caring for Strays
第 13 回	UNIT 12	Coal before Comfort
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『AFP SciTech Futures ： AFP で学ぶ世界の科学』椋平淳（成美堂： 2021）
2,500 円＋税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will enable students to improve listening skills through weekly activities. These skills will help students interact with English speakers.

LANe200JB

英語８（Listening）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今までに習得した英語力を充実・発展させながら、リスニングをを養成することを目標とする。また、論理的な思考力を身につけ、幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英語特有の発音を慣れ、抵抗感なくリスニングできる。広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聞く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を聞くという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題を科す場合は hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	UNIT 1	Dissolving Bags
第 3 回	UNIT 2	Farm beneath the Streets
第 4 回	UNIT 3	Mechanics are Men ? Think Again!
第 5 回	UNIT 4	Pets Get High-class Health Care
第 6 回	UNIT 5	Life with the Iron Lady
第 7 回	UNIT 6	Drone for the Disabled
第 8 回	UNIT 7	Crucial Minutes
第 9 回	UNIT 8	Mites vs Parasites
第 10 回	UNIT 9	Gearing up for a New Top Speed
第 11 回	UNIT 10	New Skin from a Printer
第 12 回	UNIT 11	Caring for Strays
第 13 回	UNIT 12	Coal before Comfort
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『AFP SciTech Futures ： AFP で学ぶ世界の科学』椋平淳（成美堂： 2021）2,500 円＋税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will enable students to improve listening skills through weekly activities. These skills will help students interact with English speakers.

LANe200JB

英語８（Speaking）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究およびキャリア発展のために必要な speaking 力を養います。様々なロールプレイを通して練習を行う他、プレゼンテーションの作成段階から準備の「練習」を行います。

【到達目標】
・母語の違いや文化のちがいに配慮してコミュニケーションを取ることができるようになる
・場面ごとに適切なスピーチスタイルを選ぶことができるようになる
・外部英語試験（英検や IELTS など）のスピーキングについて概要を知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
フィードバックは必要に応じて対面、メール、Zoom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	Speaking1	ロールプレイ（脱教科書的自己紹介。自分について話す。） トピック： Work
第 3 回	Speaking 2	ロールプレイ（泣き寝入りは卒業。トラブルを解決する。） トピック： Student Life
第 4 回	Speaking 3	ロールプレイ（買い物で踏みとどまる） トピック： Shopping
第 5 回	Speaking 4	ロールプレイ（英語でスピーチ。一人で長くしゃべる。）前半 トピック： My life in Hosei
第 6 回	Speaking 5	ロールプレイ（英語でスピーチ。一人で長くしゃべる。）後半 トピック： My life in Hosei
第 7 回	Speaking 6	ロールプレイ（I agree with you は卒業。ディスカッションはスマートに。） トピック：社会問題
第 8 回	Speaking 7	ロールプレイ（やんわり指摘する。） プレゼンテーションに向けて準備 1
第 9 回	期末 Project	プレゼンテーションのトピック選び &発表をアシストする Visual Aids の作り方
第 10 回	期末 Project	プレゼンテーションの資料とスピーチ原稿作成 質問への対処法
第 11 回	期末 Project	プレゼンテーション練習 （時間、機材の準備・確認までが準備です）
試験	実技試験 1	プレゼンテーション本番（前半組）
試験	実技試験 2	プレゼンテーション本番（後半組）
試験のフィードバック	試験のフィードバック	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。毎日 10 分でも英語に触れることが望ましいです。なお、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating materials with a view to improve English proficiency, especially focusing on speaking skills.

LANe200JC

英語８（Speaking）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究およびキャリア発展のために必要な speaking 力を養います。様々なロールプレイを通して練習を行う他、プレゼンテーションの作成段階から準備の「練習」を行います。

【到達目標】
・母語の違いや文化のちがいに配慮してコミュニケーションを取ることができるようになる
・場面ごとに適切なスピーチスタイルを選ぶことができるようになる
・外部英語試験（英検や IELTS など）のスピーキングについて概要を知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
フィードバックは必要に応じて対面、メール、Zoom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	Speaking1	ロールプレイ（脱教科書的自己紹介。自分について話す。） トピック： Work
第 3 回	Speaking 2	ロールプレイ（泣き寝入りは卒業。トラブルを解決する。） トピック： Student Life
第 4 回	Speaking 3	ロールプレイ（買い物で踏みとどまる） トピック： Shopping
第 5 回	Speaking 4	ロールプレイ（英語でスピーチ。一人で長くしゃべる。）前半 トピック： My life in Hosei
第 6 回	Speaking 5	ロールプレイ（英語でスピーチ。一人で長くしゃべる。）後半 トピック： My life in Hosei
第 7 回	Speaking 6	ロールプレイ（I agree with you は卒業。ディスカッションはスマートに。） トピック：社会問題
第 8 回	Speaking 7	ロールプレイ（やんわり指摘する。） プレゼンテーションに向けて準備 1
第 9 回	期末 Project	プレゼンテーションのトピック選び &発表をアシストする Visual Aids の作り方
第 10 回	期末 Project	プレゼンテーションの資料とスピーチ原稿作成 質問への対処法
第 11 回	期末 Project	プレゼンテーション練習 （時間、機材の準備・確認までが準備です）
試験	実技試験１	プレゼンテーション本番（前半組）
試験	実技試験２	プレゼンテーション本番（後半組）
試験のフィードバック	試験のフィードバック	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。毎日 10 分でも英語に触れることが望ましいです。なお、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating materials with a view to improve English proficiency, especially focusing on speaking skills.

LANe200JC

英語８（Writing）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。相手の意見を理解することを重視します。前年までに身に着けた英語力をもとに、英語資料を読み、理解し、意見をライティングで述べます。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、精読し、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになる。
・リーディングで情報を理解した上で、意見や問題点を書き表すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
メール、必要に応じて対面や Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	アカデミック・ライティング基礎 1	英語雑誌・英字新聞 1 Humanities メールの書き方①
第 3 回	アカデミック・ライティング基礎 2	英語雑誌・英字新聞 2 Science メールの書き方②
第 4 回	Project 1	読書課題の決定 ミニテスト① SNS の書き方①
第 5 回	Project 2	読書課題の分析、Writing 課題提出の準備。 SNS の書き方②
第 6 回	Project 3	Writing 課題提出及びフィードバック。
第 7 回	Project 発表準備 1	レジュメの作り方① 資料の作り方
第 8 回	Project 発表準備 2	スピーチスクリプト（メモ）の作り方
第 9 回	Project 発表とフィードバック①	スピーカーとオーディエンスに分かれて発表に参加する。
第 10 回	Project 発表とフィードバック②	スピーカーとオーディエンスに分かれて発表に参加する。
第 11 回	Final Project 1	社会問題を一つ選び、テーマへの理解を深める。
第 12 回	Final Project 2	テーマについて考察し、Discussion を述べる。
試験	筆記試験	まとめと解説
試験のフィードバック	試験のフィードバック	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。毎日 10 分でも英語に触れることが望ましいです。なお、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating materials with a view to improve English proficiency of advanced-level students, especially focusing on vocabulary and grammar.

LANe200JB

英語８（Writing）

喜多　球美

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究およびキャリア発展のために必要な英語力を養います。相手の意見を理解することを重視します。前年までに身に着けた英語力をもとに、英語資料を読み、理解し、意見をライティングで述べます。

【到達目標】
・興味関心のある社会・文化的問題を選び、精読し、「なぜ興味があるのか」、「なぜこの問題を考えることが重要なのか」など、自分の考えを表現できるようになる。
・リーディングで情報を理解した上で、意見や問題点を書き表すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習（個人・グループワーク）課題作成、提出。
オンライン提出（ワードファイルで作成）する課題があります。
メール、必要に応じて対面や Zoom などでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業についての説明。習熟度の確認。
第 2 回	アカデミック・ライティング基礎 1	英語雑誌・英字新聞 1 Humanities メールの書き方①
第 3 回	アカデミック・ライティング基礎 2	英語雑誌・英字新聞 2 Science メールの書き方②
第 4 回	Project 1	読書課題の決定 ミニテスト① SNS の書き方①
第 5 回	Project 2	読書課題の分析、Writing 課題提出の準備。 SNS の書き方②
第 6 回	Project 3	Writing 課題提出及びフィードバック。
第 7 回	Project 発表準備 1	レジュメの作り方① 資料の作り方
第 8 回	Project 発表準備 2	スピーチスクリプト（メモ）の作り方
第 9 回	Project 発表とフィードバック①	スピーカーとオーディエンスに分かれて発表に参加する。
第 10 回	Project 発表とフィードバック②	スピーカーとオーディエンスに分かれて発表に参加する。
第 11 回	Final Project 1	社会問題を一つ選び、テーマへの理解を深める。
第 12 回	Final Project 2	テーマについて考察し、Discussion を述べる。
試験	筆記試験	まとめと解説
試験のフィードバック	試験のフィードバック	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の理解度や目的に応じて自主学習が必要となります。毎日 10 分でも英語に触れることが望ましいです。なお、本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。定期的に小テストを行うので、復習してください。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
パフォーマンス（小テスト、課題、ディスカッション等）60%
平常点（授業内活動） 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
PC, Laptop などデバイスを利用する回があります。事前に連絡します。

【その他の重要事項】
法政のメールアカウントを使用します。

【Outline and objectives】
This class aims to provide interesting, topical and stimulating materials with a view to improve English proficiency of advanced-level students, especially focusing on vocabulary and grammar.

LANe200JB

英語８（Listening）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポップスのヒット曲を聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力を向上させる。TOEIC 形式のリスニング問題にも慣れ、スコアアップを目指すとともに、実社会で役立つ英語表現を身につけることを目的とする。

【到達目標】
洋楽を通して、英語特有の音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化の特徴を知り、音声変化のポイントを体系的に習得する。TOEIC 形式の問題演習にも慣れ、総合的な英語の運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
洋楽を通して、音の連結や同化、脱落など様々な音声変化のポイントを体系的に習得する。歌詞を中心に多彩な演習問題を行い、毎回平行して実践的な TOEIC 対策も進める。さらに異文化トピックを扱った英文に触れリスニング、ボキャブラリーの増強を目指す。自習用の CD 付属のテキストを用いるので、大いに活用されたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 3 回	Unit 2 ： ABBA	S.O.S.「音の脱落」
第 4 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 5 回	Unit 4 ： Gloria Estefan	Don't Wanna Lose You「音の同化」
第 6 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 7 回	Unit 6 ： Maroon	Saturday Morning「音声変化の複合」
第 8 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 9 回	Unit 8 ： KT Tunstall	Suddenly I See「音の弱化」
第 10 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 11 回	Unit 10:Vanessa Williams	Save the Best For Last「音の脱落２」
第 12 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 13 回	Unit 12:Natalie Imbruglia	Torn「紛らわしい単語の聞き分け」
第 14 回	Review	まとめと学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、リスニング用のスクリプトの音読、付属ＣＤを繰り返し聞くこと等がスキルアップにつながります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Pop Hit (Seibido, 2014)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
ポップスを通して英語の自然なリズムを習得し、楽しみながらリスニング力の向上を図りましょう。洋楽が好きな人も普段聞かない人も、英語の世界や音楽で新しい発見が出来ることと期待します。

【Outline and objectives】
This class aims to improve listening skills of learners, providing phonetics materials through English songs and various exercises, giving a fascinating insight into a different culture.

LANe200JC

英語８（Listening）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポップスのヒット曲を聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力を向上させる。TOEIC 形式のリスニング問題にも慣れ、スコアアップを目指すとともに、実社会で役立つ英語表現を身につけることを目的とする。

【到達目標】
洋楽を通して、英語特有の音の脱落、連結、同化、弱化などの音声変化の特徴を知り、音声変化のポイントを体系的に習得する。TOEIC 形式の問題演習にも慣れ、総合的な英語の運用力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
洋楽を通して、音の連結や同化、脱落など様々な音声変化のポイントを体系的に習得する。歌詞を中心に多彩な演習問題を行い、毎回平行して実践的な TOEIC 対策も進める。さらに異文化トピックを扱った英文に触れリスニング、ボキャブラリーの増強を目指す。自習用の CD 付属のテキストを用いるので、大いに活用されたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と計画説明
第 2 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 3 回	Unit 2 ： ABBA	S.O.S.「音の脱落」
第 4 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 5 回	Unit 4 ： Gloria Estefan	Don't Wanna Lose You「音の同化」
第 6 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 7 回	Unit 6 ： Maroon	Saturday Morning「音声変化の複合」
第 8 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 9 回	Unit 8 ： KT Tunstall	Suddenly I See「音の弱化」
第 10 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 11 回	Unit 10:Vanessa Williams	Save the Best For Last「音の脱落２」
第 12 回	Listening Challenge	TOEIC mini test
第 13 回	Unit 12:Natalie Imbruglia	Torn「紛らわしい単語の聞き分け」
第 14 回	Review	まとめと学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、リスニング用のスクリプトの音読、付属ＣＤを繰り返し聞くこと等がスキルアップにつながります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Pop Hit (Seibido, 2014)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
ポップスを通して英語の自然なリズムを習得し、楽しみながらリスニング力の向上を図りましょう。洋楽が好きな人も普段聞かない人も、英語の世界や音楽で新しい発見が出来ることと期待します。

【Outline and objectives】
This class aims to improve listening skills of learners, providing phonetics materials through English songs and various exercises, giving a fascinating insight into a different culture.

LANe200JC

英語９（上級）

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN10 のニュースを読解するにあたり、次の 3 点に重点を置く。単語や慣用表現、文法などの知識を身につける。ニュースの内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、ニュースの要点を正確に把握することができる。同時に、テキストで扱うテーマを通して海外だけでなく身近なものに興味、関心を抱き、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱う Unit の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの内容確認をおこなう際に音声の確認もする。聴くだけでなくそれをアウトプットすることで、英語の特徴を捉えられるよう留意する。また、課題を提出するだけでなく、グループでその課題に対するディスカッションもおこない、そのリアクションペーパーも提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	英語のキーボードの配列はなぜこの配列
3	Unit 2	架空のニュースに惑わされないために
4	Unit 3	料理を通してボランティア
5	Unit 4	世界で最初の新幹線
6	Unit 5	日本のリニアモーターカー
7	Unit 6	買い物客を追いかけて
8	Unit 7	ネットいじめに負けないために
9	Unit 8	添加糖とりすぎガイドライン
10	Unit 9	映画館で 4DX 体験を
11	Unit 10	ハイテク技術と TOKYO 2020
12	Unit 11	遠隔医療がなしうること
13	ディスカッション	課題提出とディスカッション
14	試験とまとめ	学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法は予習の段階で調べて和訳してから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
関戸冬彦　他著、『CNN 10 Vol.1 ― Student News』朝日出版社、2018 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20%、課題： 20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60%以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキスト以外にも英字新聞や他の資料の読解なども視野に入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the news and to improve pronunciation.

LANe200JB

英語９（上級）

浦川　智子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN10 のニュースを読解するにあたり、次の 3 点に重点を置く。単語や慣用表現、文法などの知識を身につける。ニュースの内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】
辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、ニュースの要点を正確に把握することができる。同時に、テキストで扱うテーマを通して海外だけでなく身近なものに興味、関心を抱き、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱う Unit の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業ではテキストの内容確認をおこなう際に音声の確認もする。聴くだけでなくそれをアウトプットすることで、英語の特徴を捉えられるよう留意する。また、課題を提出するだけでなく、グループでその課題に対するディスカッションもおこない、そのリアクションペーパーも提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1	英語のキーボードの配列はなぜこの配列
3	Unit 2	架空のニュースに惑わされないために
4	Unit 3	料理を通してボランティア
5	Unit 4	世界で最初の新幹線
6	Unit 5	日本のリニアモーターカー
7	Unit 6	買い物客を追いかけて
8	Unit 7	ネットいじめに負けないために
9	Unit 8	添加糖とりすぎガイドライン
10	Unit 9	映画館で 4DX 体験を
11	Unit 10	ハイテク技術と TOKYO 2020
12	Unit 11	遠隔医療がなしうること
13	ディスカッション	課題提出とディスカッション
14	試験とまとめ	学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法は予習の段階で調べて和訳してから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
関戸冬彦　他著、『CNN 10 Vol.1 ― Student News』朝日出版社、2018 年。

【参考書】
特に指定しないが、これまで使用してきた参考書を用いることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20%、課題： 20%、期末試験： 60%、合計 100%として評価する。60%以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキスト以外にも英字新聞や他の資料の読解なども視野に入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the news and to improve pronunciation.

LANe200JB

英語９（基礎）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では多国籍企業の実情を通してリーディング・スキルを学ぶことを目的とする。

【到達目標】
入門編なの英語の基礎的な要素を復習しながら毎回授業を進め、より多くの文章をより早く読み込めるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材配信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回一章ずつ進める中で、多国籍企業の問題点をあぶりだしグループでディスカッションし、発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	zara's Recipe for Success	ファストファッションブランドの成功の鍵
第 2 回	Airbub's Challenge and New Direction	民泊ビジネスにおける問題と挑戦
第 3 回	Augmented Reality Ecosystem in Facebook	拡張現実の構築で世界を変える？
第 4 回	Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	超高速靴製造の技術革新
第 5 回	At Toyota, the Automation Is Human-Powered	自動車生産の自動化と職人技
第 6 回	How Starbucks Become a Succesful Worldwide Brand	グローバルブランドの原点と成功への道のり
第 7 回	McDonald's Modern Marketing Methods	顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略
第 8 回	How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	広げる価値のあるアイディア
第 9 回	Why Amazon Is the Wolrd's Most Innovative Company	もっとも革新的な企業がめざす未来
第 10 回	Sony Comes Back from the Brink	起死回生をかけた取捨選択と新たな展望
第 11 回	IKEA'S New Business Move for Millennials	若者の DIY 離れと新しいサービスの導入
第 12 回	How Google Has Changed the World	検索エンジンが広げた世界のゆくえ
第 13 回	How Did Walmart Get Cleaner Stores and Higher Sales?	再生をかけた経営戦略の転換
第 14 回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をして下さい。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度です。

【テキスト（教科書）】
「Challenges of Global Enterprises 」kinseido ２１００円（税別）

【参考書】
英字新聞や雑誌。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なのでフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through the actual situation of multinational companies.

LANe200JC

英語９（基礎）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では多国籍企業の実情を通してリーディング・スキルを学ぶことを目的とする。

【到達目標】
入門編なの英語の基礎的な要素を復習しながら毎回授業を進め、より多くの文章をより早く読み込めるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材配信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回一章ずつ進める中で、多国籍企業の問題点をあぶりだしグループでディスカッションし、発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	zara's Recipe for Success	ファストファッションブランドの成功の鍵
第 2 回	Airbub's Challenge and New Direction	民泊ビジネスにおける問題と挑戦
第 3 回	Augmented Reality Ecosystem in Facebook	拡張現実の構築で世界を変える？
第 4 回	Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	超高速靴製造の技術革新
第 5 回	At Toyota, the Automation Is Human-Powered	自動車生産の自動化と職人技
第 6 回	How Starbucks Become a Succesful Worldwide Brand	グローバルブランドの原点と成功への道のり
第 7 回	McDonald's Modern Marketing Methods	顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略
第 8 回	How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	広げる価値のあるアイディア
第 9 回	Why Amazon Is the Wolrd's Most Innovative Company	もっとも革新的な企業がめざす未来
第 10 回	Sony Comes Back from the Brink	起死回生をかけた取捨選択と新たな展望
第 11 回	IKEA'S New Business Move for Millennials	若者の DIY 離れと新しいサービスの導入
第 12 回	How Google Has Changed the World	検索エンジンが広げた世界のゆくえ
第 13 回	How Did Walmart Get Cleaner Stores and Higher Sales?	再生をかけた経営戦略の転換
第 14 回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をして下さい。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度です。

【テキスト（教科書）】
「Challenges of Global Enterprises 」kinseido ２１００円（税別）

【参考書】
英字新聞や雑誌。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なのでフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through the actual situation of multinational companies.

LANe200JB

英語９（中級）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では多国籍企業の実情を通してリーディング・スキルを学ぶことを目的とする。

【到達目標】
より多くの文章をより早く読み込めるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材配信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回一章ずつ進める中で、多国籍企業の問題点をあぶりだしグループでディスカッションし、発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	zara's Recipe for Success	ファストファッションブランドの成功の鍵
第 2 回	Airbub's Challenge and New Direction	民泊ビジネスにおける問題と挑戦
第 3 回	Augmented Reality Ecosystem in Facebook	拡張現実の構築で世界を変える？
第 4 回	Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	超高速靴製造の技術革新
第 5 回	At Toyota, the Automation Is Human-Powered	自動車生産の自動化と職人技
第 6 回	How Starbucks Become a Succesful Worldwide Brand	グローバルブランドの原点と成功への道のり
第 7 回	McDonald's Modern Marketing Methods	顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略
第 8 回	How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	広げる価値のあるアイディア
第 9 回	Why Amazon Is the Wolrd's Most Innovative Company	もっとも革新的な企業がめざす未来
第 10 回	Sony Comes Back from the Brink	起死回生をかけた取捨選択と新たな展望
第 11 回	IKEA'S New Business Move for Millennials	若者の DIY 離れと新しいサービスの導入
第 12 回	How Google Has Changed the World	検索エンジンが広げた世界のゆくえ
第 13 回	How Did Walmart Get Cleaner Stores and Higher Sales?	再生をかけた経営戦略の転換
第 14 回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
「Challenges of Global Enterprises 」kinseido ２１００円（税別）

【参考書】
英字新聞や雑誌。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なのでフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through the actual situation of multinational companies.

LANe200JC

英語９（中級）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では多国籍企業の実情を通してリーディング・スキルを学ぶことを目的とする。

【到達目標】
より多くの文章をより早く読み込めるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材配信型授業と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回一章ずつ進める中で、多国籍企業の問題点をあぶりだしグループでディスカッションし、発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	zara's Recipe for Success	ファストファッションブランドの成功の鍵
第 2 回	Airbub's Challenge and New Direction	民泊ビジネスにおける問題と挑戦
第 3 回	Augmented Reality Ecosystem in Facebook	拡張現実の構築で世界を変える？
第 4 回	Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	超高速靴製造の技術革新
第 5 回	At Toyota, the Automation Is Human-Powered	自動車生産の自動化と職人技
第 6 回	How Starbucks Become a Succesful Worldwide Brand	グローバルブランドの原点と成功への道のり
第 7 回	McDonald's Modern Marketing Methods	顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略
第 8 回	How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	広げる価値のあるアイディア
第 9 回	Why Amazon Is the Wolrd's Most Innovative Company	もっとも革新的な企業がめざす未来
第 10 回	Sony Comes Back from the Brink	起死回生をかけた取捨選択と新たな展望
第 11 回	IKEA'S New Business Move for Millennials	若者の DIY 離れと新しいサービスの導入
第 12 回	How Google Has Changed the World	検索エンジンが広げた世界のゆくえ
第 13 回	How Did Walmart Get Cleaner Stores and Higher Sales?	再生をかけた経営戦略の転換
第 14 回	まとめ・総括	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習復習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
「Challenges of Global Enterprises 」kinseido ２１００円（税別）

【参考書】
英字新聞や雑誌。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なのでフィードバックはありません。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you will improve your reading skills through the actual situation of multinational companies.

LANe200JB

英語９（中級）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックについて読み進めることを通じ、英語を英語のまま理解する感覚を身につける。加えて、それらのトピックスから、さらなる国際理解を深めていきたいと考える。

【到達目標】
精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。要は、自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。基本的にテキストに沿って進められるが、学生の理解度、興味に応じて斟酌したい。学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	イントロダクション、授業計画、諸注意など
第二回	Unit1 What's So Funny?	Unit1, TOEFL Exercise 1 PART A, Film ①
第三回	Unit1, 2 Eureka	Unit1 Practices, Film ①〜②, We're All Alone.(Background of the singer), Unit2
第四回	Unit2, 3 The Super-rich	Unit2 Practices, TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, Film ③ Unit3
第五回	Unit3, 4 Will You Be My Robot?	Unit3 Practices, TOEFL Exercise 3 PART C, Film ③〜④, Unit4
第六回	Unit4,	Unit4 Practices, Film ④〜⑤, Sound Of Silence.(Background of the singer)
第七回	Unit5, Brainpower	Unit5, TOEFL Exercise PART A, Halloween
第八回	Unit5, 6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit5 Practices, TOEFL Exercise 5 PART B, A certain story, Film ⑦, Unit6
第九回	Unit6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit6 Practices, TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
第十回	Unit7 Feelings... oh, oh, oh!	Unit7, TOEFL Exercise 7, PART A, The sound of silence (Background of the singer), Film ⑧〜⑨
第十一回	Unit7, 8 Bad Guys	Unit 7 Practices, TOEFL Exercise 8 PART B, Film ⑨, Unit8
第十二回	Unit8, Bad Guys	Unit8 Practices, TOEFL Exercise 9 PART C, Film ⑨〜⑩, Unit8
第十三回	Unit8,	Film まとめ、テキストの最終確認、レポート提出
第十四回	既習事項確認、試験	学期末まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。本授業における準備・復習時間は各 1 時間半を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Wayne I. Phillips / Yoshiaki Soma,『Eureka』(Asahi Press),　およびプリント使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），出席・平常点（20 %），発表点（10 %）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。

出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LANe200JC

英語９（中級）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックについて読み進めることを通じ、英語を英語のまま理解する感覚を身につける。加えて、それらのトピックスから、さらなる国際理解を深めていきたいと考える。

【到達目標】
精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。要は、自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。基本的にテキストに沿って進められるが、学生の理解度、興味に応じて斟酌したい。学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	イントロダクション、授業計画、諸注意など
第二回	Unit1 What's So Funny?	Unit1, TOEFL Exercise 1 PART A, Film ①
第三回	Unit1, 2 Eureka	Unit1 Practices, Film ①〜②, We're All Alone.(Background of the singer), Unit2
第四回	Unit2, 3 The Super-rich	Unit2 Practices, TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, Film ③ Unit3
第五回	Unit3, 4 Will You Be My Robot?	Unit3 Practices, TOEFL Exercise 3 PART C, Film ③〜④, Unit4
第六回	Unit4,	Unit4 Practices, Film ④〜⑤, Sound Of Silence.(Background of the singer)
第七回	Unit5, Brainpower	Unit5, TOEFL Exercise PART A, Halloween
第八回	Unit5, 6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit5 Practices, TOEFL Exercise 5 PART B, A certain story, Film ⑦, Unit6
第九回	Unit6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit6 Practices, TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
第十回	Unit7 Feelings... oh, oh, oh!	Unit7, TOEFL Exercise 7, PART A, The sound of silence (Background of the singer), Film ⑧〜⑨
第十一回	Unit7, 8 Bad Guys	Unit 7 Practices, TOEFL Exercise 8 PART B, Film ⑨, Unit8
第十二回	Unit8, Bad Guys	Unit8 Practices, TOEFL Exercise 9 PART C, Film ⑨〜⑩, Unit8
第十三回	Unit8,	Film まとめ、テキストの最終確認、レポート提出
第十四回	既習事項確認、試験	学期末まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。本授業における準備・復習時間は各 1 時間半を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Wayne I. Phillips / Yoshiaki Soma,『Eureka』(Asahi Press),　およびプリント使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），出席・平常点（20 %），発表点（10 %）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。

出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LANe200JB

英語９（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、アカデミックなレベルの教材を使用して、高度な語彙、文法や表現の習得を目標とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生がアカデミックなレベルの教科書を通じて、より高度な英語読解や表現を会話やエッセイを通じて使用できるようにすることにある。習熟度の測定の為に、小テストやエッセイ、期末試験といった客観試験での得点を成績評価に反映させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各週 0.5 ユニットづつ、教科書を進めていき、2 週間で 1 ユニットを終えれるように進捗を調整する。また、中間、期末エッセイや期末試験も実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自転車に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
Riding Through History		
第 2 回	自転車に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
Riding Through History		
第 3 回	病原菌に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
Fighting Diseases		
第 4 回	病原菌に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
Fighting Diseases		
第 5 回	マーケティングに関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
They Know What You Want		
第 6 回	マーケティングに関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
They Know What You Want		
第 7 回	人種に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
Identifying People		
第 8 回	人種に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
Identifying People		
中間エッセイ	中間エッセイ	中間エッセイのテーマの選定と記述の仕方の解説
第 10 回	成功に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
Success Story		
第 11 回	成功に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
Success Story		

期末エッセイ	期末エッセイ	期末エッセイを実施する
総復習	総復習	セメスターの総復習を実施する。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、中間、期末エッセイ、期末試験の際は、各自で学習する時間を確保する必要がある。
各自 1 時間の予習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading 1:The Academic Word List Cnontext.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ 20%づつ, 学期末試験 20%, 毎回の授業参加 20%を 100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
読解の時間を確保して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
電子辞書を各自、持参すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to enhance students' English grammar, vocabulary and expressions through high-level study materials.

LANe200JC

英語９（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、アカデミックなレベルの教材を使用して、高度な語彙、文法や表現の習得を目標とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生がアカデミックなレベルの教科書を通じて、より高度な英語読解や表現を会話やエッセイを通じて使用できるようにすることにある。習熟度の測定の為に、小テストやエッセイ、期末試験といった客観試験での得点を成績評価に反映させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各週 0.5 ユニットづつ、教科書を進めていき、2 週間で 1 ユニットを終えれるように進捗を調整する。また、中間、期末エッセイや期末試験も実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Riding Through History	自転車に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
第 2 回	Riding Through History	自転車に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 3 回	Fighting Diseases	病原菌に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
第 4 回	Fighting Diseases	病原菌に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 5 回	They Know What You Want	マーケティングに関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
第 6 回	They Know What You Want	マーケティングに関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
第 7 回	Identifying People	人種に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
第 8 回	Identifying People	人種に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施
中間エッセイ	中間エッセイ	中間エッセイのテーマの選定と記述の仕方の解説
第 10 回	Success Story	成功に関する記事、前半、エッセイ	記事の読解とエッセイの記述
第 11 回	Success Story	成功に関する記事、後半、小テスト	記事の読解と小テストの実施

期末エッセイ	期末エッセイ	期末エッセイを実施する
総復習	総復習	セメスターの総復習を実施する。
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト、中間、期末エッセイ、期末試験の際は、各自で学習する時間を確保する必要がある。
各自 1 時間の予習時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading 1:The Academic Word List Cnontext.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ 20%づつ, 学期末試験 20%, 毎回の授業参加 20%を 100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
読解の時間を確保して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
電子辞書を各自、持参すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to enhance students' English grammar, vocabulary and expressions through high-level study materials.

LANe200JB

英語９（中級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の社会で注目されているホットな問題を心理学的な面から英文で読み解き、考え発信する力を養う。

【到達目標】
現代的な社会問題と心理学に関連した語彙を学び、実用的な語法と表現力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の社会問題の中でも、特に学生の関心度が高く議論しやすいと思われるトピックを、比較的平易な英文で読み解き、プロセスを踏みながらパラグラフ・リーディングの方法を学ぶ。トピックに関連した重要語彙や表現、そして構文は何度も繰り返し各々の章の中に出てくるので、理解と同時に発信する表現力も身につけたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明
第 2 回	Unit 1	Achieving Your Goals
第 3 回	Unit 2	Cyberpsychology
第 4 回	Unit 3	Addictions
第 5 回	Unit 4	Brain Power
第 6 回	Unit 5	Fostering Creativity
第 7 回	Unit 6	Stress and Anxiety
第 8 回	Unit 7	Best Behavior
第 9 回	Unit 8	Appearance&Personality
第 10 回	Unit 9	Gender and Mental Health
第 11 回	Unit 10	Practical Psychology
第 12 回	Unit 11	Spotting Liars
第 13 回	Unit 15	Effective Parenting
第 14 回	Review	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、付属のＣＤでリスニング、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, Practical Psychology(Nan'un-do)『生活に役立つ実践心理』

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
今日の社会で注目されている問題を日常に根差した場面と心理学にリンクさせながら、英語で読み解く手ほどきをします。リーディングのスキルアップとともに時事問題への知識や関心を深めていきましょう。このテキストを通し、共にテーマを語り合うことで、自身の生活や心構えをポジティブに見直す契機ともなっているようです。

【Outline and objectives】
PracticalPsychology is a hybrid text: on the one hand it's a self-help book of sorts, with advice from psychologists, sociologists, writers, philosophers, and other experts and sages that can be put to practical use in our everyday lives. On the other hand, it is academic in that it is filled with information and ideas, based on the latest research in cognitive science, making it ideal for psychology, sociology majors

LANe200JC

英語９（中級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の社会で注目されているホットな問題を心理学的な面から英文で読み解き、考え発信する力を養う。

【到達目標】
現代的な社会問題と心理学に関連した語彙を学び、実用的な語法と表現力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の社会問題の中でも、特に学生の関心度が高く議論しやすいと思われるトピックを、比較的平易な英文で読み解き、プロセスを踏みながらパラグラフ・リーディングの方法を学ぶ。トピックに関連した重要語彙や表現、そして構文は何度も繰り返し各々の章の中に出てくるので、理解と同時に発信する表現力も身につけたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明
第 2 回	Unit 1	Achieving Your Goals
第 3 回	Unit 2	Cyberpsychology
第 4 回	Unit 3	Addictions
第 5 回	Unit 4	Brain Power
第 6 回	Unit 5	Fostering Creativity
第 7 回	Unit 6	Stress and Anxiety
第 8 回	Unit 7	Best Behavior
第 9 回	Unit 8	Appearance&Personality
第 10 回	Unit 9	Gender and Mental Health
第 11 回	Unit 10	Practical Psychology
第 12 回	Unit 11	Spotting Liars
第 13 回	Unit 15	Effective Parenting
第 14 回	Review	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、付属のＣＤでリスニング、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, Practical Psychology(Nan'un-do)『生活に役立つ実践心理』

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
今日の社会で注目されている問題を日常に根差した場面と心理学にリンクさせながら、英語で読み解く手ほどきをします。リーディングのスキルアップとともに時事問題への知識や関心を深めていきましょう。このテキストを通し、共にテーマを語り合うことで、自身の生活や心構えをポジティブに見直す契機ともなっているようです。

【Outline and objectives】
PracticalPsychology is a hybrid text: on the one hand it's a self-help book of sorts, with advice from psychologists, sociologists, writers, philosophers, and other experts and sages that can be put to practical use in our everyday lives. On the other hand, it is academic in that it is filled with information and ideas, based on the latest research in cognitive science, making it ideal for psychology, sociology majors

LANe200JC

英語９（上級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の社会で注目されているホットな問題を心理学的な面から英文で読み解き、考え発信する力を養う。

【到達目標】
現代的な社会問題と心理学に関連した語彙を学び、実用的な語法と表現力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の社会問題の中でも、特に学生の関心度が高く議論しやすいと思われるトピックを、比較的平易な英文で読み解き、プロセスを踏みながらパラグラフ・リーディングの方法を学ぶ。トピックに関連した重要語彙や表現、そして構文は何度も繰り返し各々の章の中に出てくるので、理解と同時に発信する表現力も身につけたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明
第 2 回	Unit 1	Achieving Your Goals
第 3 回	Unit 2	Cyberpsychology
第 4 回	Unit 3	Addictions
第 5 回	Unit 4	Brain Power
第 6 回	Unit 5	Fostering Creativity
第 7 回	Unit 6	Stress and Anxiety
第 8 回	Unit 7	Best Behavior
第 9 回	Unit 8	Appearance&Personality
第 10 回	Unit 9	Gender and Mental Health
第 11 回	Unit 10	Practical Psychology
第 12 回	Unit 11	Spotting Liars
第 13 回	Unit 15	Effective Parenting
第 14 回	Review	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、付属のＣＤでリスニング、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, Practical Psychology(Nan'un-do)『生活に役立つ実践心理』

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
今日の社会で注目されている問題を日常に根差した場面と心理学にリンクさせながら、英語で読み解く手ほどきをします。リーディングのスキルアップとともに時事問題への知識や関心を深めていきましょう。このテキストを通し、共にテーマを語り合うことで、自身の生活や心構えをポジティブに見直す契機ともなっているようです。

【Outline and objectives】
PracticalPsychology is a hybrid text: on the one hand it's a self-help book of sorts, with advice from psychologists, sociologists, writers, philosophers, and other experts and sages that can be put to practical use in our everyday lives. On the other hand, it is academic in that it is filled with information and ideas, based on the latest research in cognitive science, making it ideal for psychology, sociology majors

LANe200JB

英語９（上級）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の社会で注目されているホットな問題を心理学的な面から英文で読み解き、考え発信する力を養う。

【到達目標】
現代的な社会問題と心理学に関連した語彙を学び、実用的な語法と表現力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の社会問題の中でも、特に学生の関心度が高く議論しやすいと思われるトピックを、比較的平易な英文で読み解き、プロセスを踏みながらパラグラフ・リーディングの方法を学ぶ。トピックに関連した重要語彙や表現、そして構文は何度も繰り返し各々の章の中に出てくるので、理解と同時に発信する表現力も身につけたい。リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明
第 2 回	Unit 1	Achieving Your Goals
第 3 回	Unit 2	Cyberpsychology
第 4 回	Unit 3	Addictions
第 5 回	Unit 4	Brain Power
第 6 回	Unit 5	Fostering Creativity
第 7 回	Unit 6	Stress and Anxiety
第 8 回	Unit 7	Best Behavior
第 9 回	Unit 8	Appearance&Personality
第 10 回	Unit 9	Gender and Mental Health
第 11 回	Unit 10	Practical Psychology
第 12 回	Unit 11	Spotting Liars
第 13 回	Unit 15	Effective Parenting
第 14 回	Review	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、付属のＣＤでリスニング、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, Practical Psychology(Nan'un-do)『生活に役立つ実践心理』

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
今日の社会で注目されている問題を日常に根差した場面と心理学にリンクさせながら、英語で読み解く手ほどきをします。リーディングのスキルアップとともに時事問題への知識や関心を深めていきましょう。このテキストを通し、共にテーマを語り合うことで、自身の生活や心構えをポジティブに見直す契機ともなっているようです。

【Outline and objectives】
PracticalPsychology is a hybrid text: on the one hand it's a self-help book of sorts, with advice from psychologists, sociologists, writers, philosophers, and other experts and sages that can be put to practical use in our everyday lives. On the other hand, it is academic in that it is filled with information and ideas, based on the latest research in cognitive science, making it ideal for psychology, sociology majors

LANe200JB

英語１０（異文化コミュニケーション）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、より多くの文章をより早く読み込めるように授業を通して様々なスキルを教授する。

【到達目標】
本授業を通してより多くの英文を、より早く効率的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。２、３人のグループで毎回内容についてディスカッションをしてもらいながら授業を進める。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What's in a Name?	名前について
第 2 回	Country of Eyes	見つめる
第 3 回	The Language Dance	言葉について
第 4 回	Japan Open and Closed	日本の現状
第 5 回	Why ask Me?	なぜ私
第 6 回	Politics So Far From Home	政治について
第 7 回	Is Japan Decline?	日本の状態
第 8 回	A New Era or An Era of Newness?	新しい年号
第 9 回	Earthquake Life	地震について
第 10 回	Integrating immigrants	移民について
第 11 回	The Right Amount of Confidence	自信について
第 12 回	Mistake Makers of the World,Unite!	間違いについて
第 13 回	The Art of Conversation	会話について
第 14 回	総括・前期のまとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りの日本の中の外国を自分なりに見つめ、英語で日記などを日々書き記してください。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「Inbound/Outbound」kinseido 1900 円（税別）

【参考書】
英語で書かれた新聞や雑誌

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度： 30 %
定期試験： 70 %
これをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
異文化間における諸問題の背景が勉強になったという意見が多かった。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, we will teach various skills through the class from the viewpoint of cross-cultural communication so that more sentences can be read faster.

LANe200JB

英語１０（異文化コミュニケーション）

髙取　康之

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、より多くの文章をより早く読み込めるように授業を通して様々なスキルを教授する。

【到達目標】
本授業を通してより多くの英文を、より早く効率的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。２、３人のグループで毎回内容についてディスカッションをしてもらいながら授業を進める。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What's in a Name?	名前について
第 2 回	Country of Eyes	見つめる
第 3 回	The Language Dance	言葉について
第 4 回	Japan Open and Closed	日本の現状
第 5 回	Why ask Me?	なぜ私
第 6 回	Politics So Far From Home	政治について
第 7 回	Is Japan Decline?	日本の状態
第 8 回	A New Era or An Era of Newness?	新しい年号
第 9 回	Earthquake Life	地震について
第 10 回	Integrating immigrants	移民について
第 11 回	The Right Amount of Confidence	自信について
第 12 回	Mistake Makers of the World,Unite!	間違いについて
第 13 回	The Art of Conversation	会話について
第 14 回	総括・前期のまとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りの日本の中の外国を自分なりに見つめ、英語で日記などを日々書き記してください。本授業の準備・復習時間は一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「Inbound/Outbound」kinseido 1900 円（税別）

【参考書】
英語で書かれた新聞や雑誌

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度： 30 %
定期試験： 70 %
これをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
異文化間における諸問題の背景が勉強になったという意見が多かった。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, we will teach various skills through the class from the viewpoint of cross-cultural communication so that more sentences can be read faster.

LANe200JC

英語１０（アメリカンコミュニケーションパターン）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のさまざまな場面におけるアメリカ人的なものの考え方、メンタリティについて考察し、日本との比較を通し国際理解を深めていく。加えて、実践的な英語コミュニケーション能力の向上をめざす。

【到達目標】
精読、多読の両面からテキストを読み進め、英語を英語として理解していくことを目標とする。また、映画・音楽など多岐にわたる生の英語にも触れながら、読解力のみならず聴解力も高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。また、リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	オリエンテーション、授業計画、諸注意など
(2)	Section 1 Receiving a gift	Exercise 1, < True or False questions > , Film ①
(3)	Section 1 (exercises), Section 2 Introductions & greetings	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer > , Questions
(4)	Section 2, (exercises), Section 3 Make yourself at home	Exercise 2, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	Section 3, (exercises), Section 4 Embarrasing difficulties at the table	Exercise 3, Film ③〜④
(6)	Section 4, (exercises),	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer > , Questions
(7)	Section 5 What to call a professor	Exercise 4, Halloween < True or False questions > , Film ⑤〜⑥
(8)	Section 5, (exercises), Section 6 Eye contact	Exercise 5, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	Section 6, (exercises), レポート内容説明、指示	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	Section 7 Silence	Exercise 7, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧〜⑨
(11)	Section 7, (exercises), Section 8 Japanese smiles	Exercise 8, Film ⑨
(12)	Section 8, (exercises), Section 9 American smiles	Film ⑨〜⑩
(13)	Section 9, (exercises), まとめ	Exercise,　まとめ レポート提出
(14)	Film まとめ、リスニングの最終確認、	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は不可欠である。また、リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要となる。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『AMERICAN COMMUNICATION PATTERNS』/ William Gudykunst（金星堂）、およびプリントを使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %），レポート（10 %），出席・平常点（20 %），それらを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書のリーディング、文法問題、リスニングなど、少々、盛りだくさんな内容であったにもかかわらず、学生はしっかりと予習準備をし、ついてきてくれたことに感謝申し上げたい。今後も学生主体となる授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.

LANe200JB

英語１０（アメリカンコミュニケーションパターン）

相馬　美明

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のさまざまな場面におけるアメリカ人的なものの考え方、メンタリティについて考察し、日本との比較を通し国際理解を深めていく。加えて、実践的な英語コミュニケーション能力の向上をめざす。

【到達目標】
精読、多読の両面からテキストを読み進め、英語を英語として理解していくことを目標とする。また、映画・音楽など多岐にわたる生の英語にも触れながら、読解力のみならず聴解力も高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。また、リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	オリエンテーション、授業計画、諸注意など
(2)	Section 1 Receiving a gift	Exercise 1, < True or False questions > , Film ①
(3)	Section 1 (exercises), Section 2 Introductions & greetings	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer > , Questions
(4)	Section 2, (exercises), Section 3 Make yourself at home	Exercise 2, Chimpanzee, < True or False questions > , Film ③
(5)	Section 3, (exercises), Section 4 Embarrasing difficulties at the table	Exercise 3, Film ③〜④
(6)	Section 4, (exercises),	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer > , Questions
(7)	Section 5 What to call a professor	Exercise 4, Halloween < True or False questions > , Film ⑤〜⑥
(8)	Section 5, (exercises), Section 6 Eye contact	Exercise 5, A certain story < True or False questions > , Film ⑦
(9)	Section 6, (exercises), レポート内容説明、指示	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	Section 7 Silence	Exercise 7, The sound of silence < Background of the singer > , Film ⑧〜⑨
(11)	Section 7, (exercises), Section 8 Japanese smiles	Exercise 8, Film ⑨
(12)	Section 8, (exercises), Section 9 American smiles	Film ⑨〜⑩
(13)	Section 9, (exercises), まとめ	Exercise,　まとめ レポート提出
(14)	Film まとめ、リスニングの最終確認、	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は不可欠である。また、リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要となる。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『AMERICAN COMMUNICATION PATTERNS』/ William Gudykunst（金星堂）、およびプリントを使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %），レポート（10 %），出席・平常点（20 %），それらを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書のリーディング、文法問題、リスニングなど、少々、盛りだくさんな内容であったにもかかわらず、学生はしっかりと予習準備をし、ついてきてくれたことに感謝申し上げたい。今後も学生主体となる授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.

LANe200JB

英語１０（時事英語）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、少し難しいアカデミックなトピックを扱った記事の読解を行う。また、少し高度な表現や語彙、文法を学習する。

【到達目標】
本講義の到達目標は学生がアカデミックな語彙、文法や表現を身につけて、大学生レベルの文章の読解が可能になるレベルまで引き上げることにある。また、小テスト、エッセイや期末試験といった客観的な試験の得点によって総合的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週 0.5 Chapter づつ教科書を進めていき、2 週間で 1Chapter 進めることを目標とする。課題は、毎週、リアクションペーパーを通じて、数点選びフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Riding Through History	自転車に関する記事。前半	自転車に関する記事内容を学習する。
第 2 回 Riding Through History	自転車に関する記事。後半 小テスト	小テストやエッセイの記述
第 3 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事。前半	病原菌に関する記事を学習する。
第 4 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事。後半 小テスト	小テストやエッセイの記述
第 5 回 The Know What You Want	マーケティングに関する記事。前半。	マーケティングに関する記事を学習する。
第 6 回 The Know What You Want	マーケティングに関する記事。後半。小テスト	小テストやエッセイの記述
第 7 回 Identifying People	シンボルに関する記事。前半	シンボルに関する記事を学習する。
第 8 回 Identifying People	シンボルに関する記事。後半。小テスト	小テストやエッセイの記述
第 9 回 エッセイ準備	中間エッセイ準備	中間エッセイに関しての説明。
第 10 回 Success Story	成功に関しての記事。前半	成功に関しての記事の読解
第 11 回 Success Story	成功に関しての記事。後半、エッセイ	小テストやエッセイの記述
第 12 回 総復習	総復習	前期の授業の総復習

第 13 回 期末エッセイ	期末エッセイ準備	
期末試験	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストやエッセイ、期末テストに関しては、各自が授業外で学習する必要がある。毎回、1 時間程度は予習の時間を各自で確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading :The Academic Word List in Context, Oxford University Press.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ、各 20%づつ、授業参加 20%, 期末試験 20%を 100%とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より読解に多くの時間を費やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
連絡や質問は yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
In this course, students will read academic English topics and practice sophisticated expressions, unfamiliar vocabulary and grammar.

LANe200JB

英語１０（時事英語）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、少し難しいアカデミックなトピックを扱った記事の読解を行う。また、少し高度な表現や語彙、文法を学習する。

【到達目標】
本講義の到達目標は学生がアカデミックな語彙、文法や表現を身につけて、大学生レベルの文章の読解が可能になるレベルまで引き上げることにある。また、小テスト、エッセイや期末試験といった客観的な試験の得点によって総合的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週 0.5 Chapter づつ教科書を進めていき、2 週間で 1Chapter 進めることを目標とする。課題は、毎週、リアクションペーパーを通じて、数点選びフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 Riding Through History	自転車に関する記事。前半	自転車に関する記事内容を学習する。
第 2 回 Riding Through History	自転車に関する記事。後半 小テスト	小テストやエッセイの記述
第 3 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事。前半	病原菌に関する記事を学習する。
第 4 回 Fighting Diseases	病原菌に関する記事。後半 小テスト	小テストやエッセイの記述
第 5 回 The Know What You Want	マーケティングに関する記事。前半。	マーケティングに関する記事を学習する。
第 6 回 The Know What You Want	マーケティングに関する記事。後半。小テスト	小テストやエッセイの記述
第 7 回 Identifying People	シンボルに関する記事。前半	シンボルに関する記事を学習する。
第 8 回 Identifying People	シンボルに関する記事。後半。小テスト	小テストやエッセイの記述
第 9 回 エッセイ準備	中間エッセイ準備	中間エッセイに関しての説明。
第 10 回 Success Story	成功に関しての記事。前半	成功に関しての記事の読解
第 11 回 Success Story	成功に関しての記事。後半、エッセイ	小テストやエッセイの記述
第 12 回 総復習	総復習	前期の授業の総復習

第 13 回　期末エッセイ　　期末エッセイ準備
　期末エッセイ
期末試験　期末試験　　期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストやエッセイ、期末テストに関しては、各自が授業外で学習する必要がある。毎回、1 時間程度は予習の時間を各自で確保すること。

【テキスト（教科書）】
Inside Reading :The Academic Word List in Context, Oxford University Press.

【参考書】
電子辞書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%, 中間、期末エッセイ、各 20%づつ、授業参加 20%, 期末試験 20%を 100%とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より読解に多くの時間を費やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
連絡や質問は yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
In this course, students will read academic English topics and practice sophisticated expressions, unfamiliar vocabulary and grammar.

LANe200JB

英語１０（ビジネス英語）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得し、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。
課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Unit 1	Introducing Yourself
3	Unit 2	Introducing Companies
4	Unit 3	Explaining Your Role
5	Unit 4	Introducing Products
6	Unit 5	Checking Information
7	Unit 6	Giving Your Opinion
8	Unit 7	Making Requests
9	Unit 8	Asking Permission
10	Unit 9	Making Invitations
11	Unit 10	Making Appointments
12	Unit 11	Canceling and Rescheduling
13	Unit 12	Describing Locations
14	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Go Global』Garry Pearson （成美堂:2019）税別： 2,400 円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The course will focus on helping students develop their command of English used in the bisiness world to communicate better with each other.

LANe200JB

英語１０（ビジネス英語）

松下　晴彦

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得し、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。
課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Unit 1	Introducing Yourself
3	Unit 2	Introducing Companies
4	Unit 3	Explaining Your Role
5	Unit 4	Introducing Products
6	Unit 5	Checking Information
7	Unit 6	Giving Your Opinion
8	Unit 7	Making Requests
9	Unit 8	Asking Permission
10	Unit 9	Making Invitations
11	Unit 10	Making Appointments
12	Unit 11	Canceling and Rescheduling
13	Unit 12	Describing Locations
14	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Go Global』Garry Pearson （成美堂:2019）税別： 2,400 円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The course will focus on helping students develop their command of English used in the bisiness world to communicate better with each other.

LANe200JC

英語１０（メディア英語）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的なテーマに基づいた論説文を通して、英語の読解力を養う。
世界のニュースを通して Reading, Listening, Speaking, Writing のバランスのとれた効果的な学習を目指す。

【到達目標】
21 世紀の変容する世界をどう読み解くか、という視点に立つ英文とじっくり向き合うことで、論理的な思考力、さらには社会的、文化的背景への深い洞察力も磨きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ニュース英語を Listening, Intensive Reading と Extensive　Reading で読み進めていく。音声面も重視し、音読を実践しながら大意要約や速読のスキルアップを目指す。
リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明、教材紹介
第 2 回	Unit 1	Less Plastic at Glastonbury
第 3 回	Unit 1	マイボトルでエコなフェスを満喫（2）
第 4 回	Unit 2	One Way to Find a Job
第 5 回	Unit 2	新しい就活の形 2
第 6 回	Unit 3	Sport for Musicians
第 7 回	Unit4	A Healthy Supermarket
第 8 回	Unit 5	Van Gogh's London House
第 9 回	Unit 6	Esports Scholarships
第 10 回	Unit 7	Snow-Camp
第 11 回	Unit 8	Fighting Prkinson's with Ballet
第 12 回	Unit 9	Students in Porverty
第 13 回	Screen English	Movie を通して現代社会問題を語る
第 14 回	Review	まとめと学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Timothy Knowles, British News Update 3 (Kinseido,2021)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
言語、社会、文化、情報、教育、科学、政治経済など多岐に渡るグローバルなニュースを通して、多角的に英語の運用力が養われると同時に、現在の世界の動きを知る機会としても有意義に利用されたい。

【その他の重要事項】
今日の社会で注目されている問題を英語で読み解き、リーディングリスニングのスキルアップとともに時事問題への関心を深めていきましょう。

【Outline and objectives】
This class aims to provide students with a global view to see the world today through BBC English news, along with improving listening, reading skills and critical thinking.

LANe200JB

英語１０（メディア英語）

西尾　洋子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的なテーマに基づいた論説文を通して、英語の読解力を養う。
世界のニュースを通して Reading, Listening, Speaking, Writing のバランスのとれた効果的な学習を目指す。

【到達目標】
21 世紀の変容する世界をどう読み解くか、という視点に立つ英文とじっくり向き合うことで、論理的な思考力、さらには社会的、文化的背景への深い洞察力も磨きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ニュース英語を Listening, Intensive Reading と Extensive　Reading で読み進めていく。音声面も重視し、音読を実践しながら大意要約や速読のスキルアップを目指す。
リアクションペーパーや課題等については、主に翌週の授業内でフィードバックや正解の提示、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と説明、教材紹介
第 2 回	Unit 1	Less Plastic at Glastonbury
第 3 回	Unit 1	マイボトルでエコなフェスを満喫（2）
第 4 回	Unit 2	One Way to Find a Job
第 5 回	Unit 2	新しい就活の形 2
第 6 回	Unit 3	Sport for Musicians
第 7 回	Unit4	A Healthy Supermarket
第 8 回	Unit 5	Van Gogh's London House
第 9 回	Unit 6	Esports Scholarships
第 10 回	Unit 7	Snow-Camp
第 11 回	Unit 8	Fighting Prkinson's with Ballet
第 12 回	Unit 9	Students in Porverty
第 13 回	Screen English	Movie を通して現代社会問題を語る
第 14 回	Review	まとめと学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語句の下調べ、本文の予習、音読など。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Timothy Knowles, British News Update 3 (Kinseido,2021)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。大学生が使用するのに適した辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50%) と学期末試験 (50%) をあわせて総合評価。
平常点（授業への真摯な取り組み、貢献度）を重視。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合、学期末試験の受験資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
言語、社会、文化、情報、教育、科学、政治経済など多岐に渡るグローバルなニュースを通して、多角的に英語の運用力が養われると同時に、現在の世界の動きを知る機会としても有意義に利用されたい。

【その他の重要事項】
今日の社会で注目されている問題を英語で読み解き、リーディングリスニングのスキルアップとともに時事問題への関心を深めていきましょう。

【Outline and objectives】
This class aims to provide students with a global view to see the world today through BBC English news, along with improving listening, reading skills and critical thinking.

LANe200JC

英語１０（現代社会を考える）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とします。
また、現代社会の問題を知り、考えることも目的とします。

【到達目標】
英文エッセイの基本的な構成に慣れていき，最終的には，読解に必要な考え方を身につけると同時に，現代社会の問題について自分の意見を持つことも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを精読するが，受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し，大意が発表できるよう準備してください。また、自分の意見を英語で表現する訓練をします。映画などを適宜紹介し、意見を発表してもらいます。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
第 2 回	Chapter 3: Do you Hulu?	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など①
第 3 回	Chapter 4: A woman's place	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など②
第 4 回	Chapter 5: The Internet of things	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など③
第 5 回	Chapter 6: The supercomputer in your pocket	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など④
第 6 回	Chapter 7: Land, sea, and air	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑤
第 7 回	Chapter 8: Forever young	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑥
第 8 回	Chapter 9: Just forget it!	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑦
第 9 回	Chapter 10: I am who I am	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑧
第 10 回	Chapter 11: Uber, Airbnb, and TaskRabbit	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑨
第 11 回	Chapter 13: Permanently Part-time	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑩
第 12 回	Chapter 15: The clanking masses	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑪
第 13 回	Chapter 16: It's none of your business!	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑫
第 14 回	総復習	これまでのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、授業のはじめに単語テストを行います。パラグラフごとにトピックとなるセンテンスを見つけていくので、アンダーラインを引いておいてください。テキストに予習内容を書き込み、英文法、訳し方、内容についてなどの質問をメモして出席してください。１時間くらいを目安とします。

【テキスト（教科書）】
『知の探索』（成美堂）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習および授業への参加態度 50%。レポートなど提出物 20%。試験 30%。（３分の１以上欠席した者は受験資格を失うので注意してください。特に、体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、履修はきわめて困難になると思われます。登録する前によく考えてください。）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当のため、特になし。

【その他の重要事項】
予習を毎週確認します。チェックを受けた人のみ出席とします。

辞書を持参してください。電子辞書、紙の辞書は問いません。
進度やチャプターなどは、受講者と相談のうえ変更することがあります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to practice grasping the points of English essays effectively. Also, you will learn problems of modern society, and think about them.

LANe200JC

英語１０（現代社会を考える）

宮本　正治

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とします。
また、現代社会の問題を知り、考えることも目的とします。

【到達目標】
英文エッセイの基本的な構成に慣れていき，最終的には，読解に必要な考え方を身につけると同時に，現代社会の問題について自分の意見を持つことも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを精読するが，受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し，大意が発表できるよう準備してください。また、自分の意見を英語で表現する訓練をします。映画などを適宜紹介し、意見を発表してもらいます。課題等のフィードバックは授業時間内に質疑応答により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、注意事項の説明
第 2 回	Chapter 3: Do you Hulu?	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など①
第 3 回	Chapter 4: A woman's place	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など②
第 4 回	Chapter 5: The Internet of things	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など③
第 5 回	Chapter 6: The supercomputer in your pocket	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など④
第 6 回	Chapter 7: Land, sea, and air	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑤
第 7 回	Chapter 8: Forever young	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑥
第 8 回	Chapter 9: Just forget it!	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑦
第 9 回	Chapter 10: I am who I am	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑧
第 10 回	Chapter 11: Uber, Airbnb, and TaskRabbit	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑨
第 11 回	Chapter 13: Permanently Part-time	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑩
第 12 回	Chapter 15: The clanking masses	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑪
第 13 回	Chapter 16: It's none of your business!	小テスト、テキスト読解、意見発表、映像資料など⑫
第 14 回	総復習	これまでのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、授業のはじめに単語テストを行います。パラグラフごとにトピックとなるセンテンスを見つけていくので、アンダーラインを引いておいてください。テキストに予習内容を書き込み、英文法、訳し方、内容についてなどの質問をメモして出席してください。１時間くらいを目安とします。

【テキスト（教科書）】
『知の探索』（成美堂）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
予習および授業への参加態度 50%。レポートなど提出物 20%。試験 30%。（３分の１以上欠席した者は受験資格を失うので注意してください。特に、体育会の合宿などで長期の欠席が予め決まっている場合、履修はきわめて困難になると思われます。登録する前によく考えてください。）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当のため、特になし。

【その他の重要事項】
予習を毎週確認します。チェックを受けた人のみ出席とします。

辞書を持参してください。電子辞書、紙の辞書は問いません。
進度やチャプターなどは、受講者と相談のうえ変更することがあります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to practice grasping the points of English essays effectively. Also, you will learn problems of modern society, and think about them.

LANe200JC

英語補講（春学期）

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題や国際問題について英語で学び，総合的な英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語のニュースサイトや英字新聞，英語雑誌などを通して，リーディングスキルと語彙力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Website 1	Poverty and Hunger / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 3 回	Magazine / Journal 1	Health and medical issues / Reading / Presentation
第 4 回	Newspaper 1	Education / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 5 回	Website 2	Gender equality Reading / Presentation
第 6 回	Magazine / Journal 2	Sanitation / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 7 回	Newspaper 2	Clean energy Reading / Presentation
第 8 回	Website 3	Industry and infrastructure / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 9 回	Magazine / Journal 3	Consumption and production Reading / Presentation
第 10 回	Newspaper 3	Climate change / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 11 回	Website 4	Environmental issues 1 Reading / Presentation
第 12 回	Magazine / Journal 4	Environmental issues 2 / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 13 回	Newspaper 4	Work-life balance Reading / Presentation
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内活動への取り組み 40%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席すること。
後期の「英語補講」と授業の構成や評価方法は同じですが，扱うトピックや教材（ハンドアウト）は重複しません。
「英語補講」は 2021 年度が最終年度となり，2022 年度以降は開講されません。

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' understanding of current global issues through English newspapers, magazines, and websites.

LANe200JC

英語補講（春学期）

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題や国際問題について英語で学び，総合的な英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語のニュースサイトや英字新聞，英語雑誌などを通して，リーディングスキルと語彙力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Website 1	Poverty and Hunger / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 3 回	Magazine / Journal 1	Health and medical issues / Reading / Presentation
第 4 回	Newspaper 1	Education / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 5 回	Website 2	Gender equality Reading / Presentation
第 6 回	Magazine / Journal 2	Sanitation / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 7 回	Newspaper 2	Clean energy Reading / Presentation
第 8 回	Website 3	Industry and infrastructure / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 9 回	Magazine / Journal 3	Consumption and production Reading / Presentation
第 10 回	Newspaper 3	Climate change / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 11 回	Website 4	Environmental issues 1 Reading / Presentation
第 12 回	Magazine / Journal 4	Environmental issues 2 / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 13 回	Newspaper 4	Work-life balance Reading / Presentation
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内活動への取り組み 40%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席すること。
後期の「英語補講」と授業の構成や評価方法は同じですが，扱うトピックや教材（ハンドアウト）は重複しません。
「英語補講」は 2021 年度が最終年度となり，2022 年度以降は開講されません。

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' understanding of current global issues through English newspapers, magazines, and websites.

LANe200JB

英語補講（秋学期）

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題や国際問題について英語で学び，総合的な英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語のニュースサイトや英字新聞，英語雑誌などを通して，リーディングスキルと語彙力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Website 1	Poverty and Hunger / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 3 回	Magazine / Journal 1	Health and medical issues / Reading / Presentation
第 4 回	Newspaper 1	Education / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 5 回	Website 2	Gender equality Reading / Presentation
第 6 回	Magazine / Journal 2	Sanitation / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 7 回	Newspaper 2	Clean energy Reading / Presentation
第 8 回	Website 3	Industry and infrastructure / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 9 回	Magazine / Journal 3	Consumption and production Reading / Presentation
第 10 回	Newspaper 3	Climate change / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 11 回	Website 4	Environmental issues 1 Reading / Presentation
第 12 回	Magazine / Journal 4	Environmental issues 2 / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 13 回	Newspaper 4	Work-life balance Reading / Presentation
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内活動への取り組み 40%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席すること。
前期の「英語補講」と授業の構成や評価方法は同じですが，扱うトピックや教材（ハンドアウト）は重複しません。
「英語補講」は 2021 年度が最終年度となり，2022 年度以降は開講されません。

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' understanding of current global issues through English newspapers, magazines, and websites.

LANe200JB

英語補講（秋学期）

山本　五郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事問題や国際問題について英語で学び，総合的な英語力を伸ばす。

【到達目標】
英語のニュースサイトや英字新聞，英語雑誌などを通して，リーディングスキルと語彙力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトを用いて各種演習を行います。
第 2 回以降，毎回授業開始時に小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，授業内演習等の説明
第 2 回	Website 1	Poverty and Hunger / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 3 回	Magazine / Journal 1	Health and medical issues / Reading / Presentation
第 4 回	Newspaper 1	Education / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 5 回	Website 2	Gender equality Reading / Presentation
第 6 回	Magazine / Journal 2	Sanitation / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 7 回	Newspaper 2	Clean energy Reading / Presentation
第 8 回	Website 3	Industry and infrastructure / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 9 回	Magazine / Journal 3	Consumption and production Reading / Presentation
第 10 回	Newspaper 3	Climate change / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 11 回	Website 4	Environmental issues 1 Reading / Presentation
第 12 回	Magazine / Journal 4	Environmental issues 2 / Reading and vocabulary building / Group discussion and pair work
第 13 回	Newspaper 4	Work-life balance Reading / Presentation
第 14 回	授業の振り返り	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内活動への取り組み 40%, 小テスト 30%, レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席すること。
前期の「英語補講」と授業の構成や評価方法は同じですが，扱うトピックや教材（ハンドアウト）は重複しません。
「英語補講」は 2021 年度が最終年度となり，2022 年度以降は開講されません。

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' understanding of current global issues through English newspapers, magazines, and websites.

LANe200JB

TOEIC ３A（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本広義の目的は、TOEIC の上級レベルに対応した演習をこなすことによって、プラス 30 点を達成することである。特に読解や、文法問題に対応するため、Part5,6,7 の演習を重点的に行うことにする。これらの問題演習に積極的に取り組むことで、より高度な英語力の獲得に繋げていきたい。

【到達目標】
学生は、この授業を履修することで、TOEIC の Part5,6, 7 の演習を重点的に行うことができる。また、その結果自信の得点を 30 点上げることを目的としている。特に、文法問題、語彙問題、表現問題、読解のリーディング問題といった日本の学生が得意としているパートを重点的に学習することで、より実践的な英語を身につけることができる。成績評価としては、小テスト、中間、期末テスト、また、レポートを総合的に判断する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中心の授業で、課題は、レポートやテストとなる。毎回の授業では、演習を中心とするので参加が必須である。
授業の冒頭で 10 分間程度の時間を使用し、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから何点かを取り上げ、全体に向けてのフィードバックを行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現在分詞	現在分詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
現在分詞		
第 2 回	過去分詞	過去分詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
過去分詞		
第 3 回	現在進行形	現在進行形の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
現在進行形		
第 4 回	現在完了形	現在完了形の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
現在完了形		
第 5 回	一般動詞	一般動詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
一般動詞		
第 6 回	助動詞	助動詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
助動詞		
第 7 回	形容詞	形容詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
形容詞		
中間テスト	中間テスト	中間テストを実施する。
第 9 回	副詞	副詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
副詞		
第 10 回	前置詞	前置詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
前置詞		
第 11 回	名詞	名詞の基礎を学習する。Toeic Part7 演習
名詞		
第 12 回	仮定法	仮定法の基礎を学習する。Toeic Part7 演習
仮定法		
総復習	総復習	前期の授業の総復習
期末テスト	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間テスト、期末テストや定期的に実施する小テストの自習時間は各自で確保する必要があります。

【テキスト（教科書）】
「TOEIC L&R テスト　文法問題でる 1000 問」、TEX 加藤、2018 年、株式会社アスク

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%, 各回の小テスト 20%, 中間テスト 20%, 期末テスト 20%, 期末レポート、20%

を 100%に換算して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もっと問題演習の時間を増やして欲しい。板書が見にくい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講義に関する連絡や質問に関しては、yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
This course aims to have the students get plus 30 points on TOEIC L&R. In order to achieve this goal, students will tackle sample questions of Part5, 6 and 7 in class. Focusing on these section will efficiently help you achieve your goal in TOECIC.

LANe200JC

TOEIC ３A（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本広義の目的は、TOEIC の上級レベルに対応した演習をこなすことによって、プラス 30 点を達成することである。特に読解や、文法問題に対応するため、Part5,6,7 の演習を重点的に行うことにする。これらの問題演習に積極的に取り組むことで、より高度な英語力の獲得に繋げていきたい。

【到達目標】
学生は、この授業を履修することで、TOEIC の Part5,6, 7 の演習を重点的に行うことができる。また、その結果自信の得点を 30 点上げることを目的としている。特に、文法問題、語彙問題、表現問題、読解のリーディング問題といった日本の学生が得意としているパートを重点的に学習することで、より実践的な英語を身につけることができる。成績評価としては、小テスト、中間、期末テスト、また、レポートを総合的に判断する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中心の授業で、課題は、レポートやテストとなる。毎回の授業では、演習を中心とするので参加が必須である。
授業の冒頭で 10 分間程度の時間を使用し、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから何点かを取り上げ、全体に向けてのフィードバックを行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 現在分詞	現在分詞	現在分詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
第 2 回 過去分詞	過去分詞	過去分詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
第 3 回 現在進行形	現在進行形	現在進行形の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
第 4 回 現在完了形	現在完了形	現在完了形の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
第 5 回 一般動詞	一般動詞	一般動詞の基礎を学習する。Toeic Part5 演習
第 6 回 助動詞	助動詞	助動詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
第 7 回 形容詞	形容詞	形容詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
中間テスト	中間テスト	中間テストを実施する。
第 9 回 副詞	副詞	副詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
第 10 回 前置詞	前置詞	前置詞の基礎を学習する。Toeic Part6 演習
第 11 回 名詞	名詞	名詞の基礎を学習する。Toeic Part7 演習
第 12 回 仮定法	仮定法	仮定法の基礎を学習する。Toeic Part7 演習
総復習	総復習	前期の授業の総復習
期末テスト	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間テスト、期末テストや定期的に実施する小テストの自習時間は各自で確保する必要があります。

【テキスト（教科書）】
「TOEIC L&R テスト　文法問題でる 1000 問」、TEX 加藤、2018 年、株式会社アスク

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%, 各回の小テスト 20%, 中間テスト 20%, 期末テスト 20%, 期末レポート、20%

を 100%に換算して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もっと問題演習の時間を増やして欲しい。板書が見にくい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講義に関する連絡や質問に関しては、yuuzin.fukatsu.53@hosei.ac.jp にお願いします。

【Outline and objectives】
This course aims to have the students get plus 30 points on TOEIC L&R. In order to achieve this goal, students will tackle sample questions of Part5, 6 and 7 in class. Focusing on these section will efficiently help you achieve your goal in TOECIC.

LANe200JB

TOEIC ３Ｂ（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、Toeic L& R における Part5, Part6 の文法、語彙、表現問題に特化した授業を展開していく。

【到達目標】
本講義の目標は、Toeic の part5, part6 での得点をプラス 20 点とすることである。その為に、徹底して問題演習を行い、出題形式に慣れておくと同時に、本番でも実力を発揮できるように小テストや期末テストで練習する。客観的には、普段の小テスト、期末試験や課題等の評価を総合的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、決められた項目の問題演習をこなしていく。だいたい、1 度の授業で 25 問程度を回答する
。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	動詞に関する問題	動詞に関する問題を学習する
動詞		
第 2 回	助動詞に関する問題	助動詞に関する問題を学習する
助動詞		
第 3 回	前置詞に関する問題	前置詞に関する問題を学習する
前置詞		
第 4 回	形容詞に関する問題	形容詞に関する問題を学習する
形容詞		
第 5 回	副詞に関する問題	副詞に関する問題を学習する
副詞		
第 6 回	冠詞に関する問題	冠詞に関する問題を学習する
冠詞		
第 7 回	名詞に関する問題	名詞に関する問題を学習する
名詞		
総演習	総演習	前半部分の総演習を実施する
中間試験	中間試験	中間試験を実施する
第 10 回	完了形に関する問題	完了形に関する問題を学習する
完了形		
第 11 回	進行形に関する問題	進行形に関する問題を学習する
進 行		
形、過去		
進行形		
第 12 回	仮定法に関する問題	仮定法に関する問題を学習する
仮定法		
総復習	総復習	総復習を実施する
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストや期末テスト、課題等の自学の時間は必須である。各自、1 時間程度は予習の時間を取ること。

【テキスト（教科書）】
「Toeic L & R テスト　文法問題でる 1000 問」　TEX 加藤、アスク出版、2300 円

【参考書】
適宜指示、配布する

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20%、授業参加 40%を 100%換算して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し、発言や会話の時間をとって欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【その他の重要事項】
TOEIC 試験を受験する可能性のある受講生を歓迎する。

【Outline and objectives】
This course will focus on Toeic Part5, Part6 section and practice Toeic grammar, vocabulary and expressions.

LANe200JC

TOEIC ３Ｂ（上級）

深津　勇仁

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、Toeic L& R における Part5, Part6 の文法、語彙、表現問題に特化した授業を展開していく。

【到達目標】
本講義の目標は、Toeic の part5, part6 での得点をプラス 20 点とすることである。その為に、徹底して問題演習を行い、出題形式に慣れておくと同時に、本番でも実力を発揮できるように小テストや期末テストで練習する。客観的には、普段の小テスト、期末試験や課題等の評価を総合的に評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、決められた項目の問題演習をこなしていく。だいたい、1 度の授業で 25 問程度を回答する
。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	動詞に関する問題	動詞に関する問題を学習する
動詞		
第 2 回	助動詞に関する問題	助動詞に関する問題を学習する
助動詞		
第 3 回	前置詞に関する問題	前置詞に関する問題を学習する
前置詞		
第 4 回	形容詞に関する問題	形容詞に関する問題を学習する
形容詞		
第 5 回	副詞に関する問題	副詞に関する問題を学習する
副詞		
第 6 回	冠詞に関する問題	冠詞に関する問題を学習する
冠詞		
第 7 回	名詞に関する問題	名詞に関する問題を学習する
名詞		
総演習	総演習	前半部分の総演習を実施する
中間試験	中間試験	中間試験を実施する
第 10 回	完了形に関する問題	完了形に関する問題を学習する
完了形		
第 11 回	進行形に関する問題	進行形に関する問題を学習する
進行形、過去進行形		
第 12 回	仮定法に関する問題	仮定法に関する問題を学習する
仮定法		
総復習	総復習	総復習を実施する
期末試験	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テストや期末テスト、課題等の自学の時間は必須である。各自、1 時間程度は予習の時間を取ること。

【テキスト（教科書）】
「Toeic L & R テスト　文法問題でる 1000 問」　TEX 加藤、アスク出版、2300 円

【参考書】
適宜指示、配布する

【成績評価の方法と基準】
小テスト 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20%、授業参加 40%を 100%換算して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し、発言や会話の時間をとって欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【その他の重要事項】
TOEIC 試験を受験する可能性のある受講生を歓迎する。

【Outline and objectives】
This course will focus on Toeic Part5, Part6 section and practice Toeic grammar, vocabulary and expressions.

LANe200JB

国際コミュニケーション中１Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】
中国語検定試験準４級、さらに４級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	ガイダンス、初対面の挨拶の応用練習
第 2 回	道の尋ね方、入学式の服装	動詞 “在”、疑問詞 “怎么”、助動詞 “要” の応用練習
第 3 回	食事の誘い、相談	仮定表現 “如果～的話”、選択疑問文 “还是”
第 4 回	食事の誘い、相談	食事の誘いに関連する表現の応用練習
第 5 回	待ち合わせ、評価	ラーメン屋に対する評価の表現、結果補語と方向補語の練習
第 6 回	注文の仕方、メニュー	定食と飲み物の関連表現、量詞の使い方
第 7 回	注文の仕方、メニュー	注文に使われる構文の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検と HSK の過去問題の練習
第 10 回	中国語の学習歴	経験に関連する表現
第 11 回	中国語の学習	様態 (程度) 補語、“是～的” の応用練習
第 12 回	夏季休暇、予定	旅行、アルバイトに関連する表現
第 13 回	夏季休暇、予定	比較表現、時間量、“快要～了” の応用練習
第 14 回	小テスト（2）と解説	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
聴く力と話す力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験　中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】
『HSK/中検対応　中国語基本単語帳』早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30 %）、2 回の小テスト（70 %）。
授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation.

LANe200JB

国際コミュニケーション中１Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】
中国語検定試験準４級、さらに４級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	ガイダンス、初対面の挨拶の応用練習
第 2 回	道の尋ね方、入学式の服装	動詞 “在”、疑問詞 “怎么”、助動詞 “要” の応用練習
第 3 回	食事の誘い、相談	仮定表現 “如果～的話”、選択疑問文 “還是”
第 4 回	食事の誘い、相談	食事の誘いに関連する表現の応用練習
第 5 回	待ち合わせ、評価	ラーメン屋に対する評価の表現、結果補語と方向補語の練習
第 6 回	注文の仕方、メニュー	定食と飲み物の関連表現、量詞の使い方
第 7 回	注文の仕方、メニュー	注文に使われる構文の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検と HSK の過去問題の練習
第 10 回	中国語の学習歴	経験に関連する表現
第 11 回	中国語の学習	様態 (程度) 補語、“是～的” の応用練習
第 12 回	夏季休暇、予定	旅行、アルバイトに関連する表現
第 13 回	夏季休暇、予定	比較表現、時間量、“快要～了” の応用練習
第 14 回	小テスト（2）と解説	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
聴く力と話す力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験　中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】
『HSK/中検対応　中国語基本単語帳』早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30 %）、2 回の小テスト（70 %）。
授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to improve the students’ skill in Chinese conversation.

LANe200JC

国際コミュニケーション中１Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。会話文およびドリルを通じて語彙力を向上させ、「聴く」・「話す」練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】
中国語検定試験４級または３級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	接客用語、助動詞 “可以”、“覚得” の使い方
第 2 回	買い物、試着	程度副詞 “多、挺、太～了、非常、有点儿” の応用練習
第 3 回	体調	禁止表現、“一～就～”、助動詞 “能” の練習
第 4 回	電車・地下鉄	複文、“虽然～但是～”、“不是～就是～” の使い方
第 5 回	電車・地下鉄	車内での行動に関連する表現の応用練習
第 6 回	休憩、自動販売機	可能補語、動詞の重ね型
第 7 回	休憩、自動販売機	提案に関連する表現の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検、HSK の過去問題の練習
第 10 回	クリスマス、贈り物	乾杯とプレゼント。前置詞 “把”、“為了” の使い方
第 11 回	クリスマス、贈り物	祝福に関する表現の応用練習
第 12 回	年越し	使役表現、助動詞 “得”、“越来越～” の使い方
第 13 回	年越し、春節	年越しの過ごし方に関する表現の応用練習
第 14 回	小テスト（2）	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験　中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】
『HSK/中検対応　中国語基本単語帳』早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30 %）、2 回の小テスト（70 %）。
授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to improve the students’ skill in Chinese conversation.

LANe200JC

国際コミュニケーション中１Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。会話文およびドリルを通じて語彙力を向上させ、「聴く」・「話す」練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】
中国語検定試験４級または３級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	接客用語、助動詞 “可以”、“覚得” の使い方
第 2 回	買い物、試着	程度副詞 “多、挺、太～了、非常、有点儿” の応用練習
第 3 回	体調	禁止表現、“一～就～”、助動詞 “能” の練習
第 4 回	電車・地下鉄	複文、“虽然～但是～”、“不是～就是～” の使い方
第 5 回	電車・地下鉄	車内での行動に関連する表現の応用練習
第 6 回	休憩、自動販売機	可能補語、動詞の重ね型
第 7 回	休憩、自動販売機	提案に関連する表現の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検、HSK の過去問題の練習
第 10 回	クリスマス、贈り物	乾杯とプレゼント。前置詞 “把”、“为了” の使い方
第 11 回	クリスマス、贈り物	祝福に関する表現の応用練習
第 12 回	年越し	使役表現、助動詞 “得”、“越来越～” の使い方
第 13 回	年越し、春節	年越しの過ごし方に関する表現の応用練習
第 14 回	小テスト（2）	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験　中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】
『HSK/中検対応　中国語基本単語帳』早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30 %）、2 回の小テスト（70 %）。
授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to improve the students’ skill in Chinese conversation.

LANe200JB

国際コミュニケーション中２Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語中級の授業を通じて身につけた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】
実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSK や中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介（「咱們認識一下」）	ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 2 回	「别」、「瞧」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習「☒☒看」、置き換え練習、応用練習
第 3 回	外国での生活や体験（「現在完全習慣了」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 4 回	「過」、「哪里」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 5 回	友だち付き合い（「咱們从明天開始」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 6 回	「～来／去」、「得」、反語	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 7 回	小テスト（1）	小テストを行う。総合練習
第 8 回	HSK の過去問題	HSK の問題の練習
第 9 回	機内・電車内のアナウンス	機内・電車内放送の内容の練習
第 10 回	マンガ『深夜食堂』の会話	登場人物の会話表現の練習
第 11 回	焦っている状況、対策（「放在哪里了」）	本文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 12 回	「正在赶」、「来得及」、「～在」などの表現の練習	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 13 回	小テスト（2）	小テスト、総合練習
第 14 回	小テストと解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくことと。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
HSK の過去問題、中国検定試験の過去問題

【成績評価の方法と基準】
予習・授業への積極的な参加は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANe200JB

国際コミュニケーション中２Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語中級の授業を通じて身につけた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】
実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSK や中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介（「咱們認識一下」）	ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 2 回	「别」、「瞧」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習「☒☒看」、置き換え練習、応用練習
第 3 回	外国での生活や体験（「現在完全習慣了」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 4 回	「過」、「哪里」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 5 回	友だち付き合い（「咱們从明天開始」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 6 回	「～来／去」、「得」、反語	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 7 回	小テスト（１）	小テストを行う。総合練習
第 8 回	HSK の過去問題	HSK の問題の練習
第 9 回	機内・電車内のアナウンス	機内・電車内放送の内容の練習
第 10 回	マンガ『深夜食堂』の会話	登場人物の会話表現の練習
第 11 回	焦っている状況、対策（「放在哪里了」）	本文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 12 回	「正在赶」、「来得及」、「～在」などの表現の練習	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 13 回	小テスト（２）	小テスト、総合練習
第 14 回	小テストと解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくことと。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
HSK の過去問題、中国検定試験の過去問題

【成績評価の方法と基準】
予習・授業への積極的な参加は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANe200JC

国際コミュニケーション中２Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語中級の授業を通じて身に付けた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】
実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSK や中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習（歴史都市）	後期ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 2 回	歴史都市の庭園、漢詩	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 3 回	名物グルメ（「忍不住要吃」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 4 回	比較、同時進行に関連する表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 5 回	予定と約束	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 6 回	「别」、「約好了」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 7 回	小テスト（１）	小テストを行う。総合練習
第 8 回	HSK の過去問題の練習	HSK の過去問題の練習（会話）
第 9 回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（質問）
第 10 回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（回答）、応用練習
第 11 回	映画のセリフ	映画『和你在一起』のセリフの練習
第 12 回	アルバイト（「打工不只是為了錢」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 13 回	「老黄曆」、「再説」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 14 回	小テスト（２）、解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
HSK 過去問題、中国語検定試験過去問題

【成績評価の方法と基準】
出席・予習・授業への参加状況は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANe200JC

国際コミュニケーション中２Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語中級の授業を通じて身に付けた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】
実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSK や中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習（歴史都市）	後期ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 2 回	歴史都市の庭園、漢詩	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 3 回	名物グルメ（「忍不住要吃」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 4 回	比較、同時進行に関連する表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 5 回	予定と約束	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 6 回	「別」、「約好了」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 7 回	小テスト（１）	小テストを行う。総合練習
第 8 回	HSK の過去問題の練習	HSK の過去問題の練習（会話）
第 9 回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（質問）
第 10 回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（回答）、応用練習
第 11 回	映画のセリフ	映画『和你在一起』のセリフの練習
第 12 回	アルバイト（「打工不只是為了錢」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 13 回	「老黄暦」、「再説」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 14 回	小テスト（２）、解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
HSK 過去問題、中国語検定試験過去問題

【成績評価の方法と基準】
出席・予習・授業への参加状況は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANe200JB

国際コミュニケーション中３Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】
中国語検定試験３級、HSK（新漢語水平考試）４級、またはそれ以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発話機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、復習だけでなく、練習に対する解説も行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと練習	ガイダンス。過去問題を練習する。
第 2 回	中検の練習①（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第 3 回	中検の練習①（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、聞き取りのコツの説明、応用練習
第 4 回	中検の練習②	筆記問題の練習、説明
第 5 回	中検の練習②	リスニング問題の練習、応用練習
第 6 回	HSK の練習①（聴力）	写真を見ながら関連表現を聞き取る練習、説明
第 7 回	HSK の練習①（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 8 回	HSK の練習①（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第 9 回	中検の練習③	筆記問題の練習、説明
第 10 回	中検の練習③	リスニング問題の練習、応用練習
第 11 回	HSK の練習②（聴力）	聞き取りの練習、説明
第 12 回	HSK の練習②（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 13 回	HSK の練習②（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第 14 回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習が非常に重要である。新しい単語や表現の定着をはかり、間違えやすいところの理解に努める積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加は 50 %、練習は 50 %。小テストや期末試験は行わない。
中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】
中検２級、準 1 級、HSK4 級・5 級・6 級を練習するご要望にも対応することができる。

【Outline and objectives】
The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANe200JB

国際コミュニケーション中３Ａ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】
中国語検定試験３級、HSK（新漢語水平考試）４級、またはそれ以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発話機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、復習だけでなく、練習に対する解説も行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと練習	ガイダンス。過去問題を練習する。
第 2 回	中検の練習①（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第 3 回	中検の練習①（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、聞き取りのコツの説明、応用練習
第 4 回	中検の練習②	筆記問題の練習、説明
第 5 回	中検の練習②	リスニング問題の練習、応用練習
第 6 回	HSK の練習①（聴力）	写真を見ながら関連表現を聞き取る練習、説明
第 7 回	HSK の練習①（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 8 回	HSK の練習①（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第 9 回	中検の練習③	筆記問題の練習、説明
第 10 回	中検の練習③	リスニング問題の練習、応用練習
第 11 回	HSK の練習②（聴力）	聞き取りの練習、説明
第 12 回	HSK の練習②（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 13 回	HSK の練習②（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第 14 回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習が非常に重要である。新しい単語や表現の定着をはかり、間違えやすいところの理解に努める積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する。

【参考書】
授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加は 50 %、練習は 50 %。小テストや期末試験は行わない。
中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】
中検２級、準 1 級、HSK4 級・5 級・6 級を練習するご要望にも対応することができる。

【Outline and objectives】
The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANe200JC

国際コミュニケーション中３Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】
中国語検定試験３級、HSK（新漢語水平考試）４級以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語独特の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発話機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、授業内で行った練習に対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期ガイダンスと練習	ガイダンスと練習
第 2 回	中検の練習④（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第 3 回	中検の練習④（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、応用練習
第 4 回	中検の練習⑤	筆記問題の練習、説明
第 5 回	中検の練習⑤	リスニング問題の練習、応用練習
第 6 回	HSK の練習③（聴力）	聞き取り練習、説明
第 7 回	HSK の練習③（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 8 回	HSK の練習③（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第 9 回	中検の練習⑥	筆記問題の練習、説明
第 10 回	中検の練習⑥	リスニング問題の練習、応用練習
第 11 回	HSK の練習④（聴力）	聞き取り練習、説明
第 12 回	HSK の練習④（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 13 回	HSK の練習④（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第 14 回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習が非常に重要である。新しい単語や表現を覚え、間違えやすいところを理解しようとする積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加は 50 %、練習は 50 %。小テストや期末試験は行わない。
中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】
中検２級、準 1 級、1 級、HSK5 級・6 級を練習するご要望にも対応することができる。

【Outline and objectives】
The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANe200JC

国際コミュニケーション中３Ｂ

謝　荔

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】
中国語検定試験３級、HSK（新漢語水平考試）４級以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語独特の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発話機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、授業内で行った練習に対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期ガイダンスと練習	ガイダンスと練習
第 2 回	中検の練習④（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第 3 回	中検の練習④（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、応用練習
第 4 回	中検の練習⑤	筆記問題の練習、説明
第 5 回	中検の練習⑤	リスニング問題の練習、応用練習
第 6 回	HSK の練習③（聴力）	聞き取り練習、説明
第 7 回	HSK の練習③（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 8 回	HSK の練習③（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第 9 回	中検の練習⑥	筆記問題の練習、説明
第 10 回	中検の練習⑥	リスニング問題の練習、応用練習
第 11 回	HSK の練習④（聴力）	聞き取り練習、説明
第 12 回	HSK の練習④（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 13 回	HSK の練習④（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第 14 回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習が非常に重要である。新しい単語や表現を覚え、間違えやすいところを理解しようとする積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加は 50 %、練習は 50 %。小テストや期末試験は行わない。
中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】
資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に応えたい。

【その他の重要事項】
中検２級、準 1 級、1 級、HSK5 級・6 級を練習するご要望にも対応することができる。

【Outline and objectives】
The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANc100JB

中国語１Ａ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面でを実施する予定です。
講義と演習が中心、毎回全員を指名し、習得度を確認する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	教科書などの説明
2	単母音・子音	単母音・子音
3	声調・複合母音	４声・複合母音
4	鼻母音・音節	鼻母音・音節
5	発音の復習	中国語の発音の特徴
6	これは何ですか（文法説明）	疑問詞疑問文
7	これは何ですか（会話練習）	人称代名詞 指示代名詞
8	本は机の上にあります（文法説明）	存在を表す “在”
9	本は机の上にあります（会話練習）	存在、所有を表す “有”
10	私と私の家（文法説明）	名詞述語文 数の数え方
11	私と私の家（会話練習）	年月日、曜日の言い方
12	東京の夏は暑い（文法説明）	形容詞述語文
13	東京の夏は暑い（会話練習）	反復疑問文 選択疑問文
14	達成度チェック	まとめと解説 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。CD を繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』邱奎福 (白帝社 2015 年 3 月)

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験・準４級　に合格するための本』邱奎福（アルク　2009 年 5 月）

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度 50 %・試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
I teach pronunciation of Chinese and basic grammar by this lecture. Through language study learning, I know Chinese culture, the social circumstances and measure that I deepen understanding for China.

LANc100JC

中国語１Ａ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面でを実施する予定です。
講義と演習が中心、毎回全員を指名し、習得度を確認する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	教科書などの説明
2	単母音・子音	単母音・子音
3	声調・複合母音	４声・複合母音
4	鼻母音・音節	鼻母音・音節
5	発音の復習	中国語の発音の特徴
6	これは何ですか（文法説明）	疑問詞疑問文
7	これは何ですか（会話練習）	人称代名詞 指示代名詞
8	本は机の上にあります（文法説明）	存在を表す “在”
9	本は机の上にあります（会話練習）	存在、所有を表す “有”
10	私と私の家（文法説明）	名詞述語文 数の数え方
11	私と私の家（会話練習）	年月日、曜日の言い方
12	東京の夏は暑い（文法説明）	形容詞述語文
13	東京の夏は暑い（会話練習）	反復疑問文 選択疑問文
14	達成度チェック	まとめと解説 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。CD を繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』邱奎福 (白帝社 2015 年 3 月)

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験・準４級　に合格するための本』邱奎福（アルク　2009 年 5 月）

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度 50 %・試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
I teach pronunciation of Chinese and basic grammar by this lecture. Through language study learning, I know Chinese culture, the social circumstances and measure that I deepen understanding for China.

LANc100JB

中国語１Ｂ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習が中心。楽しい会話を徹底的に練習する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	教科書などの説明
2	私は中国語を勉強します（文法説明）	動詞述語文
3	私は中国語を勉強します（会話練習）	状況語の使い方
4	あなたは何をしていますか（文法説明）	現在進行形
5	あなたは何をしていますか（会話練習）	助動詞 “想”
6	私は北京に行きました（文法説明）	動作の完了と過去を表わす “了”
7	私は北京に行きました（会話練習）	経験のを表す “☒”
8	私は図書館に勉強をしにいきます（文法説明）	連動文
9	私は図書館に勉強をしにいきます（会話練習）	時間、数量補語など
10	私は読んでわかります（文法説明）	結果補語と可能補語
11	第９項 私は読んでわかります（会話練習）	仮定の表現
12	明日私は行けなくなりました（文法説明）	助動詞 “会”“能”
13	明日私は行けなくなりました（会話練習）	助動詞 “得” など
14	まとめと解説	まとめと解説 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。CD を繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2015 年 3 月）

【参考書】
　『ゼロから始めて　中国語検定試験・準４級　に合格するための本』邱奎福（アルク　2009 年 5 月）

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度 60%, 試験 40%。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
I teach pronunciation of Chinese and basic grammar by this lecture. Through language study learning, I know Chinese culture, the social circumstances and measure that I deepen understanding for China.

LANc100JC

中国語１Ｂ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習が中心。楽しい会話を徹底的に練習する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	教科書などの説明
2	私は中国語を勉強します（文法説明）	動詞述語文
3	私は中国語を勉強します（会話練習）	状況語の使い方
4	あなたは何をしていますか（文法説明）	現在進行形
5	あなたは何をしていますか（会話練習）	助動詞 “想”
6	私は北京に行きました（文法説明）	動作の完了と過去を表わす “了”
7	私は北京に行きました（会話練習）	経験のを表す “☒”
8	私は図書館に勉強をしにいきます（文法説明）	連動文
9	私は図書館に勉強をしにいきます（会話練習）	時間、数量補語など
10	私は読んでわかります（文法説明）	結果補語と可能補語
11	第９項 私は読んでわかります（会話練習）	仮定の表現
12	明日私は行けなくなりました（文法説明）	助動詞 “会”“能”
13	明日私は行けなくなりました（会話練習）	助動詞 “得” など
14	まとめと解説	まとめと解説 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。CD を繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2015 年 3 月）

【参考書】
　『ゼロから始めて　中国語検定試験・準４級　に合格するための本』邱奎福（アルク　2009 年 5 月）

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度 60%, 試験 40%。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
I teach pronunciation of Chinese and basic grammar by this lecture. Through language study learning, I know Chinese culture, the social circumstances and measure that I deepen understanding for China.

LANc100JC

中国語２Ａ

劉　紅

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業は、中国語の発音表記のピンインをマスターして、声調の四声を正しく発音できることを目標とする

【到達目標】
簡単な日常会話を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、先生の発音を真似して全員で声を出して発音することから始め、1 人 1 人に発音してもらって誤りを直してゆきます。ＣＤを聞きながら発音の繰り返し練習もします。また練習問題をやり、単語の小テストをするなどの方法により、習った内容を確かめ、しっかり身につけてもらいます。練習問題は授業中一緒に答え合わせをします。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国と「中国語」の簡単な紹介	標準語は何であるかについて
第 2 回	単母音の発音 声調の練習	aoeiu など
第 3 回	複母音と鼻母音の発音	ai ei ao ou an en in un ang eng ing ong
第 4 回	子音の発音	b,p,m,f,d,t,n,l など
第 5 回	「是」の文の勉強	「私は日本人です」など
第 6 回	「これ、それ、あれ、どれ」の文について	「これは何ですか」など
第 7 回	動詞文と省略文の使い方	「私は行きます」 「あなたは？」など
第 8 回	数量詞と代名詞の使い方	「一人」「二冊」など 「この人」「あの本」など
第 9 回	形容詞文について	「これは安い」など
第 10 回	「日付、時刻」の言い方	何月何日 何時など
第 11 回	過去形について	「私はご飯を食べました」など
第 12 回	存在文について	「彼は食堂にいます」など
第 13 回	助動詞「想」について	「私は餃子を食べたい」など」
第 14 回	期末試験・まとめと解説	これまで習った文法や本文、単語を範囲とする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、次回の授業の内容を毎日ＣＤを利用して単語と本文の発音を毎日 15 分間予習をすると同時に、すでに習った内容を毎日 30 分間リスニングの練習をしてきます。また、単語と本文を毎日 20 分間暗記し、文法の練習に教科書の練習問題と作文を宿題としてやってきます。

【テキスト（教科書）】
王学群他『基礎から学ぶ実践中国語』白帝社、2500 円＋税

【参考書】
中国語の辞書を各自用意すること。電子辞書でも構いません。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験（70 %）
　小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
以上の方針で授業を進め、学生の意見に従い、改善していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
中国語だけではなく、中国文化や伝統についても授業を通じて学生に伝えようと思っている。この授業を通じて、中国語に興味を持ち、また中国文化に興味を持つきっかけになってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline and objectives】
The goal is that the students can pronounce the Chinese alphabet and accent correctly.

LANc100JB

中国語２Ａ

劉　紅

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業は、中国語の発音表記のピンインをマスターして、声調の四声を正しく発音できることを目標とする

【到達目標】
簡単な日常会話を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、先生の発音を真似して全員で声を出して発音することから始め、1 人 1 人に発音してもらって誤りを直してゆきます。ＣＤを聞きながら発音の繰り返し練習もします。また練習問題をやり、単語の小テストをするなどの方法により、習った内容を確かめ、しっかり身につけてもらいます。練習問題は授業中一緒に答え合わせをします。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国と「中国語」の簡単な紹介	標準語は何であるかについて
第 2 回	単母音の発音 声調の練習	aoeiu など
第 3 回	複母音と鼻母音の発音	ai ei ao ou an en in un ang eng ing ong
第 4 回	子音の発音	b,p,m,f,d,t,n,l など
第 5 回	「是」の文の勉強	「私は日本人です」など
第 6 回	「これ、それ、あれ、どれ」の文について	「これは何ですか」など
第 7 回	動詞文と省略文の使い方	「私は行きます」 「あなたは？」など
第 8 回	数量詞と代名詞の使い方	「一人」「二冊」など 「この人」「あの本」など
第 9 回	形容詞文について	「これは安い」など
第 10 回	「日付、時刻」の言い方	何月何日 何時など
第 11 回	過去形について	「私はご飯を食べました」など
第 12 回	存在文について	「彼は食堂にいます」など
第 13 回	助動詞「想」について	「私は餃子を食べたい」など」
第 14 回	期末試験・まとめと解説	これまで習った文法や本文、単語を範囲とする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、次回の授業の内容を毎日ＣＤを利用して単語と本文の発音を毎日 15 分間予習をすると同時に、すでに習った内容を毎日 30 分間リスニングの練習をしてきます。また、単語と本文を毎日 20 分間暗記し、文法の練習に教科書の練習問題と作文を宿題としてやってきます。

【テキスト（教科書）】
王学群他『基礎から学ぶ実践中国語』白帝社、2500 円＋税

【参考書】
中国語の辞書を各自用意すること。電子辞書でも構いません。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）
小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
以上の方針で授業を進め、学生の意見に従い、改善していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
中国語だけではなく、中国文化や伝統についても授業を通じて学生に伝えようと思っている。この授業を通じて、中国語に興味を持ち、また中国文化に興味を持つきっかけになってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline and objectives】
The goal is that the students can pronounce the Chinese alphabet and accent correctly.

LANc100JB

中国語２Ｂ

劉　紅

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期しっかり勉強した内容を基礎として、さらなる日常会話を覚えることを目的とする。

【到達目標】
初心者以上に初級レベルの文法をさらに身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単語をしっかり覚えるうえで、文法を理解してもらい、その応用として本文や練習問題をたくさん練習させます。一人ひとりへの発音チェックや、隣同士での会話練習などの形を取ります。練習問題は、学生に自分の答えを黒板に書いてもらい、それを訂正し説明するとの形で、答え合わせをします。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	助詞「在、離」の使い方	「私は学校で勉強する」「家は学校から遠いです」など
第 2 回	存在文「有」について	「ここに図書館があります」など
第 3 回	時間量の言い方	「一年間、二日間」など
第 4 回	助動詞「得」について	「私はバイトをしなければなりません」など
第 5 回	経験を表す「過」について	「私は中国に行ったことがある」など
第 6 回	説明文「是…的」について	「私は去年行ったのです」など
第 7 回	助詞「給」について	「あなたにメールします」など
第 8 回	助動詞「能、会」	「私は水泳ができます」など
第 9 回	進行形について	「私は本を読んでいます」など
第 10 回	「～しに来る」「～しに行く」	「私は買い物に行く」など
第 11 回	比較文	「これはあれより高い」など
第 12 回	二重目的語	「あなたにこれをあげます」など
第 13 回	限定語について	「きれいな人」「自転車に乗っている人」など
第 14 回	期末試験・これまでの文法のまとめと解説	これまでの学習内容を範囲に行われる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、次回の授業の内容を毎日ＣＤを利用して単語と本文の発音を毎日 15 分間予習をすると同時に、すでに習った内容を毎日 30 分間リスニングの練習をしてきます。また、単語と本文を毎日 20 分間暗記し、文法の練習に教科書の練習問題と作文を宿題としてやってきます。

【テキスト（教科書）】
王学群他『基礎から学ぶ実践中国語』白帝社、 2500 円＋税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）
小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考しながら、授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
この授業を通じて中国語と中国文化に興味を持ってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline and objectives】
The goal is that the students can speak basic Chinese conversation.

LANc100JC

中国語２Ｂ

劉　紅

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期しっかり勉強した内容を基礎として、さらなる日常会話を覚えることを目的とする。

【到達目標】
初心者以上に初級レベルの文法をさらに身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単語をしっかり覚えるうえで、文法を理解してもらい、その応用として本文や練習問題をたくさん練習させます。一人ひとりへの発音チェックや、隣同士での会話練習などの形を取ります。練習問題は、学生に自分の答えを黒板に書いてもらい、それを訂正し説明するとの形で、答え合わせをします。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	助詞「在、離」の使い方	「私は学校で勉強する」「家は学校から遠いです」など
第 2 回	存在文「有」について	「ここに図書館があります」など
第 3 回	時間量の言い方	「一年間、二日間」など
第 4 回	助動詞「得」について	「私はバイトをしなければなりません」など
第 5 回	経験を表す「過」について	「私は中国に行ったことがある」など
第 6 回	説明文「是…的」について	「私は去年行ったのです」など
第 7 回	助詞「給」について	「あなたにメールします」など
第 8 回	助動詞「能、会」	「私は水泳ができます」など
第 9 回	進行形について	「私は本を読んでいます」など
第 10 回	「～しに来る」「～しに行く」	「私は買い物に行く」など
第 11 回	比較文	「これはあれより高い」など
第 12 回	二重目的語	「あなたにこれをあげます」など
第 13 回	限定語について	「きれいな人」「自転車に乗っている人」など
第 14 回	期末試験・これまでの文法のまとめと解説	これまでの学習内容を範囲に行われる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、次回の授業の内容を毎日ＣＤを利用して単語と本文の発音を毎日 15 分間予習をすると同時に、すでに習った内容を毎日 30 分間リスニングの練習をしてきます。また、単語と本文を毎日 20 分間暗記し、文法の練習に教科書の練習問題と作文を宿題としてやってきます。

【テキスト（教科書）】
王学群他『基礎から学ぶ実践中国語』白帝社、 2500 円＋税

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）
小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考しながら、授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
この授業を通じて中国語と中国文化に興味を持ってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline and objectives】
The goal is that the students can speak basic Chinese conversation.

LANc200JB

中国語３Ａ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実用会話中心の授業である。徹底的に会話練習をし、話せる中国語を目指す。

【到達目標】
中国語検定試験４級レベル。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面で実施する予定です。
場面別の会話練習を重点的にやる。毎回参加者を指名し、発音のチェックする。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書などの説明。
2	ひとくち表現	肯定、否定の仕方
3	あいさつ	お久しぶり…
4	自己紹介	家族構成など
5	お礼	とても感謝しています…
6	感情表現	喜怒哀楽…
7	希望・依頼	…したい …してほしい
8	空港にて	搭乗手続きはどこでやっていますか…
9	両替	すみません、両替お願いいたします…
10	道を尋ねる	北京駅にはどう行くのですか…
11	天気について	雨が降った…
12	汽車に乗る	電車で通勤しています…
13	バス・タクシーに乗る	…までお願いいたします
14	復習　到達度評価	前期の総括、達成度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。

【テキスト（教科書）】
授業中に資料配布

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験準４級に合格するための本』、邱奎福、アルク
『出題形式で学ぶ　中国語検定試験４級に合格するための本』、邱奎福、アル

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度（60%）・試験（40%）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
習得の状況を常に把握するように務める。

【その他の重要事項】
言葉は社会を映し出す鏡です。外国語の勉強は異文化の扉を開ける鍵です。では、中国語の世界へ旅立ちましょう。練習すれば、大丈夫です。でも、この「大丈夫」を中国語で読むと・・・。

【Outline and objectives】
Learn Chinese in the form of test questions.

LANc200JC

中国語３Ａ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実用会話中心の授業である。徹底的に会話練習をし、話せる中国語を目指す。

【到達目標】
中国語検定試験４級レベル。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面で実施する予定です。
場面別の会話練習を重点的にやる。毎回参加者を指名し、発音のチェックする。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書などの説明。
2	ひとくち表現	肯定、否定の仕方
3	あいさつ	お久しぶり…
4	自己紹介	家族構成など
5	お礼	とても感謝しています…
6	感情表現	喜怒哀楽…
7	希望・依頼	…したい …してほしい
8	空港にて	搭乗手続きはどこでやっていますか…
9	両替	すみません、両替お願いいたします…
10	道を尋ねる	北京駅にはどう行くのですか…
11	天気について	雨が降った…
12	汽車に乗る	電車で通勤しています…
13	バス・タクシーに乗る	…までお願いいたします
14	復習　到達度評価	前期の総括、達成度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。

【テキスト（教科書）】
授業中に資料配布

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験準４級に合格するための本』、邱奎福、アルク
『出題形式で学ぶ　中国語検定試験４級に合格するための本』、邱奎福、アル

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度（60%）・試験（40%）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
習得の状況を常に把握するように務める。

【その他の重要事項】
言葉は社会を映し出す鏡です。外国語の勉強は異文化の扉を開ける鍵です。では、中国語の世界へ旅立ちましょう。練習すれば、大丈夫です。でも、この「大丈夫」を中国語で読むと・・・。

【Outline and objectives】
Learn Chinese in the form of test questions.

LANc200JC

中国語３Ｂ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実用会話中心の授業である。徹底的に会話練習をし、話せる中国語を目指す。

【到達目標】
中国語検定試験４級レベル。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
場面別の会話練習を重点的にやる。毎回参加者を指名し、発音のチェックする。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	新学期に当たって
2	ホテルにて	チェックインなど
3	食事	あなたは何が食べたいですか…
4	買い物（一）	…はありますか
5	買い物（二）	いくらですか
6	時・時間	あなたは土曜日に暇がありますか
7	郵便局	書留でお願いいたします
8	電話をかける	王さんはご在宅ですか
9	具合が悪い／受付で	頭が痛いです
10	診察を受ける	どこが具合が悪いですか
11	薬局にて	一日 3 回 2 錠ずつ飲んでください
12	趣味	ご趣味は何ですか
13	緊急・トラブル	助けて
14	復習	後期総括、達成度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。

【テキスト（教科書）】
授業中に資料配布

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験準４級に合格するための本』、邱奎福、アルク、2009 年、2,300 円＋税
『出題形式で学ぶ　中国語検定試験４級に合格するための本』、邱奎福、アルク、2012 年、2,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度（60%）・試験（40%）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
Learn Chinese in the form of test questions.
The emphasis of the course is on conversational practice.

LANc200JB

中国語３Ｂ

邱　奎福

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実用会話中心の授業である。徹底的に会話練習をし、話せる中国語を目指す。

【到達目標】
中国語検定試験４級レベル。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
場面別の会話練習を重点的にやる。毎回参加者を指名し、発音のチェックする。重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	新学期に当たって
2	ホテルにて	チェックインなど
3	食事	あなたは何が食べたいですか…
4	買い物（一）	…はありますか
5	買い物（二）	いくらですか
6	時・時間	あなたは土曜日に暇がありますか
7	郵便局	書留でお願いいたします
8	電話をかける	王さんはご在宅ですか
9	具合が悪い／受付で	頭が痛いです
10	診察を受ける	どこが具合が悪いですか
11	薬局にて	一日 3 回 2 錠ずつ飲んでください
12	趣味	ご趣味は何ですか
13	緊急・トラブル	助けて
14	復習	後期総括、達成度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習 1 時間、復習 1 時間が目安。

【テキスト（教科書）】
授業中に資料配布

【参考書】
『ゼロから始めて　中国語検定試験準４級に合格するための本』、邱奎福、アルク、2009 年、2,300 円＋税
『出題形式で学ぶ　中国語検定試験４級に合格するための本』、邱奎福、アルク、2012 年、2,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度（60%）・試験（40%）を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【Outline and objectives】
Learn Chinese in the form of test questions.
The emphasis of the course is on conversational practice.

LANj100JB

日本語１Ａ

李　址遠

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心的に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	テーマ①異文化間コミュニケーション	定義と例を説明する
3	テーマ②ウィキペディア	仕組みを説明する
4	テーマ②ウィキペディア	長所と短所を述べる
5	テーマ②のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
6	テーマ②のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
7	テーマ③権利	新聞を引用する
8	テーマ③権利	反対意見に触れたうえで意見を述べる
9	テーマ③のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
10	テーマ③のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
11	テーマ④外来語	新聞を引用する
12	テーマ④外来語	論証する
13	テーマ④のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
14	テーマ④のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とする。
・準備：次の授業で扱う資料を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。フィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ａ

李　址遠

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心的に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	テーマ①異文化間コミュニケーション	定義と例を説明する
3	テーマ②ウィキペディア	仕組みを説明する
4	テーマ②ウィキペディア	長所と短所を述べる
5	テーマ②のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
6	テーマ②のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
7	テーマ③権利	新聞を引用する
8	テーマ③権利	反対意見に触れたうえで意見を述べる
9	テーマ③のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
10	テーマ③のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
11	テーマ④外来語	新聞を引用する
12	テーマ④外来語	論証する
13	テーマ④のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
14	テーマ④のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とする。
・準備：次の授業で扱う資料を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。フィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
１．事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
２．リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1 文の意味を明確にする 1	事前課題、フィードバック
4	書き言葉に統一する 2 文の意味を明確にする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	「こと」「の」の使い分け 1 文をシンプルにする 1	事前課題、フィードバック
6	「こと」「の」の使い分け 2 文をシンプルにする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「IT の進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1 文を首尾一貫させる 1	事前課題、フィードバック
10	語彙を適切に選択する 2 文を首尾一貫させる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	類似表現の使い分け 1 「は」と「が」の使い分け 1	事前課題、フィードバック
12	類似表現の使い分け 2 「は」と「が」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
１．事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
２．リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1 文の意味を明確にする 1	事前課題、フィードバック
4	書き言葉に統一する 2 文の意味を明確にする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	「こと」「の」の使い分け 1 文をシンプルにする 1	事前課題、フィードバック
6	「こと」「の」の使い分け 2 文をシンプルにする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「IT の進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1 文を首尾一貫させる 1	事前課題、フィードバック
10	語彙を適切に選択する 2 文を首尾一貫させる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	類似表現の使い分け 1 「は」と「が」の使い分け 1	事前課題、フィードバック
12	類似表現の使い分け 2 「は」と「が」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：総合教育科目　言語コミュニケーション科目
配当年次／単位数：１年次／１単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
１．事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
２．リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1 文の意味を明確にする 1	事前課題、フィードバック
4	書き言葉に統一する 2 文の意味を明確にする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	「こと」「の」の使い分け 1 文をシンプルにする 1	事前課題、フィードバック
6	「こと」「の」の使い分け 2 文をシンプルにする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「IT の進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1 文を首尾一貫させる 1	事前課題、フィードバック
10	語彙を適切に選択する 2 文を首尾一貫させる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	類似表現の使い分け 1 「は」と「が」の使い分け 1	事前課題、フィードバック
12	類似表現の使い分け 2 「は」と「が」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
１．事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
２．リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1 文の意味を明確にする 1	事前課題、フィードバック
4	書き言葉に統一する 2 文の意味を明確にする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	「こと」「の」の使い分け 1 文をシンプルにする 1	事前課題、フィードバック
6	「こと」「の」の使い分け 2 文をシンプルにする 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「IT の進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1 文を首尾一貫させる 1	事前課題、フィードバック
10	語彙を適切に選択する 2 文を首尾一貫させる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	類似表現の使い分け 1 「は」と「が」の使い分け 1	事前課題、フィードバック
12	類似表現の使い分け 2 「は」と「が」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで実施する。本授業では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。受講生は、事前課題として読み物を読み、読解問題と漢字の学習に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお，授業計画については，授業の展開により，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の説明／リアクションペーパーの書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマ１：異文化コミュニケーション　読み物１	定義と例を書く。
第 3 回	テーマ２：ウィキペディア　読み物１	仕組みを説明する。
第 4 回	テーマ２：ウィキペディア　読み物２	長所と短所を述べる。
第 5 回	テーマ２：レポートの作成	テーマ２のレポートを作成する。
第 6 回	テーマ２：ピア・レスポンス	テーマ２のレポートを読み合い修正を加える。
第 7 回	テーマ３：権利　読み物１	新聞を引用する。
第 8 回	テーマ３：権利　読み物２	反対意見に触れたうえで意見を述べる。
第 9 回	テーマ３：レポートの作成	テーマ３のレポートを作成する。
第 10 回	テーマ３：ピア・レスポンス	テーマ３のレポートを読み合い修正を加える。
第 11 回	テーマ４：外来語　読み物１	書籍を引用する。
第 12 回	テーマ４：外来語　読み物２	論証する。
第 13 回	テーマ４：レポートの作成	テーマ４のレポートを作成する。
第 14 回	テーマ４：ピア・レスポンス	テーマ４のレポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前課題と事後課題、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで実施する。本授業では３つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。受講生は、事前課題として読み物を読み、読解問題と漢字の学習に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお，授業計画については，授業の展開により，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション	授業の説明／リアクションペーパーの書き方を学ぶ。
第２回	テーマ１：異文化コミュニケーション　読み物１	定義と例を書く。
第３回	テーマ２：ウィキペディア　読み物１	仕組みを説明する。
第４回	テーマ２：ウィキペディア　読み物２	長所と短所を述べる。
第５回	テーマ２：レポートの作成	テーマ２のレポートを作成する。
第６回	テーマ２：ピア・レスポンス	テーマ２のレポートを読み合い修正を加える。
第７回	テーマ３：権利　読み物１	新聞を引用する。
第８回	テーマ３：権利　読み物２	反対意見に触れたうえで意見を述べる。
第９回	テーマ３：レポートの作成	テーマ３のレポートを作成する。
第10回	テーマ３：ピア・レスポンス	テーマ３のレポートを読み合い修正を加える。
第11回	テーマ４：外来語　読み物１	書籍を引用する。
第12回	テーマ４：外来語　読み物２	論証する。
第13回	テーマ４：レポートの作成	テーマ４のレポートを作成する。
第14回	テーマ４：ピア・レスポンス	テーマ４のレポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前課題と事後課題、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ｂ

李　址遠

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心的に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業運営に関する説明
2	テーマ①多文化共生	データを説明する
3	テーマ①多文化共生	比較をする
4	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ
5	テーマ①のレポートの作成	調査型レポートを作成する
6	テーマ①のピア・レスポンス	レポートを読み合う
7	テーマ②英語教育	２つの立場を引用する
8	テーマ②英語教育	引用し反論する
9	テーマ②のレポートの作成	論証型レポートを作成する
10	テーマ②のピア・レスポンス	レポートを読み合う
11	テーマ③概念の歴史化	先行研究をまとめる
12	テーマ③概念の歴史化	引用を入れて論証する
13	テーマ③のレポートの作成	論証型レポートを作成する
14	テーマ③のピア・レスポンス	レポートを読み合う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各２時間を標準とする。
・準備：次の授業で読み物を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で学んだ表現を用いて課題作文とレポートを作成する。講師や学生からのフィードバックを基に自身の作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ｂ

李　址遠

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心的に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業運営に関する説明
2	テーマ①多文化共生	データを説明する
3	テーマ①多文化共生	比較をする
4	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ
5	テーマ①のレポートの作成	調査型レポートを作成する
6	テーマ①のピア・レスポンス	レポートを読み合う
7	テーマ②英語教育	２つの立場を引用する
8	テーマ②英語教育	引用し反論する
9	テーマ②のレポートの作成	論証型レポートを作成する
10	テーマ②のピア・レスポンス	レポートを読み合う
11	テーマ③概念の歴史化	先行研究をまとめる
12	テーマ③概念の歴史化	引用を入れて論証する
13	テーマ③のレポートの作成	論証型レポートを作成する
14	テーマ③のピア・レスポンス	レポートを読み合う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とする。
・準備：次の授業で読み物を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で学んだ表現を用いて課題作文とレポートを作成する。講師や学生からのフィードバックを基に自身の作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．事前課題をする。
2．授業の始めに、1 に対してのフィードバックを行う。
3．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
4．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．事前課題をする。
２．授業の始めに、１に対してのフィードバックを行う。
３．課題に対しての確認と質疑応答を行う。
４．グループ討論を行う。
レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の初めに言う

【参考書】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JC

日本語１Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目では３つのテーマを扱い、それぞれのテーマでレポートを作成する。各回、受講生は事前学習として読み物を読み、読解問題と漢字の問題に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として、各自、文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	テーマ１：多文化共生　読み物１	データを説明する。
第 3 回	テーマ１：多文化共生　読み物２	比較をする。
第 4 回	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ。
第 5 回	テーマ１：レポートの作成	テーマ１の調査型レポートを作成する。
第 6 回	テーマ１：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	テーマ２：語学教育　読み物１	２つの立場を引用する。
第 8 回	テーマ２：語学教育　読み物２	引用し意見を述べる。
第 9 回	テーマ２：レポートの作成	テーマ２の論証型レポートを作成する。
第 10 回	テーマ２：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	テーマ３：概念の歴史化　読み物１	先行研究をまとめる。
第 12 回	テーマ３：概念の歴史化　読み物２	引用を入れて論証する。
第 13 回	テーマ３：レポートの作成	テーマ３のレポートを作成する。
第 14 回	テーマ３：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語１Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目では３つのテーマを扱い、それぞれのテーマでレポートを作成する。各回、受講生は事前学習として読み物を読み、読解問題と漢字の問題に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として、各自、文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	テーマ１：多文化共生　読み物１	データを説明する。
第 3 回	テーマ１：多文化共生　読み物２	比較をする。
第 4 回	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ。
第 5 回	テーマ１：レポートの作成	テーマ１の調査型レポートを作成する。
第 6 回	テーマ１：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	テーマ２：語学教育　読み物１	２つの立場を引用する。
第 8 回	テーマ２：語学教育　読み物２	引用し意見を述べる。
第 9 回	テーマ２：レポートの作成	テーマ２の論証型レポートを作成する。
第 10 回	テーマ２：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	テーマ３：概念の歴史化　読み物１	先行研究をまとめる。
第 12 回	テーマ３：概念の歴史化　読み物２	引用を入れて論証する。
第 13 回	テーマ３：レポートの作成	テーマ３のレポートを作成する。
第 14 回	テーマ３：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】
教材をオンラインで配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100JB

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
１．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
２．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
３．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．前回の授業内容についての小テストを行う。
２．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
３．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
４．テキストの本文を確認する。
５．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：総合教育科目　言語コミュニケーション科目
配当年次／単位数：1 年次／ 1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ａ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通して学ぶ。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表の方法	発表の構成、表現
第 3 回	発表①故郷の紹介	受講生による発表
第 4 回	発表②故郷の紹介	受講生による発表
第 5 回	発表③故郷の紹介	受講生による発表
第 6 回	話し合い・質疑応答の表現	討論と質疑応答に必要な表現
第 7 回	発表④消費税 10 %の影響は？	受講生による発表
第 8 回	討論①消費税の引き上げ	討論と小レポートの作成
第 9 回	発表⑤これからのエネルギー	受講生による発表
第 10 回	討論②原子力発電	討論と小レポートの作成
第 11 回	発表⑥社会保障の未来	受講生による発表
第 12 回	討論③在職老齢者年金	討論と小レポートの作成
第 13 回	発表⑦働くということ	受講生による発表
第 14 回	討論④働き方	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2021 年度版　ニュース検定　公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社　1,200 円（税抜き）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2021 年度版です。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，発表 30 %，課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通して学ぶ。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表の方法	発表の構成、表現
第 3 回	発表①故郷の紹介	受講生による発表
第 4 回	発表②故郷の紹介	受講生による発表
第 5 回	発表③故郷の紹介	受講生による発表
第 6 回	話し合い・質疑応答の表現	討論と質疑応答に必要な表現
第 7 回	発表④消費税 10 %の影響は？	受講生による発表
第 8 回	討論①消費税の引き上げ	討論と小レポートの作成
第 9 回	発表⑤これからのエネルギー	受講生による発表
第 10 回	討論②原子力発電	討論と小レポートの作成
第 11 回	発表⑥社会保障の未来	受講生による発表
第 12 回	討論③在職老齢者年金	討論と小レポートの作成
第 13 回	発表⑦働くということ	受講生による発表
第 14 回	討論④働き方	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2021 年度版　ニュース検定　公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社　1,200 円（税抜き）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するのは、2021 年度版です。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，発表 30 %，課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**１年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
１．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
２．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
３．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．前回の授業内容についての小テストを行う。
２．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
３．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
４．テキストの本文を確認する。
５．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：総合教育科目　言語コミュニケーション科目
配当年次／単位数：１年次／１単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
１．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
２．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
３．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．前回の授業内容についての小テストを行う。
２．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
３．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
４．テキストの本文を確認する。
５．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ｂ

乾　浩

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3．発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1．前回の授業内容についての小テストを行う。
2．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3．２に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4．テキストの本文を確認する。
5．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JB

日本語２Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学んでいく。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	ビブリオバトル 1	受講生による書籍の紹介
第 3 回	ビブリオバトル 2	受講生による書籍の紹介
第 4 回	ビブリオバトル 3	受講生による書籍の紹介
第 5 回	討論・質疑応答の表現	討論と質疑応答の表現
第 6 回	発表①民主主義を考える	受講生による発表
第 7 回	討論①棄権と白票	討論と小レポートの作成
第 8 回	発表②いのちの現場から	受講生による発表
第 9 回	討論②高齢者の運転免許	討論と小レポートの作成
第 10 回	発表③人権保障と裁判所	受講生による発表
第 11 回	討論③少年法	討論と小レポートの作成
第 12 回	発表④自然災害と原発事故	受講生による発表
第 13 回	討論④震災遺構	討論と小レポートの作成
第 14 回	討論⑤利便性と環境	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2021 年度版　ニュース検定　公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社　1,200 円（税抜き）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100JC

日本語２Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学んでいく。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	ビブリオバトル１	受講生による書籍の紹介
第 3 回	ビブリオバトル２	受講生による書籍の紹介
第 4 回	ビブリオバトル３	受講生による書籍の紹介
第 5 回	討論・質疑応答の表現	討論と質疑応答の表現
第 6 回	発表①民主主義を考える	受講生による発表
第 7 回	討論①棄権と白票	討論と小レポートの作成
第 8 回	発表②いのちの現場から	受講生による発表
第 9 回	討論②高齢者の運転免許	討論と小レポートの作成
第 10 回	発表③人権保障と裁判所	受講生による発表
第 11 回	討論③少年法	討論と小レポートの作成
第 12 回	発表④自然災害と原発事故	受講生による発表
第 13 回	討論④震災遺構	討論と小レポートの作成
第 14 回	討論⑤利便性と環境	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2021 年度版　ニュース検定　公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社　1,200 円（税抜き）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200JC

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」、	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法を学ぶ。資料を読み、情報を整理し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用してオンラインで行う。受講生は、事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では教員の講義を聞いたり受講生同士で話し合ったりし、事後課題として文書作成に取り組む。課題については、教員が授業で解説を行うとともに個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方を知る。
第 2 回	文章の構成	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第 3 回	ナラティブ	自分について語る文章を書く。
第 4 回	描写	図表の説明文を書く。
第 5 回	説明１	手順を説明する。
第 6 回	説明２	事物の分類をする。
第 7 回	説明３	事物を比較・対照する。
第 8 回	説明４	原因と結果を説明する。
第 9 回	レポートの作成１	情報を収集する。
第 10 回	論証	論証する。
第 11 回	レポートの作成２	アウトラインを作成する。
第 12 回	レポートの作成３	アウトラインを検討する。
第 13 回	レポートの作成４	レポートを執筆する。
第 14 回	ピア・レスポンス	完成したレポートを読み合い修正を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】
田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート』くろしお出版（2,000 円税抜き）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ａ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法を学ぶ。資料を読み、情報を整理し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用してオンラインで行う。受講生は、事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では教員の講義を聞いたり受講生同士で話し合ったりし、事後課題として文書作成に取り組む。課題については、教員が授業で解説を行うとともに個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方を知る。
第 2 回	文章の構成	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第 3 回	ナラティブ	自分について語る文章を書く。
第 4 回	描写	図表の説明文を書く。
第 5 回	説明１	手順を説明する。
第 6 回	説明２	事物の分類をする。
第 7 回	説明３	事物を比較・対照する。
第 8 回	説明４	原因と結果を説明する。
第 9 回	レポートの作成１	情報を収集する。
第 10 回	論証	論証する。
第 11 回	レポートの作成２	アウトラインを作成する。
第 12 回	レポートの作成３	アウトラインを検討する。
第 13 回	レポートの作成４	レポートを執筆する。
第 14 回	ピア・レスポンス	完成したレポートを読み合い修正を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】
田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート』くろしお出版（2,000 円税抜き）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 ＋税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ａ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	Ⅰ　Good　Writing を目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第 5 回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明　（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第 7 回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	Ⅲ　リサーチペーパー②　発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第 10 回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中真理／阿部新（2014）『Good　Writing へのパスポート　読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 +税）

【参考書】
・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ　大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてもいい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。授業は、受講生の発表を中心に進める。各自、テーマを設定し情報を収集し発表する。課題については教員が授業で解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える。
第 3 回	出来事のその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える。
第 4 回	グループ発表１	社会の現象とその原因を発表する準備をする。
第 5 回	グループ発表２	グループで社会の現象とその原因を発表する。
第 6 回	グループ発表３	主張と根拠を発表する準備をする。
第 7 回	グループ発表４	グループで主張と根拠を発表する。
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする。
第 9 回	受講生による発表１	受講生が発表する。
第 10 回	受講生による発表２	受講生が発表する。
第 11 回	受講生による発表３	受講生が発表する。
第 12 回	受講生による発表４	受講生が発表する。
第 13 回	受講生による発表５	受講生が発表する。
第 14 回	まとめとレポートの作成	この授業で学んだことをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料をオンラインで配布する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』(2020) くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，発表 40 %，課題等提出物（期末レポートを含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ｂ

村上　佳恵

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。授業は、受講生の発表を中心に進める。各自、テーマを設定し情報を収集し発表する。課題については教員が授業で解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える。
第 3 回	出来事のその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える。
第 4 回	グループ発表１	社会の現象とその原因を発表する準備をする。
第 5 回	グループ発表２	グループで社会の現象とその原因を発表する。
第 6 回	グループ発表３	主張と根拠を発表する準備をする。
第 7 回	グループ発表４	グループで主張と根拠を発表する。
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする。
第 9 回	受講生による発表１	受講生が発表する。
第 10 回	受講生による発表２	受講生が発表する。
第 11 回	受講生による発表３	受講生が発表する。
第 12 回	受講生による発表４	受講生が発表する。
第 13 回	受講生による発表５	受講生が発表する。
第 14 回	まとめとレポートの作成	この授業で学んだことをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料をオンラインで配布する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』(2020) くろしお出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，発表 40 %，課題等提出物（期末レポートを含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていきたいと思います。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JB

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200JC

日本語３Ｂ

宮本　典以子

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える　課題 1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第 3 回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第 4 回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第 5 回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第 6 回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第 7 回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第 8 回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第 9 回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 10 回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 11 回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第 14 回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】
仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANe100JB

Intensive English 1A

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	Learn about the course
第 2 回	Introduction 3	Starting and ending conversation
第 3 回	Starting out 2	Listening for specific information
第 4 回	Starting out 4	Vocabulary development
第 5 回	Academic life 2	Asking questions
第 6 回	Academic life 4	Building vocabulary
第 7 回	Caring for the environment 2	Talking about the environment
第 8 回	Caring for the environment 4	Pronouncing numbers
第 9 回	Modern architecture 2	Making a plan
第 10 回	Modern architecture 4	Linking words by Sound
第 11 回	How we learn 1	Giving opinion with reasons
第 12 回	How we learn 3	Strengthening and weakening opinions
第 13 回	Living with technology 1	Technology
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各1時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 1 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み、期限内に提出のこと。また自主学習にも積極的に取り組んで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1B」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JB

Intensive English 1A

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	Learn about the course
第 2 回	Introduction 3	Starting and ending conversation
第 3 回	Starting out 2	Listening for specific information
第 4 回	Starting out 4	Vocabulary development
第 5 回	Academic life 2	Asking questions
第 6 回	Academic life 4	Building vocabulary
第 7 回	Caring for the environment 2	Talking about the environment
第 8 回	Caring for the environment 4	Pronouncing numbers
第 9 回	Modern architecture 2	Making a plan
第 10 回	Modern architecture 4	Linking words by Sound
第 11 回	How we learn 1	Giving opinion with reasons
第 12 回	How we learn 3	Strengthening and weakening opinions
第 13 回	Living with technology 1	Technology
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各1時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 1 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み、期限内に提出のこと。また自主学習にも積極的に取り組んで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1B」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JC

Intensive English 1B

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	Learn about the course
第 2 回	Introduction 3	Starting and ending conversation
第 3 回	Starting out 2	Listening for specific information
第 4 回	Starting out 4	Vocabulary development
第 5 回	Academic life 2	Asking questions
第 6 回	Academic life 4	Building vocabulary
第 7 回	Caring for the environment 2	Talking about the environment
第 8 回	Caring for the environment 4	Pronouncing numbers
第 9 回	Modern architecture 2	Making a plan
第 10 回	Modern architecture 4	Linking words by Sound
第 11 回	How we learn 1	Giving opinion with reasons
第 12 回	How we learn 3	Strengthening and weakening opinions
第 13 回	Living with technology 1	Technology
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 1 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み、期限内に提出のこと。また自主学習にも積極的に取り組んで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JC

Intensive English 1B

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	Learn about the course
第 2 回	Introduction 3	Starting and ending conversation
第 3 回	Starting out 2	Listening for specific information
第 4 回	Starting out 4	Vocabulary development
第 5 回	Academic life 2	Asking questions
第 6 回	Academic life 4	Building vocabulary
第 7 回	Caring for the environment 2	Talking about the environment
第 8 回	Caring for the environment 4	Pronouncing numbers
第 9 回	Modern architecture 2	Making a plan
第 10 回	Modern architecture 4	Linking words by Sound
第 11 回	How we learn 1	Giving opinion with reasons
第 12 回	How we learn 3	Strengthening and weakening opinions
第 13 回	Living with technology 1	Technology
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 1 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み、期限内に提出のこと。また自主学習にも積極的に取り組んで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JC

Intensive English 1C

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 2	Classroom rules and language
第 2 回	Starting out 1	Checking information / Emergency language
第 3 回	Starting out 3	Listening for gist
第 4 回	Academic life 1	Talking about University
第 5 回	Academic life 3	Describing frequency
第 6 回	Caring for the environment 1	Listening for keywords and numbers
第 7 回	Caring for the environment 3	Approximating numbers
第 8 回	Modern architecture 1	Giving reasons 1
第 9 回	Modern architecture 3	Likes and preferences
第 10 回	Presentation skills	Talking in front of people
第 11 回	How we learn 2	Agreeing and disagreeing
第 12 回	How we learn 4	Different learning styles
第 13 回	Living with technology 2	Comparing technologies
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 2 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習も積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A/1B」終了者のみ選択可。「同科目 1D」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JC

Intensive English 1C

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 2	Classroom rules and language
第 2 回	Starting out 1	Checking information / Emergency language
第 3 回	Starting out 3	Listening for gist
第 4 回	Academic life 1	Talking about University
第 5 回	Academic life 3	Describing frequency
第 6 回	Caring for the environment 1	Listening for keywords and numbers
第 7 回	Caring for the environment 3	Approximating numbers
第 8 回	Modern architecture 1	Giving reasons 1
第 9 回	Modern architecture 3	Likes and preferences
第 10 回	Presentation skills	Talking in front of people
第 11 回	How we learn 2	Agreeing and disagreeing
第 12 回	How we learn 4	Different learning styles
第 13 回	Living with technology 2	Comparing technologies
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 2 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習も積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A/1B」終了者のみ選択可。「同科目 1D」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JB

Intensive English 1D

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 2	Classroom rules and language
第 2 回	Starting out 1	Checking information / Emergency language
第 3 回	Starting out 3	Listening for gist
第 4 回	Academic life 1	Talking about University
第 5 回	Academic life 3	Describing frequency
第 6 回	Caring for the environment 1	Listening for keywords and numbers
第 7 回	Caring for the environment 3	Approximating numbers
第 8 回	Modern architecture 1	Giving reasons 1
第 9 回	Modern architecture 3	Likes and preferences
第 10 回	Presentation skills	Talking in front of people
第 11 回	How we learn 2	Agreeing and disagreeing
第 12 回	How we learn 4	Different learning styles
第 13 回	Living with technology 2	Comparing technologies
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 2 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習も積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A/1B」終了者のみ選択可。「同科目 1C」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe100JB

Intensive English 1D

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業を実施。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
春学期は、「聞く」「話す」を重視した授業を行い、“英語を実際に話す” ことに対する抵抗感を克服する。ペアワーク・グループワークを通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力・表現力を養う。自信を持って、英語のプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ペアワーク・グループワークを取り入れた演習授業であり、小テスト、プレゼンテーションも行う。受動的ではなく、能動的且つ積極的な取り組みが必要。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。
社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることとする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 2	Classroom rules and language
第 2 回	Starting out 1	Checking information / Emergency language
第 3 回	Starting out 3	Listening for gist
第 4 回	Academic life 1	Talking about University
第 5 回	Academic life 3	Describing frequency
第 6 回	Caring for the environment 1	Listening for keywords and numbers
第 7 回	Caring for the environment 3	Approximating numbers
第 8 回	Modern architecture 1	Giving reasons 1
第 9 回	Modern architecture 3	Likes and preferences
第 10 回	Presentation skills	Talking in front of people
第 11 回	How we learn 2	Agreeing and disagreeing
第 12 回	How we learn 4	Different learning styles
第 13 回	Living with technology 2	Comparing technologies
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】
“Headway Academic Skills 2 Listening, Speaking, and Study Skills", Student Book, Oxford University Press

【参考書】
必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習も積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1A/1B」終了者のみ選択可。「同科目 1C」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their: communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills.

LANe200JB

インテンシヴ・イングリッシュ５

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Learn about the course
第 2 回	Studying overseas 2	Describing experiences
第 3 回	Studying overseas 4	Summarizing trends
第 4 回	Studying overseas 6	Class survey
第 5 回	Earth today 2	Recycling
第 6 回	Earth today 4	Climate change 2
第 7 回	Presentation skills 1	Introduction to the presentation
第 8 回	Crime and punishment 2	Neighbourhood watch
第 9 回	Crime and punishment 4	Playing truant
第 10 回	Crime and punishment 6	Who's to blame? 2
第 11 回	All in the mind 1	Intelligent animals
第 12 回	All in the mind 3	My Skills and aptitudes
第 13 回	All in the mind 5	Nature vs. Nurture
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
"IELTS Foundation Second Edition",Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-4」終了者のみ選択可。「同科目 6」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JC

インテンシヴ・イングリッシュ５

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通し、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Learn about the course
第 2 回	Studying overseas 2	Describing experiences
第 3 回	Studying overseas 4	Summarizing trends
第 4 回	Studying overseas 6	Class survey
第 5 回	Earth today 2	Recycling
第 6 回	Earth today 4	Climate change 2
第 7 回	Presentation skills 1	Introduction to the presentation
第 8 回	Crime and punishment 2	Neighbourhood watch
第 9 回	Crime and punishment 4	Playing truant
第 10 回	Crime and punishment 6	Who's to blame? 2
第 11 回	All in the mind 1	Intelligent animals
第 12 回	All in the mind 3	My Skills and aptitudes
第 13 回	All in the mind 5	Nature vs. Nurture
第 14 回	Presentation 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
"IELTS Foundation Second Edition",Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-4」終了者のみ選択可。「同科目 6」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JC

インテンシヴ・イングリッシュ６

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Studying overseas 1	Culture shock
第 2 回	Studying overseas 3	Listening & speaking 1
第 3 回	Studying overseas 5	Working abroad
第 4 回	Earth today 1	Traffic and congestion
第 5 回	Earth today 3	Climate change 1
第 6 回	Earth today 5	Can we make a difference?
第 7 回	Crime and punishment 1	Crazy driving Laws
第 8 回	Crime and punishment 3	The modern prison system
第 9 回	Crime and punishment 5	Who's to blame? 1
第 10 回	Presentation skills 2	Learn how to give an effective presentation
第 11 回	All in the mind 2	How do you learn?
第 12 回	All in the mind 4	Organization and coherence
第 13 回	Presentation skills 3	Practice giving presentation
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
"IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-4」終了者のみ選択可。「同科 5」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JB

インテンシヴ・イングリッシュ６

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Studying overseas 1	Culture shock
第 2 回	Studying overseas 3	Listening & speaking 1
第 3 回	Studying overseas 5	Working abroad
第 4 回	Earth today 1	Traffic and congestion
第 5 回	Earth today 3	Climate change 1
第 6 回	Earth today 5	Can we make a difference?
第 7 回	Crime and punishment 1	Crazy driving Laws
第 8 回	Crime and punishment 3	The modern prison system
第 9 回	Crime and punishment 5	Who's to blame? 1
第 10 回	Presentation skills 2	Learn how to give an effective presentation
第 11 回	All in the mind 2	How do you learn?
第 12 回	All in the mind 4	Organization and coherence
第 13 回	Presentation skills 3	Practice giving presentation
第 14 回	Presentation 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
"IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-4」終了者のみ選択可。「同科 5」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JB

インテンシヴ・イングリッシュ7

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A career or a job? 1	Employability
第 2 回	A career or a job? 3	When we graduate
第 3 回	A career or a job? 5	Unemployment
第 4 回	Globalization 2	Listening practice
第 5 回	Globalization 4	Talking about coffee
第 6 回	Globalization 6	The global village
第 7 回	Health and medicine 1	Alternative medicine
第 8 回	Health and medicine 3	Cloning
第 9 回	Health and medicine 5	Where to allocate medical funds
第 10 回	Presentation skills	Presentation practice
第 11 回	Success and achievement 2	Education is key
第 12 回	Success and achievement 4	Practice for the speaking test(IELTS)
第 13 回	Success and achievement 6	Course review and tips
第 14 回	Presentation day 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-6」終了者のみ選択可。「同科目 8」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JC

インテンシヴ・イングリッシュ7

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A career or a job? 1	Employability
第 2 回	A career or a job? 3	When we graduate
第 3 回	A career or a job? 5	Unemployment
第 4 回	Globalization 2	Listening practice
第 5 回	Globalization 4	Talking about coffee
第 6 回	Globalization 6	The global village
第 7 回	Health and medicine 1	Alternative medicine
第 8 回	Health and medicine 3	Cloning
第 9 回	Health and medicine 5	Where to allocate medical funds
第 10 回	Presentation skills	Presentation practice
第 11 回	Success and achievement 2	Education is key
第 12 回	Success and achievement 4	Practice for the speaking test(IELTS)
第 13 回	Success and achievement 6	Course review and tips
第 14 回	Presentation day 1	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
“IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-6」終了者のみ選択可。「同科目 8」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:
Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JB

インテンシヴ・イングリッシュ８

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A career or a job? 2	Skills and qualities
第 2 回	A career or a job? 4	The world of work
第 3 回	Globalization 1	The effects of globalization
第 4 回	Globalization 3	Colombian coffee
第 5 回	Globalization 5	Producing sugar
第 6 回	Presentation skills 1	Introduction to the presentation
第 7 回	Health and medicine 2	The common cold
第 8 回	Health and medicine 4	Expressing impersonal views
第 9 回	Health and medicine 6	Avoiding repetition
第 10 回	Success and achievement 1	How important are exams?
第 11 回	Success and achievement 3	The Olympics
第 12 回	Success and achievement 5	Measuring success
第 13 回	Presentation skills 3	Presentation practice
第 14 回	Presentation day 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各 1 時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】
“IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-6」終了者のみ選択可。「同科目 7」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:

Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANe200JC

インテンシヴ・イングリッシュ８

（株）ウエストゲイト

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**２年次／１単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル人材としての活躍を目指し、ネイティブスピーカーによる英語のみの授業。アカデミックな分野の基礎的英語力と論理的・批判的思考力を身につけることを目標とする。また、将来留学を目指す学生にとって有益な IELTS などの試験対策スキルも身につける。

【到達目標】
ペア・グループワークなどの協同学習を通じ、多様な考えに触れ、収集した情報を分析・評価する力、問題解決に必要な論理的思考力、また、自身の意見の効果的表現力を養う。自信を持ってプレゼンテーションを実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア・グループワークでは、自身の意見を表現することや、相互理解を深めるための積極的なコミュニケーションが求められる。小テスト、プレゼンテーションも行う。課題の答え合わせやフィードバックは基本的に授業の中で行う。社会状況に合わせて、対面での授業を中止する場合、オンラインでの双方向型授業と課題の取り組みで進めることする。その場合の具体的な方法などは、適宜、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A career or a job? 2	Skills and qualities
第 2 回	A career or a job? 4	The world of work
第 3 回	Globalization 1	The effects of globalization
第 4 回	Globalization 3	Colombian coffee
第 5 回	Globalization 5	Producing sugar
第 6 回	Presentation skills 1	Introduction to the presentation
第 7 回	Health and medicine 2	The common cold
第 8 回	Health and medicine 4	Expressing impersonal views
第 9 回	Health and medicine 6	Avoiding repetition
第 10 回	Success and achievement 1	How important are exams?
第 11 回	Success and achievement 3	The Olympics
第 12 回	Success and achievement 5	Measuring success
第 13 回	Presentation skills 3	Presentation practice
第 14 回	Presentation day 2	Giving presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回　授業の進み具合にあわせて講師より課題あり。
本授業の準備・復習は、各１時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】
“IELTS Foundation Second Edition", Student Book, Macmillan Language House（通年使用）

【参考書】
なし。テキストは、内容が豊富なため、自主学習にも大いに利用して欲しい。他、必要に応じ、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度/参加意欲など (40%)
課題 (20%)、英語運用能力 (30%)、Presentation(10%)

【学生の意見等からの気づき】
課題が多くあるため、毎回しっかりと取り組み提出のこと。また、自主学習にも積極的に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じて、パソコン/タブレットとインターネット接続（オンラインでの双方向型授業や課題実施に利用可能性有）

【その他の重要事項】
授業カレンダーを初回授業にて配布予定。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。「同科目 1-6」終了者のみ選択可。「同科目 7」を同時受講し、1 週間に合計 200 分受講すること。

【Outline and objectives】
This course aims to make students globally conscious by improving their:

Communication skills, academic English, productive skills, critical thinking and logical reasoning skills, and basic skills for IELTS.

LANx100JC

日本手話１Ａ（初級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話を中心に、指文字や数字を含む手話の基礎や、ろう社会の文化や歴史などを学びます。講師、及び、履修生同士の、手話コミュニケーションができるようにします。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介や質問の手話表現、及び、手話の読み取りができるようにします。 知識に関して、手話言語に関する知識を得て、ろう者の生活などを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
知識を学ぶ時、音声付きで進めますが、音声付きの時間を減らして行きます。
次の授業で、講師の質問に答えてもらうなど、表現のチェックを行います。
オンラインとなった場合、音声付きの手話動画を用意します。
次の授業で、音声なしの手話動画を読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・指さし ・Yes/No ・肩たたき ・視線	ろう者とのコミュニケーションを理解する。
2	・手話の楽しさ	音声言語と異なることを学び、手話の世界を知る。
3	・身振り	表現のイメージを作って、相手へ伝えてみる。
4	・自己紹介（１）	「初めまして」「私は〜と申します」指文字と数字を覚える。
5	・自己紹介（１）復習	表現の習得をチェックする。 ろう者の会話に関する知識を学ぶ。
6	・自己紹介（2） ・５Ｗ１Ｈの表現	・５Ｗ１Ｈの表現 住まい、家族、趣味などを説明する。 質疑応答の会話を習得する 。
7	・自己紹介（２）復習	表現の習得をチェックする。 ろう者の生活に関する知識を学ぶ。
8	・感情の表現	感情に関する手話表現を学びながら、顔や体の感情を表現できるようにする。
9	・大きさ・長さの表現	大きさ、長さ、距離の表現を習得する。
10	・時間の表現	未来・現在・過去の表現を習得する。
11	・時間の表現　復習	未来・現在・過去の表現を復習する。

12	・ろう者の歴史	ろう者の歴史を学びながら、福祉・法律などの変化を知る。
13	・手話で話す・たずねる。	相手へ手話を使って話してみよう。質問してみよう。
14	・全体の復習	表現のチェックを行います 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ず行って下さい。
講義の初めに表現のチェックを行います。 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（初級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
・自己紹介の表現ができている
・質問を読み取って、回答できている
・習った手話表現の全てを使って、話すことができている
＜採点方法＞
・期末試験（100 %）
＜必須＞
・指文字と数字の表現を習得できていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures and histories of Deaf Communities.
You will be able to communicate in JSL.

LANx100JB

日本手話１Ａ（初級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話を中心に、指文字や数字を含む手話の基礎や、ろう社会の文化や歴史などを学びます。講師、及び、履修生同士の、手話コミュニケーションができるようにします。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介や質問の手話表現、及び、手話の読み取りができるようにします。 知識に関して、手話言語に関する知識を得て、ろう者の生活などを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
知識を学ぶ時、音声付きで進めますが、音声付きの時間を減らして行きます。
次の授業で、講師の質問に答えてもらうなど、表現のチェックを行います。
オンラインとなった場合、音声付きの手話動画を用意します。
次の授業で、音声なしの手話動画を読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・指さし ・Yes/No ・肩たたき ・視線	ろう者とのコミュニケーションを理解する。
2	・手話の楽しさ	音声言語と異なることを学び、手話の世界を知る。
3	・身振り	表現のイメージを作って、相手へ伝えてみる。
4	・自己紹介（１）	「初めまして」「私は〜と申します」 指文字と数字を覚える。
5	・自己紹介（１）復習	表現の習得をチェックする。 ろう者の会話に関する知識を学ぶ。
6	・自己紹介（2） ・５Ｗ１Ｈの表現	・５Ｗ１Ｈの表現 住まい、家族、趣味などを説明する。 質疑応答の会話を習得する 。
7	・自己紹介（２）復習	表現の習得をチェックする。 ろう者の生活に関する知識を学ぶ。
8	・感情の表現	感情に関する手話表現を学びながら、顔や体の感情を表現できるようにする。
9	・大きさ・長さの表現	大きさ、長さ、距離の表現を習得する。
10	・時間の表現	未来・現在・過去の表現を習得する。
11	・時間の表現　復習	未来・現在・過去の表現を復習する。

12	・ろう者の歴史	ろう者の歴史を学びながら、福祉・法律などの変化を知る。
13	・手話で話す・たずねる。	相手へ手話を使って話してみよう。質問してみよう。
14	・全体の復習	表現のチェックを行います 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ず行って下さい。
講義の初めに表現のチェックを行います。 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（初級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
・自己紹介の表現ができている
・質問を読み取って、回答できている
・習った手話表現の全てを使って、話すことができている
＜採点方法＞
・期末試験（100 %）
＜必須＞
・指文字と数字の表現を習得できていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures and histories of Deaf Communities.
You will be able to communicate in JSL.

LANx100JB

日本手話１Ｂ（初級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるようにします。

【到達目標】
第一者（私）、第二者（あなた）、第三者（彼・彼女）の位置と動詞の方向などを学んで、手話での説明ができるようにします。
接続詞を使った表現もできるようにします。
ろう者団体行事へ参加して、ろう者や手話通訳者と会話できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、基本的に音声による説明を行いません。
必要に応じて、音声による説明を行います。
次の授業で、講師の質問に答えてもらうなど、表現のチェックを行います。
オンラインとなった場合、音声なしの手話動画を読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・日本手話１Ａの復習	学外での学習予定の情報を提供します。
2	・接続詞 〜、しかし、〜 〜ので、〜 〜ために、〜	自己紹介の例文を使って練習します。
3	・位置（１）	テーブルに並べた皿、コップなどの様子を、ＣＬを使って表現します。
4	・位置（２）	道案内や建物内の案内をする時の表現を習得します。
5	・方向を伴う動詞	「言う」「見る」「渡す」「送る」などの、方向軌跡を伴う動詞を覚えます。
6	・いろいろな動詞	強弱、繰り返し、顎や肩の使い方によって、意味が変わることを学びます。
7	・いろいろな動詞を使って復習	方向や強弱などの、いろいろな動詞を表現できるようにします。
8	・手話通訳について	手話通訳派遣制度や歴史を学びます。
9	・道順の説明（１）	地図などを使って、手話表現を学びます。
10	・道順の説明（２）	交通機関利用、大学内の道順の、手話表現を学びます。
11	・ろう者の手話（１）	動画の映像を使って、他のろう者の手話を読み取ります。
12	・ろう者の手話（２）	動画の映像を使って、他のろう者の手話を読み取ります。

13	・手話での会話	相手の手話を読み取って、自分から手話で話します。
14	・手話での会話 ・全体の復習	今まで習ったことを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ろう者団体行事を見学して、ろう者や関係者の説明を聞いて、レポートをまとめて提出します。
見学：１時間

【参考書】
「手にことばを（初級用）」

【成績評価の方法と基準】
＜授業外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
　レポート提出あり。（１０点）
　　※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、話します。（５０点）
＜採点方法＞
課外学習（10 %）
期末試験（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures of Deaf Communities, and you will be possible to communicate in JSL.

LANx100JC

日本手話１Ｂ（初級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるようにします。

【到達目標】
第一者（私）、第二者（あなた）、第三者（彼・彼女）の位置と動詞の方向などを学んで、手話での説明ができるようにします。
接続詞を使った表現もできるようにします。
ろう者団体行事へ参加して、ろう者や手話通訳者と会話できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、基本的に音声による説明を行いません。
必要に応じて、音声による説明を行います。
次の授業で、講師の質問に答えてもらうなど、表現のチェックを行います。
オンラインとなった場合、音声なしの手話動画を読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・日本手話１Ａの復習	学外での学習予定の情報を提供します。
2	・接続詞 〜、しかし、〜 〜ので、〜 〜ために、〜	自己紹介の例文を使って練習します。
3	・位置（１）	テーブルに並べた皿、コップなどの様子を、ＣＬを使って表現します。
4	・位置（２）	道案内や建物内の案内をする時の表現を習得します。
5	・方向を伴う動詞	「言う」「見る」「渡す」「送る」などの、方向軌跡を伴う動詞を覚えます。
6	・いろいろな動詞	強弱、繰り返し、顎や肩の使い方によって、意味が変わることを学びます。
7	・いろいろな動詞を使って復習	方向や強弱などの、いろいろな動詞を表現できるようにします。
8	・手話通訳について	手話通訳派遣制度や歴史を学びます。
9	・道順の説明（１）	地図などを使って、手話表現を学びます。
10	・道順の説明（２）	交通機関利用、大学内の道順の、手話表現を学びます。
11	・ろう者の手話（１）	動画の映像を使って、他のろう者の手話を読み取ります。
12	・ろう者の手話（２）	動画の映像を使って、他のろう者の手話を読み取ります。

13	・手話での会話	相手の手話を読み取って、自分から手話で話します。
14	・手話での会話 ・全体の復習	今まで習ったことを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ろう者団体行事を見学して、ろう者や関係者の説明を聞いて、レポートをまとめて提出します。
見学：1時間

【参考書】
「手にことばを（初級用）」

【成績評価の方法と基準】
＜授業外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
　レポート提出あり。（１０点）
　　※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、話します。（５０点）
＜採点方法＞
課外学習（10 %）
期末試験（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures of Deaf Communities, and you will be possible to communicate in JSL.

LANx200JB

日本手話２Ａ（中級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化、法律制度などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるように目指します。
尚、全国手話検定試験の受験を目指します。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介ができて、手話での質疑応答の会話ができるようにします。
手話でのスピーチができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句を習得できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
次の授業で、講師が音声なしで質問して答えてもらうなど、復習を行います。
オンライン授業となる場合、手話の動画に、新しい手話の部分だけ字幕をつけます。
語りや会話の手話動画を用意して読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・検定などを説明 ・手話表現のチェック	自己紹介の手話表現や読み取りができていることをチェックします。
2	・グループ話し合い	自己紹介や質疑応答を行った上、与えられたテーマについて手話で議論します。 5W1H の表現もチェックします。
3	・「社会生活」	「社会生活」に記されている手話会話を習得します。
4	・「社会生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
5	・「家庭生活」	「家庭生活」に記されている手話会話を習得します。
6	・「家庭生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
7	・「職業生活」	「職業生活」に記されている手話会話を習得します。
8	・「職業生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
9	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「社会生活」「家庭性格」「職業生活」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
10	・意思疎通支援制度	主に手話通訳者育成、手話通訳派遣の制度について話します。手話スキルを必要とする仕事などを紹介します。
11	・「教育」	「教育」で使われる会話を習得します。

12	・「教育」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
13	・慣用句 /丈夫/、/終わる/などの使い方を学びます。 ・手話スピーチ	・慣用句を習得します。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチできるように練習します。
14	・全体の復習 ・手話スピーチ	・今まで習った手話を表現できているかをチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチができるように練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、手話の会話をして、目で手話を見ることを慣れて下さい。
声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
※筆記と会話を予定しています。
・接続詞を使って、長文の表現ができている。
・質問を読み取って、回答できている。
・習った手話表現をほぼ使い、議論や主張ができている。
＜採点方法＞
期末試験（100 %）
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
主に全国手話検定試験に関する情報を提供します。

【Outline and objectives】
You will learn the basics of JSL:Japanese Sign Language, the deaf culture, the legal systems, etc., and will be able to communicate in JSL.
We help you to take the Certification test on JSL.

LANx200JC

日本手話２Ａ（中級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化、法律制度などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるように目指します。尚、全国手話検定試験の受験を目指します。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介ができて、手話での質疑応答の会話ができるようにします。
手話でのスピーチができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句を習得できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
次の授業で、講師が音声なしで質問して答えてもらうなど、復習を行います。
オンライン授業となる場合、手話の動画に、新しい手話の部分だけ字幕をつけます。
語りや会話の手話動画を用意して読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・検定などを説明 ・手話表現のチェック	自己紹介の手話表現や読み取りができていることをチェックします。
2	・グループ話し合い	自己紹介や質疑応答を行った上、与えられたテーマについて手話で議論します。 5W1H の表現もチェックします。
3	・「社会生活」	「社会生活」に記されている手話会話を習得します。
4	・「社会生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
5	・「家庭生活」	「家庭生活」に記されている手話会話を習得します。
6	・「家庭生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
7	・「職業生活」	「職業生活」に記されている手話会話を習得します。
8	・「職業生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
9	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「社会生活」「家庭性格」「職業生活」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
10	・意思疎通支援制度	主に手話通訳者育成、手話通訳派遣の制度について話します。手話スキルを必要とする仕事などを紹介します。
11	・「教育」	「教育」で使われる会話を習得します。

12	・「教育」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
13	・慣用句 /丈夫/、/終わる/などの使い方を学びます。 ・手話スピーチ	・慣用句を習得します。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチできるように練習します。
14	・全体の復習 ・手話スピーチ	・今まで習った手話を表現できているかをチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチができるように練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、手話の会話をして、目で手話を見ることを慣れて下さい。
声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
※筆記と会話を予定しています。
・接続詞を使って、長文の表現ができている。
・質問を読み取って、回答できている。
・習った手話表現をほぼ使い、議論や主張ができている。
＜採点方法＞
期末試験（100 %）
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
主に全国手話検定試験に関する情報を提供します。

【Outline and objectives】
You will learn the basics of JSL:Japanese Sign Language, the deaf culture, the legal systems, etc., and will be able to communicate in JSL.
We help you to take the Certification test on JSL.

LANx200JC

日本手話２Ｂ（中級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心にして、手話の慣用句などを習得して、授業外学習で、手話の会話ができること目指します。
全国手話検定試験の受験をフォローします。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介、更に、質疑応答を、自分の意思通り、手話で表現できることを目標にします。更に、履修生自身から、ろう講師へ手話で会話や質問ができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句の習得を増やしていきます。
知識に関して、ろう者の生活や歴史などを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
次の授業で、講師が音声なしで質問して答えてもらうなど、復習を行います。
また、講師が数分間話して、読取りを行います。
オンライン授業となる場合、手話の動画に、新しい手話の部分だけ字幕をつけます。
語りや会話の手話動画を用意して読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・空間利用	授業外学習と手話検定についての説明を行います。 空間を利用した手話会話のチェックをします。
2	・「聴覚障害」 ・慣用句 /ある//どうやって/	「聴覚障害」に記された手話会話を習得します。
3	・「聴覚障害」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
4	・「福祉制度」 ・慣用句 /目が高い・安い/	「福祉制度」に記された手話会話を習得します。
5	・「福祉制度」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
6	・「手話通訳」 ・慣用句 /どうやって//ある/	「手話通訳に記された手話会話を習得します。
7	・「手話通訳」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
8	・授業外学習の事前学習	見学予定の施設やろう協会行事について学んで、各自の見学計画を立てます。
9	・授業外学習での感想、話し合い	話し合って情報共有を図り、履修生のロードマップの参考となるようにする。
10	・手話通訳者の話	手話通訳者自身の経験などを聞きます。
11	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「聴覚障害」「福祉制度」「手話通訳」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
12	・春学期、秋学期で習得した慣用句の復習	慣用句の表現をチェックします。
13	・全体の復習 ・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、チェックを行います。
14	・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、手話スピーチを練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
　履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
・予め、与えられたテーマについて調べてまとめてもらうことがあります。
・ろう者団体の行事へ参加します。後に、レポートを提出します。
　見学時間：1 時間
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜学外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
　レポート提出あり。（２０点）
　　※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、スピーチをします。（４０点）
＜採点方法＞
授業外学習（２０％）
期末試験（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures of Deaf Communities, and you will be possible to communicate in JSL.
I will support you will take the Certification test on JSL.

LANx200JB

日本手話２Ｂ（中級）

宮本　一郎

科目分類・科目群：**総合教育科目　言語コミュニケーション科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心にして、手話の慣用句などを習得して、授業外学習で、手話の会話ができること目指します。
全国手話検定試験の受験をフォローします。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介、更に、質疑応答を、自分の意思通り、手話で表現できることを目標にします。更に、履修生自身から、ろう講師へ手話で会話や質問ができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句の習得を増やしていきます。
知識に関して、ろう者の生活や歴史などを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
次の授業で、講師が音声なしで質問して答えてもらうなど、復習を行います。
また、講師が数分間話して、読取りを行います。
オンライン授業となる場合、手話の動画に、新しい手話の部分だけ字幕をつけます。
語りや会話の手話動画を用意して読み取って、回答を提出してもらいます。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・空間利用	授業外学習と手話検定についての説明を行います。 空間を利用した手話会話のチェックをします。
2	・「聴覚障害」 ・慣用句 /ある//どうやって/	「聴覚障害」に記された手話会話を習得します。
3	・「聴覚障害」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
4	・「福祉制度」 ・慣用句 /目が高い・安い/	「福祉制度」に記された手話会話を習得します。
5	・「福祉制度」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
6	・「手話通訳」 ・慣用句 /どうやって//ある/	「手話通訳に記された手話会話を習得します。
7	・「手話通訳」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
8	・授業外学習の事前学習	見学予定の施設やろう協会行事について学んで、各自の見学計画を立てます。
9	・授業外学習での感想、話し合い	話し合って情報共有を図り、履修生のロードマップの参考となるようにする。
10	・手話通訳者の話	手話通訳者自身の経験などを聞きます。
11	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「聴覚障害」「福祉制度」「手話通訳」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
12	・春学期、秋学期で習得した慣用句の復習	慣用句の表現をチェックします。
13	・全体の復習 ・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、チェックを行います。
14	・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、手話スピーチを練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
　履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
・予め、与えられたテーマについて調べてまとめてもらうことがあります。
・ろう者団体の行事へ参加します。後に、レポートを提出します。
　見学時間：１時間
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜学外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
レポート提出あり。（２０点）
※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、スピーチをします。（４０点）
＜採点方法＞
授業外学習（２０％）
期末試験（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), with finger-spelling and numbers, the cultures of Deaf Communities, and you will be possible to communicate in JSL.
I will support you will take the Certification test on JSL.

PSY100JC

心理学

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】
心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】
福田由紀（編著）　心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】
This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

SOW100JB

社会福祉概論

平野　寛弥

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉についての基本的事柄を学ぶ．それにより，社会福祉についての包括的理解を深める．

【到達目標】
社会福祉における基本的な概念や知識，理論を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書に重要事項は記載されているため，事前に眼を通しておいていただき，そのうえで受講してもらうことになる．
講義では，口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること．適宜メモを取ることは理解にとって極めて効果的である．この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である．
また，授業でのコメントや質問については，できる限り次回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である．
なお秋学期は，オンラインまたは対面での開講となる（詳細は未定）ため，それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：社会変動とそれに対応する福祉政策	現代社会がこれまで経てきた社会経済の変化と，それに合わせて発展してきた福祉政策の関係を理解する．
第 2 回	福祉政策とはなにか	福祉政策の定義やその目的・対象について理解を深める．
第 3 回	福祉政策の構成要素	福祉政策を形作る様々な校正要素（政府，市場，家族，中間団体など）について概観する．
第 4 回	福祉政策の理念	現在の福祉政策が掲げる主要な理念について理解を深める．
第 5 回	福祉政策における「必要（ニーズ）」と資源	社会政策における必要概念の重要性を学ぶとともに，それを充足するための資源の類型について学ぶ．
第 6 回	社会福祉の思想と哲学	社会福祉を基礎付けている様々な思想や哲学の概要について学ぶ．
第 7 回	社会福祉の理論	福祉国家をどのように説明するかを目的に生み出された国内外の様々な理論について概説する．
第 8 回	海外における福祉政策の歴史的展開	今日の福祉政策に影響を与えた，海外における福祉政策の発展を概観する．
第 9 回	日本における福祉政策の歴史的展開（戦前編）	戦前日本の福祉政策の展開を概説する．
第 10 回	日本における福祉政策の歴史的展開（戦後編）	戦後の GHQ の影響下で作り出された日本の福祉政策の方向性とその後の展開を学ぶ．
第 11 回	福祉サービスの供給過程	日本における福祉サービスの実施体制と供給プロセスについて概説する．
第 12 回	現代日本の福祉政策の動向と課題	現在の日本の福祉政策の特徴と直面する課題について概説する．
第 13 回	福祉政策の国際比較	各国の福祉政策の特徴を紹介したうえで国際比較を行い，日本の福祉政策の個別性を理解する．
第 14 回	まとめ：福祉政策とひとの「福祉」	これまでの学習内容を振り返りながら，福祉政策とひとの「福祉」の密接な関わりを改めて考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読むこと。授業後に教科書の確認問題などで復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座４　社会福祉の原理と政策』中央法規，2021 年．
なお，授業自体は PowerPoint を用いて講義を行う．その際，ハンドアウトを配布する．
したがって，教科書は各自が講義内容を確認したり，さらに理解を深めるために使用するものである．

【参考書】
社会福祉辞典（各種有）を購入し、分からない専門用語などを確認しながら学習することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
①評価方法：リアクションペーパー（30 %），期末試験（70%）
②採点基準：
講義内容の理解度を評価する春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各回の内容については，教科書の該当箇所を授業前に一度眼を通してから受講していただくと内容の理解が深まると思います．

【その他の重要事項】
・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし，情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline and objectives】
1. Studying　principles and fundamentals of welfare policy.
2. Understanding welfare policy comprehensively.

SOW100JB

ソーシャルワークⅠ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】
専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士法と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実際についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
・社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第 3 版』中央法規　2015 年
・副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005 年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 20 %, 筆記試験が 80 %の割合で総合的に評価します。特に、提示された課題の実施・提出は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていく。

【Outline and objectives】
This course introduces the role and meaning of social worker and psychiatric social worker,and basic skills of social work practices to students taking this course.

PSY100JC

心理学概論

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きを理解することを目的とします。また、基礎心理学から応用心理学への展開をより分かりやすく具体的に学習することを目的とします。

【到達目標】
心理学の成り立ちを理解するとともに、現代心理学を構成する主要領域に関する基礎的な知識を得ることができます。また、基礎心理学から応用心理学への展開をその関連性の視点から理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標を達成するために、心理学の成り立ちを理解した上で、基礎心理学において明らかにされた知見が、応用心理学である教育心理学、臨床心理学、発達臨床心理学などにおいて、どのように活かされているのかを、いくつかのトピックスを取り上げながら、より具体的に解説します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	心理学の成り立ち	心理学の成立とその発展
3	感覚・知覚	感覚・知覚のメカニズム
4	認知・学習	認知・学習の理論
5	脳の構造と機能	脳の構造と機能局在
6	知能	知能における遺伝と環境
7	記憶 1	記憶のメカニズム
8	記憶 2	記憶の障害
9	発達 1	認知の発達
10	発達 2	幼児期の発達
11	発達 3	児童・思春期の発達
12	欲求	欲求とフラストレーション
13	精神病理 1	心の病とその支援
14	精神病理 2	発達障害とその支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で配布した資料をもとに復習を行ってください。また、次の授業への連続性から、配布資料の予習をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）
平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
配布資料について、より記入しやすいよう改善します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
This lecture is a broad introduction to the field of psychology. Students will learn about Cognitive, Neurological, Developmental, Social, Personality, and Clinical Psychology.

ARSk100JB

地域問題入門

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】
地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の” 考え方” を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第 2 回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第 3 回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第 4 回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第 5 回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第 6 回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第 7 回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第 8 回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第 9 回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第 10 回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての” 被害” とは？
第 11 回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第 12 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第 13 回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

PSY100JC

心理学実験

長内　優樹

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では心理学の代表的な研究法である「実験法」について、実験の計画立案と実施、得られた結果の統計的分析、レポートの作成を通して学びます。

【到達目標】
実験法の基礎的な技法を理解し、基礎的な統計的分析を施し、心理学の形式でのレポートを作成する基礎的な能力を身につけることを目的とします。
1. 心理学実験の基本的な技法について、実習を通じて学ぶことによって、主体性、行動力・実行力、協調性を高めること。
2. 心理学には、目的に応じて様々な実験方法があることを学ぶことによって、課題発見能力、計画力、問題解決能力を養うこと。
3. 心理学の実験レポートの作成方法を学ぶことによって、情報収集能力、文章力、論理的・多面的思考力を育むこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループごとに、あらかじめ決められた実験の目的や方法を充分理解したうえでデータを収集します。そして得られたデータを図や表にまとめ、結果を分析し、考察を加え、レポートを作成します。緩慢に作業をしていると時間が不足することになります。ですから、各自が実験内容をよく理解することはもちろんのこと、小グループ内でお互いに協力し合うことは必須です。レポートは添削して返却されますから、次回以降のレポート作成の参考になるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義および心理学実験法の概説
第 2 回	実験 1	錯視実験の解説
第 3 回	実験 1	錯視実験の実施
第 4 回	実験 1	心理統計の概説と結果の整理
第 5 回	実験 1	レポート作成に関する指導
第 6 回	実験 2	系列位置効果の解説と実験の実施
第 7 回	実験 2	系列位置効果の実験結果の分析と整理
第 8 回	実験 3	両側性転移の解説と実験の実施
第 9 回	実験 3	両側性転移の実験結果の分析と整理
第 10 回	実験 4	触二点閾の解説と実験の実施
第 11 回	実験 4	触二点閾の結果の分析と整理
第 12 回	実験 5	SD（semantic differential）法の解説および実施
第 13 回	実験 5	SD 法の結果の分析と整理
第 14 回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で実験ごとにレポートを課しますので（計 5 本）、実験レポートを作成してください。実験レポートの作成の一部は授業外での作業となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に用いません。レジュメを随時配布します。

【参考書】
1）フィンドレイ,B. 細江達郎・ 細越久美子 (訳) (1996). 心理学 実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論までー　北大路書房.
2）西口利文・松浦　均 (2008). 心理学実験法・レポートの書き方　ナカニシヤ出版.

【成績評価の方法と基準】
実験ごとに定められた期限内にレポートを提出することを義務づけます（計 5 本）。各レポートの評価（各 20 点満点）の合計（100 点満点）を基本に成績評価を行います。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの作成のための授業内外での作業において Microsoft Word および Excel のインストールされた PC が必要となります。私物もしくは学内の貸与 PC をご利用ください。

【その他の重要事項】
なお、本講義は高校「公民」の教職課程科目であり、公認心理師取得のための必修科目、認定心理士取得のための必要科目でもあります。また、秋学期の講義（心理学応用実験）を理解するためには本講義の内容を理解していることが前提となりますので、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。

【Outline and objectives】
In this course, students learn about "experimental method" which is a typical research method in psychology, through planning and execution of experiments, statistical analysis of results obtained, and preparation of reports.

ARSX100JB

まちづくりの思想

水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、佐野　竜平、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 11 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 12 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 13 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	ＮＰＯと行政のパートナーシップの必要性と実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】
Understand what community management is, what principles and policies of town development, how to catch rural areas, urban areas, communities, through urban planning activities and practical examples of social business.

PSY100JC

心理学応用実験

長内　優樹

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では心理学の代表的な研究法である「実験法」について、実際の実験の実施、結果の統計的分析、レポートの作成を通して学びます。本講義は春学期の「心理学実験」に比べより専門的で高度な実験課題に取り組み、実験法についての理解を深め、心理学の形式でのレポートを作成する能力を伸ばすことを目的とします。

【到達目標】
1. 学生が心理学実験の基本的な技法について、実習を通じて学ぶことによって、主体性、行動力・実行力、協調性を高めること。
2. 学生が心理学には目的に応じて様々な実験方法があることを学ぶことによって、課題発見能力、計画力、問題解決能力を養うこと。
3. 学生が心理学の実験レポートの作成方法を学ぶことによって、情報収集能力、文章力、論理的・多面的思考力を育むこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループごとに、あらかじめ決められた実験の目的や方法を充分理解したうえでデータを収集します。そして得られたデータを図や表にまとめ、結果を分析し、考察を加え、レポートを作成します。緩慢に作業をしていると時間が不足することになります。ですから、各自が実験内容をよく理解することはもちろんのこと、小グループ内でお互いに協力し合うことは必須です。レポートは添削して返却されますから、次回以降のレポート作成の参考になるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義についての解説
第 2 回	実験 1	ストループ効果の解説と実験の実施
第 3 回	実験 1	ストループ効果の結果の整理
第 4 回	実験 2	対人距離の解説と実験の実施
第 5 回	実験 2	対人距離の実験の実施
第 6 回	実験 2	対人距離の結果の整理
第 7 回	実験 3	概念識別の解説と実験の実施
第 8 回	実験 3	概念識別の実験の実施
第 9 回	実験 3	概念識別の結果の整理
第 10 回	実験 4	アフォーダンスの解説と実験の実施
第 11 回	実験 4	アフォーダンスの結果の整理
第 12 回	実験 5	プロトコル分析の解説
第 13 回	実験 5	プロトコル分析の結果の整理
第 14 回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で実験ごとにレポートを課しますので（計５本）、実験レポートを作成してください。実験レポートの作成の一部は授業外での作業となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に用いません。レジュメを随時配布します。

【参考書】
1）西口利文・松浦　均 (2008). 心理学実験法・レポートの書き方　ナカニシヤ出版.
2）松井　豊 (2010). 改訂新版　心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー　河出書房新社.

【成績評価の方法と基準】
実験ごとに定められた期限内にレポートを提出することを義務づけます（計５本）。各レポートの評価（各 20 点満点）の合計（100 点満点）を基本に成績評価を行います。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの作成のための授業内外での作業において Microsoft Word および Excel のインストールされた PC が必要となります。私物もしくは学内の貸与 PC をご利用ください。

【その他の重要事項】
春学期「心理学実験」と合わせての履修が望ましい科目です。また、高校「公民」の教職課程科目、認定心理士取得のために必要な科目でもあります。

【Outline and objectives】
In this course, students learn about "experimental method" which is a typical research method in psychology, by conducting actual experiments, statistically analyzing the results, and creating reports. The purpose of this course is to work on more specialized and advanced experimental subjects than the "psychological experiment" in the spring semester, to deepen students' understanding of experimental methods, and to develop their ability to write reports in psychological form.

SOW100JB

社会問題論

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】
・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
・社会問題の解決に向けた活動を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて YouTube の動画配信や ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標)
第 4 回	社会問題①	少子高齢化
第 5 回	社会問題②	ワーキングプア
第 6 回	社会問題③	子どもの貧困
第 7 回	社会問題④	住居喪失不安定就労者
第 8 回	社会問題⑤	ひきこもり
第 9 回	社会問題⑥	性暴力
第 10 回	社会問題⑦	過疎地域
第 11 回	社会問題⑧	難民
第 12 回	社会問題⑨	人身売買
第 13 回	社会問題の連鎖	SDGs(持続可能な開発目標)
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度は対面授業を基本としているので、リアクションペーパーをより活用していきたい。また、アンケート結果をもとに、海外の社会問題についても一部授業に含む。

【Outline and objectives】
This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems.

SOW200JC

ソーシャルワークⅠ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】
専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士法と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実際についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
・社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第 3 版』中央法規　2015 年
・副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005 年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 20 %, 筆記試験が 80 %の割合で総合的に評価します。特に、提示された課題の実施・提出は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていく。

【Outline and objectives】
This course introduces the role and meaning of social worker and psychiatric social worker,and basic skills of social work practices to students taking this course.

SOW200JB

地域福祉論

金　吾燮

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

【到達目標】
・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫す
ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO 法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。課題やリアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第 2 回	今日の地域福祉のシステムと実践	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第 3 回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と 1960 年代まで
第 4 回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970 年代から 1980 年代まで
第 5 回	地域福祉の歴史的発発展と展開③理念と概念、諸理論	1990 年代から 2000 年代まで
第 6 回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第 7 回	地域福祉の構成要件①	在宅福祉サービスの内容と提供のあり方
第 8 回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第 9 回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動（権利擁護など）
第 10 回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第 11 回	地域福祉の推進主体②	ＮＰＯ、ボランティア団体
第 12 回	地域福祉の推進主体③	地域包括支援センター、福祉事務所、社会福祉施設など
第 13 回	地域福祉の政策と財源	地域福祉の政策と財源（公的財源、民間財源）
第 14 回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、２〜３のテーマとする。
準備・復習時間は、１回につき４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008 年

【参考書】
地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006 年
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018 年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点、２〜３のテーマの課題についてのレポート（３０％）
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

【その他の重要事項】
・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。
・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

【Outline and objectives】
This subject learn basic understanding and thinking skills about the Commmunity welfare, and it cultivates the way to consider about Community welfare problem having to do with today.

SOW200JC

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの理論、および様々な実践モデルとアプローチについて理解する。

【到達目標】
・ソーシャルワークにおける人と環境との交互作用について説明できる。
・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論
第 3 回	実践モデル	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 4 回	アプローチ①	心理社会的アプローチ
第 5 回	アプローチ②	機能的アプローチ
第 6 回	アプローチ③	問題解決アプローチ
第 7 回	アプローチ④	課題中心アプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	危機介入アプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	行動変容アプローチ
第 10 回	アプローチ⑦	エンパワメントアプローチ
第 11 回	アプローチ⑧	ナラティヴアプローチ
第 12 回	アプローチ⑨	解決志向アプローチ
第 13 回	実践モデルとアプローチの活用	多様な実践モデルとアプローチの活用方法
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編集（2015）『相談援助の理論と方法Ⅱ (第 3 版)』中央法規

【参考書】
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店
加茂陽編（2006）『ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために』世界思想社
F.J. ターナー編、米本秀仁監訳（1999）『ソーシャルワーク・トリートメント − 相互連結理論アプローチ− 上下』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・期末試験 60%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice..

SOW200JB

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの理論、および様々な実践モデルとアプローチについて理解する。

【到達目標】
・ソーシャルワークにおける人と環境との交互作用について説明できる。
・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論
第 3 回	実践モデル	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 4 回	アプローチ①	心理社会的アプローチ
第 5 回	アプローチ②	機能的アプローチ
第 6 回	アプローチ③	問題解決アプローチ
第 7 回	アプローチ④	課題中心アプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	危機介入アプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	行動変容アプローチ
第 10 回	アプローチ⑦	エンパワメントアプローチ
第 11 回	アプローチ⑧	ナラティヴアプローチ
第 12 回	アプローチ⑨	解決志向アプローチ
第 13 回	実践モデルとアプローチの活用	多様な実践モデルとアプローチの活用方法
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編集（2015）『相談援助の理論と方法Ⅱ (第 3 版)』中央法規

【参考書】
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店
加茂陽編（2006）『ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために』世界思想社
F.J. ターナー編、米本秀仁監訳（1999）『ソーシャルワーク・トリートメント − 相互連結理論アプローチ− 上下』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・期末試験 60%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice..

ARSk200JC

地域問題入門

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】
地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の” 考え方” を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第 2 回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第 3 回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第 4 回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第 5 回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第 6 回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第 7 回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第 8 回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第 9 回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第 10 回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての” 被害” とは？
第 11 回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第 12 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第 13 回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

SOW200JB

ソーシャルワークⅡ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
・人と環境の交互作用について説明できる。
・それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
第 3 回	実践モデル	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 4 回	アプローチ①	心理社会的アプローチ
第 5 回	アプローチ②	機能的アプローチ
第 6 回	アプローチ③	問題解決アプローチ
第 7 回	アプローチ④	課題中心アプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	行動変容アプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	認知アプローチ
第 10 回	アプローチ⑦	危機介入アプローチ
第 11 回	アプローチ⑧	エンパワメントアプローチ
第 12 回	アプローチ⑨	ナラティヴアプローチ
第 13 回	アプローチ⑩	解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、学習支援システムに授業の時間に検討する事例をアップするので、それを読んできてください。同時に、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規

【参考書】
川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度は対面授業を基本としているので、テキストによる予習、講義、事例検討による具体的な理解、フィードバックによる復習等のサイクルを行えるように計画している。また、オンラインになっても、このサイクルで行えるように準備を進めている。

【Outline and objectives】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice..

SOW200JC

ソーシャルワークⅡ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
・人と環境の交互作用について説明できる。
・それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
第 3 回	実践モデル	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 4 回	アプローチ①	心理社会的アプローチ
第 5 回	アプローチ②	機能的アプローチ
第 6 回	アプローチ③	問題解決アプローチ
第 7 回	アプローチ④	課題中心アプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	行動変容アプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	認知アプローチ
第 10 回	アプローチ⑦	危機介入アプローチ
第 11 回	アプローチ⑧	エンパワメントアプローチ
第 12 回	アプローチ⑨	ナラティヴアプローチ
第 13 回	アプローチ⑩	解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、学習支援システムに授業の時間に検討する事例をアップするので、それを読んできてください。同時に、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規

【参考書】
川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度は対面授業を基本としているので、テキストによる予習、講義、事例検討による具体的な理解、フィードバックによる復習等のサイクルを行えるように計画している。また、オンラインになっても、このサイクルで行えるように準備を進めている。

【Outline and objectives】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice..

SOC200JC

社会問題論

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】
・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
・社会問題の解決に向けた活動を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて YouTube の動画配信や ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標)
第 4 回	社会問題①	少子高齢化
第 5 回	社会問題②	ワーキングプア
第 6 回	社会問題③	子どもの貧困
第 7 回	社会問題④	住居喪失不安定就労者
第 8 回	社会問題⑤	ひきこもり
第 9 回	社会問題⑥	性暴力
第 10 回	社会問題⑦	過疎地域
第 11 回	社会問題⑧	難民
第 12 回	社会問題⑨	人身売買
第 13 回	社会問題の連鎖	SDGs(持続可能な開発目標)
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度は対面授業を基本としているので、リアクションペーパーをより活用していきたい。また、アンケート結果をもとに、海外の社会問題についても一部授業に含む。

【Outline and objectives】
This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems.

ENG200JB

地域計画論

保井　美樹

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの地域で、その将来像が構想（デザイン）され、それを実現するために様々な計画（プラン）が策定・実践されてきた。その計画主体には、国や自治体だけでなく、民間企業や個人の起業家も含まれる。本講義では、こうしたさまざまな主体による地域へのアプローチを学び、今日的な計画論とその実践を探りながら、あるべき姿を受講生と共に探る。

【到達目標】
地域とは何か、計画を立てるとはどういうことか、その利点・限界は何かを学ぶ他、計画プロセスの多様性、そのイノベーション、実践や成果の評価、見直しの在り方等について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド講義として行う。授業では地域計画に関連する制度や事例について解説を行い、授業間の課題を通じて、受講者には調査・図表の作成などを行い、提出してもらう。提出物へのフィードバックは、各回の授業のはじめ及び最終回に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	計画とは何か？	授業の目的や進め方について説明するとともに、そもそも「計画」とは何かを問う。
第 2 回	地域計画の変遷とこれから	社会の変化に応じた地域計画の変遷を学び、これからの計画を考える。
第 3 回	地域計画における課題 (1)	地域計画において生じうる価値観の相克についてケーススタディを通じて紹介し、それに対する考え方を議論する。
第 4 回	地域計画における課題 (2)	引き続きケーススタディを通じて、多様な価値観の相克とそのなかでの計画づくりを考える。
第 5 回	システム思考による地域分析	システム思考の考え方を解説し、SWOT を用いた地域分析を行う。
第 6 回	システム思考による地域計画のはじまり	地域分析を生かして地域計画を作成する方法を解説し、それぞれで計画づくりを行う。
第 7 回	システム思考による地域計画	システム思考による地域計画を、具体例を通じて解説する。
第 8 回	地域計画のケーススタディ (1)	地域計画を策定・実践について、具体例を通じて学ぶ。
第 9 回	地域計画のケーススタディ (2)	別の具体例を使って、地域計画の策定・実践について学ぶ。
第 10 回	地域計画の表現と対話〜土地利用とマッピング	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回は地図を使う。
第 11 回	地域計画の表現と対話〜グラフやループを使って	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回はグラフやループを使う。
第 12 回	マルチステークホルダーによる計画づくり①	地域の複雑な利害関係や構造を探りつつ、そこでどのようなマネジメントが最適かを探る。
第 13 回	マルチステークホルダーによる計画づくり②	地域マネジメントを理解した上で、具体的なケースワークを行う。
第 14 回	提出課題の共有・まとめ	受講生から提出された課題を通じて地域計画のポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に配布する教材を参考に、常に自分の生活の中にある「計画」に目を向け、理解を深めることが課題作成の役に立ちます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内にレジメと参考資料を配布する。

【参考書】
保井美樹・泉山塁威編著『エリアマネジメント・ケーススタディ（仮題）』学芸出版社、2021 年 4 月予定。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題　65%

平常点（リアクションペーパー）35%

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンドで実施するのは初めてなのでアンケートはありませんが、進度に気をつけつつ、内容面の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
There are lots of Plans made to tackle unknown problems and realize ideal regional future. Among those are done by not only national and local governments but also private organizations and entrepreneurs.In this lecture, we first learn various approaches to regional planning as well as recent change happening worldwide, discuss future planning with students.

SOW200JB

ボランタリーアクション

長濵　洋二

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。
社会の課題解決や価値の創造に関する基本的な知識を習得するとともに、ボランタリーアクションを実践するための計画書『My ボラ』を策定し発表する。ボランタリーアクションとは、地域や社会の課題を自分ごととして捉え、課題解決や新しい価値の創造に向けて自発的・主体的に起こしていくアクションであり、地域で活動する団体や NPO 等でのボランティアにとどまらず、寄付、情報発信、自らの消費行動の見直し、自主イベントの開催、社会起業（団体設立）など多岐にわたる。
※『My ボラ』：取り組む社会課題の実態、自己分析、具体的なアクション、期待される成果などを盛り込んだ計画書

【到達目標】
（1）個人で実践できる身近なものから組織として取り組む規模の大きなものまで、様々なボランタリーアクションがあることを理解する
（2）地域や社会にどのような課題があるかを知るとともに、それらの解決に向けて活用できる資源や方法があることを認識できる
（3）地域や社会の課題解決に向けた自発的・主体的なアクションプランが策定できる
（4）ボランタリーアクションを実践するにあたり、自分が大事にしている価値観や行動原理、コミュニケーションの特徴などを明らかになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。
講師による一方向の講義形式ではなく、授業の大半を学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを中心としたワークショップ形式で行う。また、学びを深めるために毎回簡単な課題レポートを提出する。課題レポートの記述内容は、授業最後もしくは次回授業の冒頭で全体に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容（ボランタリーアクションとは何か？）、到達目標、成績評価などの説明と質疑応答などを行う
第 2 回	『My ボラ』策定に向けた自己分析	どのような分野や方法でボランタリーアクションを実践していくか整理するための自己分析ワークを行う
第 3 回	コミュニケーション	自分のコミュニケーションの特徴を把握するとともに、他者との対話や関係性づくりについて学ぶ
第 4 回	ファシリテーション	グループの対話を促進するためのファシリテーション技術について学ぶ
第 5 回	SDGs と社会課題	SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標の詳細や取組事例を通じて、社会課題の分野や種類を理解する
第 6 回	社会課題の実態を把握する	社会や地域の課題の実態を把握するために必要な調査/リサーチの手法について学ぶ
第 7 回	外部ゲストによる講演と対話①	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランタリーアクションを学ぶ
第 8 回	NPO・市民活動とボランティア	NPO や市民活動が登場した歴史的背景や、ボランタリーアクションの 1 つであるボランティアについて学ぶ
第 9 回	寄付をする	ボランタリーアクションの 1 つである寄付について学ぶ
第 10 回	情報発信する	ボランタリーアクションの 1 つである情報発信について学ぶ
第 11 回	一歩踏み込んで行動を起こす	ボランタリーアクションには多様な形態があることを学ぶ

第 12 回	ボランタリーアクションの整理	『My ボラ』の策定に向けて、これまでの授業の学びを整理する
第 13 回	外部ゲストによる講演と対話②	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランタリーアクションを学ぶ
第 14 回	『My ボラ』最終発表	グループに分かれて『My ボラ』の相互発表と評価を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・インターネットでの情報収集や学生同士の情報交換、ボランティア活動の実践、地域で活動する団体や NPO 等が主催する勉強会・イベントへの参加など、授業以外の時間を有効に使いながら理解を深めるとともに、『My ボラ』策定に向けた自分の関心領域を整理しておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。
授業の都度、「授業支援システム」をつうじて事前に資料を提供する。
※必要に応じて、授業当日に自分で印刷したものを用意しておく

【参考書】
『学生のためのボランティア論』 岡本栄一著（大阪ボランティア協会 : 2006)
『テキスト市民活動論～ボランティア・NPO の実践から学ぶ』大阪ボランティア協会編（大阪ボランティア協会: 2011)
『NPO のためのマーケティング講座』長浜洋二著（学芸出版社： 2014）

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（『My ボラ』）の提出（40 %）
・毎回の授業内課題レポートの提出（40%）
・平常点（授業への主体的参加など）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
・講師による一方向の講義ではなく、学生同士がディスカッションしたり、意見やアイデアを共有できるようにする
・テストによる知識習得ではなく、毎回の課題レポート作成をつうじて、自らの考えやアイデアを深め、整理することに主眼を置く
・座学による講義だけでなく、個人ワークやディスカッションによる体感的な学びを取り入れる

【学生が準備すべき機器他】
『My ボラ』の作成提出は、Microsoft PowerPoint にて行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けていないため、授業時やメール等で相談・連絡が可能。
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
This class will be provided by the online communication tool, "ZOOM", throughout the semester.
"Voluntary Action" provides students with opportunities to: (1) learn about definition, historical background, types, and current situations of voluntary actions, (2) analyze local and social problems to to be solved while identifying local resources to cope with those problems, and (3) make a "My Voluntary Action Plan", specifying an area of interest of local and social problems, action plans, expected outcome, etc.

PSY200JC

心理学的支援法

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、 訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第 2 回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第 3 回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第 4 回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第 5 回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第 6 回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第 7 回	主要理論（その 1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第 8 回	主要理論（その 2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第 9 回	主要理論（その 3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第 10 回	主要理論（その 4）	認知行動療法について学びます。
第 11 回	主要理論（その 5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第 12 回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第 13 回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第 14 回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」と「理解度確認テスト」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
末武康弘（2018）『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎―』誠信書房

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】
In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach,community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.

MAN200JB

コミュニティビジネス論

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、地域の人々によって所有、コントロールされ、地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが今求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていくシビック・アントレプレナーもしくはソーシャル・アントレプレナーによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を明らかにする。

【到達目標】
①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。
毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第 2 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第 3 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第 4 回	事業型 NPO による取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第 5 回	事業型 NPO による取り組み②	NPO 法人フローレンスの取り組みを通して理解する。
第 6 回	事業型 NPO による取り組み③	貧困問題と健康問題を通して理解する。
第 7 回	事業型 NPO による取り組み④	NPO 法人 TFT の事例を通して理解する。
第 8 回	事業型 NPO による取り組み⑤	アメリカの事業型 NPO の事例を通じて理解する。
第 9 回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第 10 回	株式会社による取り組み②	キャリアマムの事例を通して理解する。
第 11 回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第 12 回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第 13 回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第 14 回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃からインターネットなどを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
ミニレポート 30%、平常点４０％、期末レポート　３０％。
具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations.

PSY200JC

発達心理学

前田　基成

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトが発達するというのはどういうことなのか。ヒトが生まれてから死ぬまでの発達過程と発達課題について理解する中で、自分自身の成長と発達についての理解も深めます。

【到達目標】
受精から死に至るまでのヒトの発達の特徴と発達課題について理解できる。ヒトの発達過程と発達の可能性およびそれに影響を与える要因について理解できる。自分自身のこれまでの発達過程とこれからの発達の可能性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に授業を行いますが、必要に応じて映像資料を用います。また小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯発達	誕生から死までの生涯を通しての発達の概要について学習する。
第 2 回	遺伝と環境	人間の発達に及ぼす遺伝と環境の影響について学習する。
第 3 回	乳幼児期の発達	乳児期と幼児期の発達の特徴について学習する。
第 4 回	児童期の発達	児童期の発達の特徴について学習する。
第 5 回	青年期・成人期の発達	青年期と成人期の発達の特徴について学習する。
第 6 回	老年期の発達	高齢者の心理について学習する。
第 7 回	知能の発達	幼児期から老年期までの知的能力の発達・変化について学習する。
第 8 回	言語の発達	乳児期から児童期に至るまでの言語の発達について学習する。
第 9 回	認知の発達	乳児期から児童期、および老年期における認知機能の発達について学習する。
第 10 回	感情と情緒の発達	乳児期から青年期までの感情・情緒の発達について学習する。
第 11 回	人間関係の発達	自己と他者との人間関係の生涯発達について学習する。
第 12 回	社会的行動の発達	自己と社会との関係である社会性の発達について学習する。
第 13 回	性意識と性的行動	異性に対する性意識と性的行動の発達について学習する。
第 14 回	発達障害	自閉症、アスペルガー症候群、ADHD など非定型発達について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で扱った内容に関する新聞記事や文献等を調べること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点 70 %と平常点（小テスト）30 %を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to show students what does human development mean, and what process do people follow from the birth to the death. Human beings have developmental tasks to be achieved at their developmental stage. In this class students will understand their developmental tasks and deepen their understanding of their own development.

ENG200JB

社会的包摂論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】
バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第 2 回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第 3 回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第 4 回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第 5 回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第 6 回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第 7 回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第 8 回	障害者の能力①	エイブルアート
第 9 回	障害者の能力②	障害者スポーツ
第 10 回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第 11 回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第 12 回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第 13 回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第 14 回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
「インクルーシブデザイン　社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline and objectives】
By understanding barrier-free or social inclusion from various perspectives, we deepen our understanding of the community where all people live a healthy and cultural life. Especially, pay attention to the role sharing and cooperation of administrative, private, and citizens toward realization.

PSY200JC

コミュニティ心理学

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】
コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第 3 回	臨床心理の基本的視点①：発達的視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第 4 回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第 5 回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第 6 回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第 7 回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第 8 回	介入の 6 レベル	マレルによる介入の 6 レベルについて講義。
第 9 回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第 10 回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第 11 回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第 12 回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第 13 回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第 14 回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で次回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】
授業では使用しませんが、参考書には次の 2 冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学』（植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2006 年 2,500 円+税）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007 年 2,400 円+税）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【その他の重要事項】
講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】
Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

PSY200JB

心理学的支援法

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、 訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第 2 回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第 3 回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第 4 回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第 5 回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第 6 回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第 7 回	主要理論（その 1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第 8 回	主要理論（その 2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマ二スティックセラピーを学びます。
第 9 回	主要理論（その 3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第 10 回	主要理論（その 4）	認知行動療法について学びます。
第 11 回	主要理論（その 5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第 12 回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第 13 回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第 14 回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」と「理解度確認テスト」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
末武康弘（2018）『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎―』誠信書房

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】
In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach,community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.

PSY200JC

心理的アセスメント

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、心理的アセスメントの基礎的理論と共に、心理臨床の現場でよく用いられる代表的な検査について理解することを目的とします。また、講義形式で知識を身につけることに留まらず、実際の検査用具で実習も行い、心理検査の正しい実施法や検査結果の解釈、倫理的側面等を学習します。

【到達目標】
・心理的アセスメントに有用な情報及びその把握の手法等について概説できる。
・心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。
・心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について概説できる。
・心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができる。
・生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈を行うことができる。
・適切に記録、報告、振り返り等を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
心理検査の活用に際し、心理臨床に携わる者が知っておくべき基礎的な知識について講義します。また、代表的な心理検査の概要を解説したのち、実際に検査用具を用いて実習を行い体験的な学習を行います。なお、心理的アセスメントをより深く、包括的に理解するために、秋学期の心理検査法特講とあわせて履修することをお勧めします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理的アセスメントとは	オリエンテーションおよび心理的アセスメントとは何かについて講義を行う。
第 2 回	心理検査の役割	心理的アセスメントにおいて心理検査が担う役割について解説する。
第 3 回	心理的アセスメントと倫理	心理的アセスメントに携わる者が知っておくべき倫理について学習する。
第 4 回	心理検査の基礎理論①（妥当性、信頼性）	心理検査の妥当性と信頼性について学習する。
第 5 回	心理検査の基礎理論②（観察法、面接法）	観察法、面接法としての心理検査について学習する。
第 6 回	心理検査の基礎理論③（質問紙法）	質問紙法の理論について学習する。
第 7 回	心理検査の解説と実習①（乳幼児の発達検査）	乳幼児の発達検査について学習する。
第 8 回	心理検査の解説と実習②（知能検査法）	知能に関する検査について学習する。
第 9 回	心理検査の解説と実習③（描画法）	人物画、家族画などの描画法について学習する。
第 10 回	心理検査の解説と実習④（投映法人格検査法）	投映法人格検査について学習する。
第 11 回	心理検査の解説と実習⑤（精神健康度に関する検査）	精神健康度に関する検査について学習する。
第 12 回	心理検査の解説と実習⑥（不安障害・うつに関する検査）	不安障害・うつに関する検査について学習する。
第 13 回	心理検査結果の報告	心理検査結果の報告について、本人へのフィードバックを含めて学習する。
第 14 回	心理的アセスメントについてのまとめ	第 1 回から第 13 回までの学習を整理して理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で取り上げたテーマについて十分に復習を行い、関連する文献を読むなど学習を発展させます。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
映像教材を用いるなどして、心理検査についてより具体的なイメージを持って実習することができるよう工夫する。

【Outline and objectives】
In this lecture, together with the basic theory of psychological examination method, we aim to understand representative examination often used in psychology clinical field. In addition to acquiring knowledge in a lecture form, practical training is also conducted with actual inspection tools, learning the correct implementation method of psychological examinations, interpretation of test results, ethical aspects, etc.

SOW200JB

福祉国家論

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コロナ禍の下で格差と貧困が拡大し、福祉国家の存在意義が問われています。

日本の社会保障制度の特徴を踏まえて、受講生各自の視点から、福祉国家が果たすべき役割と課題について検討します。

【到達目標】
コロナ禍で起きてきた問題について、実態と政策対応について各自の視点でまとめ、論じられるようになる。
日本の福祉国家の特徴と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
①コロナ禍での格差と貧困の拡大について、説明します。
②日本の福祉国家の特徴と、コロナ対策の「日本モデル」について説明します。
③これらをもとに各自が自分の取り組むテーマを設定し、独自に資料を収集し、検討をすすめ、成果を発表し、意見交換を行います。
④オンライン授業を一部取り入れます。
⑤リアクションペーパー等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の概要	ガイダンス
第 2 回	コロナ禍で何が起きたか	各分野の資料の検討、まとめ提出
第 3 回	日本のコロナ対策の概要	施策の概要と「日本モデル」の検討
第 4 回	個人テーマ決定	自分のテーマを決め、登録する
第 5 回	福祉国家の意義・機能	①生活安定機能 ②格差是正・再分配機能
第 6 回	日本型福祉国家の特徴①	「皆保険・皆年金型」　社会保険と低所得者対策
第 7 回	日本型福祉国家の特徴②	生活保護及び生活困窮者自立支援制度
第 8 回	ドイツ福祉国家との比較	ドイツ福祉国家とコロナ対策
第 9 回	個人テーマの中間報告	各自の進展状況報告
第 10 回	福祉国家をめぐる論点	市場化・「再商品化」 投資型福祉国家 格差是正・公正な分配
第 11 回	個人研究報告①	個人研究成果報告
第 12 回	個人研究報告②	個人研究成果報告
第 13 回	個人研究まとめ・総括	全体まとめ
第 14 回	講義まとめ	総括レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①各自が具体的テーマを設定し、資料収集と検討を進め、発表の準備を行います。
②本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点：３０％　　個人発表：３０％　　期末まとめ：４０％

【学生の意見等からの気づき】
各自のテーマ設定を丁寧に進めます。

【Outline and objectives】
The expansion of disparity and poverty makes the role of the welfare state more important.
This lecture focuses on the characteristics of the social security system in Japan and aims to understand the roles and tasks of welfare state.

PSY200JC

臨床心理学概論

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていければと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第 3 回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第 4 回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第 5 回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第 6 回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第 7 回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第 8 回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第 9 回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第 10 回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第 11 回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第 12 回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第 13 回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline and objectives】
This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches.

SOW200JB

ケアマネジメント論

柴崎　祐美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ケアマネジメント概念を国際的な視点から理解し、わが国におけるケアマネジメントの実態とその課題について学習する。

【到達目標】
・ケアマネジメントの定義や構造、機能を理解し、説明することができる。
・介護保険制度におけるケアマネジメントの具体的なプロセスを説明、展開することができる。
・児童福祉、障害者福祉分野等、さまざまな対象や場面で展開されるケアマネジメントの特性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体としつつ、適宜、映像教材の視聴、演習、グループディスカッションを実施する。
授業の始めに前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業に関する連絡、課題提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、ケアマネジメントの背景	授業の進め方と評価方法、ケアマネジメントの背景の説明
第 2 回	ケアマネジメントの概念および定義	国際的な概念の理解、日本における定義の理解
第 3 回	ケアマネジメントの構造、機能	ケアマネジメントの構成要素と機能の概略の理解
第 4 回	ケアマネジメントの過程	ケアマネジメントの過程の理解
第 5 回	自立支援	自立の捉え方、エンパワメント、ストレングスモデルの理解
第 6 回	ニーズの把握と目標設定	生活ニーズとサービスニーズの構造を整理し、社会資源に結びつける過程を検討
第 7 回	ケアマネジメントにおける家族の位置づけ	社会資源及び支援対象者としての家族の位置づけの確認。介護負担軽減のへの支援方法の検討
第 8 回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置、コミュニティワークとの関係
第 9 回	介護保険制度とケアマネジメント①	認知症高齢者のケアマネジメントに関する事例検討、演習
第 10 回	介護保険制度とケアマネジメント②	介護予防ケアマネジメントと地域支援事業に関する事例検討、演習
第 11 回	介護保険制度とケアマネジメント③	高齢障害者のケアマネジメントの連続性、相談支援専門員との連携に着目した事例検討、演習
第 12 回	児童福祉とケアマネジメント	医療的ケアを要する児童の地域生活支援の事例検討、演習
第 13 回	ケアマネジメントの価値と倫理	ケアマネジャーの倫理綱領、ケアプラン作成時の倫理的ジレンマ
第 14 回	ケアマネジメントの現状と展望	授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・利用者の生活を取り巻く環境、法制度は変化しています。日ごろから新聞記事や文献・雑誌等から関連する情報収集に努めてください。

【テキスト（教科書）】
指定なし。必要に応じてプリントや資料を配布する。

【参考書】
・白澤政和（2018）『ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法』中央法規出版.
・社会福祉士養成テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』（出版社は問わない、最新刊を参照することが望ましい）

【成績評価の方法と基準】
①リアクションペーパー　20%
②ケアプラン作成演習（小レポート）　30%
②筆記試験　50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【Outline and objectives】
Understand the concept of care managiment from international perspective and learn about the actual condition and issues of care managemnt in Japan.

PSY200JC

心理療法

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】
心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。また幾つかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実際について説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていく。
理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。
各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第 2 回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第 3 回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第 4 回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第 5 回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライエントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第 6 回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第 7 回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的精神療法の理論と方法について概説する。
第 8 回	心理療法（2） 精神分析的精神療法、ブリーフセラピーなど	主な心理療法の中で、精神分析的精神療法、ブリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第 9 回	心理療法（3） 認知行動療法、対人関係療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第 10 回	心理療法（4） 日本で生まれた心理療法：森田療法、内観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第 11 回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第 12 回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第 13 回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】
「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点および学期末試験によって評価する。
平常点およびリアクションペーパー： 30 %
学期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】
心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライエントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline and objectives】
Outline of basic concepts in psychotherapy, its history, people who will benefit from the therapy and therapeutic approaches

SOW200JB

ソーシャルワークⅢ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、相談援助の具体的な方法を学ぶため、ソーシャルワークのプロセス、技法について講義します。

【到達目標】
相談援助過程を理解する。
実践事例を通してアセスメントの視点を学ぶ。
実践事例を通して援助方法の実際を学ぶ。
スーパービジョンの枠組み、視点を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
事例等を通して、相談援助の過程であるインテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングの意義、目的、方法、留意点を講義します。また、これらの過程で重要なケアマネジメント、アウトリーチ、ネットワーキング、連携、社会資源の調整・開発、権利擁護活動、ソーシャルアクション、個人情報保護法の運用などについても講義を行います。オンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、成績評価について説明します。
第 2 回	相談援助の視点	生活者の視点、当事者の視点生活問題理解の視点について解説します。
第 3 回	インテーク	援助関係の構築とインテーク面接の方法、留意点を説明します。
第 4 回	アセスメント	情報収集とアセスメントの目的、意義、方法、実際について解説します。
第 5 回	プランニング、モニタリング	プランニングとモニタリングの目的、方法、留意点、実際について講義します。
第 6 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、方法について、介護保険下で実施されているケアマネジメントを事例に解説します。
第 7 回	アウトリーチ、ネットワーキング、連携	用語の概念、多様なサービスをどのようにニーズに結び付けていくべきか、また、どのように提供していくべきかを解説します。
第 8 回	社会資源の開発、ソーシャルアクション	事例紹介とそこにみられる資源開発、ソーシャルアクションの目的、意義、方法、留意点について解説します。
第 9 回	相談援助の体系・各組織における相談援助の課題	相談援助方法を体系的に事例を交えて解説し、主だったサービス提供機関における相談援助の課題について解説します。
第 10 回	集団を活用した相談援助	集団を活用した相談援助の目的、意義、方法について解説します。
第 11 回	地域を基盤とした相談援助	地域を基盤とした相談援助の目的、意義、方法について事例を通して解説します。
第 12 回	スーパービジョン、記録、個人情報保護	スーパービジョン、記録の目的、意義、方法および個人情報保護法の要点について解説し、相談援助過程における運用の実際について講義します。
第 13 回	当事者支援の実際	当事者視点の生活問題、および支援のあり方について講義します。
第 14 回	試験	学習した内容の試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示を出したテキストの該当箇所については読んできてください。また、適宜紹介する文献についても読み、理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内ではいつも使用するわけではありませんが、窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』を中心に講義していきますので、予習・復習の際、参考にしてください。

【参考書】
窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠心書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、レポート（授業内に提出）、試験の総合評価とします。
授業への能動的参加（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、インテークから面接技法、ソーシャルアクション、ソーシャルプランニングまでのプロセス、方法について講義する。

【Outline and objectives】
This course deals with the fundamental social work activity, including communication and interviewing,
problem-solving process,assessment,social care planning, teamwork and supervision for social work practice.

CIM200JC

精神疾患とその治療

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第 2 回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第 3 回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第 4 回	精神症状学①	「神経心理学」
第 5 回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第 6 回	精神障害①	「統合失調症」
第 7 回	精神障害②	「気分障害」
第 8 回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第 9 回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第 10 回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第 11 回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第 12 回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第 13 回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
「思春期に心が折れた時親がすべきこと－不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子　中央公論新社　2020.10
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline and objectives】
The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.

PSY200JC

公認心理師の職責

宮田　はる子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公認心理師として活動していくために、必要不可欠な知識、倫理、態度や行動について考え、学びます。公認心理師とは、どのような資格であり、何が求められ、社会の様々な領域でどのような役割を果たすことを期待されているのか、そして、どのような知識や技能を習得することが必要かを学びます。

【到達目標】
公認心理師が求められているもの、役割、法的義務、倫理、責務を理解し、実践に不可欠な知識と視点、考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とグループディスカッションを中心に、事例も取り上げながら、各自が具体的に考え、取り組み、理解を深めていけるように進めたいと考えています。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。対面での授業を予定していますが、状況によりオンラインまたは対面での開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。毎回の講義でリアクションペーパーの提出を求めます。課題へのフィードバックの方法詳細は、都度授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 公認心理師の役割	授業の概要、進め方、評価方法について 公認心理師に求められる役割について
第 2 回	公認心理師の法的義務	公認心理師法に基づく法的義務
第 3 回	公認心理師の倫理①	職業倫理的責任について
第 4 回	公認心理師の倫理②	職業倫理的責任について
第 5 回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	要心理支援者の安全確保のために必要な視点について
第 6 回	情報の適切な取り扱い	守秘義務及び情報共有等、心理業務における情報の適切な取り扱いの必要性について
第 7 回	公認心理師の具体的業務①	保健医療領域における公認心理師の業務
第 8 回	公認心理師の具体的業務②	福祉領域における公認心理師の業務
第 9 回	公認心理師の具体的業務③	教育領域における公認心理師の業務
第 10 回	公認心理師の具外的業務④	司法犯罪領域における公認心理師の業務
第 11 回	公認心理師の具体的業務⑤	産業労働領域等における公認心理師の業務
第 12 回	多職種連携及び地域連携	連携による支援の意義、チームにおける公認心理師の役割について
第 13 回	自己課題発見・問題解決能力、生涯学習と自己研鑽	自分の課題を発見できる力、解決できる力について。生涯にわたる自己研鑽の継続の重要性について
第 14 回	まとめ	これまでの授業の振り返り、今後の学びにおける課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習においては、配布資料を基にした復習を重点的に行うことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（55%）、課題 (10%)、小テスト (5%)、及び期末試験（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問や意見を適宜講義の中で取り入れ、全体で考え、理解を深めていくように進めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド方式授業の場合、動画を閲覧できるデータ通信が可能な機器が必要となります。資料配布、課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
This unit develops understanding of the imperative knowledge to become the Licensed Psychologist. Theme includes ethical responsibilities, legal obligations, duty of care, managing information including confidentiality, collaboration with other professions, ability of problem solutions and self-development. Students examine roles in various practices and critical issues, and gain the awareness of high ethical sensitivity, professionalism, and the importance of continuing learning in individuals.

SOW300JB

社会福祉原理

平野　寛弥

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠を学ぶとともに，現在の福祉政策に向けられる批判や直面する課題について検討する．

【到達目標】
福祉政策やひとの“福祉”についての知識を深めるとともに，様々な観点からそれらのあり方を検討し，自分なりの見解を持つことを目指す．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
なるべく具体的な事例を題材にしつつ，現実を捉える際の視点や枠組みを提供する．その意味では知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視している．
また，授業でのコメントや質問については，できる限り次回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である．
なお秋学期は，オンラインまたは対面での開講となる（詳細は未定）ため，それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション　現代社会における福祉政策	現代社会における福祉政策の動向とその背後にある様々な理論，思想や哲学の存在を知る．
第 2 回	福祉政策の歴史的展開①　救貧法から福祉国家の形成へ	イギリスの福祉政策の歴史（16 世紀半ばから 20 世紀前半）について概観する．
第 3 回	福祉政策の歴史的展開②　戦後福祉国家の黄金時代	戦後の福祉国家の展開をイギリスを事例に概観する．
第 4 回	福祉政策の歴史的展開③　福祉国家の危機と再編	1970 年代後半から 80 年代にかけて，先進諸国が直面した福祉国家の危機とそれに伴う福祉国家再編の動きを概観する．
第 5 回	現代の福祉国家①　先進福祉国家（西欧・アメリカ・日本）	20 世紀後半に成立した先進諸国における福祉国家の諸類型について理解する．
第 6 回	現代の福祉国家②　新興福祉国家群（東アジア・東欧・南米など）	先進諸国に続いて経済発展を遂げた新興諸国における福祉国家の特徴について理解する．
第 7 回	福祉政策の理論・思想①　産業化論と福祉レジーム論	福祉政策の発展を説明する代表的な理論とされる産業化論と福祉レジーム論について理解する．
第 8 回	福祉政策の理論・思想②　シティズンシップ論	福祉政策の理論的根拠の一つとされる「シティズンシップ」概念について理解する．
第 9 回	福祉政策の理論・思想③　ジョン・ロールズとアマルティア・セン	福祉政策の哲学的基礎付けを提供したとされるジョン・ロールズとアマルティア・センの議論について理解する．
第 10 回	福祉政策をめぐる論点①　貧困：絶対的貧困と相対的貧困，剥奪	現代の福祉政策におけるイシューの一つである貧困について理解する．
第 11 回	福祉政策をめぐる論点②　社会的排除と包摂：排除言説と包摂戦略の類型	現代の福祉政策におけるイシューの一つである社会的排除とそれに対する包摂戦略の諸類型について理解する．
第 12 回	福祉政策をめぐる論点③　自立／依存：ケアと自律，パターナリズム	現代の福祉政策におけるイシューの一つである自立と依存という二分法の是非，またそこに密接に関わるケアと自律について理解する．
第 13 回	福祉政策をめぐる論点④　再分配と承認：ジェンダー・人種・エスニシティ	現代の福祉政策におけるイシューの一つである再分配と承認の関係性，および「ひと」野福祉にとっての両者の重要性について理解する．
第 14 回	福祉政策をめぐる論点⑤　自由とセキュリティ：監視国家，リバタリアン・パターナリズム	現代の福祉政策における最も重要なイシューの一つである自由とセキュリティの関係性について理解する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業内容の復習をし，全体の論理の流れを理解する．下記に示した参考書や，授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む．本科目の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．PowerPoint を用いた講義であり，ハンドアウトを配布して授業を行う．

【参考書】
個別のテーマに関するものについては各授業時に適宜紹介するが，授業全体を通じて関連するものとしては以下の 2 冊を挙げておく．
『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』(田村哲樹・松元雅和, 乙部延剛, 山崎望著，2017 年，有斐閣)
『現代福祉国家と自由：ポスト・リベラリズムの展望』(金田耕一著，2000 年，新評論)

【成績評価の方法と基準】
①評価方法 各授業時のリアクションペーパー（30 %），期末レポート（70%）
②採点基準：
＜リアクションペーパー＞
　各回の講義内容の理解度を評価するとともに，そのうえで各自の見解を論理的・説得的に展開できているかどうかを評価する．
＜期末レポート＞
　各自の関心のあるテーマにそってまとめてもらう予定のため，選択したテーマについての理解度とともに，それについての自身の見解の説得力を吟味する．また，レポートの文章の論理構成についても重視する．

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当となるため，フィードバックできるものがないが，授業でのコメントや質問については，できる限り次回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である．

【その他の重要事項】
・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし，情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline and objectives】
1. Understanding welfare policy from two perspectives below;
– its historical development
– its theoretical and ethical foundation
2. Examining controversial arguments and issues over welfare policy in modern times

SOW300JC

ソーシャルワークⅢ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、相談援助の具体的な方法を学ぶため、ソーシャルワークのプロセス、技法について講義します。

【到達目標】
相談援助過程を理解する。
実践事例を通してアセスメントの視点を学ぶ。
実践事例を通して援助方法の実際を学ぶ。
スーパービジョンの枠組み、視点を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事例等を通して、相談援助の過程であるインテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングの意義、目的、方法、留意点を講義します。また、これらの過程で重要なケアマネジメント、アウトリーチ、ネットワーキング、連携、社会資源の調整・開発、権利擁護活動、ソーシャルアクション、個人情報保護法の運用などについても講義を行います。オンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、成績評価について説明します。
第 2 回	相談援助の視点	生活者の視点、当事者の視点生活問題理解の視点について解説します。
第 3 回	インテーク	援助関係の構築とインテーク面接の方法、留意点を説明します。
第 4 回	アセスメント	情報収集とアセスメントの目的、意義、方法、実際について解説します。
第 5 回	プランニング、モニタリング	プランニングとモニタリングの目的、方法、留意点、実際について講義します。
第 6 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、方法について、介護保険下で実施されているケアマネジメントを事例に解説します。
第 7 回	アウトリーチ、ネットワーキング、連携	用語の概念、多様なサービスをどのようにニーズに結び付けていくべきか、また、どのように提供していくべきかを解説します。
第 8 回	社会資源の開発、ソーシャルアクション	事例紹介とそこにみられる資源開発、ソーシャルアクションの目的、意義、方法、留意点について解説します。
第 9 回	相談援助の体系・各組織における相談援助の課題	相談援助方法を体系的に事例を交えて解説し、主だったサービス提供機関における相談援助の課題について解説します。
第 10 回	集団を活用した相談援助	集団を活用した相談援助の目的、意義、方法について解説します。
第 11 回	地域を基盤とした相談援助	地域を基盤とした相談援助の目的、意義、方法について事例を通して解説します。
第 12 回	スーパービジョン、記録、個人情報保護	スーパービジョン、記録の目的、意義、方法および個人情報保護法の要点について解説し、相談援助過程における運用の実際について講義します。
第 13 回	当事者支援の実際	当事者視点の生活問題、および支援のあり方について講義します。
第 14 回	試験	学習した内容の試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示を出したテキストの該当箇所については読んできてください。また、適宜紹介する文献についても読み、理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内ではいつも使用するわけではありませんが、窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』を中心に講義していきますので、予習・復習の際、参考にしてください。

【参考書】
窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠心書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、レポート（授業内に提出）、試験の総合評価とします。
授業への能動的参加（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、インテークから面接技法、ソーシャルアクション、ソーシャルプランニングまでのプロセス、方法について講義する。

【Outline and objectives】
This course deals with the fundamental social work activity, including communication and interviewing,
problem-solving process,assessment,social care planning, teamwork and supervision for social work practice.

SOW300JB

公的扶助論

大澤　優真

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貧困に陥った人の生存権保障のために、金銭給付と自立支援サービスをセットで提供できるのが、生活保護です。生活保護に対する負のイメージを払拭し、可能性を理解してもらいます。その上で、自立支援の具体的事例を学びつつ、生活保護の基準、要件、受給者の義務を中心に制度のポイントを学びます。

【到達目標】
①現代日本の貧困について理解します。
②生活保護の役割と可能性を理解します。
③生活保護ケースワーカーの仕事について知ります。
④生活困窮者自立支援法など低所得者対策を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
1）講義が中心ですが、福祉事務所のケースワーカーの仕事や、生活保護利用者の生活実態について、アクティブに学ぶ機会を持ちます。
2）リアクションペーパー等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生活保護法の目的と課題	生存権と人間の尊厳 保護請求権、補足率
2	現代日本の貧困	相対的貧困、貧困線、貧困率、社会的排除
3	生活保護基準	最低生活費　消費水準均衡方式
4	生活保護の動向	受給者の推移と実態
5	生活保護の基本原理	基本原理と基本原則
6	生活保護の受給要件	資産活用、稼働能力活用
7	生活保護と家族	扶養優先、世帯単位・世帯分離
8	外国人と生活保護	54 年通知にもとづく準用
9	生活保護と自立	自立概念の発展と自立支援
10	利用者の義務と権利	指導指示と保護停廃止
11	生活保護の実施体制	実施体制と財源
12	相談援助の実際	指導指示と自立支援
13	生活保護の歴史	イギリスと日本における発展史
14	低所得者対策	生活困窮者自立支援法の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の理解状況を確認するために、適宜、課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
①吉永・布川・加美『現代の貧困と公的扶助―低所得者に対する支援と生活保護制度』高菅出版、2016 年
②記事やレポートなどの参考資料は授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点　50 %　期末テスト試験　50 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業のメリットを取り入れます。

【その他の重要事項】
社会福祉士に関する科目（「指定科目」）

【Outline and objectives】
A feature of public assistance is the ability to provide both financial benefits and support services to promote independence. The goal is to understand the potential of this system.

SOW300JB

社会保障論

足利　聖治

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的にも例を見ない速度で少子高齢化が進む一方、多額の財政赤字を抱える我が国において、セーフティネット、すなわち私たち国民一人一人の生活の支えである保険、医療、介護、福祉、年金などの社会保障制度について、最新の動きも踏まえながら、その現状と課題を考える。

【到達目標】
我が国の医療、介護、年金、労働保険などの各制度の基本的な仕組み、現状、社会保険方式で運営されている理由を理解し、今後のあり方についても説明ができる。とくに若い人たちの不信感の強い年金制度について客観的な理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
社会保障の各制度、とりわけ医療、介護、年金の制度に関し、学生自身、あるいは父母親族等がどう関わり、どう保障されているのかからスタートし、我が国全体の状況と将来の課題、さらには欧米の状況にも理解を深める。
講義を中心とするが、ともに考える授業、質疑応答を交えた授業とする。毎回の講義修了時にミニテスト（兼出欠確認のリアクションペーパー）を実施し、理解度を把握する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい、社会保障制度の概要、民間保険との違い 医療保険制度の趣旨	身の回りの社会保障制度をきっかけとしてどんな制度があるのか、その意義を学ぶ 医療保険制度とは？
第 2 回	保険、医療制度の目的、内容、課題①	医療保険制度の適用、医療サービスの供給体制
第 3 回	保険、医療制度の目的、内容、課題②	医療保険制度の給付、負担①
第 4 回	保険、医療制度の目的、内容、課題③	医療保険制度の給付、負担②
第 5 回	保険、医療制度の目的、内容、課題④	医療保険制度 (高齢者医療制度) の概要、課題 欧米の医療制度
第 6 回	介護保険制度の目的、内容、課題①	介護保険制度の適用、負担
第 7 回	介護保険制度の目的、内容、課題②	介護保険制度の給付、 欧米の介護制度
第 8 回	年金制度の目的、内容、課題①	公的年金制度の適用
第 9 回	年金制度の目的、内容、課題②	公的年金制度の給付
第 10 回	年金制度の目的、内容、課題③	公的年金制度の給付、負担 企業年金等の概要 欧米の年金制度
第 11 回	生活保護、社会手当制度、子育て支援制度の目的、内容、課題	生活保護制度の概要、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当制度等の概要
第 12 回	労働保険制度（雇用保険）の目的、内容、課題	雇用保険制度の概要
第 13 回	労働保険制度（労災保険制度）の目的、内容、課題	労災保険制度の概要
第 14 回	社会保障制度のこれまでとこれから	社会保障制度の歴史（欧米・日本）、現状、今後の方向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習はテキスト通読、復習はテキストと授業時配付のレジュメ、ミニテストで理解を深める。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメと資料を毎回配布しますが、椋野美智子・田中耕太郎著「はじめての社会保障」第 18 版（有斐閣、2021.3 末刊行予定）を教科書とします。

【参考書】
「社会保障論」（社会福祉学習双書 6 ：全国社会福祉協議会出版部）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の結果（60 %）および平常点（40 %）を総合評価します。
平常点は毎回リアクションペーパー（兼ミニテスト）の提出で確認します。
（ミニテストは自己採点であり、評価対象とはしません。）

【学生の意見等からの気づき】
当日授業の冒頭に前回のリアクションペーパー（兼ミニテスト）を返還し、質問等への解説を行いながら前回授業の復習を短時間で行うが、当日の講義予定内容が消化できなくなることのないよう、時間配分に留意したい。

【その他の重要事項】
学期末テストの 6 割程度は毎回の授業の締めに行うミニテスト（＝リアクションペーパーを兼ねているので次の回に返還します）から出題します。授業への出席ができなかった場合は、次の回とかにミニテストのペーパーを入手し、内容の理解をしておくことを勧めます。

【Outline and objectives】
We study the social security system of Japan. It consists of health insurance,nursing-care insurance,pension insurance,unemployment insurance and workmen's accident compensation insurance.
These insurance system are significantly contributed to the stability of the Japanese people's living.
We study the substance,history and function of the each insurance system.
We also study the international comparison of these systems .
The Japanese population is rapidly aging with fewer children,so there are many difficulties to maintain these systems.
We have to consider the sustainability of these systems,for the purpose of keeping the stability Japanese people's living for future.

SOW300JC

精神保健学

行實　志都子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民全体のメンタルヘルスを考え精神疾患の予防・治療・リハビリテーションから精神的健康保持・促進を図るための精神保健とは何かを基礎知識から現代社会の課題などについて理解する。

【到達目標】
1．ライフサイクルに応じたメンタルヘルスの内容や課題を説明することができる。
2．近年に起こる精神保健の課題について理解し、内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
現在はストレス社会ともいわれ、心の健康が注目されることが多いが、授業を受講することで自分自身の心の健康を考えるきっかけにしてもらいたいと考えている。そのため、授業形態は，講義形式が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換を実施し，またリアクションペーパーなどを使った質問等にも答える。
　授業内容は、精神保健の基礎的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。さらにライフサイクルでの課題、精神障害者対策、発達障害、うつ病、自殺予防、アルコール、認知症等を取り上げて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精神保健の概要	①精神保健とは ②ライフサイクルと精神保健 ③生活習慣と精神の健康
2	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方	①精神保健の動向 ②精神保健活動の 3 つの対象 ③精神の健康に関する心的態度 ④障害の受容
3	家族に関する精神保健の課題と支援１	①家族関係における暴力と精神保健 ②出産・育児をめぐる精神保健
4	家族に関する精神保健の課題と支援２	①介護をめぐる精神保健 ②社会的ひきこもりをめぐる精神保健
5	家族に関する精神保健の課題と支援３	①家族関係の課題 ②グループケア ③精神保健支援を担う機関
6	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ１	①学校教育における精神保健的課題 不登校・いじめ
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ２	①教員の精神保健 ②スクールソーシャルワーカーの役割
8	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ	①現代日本の労働環境 ②産業精神保健とその対策 ③職場のメンタルヘルス
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ１	うつ病と自殺予防

10	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ２	貧困問題と社会的孤立
11	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ３	①犯罪被害者等の支援 ②性的マイノリティ ③多文化に接することで生じるメンタルヘルス
12	精神保健に関する発生予防と対策１	①アルコール関連 ②薬物依存、ギャンブル依存に関する問題
13	精神保健に関する発生予防と対策２	認知症高齢者に対する対策
14	精神保健に関連する機関について	①関連法規 ②専門職と国。都道府県、市町村の役割 ③諸外国のメンタルヘルス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各時間ともに２時間とする。
以下の内容の準備・復習を行う
授業準備としては、授業計画及び授業内で次週の授業内容について告知されたものやそのテーマにそって、参考書等や日々のニュースなどを使って予習を行う。また、その時に出た質問については、リアクションペーパーなどを使って質問する。
授業後の復習は、授業内で行ったものについてしっかりと復習、整理をし学期末の期末テストにむけて各自ノートを作成する。さらに、授業の復習用の小テストを受け、理解度を確認する。

【テキスト（教科書）】
最新　精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援　中央法規出版

【参考書】
大人の発達障害をうまく生きる、うまく活かす　小学館新書　田中康雄　笹森理恵
発達障害の子どもと生きる　幻冬舎ルネッサンス新書
友だち幻想　人とひとの（つながり）を考える　ちくまプリマー新書　菅野仁

【成績評価の方法と基準】
授業の復習のために作られた小テスト（30 %）と期末試験（70 %）の割合で授業到達目標に達しているかを判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味等を考えながら、わかりやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
授業時には、レジメを配布する。

【その他の重要事項】
連絡先
yukizane-avs@kuhs.ac.jp
メールを入れるときは、タイトルのところに必ず、
大学名　学籍番号　氏名を　タイトルに入れてください

【Outline and objectives】
What is mental health?
Understand the challenges of mental health in Japan.

ECN300JB

地域経済論

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第１次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】
講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第１次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第 2 回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯 (戦後) を理解する。
第 3 回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯 (高度成長期) を理解する。
第 4 回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯 (低成長期) を理解する。
第 5 回	地域経済の形成過程（ﾊﾞﾌﾞﾙ期期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯 (ﾊﾞﾌﾞﾙ期以降) を理解する。
第 6 回	農業・農村の現場から	第１次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第 7 回	林業・山村の現場から	第１次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第 8 回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980 年代以降の地域経済が直面するｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化の背景を学ぶ。
第 9 回	産業構造の転換と地域経済構造	1980 年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第 10 回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第 11 回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第 12 回	コミュニティ政策の潮流	コミィニティ政策の展開を学ぶ。
第 13 回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習には、各２時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
VTR なども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline and objectives】
In this lecture, we focus on the "regional economy", which is an essential viewpoint for proactively promoting community development. And we also focus on the local economy based on regional resources (in particular the primary industry which is the major industry in rural areas and villages) . we learn the changes and challenges of the local industry in the face of globalization, and the corresponding attempts.

SOW300JC

精神保健福祉論Ⅰ

三木　良子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神保健福祉に関連する法制度の成立の背景を理解する
2. 精神障害に関する法制度やサービスを理解する
3. 法制度や福祉サービスの理解を通して精神保健福祉士としての価値や実践を理解する

【到達目標】
1. 相談援助活動における法律や制度、福祉サービスの知識と支援内容について理解する
2. 精神障害者の支援に係る施設、団体、関連機関等について理解する
3. 更正保護制度と心神喪失者医療観察法等司法福祉について理解する
4. 社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉に係る歴史や理念を理解し、現行の福祉施策の背景や動向について解説する。また、精神障害者をとりまく医療や地域生活に関する具体的な法律や制度及び現状について解説する。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、学習内容の確認
2	精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関連する法律	相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスを概観する
3	精神保健福祉法の成立過程とこれまで	精神保健法福祉法成立までの法律の変遷を理解する
4	精神保健福祉法①	精神保健福祉法の内容を理解する
5	精神保健福祉法②	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する
6	障害者福祉の施策のこれまで	障害者基本法及び障害者プランの背景及び現状を理解する
7	障害者総合支援法	障害者総合支援法制定までの変遷と現状と課題を理解する
8	精神障害者をとりまく施策等の理解	精神障害者を取り巻く福祉施策、支援等を理解する
9	精神保健福祉領域に関連する社会保障制度の概要	精神保健福祉領域に関連する法制度等を理解する
10	相談援助にかかわる専門職①	相談援助における社会資源の役割を理解する
11	相談援助にかかわる専門職②	具体的な事例の理解
12	更正保護制度	更正保護に関する制度や現状を理解する
13	心神喪失者医療観察法	心神喪失者医療観察法の成立過程と現状、課題を理解する
14	社会調査の理解・まとめ	意義と目的、倫理、各種調査法について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に説明する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 30%、定期期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline and objectives】
This lecture course is aimed understand mental health and social service, including mental health and welfare low and any other lows.

CUM300JB

地域文化政策論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】
文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支脈をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第 2 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 3 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 4 回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 5 回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第 6 回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第 7 回	エコミュージアムの機能と地域遺産保護	博物館、エコミュージアム
第 8 回	文化財の類型と保護の歩み	明治期・大正期・昭和戦前期の文化財保護、文化財保護法の制定
第 9 回	文化財の保存と活用（1）	史跡の保存と活用の実態
第 10 回	文化財の保存と活用（2）	伝統的建造物群の保存と活用の実態
第 11 回	文化財の保存と活用（3）	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第 12 回	文化財の保存と活用（4）	名勝・天然記念物・民俗文化財の保存と活用の実態
第 13 回	近年の文化財政策の同行	日本遺産事業、文化芸術基本法
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売)

【参考書】
馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点 – 文化遺産保護から伝統文化の継承へ –』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】
専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。
地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】
This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community.

SOW300JC

精神保健福祉論Ⅱ

三木　良子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神障害者の「その人らしい生活」について理解し、それぞれの人たちに応じた居住支援や就労支援、余暇支援等について理解を深める
2. また、その際の精神福祉士の役割や実践課題などとともに、精神障害者の地域包括支援のための具体的な知識と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
1. 生活の実際と生活支援の意義と特徴を理解する
2. 居住支援に関する制度・施策について理解する
3. 就労支援に関する制度・施策について理解する
4. 地域生活支援システムについて理解する
5. 行政機関における相談援助活動について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神障害者の地域生活を支援するために必要な、概念の理解、法律や制度、支援方法について学ぶ。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパー提出なども求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、内容の確認
2	精神障害者の生活の実際	地域、医療における精神障害者の現状についての基礎知識を理解する
3	精神障害者の生活と権利	地域生活、医療における人権と権利擁護について理解する
4	居住支援①	居住支援制度の概要を理解する
5	居住支援②	居住支援にかかわる専門職とその役割を理解する
6	居住支援③	具体的な居住支援について理解する
7	雇用支援①	雇用・就労の現状を理解する
8	雇用支援②	雇用・就労に関する法律、制度を理解する
9	雇用支援③	雇用・就労支援にかかわる専門職の役割を理解する
10	地域生活支援①	自立と社会参加について考える
11	地域生活支援②	福祉的就労と余暇支援について理解する
12	ソーシャルサポートネットワーク	精神障がいのある人を取り巻くソーシャル・サポートネットワークについて理解する
13	行政における相談支援①	市町村、保健所、精神保健福祉センター等の役割を理解する
14	行政における相談支援② まとめ	行政における精神保健福祉相談について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業で取り扱う内容に関連する文献等を指示し、予習を行う。また、授業時にも復習用の文献を提示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 30%、定期期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline and objectives】
This lecture course is aimed understand mental health and social service including lows for working, housing and other support to live well.

ECN300JB

地方財政論

関口　浩

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地方財政論」は地方公共団体の歳出・歳入を中心とする経済活動のあり方を研究する学問である。地方創生が模索される中で、さまざまな問題点が指摘されつつある。地方財政の理論と歴史を踏まえ、わが国の日本の地方財政制度を中心にその現状と問題点、シャウプ勧告の歴史的意義と限界、さらに時間の許す限り現実問題として脚光を浴びている介護保険、医療保険、保育所の運営等々の福祉と地方財政のかかわり等を概説していく。

【到達目標】
講義を契機として、地方財政の理論と実際そして地方財政制度の基本的な知識を習得することにより、地方財政制度および政策の経済的意義と問題点を明らかにして、地域社会への参加の手がかりを得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
1．新型コロナウイルス感染症が収束しない間は遠隔講義形式を基本とする。毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。なお、本講義では地方財政論で扱う分野全般を、半期講義という制約の下、できる限り取り扱うつもりである。
2．関連科目は「財政学Ⅰ・Ⅱ」(火・2限) であり、併せて履修することが受講生自身の理解度を深めるために望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	1．地方財政の役割〈教科書：第 25 章〉
第 2 回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	2．中央集権化と地方分権化〈教科書：第 25 章〉
第 3 回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	3．地方自治の財政理論〈教科書：第 26 章〉
第 4 回	Ⅱ．政府間財政関係	1．中央と地方の連繋および地方財務〈教科書：第 25〜26 章〉
第 5 回	Ⅱ．政府間財政関係〈教科書：第 26 章〉	2．地方財政分析 (各都道府県・各市町村財政の現状と問題点)
第 6 回	Ⅱ．政府間財政関係	3．国庫補助負担金〈教科書：第 28 章〉
第 7 回	Ⅱ．政府間財政関係	4．地方財政調整制度〈教科書：第 27 章〉
第 8 回	Ⅲ．地方税	1．地方税原則と地方税体系〈教科書：第 29 章〉
第 9 回	Ⅲ．地方税〈教科書：第 16、29 章〉	2．住民税 3．固定資産税
第 10 回	Ⅲ．地方税〈教科書：第 17、18、19、29 章〉	4．事業税 5．地方消費税 6．受益者負担
第 11 回	Ⅳ．地方債〈教科書：第 30 章〉	1．地方債の特性と機能 2．地方債許可制から協議制へ
第 12 回	Ⅳ．地方債	3．地方債発行・消化の問題〈教科書：第 30 章〉
第 13 回	Ⅴ．福祉と政府間財政関係	1．介護保険財政の諸問題〈教科書：第 12 章〉
第 14 回	Ⅴ．福祉と政府間財政関係	2．保育所財政の諸問題〈教科書：第 12 章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習にあたり２時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に２時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、令和元年。

【参考書】
1．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
2．片桐正俊編『財政学 (第３版)』東洋経済新報社、平成 26 年。
3．その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
1．評価については第 1 回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2．目安として、定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「地方財政論」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】
詳細については第 1 回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

【Outline and objectives】
We learn the basics of "local public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

SOW300JC

高齢者福祉論

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高齢社会や、高齢者「問題」の実像について理解を深め、高齢者自身と家族にとっての老後保障制度と高齢者福祉政策、社会システムの方向性を考えます。

【到達目標】
高齢社会において老いる意味を理解します。さらには、高齢者自身と家族にとっての老後保障制度と高齢者福祉政策、社会システムの方向性を考え、これからの高齢者福祉を展望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
老いに関する先行研究整理、高齢者「問題」については最新の統計的データを用いて講義します。高齢者福祉政策、社会システムの内容、具体的な援助方法、国際比較から理解を深めます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。授業内容や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュール
第 2 回	現代社会と高齢者の問題	人口構造、社会構造、家族構造の変化と諸問題を理解する
第 3 回	老いとは何かー老年期の特質	老いについて老年心理学から理解を深める
第 4 回	高齢期の身体的特性と高齢期に現れる疾病	老化、疾病、ターミナルケアなど、老年医学から理解する
第 5 回	認知症（痴呆症）とその他の精神疾患	認知症の特質、症状、対応など老年精神医学から理解する
第 6 回	高齢者の生活の実態①	定年退職後の経済、年金、就業などの実態を把握する
第 7 回	高齢者の生活の実態②	住環境、バリアフリーの実態、住宅制度・など理解する
第 8 回	高齢者の社会参加と生涯学習	高齢者の社会参加、地域活動、生涯学習などを把握する
第 9 回	高齢者福祉の歴史的展開	高齢者福祉制度やケアの歴史的展開の特徴と継承の把握
第 10 回	高齢者福祉制度・政策とその特徴	主要な法制度の内容、仕組みを把握し問題点の考察
第 11 回	介護問題と介護保険制度	介護問題の構造的把握、介護保険制度の役割、機能の把握
第 12 回	介護問題と援助方法	ケアマネジメントなどの援助事例と援助計画の立案
第 13 回	地域包括支援システムと介護予防	地域包括支援センターの役割や機能、問題や課題への理解
第 14 回	諸外国と日本の高齢者福祉の展望	国際比較を通じて、日本の高齢者福祉のあり方の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備として、新聞、雑誌、インターネットなどで、高齢者福祉情報を得てください。また、復習として講義中配布のレジュメや資料を整理し学んだことを各自でノートにまとめてください。各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義中に紹介します。

【参考書】
村川浩一他（2017）『改訂版　高齢者福祉・支援論』第一法規など、講義初回ならびに各回、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%), 授業内小レポート課題の内容（10%) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
多人数講義ですのでアクティブラーニングがで不十分でしたが、今後は、グループ・ディスカッションなどで受講生とともに意見交換しながら、高齢者福祉への理解を深めるように講義を工夫します。

【その他の重要事項】
本講義は社会福祉士国家試験科目であるため、受験準備のための動機づけをおこないます。社会福祉小六法や行政資料等を活用してください。

【Outline and objectives】
Learn to understand the real images of "Problems" of the aged resulting from the advancement of aging society in Japan. By utilizing available statistics, voice of the aged themselves, and case studies from other countries, we will also examine the following issues : social security system, government measures for the aged, and the current status of social system for the aged and their families in an era of rapid declining birthrate.

ARSk300JB

地方自治論

中嶋　学

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都道府県、市町村、特別区といった自治体が地域における政治と行政を担っており、地域の課題・問題を解決するために、政策を作成し、実施しています。しかし、近年、自治体が解決を求められている子育て・教育、高齢者福祉、まちづくりなどの課題・問題の多くは、複雑な要因が絡み合い、既存の解決策が通用しない「厄介な問題（wicked problem）」であり、その解決のために、自治体は、企業、NPO、住民と連携・協働することが必要になります。
この講義では、地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加し、それぞれの専門性を活かして連携・協働するための仕組み、つまり、政策を形成・実施する体制を、どのようにデザインし、どのようにマネジメントするかについて学習します。

【到達目標】
・地方自治論の基礎的な知識を習得する。
・自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて論理的に思考するための概念・枠組みを習得する。
・概念・枠組みを活用し、自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1 回の授業で 1 つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。
授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもありえます。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施も考慮します。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第 2 回	地方自治の担い手①	首長、議会、公務員、住民の役割についての説明。
第 3 回	地方自治の担い手②	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第 4 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	取引費用理論についての説明。
第 5 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	エージェンシー理論についての説明。
第 6 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	資源依存理論についての説明。
第 7 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	組織エコロジー理論についての説明。
第 8 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	制度理論についての説明。
第 9 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	ネットワーク理論についての説明。
第 10 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	組織（間）信頼についての説明。
第 11 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑧	組織（間）学習についての説明。

第 12 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑨	合意形成についての説明。
第 13 回	子育て・教育に関する政策形成・実施体制	組織間関係論の観点による子育て・教育に関する政策の考察。
第 14 回	高齢者福祉に関する政策形成・実施体制	組織間関係論の観点による高齢者福祉に関する政策の考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 時間程度かけて授業時に配布する資料を読んでください。該当箇所の学習に 1 時間程度割くことができれば、授業の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
授業中に資料を配布します。

【参考書】
・北村亘・青木栄一・平野淳一（2017）『地方自治論－ 2 つの自律性のはざまで』有斐閣
・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック 地方自治 ［新版］』北樹出版
・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山 俊哉（2020）『公共政策学の基礎［第 3 版］』有斐閣
・渡辺深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート 70 %
（データなどの客観的な事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察がみられるか、レポートの形式が適切かを評価します）
・小レポート 30 %
（授業内容への理解が示されているか、自分なりの考察が記述されているかを評価します）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Local governments face complex problems (e.g., health and human services, economic development), which no single organization can address. For example, the well-being of mentally ill children and youth depends on comprehensive, integrated, and individualized services including mental health treatments, social services, education, and vocational services, rather than a single excellent service in any of the service areas. Thus, local governments need work with business and non-profit sectors to make and implement public policy; and, goal-directed inter-organizational networks, composed of three or more organizations to collectively achieve a common goal, have become a prevalent organizational arrangement. Such goal-directed inter-organizational networks address complex problems, by integrating resources, information, expertise, and perspectives possessed by differently-endowed organizations. In public administration and policy research, they are known as “collaborative networks.” While the involvement of diverse organizations does enhance the capacity of collaborative networks to address complex problems, it also brings about negative consequences — namely difficulties of cooperation and coordination resulting from the differing (sometimes, even conflicting) goals, strategies, perceptions, and ways of working among diverse network participants. Because of the cooperation and coordination challenges, it is recognized that network management is essential to produce satisfactory network outputs and outcomes. This class is designed with an emphasis on two objectives: (1) understanding key concepts in inter-organizational theory and (2) applying the concepts for designing and managing collaborative networks.

SOW300JC

児童福祉論

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、子どもと家族をとりまく問題と、それに対応する制度や実践について体系的に学ぶことを目的とする。履修者は、本科目だけで完結することなく、他の社会福祉分野にも関心をもち、相互理解の中で考察を深めてもらいたい。

【到達目標】
・現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて理解する。
・児童福祉制度とサービスについて、現場における実践もふまえて理解する。
・特に、子どもの権利と虐待問題、そして社会的養護に関しての理解と考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと彼らを取り巻く環境について、また②子ども家庭福祉の理念と概念を概観し、③子どもの権利も含めた子どものとらえ方を歴史的経緯の中で把握する。一方、④子ども家庭福祉に関わる法律や福祉援助サービスについても、現状と課題の検討を含めながら理解を深めていく。最後に、⑤今後の子ども家庭福祉の可能性についても考察する。
授業では、子ども家庭福祉にかかわるゲストスピーカーから現場の実践についても学ぶ。
リアクションペーパーは、次回以降の授業において名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、現代の子ども・家族の生活	授業の進め方、自分が子どもだったころ、子どもの定義、子どもと家族の生活と社会
第 2 回	子ども家庭福祉（児童福祉）の歴史	海外と日本における児童福祉の歴史、児童福祉から子ども家庭福祉へ
第 3 回	子どもの権利と福祉	子どもの人権・権利保障、保護としての子ども・権利主体としての子ども
第 4 回	子どもを守るしくみ	子ども家庭福祉にかかわる法制度、国・都道府県・市町村の役割
第 5 回	生命倫理と母子保健	母子保健法と諸サービス、子育て世代包括支援センター、出生前診断と母子保健
第 6 回	少子化対策と子育て支援、現代における保育とは	少子高齢社会の子育て、少子化対策と子育て支援策の検討、社会福祉における保育、待機児童問題、保育ソーシャルワーク
第 7 回	学齢期の子どもの教育と福祉	学齢期を考える、児童健全育成事業、教育と福祉の重なり、スクールソーシャルワーク
第 8 回	障害と子ども・家族	「障害」とは何か、障害のある子どもに関する制度と支援の仕組み、障害のある子どもの育ちと家族
第 9 回	子ども虐待－予防・発見から介入・支援	児童虐待の定義と現状、児童虐待対応制度の変遷、他機関連携、虐待予防と課題
第 10 回	社会的養護―子育ての自己責任と社会的養護	社会的養護とは、社会的養護に係わる施設と里親など、社会的養護の課題
第 11 回	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、貧困の世代的再生産、子どもの貧困に対する対策と課題
第 12 回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状、ひとり親家族に関する制度・サービス、DV 問題、ひとり親家族と社会
第 13 回	非行少年の背景と支援	非行少年のイメージと実際、少年保護の理念と保護処分、少年法改正、非行少年支援を考える
第 14 回	子ども家庭福祉の担い手	子ども家庭福祉の担い手とは、専門職の専門性とは、多職種連携と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、授業のトピックに関して、事前に身の回りのニュースなどに目を通しておくこと。授業では必要に応じて、授業内課題や、授業の終わりにリアクションペーパーの提出を求める。授業を踏まえてテキストの該当箇所を復習すること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2020）『子ども家庭福祉―子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院

【参考書】
『児童福祉六法』

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、講義内課題（30 %）、定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生が発言する機会をより多く提供する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introductory understanding of the social welfare of children and families.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline and objectives】
Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

SOW300JC

障害者福祉論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの障害者施策の展開と現在の障害者施策、そして今後の施策の動向について学び、「わたしたちみんな」の Well-being を考えていきたいと思います。

【到達目標】
暮らしの安寧を支援していく対人支援サービス体系の枠組みを理解する。そして「わたしたちみんな」の Well-being に向け、方策を考えていくために地域の「暮らし」の中で見えてくる障害を捉える「目」と実践に際しての「心」を育むことを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「障害」と向き合って生活をしている当事者の語りなど、具体的事例を題材としながら社会福祉専門職として現行の制度や課題をどのようにとらえていくのか検討していきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 障害者・障害の概念	講義の進め方とグループワークと個人ワークについての説明を行う。
第 2 回	障害者福祉を支える理念	障害者福祉を支える理念について学ぶ。
第 3 回	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。
第 4 回	ゲストスピーカーによる講義による障害理解	講義をもとにグループワークを行う。
第 5 回	障害者運動	グループワークにより障害者運動の歴史と意義について学ぶ。
第 6 回	障害者福祉がかかわる法体系	グループワークにより現在の障害者福祉の法体系について学ぶ。
第 7 回	障害者自立支援法の成立	グループワークにより障害者自立支援法がどのように誕生したのかということについて学ぶ。
第 8 回	障害者自立支援法下 (総合福祉法）のサービス体系	グループワークにより障害者自立支援法（総合福祉法）の具体的なサービスについて学ぶ。
第 9 回	ゲストスピーカーによる講義に基づき障害理解	講義をもとにグループワークを行う。
第 10 回	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
第 11 回	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
第 12 回	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
第 13 回	障害者福祉の今後	日本国内において、現在進行している障害者制度改革について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中やテキスト中の参考文献のから興味をもったものを精読し、グループワークおよび個人ワークの内容を充実させる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義中の課題５０％、期末試験：５０％

【学生の意見等からの気づき】
講義・ゲストの講義・レポートなど多彩な取り組みをしております。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
　精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives.At the seminar We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

ECN300JB

福祉行財政と福祉計画

金　吾燮

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義や目的、方法などに関する基礎的事項を分野横断的に理解することを目指します。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通科目。

【到達目標】
福祉行財政及び福祉計画に関する国家試験水準の基本的事項を理解し適切に説明できる。地方自治体の福祉行財政及び福祉計画を調査し、その特徴を考察し適切に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の主な内容は、①福祉行政の実施体制 (国と地方、福祉行政の組織や専門職の役割)、②福祉行財政の動向、③福祉計画の意義と目的、④福祉計画の主体と方法、⑤その実際です。授業は各回講師が提示する資料を素材に体系的に講義し、分野横断的な視点から接近します。各回、リアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉行政の実施体制	本授業の概要と国と地方の役割
第 2 回	福祉行政の地方分権	国と地方の関係
第 3 回	福祉行政の財源	国と地方の福祉財源
第 4 回	福祉行政の組織の役割	各種福祉機関の役割
第 5 回	福祉行政の専門職	各種福祉機関の専門職の役割
第 6 回	福祉行財政の動向	社会保障関係費と民生費
第 7 回	福祉計画の意義と目的	福祉計画の目的と住民参加
第 8 回	福祉計画の主体と種類	福祉計画の主体と種類
第 9 回	福祉計画の内容	盛り込むべき計画内容
第 10 回	福祉計画の策定過程	問題分析と合意形成過程
第 11 回	福祉計画の策定方法	課題発見と住民参加の方法
第 12 回	福祉計画の評価方法	PDCA サイクルと計画評価
第 13 回	福祉計画の実際	福祉計画事例の検討
第 14 回	まとめ	本科目の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目のテーマに関する理解を深めるために、授業計画によって予め提示されている各回のテーマについて、参考文献や新聞記事等を調べわからない用語をチェックしておくなど、事前学習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを教材として使用し、特定の教科書を使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（20 %）、レポート課題（30 %）、筆記試験（50 %）による。平常点は、リアクションペーパーにおける授業理解度と説明力を評価。レポート課題は 2 回課し、調査力、考察力、説明力等を評価。筆記試験は授業内容の理解度及び説明力を評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is that the attendance students become to be able to understand the basic matter about the welfare administration and social welfare plan transversely. Therefore the contents of this class include the enforcement system of the social welfare administration and a trend of the welfare finance, and the social welfare plan.

SOW300JC

家族福祉論

新藤　こずえ

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代における家族がもつ諸課題を理解し、福祉の視点から家族を支援する方法を学ぶ

【到達目標】
・現代における家族の諸課題を理解できる
・家族福祉の実際を理解できる
・家族支援の方法を検討できる
・家族の課題を家族政策の視点から批判的に検討できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・オンラインによる講義形式を中心とする
・事例検討ではグループワークを行うことがある
・必要に応じてリアクションコメントの提出を求める
・課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の全体像の説明
2	家族福祉の視点①	家族とは何か
3	家族福祉の視点②	家族を理解するための概念
4	家族福祉の視点③	家族福祉の対象と方法
5	家族福祉の実際①	子どもと家族福祉〜児童虐待を中心に〜
6	家族福祉の実際②	子どもと家族福祉〜専門職の役割を中心に〜
7	家族福祉の実際③	ひとり親と家族福祉
8	家族福祉の実際④	障害児と家族福祉
9	家族福祉の実際⑤	障害者と家族福祉
10	家族福祉の実際⑥	女性と家族福祉
11	家族ソーシャルワーク①	視座と方法
12	家族ソーシャルワーク②	事例検討〜事例の理解を中心に〜
13	家族ソーシャルワーク③	事例検討〜支援プロセスを中心に〜
14	家族福祉の課題と展望	家族政策の視点からの検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提示するテーマに沿った文献・資料を収集し、レポートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は設定しない
下記参考書をベースとするので適宜参照すること

【参考書】
川村匡由編『家族福祉論』ミネルヴァ書房
宮本みち子ほか編『リスク社会のライフデザイン』NHK 出版
新藤こずえ『知的障害者と自立－青年期・成人期におけるライフコースのために』生活書院
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020）『子ども家庭福祉－子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院
杉田真衣・谷口由希子編『大人になる・社会をつくる―若者の貧困と学校・労働・家族』明石書店
畠中宗一編『よくわかる家族福祉（第２版）』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
レポート 50 %
授業内課題およびリアクションコメント 50 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度では全面オンライン授業であったため、web に授業資料をアップするとともに、リアルタイム授業を録画し、授業後に録画データを視聴できるようにした。通信環境等の問題でリアルタイムに出席できなかった学生には好評であった。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を実施するため、授業を視聴するためのパソコン等の情報機器が必要です。資料配布や課題提出等は学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
対面授業を行わないオンライン授業で実施します。授業時間はリアルタイム Zoom を基本とし、一部を録画授業によるオンデマンド配信とします。

【Outline and objectives】
Understand the various issues facing families today and learn how to support families from a welfare perspective.

SOW300JB

保健医療サービス

岡田　栄作

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、保健・医療・福祉に関連した制度や関係法規と基礎知識や基礎理論についての理解を深め、保健医療福祉行政のマネジメントの視点から、社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。

【到達目標】
①保健医療・福祉活動における基本理念と目標について理解し，説明できる。
②保健医療と福祉、各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動や福祉政策の実際や動向について理解できる。
③行政における保健医療活動や福祉政策の役割と重要性が理解できる。
④住民の健康を支え、健康な地域づくりをすすめるための制度や活用方法が理解できる。
⑤保健医療に携わる専門職の役割と、連携・協働体制について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を基本とし、場合によってはグループワーク形式の演習も行う。毎回の講義前にチェックインシート、講義後に振り返りシートを配布する。講義に臨む上で事前に自己課題を設定し、講義後は自己課題の達成度確認を行いながら進めていく。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	保健医療と福祉を学ぶ意義〜健康ってなんだろう〜	保健医療福祉活動の基本理念と健康とは何かについて学ぶ。
第 2 回	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーション	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーションを推進する重要性について学ぶ。
第 3 回	成人保健と健康増進	健康増進法や健康日本 21、生活習慣病対策について学ぶ。
第 4 回	母子保健と児童福祉	母子保健と児童福祉は密接に関連していることを知り、育児環境整備について学ぶ。
第 5 回	高齢者保健と介護予防	高齢者の保健事業と介護予防は一体的に進めていけるのか可能性と実際について学ぶ。
第 6 回	医療ソーシャルワーカーの働きと業務の枠組み	ゲストスピーカーを呼び、医療ソーシャルワーカーの業務指針を概観しながら業務を理解する。
第 7 回	居住環境と健康	居住環境は健康と福祉に密接に関連することを学ぶ。
第 8 回	労働衛生と健康	働き方と健康は密接に関連することを学ぶ。
第 9 回	ソーシャルキャピタルと健康	地域のつながりは健康に関連することを学ぶ。
第 10 回	国際保健と医療	国際保健と医療の関連について学ぶ。
第 11 回	健康危機管理Ⅰ〜感染症編〜	感染症に対する健康危機管理について学ぶ。
第 12 回	健康危機管理Ⅱ〜防災編〜	災害に対しての身の守り方、地域協働、健康危機管理について学ぶ。
第 13 回	地域包括ケアと多職種連携	地域包括ケアの実際と専門職連携の課題について学ぶ。
第 14 回	住民と協働して地域づくりをすすめるための保健と福祉	住民と地域づくりを進めながら、どうやったら協働して、保健と福祉を推進できるかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オンライン講義の場合は、事前学習として、チェックインシートの中に講義のポイントと課題を入れ込み、講義後の振り返りシートで復習ができるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書指定はなし。毎回、講義資料を提示し、適宜、参考図書等を紹介

【参考書】
「公衆衛生がみえる 2021-2022」，メディックメディア，2021.

【成績評価の方法と基準】
レポート 50 %、講義毎の振り返りシートによる自己評価 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義後の振り返りシートの中に通信欄を作り、皆さんからの要望を聞いて、随時、講義に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを活用する。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
In this lecture, students will learn about systems and related laws and regulations as well as basic knowledge and fundamental theories related to health, medical care, and welfare. Students will systematically learn about the principles and systems of social welfare from the perspective of the management of health and medical welfare administration.

HSS300JC

精神科リハビリテーション学

行實　志都子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神科リハビリテーションの概要・プロセス・スキルを理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。

【到達目標】
現在、ストレス社会と呼ばれ、「心の健康」が注目されている。また、コロナ禍において、コロナ鬱、自殺、アルコール問題など私たちの生活を脅かしてしまうことが身近に存在する。この授業では、医学的な視点からのリハビリテーションではなく、その人一人ずつの生活に視点をあて、その人が今度どのような生活を送っていきたいのかという「生活者」という視点から、その人の人生を取り戻していくためのリハビリテーションを考えていくものである。そのためのに精神科リハビリテーションの目的を踏まえ、それらに必要な技術、理念を理解し、精神保健福祉士が精神科リハビリテーションを行えるための知識等を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は，講義が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換、演習、リアクションペーパーを使って、学生の理解度に沿って授業を進める。
さらに、リアクションペーパー等で出てきた質問に関しては、次の授業開始時にそれらの内容を紹介しながら、解説を行う。また、授業後に行ってもらう小テストにおいても授業時に解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	①精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 ②精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
2	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則１	①精神障害リハビリテーションの理念と定義 ②医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則２	精神障害リハビリテーションの基本原則
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則３	地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義
5	精神障害リハビリテーションの構成及び展開１	①精神障害リハビリテーションの対象
6	精神障害リハビリテーションの構成及び展開２	チームアプローチ
7	精神障害リハビリテーションの構成及び展開３	精神障害リハビリテーションのプロセス
8	プロセスの内容と実施機関１	医学的リハビリテーション ・精神科作業療法 ・行動療法 ・認知行動療法
9	プロセスの内容と実施機関２	医学的リハビリテーション ・集団精神療法 ・依存症回復プログラム ・デイケア等
10	プロセスの内容と実施機関３	職業的リハビリテーションプログラム
11	プロセスの内容と実施機関４	社会的リハビリテーションプログラム
12	プロセスの内容と実施機関５	①教育的リハビリテーションプログラム ②家族支援プログラム
13	プロセスの内容と実施機関６	①リハビリテーションプロブラム ②当事者活動や家族のリハビリテーション
14	プロセスの内容と実施機関７	依存症のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
【それぞれのポイント】
学生は、授業準備にあたり、授業計画及び授業時間内で伝えらられた次回のポイントについて参考書等を使い、授業の準備を行う。その時に生じた疑問点などについては、授業時のリアクションペーパーなどを使って質問をする。
授業後の復習については、授業でやったところを復習するだけでなく、自分で整理し学期末の期末試験のためのまとめを行う。また、授業の理解度を図るための小テストを受ける。
精神障害者については、日ごろから接する機会ない場合などは、ボランティア活動に行くことやニュースなどで精神障害者に関する項目について目を通しておくことも必要である。

【テキスト（教科書）】
最新　精神保健福祉士養成講座　精神障害リハビリテーション論
中央法規

【参考書】
心の病　回復への道　岩波新書　野中猛

【成績評価の方法と基準】
授業復習のための小テスト（30 %）期末試験（70 %）において、目標達成への達成度により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
精神障害者の人は、どんな生活のしづらさがあるかなどイメージをもってもらいながら、理解できるように授業を展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業時には、レジュメを配布する

【その他の重要事項】
連絡先
yukizane-avs@kuhs.ac.jp
メールをするときには、必ずタイトルに
大学名　学籍番号　氏名を記入してください

【Outline and objectives】
Understand the outline,process,skills of psychiatric rehabilitation performed by psychiatric social wokers.

POL300JB

政策評価論

石井　義之

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政の仕事の中で、その政策の効果を評価することは大変重要なプロセスとなっています。そこで本講義では、政策の立案と評価に関連する各論について学びます。政策については、地域づくりやコミュニティに関連するものを中心に学び、考えることとしています。そうした政策について考えることで、行政の仕事のあり方を知るとともに、政策立案力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
政策の立案から評価に至る行政の仕事について身につけ、地域やコミュニティの現場で政策やまちづくりの取組を企画できる知見・能力を獲得することを目的とします。
地域と関わる仕事や研究をしたい学生向けの授業となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回のテーマに応じて事例紹介を含めた講義を行います。講義では、グループワークや作業を行うほか、意見を書いて提出してもらうこともあります。テーマによっては、映像資料も用いる場合や、ゲスト講師を招くことがあります。リアクションペーパーやレポートの提出を求めますが、記載されたコメント等について、次回以降の講義で取り上げたり内容に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方を説明します。また、講義内容について詳しく解説します
2	政策立案と評価①	政策とその立案過程について実例とともに解説します
3	政策立案と評価②	政策評価の取組について紹介します
4	地域課題と政策	地域で起きている課題を政策につなげる過程を考えます
5	高齢化の現状と取組①	高齢化が起きている地域の状況を解説します
6	高齢化の現状と取組②	高齢化する地域で必要な取組について議論します
7	政策と評価の実際①	政策の立案から実施、評価までの実際について紹介します
8	地域と行政の協働	住民と行政が共に地域課題に取り組む実例を紹介します
9	団地再生の取組と地域協働①	団地を活性化する取組について紹介します
10	団地再生の取組と地域協働②	団地活性化の取組についてグループで議論します
11	議会と行政	議会と行政の関係について解説します
12	ＥＢＰＭとは	エビデンスに基づく政策立案について解説します
13	政策と評価の実際②	政策の立案から実施、評価までの実際について紹介します
14	講義のまとめ	講義全体の振り返りを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
行政に関するニュースや情報に触れることを心掛けてください。適宜、意見等を講義の中で発表してもらう予定です。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート（2 回）　70%、平常点　30%

【学生の意見等からの気づき】
講師作成資料（パワーポイント）について配布の要望があったため、支障のないものは学習支援システムに掲載する予定です

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn various topics related to policy planning and evaluation.　Mainly, we'll learn on the policy for community improvement. By thinking about such policies, the purpose is to learn the role of administrative work and to acquire policy-making skills.

PSY300JC

異文化心理学

奥山　今日子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】
この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「ほくはくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング（2）	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き)。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴　（解説付き)。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き)。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き)。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き)。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『こころの処方箋』　河合隼雄　新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline and objectives】
The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries.Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it.I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

SOW300JB

司法福祉論

辰野　文理

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司法福祉の領域から「更生保護」を中心に制度の仕組みや意義を学習する。更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることにより再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける仕組み全体を指す。更生保護の対象と福祉の対象は重なることが多く、支援内容も共通する事柄が多い。とくに近年は、犯罪を犯した高齢者や障害者を福祉につなぐ役割として、社会福祉士の役割が重要となってきている。
そこで、本講義では、主に社会福祉士に関心のある学生さん向けに、更生保護に関する基本的な事項を解説する。学生の皆さんは、本講義の学習を通じて、社会福祉士として活動するために必要となる更生保護に関する基礎的知識を習得できる。

【到達目標】
1. 更生保護制度における基本的用語の意味を説明できる。
2. 制度の種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
3. 制度に関する統計類を利用し、その現状を説明できる。
4. 制度に関わる人々や、関連する機関の概要を説明できる。
5. 制度の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、テキストに沿って各事項の概要を講義により学習した上で、基本的事項の振り返りを行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、区切りごとに、解説、講評を行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、更生保護の概略	犯罪動向を把握した上で、テキスト１章をもとに、更生保護の役割や意義を考える。
2	保護観察の概要	テキスト２章をもとに、保護観察の対象（種類）やそれぞれの概要などを学習する。
3	保護観察の方法	テキスト３章をもとに、保護観察の具体的な方法について学習する。
4	仮釈放等の手続き 生活環境の調整	テキスト４章をもとに、仮釈放の基準や手続、生活環境の調整の方法や意義を学習する。
5	保護観察の良好措置、不良措置	テキスト５章をもとに、保護観察における良好措置、不良措置を学習する。
6	更生緊急保護等	テキスト６章をもとに、更生緊急保護等の対象や内容を学習する。
7	更生保護施設	テキスト７章をもとに、更生保護施設の概要を学習する。
8	更生保護の機関、民間協力組織	テキスト８章をもとに、更生保護に関わる機関や民間協力者について学習する。
9	犯罪被害者等施策	テキスト９章をもとに、更生保護における犯罪被害者等施策の概要を学習する。
10	犯罪予防活動	テキスト 10 章をもとに、更生保護における犯罪予防活動の概要を学習する。
11	医療観察制度	テキスト 11 章をもとに、医療観察制度の概要を学習する。
12	関係機関との連携	テキスト 12 をもとに、更生保護と関係する機関を学習する。
13	更生保護における近年の動向、課題と展望	テキスト 13 章をもとに、更生保護に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習した上で、今後の展望を考察する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間、テキストの該当箇所に目を通して授業に臨む（２時間）。授業後、学習した範囲を振り返り問題を中心に復習する（２時間）。また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業で下記を使用する（初回から使用する）。
辰野文理『要説 更生保護（第３版）』成文堂、2018 年

【参考書】
・法務省保護局のサイト
（http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html）
・藤本・生島・辰野 (編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
授業中、振り返りの確認テストを行いその履修状況を評価する（20%）。
全範囲学習後に基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（80 %）。
成績の評価はこれらを総合して 100 点満点として行い、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
多くの受講生にとって犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】
法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".
"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.
The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".
Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.

PSY300JC

家族心理学

松本　聡子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して，基礎的な事項をふまえたうえで，心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】
・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ，家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前半では，家族について概説を行ない，そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では，家族をとりまく諸問題として少子高齢化，環境，労働などを取り上げ，現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので，配布資料には必ず目を通すようにしてください。また，リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜行う予定です。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要説明
第 2 回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第 3 回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第 4 回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第 5 回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第 6 回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第 7 回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第 8 回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第 9 回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第 10 回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第 11 回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第 12 回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第 13 回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第 14 回	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の際に配布するプリントなどを見ながら，前回の内容を復習したうえで，講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので，日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出　　30 %
学期末試験　　70 %
家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき，結果が出次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり，講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は，授業の進行や状況により変更があり得ます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. Based on such understanding, we will consider topics such as definition of family, family development, and current issue of families in Japan.

SOW300JB

国際協力論

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
外務省　開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

PSY300JC

教育・学校心理学

前田　基成

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、学校現場では不登校やいじめ、発達障害など様々な困難をもつ児童生徒に対して多様な支援が行われています。この授業では、学校心理学について体系的に学ぶとともに、学校という場における支援について理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
学校心理学の理論・知見を学ぶとともに、様々な困難をもつ児童生徒の心理的・発達的・対人的背景を理解し、理論的・具体的な支援について考えることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に授業を行いますが、必要に応じて映像資料を用います。また、小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育の制度・法律・倫理	教育に関する権利と義務、学校教育制度と法律について学習する。
2	教育現場において生じている諸問題	いじめ、不登校など、学校教育現場で生じている諸問題について学習する。
3	発達と教育 (1)	認知・言語の発達とそれに即した教育について学習する。
4	発達と教育 (2)	感情・社会行動の発達とそれに即した教育について学習する。
5	教授・学習 (1)	感情・社会行動の発達とそれに即した教育について学習する。
6	教授・学習 (2)	動機づけと学習意欲、集団と学習などについて学習する。
7	心理学的支援 (1)	集団に対する支援と学級づくり・授業づくりについて学習する。
8	心理学的支援 (2)	効果的な個別支援、教師-生徒の人間関係について学習する。
9	カウンセリング	学校教育におけるカウンセリングの理論と実際について学習する。
10	心の健康教育	精神的健康と精神的健康を維持・増進する教育について学習する。
11	いじめ	いじめの心理と対策・支援について学習する。
12	不登校	不登校の心理と支援について学習する。
13	非行と犯罪	非行の心理と支援について学習する。
14	教育における心理学的アセスメント	学習の達成度、情緒的・社会的側面のアセスメントについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で扱った内容に関する新聞記事や文献等を調べること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点 80 %と平常点（リアクションペーパーと小テスト）30 %を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【Outline and objectives】
Various support is carried out for a student having various difficulty, developmental disorder, school refusal and bullying, at school recently. The purpose of this class is to understand the school psychology systematically and am intended to deepen understanding about the support in the school.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川　耕一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
題目「福祉国家―形成・展開・未来―」
どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題である。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】
・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
・社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第 11 回	家族の変容と改革	1990 年代の改革
第 12 回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第 13 回	移民と福祉	難民危機（2015 年）
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ペースに合わせて、文献を読む。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解すること。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の家庭学習を必要とする。
・山崎史郎『人口減少と社会保障』は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
菊池馨実『社会保障再考』（岩波新書　2019 年）
田中拓道『福祉政治史』（勁草書房　2017 年）
二宮元『福祉国家と新自由主義―イギリス現代国家の構造とその再編』（旬報社　2014 年）
平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』（ミネルヴァ書房　2003 年）
水島治郎『反転する福祉国家―オランダモデルの光と影』（岩波書店　2012 年）
山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書　2017 年）
パット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房　2000 年）

【成績評価の方法と基準】
1．学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2．筆記試験の得点（7 割）、平常点（3 割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
板書があまりシスティマテックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline and objectives】
Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

PSY300JC

教育心理学特講

安齊　順子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで教育心理学という科目で教えられてきたジャンルの中で、認知心理学的分野に臨床心理学的視点も併せて詳しく学ぶ。基本的な知識と、現代の子供をめぐる社会における問題への対応策や発達障害などの問題について併せて習得することを目的とする。学生は授業を通じて教育心理学の知識に加え子どもの問題を心理学的に理解するための展望を学ぶ。

【到達目標】
学生がこれまで習得した心理学知識と融合した形で、学校での諸問題への対応策をイメージすることや対応ができるようになることを目標とする。
加えて、過去の心理学、教育心理学の理論を習得し、幅広い知識を獲得することを目標とする。学生は現代の学校でスクールカウンセリング等現実に行われている対処法や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性があるが、大学の方針に準ずる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は大学に指示された該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育心理学とは、歴史	教育心理学という科目の成り立ち
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	学習と動機づけ	学習と動機づけについて学ぶ
4	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（幼児・児童期）	幼児期、児童期の心理的問題について学ぶ
5	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（青年期）	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学級の心理学、集団とは何か	具体的には、いじめなどについて学ぶ
7	脳の発達と心	子どもの脳と心について学ぶ
8	パーソナリティの理解	人格理解とその歴史について学ぶ
9	パーソナリティの理解 2	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
10	学校におけるカウンセリング、不登校	諸問題のうち不登校について学ぶ
11	学校で使えるカウンセリングの技法	様々な技法について学ぶ
12	学校で使える技法	アンガーマネジメント教育などのグループワーク
13	スクールカウンセラーの理解と活用	学校に配置されているスクールカウンセラーの仕事内容や活用を学ぶ
14	心理教育的援助サービス	発達障害について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環他著　北樹出版

【参考書】
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
試験を行う（70 %）。授業態度やリアクションペーパーなどの授業への反応も評価に含めることがある（30 %）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回感想をとり次回の参考にする。昨年の感想から、学ぶ学生に知識のばらつきが見られるため、リアクションペーパーで反応を確認し、理解が深まっていない点については、次回の授業で取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの経験があるため、その体験を説明する。臨床心理士の資格を持っているため、その資格について説明する場合がある。

【Outline and objectives】
Educational Psychology

ENV300JB

環境政策論

藤澤　浩子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】
学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策はＰＤＣＡサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題： FW 後、フィールドノートを作成提出する。
第 2 回	オリエンテーション 2 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第 3 回	SDGs について	SDGs 関連情報（国際的取組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第 4 回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第 5 回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第 6 回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第 7 回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第 8 回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第 9 回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等
第 10 回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第 11 回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第 12 回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO 等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD 視聴等）
第 13 回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第 14 回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
東京商工会議所（2021）『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト　改訂８版』。
その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】
倉阪秀史 (2014)『環境政策論（第 3 版)』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義： SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編 (2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点 70 %、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】
過去 9 年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワークやクラス単位での全体ワーク（ワークショップ）を行ってきました。昨年度（2020 年度）はオンライン形式での開講となり行えませんでしたが、過去 9 年間の全体ワークは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】
受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
新型コロナ感染リスクを考慮し、グループワーク形式の取組みは見合わせます。オンライン実施等の可能性を考慮し、共通テキストをベースに講義を進行します。

【Outline and objectives】
Citizen's independent participation and voluntary activity are indispensable for the environmental policy to settle a global environmental problem.
The purpose of this lecture is to bring the citizen who works on a solution of a close environmental issue voluntarily up.
As a basis of citizen's voluntary activity, it's very important to learn about environment/environmental problem in a close area.
In this lecture, students learn basic knowledge of the environment/environmental problem and policy, and then will experience a few activity by the campus.

PSY300JC

芸術療法

蜂谷　和郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96 年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

【到達目標】
作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。
作品制作を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。
言葉による伝達スキルを向上する。
認知症への理解と実践的対応を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実技・オイルパステルを使用しての作画・・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり
理論・臨床美術の概要
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。授業がオンラインに変更になった場合、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の歴史や基本的な考え方を学ぶ 受講生全員の自己紹介を行う。
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。　グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
3	臨床美術のアートプログラム　量感画①	リンゴを描く。各自リンゴ持参
4	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	アナログ画。音や味を描く
5	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	感情を描く
6	臨床美術のアートプログラム　抽象表現②	感情を描く②
7	臨床美術のアートプログラム　量感画②	茄子を描く。各自茄子を持参
8	臨床美術のアートプログラム　立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	臨床美術士の役割	実践現場における臨床美術士の役割や考え方を学ぶ
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。各自サツマイモを以後毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成

12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング	前週の反省をふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅課題は１００％提出
自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
1　出席確認　出席点呼にて確認
2　試験方法　なし
3　採点基準　提出物（30 %）、平常点（30 %）、ロールプレイング（40 %）オンラインでの授業となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。出席点呼を分かりやすくする。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やす。

【その他の重要事項】
21 世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

【Outline and objectives】
Clinical art that stimulated the brain by expressing art,opened the way for prevention and improvement of dementia.Since the atart in 1996,clinical artist,doctors and counselors have achieved results together.It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children,autistic people mental health of social workers. We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals snd facilities.

SOW300JB

医療政策論

小磯　明

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業での意見交換を通じて、医療政策の重要性を認識する

【到達目標】
医療政策とは何か、を理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で実施する。授業への学生の積極的参加を促すために、リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。授業形態が変更になる場合、それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に必要ないが、医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教材書は使用しない。毎回、教材資料を配布する

【参考書】
小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013 年.
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016 年.
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017 年.
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019 年.
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019 年.

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 50 %、レポート提出 50 %。レポートは 1 回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。基本は対面授業を考えているが、必要に応じてオンライン授業とする場合もある。その場合、成績評価の具体的方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
諸外国の事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある

【Outline and objectives】
Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class

PSY300JC

福祉心理学

山田　勝美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、児童福祉施設等における心理士の役割を認識することを目的に行う。そのために、社会福祉の理念や制度等の理解を図る。その理解を前提に福祉現場における心理社会的課題とそれに対する支援のあり方をおさえる。特に、福祉現場において、他の専門職と協働しながら心理社会的課題の解決を図っていくのだが、そこにおける心理士の役割を理解したい。授業では、社会福祉のなかでも主に児童を中心に扱っていきたい。

【到達目標】
・社会福祉の理念および制度を理解する。
・福祉現場、特に、児童福祉施設における心理的社会的課題とは何か、そして、その現状を理解する。
・入所する利用者、主に虐待を受けた子どもの心理的課題および支援のあり方を理解する。
・他の専門職と協働することの重要性を理解する。
・以上の理解を前提に、施設における心理士の役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は主に講義形式で行うが、適宜、映像資料等を用いたい。また、授業終了時にリアクションペーパーに講義の感想と意見および質問を書いていただく。次回の講義の冒頭でそれを扱い、できうる限り学生の声を授業に反映させていきたいと考えている。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会福祉の理念と制度の今後の方向性〜児童福祉に焦点をあてて〜	これからの社会的養護の動向に関する基本的理解を培う
2	児童福祉施設における生活の意味を理解する	様々な課題を抱え施設に入所してくる利用者にとっての安定的生活とそれを営むことの重要性を理解する
3	児童福祉施設における子どもの存在と関係性の構築の在り方を理解する	様々な課題を抱える子どもをどういう存在と捉えるべきか、そのうえでいかなる姿勢が関係を育む必要があるかを理解する
4	児童福祉施設における専門職と心理職の役割〜その１〜	心理職が協働する他の専門職の役割について理解する
5	児童福祉施設における専門職と心理職の役割〜その２〜	他の専門職と協働するうえでの心理職の役割を理解する
6	虐待を受けた子どもの心理的課題を理解する〜その１〜	施設における虐待を受けた子どもの心理的課題の特徴を理解する
7	虐待を受けた子どもの心理的課題を理解する	生活の場で生起する問題とそこにある心理的課題を理解する
8	施設における虐待を受けた子どもへの直接的支援〜その１〜	生活の場で生起する問題を対処する方法について理解する
9	虐待を受けた子どもへの直接的支援〜その２〜	生活の場で生起する問題を支援する職員を支える心理としての役割を理解する
10	家族への支援について考える〜その１〜	虐待を受けた子どもの自立支援においては、親との関係性が重要になる。その意味と支援のあり方を理解する
11	家族への支援について考える〜その２〜	家族への支援に果たす心理士の役割を理解する。
12	虐待を受けた子どもの実際〜その１〜	映像を通し、実際の児童養護施設における子どもの課題とその支援について検討し、理解を深める
13	虐待を受けた子どもへの支援〜その２〜	特に、心理士の役割に焦点をあてて、理解を深める
14	講義のまとめ	講義で扱った内容を復習し、理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業終了時に事前に読んできていただきたい文献を提示するので、学生はそれを読み込んで授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献・参考図書は授業事に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業事のリアクションペーパーの内容等平常点　　３０％
レポート課題　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
授業毎に行う学生からの質問等に丁寧に答えていくことが学生のより深い学びに直結していることがわかった。本年度もこれを継続していきたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, we aim to recognize the role of psychologists at child welfare facilities etc. To that end, we will try to understand the ideals and systems of social welfare. On the premise of that understanding, psychosocial tasks at the welfare site and how to support it are suppressed. Especially at the welfare workplace, while trying to solve psychosocial problems while collaborating with other professionals, I want to understand the role of psychologists there. In classes, I would like to focus mainly on children among social welfare.

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】
This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settins (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settins (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settins (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/
World Health Orgzniation https://www.who.int/health-topics/disability

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

PSY300JC

障害者・障害児心理学

小林　玄

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、障害とは何か、障害児者の心理とはどのようなものかをテーマとする。近年の障害の捉え方の変遷や法律、制度を概観し、障害種ごとの障害特性を理解した上で、個々のニーズに合わせた支援の在り方や家族支援について考察する。扱う障害種は、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、知的障害、発達障害（LD、ADHD、ASD）とする。また演習をとおして、障害当事者の困難さについて理解を深める。

【到達目標】
① 障害に対する世界的な意識の変化や共生社会、インクルーシブ教育の理念について理解する。
② 障害に関わる法律の基礎的知識を身につける。
③ 障害種ごとの障害特性に関する基礎的知識を身につける。
④ 家族支援について理解する。
⑤ 当事者の困難さについての理解を深め、支援の在り方について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義形式を基本とし、第 13 回、第 14 回は演習形式とする。
授業の振り返りとして、リアクションペーパーの提出を求める。（集中講義のため、半日ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業回の冒頭でいくつかのコメントや質問事項を紹介し学習の発展につなげる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 障害とは	授業内容、自己紹介、講義形式、評価方法の説明 障害とは何かというテーマで国際障害分類、国際生活機能分類について解説し、ディスカッションも行う
第 2 回	ユニバーサルデザインと合理的配慮	ユニバーサルデザインとバリアフリーの概念について解説し、身近な生活から具体例を探す。また、合理的配慮について具体例を挙げながら理念について解説する。
第 3 回	障害特性の理解と支援（1）肢体不自由	肢体不自由の障害特性と支援について解説する。
第 4 回	障害特性の理解と支援（2）視覚障害	視覚障害の障害特性と支援について解説する。
第 5 回	障害特性の理解と支援（3）聴覚障害	聴覚障害の障害特性と支援について解説する。
第 6 回	障害特性の理解と支援（4）LD	LD の障害特性と支援について解説する。また、アセスメントについても言及する。
第 7 回	障害特性の理解と支援（5）ADHD	ADHD の障害特性と支援について解説する。
第 8 回	障害特性の理解と支援（6）ASD	ASD（自閉スペクトラム症）の障害特性と支援について解説する。
第 9 回	障害特性の理解と支援（7）発達障害に併存しやすい困難さ	発達障害と関連して、感覚過敏、緘黙、トゥーレット症候群について解説する。
第 10 回	障害特性の理解と支援（8）精神障害	精神障害の障害特性と支援について解説する。
第 11 回	当事者と家族への支援	当事者研究の紹介と家族支援について解説する。
第 12 回	【事例検討】多職種連携による障害児支援	教育、心理、福祉、医療などの多職種が連携して、1 人の子どもの支援を行っている事例を紹介する。
第 13 回	【演習】疑似体験をとおした障害者理解（1）ワーク	発達障害、聴覚障害等の障害について心理的疑似体験のワークを行う。
第 14 回	【演習】疑似体験をとおした障害者理解（2）ディスカッション	前回のワークをとおして障害に対して新たに理解したことや支援のポイント等をグループディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習・復習の時間は各１〜２時間ずつを目安とする。
前回の授業の最後に、予習および復習のポイントや参考資料等を提示するので、それを参考に学習を進める。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
第１回～１２回　リアクションペーパー（5 点 ×12 回）６０％
第１３回～１４回　演習レポート　１０％
最終レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
＊授業内容は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will discuss the challengers facing people with disabilities in school, workplace and other life events. Furthermore, consider how effective psychological interventions could be delivered to individuals with disabilities and family members.

SOW300JB

アジア地域開発論 (2021 年度以降入学者)

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表： 40%

【学生の意見等からの気づき】
東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JB

アジア地域開発論 (2020 年度以前入学者)

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表： 40%

【学生の意見等からの気づき】
東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JC

スクールソーシャルワーク

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】
・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について検討する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の分析も含めながら考察を深めていく。
・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもと家族の理解 1	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第 2 回	子どもと家族の理解 2	現代の子育てと子育ち、多様化する家族
第 3 回	学校・教育の現状 1	教育費、学校現場と教育の現状
第 4 回	学校・教育の現状 2	学校現場に福祉援助が入るということ
第 5 回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第 6 回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第 7 回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第 8 回	スクールソーシャルワーク実践 1	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第 9 回	スクールソーシャルワーク実践 2	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援
第 10 回	スクールソーシャルワーク実践 3	発達の課題と特別支援
第 11 回	スクールソーシャルワーク実践 4	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第 12 回	ゲストスピーカー	スクールソーシャルワーカーによる講義
第 13 回	連携の実際とスクールソーシャルワーカー	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第 14 回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配布する。

【参考書】
・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第２版）』ミネルヴァ書房
・門田光司（2010）『学校ソーシャルワーク実践　国際動向とわが国での展開』ミネルヴァ書房

・大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
・佐々木宏・鳥山まどか（2019）『シリーズ子どもの貧困③教える・学ぶ―教育に何ができるか』明石書店
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、講義内課題（30 %）、定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生が発言する機会をより多く提供する。

【Outline and objectives】
This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems.

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】
Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx
States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

SOW300JC

精神保健ソーシャルワークⅠ

國重　智宏

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、精神保健ソーシャルワークの基本的概念と原理を学ぶとともに基本的な面接技法の修得を目指す。

【到達目標】
・精神保健ソーシャルワークの基本的概念と原理を理解する。
・精神保健ソーシャルワーク実践で必要となる基本的な面接技法（傾聴、共感など）を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、下記の授業計画の内容と計画で進めていきます。
授業形態は、講義だけでなく、グループでの討議やロールプレイなどの演習的な内容も含みます。そのため、受講生の授業への主体的な参加が必要となります。なお、課題やリアクションペーパーなどへのフィードバックは、授業の冒頭などで全体に向けて実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	対象者理解（精神障害者とは）	精神障害者に対する自分自身の見方について事例を通して自覚する。
2	PSW の視点❶（人と状況の全体性）	「人と状況の全体性」という視点について理解する。
3	PSW の視点❷（かかわり）	「ここで、今」の「かかわり」という視点について考える。
4	PSW の視点❸（ストレングス視点）	「ストレングス視点」に実践的に理解する。
5	面接技法❶（傾聴／きくこと）	相手の話を「きく」ことの意味や「きく」際の態度について考え、理解する。
6	面接技法❷（共感／わかることと伝えること）	「わかる」ということの意味や分かったことの伝え方について考え、理解する。
7	援助者の姿勢❶（他者であること／「共感する他者」と「臨在の証人」）	援助者が「他者である」ことの意味について考え、理解する。
8	援助者の姿勢❷（自己決定の尊重）	クライエントの自己決定を尊重することの意味について考える。
9	援助関係の形成技法	第 8 回までの振り返りも兼ねて援助関係の形成技法について理解する。
10	精神保健福祉士の役割	精神保健福祉士法や日本精神保健福祉士協会倫理綱領などを通して精神保健福祉士の役割について考える。
11	精神保健福祉士の歴史	精神保健福祉士の活動の歴史を振り返り、何を大切にして実践を行ってきたのか考え、理解する。
12	精神保健福祉士の倫理	PSW が関与した権利侵害である Y 問題を中心に精神保健福祉士の倫理について考える。
13	アドボカシー	精神保健福祉士がアドボカシーを担える存在であるのか、事例なども用いながら検討する。
14	まとめ	振り返りテストを行い、前期の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として『かかわりの途上で』の該当箇所を読んでくることが必要になる。
また、授業後に復習として授業課題を課す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相川章子・田村綾子・広江仁（2009）『かかわりの途上で』へるす出版.
＊事例集代わりに使用する。第 2 回の授業から該当箇所を事前に読んだ上で授業課題に取り組むため、必ず授業開始前までに購入すること。
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新精神保健福祉士養成講座５　精神保健福祉の原理』中央法規.
＊初回から使用するため、授業を履修する学生は必ず購入すること。

【参考書】
稲沢公一（2017）『援助関係論入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
小テスト（30 %）、振り返りテスト（40 %）、授業課題（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、精神保健福祉士資格の取得を目指さない学生の履修も多いため、精神保健福祉士として必要な内容に加え、精神科臨床で働く他職種にも必要な内容を含む授業内容に変更している。

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク」「精神保健福祉」に関する科目を事前に履修してることが望ましい。基礎知識がない場合は、自己学習で補わなければ合格点に達することは難しい授業内容である。
質問などは、メール（kunishige@toyo.jp）で対応する。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work in mental health.
It also enhances the development of students' skill in the basic interview technique.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野　裕之

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第 2 回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第 3 回	ＮＰＯ・市民活動の意義	ＮＰＯ・市民活動の意義の説明。
第 4 回	市民主体のまちづくりの事例（1）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第 5 回	市民主体のまちづくりの事例（2）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 6 回	市民主体のまちづくりの事例（3）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第 7 回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第 8 回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第 9 回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第 10 回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第 11 回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第 12 回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第 13 回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第 14 回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）： 30 点　中間レポート： 20 点　期末レポート： 50 点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1 回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
Through many cases, we will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

SOW300JC

精神保健ソーシャルワークⅡ

山口　創生

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主に我が国の精神障害者にかかわる統計データやソーシャルワークに関係する支援技法、精神科リハビリテーションプログラムやスティグマの問題について取り上げます。本講義の目的および意義は、受講者が 1) 精神保健福祉士国家試験に向けた知識・情報を得ること、2) 精神障害者の生活実態に関する統計データや現在のサービス内容・制度、新しい効果的な支援を鑑みて、精神障害者の地域生活の改善に寄与するサービスの開発・普及について包括的な考察を行う機会を得ることです。

【到達目標】
1. 精神障害者を取り巻く環境を統計的に把握できる
2. 精神障害者に対する効果的な実践を考える機会を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義とグループでの議論を通して授業を進めます。課題（レポート等）に対するフィードバックは要望に応じて個別に実施いたしますので、いつでもご連絡ください。秋学期は原則対面で実施いたします。コロナの影響などによりオンライン講義となる場合、そして、オンライン講義に伴う授業計画の変更がある場合については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や成績評価の説明
第 2 回	精神障害者の概念と統計	ICF、障害の定義、統計の説明
第 3 回	精神障害とｽﾃｨｸﾞﾏ 1	スティグマの実態や是背の説明
第 4 回	精神障害とｽﾃｨｸﾞﾏ 2	グループワーク
第 5 回	精神障害とﾘｶﾊﾞﾘｰ 1	グループワーク
第 6 回	精神障害とﾘｶﾊﾞﾘｰ 2	ﾊﾟｰｿﾅﾙ・ﾘｶﾊﾞﾘｰや主体価値の説明
第 7 回	障害者ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ総論	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの基礎理論の説明
第 8 回	効果的なｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 1	ACT の説明
第 9 回	効果的なｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 2	ストレングスモデルの説明
第 10 回	精神障害と就労	就労支援に関する資源の説明
第 11 回	効果的な就労支援	援助付き雇用と IPS の説明
第 12 回	触法精神障害者の支援	医療観察法の紹介
第 13 回	先駆的な実践の紹介	SDM 等の先駆的実践例の説明
第 14 回	まとめ	講義内容の振り返りと課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生が事前に必ず学習すべきことなどは定めません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。スライドを使用した講義となります。

【参考書】
1) ソーニクロフト・グラハム, タンセラ・ミケーレ, 訳：岡崎祐士, 笠井清登, 福田正人 (2012) 精神保健サービス実践ガイド. 日本評論社, 東京.

【成績評価の方法と基準】
1. 評価方法
レポート： 90%、平常点（講義内の発言など）： 10%。レポートは、「障害者ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」、「就労支援」、「ｽﾃｨｸﾞﾏ」のいずれかのテーマを選び、定められた様式で記載する。
2. 評価基準
S ：講義内の積極的な発言、レポートが規定した様式で書かれており、自身の考えや講義で学んだ内容、過去のデータが織り交ぜられている
A ：上記に次ぐ
B ：考察は十分ではないが、規定した様式で書かれている
C ：規定した様式で書かれていない/考察が著しく不十分
D ：レポートの書き方、内容が不十分

【学生の意見等からの気づき】
受講者同士が議論する機会を多く設けています。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
講義の進捗状況によって、先進的な実践等の紹介（第 13 回）は省略する可能性があります。

【Outline and objectives】
This lecture introduces statistical data for people with mental illness in Japan, social work skills, psychiatric rehabilitation programs and mental health-related stigma. The aims of the lecture are that students gain the relevant information for national examination for the license of mental health social worker, and that students discuss the development and the dissemination of effective community mental health services through learning the relevant statistical data, mental health policies, mental health services and effects of services

CMF300JB

コミュニティスポーツ

遠藤　華英

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域・国・国際レベルで展開されているスポーツ政策に関するトピックについて取り上げる。地域社会のスポーツ振興に関する課題や最新の動向を政策的な視点で概説した上で、社会課題の解決に向けたスポーツの役割とは何か、どのような可能性を有しているのかといったテーマに迫る。

【到達目標】
日本のスポーツ振興政策の現状やトレンドを理解し、スポーツ振興 やスポーツを活用した地域の課題解決施策について客観的・合理的な見解を述べることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にはパワーポイントを用いた講義形式で行う。授業毎に小レポート（リアクションペーパー）の提出のほか、少人数グループに よるアクティブラーニング（AL）も適宜行う。 また，新型コロナウィルスの感染状況を鑑みてオンライン形式に切り替えることもあるのでご留意いただきたい。
各回の課題に対するフィードバックは翌週の講義および hoppi 上で行う。また、最終課題に対するフィードバックも hoppi を介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要と進め方
2	スポーツとは何か？ スポーツが有する価値とは？	スポーツが関連する政策領域を捉え、政府がスポーツ振興に公的資金を費やす理由とスポーツの価値を考える（AL）
3	日本のスポーツ政策の動向	日本のスポーツ政策の現状と課題
4	オリンピック・レガシー	過去のオリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
5	パラリンピック・レガシー	過去のパラリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
6	するスポーツ①	成人のスポーツ実施に影響を与える要因を学び、今後のスポーツ推進策を考える（AL）
7	するスポーツ②	子ども・青少年のスポーツ実施の現状と課題、および諸理論
8	するスポーツ③	中学・高校・大学スポーツの現状と課題、日本の部活動改革の方向性
9	みるスポーツ①	国内外におけるスタジアム・アリーナ改革の動向
10	みるスポーツ②	メディア媒体の多様化および ICT 技術の進展に伴うスポーツ観戦スタイルの変化
11	スポーツによるコミュニティ形成①	地域コミュニティスポーツとトップスポーツの好循環について考える（AL）
12	スポーツによるコミュニティ形成②	スポーツガバナンスを考える
13	スポーツによるコミュニティ形成③	SDGs(持続可能な開発) とスポー ツの結節、スポーツを通じた国際協力の動向
14	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメやノートを復習して、次回の授業に参加すること。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定しない。必要に応じて、資料配布・文献紹介を行う。

【参考書】
必要・希望に応じて紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
①出席確認　毎時間確認する
②試験方法　レポート
③評価基準　平常点　20%／小レポート　30%／レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
聴講生の興味・関心に応じ、授業で扱うテーマ以外のスポーツ政策・ビジネスに関しても最新の情報を提供できるようにします。

【Outline and objectives】
This course deal with the topics on sport policies deployed at the regional, national, and international level. By the end of the course, students learn the challenges and latest trends related to sport development in local/global communities, and consider the possibility that sports will contribute to solving social problems.

SOW300JC

セルフヘルプグループ

横川　剛毅

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。
学生が、その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】
次の 2 点を目標とします。
①さまざまな困難や生きづらさを知ることによって、人の生活における支え合いについての知見をもち、考えを他者に伝えることができる。
②困難や生きづらさのある人との対等なパートナーシップを理解し、他者と共有できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを、授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション SHG とは何か	この授業の全体像を把握する。また SHG の定義を学ぶ
第 2 回	知的障がいの理解	周囲に障がいを隠さない生き方について学ぶ
第 3 回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第 4 回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第 5 回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第 6 回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第 7 回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第 8 回	依存症とは	多様な依存症について知る
第 9 回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第 10 回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第 11 回	アルコール依存症の SHG	アルコール依存症の SHG について学ぶ
第 12 回	グループ内発表	ここまでの学びを踏まえて注目した内容について自ら調べ、レジュメにまとめたうえで、その内容を発表し合う
第 13 回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第 14 回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】
「セルフヘルプ・グループ　―当事者へのまなざし―」（久保紘章 著）相川書房　2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参画度合いなどの平常点（20 %）、
リアクション（30 %）、レポート課題（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4 サイズ・20 シート以上）を準備しておく。

【Outline and objectives】
When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this subject that students understand its significance.

ENG300JB

住民参加の手法

杉崎　和久

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。
この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】
住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。
授業は、対面とオンラインを組み合わせて開講する予定であるが、オンラインの場合でもリアルタイムでの授業を想定している。
なお、レポートについての講評や解説は授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第 2 回	住民参加の事例紹介１	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第 3 回	住民参加の事例紹介２	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第 4 回	住民参加の事例紹介３	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。
第 5 回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第 6 回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第 7 回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第 8 回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第 9 回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第 10 回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第 11 回	住民参加の事例４	活動を促す動機を高め、担い手を創出する事例を紹介する。
第 12 回	つぶやきから対話を通じて活動を生み出す手法	受講者から提案されたテーマを充実させる手法を体験する。
第 13 回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第 14 回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・レポートは、住民参加に関する基本文献を講読し、概要・感想・意見等をまとめます（詳細は講義時間内で説明します）。
・適宜、ＮＰＯや自治体などが開催する住民参加の現場（ワークショップ等）に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】
中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷まちづくりセンター「参加のデザイン道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（７０％）、レポート（３０％）
・平常点評価は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行います。
・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】
地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業は、対面とオンラインを組み合わせて行う。オンラインでの授業においても、グループワーク等を行うことがある。そのため、オンラインでの受講が可能な web カメラやマイクなどの情報機器が必要になる。また、グループワークでの入力作業も予定しているのでパソコンがあることが望ましい。

【その他の重要事項】
・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
・第１回授業はリアルタイムオンラインで予定である。アクセス方法については、学習支援システムの「お知らせ」を通じて当日朝までに連絡する。それまでに学習支援システムへの「仮登録」あるいは「本登録」を済ませてください。
・講義では対話を重視していることから、対面、オンラインを問わずグループワークを多く行う。特にオンラインの場合には、名前表記、カメラオンにすることを前提とする。
・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline and objectives】
The purpose of the lecture is to understand the characteristics of the participation method and to acquire the ability to operate.

SOW300JC

若者支援論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
かつて先進国の中で優等生と称されていた日本の若者自立モデルはグローバル化の中で溶解し、自立の困難を抱える若者への包括的な支援政策が求められている。こうした現状において社会はどのような対応をするればよいのか、ともに考えていきます。

【到達目標】
自立の危機にある若者の背景にある事情は多様であり、中には障害が関係する場合もあると指摘もされています。安易に自己責任論に同調することなく、自己責任の問題と社会構造の問題とを見極め、自らの考えを表明できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
若者の自立の問題について、歴史的な経緯や国際比較、性別・学歴・就業形態・障害・貧困の再生産等背景にある問題を取り上げ理解を深められるように進めていきます。また、ゲストスピーカーによる当事者や支援者の現場の声に触れる機会を用意する予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明する。
第 2 回	若者の自立の困難さ	何が問題なのか
第 3 回	若者の自立の諸問題―海外との比較	日本の現状と他の先進諸国の諸問題
第 4 回	若年女性の自立の危機	女性ならではの困難さ
第 5 回	就職活動と大学教育	教育と労働市場の相互関係
第 6 回	雇用形態のちがいによる自立の危機	非正規化の拡大がもたらす困難さ
第 7 回	ゲストスピーカー講演（発達障害関係）	発達障害のある若者の困難さ
第 8 回	ゲストスピーカー講演の振り返り	レポート作成
第 9 回	若者の社会からの孤立	ひきこもる若者の困難さ
第 10 回	ゲストスピーカー講演（精神障害関係）	精神障害のある若者の支援
第 11 回	ゲストスピーカー講演の振り返り	レポート作成
第 12 回	障害者雇用の現状と課題	障害のある若者の就労
第 13 回	ゲストスピーカー講演（就労・生活支援者）	仕事を通じてのリハビリテーション
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ゲストスピーカーの講演後の講義でレポートを作成する際には、単なる感想ではなく、関連する文献を読み考察するレポートを望みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜プリント配布や紹介します。

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で提示する課題についての数回のレポート作成：５０％（出席、提出だけでは評価しない. 講義内容の理解度と自らの考えを根拠をもとに展開していることを評価のポイントとします）試験：５０％

【学生の意見等からの気づき】
評価の方法についてアンケートでのご意見に基づき、変更しています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for youth.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for social work.At the seminar We will discuss Well-being for youth.

MED300JB

精神保健学

行實　志都子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民全体のメンタルヘルスを考え精神疾患の予防・治療・リハビリテーションから精神的健康保持・促進を図るための精神保健とは何かを基礎知識から現代社会の課題などについて理解する。

【到達目標】
1．ライフサイクルに応じたメンタルヘルスの内容や課題を説明することができる。
2．近年に起こる精神保健の課題について理解し、内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
現在はストレス社会ともいわれ、心の健康が注目されることが多いが、授業を受講することで自分自身の心の健康を考えるきっかけにしてもらいたいと考えている。そのため、授業形態は，講義形式が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換を実施し，またリアクションペーパーなどを使った質問等にも答える。
　授業内容は、精神保健の基礎的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。さらにライフサイクルでの課題、精神障害者対策、発達障害、うつ病、自殺予防、アルコール、認知症等を取り上げて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精神保健の概要	①精神保健とは ②ライフサイクルと精神保健 ③生活習慣と精神の健康
2	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方	①精神保健の動向 ②精神保健活動の 3 つの対象 ③精神の健康に関する心的態度 ④障害の受容
3	家族に関する精神保健の課題と支援１	①家族関係における暴力と精神保健 ②出産・育児をめぐる精神保健
4	家族に関する精神保健の課題と支援２	①介護をめぐる精神保健 ②社会的ひきこもりをめぐる精神保健
5	家族に関する精神保健の課題と支援３	①家族関係の課題 ②グループケア ③精神保健支援を担う機関
6	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ１	①学校教育における精神保健的課題 不登校・いじめ
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ２	①教員の精神保健 ②スクールソーシャルワーカーの役割
8	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ	①現代日本の労働環境 ②産業精神保健とその対策 ③職場のメンタルヘルス
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ１	うつ病と自殺予防
10	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ２	貧困問題と社会的孤立
11	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ３	①犯罪被害者等の支援 ②性的マイノリティ ③多文化に接することで生じるメンタルヘルス
12	精神保健に関する発生予防と対策１	①アルコール関連 ②薬物依存、ギャンブル依存に関する問題
13	精神保健に関する発生予防と対策２	認知症高齢者に対する対策
14	精神保健に関連する機関について	①関連法規 ②専門職と国。都道府県、市町村の役割 ③諸外国のメンタルヘルス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各時間ともに２時間とする。
以下の内容の準備・復習を行う
授業準備としては、授業計画及び授業内で次週の授業内容について告知されたものやそのテーマにそって、参考書等や日々のニュースなどを使って予習を行う。また、その時に出た質問については、リアクションペーパーなどを使って質問する。
授業後の復習は、授業内で行ったものについてしっかりと復習、整理をし学期末の期末テストにむけて各自ノートを作成する。さらに、授業の復習用の小テストを受け、理解度を確認する。

【テキスト（教科書）】
最新　精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援　中央法規出版

【参考書】
大人の発達障害をうまく生きる、うまく活かす　小学館新書　田中康雄　笹森理恵
発達障害の子どもと生きる　幻冬舎ルネッサンス新書
友だち幻想　人とひとの（つながり）を考える　ちくまプリマー新書　菅野仁

【成績評価の方法と基準】
授業の復習のために作られた小テスト（30 %）と期末試験（70 %）の割合で授業到達目標に達しているかを判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味等を考えながら、わかりやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
授業時には、レジメを配布する。

【その他の重要事項】
連絡先
yukizane-avs@kuhs.ac.jp
メールを入れるときは、タイトルのところに必ず、
大学名　学籍番号　氏名を　タイトルに入れてください

【Outline and objectives】
What is mental health?
Understand the challenges of mental health in Japan.

SOW300JC

女性福祉論

堀　千鶴子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門社会福祉学科目の一環として、社会福祉分野において等閑視されがちな女性の福祉ニーズや、その背景にある社会構造を理解し、社会福祉領域における女性支援の現状と課題を学ぶ。

【到達目標】
1　女性のニーズの背景に存在しているジェンダー不平等な社会構造を理解する
2　婦人保護事業など女性を対象とした社会福祉施策を理解する
3　社会福祉分野をジェンダー視点からとらえなおす力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で行うが、併せて授業内でのグループワークや発表、リアクションペーパーの提出なども行う。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序	講義の目的、進め方などオリエンテーション
2	女性福祉とは　①	女性の生活問題について理解する
3	女性福祉とは　②	女性福祉の定義、女性福祉の範囲や内容について理解を深める
4	現行社会福祉法制度と女性　①	女性をめぐる現行社会福祉法政度について理解する
5	現行社会福祉法制度と女性　②	現行の社会福祉法制度と、制度の狭間におかれている女性たちの状況を視聴覚教材から理解する
6	ドメスティック・バイオレンスについての理解ーデータから	ドメスティックバイオレンスについて、視聴覚教材、データから理解する
7	ドメスティック・バイオレンス防止法にもとづく被害者支援制度の理解	ドメスティック・バイオレンス防止法の内容や成立経緯とともに、被害者支援制度について理解する
8	ドメスティック・バイオレンス被害者支援の現状と課題	ドメスティック・バイオレンス被害者支援の現状と課題について事例をもとに理解する
9	ドメスティックバイオレンス被害者支援ー２次被害の防止	ドメスティック・バイオレンス被害者の２次被害防止のための支援について理解する
10	婦人保護事業の歴史を学ぶー明治期	明治期における女性の置かれた状況と廃娼運動について理解する
11	婦人保護事業の歴史を学ぶー戦後	終戦後の売春に対する政策と女性福祉事業について理解する
12	売春防止法成立経緯と婦人保護事業	売春防止法成立経緯と婦人保護事業について理解する
13	現在の婦人保護事業ー利用者の変化と役割	現在の婦人保護事業について利用者の変化と、果たしてきた役割から理解する
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：テキスト、参考文献など事前に読み、理解を深める。
復習：配布資料、テキスト、参考文献などを読み、授業内容について整理する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業では配布プリントを使用する。

【参考書】
林千代編著『女性福祉とは何か』ミネルヴァ書房　2004 年
林千代編著『婦人保護事業５０年』ドメス出版　2008
戒能民江編著『危機をのりこえる女たち』信山社　2012 年
他、授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、期末試験（60 %）のうち、60 %以上の取得による

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーなどにより質問を受け、随時授業内で紹介する。

【Outline and objectives】
Understand the welfare needs of women often overlooked in the social welfare field and the social structure behind it.　And also learn the current situation and problems of women's support.

SOW300JB

精神保健福祉論Ⅰ

三木　良子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神保健福祉に関連する法制度の成立の背景を理解する
2. 精神障害に関する法制度やサービスを理解する
3. 法制度や福祉サービスの理解を通して精神保健福祉士としての価値や実践を理解する

【到達目標】
1. 相談援助活動における法律や制度、福祉サービスの知識と支援内容について理解する
2. 精神障害者の支援に係る施設、団体、関連機関等について理解する
3. 更正保護制度と心神喪失者医療観察法等司法福祉について理解する
4. 社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉に係る歴史や理念を理解し、現行の福祉施策の背景や動向について解説する。また、精神障害者をとりまく医療や地域生活に関する具体的な法律や制度及び現状について解説する。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、学習内容の確認
2	精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関連する法律	相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスを概観する
3	精神保健福祉法の成立過程とこれまで	精神保健法福祉法成立までの法律の変遷を理解する
4	精神保健福祉法①	精神保健福祉法の内容を理解する
5	精神保健福祉法②	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する
6	障害者福祉の施策のこれまで	障害者基本法及び障害者プランの背景及び現状を理解する
7	障害者総合支援法	障害者総合支援法制定までの変遷と現状と課題を理解する
8	精神障害者をとりまく施策等の理解	精神障害者を取り巻く福祉施策、支援等を理解する
9	精神保健福祉領域に関連する社会保障制度の概要	精神保健福祉領域に関連する法制度等を理解する
10	相談援助にかかわる専門職①	相談援助における社会資源の役割を理解する
11	相談援助にかかわる専門職②	具体的な事例の理解
12	更正保護制度	更正保護に関する制度や現状を理解する
13	心神喪失者医療観察法	心神喪失者医療観察法の成立過程と現状、課題を理解する
14	社会調査の理解・まとめ	意義と目的、倫理、各種調査法について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に説明する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 30%、定期期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline and objectives】
This lecture course is aimed understand mental health and social service, including mental health and welfare low and any other lows.

SOW300JC

死生観とソーシャルワーク

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】
受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリーブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第 10 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】
適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

SOW300JB

精神保健福祉論Ⅱ

三木　良子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神障害者の「その人らしい生活」について理解し、それぞれの人たちに応じた居住支援や就労支援、余暇支援等について理解を深める
2. また、その際の精神福祉士の役割や実践課題などとともに、精神障害者の地域包括支援のための具体的な知識と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
1. 生活の実際と生活支援の意義と特徴を理解する
2. 居住支援に関する制度・施策について理解する
3. 就労支援に関する制度・施策について理解する
4. 地域生活支援システムについて理解する
5. 行政機関における相談援助活動について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神障害者の地域生活を支援するために必要な、概念の理解、法律や制度、支援方法について学ぶ。主として講義形式で行うが、授業内での発表、ディベート、リアクションペーパー提出なども求めます。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、内容の確認
2	精神障害者の生活の実際	地域、医療における精神障害者の現状についての基礎知識を理解する
3	精神障害者の生活と権利	地域生活、医療における人権と権利擁護について理解する
4	居住支援①	居住支援制度の概要を理解する
5	居住支援②	居住支援にかかわる専門職とその役割を理解する
6	居住支援③	具体的な居住支援について理解する
7	雇用支援①	雇用・就労の現状を理解する
8	雇用支援②	雇用・就労に関する法律、制度を理解する
9	雇用支援③	雇用・就労支援にかかわる専門職の役割を理解する
10	地域生活支援①	自立と社会参加について考える
11	地域生活支援②	福祉的就労と余暇支援について理解する
12	ソーシャルサポートネットワーク	精神障がいのある人を取り巻くソーシャル・サポートネットワークについて理解する
13	行政における相談支援①	市町村、保健所、精神保健福祉センター等の役割を理解する
14	行政における相談支援② まとめ	行政における精神保健福祉相談について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業で取り扱う内容に関連する文献等を指示し、予習を行う。また、授業時にも復習用の文献を提示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 30%、定期期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline and objectives】
This lecture course is aimed understand mental health and social service including lows for working, housing and other support to live well.

PSY300JC

グループアプローチ

大竹　直子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】
グループ・アプローチについての理論を理解するとともに、体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、毎回の授業において、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半は毎回異なったメンバーとグループを組みグループ・ワークやディスカッションを中心に進めていきます。(授業の展開によって若干の変更があり得ます。) また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質〜“人間” に焦点を当てて〜
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に〜“個人” に焦点を当てて〜
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか〜グループ・アプローチ再考〜
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	まとめ	講義と演習
14	最終試験	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。（プリントを配布します。Ａ４版のファイルをご準備ください。）

【参考書】
講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】
①最終試験 ６０％
②平常点 ４０％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきと機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいています。

2020 年度は、オンライン授業においても、グループディスカッションを実施しました。「最初は戸惑うことも多くあったが、回数を重ねるごとに楽しみになってきた」などのご感想もいただいております。授業では、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を今年度も持つ予定です。できるだけ安心してグループに参加できるよう、より工夫をしていきたいと考えております。

【Outline and objectives】
The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】
さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】
地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】
This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.

PSY300JC

社会・集団・家族心理学

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は対人関係および集団が個人の意識と態度、行動に及ぼす影響についての基本的な社会心理学の理論を講義します。その上で、家族と集団、社会、文化の影響による現代社会のさまざまな問題を概説し、それら諸問題への対応について検討を行います。

【到達目標】
対人関係並びに集団における人の意識と行動についての心の過程が推測できます。人の態度と行動についてさまざまな理論を用いて説明できます。家族と集団、文化が個人に及ぼす影響について概説でき、その対応策について考えることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回、講師が作成した資料をもとに講義を行います。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程①	自己と他者について講義。
第 3 回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程②	対人関係の形成と葛藤について講義。
第 4 回	集団における人の意識と行動についての心の過程①	集団の中の個人について講義。
第 5 回	集団における人の意識と行動についての心の過程②	集団間の関係について講義。
第 6 回	人の態度と行動に関するさまざまな理論①	態度と行動形成についてのさまざまな理論を講義。
第 7 回	人の態度と行動に関するさまざまな理論②	態度と行動変容についてのさまざまな理論を講義。
第 8 回	家族が個人に及ぼす影響①	家族システムの視点を講義。
第 9 回	家族が個人に及ぼす影響②	ジェノグラム（家族の歴史）の視点を講義。
第 10 回	集団が個人に及ぼす影響①	組織（学校や職場など）の影響について講義。
第 11 回	集団が個人に及ぼす影響②	社会の影響について講義。
第 12 回	文化が個人に及ぼす影響①	文化の違いについて講義。
第 13 回	文化が個人に及ぼす影響②	異文化適応について講義。
第 14 回	講義全体のまとめ	授業全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で次回の講義内容が説明されるので、事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味を持ったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ありません。講師が作成する資料を使用します。

【参考書】
ありません。講師が作成する資料に引用・参考文献として記載されています。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容など）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】
This lecture describes the basic social psychology theory about interpersonal relationships and the influence of groups on personal consciousness and attitudes and behavior. Then, this lecture outlines various problems of the modern society due to family and group, society, culture, and examines how to deal with these problems.

MAN300JB

地域経営論

松本　昭

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２１世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO 等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。
・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということを常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめにに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第 2 回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第 3 回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営　・参加型まちづくりから協働・協創（共創) 型地域経営へ
第 4 回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第 5 回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係　・まちづくり条例の系譜と展望
第 6 回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態　・まちづくり紛争の予防と調整
第 7 回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性・協議調整型まちづくりとは
第 8 回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第 9 回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI 制度等の民間活用の施設整備）
第 10 回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、柴波等のまちづくり会社を対象に）
第 11 回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから　・マンション住宅地…管理組合と自治会
第 12 回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営
第 13 回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり　・リノベーションまちづくり
第 14 回	講義の総括	・レポートの提出と発表　・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー５０％
②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション５０％（レポート課題は６月前半に提示）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
・具体的事例の紹介が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

PSY300JC

児童精神医学

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができ上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】
児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マーラーの発達理論。
第 5 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 6 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 7 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 8 回	不登校①	小学生の不登校
第 9 回	不登校②	思春期の不登校
第 10 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 11 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 12 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 13 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (80%), リアクションペーパー（20%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline and objectives】
The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence.

TRS300JB

地域ツーリズム

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある “大衆性” を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、” 水辺空間の観光化”、” 伝統文化の観光化”、” 生活空間の観光化” の３つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では” いくら儲かるか”、” いかに集客を伸ばせるのか” といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第 2 回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第 3 回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第 4 回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第 5 回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第 6 回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第 7 回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第 8 回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第 9 回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第 10 回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第 11 回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第 12 回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第 13 回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.

PSY300JC

感情・人格心理学

松﨑　圭佑

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人格に関する様々な理論（人格心理学の諸理論，進化心理学，行動遺伝学，認知神経科学の視点）や人格をとらえるための方法について学び、自己や他者，および社会についての理解を深めることを目指す。また、感情に関する様々な理論や感情が行動に及ぼす影響を学び，人格，感情が社会的行動に及ぼす影響を統合的に理解することを目指す。

【到達目標】
人格に関する理論、感情に関する理論について正しい知識を身につける。人格がどのように形成されるか，感情がどのように生起するのかを理解する。人格と感情が認知や行動に及ぼす影響について理解し，自己理解および他者理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に進めるが，必要に応じてグループワークやグループディスカッションを取り入れる。授業ごとに小テストの実施またはリアクションペーパーの提出を求める。小テストやリアクションペーパーの内容に対しては、原則として次回の授業時に回答する。授業内容については，最新の研究動向や授業進度などを踏まえて若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的について講義する
第 2 回	性格理論の歴史 (1)	人格心理学の初期の研究や重要人物について講義する
第 3 回	性格理論の歴史 (2)	性格に関する理論（主に特性論）の紹介と、その考え方の特徴について講義する
第 4 回	性格理論の歴史 (3)	性格に関する理論（主に動因論）の紹介と、その考え方の特徴について講義する
第 5 回	性格理論の歴史 (4)	性格に関する理論（とくに Big-Five）と行動の関係について講義する
第 6 回	性格理論の歴史 (5)	行動遺伝学の知見を紹介し，人格形成に環境と遺伝が及ぼす影響について講義する。
第 7 回	性格と行動 (1)	性格（個人差）に関して進化心理学的な理論的背景について講義する
第 8 回	性格と行動 (2)	性格（個人差）に関して進化心理学的な実証研究（性淘汰，投資理論）について講義する
第 9 回	性格と行動 (3)	性格（個人差）に関して進化心理学的な実証研究（基本動機理論）について講義する
第 10 回	感情の生起要因 (1)	感情が生起する過程について講義する
第 11 回	感情の生起要因 (2)	感情の生起に関連する様々な要因について講義する
第 12 回	感情と行動 (1)	感情が判断に及ぼす影響について進化心理学的な理論との統合について講義する
第 13 回	感情と行動 (2)	感情が行動に及ぼす影響について認知神経科学の理論との統合について講義する
第 14 回	まとめ	この授業のまとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
我々の生活の中で「パーソナリティ」や「感情」はどのように扱われているか、行動に影響しているのかについて興味を持ち、情報を集めておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
亀田達也・村田光二 (著)　複雑さに挑む社会心理学 改訂版 – 適応エージェントとしての人間 有斐閣アルマ
北村英哉・大坪庸介 (著)　進化と感情から解き明かす 社会心理学 有斐閣アルマ

アントニオ・R・ダマシオ (著) 田中 三彦 (訳)　デカルトの誤り 情動、理性、人間の脳 (ちくま学芸文庫)
上記に加えて必要に応じて適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの評価（30 %）と期末試験の成績（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質疑などの機会をより多く設け，学生からの質問を生かした内容も取り入れたい。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to introduce students to the major theories of personality, evolutional psychology and behavioral genetics. The course also focuses on the research methods used to test these theories. The course covers questions such as; What is personality? Nature or Nurture? How is personality studied? What are the implications and consequences of classical theories of personality? A major aim of this course is that integrating these different perspectives, you could begin to apply them in the real world, and find interesting new ways to think about your everyday experiences.

HSS300JB

地域リハビリテーション

熊坂　隆行

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域リハビリテーション（日本リハビリテーション病院・施設協会）とは、障害のある人々や高齢者およびその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてであると定義されています。
本講義では、それらの活動、取り組み、その環境について学習いたします。

【到達目標】
1) 地域リハビリテーションの定義について理解することができる。
2) 地域リハビリテーションの活動について理解することができる。
3) 地域リハビリテーションに関わる制度について理解できる。
4) 介護予防について理解することができる。
5) 自らが考える介護予防について資料を作成し、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、グループワークで構成されています。講義の内容の理解を深めるために、課題レポートを行ないます。
学生が主体的に「問い」を発し、その「答え」を個人およびグループで発見、検討していく形式で進めいきます。参考資料を紹介し、多面的に理解する機会を提供いたします。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	地域リハビリテーションとは 1	地域リハビリテーションの定義
第 3 回	地域リハビリテーションとは 2	地域包括ケアシステム
第 4 回	地域リハビリテーション活動 1	基本姿勢、基盤づくり、直接的支援活動、組織化活動
第 5 回	地域リハビリテーション活動 2	連携、教育・啓発活動、専門職の仕事、4 つのバリアとリハビリテーション活動
第 6 回	制度と地域リハビリテーション	老人保健法、介護保険法、障害者総合支援法
第 7 回	介護予防 1	自分が考える介護予防 1
第 8 回	介護予防 2	自分が考える介護予防 2
第 9 回	介護予防の手法と尊厳のあるケアついて 1	介護予防の手法と尊厳のあるケアについてグループ討議 1
第 10 回	介護予防の手法と尊厳のあるケアついて 2	介護予防の手法と尊厳のあるケアについてグループ討議 2
第 11 回	介護予防の手法と尊厳のあるケアついて 3	介護予防の手法と尊厳のあるケアについてグループ討議 3
第 12 回	介護予防の手法と尊厳のあるケアついて 4	介護予防の手法と尊厳のあるケアについて発表 1
第 13 回	介護予防の手法と尊厳のあるケアついて 5	介護予防の手法と尊厳のあるケアについて発表 2
第 14 回	諸外国のリハビリテーションと代替療法	アニマルセラピーとリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
大田仁史：地域リハビリテーション原論 Ver.6. 医歯薬出版株式会社、東京、2014.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

【Outline and objectives】
Even if people with an obstacle, a senior citizen and the family live for a long time, a vivid life will work on sou activity and learn about its environment in safety for life with the people who live there.

PSY300JC

心理検査法特講

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、知能検査を中心に比較的難度の高い心理検査を取り上げ、検査器具を用いた実習を通して、各検査の正しい実施方法を学ぶとともに、検査結果の解釈と報告等について学習します。

【到達目標】
知能検査を中心に、比較的難度の高い心理検査を実施し、基礎的な解釈を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
知能検査を中心として代表的な心理検査を取り上げ、実習を通して正しい実施法を学ぶとともに、検査結果の解釈法についてに学習します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	認知発達と知能検査に関する理論と検査法	認知発達と知能検査に関する検査法について、その理論を中心に概説する。
2	知能検査法 1（WISC －Ⅳの理論）	児童期の知能検査として、WISC －Ⅳの理論を学習する。
3	知能検査法 2（WISC －Ⅳ実施法）	児童期の知能検査として、WISC －Ⅳの実施法を学習する。
4	知能検査法 3（WISC －Ⅳの基礎的解釈）	児童期の知能検査として、WISC －Ⅳの基礎的解釈について学習する。
5	知能検査法 4（WAIS －Ⅳの実施法）	成人期の知能検査として、WAIS －Ⅳの実施法を学習する。
6	知能検査法 5（WAIS －Ⅳの基礎的解釈）	成人期の知能検査として、WAIS －Ⅳの基礎的解釈を学習する。
7	知能検査法 6（KABC-Ⅱの理論）	幼児・児童期の知能検査として、KABC-Ⅱの理論を学習する。
8	知能検査法 7（KABC-Ⅱの実施法）	幼児・児童期の知能検査として、KABC-Ⅱの実施法を学習する。
9	知能検査法 8（KABC-Ⅱの結果の整理）	幼児・児童期の知能検査として、KABC-Ⅱの結果の整理について学習する。
10	知能検査法 9（KABC-Ⅱの基礎的解釈）	KABC-Ⅱの各指標の数値の内容について学習する。
11	解釈法と援助への展開 1（検査結果の統合）	検査結果の統合について学習する。
12	解釈法と援助への展開 2（支援方法への展開）	総合的解釈と支援方法への展開について学習する。
13	解釈法と援助への展開 3（総合的解釈から援助計画の立案）	検査結果に基づく総合的解釈から援助計画の立案について学習する。
14	解釈法と援助への展開 4（事例検討）	解釈法と援助への展開について、事例に基づき学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理検査法を実習形式で学習しますので、授業を受講する前に、当該領域の心理学的知見について、あらかじめ復習しておく必要があります。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考資料を適宜お知らせします。

【参考書】
参考資料を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）
期末のレポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
映像教材を用いるなどして、心理検査についてより具体的なイメージを持って実習することができるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
本講義の内容を十分に理解するために、春学期の心理的アセスメントと合わせて履修することを推奨します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we aim to learn psychological tests, which are relatively difficult, centered on intelligence tests, and learn how to perform each test correctly through training using test equipment, as well as learn how to interpret and report test results.

ENG300JB

都市とコミュニティ

保井　美樹

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市には、高層ビル群、密集市街地、郊外など様々な場所が含まれる。本講義では、都市の物的・社会的環境がどのように形成され、そこでどんなコミュニティが発達してきたかを学ぶとともに、政府・市場・非営利各セクターの取組み、将来に向けた課題を検討し、今後の持続可能な都市の発展に必要な視点を獲得することを目的とする。

【到達目標】
都市の形成や発展についての基礎的知識を得ると共に、様々な課題についてのアプローチを学び、受講者それぞれが、自分なりの考え方を確立して、自身の将来に活かせるようにすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する。毎回、授業の理解を確かめる宿題を課し、感想・意見を書いてもらったり、テーマに関する小作業を行ってもらう。受講生は、日ごろから新聞等で都市や環境についての社会の動向に関心を持つことが求められる。原則として授業はオンデマンドで行う。課題へのフィードバックは、提出物の紹介と全体に向けての講評を中心に各回の授業の始め及び最終回の授業にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とコミュニティに関する現代的課題	都市とは何か、コミュニティとは何かを考える。
第 2 回	都市の成り立ち、都市と環境に関する問題の発生と歴史的変化	都市の歴史的発展と都市問題の変遷を探る。
第 3 回	欧米における都市づくりの思想	近現代における主要な都市思想を解説し、日本への影響を検討する。
第 4 回	日本における都市づくりの思想〜東京の成立と発展	日本における近現代都市の成り立ちについて、特に東京を事例として解説する。
第 5 回	日本における都市づくりの発展〜都市計画の始まり	日本における都市づくりの法制度の始まりとその後の発展について解説する。
第 6 回	都市づくりの仕組みと課題　前半	都市計画の基本的仕組み、課題、展望を整理し、議論する。
第 7 回	都市づくりの仕組みと課題　後半	都市計画の近年の課題と取り組みを解説し、その論点を問う。
第 8 回	都市におけるコミュニティ・地域社会の概念	都市の多様なコミュニティを探り、それに関する理論や課題について解説する。
第 9 回	人口減少時代の都市づくりを進める連携	成長期と異なる都市マネジメントの様相を解説し、新しい官民連携とガバナンスの展開について解説する。
第 10 回	小地域でのまちづくり〜プレイスメイキングとエリアマネジメント	ステークホルダーが、自らの身近な地域のまちづくりに関わる仕組みを検討する。
第 11 回	エリアマネジメントビジョンの実践 (1)	ケーススタディを通じて、実際のエリアマネジメントの進め方を理解できるようにする。
第 12 回	エリアマネジメントビジョンの作成 (2)	ケーススタディを通じて、実際のエリアマネジメントの進め方を理解できるようにする。
第 13 回	プレイスメイキングの活動	地域の構成員にとって特別な「居場所」づくりをいかに進めるかを事例を通じて解説する。
第 14 回	課題のフィードバックと全体まとめ	授業を通じて行なった課題について解説し、提出物の一部を紹介しつつ講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に配布する教材を参考に、身の回りで起きている都市とコミュニティに関する課題を考える。その結果は、適宜、授業内で発表してもらう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義内において配布または紹介する。

【参考書】
必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題　65%
平常点（リアクションペーパー）35%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解度を見ながら、授業の進行速度を適切にするよう努める。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
Cities are constituted with various neighborhoods including central business districts, inner cities and suburban residential areas. In this lecture, students first learn basic urban planning theories and mechanism as well as characteristics of urban communities. After that, students are expected to acquire new perspective of urban planning and approach to urban problems.

PSY300JC

精神分析学

中　康

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性的発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】
精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。オンライン授業の場合は、zoom を用いて講義を行い、資料は学習支援システムで提示する。毎回の授業でディスカッションの時間を設け、その中で必要なフィードバックを行い、またリアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスメルの磁気術、ブロイエルとアンナ O。
第 2 回	精神分析学の誕生②	ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ。転移の認識。
第 3 回	フロイトの夢判断	夢の作業について。
第 4 回	心の局所論と構造論モデル	意識・前意識・無意識、超自我・自我・エス。
第 5 回	精神性的発達 ①	口唇期、肛門期、幼児性器木、潜伏期について。
第 6 回	精神性的発達②	思春期青年期、超自我の構造的変化、性器統裁と対象選択について。
第 7 回	精神分析療法と精神分析的精神療法①	精神分析療法と精神分析的精神療法について。
第 8 回	精神分析療法と精神分析的精神療法②	精神療法の進め方。アセスメントと治療計画について。
第 9 回	契約	治療構造、治療契約について。
第 10 回	退行	治療的退行について。
第 11 回	抵抗	抵抗の形式と抵抗解釈について。
第 12 回	転移と逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について。
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化について。
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合は、期末試験 (80%)、リアクション・ペーパー (20%) にて評価する。
オンライン授業の場合は、平常点 (50%)、課題についてのレポート (50%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、PC を使用して zoom を介して行う。

【その他の重要事項】
精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline and objectives】
The Freud's theory of psychoanalysis is a system of the scientific hypothesis to understand the human mind. A hypothesis of psychodynamic psychoanalysis is a concept which reflects the minds of people at an unconscious level. We will try to understand the states of mind by learning the psychological theories of Sigmund Freud, specifically surrounding the topics of unconsciousness, structure model, psychosexuaual development, parent - child relation, therapist-client relation, and therapeutic alliance.

ASS300JB

農山村とコミュニティ

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】
講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第 2 回	むらの変化―過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第 3 回	むらの変化―都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第 4 回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第 5 回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第 6 回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 7 回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 8 回	農の担い手―農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第 9 回	開発と環境―景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第 10 回	消費される農村と地域づくり	ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑの展開と課題
第 11 回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第 12 回	新しいコミュニティづくりの試み―地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第 13 回	新しいコミュニティづくりの試み―「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習には、各２時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
VTR なども交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will understand the regional structure of rural areas, consider the social problems that rural areas have faced up to now, and explore regional development that has been tried as a solution.

PSY300JC

投映法特講

須永　聖大

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投映法を中心とした心理検査の種類と意義に着目し、各種心理検査の理論および解釈を学ぶと共に、被検者の心理的体験について理解する。

【到達目標】
代表的な質問紙法と投映法の種類と意義を把握し、各種心理検査の理論および解釈について説明することができる。被検者体験を通して被検者の心理を理解し、自分自身で検査結果の整理を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
代表的な質問紙法と投映法の心理検査について理論的学習と被検者体験を行う。講義内で体験した各種心理検査の採点・解釈の方法を解説し、学生自身に実施してもらう。リアクションペーパーやグループディスカッションで理解度を確認する。リアクションペーパー等の課題に対するフィードバックは講義内で適宜行う。授業形式は対面授業を基本とするが、新型コロナ感染症行動指針レベルの変化に伴う授業形式や授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	投映法を学ぶということ	オリエンテーション
第 2 回	質問紙法概論	質問紙法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 3 回	矢田部ギルフォード性格検査（YG 性格検査）	YG 性格検査を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 4 回	東大式エゴグラム（TEG）	TEG を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 5 回	ミネソタ多面的人格目録（MMPI）	MMPI を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 6 回	投映法概論	投映法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 7 回	絵画欲求不満テスト（P-F スタディー）	P-F スタディーを体験し、理論と解釈を学ぶ
第 8 回	文章完成法（SCT）	SCT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 9 回	描画法	バウムテスト、HTP 等の描画法を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 10 回	絵画統覚検査（TAT）	TAT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 11 回	ロールシャッハテスト①	集団ロールシャッハテストを体験する
第 12 回	ロールシャッハテスト②	ロールシャッハテストの理論と解釈を学ぶ
第 13 回	臨床場面における質問紙法と投映法	臨床場面での質問紙法と投映法の活かし方を学ぶ
第 14 回	学期末試験・まとめと解説	学期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で体験した心理検査を自分で採点・解釈し、講義内容の理解を深める。また、授業外で心理検査に関するレポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。
適宜、講義内で参考文献を紹介し資料を配布する。

【参考書】
適宜、講義内で参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）および平常点（40 %）の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
体験学習の希望が多いため、被検者体験を中心に授業を実施する。

【その他の重要事項】
投映法は、クライエントが検査を受ける時にどのような気持ちになるか、クライエントが検査結果を聞いてどう捉えるかを理解することは重要で、それらの情報はアセスメントの重要な材料ともなります。したがって、理論的学習だけではなく体験的学習への積極的な取り組みを期待します。

【Outline and objectives】
This course offers an overview of the history, meaning and variety of psychological tests including projective tests. Students are expected to master theories and interpretation of each tests to understand client's psychological tendencies through test training. This course is designed for undergraduate students who may major in clinical psychology and serves as a foundation for graduate level courses in projective technique.

CUM300JB

文化環境創造論

須田　英一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】
文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
文化環境とは何か、地域社会 (コミュニティ) の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み (7)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】
馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①成績評価方法
・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
②評価基準
・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】
地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】
This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society.

PSY300JC

臨床心理学特講

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】
この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解します。あわせて、それらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピやベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	レポート課題とレポートの書き方について	レポート課題を示し、レポートの書き方について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】
In this lesson, through reading comprehension of the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, you learn major theories and methods of clinical psychology.

SOW300JB

福祉サービスの組織と経営

千葉　正展

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の多様化・複合化した福祉課題に対してソーシャルワーク実践を行うためには、福祉サービスを事業として持続可能とする経営の基盤づくりメカニズムを理解しなければならない。受講生はこの講義を通じて福祉サービスの組織と経営の考え方を学ぶ。

【到達目標】
本講義では、「1. 福祉経営の特殊性と諸制度を確認」し、「2. 福祉サービス経営に関する基礎理論の理解」、「3. 福祉財務管理の理解」を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　経営や経済に関する関連科目が少ない学部であることも踏まえ、できるだけ具体的な現場事例や行政資料などを参照しながら、講義形式で授業を進める。毎授業後に学習支援システムを使う等の方法でミニテストを行い、その結果の解説や課題に寄せられた質問へのフィードバックを次回の授業において解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	【第１部】福祉サービス・福祉経営	経営の定義を考え、福祉経営の特殊性を見る。
第 2 回	福祉サービスの担い手	社会福祉法人制度など福祉サービスの担い手を見る。
第 3 回	福祉サービスの財源	施設整備や運営費財源を見る。
第 4 回	【第２部】経営管理の基礎理論①	科学的管理法・人間関係論を見る。
第 5 回	経営管理の基礎理論②	バーナードの組織論を見る。
第 6 回	経営管理の基礎理論③	ファヨールらの管理過程論を見る。
第 7 回	経営管理の基礎理論④	チャンドラーの経営組織戦略とコンティンジェンシー理論を見る。
第 8 回	経営管理の基礎理論⑤	経営戦略論の発展を見る。
第 9 回	経営管理の基礎理論⑥	ミッション経営を見る。
第 10 回	経営管理の基礎理論⑦	マーケティング論の形成とその発展を見る。
第 11 回	経営管理の基礎理論⑧	品質管理やリスクマネジメントを理解する。
第 12 回	経営管理の基礎理論⑨	バランストスコアカード、ナレッジマネジメントを見る。
第 13 回	経営管理の基礎理論⑩	モチベーション理論、リーダーシップ理論を見る。
第 14 回	【第３部】福祉財務諸表論入門	社会福祉法人会計における財務管理の考え方を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
対面授業の場合は、要点のみ板書するので、教員が話す具体的な内容についても必ずノートに要約記述するとともに、次回の講義までに根拠資料を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック「福祉サービスの組織と経営」（近刊予定）

【参考書】
授業において適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点及び課題（上記）（50 %）と最終日の試験（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業開始時の前回講義のレビューが効果的だとの指摘が多かったので本年度も同様に実施。

【その他の重要事項】
社会福祉士試験での履修要件科目「福祉サービスの組織と経営」に相当します。

【Outline and objectives】
To practice the social work for diversified and complexed welfare issue at present, we must understand the managerial fundamentals that makes social welfare services effective and sustainable.Through this program, students will learn about the management theory of non-profits, including the social welfare corporations.

PSY300JC

健康・医療心理学

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心身の健康とは何かを広い視野で考え、またそれが損なわれる原因について理解すると共に、心身の問題に対する具体的な支援の在り方について学びます。援助法については、医療現場における心理援助職の役割と課題、医療現場で活用されている心理的援助法の理論や特徴について学んでいきます。

【到達目標】
心身の健康とそれが損なわれる要因との関係を理解しつつ、さまざまな心身の問題に対する支援の在り方、医療現場における心理的援助の役割と課題、具体的な方法論について説明できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、心身の健康とそれが損なわれる要因、また心理的援助の在り方、医療現場における心理専門職の役割などについて理解を深めていきます。その際には、実際の医療現場で生じる問題などを紹介しつつ、支援における課題などについてリアクションペーパーを用いながら共有していきます。
授業の後半では、医療現場で活用されている援助法として森田療法と認知行動療法を取り上げ、それぞれの理論や具体的な介入方法について学んでいきます。視聴教材なども取り入れ、東洋で生まれた心理療法と西洋で生まれた心理療法の比較も行いながら理解を深めていきます。
授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、心身の健康とは	講義の内容について説明したのち、心身の健康およびそれが損なわれた状態について概説します。
第 2 回	ストレスと心身の疾病との関係	ストレスが心身の疾病にどのような影響を及ぼすかを概説します。
第 3 回	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援①	心理社会的課題を原因とする心身の問題について（医療現場から）概説します。
第 4 回	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援②	医療現場における心理援助職の役割および支援法について概説します。
第 5 回	保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援	心理社会的課題を原因とする心身の問題（保健活動が行われている現場から）と支援について概説します。
第 6 回	災害時に必要な心理に関する支援	災害時に生じる心身の問題と支援法について概説します。
第 7 回	森田療法について①	森田療法の精神病理仮説について概説します。
第 8 回	森田療法について②	森田療法の実際（入院森田療法）について概説します。
第 9 回	森田療法について③	森田療法の実際（外来森田療法）について概説します。
第 10 回	森田療法について④	森田療法の実際（日記療法）について概説します。
第 11 回	認知行動療法について①	行動療法の理論と実際について概説します。
第 12 回	認知行動療法について②	認知療法の理論と実際について概説します。
第 13 回	森田療法と認知行動療法の比較	森田療法と認知行動療法の異同について概説します。
第 14 回	授業のまとめ・試験	試験および全体の振り返りとまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活において、心理社会的問題と心身の問題との関連を振り返ること。また毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書などから実際の事例に触れ、理解を深めるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介します。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点および学期末試験によって評価します。
学期末試験（80 %）、平常点およびリアクションペーパー（20 %）の合計で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーなどを活用し、相互交流が図れるように工夫していきたいと思います。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、医療現場における心理学的理解や支援について事例経験・事例紹介を盛り込みつつ解説していきます。

【Outline and objectives】
Mental and physical health from a broad perspective: understanding factors detrimental to health and learning practical strategies to help people cope with mental and physical problems
Discussion of helping skills include the role of psychological assistance practitioners in medical settings and issues in providing help, and the theory and characteristic of psychological assistance applied in medical settings.

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口　邦史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	同上② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	富士ゼロックスの CSV、その光と影
9	CSV またはプロジェクトマネジメントケーススタディ	企業の実務家によるゲストセッションを予定
10	コミュニケーション技術について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	SDGs を正しく理解する（カードゲームを実施）
12	演習②	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.1
13	演習③	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.2
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では事前レポート（A4 1 枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠野みらい創りカレッジ編著「SDGs の主流化と実践による地域創生」水曜社；まち創り叢書

【参考書】
講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点　80 %（講義への参画度合 30 %、課題レポート 50 %）、最終レポート 20 %で評価し、グループワークへの貢献等で加点する。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

PSY300JC

認知行動療法

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの 3 つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第 2 回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポンデント学習）と行動療法の関連を考えます。
第 3 回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第 4 回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第 5 回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第 6 回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第 7 回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第 8 回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第 9 回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第 10 回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第 11 回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第 12 回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第 13 回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーを取り上げます。
第 14 回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】
これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline and objectives】
The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永　洋子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】
ソーシャルファイナンスの概要を学ぶとともに、社会の課題解決に必要な資金の調達について、身近な事例をもとに具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式。参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代までの事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の行動と心理の可視化
第 6 回	ドナーピラミッド	団体寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大や継続率を高める手法
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	コミュニテイ財団とコレクティブインパクト	地域コミュニティ財団の概要と、多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念
第 13 回	社会的インパクト評価	説明責任と事業改善のために行う社会的インパクト評価の手法
第 14 回	エピローグ	まとめとミニレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題はありませんが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「非営利団体の資金調達ハンドブック」　徳永洋子著　時事通信社 2400 円
https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０%）、ミニレポート（８０%）

【学生の意見等からの気づき】
卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに限らず、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしていきます。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues.

In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

PSY300JC

産業・組織心理学

小林　由佳

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援を学ぶとともに、組織における人の行動について理解する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりである。
・職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できること
・組織における人の行動について概説できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、授業内での発表やディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れながら進めていく。対面授業を基本とする。状況により方法の変更が必要となるときは、学習支援システムで提示する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価について伝達する
第 2 回	産業・組織心理学への導入	授業内容の全体を示す
第 3 回	産業・組織心理学の歴史と発展	歴史と発展、課題を講義する
第 4 回	産業分野の心理的問題①	ストレス関連問題について検討する
第 5 回	産業分野の心理的問題②	精神疾患関連問題について検討する
第 6 回	産業分野の心理的問題③	キャリア関連問題について検討する
第 7 回	産業分野の心理的問題④	職場のメンタルヘルスに関する問題について検討する
第 8 回	産業分野の心理的支援①	産業・組織分野における心理学的アセスメントについて解説する
第 9 回	産業分野の心理的支援②	産業心理臨床・産業カウンセリングについて解説する
第 10 回	産業分野の心理的支援③	キャリアコンサルティングについて解説する
第 11 回	産業分野の心理的支援④	EAP やその他の支援、産業心理臨床の課題について解説する
第 12 回	組織における人の行動①	職場集団のダイナミクスとリーダーシップ理論について解説する
第 13 回	組織における人の行動②	組織における人の心理と行動について解説する
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめを行い、試験の実施方法等を伝達する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関連した発展課題を指示するので、毎回の授業の間にそれに取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
参考書は授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発展課題（50 %）＋期末試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
発展課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める。

【Outline and objectives】
Students will learn theories about organizational behavior and enhance their understanding about problems and support in occupational life. Classes consist of lectures and discussion. They will also learn about common problems in career formation.

PSY300JC

社会心理学 I

土倉　英志

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会心理学は，他者や集団との関わりにおける人びとの認知，感情，行動を探究する学問である。本講義では，社会心理学の多様な研究テーマのうち，他者や社会的事象に関する認知，他者から受ける影響，他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて，代表的な知見を解説する。

【到達目標】
・社会心理学の基本的な知見を理解する
・社会心理学の研究手法を理解する
・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり，グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容の理解に努め，次回の講義までに復習を行なう。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書はなし。

【参考書】
・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）. 有斐閣.
・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。課題には授業内で実施するテストやレポートが含まれる。
・日々の取り組みが重要となる。
・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】
・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline and objectives】
Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

MAN300JB

協同組合論

阿高　あや

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、協同組合の基本原理、歴史的発展と今日の機能、さらに地域社会や国際的な諸問題における役割について学ぶ。

【到達目標】
協同組合についてその目的と機能を理解した上で、協同組合とどのように接していくかを主体的に考える力を身に付けることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式であるが、適宜、受講生との口頭でのコミュニケーションを求める。授業内での質問に対する回答や、毎回の授業後のリアクションペーパーにおいて、自分なりの授業の受け止めと実生活・実社会との関連付けが表明されるようなコメントが本講義の理解に直結する。対面講義の際には毎週、リアクションペーパーに朱書きでフィードバックを行なっているが、オンライン講義の際には授業終了 10 分前を質問時間とし、Zoom にて個別のフィードバックを行なったりメールで回答をしたりする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	協同すること・協同組合の定義・価値・原則について	協同と共同・協働の違いや自助・共助・公助／協同組合の原則について学ぶ
第 2 回	公共私セクターと社会的連帯経済について	それぞれの目的や資本や運営主体の相違について把握する
第 3 回	資本主義の台頭とロバート・オウエンについて	イギリスの協同組合の台頭について学ぶ
第 4 回	フランス・ドイツ（ライファイゼン）について	フランスやドイツの協同組合の興りについて学ぶ
第 5 回	日本の村落における共同体組織について	結・講・手間替えなど日本型共同体組織を学ぶ
第 6 回	賀川豊彦について	賀川豊彦の理念とその影響について学ぶ
第 7 回	農業協同組合について	日本の JA グループの総合事業性（営農・経済・信用・共済・厚生など）について学ぶ
第 8 回	生活協同組合について	日本の生協の事業と活動について学ぶ
第 9 回	漁業と漁業協同組合について	日本の漁業の現状と漁業協同組合の役割について学ぶ
第 10 回	林業と森林組合について	日本の林業の現状と森林組合の役割について学ぶ
第 11 回	労働者協同組合について	ワーカーズコープについて学ぶ
第 12 回	協同組合間の協同について	協同組合間協同の事例と効果について学ぶ
第 13 回	協同組合と SDGs の相関	国連「持続可能な開発目標（SDGs）」と協同組合との相関を学ぶ。
第 14 回	協同組合の今日的課題	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会の中に見られる協同に関心を持ち、授業を通じて得た知識とともに世相を読み解こうとする姿勢を保ち、自らの考えを授業内で発言する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「1 時間でよくわかる SDGs と協同組合」日本協同組合連携機構編、家の光協会、2019 年、660 円

【参考書】
必要に応じ、適宜、紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点として毎回のリアクションペーパー（60 %）で、期末レポート（40 %）。リアクションペーパーでは「協同組合についてその目的と機能を理解」度をはかり、期末レポートでは、「協同組合とどのように接していくかを主体的に考える力を身に付け」られるかをはかる。期末レポートは毎年、自分の住まいや地元などの一つの種類の協同組合について調査を行い、3,000 〜 4,000 字程度で、①協同組合の概要（立地、規模、沿革など）、②目的・理念、③事業内容、④地域の持続可能性との関連などについて報告をして頂く。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚教材を多用する。

【その他の重要事項】
対話を重要視する講義です。

【Outline and objectives】
In this lecture we will learn the basic principles of cooperatives, historical development and today's functions, as well as the role in community and international issues.

PSY300JC

社会心理学Ⅱ

土倉　英志

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会心理学は，他者や集団との関わりにおける人びとの認知，情動，行動を探究する学問である。本講義では，社会心理学の多様な研究テーマのうち，文化と心理の関連性，文化的道具論，制度アプローチ，ステレオタイプと偏見，現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて，代表的な知見を解説する。

【到達目標】
・社会心理学の基本的な知見を理解する
・社会心理学の研究手法を理解する
・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり，グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学，集団社会心理学・グループ・ダイナミックスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
5	活動理論と分業	人びとのあいだで分割される活動とその課題
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
9	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容の理解に努め，次回の講義までに復習を行なう。
・グループワーク課題に取り組む。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書はなし。

【参考書】
・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』．新曜社.
・ドナルド・ノーマン（1990）『誰のためのデザイン？』．新曜社.
・レイヴ＆ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』．産業図書.
・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。
・試験は実施しないため、毎回の取り組みが重要となる。
・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】
・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
・春学期の学習を前提に授業を進めるため，あわせて受講することをすすめます。

【Outline and objectives】
Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOW300JB

災害支援論

青木　信夫、松井　正雄、正谷　絵美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では 13 回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に高性能サーボモーターにより３次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
2	防災講話 ・東日本大震災に学ぶ（大川小学校、釜石の奇跡）	・東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
3	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／ AED 操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫と AED 操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る
4	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問に YES または NO で答え、自分ならどのように対応するかを考える。
5	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
6	気象と災害	・近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響などについて理解する。
7	避難所 HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える
8	気象情報の活用と避難支援	・災害の危険度を示す情報を活用し、災害時に取るべき判断・行動と共に、避難のタイミングと要援護者への支援を考える。
9	ワークショップ	・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
10	防災講話 ・地域防災 （自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、被災者支援のあり方について知る。
11	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
12	図上演習 DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
13	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
14	①授業のまとめ ②秋学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
秋学期定期試験 50%、平常点 30%、レポート 20%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline and objectives】
Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

SOW300JB

人権活動論

寺中　誠

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。
【授業の目的・意義】
人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】
・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人権論入門 I 人権とは何か	人権の基本構造の理解。人権活動のデザイン手法。
第 2 回	人権論入門 II 「社会問題」としての「人権問題」	構築主義の立場を参考に「人権問題」を理解してみる。
第 3 回	人権論入門 III 解決策としての人権アプローチ	権利―義務関係と「権利基盤アプローチ」。福祉と人権の性格の違い。
第 4 回	依存論 I 人権論から考える信頼と依存のダイナミクス	「依存」と「自立」の問題を人権の観点から捉えなおしてみる。
第 5 回	依存論 II 薬物依存からの立ち直りをめぐる検討	「薬物依存」に対するハームリダクション。
第 6 回	刑罰と人権 I 刑事施設の福祉化と福祉の刑罰化	刑罰及び刑事施設の歴史と福祉政策。
第 7 回	刑罰と人権 II 死刑問題をめぐる世論	死刑存廃に関する世論の実態についてのワークショップ
第 8 回	貧困と人権 I 生活保護等の領域と人権	現在の福祉政策実務の現状と課題。
第 9 回	貧困と人権 II 相対的剥奪／社会的排除	スラム解消などを基本とした政策のデザイン。
第 10 回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第 11 回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第 12 回	国際人権活動 I 国連の特別手続・条約監視機関	人権条約体制と人権の国際的実施の各種手順。
第 13 回	国際人権活動 II 報告書審査制度	条約機関による審査に向けた準備作業実践。
第 14 回	人権活動のための組織論	アドボカシーと活動デザイン。国内人権機関。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に定めませんが、申惠ボン「国際人権入門」（岩波新書： 2020 年刊、800 円+税）を基本文献とします。

【参考書】
。「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
http://www.teramako.jp/housei.html 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60 %）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline and objectives】
[Outline]
Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

PSY300JC

司法・犯罪心理学

西田　俊男

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪、非行、あるいは被害者支援などに対し、どのように理解していくのか理論を学び、さらに対応策としての処遇、そこに関わる心理師の役割などについて考えられるようにします。また、非行などの奥には家庭内の問題が潜んでいることが多いことから、生育史を含めた非行理解や家庭の理解を学び、犯罪などを主体的に考えられるようにします。

【到達目標】
犯罪、非行、被害者支援及び家事事件についての基本的事項を説明することができる。司法、犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援を考え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はパワーポイントを使って行い、随時学習支援システムによって課題レポートの提出を求めたりします。また、社会で起きた犯罪や非行等の事件を取り上げ、授業の内容に絡めなぜ起きたのか考察します。そして、授業内容に関連した公認心理師試験も取り上げます。
毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求め、出席カードの代わり及び講師とのコミュニケーションツールとして使い、次回必要に応じてリアクションペーパーの内容を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、犯罪・非行の状況	犯罪・非行全体について概説し、その実態をみていきます。
第 2 回	罪種別に非行の動機・心理を探る	前回の残りと各事件別の動機・心理をみていきます。
第 3 回	犯罪心理学の系譜、原因論 (1)	前回の残りと生物学的原因論、心理学的原因論について学びます。
第 4 回	犯罪心理学の系譜、原因論 (2)	心理学的原因論について学びます。
第 5 回	犯罪心理学の系譜、原因論 (3)	家族理論、社会学的原因論について学びます。
第 6 回	新しい犯罪心理学	エビデンスに基づく犯罪対策の潮流と先行研究に対するメタアナリシス、犯罪の危険因子（セントラルエイト）、RNR 原則等について学びます。さらに BPS の視点について学びます。
第 7 回	少年事件の流れ、家庭裁判所での事件処理	少年法の目的、検挙から送致、家庭裁判所での事件処理の流れについて学びます。
第 8 回	家庭裁判所の調査と処遇	BPS の視点について、さらに深めます。また、家庭裁判所調査官の調査と試験観察について学びます。
第 9 回	保護観察と少年院の処遇	保護観察所及び少年院での指導・助言、処遇プログラムなどについて、心理師としての関わりを学びます。
第 10 回	成人事件と裁判員裁判制度	地方裁判所での事件処理、刑務所、裁判員裁判制度について学びます。
第 11 回	事例によるケース理解（演習形式）	事例について、班別でなぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などについて討議、発表します。
第 12 回	事例によるケース理解（演習形式、その２）	前回の討議に続き、事例理解を深め、さらに更生について討議、発表します。
第 13 回	被害者配慮制度、動機付け面接と司法面接	被害者保護に関して、その制度、警察、検察段階での心理師としての関わりについて学びます。さらに、相談援助、非行防止に関する地域社会への情報提供のあり方について学びます。また、動機付け面接と司法面接についても学びます。
第 14 回	多様な家族	離婚について、その制度を学び、離婚、面会交流、ハーグ条約、子の引き渡しなどについて心理師としての見方、関わり等を考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で配布したパワポ資料を元に復習を行います。また、次の授業への連続性から配付資料の予習も行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業態度・発表：５２％
レポート課題の提出・評価：４８％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを踏まえ、改善します。また、配付資料などは、後にダウンロードできるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline and objectives】
We learn how to understand delinquency, support to victims, and how to deal with these problems and the role of the psychologists. In addition, we study the theory to grasp delinquency including background because it can cause crimes in many cases.　After class,we are capable of comprehending these crimes for ourselves.

MAN300JB

ＮＰＯ論

渡真利　紘一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業 (CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野の NPO 活動の考案や自由研究の発信を通じ、多面的な社会の捉え方や社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく安心していられる場を見つける／他者に対して寛容になる／仲間を持つ／社会に対して本音で向き合うことの重要性を認識する、などの機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPO に関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくるとともに、クラスメイトと協力し、自らの関心分野の NPO 活動を考案／発信していきます。授業形態は講義を主とし、受講者がグループ毎に課題検討を行う時間や NPO 活動に関する自由研究を発表する場を設ける予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、課題等に対するフィードバック方法は、授業で提出されたすべてのリアクションペーパーに対してコメントをフィードバックします．またその中から各回の授業で幾つかリアクションを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うことで、さらなる内容の理解に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージやコロナ禍の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を学生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO 組織の運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業 (CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介１「被災地における環境教育と復興」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介２「子どもと家族を社会が支える仕掛けづくり」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO に関する自由研究企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第 9 回	実践から考えるシリーズ「わたしの声をあげる」	Twitter デモやキャンペーンサイト等から声をあげる実践について取り上げ、マイノリティの立場に立脚した活動を考察する。
第 10 回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイジングや自主勉強会等のアプローチを取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第 11 回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPO の多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第 12 回	NPO に関する自由研究発表会１	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 13 回	NPO に関する自由研究発表会２	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 14 回	最終講義「市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーやクラスメイトとの雑談の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介した NPO の主催するイベントへ参加したり、NPO 活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 点、NPO 活動計画書 10 点、自由研究企画書及び発表 40 点。
平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトの関心分野を理解し、どのくらい協力して取り組めたか
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
なし
（注）オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline and objectives】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.
Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

PSY300JC

学習・言語心理学

金子　真人

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の到達目標は、学習心理学に関するさまざまな知見が日常生活の中で身近に存在すること、また身近な学習心理のメカニズムを実感し体験することにある。また、人の学習活動の中で特異的であることばの習得における学習の機序を言語心理学として学びを深めることを目的とする。

【到達目標】
学習・言語心理学では、基本的な用語の基礎的理解が理解が求められる。基礎的用語を具体的な例を挙げて説明できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
学習心理学の方法と知見は、人間のさまざまな行動メカニズムを理解する上で大いに役立ち、また経験してきたことでもある。基本的な学習・言語心理学の面白さが伝わるような講義にしたいと考える。同様に、「ことば」は人に固有の独特なメカニズムによって習得されていくことを多面的に説明していきたい。
なお講義はパワーポイントを利用する予定である。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習心理学とは	学習心理学の概説を通して学習心理学を大きく 2 つの理論的背景に分けて進めていく。
第 2 回	古典的条件づけとは	「反射」の概念を通して条件付けを考える。
第 3 回	古典的条件付けとその応用	日常生活にある古典的条件付けを考える。
第 4 回	オペラント条件づけとは,	「自発的」行動を基にした条件付けを考える。
第 5 回	オペラント条件付けとその応用	日常生活にあるオペラント条件付けを考える。
第 6 回	社会的学習と問題解決	人間の学習の特性を考え、モデリング理論の基礎を学ぶ。また、問題解決学習を日常生活で直面する問題と対比しながら基礎を学ぶ。
第 7 回	脳とことばの学習	人間の行動は脳の機能的な働きに依存していることを理解する。
第 8 回	言語の生得的な獲得	人間特有な言語の発達を霊長類の実験と対比しながら学ぶ。
第 9 回	言語の習得	人間特有な言語の発達と言語の障害について学ぶ。
第 10 回	読み書き	ことばを話すことと、読むことは大きく相違することを学ぶ。
第 11 回	言語障害：失語症	脳の優位半球と言語機能の関係について学ぶ。
第 12 回	学習障害：発達性ディスレクシア（発達性読み書き障害）	学習障害の本質を理解する。
第 13 回	記憶と忘却：記憶障害	記憶の基本的な概念を学ぶ。
第 14 回	まとめおよび試験	学習心理学と認知心理学、そして言語心理学の狭間を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に一般心理学の講義を受講し心理学の基礎的理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「グラフィック　学習心理学　行動と認知」　サイエンス社

【参考書】
レジメなどは必要に応じて適宜配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点
②試験方法　定期試験を実施する。
③採点基準　定期試験 60%、授業への積極的参加などの平常点を 40 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントなどが見にくいことがあるので、前方席への着席をお願いする。また、講義内ではレジメを配布するがレジメの文字が小さいこともある。講義中に内容を理解し積極的に質問をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The goal of this lecture is to have various knowledge about learning psychology close to everyday life. In addition, we aim to deepen learning as a language psychology such as learning mechanism in acquiring words in specific human learning activities.

SOW300JB

居住福祉論

大原　一興

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】
居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定３〜２級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。実例調査レポートの作成。
基本的に隔週、第２回目以降は２時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。
第１回　　：４月１３日　4 時限
第２・３回：４月２７日　4・5 時限
第４・５回：５月１１日　4・5 時限
第６・７回：５月２５日　4・5 時限
第８・９回：６月　８日　4・5 時限
第 10・11 回：６月２２日　4・5 時限
第 12・13 回：７月　６日　4・5 時限
第 14 回　　：７月２０日　4 時限　基本的に対面授業での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第 2 回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第 3 回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第 4 回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第 5 回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた ICF の考え方
第 6 回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第 7 回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第 8 回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第 9 回	ハウスアダプテーション・住宅改造 福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第 10 回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第 11 回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第 12 回	コハウジング　共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第 13 回	コハウジング　共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第 14 回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料や参考資料の予習
常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。
レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】
野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定１，２，３級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】
平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）(70 %)、レポート (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
2 時間続きの授業のため、講義のみ続けて行うと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline and objectives】
Learning the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

PSY300JC

心理学研究法

腰冢　由子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学では目に見えない「心」を測定するために様々な研究の手法が考案されている。本講義では，卒業研究に向けていくつかの研究法に関する知識，およびスキルを身につけることを目的とする。また，授業後半では学生自身が興味を持った研究を自ら探し，発表する機会を設定しているため，先行研究の検索方法やプレゼンの仕方など，今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得を目指す。

【到達目標】
「心」を測定するとはどういうことかを理解し，心理測定の基礎知識およびノウハウを身につける。卒業研究を行うための基礎的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習によって進めていく。第 13 回の授業では，グループに分かれ，各々が個別に読んだ論文についてグループ内で発表し合う。毎回の授業では出席を取り，リアクションペーパーへの記入を求める。時折宿題を出すこともある。5 回以上欠席した場合には単位の認定を行わない。
課題およびリアクションペーパーのフィードバックは次回授業開始時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方および成績評価に関する説明
第 2 回	心理学の歴史	心を測るとは／心理学の歴史と研究史
第 3 回	心理測定法	よい研究とは／質的研究と量的研究／独立変数と従属変数
第 4 回	データベースについて	データベースの利用と文献検索方法
第 5 回	観察法	観察法の概要と長所・短所／観察法に関する先行研究の購読
第 6 回	面接法	面接法の概要と長所・短所／面接法に関する先行研究の購読
第 7 回	実験法①	実験法の概要と長所・短所／実験法に関する先行研究の購読
第 8 回	実験法②	実験デザイン／研究倫理について
第 9 回	調査法①	調査法の概要と長所・短所／調査法に関する先行研究の購読
第 10 回	調査法②	質問紙法／ KJ 法の体験・質問項目の作成
第 11 回	データの分析①	記述統計／ t 検定／分散分析
第 12 回	データの分析②	因子分析／重回帰分析
第 13 回	先行研究内容発表会	興味を持った研究内容の発表
第 14 回	総括	第 13 回までの授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の中で扱える内容は全体の一部である。「知りたい」という気持ちを大切に，気になった事柄は授業外の時間に進んで調べ，知識を深めて欲しい。なお，授業内容を振り返る復習の宿題を出すこともあるので，積極的に取り組んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
心理学研究法入門　南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦 編　東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，発表資料（レポート）30 %，テスト 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
進行のスピードやレジュメなど授業資料の見やすさに学生が注目していることが分かりましたので，より良い授業となるよう改良を加えていきたいと思います。

【その他の重要事項】
本授業の内容は，秋学期の心理測定法における実習の基礎となります。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to acquire knowledge and skills on several research methods for research.
Also, let students themselves find interesting studies themselves.
Students will learn how to search and present　previous research.

This course is to acquire skills necessary for future learning and research of psychology.

PSY300JB

発達心理学

前田　基成

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトが発達するというのはどういうことなのか。ヒトが生まれてから死ぬまでの発達過程と発達課題について理解する中で、自分自身の成長と発達についての理解も深めます。

【到達目標】
受精から死に至るまでのヒトの発達の特徴と発達課題について理解できる。ヒトの発達過程と発達の可能性およびそれに影響を与える要因について理解できる。自分自身のこれまでの発達過程とこれからの発達の可能性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に授業を行いますが、必要に応じて映像資料を用います。また小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯発達	誕生から死までの生涯を通しての発達の概要について学習する。
第 2 回	遺伝と環境	人間の発達に及ぼす遺伝と環境の影響について学習する。
第 3 回	乳幼児期の発達	乳児期と幼児期の発達の特徴について学習する。
第 4 回	児童期の発達	児童期の発達の特徴について学習する。
第 5 回	青年期・成人期の発達	青年期と成人期の発達の特徴について学習する。
第 6 回	老年期の発達	高齢者の心理について学習する。
第 7 回	知能の発達	幼児期から老年期までの知的能力の発達・変化について学習する。
第 8 回	言語の発達	乳児期から児童期に至るまでの言語の発達について学習する。
第 9 回	認知の発達	乳児期から児童期、および老年期における認知機能の発達について学習する。
第 10 回	感情と情緒の発達	乳児期から青年期までの感情・情緒の発達について学習する。
第 11 回	人間関係の発達	自己と他者との人間関係の生涯発達について学習する。
第 12 回	社会的行動の発達	自己と社会との関係である社会性の発達について学習する。
第 13 回	性意識と性的行動	異性に対する性意識と性的行動の発達について学習する。
第 14 回	発達障害	自閉症、アスペルガー症候群、ADHD など非定型発達について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で扱った内容に関する新聞記事や文献等を調べること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点 70 %と平常点（小テスト）30 %を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to show students what does human development mean, and what process do people follow from the birth to the death. Human beings have developmental tasks to be achieved at their developmental stage. In this class students will understand their developmental tasks and deepen their understanding of their own development.

PSY300JC

心理測定法

腰冢　由子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，質問紙調査の実施法，心理尺度の作成法について実践を通して学習していく。興味のあるテーマをもとにグループに分かれ，各班で設定したテーマについて質問紙を作成し，実施・分析・解釈・まとめを行う。

【到達目標】
質問紙作成の基礎を身につけ、今後１人でも調査研究が実施できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
心理測定法の１つ、質問紙法を用いた研究方法について，実習を行い学習する。授業最終回には，パワーポイントを用いた発表をグループ毎に行う。また，研究結果を各自レポートにて提出する。毎回、授業開始時に出席を取り、リアクションペーパーへの記入を求める。
課題およびリアクションペーパーのフィードバックは次回授業開始時に行う。
本授業は演習を基本としているため基本毎回出席を求める。
3 分の 2 以上の出席数を満たしていない場合には単位の認定を行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	授業の進め方について／グループ分け
第 2 回	研究計画／仮説の設定	興味ある調査内容の決定（各班で）
第 3 回	研究計画／仮説の設定	興味ある調査内容の決定（各班で）
第 4 回	尺度作成	質問項目の執筆（各班で）
第 5 回	質問紙作成１	質問紙の作成（各班で）
第 6 回	質問紙作成２	フェイスシートの作成／体裁を整える（各班で）
第 7 回	質問紙実施	互いの質問紙への回答
第 8 回	データ入力	データ入力および欠損値の取り扱い
第 9 回	データ分析１	データクリーニング／因子分析を行う
第 10 回	データ分析２	α係数の算出／下位尺度得点の算出
第 11 回	データ分析３	仮説に応じたデータ分析（各班で）
第 12 回	報告会の準備	研究報告会の準備・発表資料作成（各班で）
第 13 回	報告会１	各班の研究発表
第 14 回	報告会２	各班の研究発表／総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では，文献検索や質問紙の作成，分析，解釈，発表資料の作成など授業外の活動が多くなる。グループに貢献できるよう積極的な姿勢を持ってほしい。また，授業外にグループで集まって作業することが予想されるため，予定を合わせ協力する姿勢を持って，臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第 2 版　小塩真司　東京図書
ウルトラ・ビギナーのための SPSS による統計解析入門　小田利勝　プレアデス出版
心理学マニュアル質問紙法　鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤　編著　北大路書房
心理尺度のつくり方　村上宣寛　北大路出版

【成績評価の方法と基準】
平常点・グループへの貢献度 30 %、質問紙の体裁とプレゼンテーション 30 %、最終レポート 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果がまだ返ってきていないですが、結果を参考に改善に努めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※初回の授業で演習のグループ分けを行うため、必ず出席すること。
※この講義は終始グループワークのため，全授業に出席することを求める。

【Outline and objectives】
In this course, we learn psychometric method using questionnaires with practical style.　Students are divided into groups, making questionnaires, collecting data, analyzing and presenting them. It aims at acquiring basic knowledge of questionnaire method.

SOW300JB

高齢者福祉論

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高齢社会や、高齢者「問題」の実像について理解を深め、高齢者自身と家族にとっての老後保障制度と高齢者福祉政策、社会システムの方向性を考えます。

【到達目標】
高齢社会において老いる意味を理解します。さらには、高齢者自身と家族にとっての老後保障制度と高齢者福祉政策、社会システムの方向性を考え、これからの高齢者福祉を展望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
老いに関する先行研究整理、高齢者「問題」については最新の統計的データを用いて講義します。高齢者福祉政策、社会システムの内容、具体的な援助方法、国際比較から理解を深めます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。授業内容や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュール
第 2 回	現代社会と高齢者の問題	人口構造、社会構造、家族構造の変化と諸問題を理解する
第 3 回	老いとは何かー老年期の特質	老いについて老年心理学から理解を深める
第 4 回	高齢期の身体的特性と高齢期に現れる疾病	老化、疾病、ターミナルケアなど、老年医学から理解する
第 5 回	認知症（痴呆症）とその他の精神疾患	認知症の特質、症状、対応など老年精神医学から理解する
第 6 回	高齢者の生活の実態①	定年退職後の経済、年金、就業などの実態を把握する
第 7 回	高齢者の生活の実態②	住環境、バリアフリーの実態、住宅制度・など理解する
第 8 回	高齢者の社会参加と生涯学習	高齢者の社会参加、地域活動、生涯学習などを把握する
第 9 回	高齢者福祉の歴史的展開	高齢者福祉制度やケアの歴史的展開の特徴と継承の把握
第 10 回	高齢者福祉制度・政策とその特徴	主要な法制度の内容、仕組みを把握し問題点の考察
第 11 回	介護問題と介護保険制度	介護問題の構造的把握、介護保険制度の役割、機能の把握
第 12 回	介護問題と援助方法	ケアマネジメントなどの援助事例と援助計画の立案
第 13 回	地域包括支援システムと介護予防	地域包括支援センターの役割や機能、問題や課題への理解
第 14 回	諸外国と日本の高齢者福祉の展望	国際比較を通じて、日本の高齢者福祉のあり方の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備として、新聞、雑誌、インターネットなどで、高齢者福祉情報を得てください。また、復習として講義中配布のレジュメや資料を整理し学んだことを各自でノートにまとめてください。各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義中に紹介します。

【参考書】
村川浩一他（2017）『改訂版　高齢者福祉・支援論』第一法規など、講義初回ならびに各回、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%), 授業内小レポート課題の内容（10%) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
多人数講義ですのでアクティブラーニングがで不十分でしたが、今後は、グループ・ディスカッションなどで受講生とともに意見交換しながら、高齢者福祉への理解を深めるように講義を工夫します。

【その他の重要事項】
本講義は社会福祉士国家試験科目であるため、受験準備のための動機づけをおこないます。社会福祉小六法や行政資料等を活用してください。

【Outline and objectives】
Learn to understand the real images of "Problems" of the aged resulting from the advancement of aging society in Japan. By utilizing available statistics, voice of the aged themselves, and case studies from other countries, we will also examine the following issues : social security system, government measures for the aged, and the current status of social system for the aged and their families in an era of rapid declining birthrate.

NRS300JC

神経・生理心理学

長山　恵一

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の「こころ」の働きの生物学的基礎である脳の構造や機能について、基礎的な知識を幅広く身につける。

【到達目標】
脳の構造や機能について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、精神生理学の基礎的な知識を学習し、必要に応じてビデオ教材を使い理解を深める。新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となる場合がある。それにともなう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示する。
課題等のフィードバックについては必要に応じて学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	精神生理学への招待	「精神生理学とは」「全体論と局在論」「精神生理学の研究方法」
第 2 回	脳神経系の構造及び機能	脳神経系の構造及び機能について概説する
第 3 回	脳の信号	「平衡電位・静止膜電位」「活動電位の発生と伝達」「神経伝達物質の放出と除去」「ホルモンによる情報伝達」
第 4 回	脳と知覚	「視覚経路」「聴覚経路」
第 5 回	記憶、感情等の生理学的反応の機序	記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説する
第 6 回	学習	「脳と学習」「古典的条件付け」「オペラント条件付け」「高次の学習」
第 7 回	情動	「情動表出の機構」「情動体験の機構」「情動と健康」
第 8 回	動機づけ	「摂食・飲水行動」「攻撃行動」「性差と性行動」
第 9 回	心の病気と脳	「統合失調症」「気分障害」「不安障害」
第 10 回	側性化―大脳半球の機能的非対称性	「右半球の機能」「失語症」「離断脳」「利き手」
第 11 回	睡眠	「睡眠の機能」「睡眠のメカニズム」「睡眠の臨床」
第 12 回	意識	「意識の研究」「前頭連合野」「潜在的認知」「非侵襲的脳機能測定法」
第 13 回	高次脳機能障害の概要	高次脳機能障害の概要と「ADHD」「自閉症と脳」
第 14 回	授業内テスト（期末試験）と授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業で講義予定のテキスト部分を事前に目を通し、あらかじめ予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡田隆・廣中直行・宮森孝史著『生理心理学－脳のはたらきから見た心の世界』サイエンス社 ,2376 円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて随時、出欠カードにて出席を確認する。
②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：期末試験の点数のみで成績を評価を（100 %）行う。成績評価に関しては出席等の平常点は一切考慮しない。期末テストの点数が D（60 点未満）に該当する者についてのみ、出席等の平常点の状況を勘案して、C- 評価とするか否かの判断材料とする（この場合でも加点は 10〜20 %程度）。
新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性もある。その場合は成績評価の方法や基準は上記の対面授業の場合と異なってくるので留意してください。オンライン授業になった場合の具体的な成績評価の方法や基準は学習支援システムにて提示するのでそれを必ずチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行の仕方を工夫して、ビデオ教材を活用し、より具体的にイメージがわくように授業を改善したい。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
In this course, students will gain psycho-physiogical knowledge by being able to identify and describe brain structure and function relevant for clinical psychological study.

SOW300JB

児童福祉論

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、子どもと家族をとりまく問題と、それに対応する制度や実践について体系的に学ぶことを目的とする。履修者は、本科目だけで完結することなく、他の社会福祉分野にも関心をもち、相互理解の中で考察を深めてもらいたい。

【到達目標】
・現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて理解する。
・児童福祉制度とサービスについて、現場における実践もふまえて理解する。
・特に、子どもの権利と虐待問題、そして社会的養護に関しての理解と考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと彼らを取り巻く環境について、また②子ども家庭福祉の理念と概念を概観し、③子どもの権利も含めた子どものとらえ方を歴史的経緯の中で把握する。一方、④子ども家庭福祉に関わる法律や福祉援助サービスについても、現状と課題の検討を含めながら理解を深めていく。最後に、⑤今後の子ども家庭福祉の可能性についても考察する。
授業では、子ども家庭福祉にかかわるゲストスピーカーから現場の実践についても学ぶ。
リアクションペーパーは、次回以降の授業において名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、現代の子ども・家族の生活	授業の進め方、自分が子どもだったころ、子どもの定義、子どもと家族の生活と社会
第 2 回	子ども家庭福祉（児童福祉）の歴史	海外と日本における児童福祉の歴史、児童福祉から子ども家庭福祉へ
第 3 回	子どもの権利と福祉	子どもの人権・権利保障、保護としての子ども・権利主体としての子ども
第 4 回	子どもを守るしくみ	子ども家庭福祉にかかわる法制度、国・都道府県・市町村の役割
第 5 回	生命倫理と母子保健	母子保健法と諸サービス、子育て世代包括支援センター、出生前診断と母子保健
第 6 回	少子化対策と子育て支援、現代における保育とは	少子高齢社会の子育て、少子化対策と子育て支援策の検討、社会福祉における保育、待機児童問題、保育ソーシャルワーク
第 7 回	学齢期の子どもの教育と福祉	学齢期を考える、児童健全育成事業、教育と福祉の重なり、スクールソーシャルワーク
第 8 回	障害と子ども・家族	「障害」とは何か、障害のある子どもに関する制度と支援の仕組み、障害のある子どもの育ちと家族
第 9 回	子ども虐待－予防・発見から介入・支援	児童虐待の定義と現状、児童虐待対応制度の変遷、他機関連携、虐待予防と課題
第 10 回	社会的養護―子育ての自己責任と社会的養護	社会的養護とは、社会的養護に係わる施設と里親など、社会的養護の課題
第 11 回	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、貧困の世代的再生産、子どもの貧困に対する対策と課題
第 12 回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状、ひとり親家族に関する制度・サービス、DV 問題、ひとり親家族と社会
第 13 回	非行少年の背景と支援	非行少年のイメージと実際、少年保護の理念と保護処分、少年法改正、非行少年支援を考える
第 14 回	子ども家庭福祉の担い手	子ども家庭福祉の担い手とは、専門職の専門性とは、多職種連携と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、授業のトピックに関して、事前に身の回りのニュースなどに目を通しておくこと。授業では必要に応じて、授業内課題や、授業の終わりにリアクションペーパーの提出を求める。授業を踏まえてテキストの該当箇所を復習すること。
本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2020）『子ども家庭福祉―子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院

【参考書】
『児童福祉六法』

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、講義内課題（30 %）、定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生が発言する機会をより多く提供する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introductory understanding of the social welfare of children and families.

NRS300JC

精神生理学特講

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころの働きと脳がどのように関係しているかを明らかにしようとする「神経心理学」を概説します。人間の脳損傷によって生じうる認知・行動・感情などの障害 (高次脳機能障害) を詳しく紹介し、それらの障害からどのような心理学的・認知神経科学的メカニズムが明らかになるか解説します。
神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎、さらに健常者を対象としたニューロイメージングによる知見も取り上げます。

【到達目標】
1) 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。
2) 脳神経系の構造及び機能について概説できる。
3) 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。
4) 人の感覚・知覚等の障害について概説できる。
5) 人の認知・思考等の障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式で進めます。各回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	神経心理学の目的と方法についての概要を学びます。
第 2 回	脳の構造	脳の解剖学的基礎について学びます。
第 3 回	知覚・認知	視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認などを学び、知覚・認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 4 回	空間、身体	半側空間無視、身体失認を学び、空間認知、身体認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 5 回	行為	失行、行為制御障害を学び、行為表出と制御に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 6 回	記憶	短期記憶障害、ワーキングメモリ障害、エピソード記憶障害、意味記憶障害、手続き記憶障害を学び、記憶に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 7 回	言語 (1) 聞く・話す	失語を学び、口頭言語に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 8 回	言語 (2) 読む・書く、計算	失読、失書、計算障害を学び、文字言語と計算に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 9 回	脳の側性化	左右半球の情報処理の違いを学び、半球優位性のメカニズムを理解します。
第 10 回	注意	注意障害を学び、注意に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 11 回	遂行機能（実行機能）	遂行機能（実行機能）障害を学び、計画性や問題解決に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 12 回	社会的認知	社会的認知の障害を学び、社会性に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 13 回	感情、動機づけ	感情の認知や表出の障害、動機づけや意欲の障害を学び、感情や動機づけ・意欲に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでに他の科目で学んできた心理学の生物学的な側面について復習をしておくと、授業内容の理解が深まります。
授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がいっそう深まります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】
各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（30%）および期末試験（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が少し難しいと感じられる人もいるようですが、さまざまな領域の心理学の知見を結びつけたり、心理学の基礎的な面と臨床的な面をつなぐための大切な学問領域でもありますので、頑張って受講してもらいたいと思っています。興味を持って受講していただけるような内容や説明の仕方を心がけます。

【Outline and objectives】
This lecture deals with the basis of neuropsychology.
The aim of this course is to help students acquire an understanding of neural(biological) bases of human cognition, behavior, emotion, and other mental phenomena.

SOW300JB

障害者福祉論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの障害者施策の展開と現在の障害者施策、そして今後の施策の動向について学び、「わたしたちみんな」の Well-being を考えていきたいと思います。

【到達目標】
暮らしの安寧を支援していく対人支援サービス体系の枠組みを理解する。そして「わたしたちみんな」の Well-being に向け、方策を考えていくために地域の「暮らし」の中で見えてくる障害を捉える「目」と実践に際しての「心」を育むことを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「障害」と向き合って生活をしている当事者の語りなど、具体的事例を題材としながら社会福祉専門職として現行の制度や課題をどのようにとらえていくのか検討していきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 障害者・障害の概念	講義の進め方とグループワークと個人ワークについての説明を行う。
第 2 回	障害者福祉を支える理念	障害者福祉を支える理念について学ぶ。
第 3 回	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。
第 4 回	ゲストスピーカーによる講義による障害理解	講義をもとにグループワークを行う。
第 5 回	障害者運動	グループワークにより障害者運動の歴史と意義について学ぶ。
第 6 回	障害者福祉がかかわる法体系	グループワークにより現在の障害者福祉の法体系について学ぶ。
第 7 回	障害者自立支援法の成立	グループワークにより障害者自立支援法がどのように誕生したのかということについて学ぶ。
第 8 回	障害者自立支援法下 (総合福祉法）のサービス体系	グループワークにより障害者自立支援法（総合福祉法）の具体的なサービスについて学ぶ。
第 9 回	ゲストスピーカーによる講義に基づき障害理解	講義をもとにグループワークを行う。
第 10 回	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
第 11 回	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
第 12 回	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
第 13 回	障害者福祉の今後	日本国内において、現在進行している障害者制度改革について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中やテキスト中の参考文献のから興味をもったものを精読し、グループワークおよび個人ワークの内容を充実させる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義中の課題５０％、期末試験：５０％

【学生の意見等からの気づき】
講義・ゲストの講義・レポートなど多彩な取り組みをしております。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
　精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives.At the seminar We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

PSY300JC

知覚・認知心理学

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、知覚、対象認知、注意、記憶、知識、思考といったテーマをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての基礎的な知見や、それらの障害について学びます。

【到達目標】
1) 人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。
2) 人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式です。各回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	知覚・認知心理学の全体像の概観
第 2 回	感覚・知覚・認知の基本的特性	感覚モダリティ　閾　順応　心理物理学　情報処理　処理の二方向性
第 3 回	視覚	視覚系　錯視　明るさと色の知覚　空間（運動、奥行き）の知覚　物体とシーンの知覚
第 4 回	聴覚	聴覚系　音と音声の知覚　音声コミュニケーション
第 5 回	味覚・嗅覚・体性感覚、多感覚統合	味覚系　嗅覚系　体性感覚系（触覚、自己受容感覚）　クロスモーダル知覚　時間知覚　知覚の可塑性
第 6 回	対象認知	物体認知　顔認知　単語認知　視覚的イメージ　感性認知　脳機能計測技術
第 7 回	注意　意識	選択的注意　空間的注意　分割性注意　抑制　意識
第 8 回	記憶 (1) ワーキングメモリ	短期記憶　ワーキングメモリ　心的操作
第 9 回	記憶 (2) 長期記憶	顕在記憶／潜在記憶　プライミング　意味記憶　エピソード記憶　手続き記憶　忘却
第 10 回	記憶 (3) 日常認知	自伝的記憶　目撃者の記憶　偽りの記憶　記憶の誤り　展望記憶
第 11 回	知識の表象と構造	カテゴリー化　宣言的知識　手続き的知識　概念　スキーマ　スクリプト　メタ認知
第 12 回	思考	問題解決　演繹的推論　帰納的推論　類推　熟達化　判断　ヒューリスティックス　意思決定
第 13 回	感覚・知覚の障害、認知・思考の障害	色覚多様性　失認　記憶障害　認知障害　精神障害
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。
授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がいっそう深まります。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】
『知覚・認知心理学』　石口彰（編著）　放送大学教育振興会
『知覚心理学（Progress & Application）』　村上郁也　サイエンス社
『認知心理学 新版（有斐閣アルマ）』　道又爾ほか　有斐閣
『認知心理学（New Liberal Arts Selection）』　箱田裕司ほか　有斐閣
この他、各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（30%）および期末試験（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「認知心理学特講」と合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】
This lecture deals with psychology of perception and cognition.
The aim of this course is to help students acquire basic understandings of perception and cognition.

SOW300JB

権利擁護と成年後見

西田　ちゆき

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、権利擁護の立場から、成年後見制度を学びます。
具体的には、
（1）民法や行政法等、成年後見制度に関連する法律とその実際を解説します。
（2）成年後見制度を補完する社会福祉の事業やサービスに関する学習します。
（3）実践事例の解説と検討します。
（4）ソーシャルワークにおける権利擁護の視点と価値・倫理の再検討します。

【到達目標】
①権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。
②成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題・課題、実践上の課題を理解し、事例を説明、考察できるようになる。
③社会福祉サービス提供にあたって、権利擁護の視点をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
前半 60 分は講義形式で授業を行います。後半 40 分は主体的に考え、発表し、質問できるような演習方式の授業を行います。本年度もオンライン授業の可能性がありますので、毎回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	権利擁護の意義と実際	権利擁護の意義と社会福祉の倫理・価値について学びます。
第 2 回	民法についての理解 1	民法について基本的な知識を学びます。
第 3 回	民法についての理解 2	民法について基本的な知識を学びます。
第 4 回	行政法についての理解	行政法について基本的な知識を学びます。
第 5 回	成年後見制度の概要と法定後見制度	成年後見制度の全体像と法定後見制度について学びます。
第 6 回	任意後見制度	任意後見制度について学びます。
第 7 回	福祉サービス利用支援事業の概要と課題	社会福祉協議会が実施している権利擁護サービスについて学びます。
第 8 回	児童虐待と未成年後見制度	児童虐待防止法と未成年後見制度について、事例を通して学びます。
第 9 回	障害者・高齢者虐待と成年後見制度	障害者・高齢者虐待と成年後見制度について事例を通して学びます。
第 10 回	権利擁護制度を担う機関と専門職	成年後見制度をはじめとする権利擁護を担う機関と専門職について学びます。
第 11 回	権利擁護を補完する制度・サービス	成年後見制度利用支援事業等、制度を補完するサービス等について学びます。
第 12 回	権利擁護と地域福祉	市民後見人をはじめとする地域住民の役割について学びます。
第 13 回	消費者被害への対応	消費者被害とそれに対応する法律の概要と対応方法を学びます。
第 14 回	支援の狭間にある人々の権利擁護	ホームレス、刑余者等既存の制度では十分に対応できない人々への支援について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書は必ずご持参ください。指示されてきた箇所については事前に予習しきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
公益社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士のための成年後見入門』民事法研究会　2019 年

【参考書】
永田祐・堀善昭・生田一郎・松宮良典『よくわかる権利擁護と成年後見制度』初版　ミネルヴァ書房　2016 年
成年後見センターリーガルサポート編『後見六法』民事法研究会　2016 年
その他授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験と平常点の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
うまく皆さんとの意見交換ができなかったことの反省を踏まえて授業を行います。また、一回の授業で教える内容を絞り、成年後見制度や制度の理解に必要な法律知識を分かりやすく整理し、レジュメにしていきます。また、確認問題に学習支援システム等を通して解いていただけるよう工夫しいます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用し、事前課題や授業時使用の資料をアップしていきます。メールで事前通知は致しますが、授業前には必ず学習支援システムをご確認ください。

【Outline and objectives】
This lecture will learn the adult guardianship system from the standpoint of advocacy of human rights.
Specifically,
(1) Explanation of civil and administrative laws related to adult guardianship system.
(2) Learning about social welfare projects and services complementing the adult guardianship system.
(3) Explanation and examination of practical cases.
(4)reexamination of the viewpoint of advocacy of human rights in social work value and ethics.

PSY300JC

認知心理学特講

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「知覚・認知心理学」では扱わなかった認知心理学の応用的側面、他の心理学あるいは他の学問領域とのつながり（認知科学）にかかわる発展的なテーマ・トピックスをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての広く応用的な視点を身につけます。

【到達目標】
1) 人の認知・思考等の機序及びその障害について発展的に理解できる。
2) 認知心理学と他の心理学のつながりについて概説できる。
3) 認知心理学と他の学問領域とのつながりについて概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式です。各回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針・授業内容の説明
第 2 回	認知と学習・言語	メタ認知的知識　メタ認知的技能　自己調整学習　認知地図　生成文法　認知言語学　言語理解　言語産生
第 3 回	認知と身体	身体認知　身体図式と身体イメージ　身体所有感　幻肢　身体化認知（embodied cognition）　心身問題
第 4 回	認知と運動・行為	運動制御　運動主体感　視覚誘導型行為／記憶誘導型行為　運動イメージ　アクションスリップ　ミラーニューロンシステム　自由意志
第 5 回	認知と感情	認知評価理論　自己意識的感情　感情の認知　感情の制御　認知が感情に及ぼす影響　感情が認知に及ぼす影響
第 6 回	認知と個人差	知能　知能検査　認知機能検査　情動的知性　認知スタイル　認知バイアスとパーソナリティ　パーソナリティ認知
第 7 回	認知と社会	社会的認知　対人認知　印象形成　帰属過程　社会的推論　ステレオタイプと集団認知　行動経済学　メディア
第 8 回	認知の発達	視覚認知の発達　記憶と概念形成の発達　語彙の獲得　文法能力の獲得・発達　非認知能力　実行機能　認知機能への加齢の影響
第 9 回	認知と障害	認知神経心理学　高次脳機能障害　失語　失読　失書　失行　実行機能障害　認知症　神経発達症　精神疾患における認知機能の障害　認知機能改善療法
第 10 回	認知と臨床心理学	認知臨床心理学　注意バイアス・記憶バイアス・推論バイアス・解釈バイアス　認知療法　認知行動療法　メタ認知療法　認知バイアス修正法
第 11 回	認知と脳神経科学	認知神経科学　脳機能計測技術　ニューロイメージング　認知の生理心理学・精神生理学
第 12 回	認知と情報科学・工学	計算論　人工知能　ニューラルネット　コネクショニズム　認知工学　ブレイン・マシン・インターフェイス　VR　AR
第 13 回	認知と進化・文化	進化心理学　動物の認知（比較認知科学）　認知生態学　認知人類学　文化心理学　文化人類学　文化的自己観
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。
授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がいっそう深まります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】
各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（60%）および期末レポート課題（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「知覚・認知心理学」を履修済みであることを前提とします。
「知覚・認知心理学」と合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】
This lecture deals with applied cognitive psychology and related disciplines.
The aim of this course is to help students acquire applied perspectives of cognitive psychology.

SOW300JB

家族福祉論

新藤　こずえ

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代における家族がもつ諸課題を理解し、福祉の視点から家族を支援する方法を学ぶ

【到達目標】
・現代における家族の諸課題を理解できる
・家族福祉の実際を理解できる
・家族支援の方法を検討できる
・家族の課題を家族政策の視点から批判的に検討できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・オンラインによる講義形式を中心とする
・事例検討ではグループワークを行うことがある
・必要に応じてリアクションコメントの提出を求める
・課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の全体像の説明
2	家族福祉の視点①	家族とは何か
3	家族福祉の視点②	家族を理解するための概念
4	家族福祉の視点③	家族福祉の対象と方法
5	家族福祉の実際①	子どもと家族福祉〜児童虐待を中心に〜
6	家族福祉の実際②	子どもと家族福祉〜専門職の役割を中心に〜
7	家族福祉の実際③	ひとり親と家族福祉
8	家族福祉の実際④	障害児と家族福祉
9	家族福祉の実際⑤	障害者と家族福祉
10	家族福祉の実際⑥	女性と家族福祉
11	家族ソーシャルワーク①	視座と方法
12	家族ソーシャルワーク②	事例検討〜事例の理解を中心に〜
13	家族ソーシャルワーク③	事例検討〜支援プロセスを中心に〜
14	家族福祉の課題と展望	家族政策の視点からの検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提示するテーマに沿った文献・資料を収集し、レポートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は設定しない
下記参考書をベースとするので適宜参照すること

【参考書】
川村匡由編『家族福祉論』ミネルヴァ書房
宮本みち子ほか編『リスク社会のライフデザイン』NHK 出版
新藤こずえ『知的障害者と自立－青年期・成人期におけるライフコースのために』生活書院
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020）『子ども家庭福祉－子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院
杉田真衣・谷口由希子編『大人になる・社会をつくる―若者の貧困と学校・労働・家族』明石書店
畠中宗一編『よくわかる家族福祉（第２版）』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
レポート 50 %
授業内課題およびリアクションコメント 50 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度では全面オンライン授業であったため、web に授業資料をアップするとともに、リアルタイム授業を録画し、授業後に録画データを視聴できるようにした。通信環境等の問題でリアルタイムに出席できなかった学生には好評であった。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を実施するため、授業を視聴するためのパソコン等の情報機器が必要です。資料配布や課題提出等は学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
対面授業を行わないオンライン授業で実施します。授業時間はリアルタイム Zoom を基本とし、一部を録画授業によるオンデマンド配信とします。

【Outline and objectives】
Understand the various issues facing families today and learn how to support families from a welfare perspective.

SOW300JC

関係行政論

小磯　明

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公認心理師としての業務を行うに当たり、適切な知識及び技能を身につけられるようにする。

【到達目標】
公認心理師として活動する分野を問わず、他の分野と連携すべき機会があることから、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等、公認心理師が活動すると想定される主な分野に係る関係法規や制度等が一定程度網羅される必要がある。特に、教育分野においては、学校等と密に連携した公認心理師の活動が想定されるため、単なる関係法規や制度等に加えて、学校教育に関する知識が一定程度必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、配布資料及び関係資料の理解を通じて、現状・実態を学ぶ。必要に応じてグループディスカッションを行う。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。基本は対面授業を考えているが、必要に応じてオンライン授業を行う場合もある。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法・制度の基本	法・制度の基本について理解する
第 2 回	医療全般の法律・制度	保健医療分野に関係する法律・制度のうち、医療全般について理解する
第 3 回	精神科医療の法律・制度	精神科医療や精神保健に関わる法律の歴史を理解する
第 4 回	地域保健・医療の法律・制度	自殺対策、アルコール対策、母子保健の基本の理解、保健所、市町村、精神保健福祉センターの役割を理解する
第 5 回	児童福祉の法律・制度	児童虐待の種別、児童虐待防止法の特徴、児童相談所の相談援助活動の流れ、児童福祉施設ごとの特徴を理解する
第 6 回	障害者・障害児福祉の法律・制度	障害者基本法の概要、害者権利条約の内容、障害者総合支援法の概要、自立支援医療、障害児の施策の流れ、障害者差別解消法の概要を理解する
第 7 回	高齢者福祉の法律・制度	日本の超高齢社会の概要、高齢者のための医療制度、介護保険の概要、地域包括ケアシステム等について理解する
第 8 回	教育分野に関係する法律・制度	教育に関わる法律、児童福祉に関わる法律、スクールカウンセラーの守秘義務、子どもの権利について理解する
第 9 回	刑事に関係する法律・制度	刑法第 39 条の内容、司法システムと医療システムの関連、ストーカー規制法の概要、心身喪失者等医療観察法の成立の意義と措置入院制度との相違等を理解する
第 10 回	家事に関係する法律・制度	夫婦間紛争と DV 問題、親権とそれをめぐる紛争、面会交流とそれをめぐる紛争、被虐待児童を守るための施設収容許可、成年後見制度について理解する
第 11 回	少年非行の法律・制度	非行少年の取り扱いの理念や流れ、家庭裁判所における審理、少年鑑別所の鑑別・観護処遇・地域援助、少年院に矯正教育について理解する
第 12 回	産業・労働分野に関係する法律・制度	産業・労働分野において法令・制度が重要となった経緯、衛生管理体制の概略と関連法令、心の健康の保持増進に係る主な制度と関連法令を理解する
第 13 回	関係機関の連携	関係機関の連携について理解する
第 14 回	まとめ	心の支援に関する全体像を法律や制度の観点から把握し、国民からの期待や社会的使命を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の復習。関係資料の収集・まとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
特定の参考書は指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点が 50 %、レポート提出を 50 %とする。レポートは 1 回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。基本は対面授業を考えているが、必要に応じてオンライン授業にする場合もある。その場合、成績評価の具体的方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各分野の法や制度の変化に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】
Make it possible to acquire appropriate knowledge and skills

HSS300JB

精神科リハビリテーション学

行實　志都子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神科リハビリテーションの概要・プロセス・スキルを理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。

【到達目標】
現在、ストレス社会と呼ばれ、「心の健康」が注目されている。また、コロナ禍において、コロナ鬱、自殺、アルコール問題など私たちの生活を脅かしてしまうことが身近に存在する。この授業では、医学的な視点からのリハビリテーションではなく、その人一人ずつの生活に視点をあて、その人が今度どのような生活を送っていきたいのかという「生活者」という視点から、その人の人生を取り戻していくためのリハビリテーションを考えていくものである。そのためのに精神科リハビリテーションの目的を踏まえ、それらに必要な技術、理念を理解し、精神保健福祉士が精神科リハビリテーションを行えるための知識等を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は，講義が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換、演習、リアクションペーパーを使って、学生の理解度に沿って授業を進める。
さらに、リアクションペーパー等で出てきた質問に関しては、次の授業開始時にそれらの内容を紹介しながら、解説を行う。また、授業後に行ってもらう小テストにおいても授業時に解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	①精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 ②精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
2	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則１	①精神障害リハビリテーションの理念と定義 ②医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則２	精神障害リハビリテーションの基本原則
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則３	地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義
5	精神障害リハビリテーションの構成及び展開１	①精神障害リハビリテーションの対象
6	精神障害リハビリテーションの構成及び展開２	チームアプローチ
7	精神障害リハビリテーションの構成及び展開３	精神障害リハビリテーションのプロセス
8	プロセスの内容と実施機関１	医学的リハビリテーション ・精神科作業療法 ・行動療法 ・認知行動療法
9	プロセスの内容と実施機関２	医学的リハビリテーション ・集団精神療法 ・依存症回復プログラム ・デイケア等
10	プロセスの内容と実施機関３	職業的リハビリテーションプログラム
11	プロセスの内容と実施機関４	社会的リハビリテーションプログラム
12	プロセスの内容と実施機関５	①教育的リハビリテーションプログラム ②家族支援プログラム
13	プロセスの内容と実施機関６	①リハビリテーションプロブラム ②当事者活動や家族のリハビリテーション
14	プロセスの内容と実施機関７	依存症のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
【それぞれのポイント】
学生は、授業準備にあたり、授業計画及び授業時間内で伝えらられた次回のポイントについて参考書等を使い、授業の準備を行う。その時に生じた疑問点などについては、授業時のリアクションペーパーなどを使って質問をする。
授業後の復習については、授業でやったところを復習するだけでなく、自分で整理し学期末の期末試験のためのまとめを行う。また、授業の理解度を図るための小テストを受ける。
精神障害者については、日ごろから接する機会ない場合などは、ボランティア活動に行くことやニュースなどで精神障害者に関する項目について目を通しておくことも必要である。

【テキスト（教科書）】
最新　精神保健福祉士養成講座　精神障害リハビリテーション論
中央法規

【参考書】
心の病　回復への道　岩波新書　野中猛

【成績評価の方法と基準】
授業復習のための小テスト（30 %）期末試験（70 %）において、目標達成への達成度により判断する。

【学生の意見等からの気づき】
精神障害者の人は、どんな生活のしづらさがあるかなどイメージをもってもらいながら、理解できるように授業を展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業時には、レジュメを配布する

【その他の重要事項】
連絡先
yukizane-avs@kuhs.ac.jp
メールをするときには、必ずタイトルに
大学名　学籍番号　氏名を記入してください

【Outline and objectives】
Understand the outline,process,skills of psychiatric rehabilitation performed by psychiatric social wokers.

PSY300JB

異文化心理学

奥山　今日子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】
この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「ほくはくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング（2）	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き)。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴　（解説付き)。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き)。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き)。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き)。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『こころの処方箋』　河合隼雄　新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline and objectives】
The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries.Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it.I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

SOW300JB

介護福祉論

奈良　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
その人らしい人生が送れるように自立支援について学習しノーマライゼーションの理念を踏まえながら、自己実現や生活の支援を高める援助方法の基本を学ぶ。利用者本位、多職種との連携、社会資源の活用、介護に関わる者の安全と健康管理を学ぶ。

【到達目標】
その人らしい生活や人生が送れるように命の尊さと暮らしの自立支援について学習、自己実現や生活を高める援助方法の基本や社会資源について学ぶ。また介護される側と介護する側の両面から介護の本質を理解し、孤立化や偏見・差別や暴力の無い、人間の尊厳を大事に考えた社会を目指す介護システムの向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面またはオンラインでの開講になります。授業計画の変更は学習支援システムで掲示をします。講義とグループワーク等を含めた演習を行います。（毎回、課題の提出有り）課題やリアクションペーパーについては、授業内で口頭でフィードバックする他、必要に応じてコメントを付け返却します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　生活支援とは	生活とは何か、ウエルビーングの実現と介護の在り方
第 2 回	介護の対象、理念、定義	介護の定義、理念、対象についての理解、ヤングケアラー等介護者に対する支援
第 3 回	介護の倫理、専門性	介護の専門性と教育制度の変遷。ソーシャルワーカー、その他の専門職との連携の必要性
第 4 回	介護活動の場（在宅、短期入所施設、通所施設）	介護活動の場の理解（在宅を中心）地域の社会資源の実態と開発方法
第 5 回	介護活動の場（高齢者福祉施設、障害者福祉施設）	介護活動の場の理解（施設中心）
第 6 回	利用者との援助関係	要支援・要介護の対象者やその家族とのコミュニケーション
第 7 回	日常生活からみた利用者の理解	日常生活における身体面、心理面、精神面、ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙ面を理解し、ｳｪﾙﾋﾞｰﾝｸﾞ実現の方法を検討する
第 8 回	食事、排泄、睡眠、休息への援助	基本的な欲求と充足の要件を再認識する。
第 9 回	身体の清潔、運動と移動、衣生活への援助	専門職としての支援の在り方、意図的な関わり
第 10 回	居住環境の整備とユニバーサルデザイン	居住環境, ユニバーサルデザインについて理解
第 11 回	地域ケアシステムの形成と機能化、多職種の連携	地域包括支援センターとの連携、ICT の活用と連携
第 12 回	働く場としての安全確保、心身の健康管理	働く人々の健康・安全管理 在宅の場合と施設就業者の場合の違いを理解する、感染予防等。
第 13 回	緊急時の対応、終末期の介護と家族ケア	終末期の理解と当事者および家族支援方法
第 14 回	介護保険制度と成年後見制度	介護を担う家族への支援、認知症状を抱える当事者と家族への支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
学習準備として、各テーマについて新聞やネット検索をして自身が興味を持つ部分を明らかにしていてください。
復習時間では課題の再確認と授業を受けた上で、関わりのある法制度等を確認し、興味をもったこと等についてまとめるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
　指定はしませんが、授業内で関係のあるものの紹介をします。

【参考書】
授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
①平常点　　20% ②提出課題　30% ③レポート提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
　本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Learn about definition of nursing care support for independence,technology for self actualization,collaborations,understanding of long-term care insurance system,care giver's safety and health management , stress management.

PSY300JB

家族心理学

松本　聡子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して，基礎的な事項をふまえたうえで，心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】
・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ，家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前半では，家族について概説を行ない，そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では，家族をとりまく諸問題として少子高齢化，環境，労働などを取り上げ，現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので，配布資料には必ず目を通すようにしてください。また，リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜行う予定です。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要説明
第 2 回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第 3 回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第 4 回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第 5 回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第 6 回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第 7 回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第 8 回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第 9 回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第 10 回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第 11 回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第 12 回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第 13 回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第 14 回	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の際に配布するプリントなどを見ながら，前回の内容を復習したうえで，講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので，日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出　　30 %
学期末試験　　70 %
家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき，結果が出次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり，講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は，授業の進行や状況により変更があり得ます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. Based on such understanding, we will consider topics such as definition of family, family development, and current issue of families in Japan.

PSY300JB

教育・学校心理学

前田　基成

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、学校現場では不登校やいじめ、発達障害など様々な困難をもつ児童生徒に対して多様な支援が行われています。この授業では、学校心理学について体系的に学ぶとともに、学校という場における支援について理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
学校心理学の理論・知見を学ぶとともに、様々な困難をもつ児童生徒の心理的・発達的・対人的背景を理解し、理論的・具体的な支援について考えることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に授業を行いますが、必要に応じて映像資料を用います。また、小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。
また、この授業は教室で対面での授業をする予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染動向によってはオンラインでの授業となる可能性があります。そうなった場合の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育の制度・法律・倫理	教育に関する権利と義務、学校教育制度と法律について学習する。
2	教育現場において生じている諸問題	いじめ、不登校など、学校教育現場で生じている諸問題について学習する。
3	発達と教育 (1)	認知・言語の発達とそれに即した教育について学習する。
4	発達と教育 (2)	感情・社会行動の発達とそれに即した教育について学習する。
5	教授・学習 (1)	感情・社会行動の発達とそれに即した教育について学習する。
6	教授・学習 (2)	動機づけと学習意欲、集団と学習などについて学習する。
7	心理学的支援 (1)	集団に対する支援と学級づくり・授業づくりについて学習する。
8	心理学的支援 (2)	効果的な個別支援、教師-生徒の人間関係について学習する。
9	カウンセリング	学校教育におけるカウンセリングの理論と実際について学習する。
10	心の健康教育	精神的健康と精神的健康を維持・増進する教育について学習する。
11	いじめ	いじめの心理と対策・支援について学習する。
12	不登校	不登校の心理と支援について学習する。
13	非行と犯罪	非行の心理と支援について学習する。
14	教育における心理学的アセスメント	学習の達成度、情緒的・社会的側面のアセスメントについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で扱った内容に関する新聞記事や文献等を調べること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点 80 %と平常点（リアクションペーパーと小テスト）30 %を総合して成績を評価します。合計 100 点満点のうち、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【Outline and objectives】
Various support is carried out for a student having various difficulty, developmental disorder, school refusal and bullying, at school recently. The purpose of this class is to understand the school psychology systematically and am intended to deepen understanding about the support in the school.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題に関して適切な情報収集・分析・発表ができる。
・社会問題を構造的に理解できる。
・社会問題の解決に向けた活動計画を策定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
興味のある社会問題を理解するのに必要な情報収集・分析・発表をグループで行い、全体でディスカッションしながら、社会問題を構造的に理解したうえで、その解決に向けた活動計画を検討する。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題の解決に向けた活動	社会問題の構造的理解 ソーシャルアクションの概要
第 3 回	社会問題の理解①	グループの決定 情報収集の方法
第 4 回	社会問題の理解②	社会問題の実態把握
第 5 回	社会問題の理解③	社会問題の実態把握の発表と議論
第 6 回	社会問題の理解④	社会問題を体験している人の理解（困難やニーズ等）
第 7 回	社会問題の理解⑤	社会問題を体験している人の理解の発表と議論
第 8 回	社会問題の理解⑥	社会問題の構造的理解
第 9 回	社会問題の理解⑦	社会問題の構造的理解の発表と議論
第 10 回	社会問題の理解⑧	社会問題の構造的理解 目標の検討
第 11 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討①	目標の決定 対応方法（可視化、組織化、アクション等）の検討
第 12 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討②	対応方法（可視化、組織化、アクション等）の検討
第 13 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討③	目標と対応方法の発表と議論
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループのメンバーと協働して、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル−「制度からの排除」への対処』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・社会問題の理解や活動計画の発表 40%

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士の関係構築や協働等を重視し、春学期の段階からグループでの課題達成活動としました。

【Outline and objectives】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice as a social worker.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域における基礎的な知識を習得するとともに、興味のある領域に関してより深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡでは、興味・関心に沿っていくつかのグループに分かれて文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行いながら、心理学領域における専門文献の検索の仕方や文献の読み込み方、ディスカッションの仕方を学習します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	文献検索の仕方	図書館文献検索システムの使い方に関する学習
第 3 回	論文の読み込み方	科学論文の基本的な構成に関する学習
第 4 回	心理統計の基本 1	論文を読む際に必要な統計的知識についての学習（記述統計）
第 5 回	心理統計の基本 2	論文を読む際に必要な統計的知識についての学習（多変量解析）
第 6 回	テーマの決定	全体テーマと分担の決定
第 7 回	グループ別発表 1	第 1 グループの発表①
第 8 回	グループ別発表 2	第 1 グループの発表②
第 9 回	グループ別発表 3	第 2 グループの発表①
第 10 回	グループ別発表 4	第 2 グループの発表②
第 11 回	グループ別発表 5	第 3 グループの発表①
第 12 回	グループ別発表 6	第 3 グループの発表②
第 13 回	グループ別発表 7	第 4 グループの発表①
第 14 回	グループ別発表 8	第 4 グループの発表②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が講読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
演習内容をより理解しやすくするために前の週に資料を配布する。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology.　Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

PSY300JB

教育心理学特講

安齊　順子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで教育心理学という科目で教えられてきたジャンルの中で、認知心理学的分野に臨床心理学的視点も併せて詳しく学ぶ。基本的な知識と、現代の子供をめぐる社会における問題への対応策や発達障害などの問題について併せて習得することを目的とする。学生は授業を通じて教育心理学の知識に加え子どもの問題を心理学的に理解するための展望を学ぶ。

【到達目標】
学生がこれまで習得した心理学知識と融合した形で、学校での諸問題への対応策をイメージすることや対応ができるようになることを目標とする。
加えて、過去の心理学、教育心理学の理論を習得し、幅広い知識を獲得することを目標とする。学生は現代の学校でスクールカウンセリング等現実に行われている対処法や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性があるが、大学の方針に準ずる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は大学に指示された該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育心理学とは、歴史	教育心理学という科目の成り立ち
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	学習と動機づけ	学習と動機づけについて学ぶ
4	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（幼児・児童期）	幼児期、児童期の心理的問題について学ぶ
5	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（青年期）	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学級の心理学、集団とは何か	具体的には、いじめなどについて学ぶ
7	脳の発達と心	子どもの脳と心について学ぶ
8	パーソナリティの理解	人格理解とその歴史について学ぶ
9	パーソナリティの理解 2	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
10	学校におけるカウンセリング、不登校	諸問題のうち不登校について学ぶ
11	学校で使えるカウンセリングの技法	様々な技法について学ぶ
12	学校で使える技法	アンガーマネジメント教育などのグループワーク
13	スクールカウンセラーの理解と活用	学校に配置されているスクールカウンセラーの仕事内容や活用を学ぶ
14	心理教育的援助サービス	発達障害について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環他著　北樹出版

【参考書】
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
試験を行う（70 %）。授業態度やリアクションペーパーなどの授業への反応も評価に含めることがある（30 %）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回感想をとり次回の参考にする。昨年の感想から、学ぶ学生に知識のばらつきが見られるため、リアクションペーパーで反応を確認し、理解が深まっていない点については、次回の授業で取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの経験があるため、その体験を説明する。臨床心理士の資格を持っているため、その資格について説明する場合がある。

【Outline and objectives】
Educational Psychology

OTR200JB

専門演習ＩＡ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**２年次／２単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の理論的検討、およびそれに関連する多様な実態について学ぶ。

【到達目標】
「社会的排除」の主要概念と日本における諸問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、社会的排除に関わるソーシャルワークについての学習。方法は、文献研究、実践（ボランティア、傾聴面接、現地視察・調査）などを組み合わせて行う。オンラインか対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。実践は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期授業内容の概要と目標
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅱ・Ⅲとの合同面接
第 3 回	研究テーマの選定①	問題関心の意見交換
第 4 回	研究テーマの選定②	図書館等での文献検索
第 5 回	研究テーマの決定①	各自の研究テーマの概要を報告し、目的、研究方法について検討する。
第 6 回	研究テーマの決定②	研究計画を具体的に検討する。
第 7 回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究
第 8 回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②文献研究の共有と検討
第 9 回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③文献研究の課題について討議
第 10 回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④文献研究のまとめ
第 11 回	研究報告①	貧困系テーマ研究結果の発表
第 12 回	研究報告②	障害系テーマ研究結果の発表
第 13 回	研究報告③	多文化系テーマ研究結果の発表
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への能動的参加（３０％）
研究発表（３０％）
レポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline and objectives】
This course deals with the theory on social exclusion and the realities of various form of discriminations.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
認知行動療法の全体像を把握し、その中から、自らの関心があるテーマを見つけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法はどのようなものかについて、文献講読、DVD の視聴、グループ発表を通して学びます。また、ロールプレイ等を用いた体験的学習も取り入れます。そして、認知行動療法をツールにして、身近な心の問題を、どのように理解できるか考えていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法の歴史	認知行動療法の歴史について概説し、ディスカッションを行います。
第 3 回	認知行動療法の現状	認知行動療法の現状について概説し、ディスカッションを行います。
第 4 回	認知行動療法の理論	認知行動療法の技法について、ディスカッションを行います。
第 5 回	認知行動療法の技法	認知行動療法の技法について、ディスカッションを行います。
第 6 回	認知行動療法の理論と技法の結びつき	認知行動療法の理論と技法の結びつきについて、ディスカッションを行います。
第 7 回	認知行動療法の検討とディスカッション 1	行動療法（主にオペラント技法）について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 8 回	認知行動療法の検討とディスカッション 2	行動療法（主にエクスポージャー法）について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 9 回	認知行動療法の検討とディスカッション 3	認知療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法の検討とディスカッション 4	スキーマ療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 11 回	認知行動療法の検討とディスカッション 5	メタ認知療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 12 回	認知行動療法の検討とディスカッション 6	マインドフルネスについて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 13 回	認知行動療法の検討とディスカッション 7	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーについて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	春学期のゼミを振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生間での共同作業を増やしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on issues affecting mental health from the viewpoint of cognitive behavior therapy. Students learn basic ideas for cognitive behavior therapy. Students are required to make topic presentations.

PSY300JB

芸術療法

蜂谷　和郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96 年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

【到達目標】
作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。
作品制作を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。
言葉による伝達スキルを向上する。
認知症への理解と実践的対応を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実技・オイルパステルを使用しての作画・・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり
理論・臨床美術の概要
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。授業がオンラインに変更になった場合、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の歴史や基本的な考え方を学ぶ 受講生全員の自己紹介を行う。
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。　グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
3	臨床美術のアートプログラム　量感画①	リンゴを描く。各自リンゴ持参
4	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	アナログ画。音や味を描く
5	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	感情を描く
6	臨床美術のアートプログラム　抽象表現②	感情を描く②
7	臨床美術のアートプログラム　量感画②	茄子を描く。各自茄子を持参
8	臨床美術のアートプログラム　立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	臨床美術士の役割	実践現場における臨床美術士の役割や考え方を学ぶ
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。各自サツマイモを以後毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成
12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング	前週の反省をふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅課題は１００％提出
自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
1　出席確認　出席点呼にて確認
2　試験方法　なし
3　採点基準　提出物（30 %）、平常点（30 %）、ロールプレイング（40 %）オンラインでの授業となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。出席点呼を分かりやすくする。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やす。

【その他の重要事項】
21 世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

【Outline and objectives】
Clinical art that stimulated the brain by expressing art,opened the way for prevention and improvement of dementia.Since the atart in 1996,clinical artist,doctors and counselors have achieved results together.It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children,autistic people mental health of social workers. We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals snd facilities.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
このゼミは、社会福祉に関連する問題に対して、「なぜ」という疑問を持ち、それについて調べ、議論をし、論文を作成する力をつけることを目的としています。
具体的には、入られた皆さんと相談しながら決めたいと思いますが、教員の方で社会福祉に関連する様々なテーマを設定し、ビデオや新聞などの教材を使って、ゼミのみなさんと議論しながら考えられればよいと思っています。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミのルールや予定をガイダンスする
第 2 回	論文とはどのようなものか	論文とは何か、講義する
第 3 回	グループ別テーマ学習１	文献収集、新聞記事ＤＢを使ってみる
第 4 回	グループ別テーマ学習２	論文や記事の要旨をまとめる
第 5 回	グループ別テーマ学習３	グループで議論して主張をまとめる
第 6 回	ディベート 1	ディベートの仕方、評価のポイントを学ぶ。ディベートのテーマの設定
第 7 回	ディベート２	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｂ
第 8 回	ディベート３	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＢ・Ｃ
第 9 回	ディベート４	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｃ
第 10 回	論文テーマの選び方	テーマの選び方を学ぶ
第 11 回	先行研究の調べ方	先行研究の調べ方を学ぶ
第 12 回	論文テーマのプレゼンテーション	個々に研究したいテーマのプレンゼンテーションを行う
第 13 回	グループ研究テーマの選定	プレゼンテーションで出されたテーマからグループテーマを選定する
第 14 回	グループ研究の進め方	グループ研究を行う方向性を指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を出しますので、事前に準備してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。また 3 年生や 4 年生になると、2 年生のゼミに参加することを了解の上で受講してください。

【Outline and objectives】
Study social welfare themes and master basic research skills

OTR200JC

専門演習ＩＡ

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
心の問題の基本的な知識とその背後にある要因を多面的に理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・人間の心の発達について理解する
・現代が抱えるテーマ（いじめ、虐待、ひきこもり、うつ、不安障害など）と心理学的要因との関連を考える。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
また、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション①	ゼミの進め方に関するオリエンテーション。
第 2 回	オリエンテーション②	関心のあるテーマを出し合い、今後のグループ発表などのスケジュールを話し合う。
第 3 回	現代が抱える心の問題や援助について考える	一つのテーマを選び、全体でディスカッションを行い、理解を深める。
第 4 回	現代が抱える心の問題について①	テーマを選び、グループ発表　テーマ A
第 5 回	現代が抱える心の問題について②	A に関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習、夏合宿の計画。
第 6 回	現代が抱える心の問題について③	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション① 夏合宿の計画。
第 7 回	現代が抱える心の問題について④	テーマを選び、グループ発表　テーマ B
第 8 回	現代が抱える心の問題について⑤	B に関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第 9 回	現代が抱える心の問題について⑥	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション②
第 10 回	現代が抱える心の問題について⑦	テーマを選び、グループ発表　テーマ C
第 11 回	現代が抱える心の問題について⑧	C に関連する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第 12 回	現代が抱える心の問題について⑨	テーマを選び、グループ発表　テーマ D
第 13 回	現代が抱える心の問題について⑩	D に関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）および発表内容（40 %）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology

PSY300JB

福祉心理学

山田　勝美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、児童福祉施設等における心理士の役割を認識することを目的に行う。そのために、社会福祉の理念や制度等の理解を図る。その理解を前提に福祉現場における心理社会的課題とそれに対する支援のあり方をおさえる。特に、福祉現場において、他の専門職と協働しながら心理社会的課題の解決を図っていくのだが、そこにおける心理士の役割を理解したい。授業では、社会福祉のなかでも主に児童を中心に扱っていきたい。

【到達目標】
・社会福祉の理念および制度を理解する。
・福祉現場、特に、児童福祉施設における心理的社会的課題とは何か、そして、その現状を理解する。
・入所する利用者、主に虐待を受けた子どもの心理的課題および支援のあり方を理解する。
・他の専門職と協働することの重要性を理解する。
・以上の理解を前提に、施設における心理士の役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は主に講義形式で行うが、適宜、映像資料等を用いたい。また、授業終了時にリアクションペーパーに講義の感想と意見および質問を書いていただく。次回の講義の冒頭でそれを扱い、できうる限り学生の声を授業に反映させていきたいと考えている。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会福祉の理念と制度の今後の方向性〜児童福祉に焦点をあてて〜	これからの社会的養護の動向に関する基本的理解を培う
2	児童福祉施設における生活の意味を理解する	様々な課題を抱え施設に入所してくる利用者にとっての安定的生活とそれを営むことの重要性を理解する
3	児童福祉施設における子どもの存在と関係性の構築の在り方を理解する	様々な課題を抱える子どもをどういう存在と捉えるべきか、そのうえでいかなる姿勢が関係を育む必要があるかを理解する
4	児童福祉施設における専門職と心理職の役割〜その１〜	心理職が協働する他の専門職の役割について理解する
5	児童福祉施設における専門職と心理職の役割〜その２〜	他の専門職と協働するうえでの心理職の役割を理解する
6	虐待を受けた子どもの心理的課題を理解する〜その１〜	施設における虐待を受けた子どもの心理的課題の特徴を理解する
7	虐待を受けた子どもの心理的課題を理解する	生活の場で生起する問題とそこにある心理的課題を理解する
8	施設における虐待を受けた子どもへの直接的支援〜その１〜	生活の場で生起する問題を対処する方法について理解する
9	虐待を受けた子どもへの直接的支援〜その２〜	生活の場で生起する問題を支援する職員を支える心理としての役割を理解する
10	家族への支援について考える〜その１〜	虐待を受けた子どもの自立支援においては、親との関係性が重要になる。その意味と支援のあり方を理解する
11	家族への支援について考える〜その２〜	家族への支援に果たす心理士の役割を理解する。
12	虐待を受けた子どもの実際〜その１〜	映像を通し、実際の児童養護施設における子どもの課題とその支援について検討し、理解を深める
13	虐待を受けた子どもへの支援〜その２〜	特に、心理士の役割に焦点をあてて、理解を深める
14	講義のまとめ	講義で扱った内容を復習し、理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業終了時に事前に読んできていただきたい文献を提示するので、学生はそれを読み込んで授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献・参考図書は授業事に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業事のリアクションペーパーの内容等平常点　　３０％
レポート課題　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
授業毎に行う学生からの質問等に丁寧に答えていくことが学生のより深い学びに直結していることがわかった。本年度もこれを継続していきたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, we aim to recognize the role of psychologists at child welfare facilities etc. To that end, we will try to understand the ideals and systems of social welfare. On the premise of that understanding, psychosocial tasks at the welfare site and how to support it are suppressed. Especially at the welfare workplace, while trying to solve psychosocial problems while collaborating with other professionals, I want to understand the role of psychologists there. In classes, I would like to focus mainly on children among social welfare.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、教育に関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、ゼミの進め方について
第 2 回	教育の語られ方	「一億総教育評論家」社会、教育の語られ方の５つのパターン
第 3 回	腫れ物としての道徳教育	道徳教育の変遷、子どもの規範意識は低下しているのか
第 4 回	ゆとり教育か学力向上か	戦後の学力政策史、学力格差を是正した「新しい学力観」、子どもの「学力低下」の背景にあったもの
第 5 回	タブーとしてのエリート教育	リーダーを育てる「エリート教育」、エリートの劣化と選択支援システムの危機
第 6 回	キャリア教育になにが期待できるか	企業に尽くすための「適応型」キャリア教育、「夢追い型」キャリア教育の危うさ
第 7 回	誰のための大学改革なのか	少子化で様変わりする大学、文部省の巧みな誘導とメディアの視線、変貌する大学
第 8 回	子どもと家族の現場１	適応指導教室の見学
第 9 回	調査から見えるブラック校則の現状	データーから見るブラック校則、ブラック校則の具体事例
第 10 回	子どもたちの理不尽な苦しみ	校則の二面性、司法から見る校則、校則が及ぼす経済的負担
第 11 回	当事者研究から見た学校の行きづらさ	発達障害者の視点から、校則に内在する性規範
第 12 回	ブラック校則をなくすには	制服の「あたりまえ」を問いなおす、教師・保護者から見た校則、学校だけが悪者か？
第 13 回	子どもと家族の現場２	母子生活支援施設
第 14 回	まとめ：文献を通してのディスカッション	現代社会と生命倫理、障害、親になること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・児美川孝一郎（2015）『まず教育論から変えよう』太郎次郎社エディタス
・荻生チキ：内田良（2018）『ブラック校則　理不尽な苦しみの現実』東洋館出版社
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行います。

【到達目標】
到達目標は、体験実習とディスカッションを通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各種のセラピーについてグループで歴史・理論・方法を調べて発表し、そのセラピーについての体験実習を行い、ディスカッションします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
第 2 回	オリエンテーション②	ゼミ長他、ゼミにおける役割を決めます
第 3 回	春学期の小グループ、学習内容の決定	春学期に行う実践体験グループのグループ分けと、各グループで実施する内容を決定します
第 4 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション①	例：カウンセリングロールプレイ
第 5 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション②	例：箱庭療法
第 6 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション③	例：音楽療法
第 7 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション④	例：造形療法
第 8 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑤	例：夢分析とイメージセラピー
第 9 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑥	例：プレイセラピーとボディワーク
第 10 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑦	例：行動療法と認知行動療法
第 11 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑧	例：サイコドラマ
第 12 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑨	例：森田療法と内観療法
第 13 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑩	例：マインドフルネスストレス低減法
第 14 回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表と体験実習の内容を事前に検討してもらいます。また各グループで発表内容と体験実習、ディスカッションについてレポートを執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表の内容 50 %、授業への参加度 50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体験実習やディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You learn and discuss issues on clinical psychology, cooperating with each other among seminor students.

SOW300JB

コミュニティソーシャルワーク

洪　シンロ

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を基盤とするソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて理解することを目的とする。コミュニティソーシャルワークについて基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークの内容とプロセスについて説明することができる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域における福祉問題とソーシャルワーク実践	地域を基盤としたソーシャルワーク実践の目的と特徴（理解しやすい事例を用いて）
第 2 回	コミュニティソーシャルワークの概念と今日的意義	事例等を通しての基本的な理解
第 3 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス①	地域におけるニーズ把握の方法
第 4 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス②	ニーズの焦点化と共有化
第 5 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス③	プランニングとモニタリング、評価
第 6 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容①	小地域ネットワーク活動
第 7 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容②	当事者のエンパワメントと組織化、ボランティアコーディネート
第 8 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容③	ＮＰＯ支援、社会資源の開発、改善、ネットワーキング
第 9 回	事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開①	個別アセスメント
第 10 回	実践の展開②	地域アセスメント
第 11 回	実践の展開③	アセスメントの統合
第 12 回	実践の展開④	サポートネットワーク図の作成
第 13 回	実践の展開⑤	プランニング
第 14 回	実践の展開⑥	プランニングの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008 年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例ー』中央法規、2019 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例』中央法規、2018 年
日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2014 年

日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006 年

【成績評価の方法と基準】
① 平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容 (30%)
② 試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)
両方により総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、高齢者福祉施設での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がコミュニティソーシャルワークの基本的なスキルを習得することを図ることとする。

【Outline and objectives】
This subject has a purpose of understanding about the basic contents and skills of Community social work.Through the case analysis,it cultivates practic skills and creativeity.

SOW300JB

コミュニティソーシャルワーク

洪　シンロ

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を基盤とするソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて理解することを目的とする。コミュニティソーシャルワークについて基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークの内容とプロセスについて説明することができる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域における福祉問題とソーシャルワーク実践	地域を基盤としたソーシャルワーク実践の目的と特徴（理解しやすい事例を用いて）
第 2 回	コミュニティソーシャルワークの概念と今日的意義	事例等を通しての基本的な理解
第 3 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス①	地域におけるニーズ把握の方法
第 4 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス②	ニーズの焦点化と共有化
第 5 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス③	プランニングとモニタリング、評価
第 6 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容①	小地域ネットワーク活動
第 7 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容②	当事者のエンパワメントと組織化、ボランティアコーディネート
第 8 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容③	ＮＰＯ支援、社会資源の開発、改善、ネットワーキング
第 9 回	事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開①	個別アセスメント
第 10 回	実践の展開②	地域アセスメント
第 11 回	実践の展開③	アセスメントの統合
第 12 回	実践の展開④	サポートネットワーク図の作成
第 13 回	実践の展開⑤	プランニング
第 14 回	実践の展開⑥	プランニングの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008 年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例ー』中央法規、2019 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例』中央法規、2018 年
日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2014 年

日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006 年

【成績評価の方法と基準】
① 平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容 (30%)
② 試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)
両方により総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、高齢者福祉施設での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がコミュニティソーシャルワークの基本的なスキルを習得することを図ることとする。

【Outline and objectives】
This subject has a purpose of understanding about the basic contents and skills of Community social work.Through the case analysis,it cultivates practic skills and creativeity.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ｉのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。当事者や家族のもつ力が社会福祉のみならず、社会の中で大きな社会資源となっている現状を分析し、彼らと協働する力を育んでいきます。

【到達目標】
さまざまな当事者やその家族、専門家とかかわることにより、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
人はあらゆる体験を通して、知識や生き抜く術を獲得しているといえます。こうした「体験的知識」は、ソーシャルワークにおいては見過ごすことのできない重要なものです。ゼミでは、性被害や犯罪被害、障害のある人やその家族、虐待を受けた人や精神障害当事者など、当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知ることからスタートし、社会福祉援助について考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行う中で、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。今年度はさらに、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。
フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第 3 回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第 4 回	図書館オリエンテーション	講義
第 5 回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第 6 回	先行研究の検討	先行研究の分析と整理
第 7 回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第 8 回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第 9 回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第 10 回	ゲストの専門分野についての学習結果と質疑応答	プレゼンテーションと全体討議
第 11 回	ゲストの専門分野をふまえての全体学習	プレゼンテーションと講義
第 12 回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とディスカッション
第 13 回	振り返り	全体討議
第 14 回	まとめ	まとめと秋学期に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソーシャルワークにおける「当事者性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度（50%）、発表内容・提出物（50 %）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちと議論を深め、フィールドワークなどを積極的に実施していく予定です。

【Outline and objectives】
In this seminar students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神発達についての基本的な知識を習得する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
精神発達についての基本的な内容について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
論文やテキストの輪読を行う。それと並行して精神発達の正常と異常に関連するテーマについて調べ、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ生同士の自己紹介、ゼミの進め方、輪読の担当と発表順番決め
第 2 回	文献検索の方法について	多摩図書館においてガイダンス受講
第 3 回	テキストの輪読①／発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①
第 4 回	テキストの輪読②／発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②
第 5 回	テキストの輪読③／発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③
第 6 回	テキストの輪読④／発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④
第 7 回	テキストの輪読⑤／発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤
第 8 回	テキストの輪読⑥／発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥
第 9 回	テキストの輪読⑦／発表⑦	レジメを準備して発表、ディスカッションを行う⑦
第 10 回	テキストの輪読⑧／発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧
第 11 回	テキストの輪読⑨／発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨
第 12 回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解などについてディスカッションを行う
第 13 回	論文によるケース検討	ケースについてディスカッションを行う
第 14 回	まとめ②	春学期を振り返り、秋学期のゼミの内容と進行についてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、自分の担当箇所の発表用レジメを作成する。
自分の興味のあるテーマについて調べ、発表準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline and objectives】
We will learn basic knowledge of the developing mind. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society.

PSY300JB

障害者・障害児心理学

小林　玄

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、障害とは何か、障害児者の心理とはどのようなものかをテーマとする。近年の障害の捉え方の変遷や法律、制度を概観し、障害種ごとの障害特性を理解した上で、個々のニーズに合わせた支援の在り方や家族支援について考察する。扱う障害種は、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、知的障害、発達障害（LD、ADHD、ASD）とする。また演習をとおして、障害当事者の困難さについて理解を深める。

【到達目標】
① 障害に対する世界的な意識の変化や共生社会、インクルーシブ教育の理念について理解する。
② 障害に関わる法律の基礎的知識を身につける。
③ 障害種ごとの障害特性に関する基礎的知識を身につける。
④ 家族支援について理解する。
⑤ 当事者の困難さについての理解を深め、支援の在り方について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義形式を基本とし、第 13 回、第 14 回は演習形式とする。
授業の振り返りとして、リアクションペーパーの提出を求める。（集中講義のため、半日ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業回の冒頭でいくつかのコメントや質問事項を紹介し学習の発展につなげる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 障害とは	授業内容、自己紹介、講義形式、評価方法の説明 障害とは何かというテーマで国際障害分類、国際生活機能分類について解説し、ディスカッションも行う
第 2 回	ユニバーサルデザインと合理的配慮	ユニバーサルデザインとバリアフリーの概念について解説し、身近な生活から具体例を探す。また、合理的配慮について具体例を挙げながら理念について解説する。
第 3 回	障害特性の理解と支援（1）肢体不自由	肢体不自由の障害特性と支援について解説する。
第 4 回	障害特性の理解と支援（2）視覚障害	視覚障害の障害特性と支援について解説する。
第 5 回	障害特性の理解と支援（3）聴覚障害	聴覚障害の障害特性と支援について解説する。
第 6 回	障害特性の理解と支援（4）LD	LD の障害特性と支援について解説する。また、アセスメントについても言及する。
第 7 回	障害特性の理解と支援（5）ADHD	ADHD の障害特性と支援について解説する。
第 8 回	障害特性の理解と支援（6）ASD	ASD（自閉スペクトラム症）の障害特性と支援について解説する。
第 9 回	障害特性の理解と支援（7）発達障害に併存しやすい困難さ	発達障害と関連して、感覚過敏、緘黙、トゥーレット症候群について解説する。
第 10 回	障害特性の理解と支援（8）精神障害	精神障害の障害特性と支援について解説する。
第 11 回	当事者と家族への支援	当事者研究の紹介と家族支援について解説する。
第 12 回	【事例検討】多職種連携による障害児支援	教育、心理、福祉、医療などの多職種が連携して、1 人の子どもの支援を行っている事例を紹介する。
第 13 回	【演習】疑似体験をとおした障害者理解（1）ワーク	発達障害、聴覚障害等の障害について心理的疑似体験のワークを行う。
第 14 回	【演習】疑似体験をとおした障害者理解（2）ディスカッション	前回のワークをとおして障害に対して新たに理解したことや支援のポイント等をグループディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習・復習の時間は各１〜２時間ずつを目安とする。
前回の授業の最後に、予習および復習のポイントや参考資料等を提示するので、それを参考に学習を進める。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
第１回〜１２回　リアクションペーパー（5 点 ×12 回）６０％
第１３回〜１４回　演習レポート　１０％
最終レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
＊授業内容は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will discuss the challengers facing people with disabilities in school, workplace and other life events. Furthermore, consider how effective psychological interventions could be delivered to individuals with disabilities and family members.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを身に付けることを目指す。

【到達目標】
アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
アジアに関する国際協力・開発に関する文献・資料集めを行いつつ、基礎スキル向上の取り組み、ゼミ合宿（海外または国内）の準備を進める。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	専門ゼミでの学習①	学びの理解、活動の骨子づくり
第 3 回	専門ゼミでの学習②	年代を超えた意見交換から学ぶ
第 4 回	国際課題の学習①	アジアの基礎情報①
第 5 回	国際課題の学習②	アジアの基礎情報②
第 6 回	専門的な研究の前に①	質問力、プレゼンテーション手法
第 7 回	専門的な研究の前に②	ビジネススキル基礎
第 8 回	専門的な研究の前に③	動画撮影・編集
第 9 回	フィールドワーク①	フィールドワーク実施
第 10 回	フィールドワーク②	フィールドワークの成果発表
第 11 回	ゼミ合宿準備①	国際協力・開発課題の考察
第 12 回	ゼミ合宿準備②	フィールドワークの注意点等
第 13 回	ゼミ合宿準備③	夏休み課題の討議、諸準備
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン等： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to build a basis of international work and develop students' knowledge and practical skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の研究論文・書籍を素材として、リサーチリテラシーや心理学の研究法、心理学における量的な研究活動を支える心理統計法と心理データ解析法、さらに心理学的測定法について基礎から学びます。心理学の研究としては、臨床心理学の研究だけではなく、教育心理学や社会心理学など、幅広い領域から論文・書籍を取り上げます。

【到達目標】
図書館やインターネットを活用した文献収集の方法を修得すること、心理学の研究方法の基礎を理解できること、基礎的な量的解析法の利用方法を理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
書籍の輪読を通して大学生のリサーチリテラシーと量的研究法について学び、その後、量的研究を行っている論文を選定して研究の目的、方法、データ解析の方法、結果等を具体的に発表します。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方について確認する
第 2 回	調査研究論文の選定（国内）	調査研究法を用いている国内の研究論文を選定する
第 3 回	調査研究論文の選定（国外）	調査研究法を用いている国外の研究論文を選定する
第 4 回	発表と議論 (実験心理学 1)	実験心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 5 回	発表と議論 (教育心理学 1)	教育心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 6 回	発表と議論 (発達心理学 1)	発達心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 7 回	発表と議論 (社会心理学 1)	社会心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 8 回	発表と議論 (臨床心理学 1)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 9 回	発表と議論 (実験心理学 2)	実験心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 10 回	発表と議論 (教育心理学 2)	教育心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 11 回	発表と議論 (発達心理学 2)	発達心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 12 回	発表と議論 (社会心理学 2)	社会心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 13 回	発表と議論 (臨床心理学 2)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 14 回	心理学研究法と統計法の確認	心理学研究法と統計法の理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究論文を読んで内容を発表する場合は、その研究が扱う心理学的な概念についても調べておくが必要があります。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する研究論文と書籍を授業時に選定します。

【参考書】
教育心理学研究、教育心理学年報、パーソナリティ研究、心理学研究、スポーツ心理学研究、感情心理学研究、社会心理学研究、実験社会心理学研究、基礎心理学研究、健康心理学研究、発達心理学研究などに発表された研究論文

【成績評価の方法と基準】
演習への参加（50 %）と発表（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業へ参加できるよう工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表を行う際には，担当教員がパソコンを用意します。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

SOW300JB

スクールソーシャルワーク

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】
・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について検討する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の分析も含めながら考察を深めていく。
・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもと家族の理解 1	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第 2 回	子どもと家族の理解 2	現代の子育てと子育ち、多様化する家族
第 3 回	学校・教育の現状 1	教育費、学校現場と教育の現状
第 4 回	学校・教育の現状 2	学校現場に福祉援助が入るということ
第 5 回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第 6 回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第 7 回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第 8 回	スクールソーシャルワーク実践 1	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第 9 回	スクールソーシャルワーク実践 2	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援
第 10 回	スクールソーシャルワーク実践 3	発達の課題と特別支援
第 11 回	スクールソーシャルワーク実践 4	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第 12 回	ゲストスピーカー	スクールソーシャルワーカーによる講義
第 13 回	連携の実際とスクールソーシャルワーカー	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第 14 回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配布する。

【参考書】
・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第２版）』ミネルヴァ書房
・門田光司（2010）『学校ソーシャルワーク実践　国際動向とわが国での展開』ミネルヴァ書房

・大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
・佐々木宏・鳥山まどか（2019）『シリーズ子どもの貧困③教える・学ぶ―教育に何ができるか』明石書店
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、講義内課題（30 %）、定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生が発言する機会をより多く提供する。

【Outline and objectives】
This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きづらさを抱え、孤立しがちな方と共に暮らす地域社会をみなさんと当事者の言葉から精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討します。

【到達目標】
問題意識を高め、関連する文献渉猟を経て自らの関心領域を確認すること、そして議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの進め方の確認　各自の役割分担の話し合い
第 2 回	関心領域の明確化	各自の問題意識や関心領域の共有と研究課題の設定
第 3 回	文献調査の準備	基本文献の選定
第 4 回	フィールドワークの準備(事前研究)	マナーやルールと調査対象に関する事前研究
第 5 回	フィールドワーク（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第 6 回	フィールドワークの振り返り（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第 7 回	文献調査および報告 A/B	報告担当者からの発表とディスカッション A/B
第 8 回	文献調査および報告 C/D	報告担当者からの発表とディスカッション C/D
第 9 回	文献調査および報告 E/F	報告担当者からの発表とディスカッション E/F
第 10 回	フィールドワークの準備（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	調査対象に関する事前研究
第 11 回	フィールドワーク（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第 12 回	フィールドワークの振り返り（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第 13 回	研究課題の明確化	グループ編成
第 14 回	グループワーク（課題設定）	研究課題の設定とゼミ合宿での発表の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人で行う文献研究報告、ゼミ合宿でのグループ報告を行います。レジュメの作成やパワーポイントの利用など報告時には十分な準備をして行うことを求めています。(先輩学生からの支援があります）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
眞保智子（2020）『精神障害・発達害のある方とともに働くためのＱ＆Ａ 50 ～採用から定着まで～』日本加除出版

【成績評価の方法と基準】
演習での報告・発言：５０％
フィールドワークレポート・グループワーク報告等：５０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
フィールドワークと自主的な学びを重視しており、時間割記載のゼミ時間以外の時間に活動することもあることを承知して参加してください。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on the fundamental principles and practices of writing academic essays. The purpose of the class is for students to progress from the basic components of academic vocabulary, sentence structure, and style to the construction of arguments, paragraphs, and short essays.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習ＩＡでは、日本語で書かれた、大学生を対象に**実験**を行っている研究論文を採りあげて検討していきます。
実証的な心理学研究方法による臨床心理学研究の内容・方法・態度を身につけることを目的とします。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を学び、それらを臨床心理学に関連づけながら理解できる。
2) 心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみについて、概説できる。
3) 研究遂行能力の基礎を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。各自担当する論文を決め、担当者に発表してもらいます。その内容に基づき、ディスカッションを行います。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	専門演習の進め方についてのオリエンテーション
第 2 回	実験や質問紙調査による研究の紹介 (1)	担当教員が、どのような研究論文があるかを紹介します。抑うつ性障害、双極性障害などをとりあげます。
第 3 回	実験や質問紙調査による研究の紹介 (2)	担当教員が、どのような研究論文があるかを紹介します。不安症、身体症状症などをとりあげます。
第 4 回	実験や質問紙調査による研究の紹介 (3)	担当教員が、どのような研究論文があるかを紹介します。強迫症、心的外傷後ストレス障害、解離症などをとりあげます。
第 5 回	実験や質問紙調査による研究の紹介 (4)	担当教員が、どのような研究論文があるかを紹介します。摂食障害、統合失調スペクトラム障害、パーソナリティ障害などをとりあげます。
第 6 回	論文の読み方、研究デザインについて； 各自の発表する論文の決定	実験による研究論文の読み方、研究デザインについて担当教員が概説します。その後、各自の関心のあるテーマを絞り込み、第 7 回以降の演習で発表する論文の候補を決定します。
第 7 回	発表と討議 (1)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(1)
第 8 回	発表と討議 (2)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(2)
第 9 回	発表と討議 (3)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(3)
第 10 回	発表と討議 (4)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(4)
第 11 回	発表と討議 (5)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(5)
第 12 回	発表と討議 (6)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(6)
第 13 回	秋学期に向けての準備	秋学期の専門演習Ｉ Ｂでのグループ研究に向けた話し合いを行います。
第 14 回	まとめ	春学期に学んできたことをふりかえります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、事前に発表の準備が必要です。

授業後は、論文、レジュメなどをもとに復習することが望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
適宜指示します。
候補となる論文リストは、以下のサイトに記載します。
http://bit.ly/2jWLsQs

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
研究論文を読んで発表していただくことで、内容はもちろんですが、実験／質問紙調査の研究デザインや方法、統計分析の意味などをより深く知ることができるようになり、研究の「方法」面での学習が役立つ、また研究論文を読むことへの抵抗感がなくなるなどの意見がありました。卒業論文作成に向けての「基礎体力」養成になると考えますので、引き続きこのような演習の進め方・方法をとろうと考えています。

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅰ B」と合わせて履修してください。

【Outline and objectives】
This seminar deals with the basic concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, research articles with experimental methods in Japanese will be read.
It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワークⅠ

國重　智宏

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、精神保健ソーシャルワークの基本的概念と原理を学ぶとともに基本的な面接技法の修得を目指す。

【到達目標】
・精神保健ソーシャルワークの基本的概念と原理を理解する。
・精神保健ソーシャルワーク実践で必要となる基本的な面接技法（傾聴、共感など）を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、下記の授業計画の内容と計画で進めていきます。
授業形態は、講義だけでなく、グループでの討議やロールプレイなどの演習的な内容も含みます。そのため、受講生の授業への主体的な参加が必要となります。なお、課題やリアクションペーパーなどへのフィードバックは、授業の冒頭などで全体に向けて実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	対象者理解（精神障害者とは）	精神障害者に対する自分自身の見方について事例を通して自覚する。
2	PSW の視点❶（人と状況の全体性）	「人と状況の全体性」という視点について理解する。
3	PSW の視点❷（かかわり）	「ここで、今」の「かかわり」という視点について考える。
4	PSW の視点❸（ストレングス視点）	「ストレングス視点」に実践的に理解する。
5	面接技法❶（傾聴／きくこと）	相手の話を「きく」ことの意味や「きく」際の態度について考え、理解する。
6	面接技法❷（共感／わかることと伝えること）	「わかる」ということの意味や分かったことの伝え方について考え、理解する。
7	援助者の姿勢❶（他者であること／「共感する他者」と「臨在の証人」）	援助者が「他者である」ことの意味について考え、理解する。
8	援助者の姿勢❷（自己決定の尊重）	クライエントの自己決定を尊重することの意味について考える。
9	援助関係の形成技法	第 8 回までの振り返りも兼ねて援助関係の形成技法について理解する。
10	精神保健福祉士の役割	精神保健福祉士法や日本精神保健福祉士協会倫理綱領などを通して精神保健福祉士の役割について考える。
11	精神保健福祉士の歴史	精神保健福祉士の活動の歴史を振り返り、何を大切にして実践を行ってきたのか考え、理解する。
12	精神保健福祉士の倫理	PSW が関与した権利侵害である Y 問題を中心に精神保健福祉士の倫理について考える。
13	アドボカシー	精神保健福祉士がアドボカシーを担える存在であるのか、事例なども用いながら検討する。
14	まとめ	振り返りテストを行い、前期の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として『かかわりの途上で』の該当箇所を読んでくることが必要になる。
また、授業後に復習として授業課題を課す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相川章子・田村綾子・広江仁（2009）『かかわりの途上で』へるす出版.
＊事例集代わりに使用する。第 2 回の授業から該当箇所を事前に読んだ上で授業課題に取り組むため、必ず授業開始前までに購入すること。
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新精神保健福祉士養成講座５　精神保健福祉の原理』中央法規.
＊初回から使用するため、授業を履修する学生は必ず購入すること。

【参考書】
稲沢公一（2017）『援助関係論入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
小テスト（30 %）、振り返りテスト（40 %）、授業課題（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、精神保健福祉士資格の取得を目指さない学生の履修も多いため、精神保健福祉士として必要な内容に加え、精神科臨床で働く他職種にも必要な内容を含む授業内容に変更している。

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク」「精神保健福祉」に関する科目を事前に履修してることが望ましい。基礎知識がない場合は、自己学習で補わなければ合格点に達することは難しい授業内容である。
質問などは、メール（kunishige@toyo.jp）で対応する。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work in mental health.
It also enhances the development of students' skill in the basic interview technique.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカル”の視点からコミュニティづくりを考える

【到達目標】
本ゼミを通して、“ローカルゼミ”として、地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに関わっている面白さと奥深さを大事に捉えられるようになる。地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、“ローカル”の今を読み解く「ものさし」を学び、学生として、また卒業後も社会人として問題解決にどのように関われるかを探ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡでは、大学では、農山村地域を中心としたコミュニティづくりを学ぶ上での基礎的理解を深める。加えて、週末や夏季合宿には、ゼミ活動を受け入れてくれる農山村に出かけ、地域住民の皆さんとの交流を通して、そこでの暮らしや集落活動の現場を経験する。全体を通して、“ローカル”の現場に触れ、実践活動を通して関心を高める機会を作っていく。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	２年次でのゼミの進め方を共有する。
第 2 回	ガイダンス②	春学期でのゼミの進め方を共有する。
第 3 回	農山村の地域づくりのトピックを調べる	農山村の地域づくりに関する事例収集
第 4 回	農山村の地域づくりのトピックを読み解く	農山村の地域づくりに関する事例分析
第 5 回	農山村の地域づくりへの関わり方を考える	学生の立場から地域への関わり方を議論する
第 6 回	先輩のフィールドワーク活動を学ぶ	これまでのゼミフィールドワーク活動を学ぶ
第 7 回	活動地域の分析作業	夏のゼミ合宿に向けたフィールド地域の分析
第 8 回	活動地域の課題把握	夏のゼミ合宿に向けたフィールド地域の課題把握
第 9 回	現地フィールドワークのテーマ検討	夏のゼミ合宿に向けたフィールドワークのテーマ検討
第 10 回	現地フィールドワークの内容検討	夏のゼミ合宿に向けたフィールドワークの活動内容の検討
第 11 回	現地フィールドワークの実践計画づくり	夏のゼミ合宿に向けたフィールドワークの活動計画づくり
第 12 回	現地関連の文献・資料の収集	現地でのフィールドワークに必要となるテーマの資料収集
第 13 回	現地関連の文献・資料の分析	現地でのフィールドワークに必要となるテーマの資料分析
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りと夏のゼミ合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。ゼミでの議論や課外活動の経験から必要とされる知見に気づき、自ら積極的に専門書や文献から学ぼうとする姿勢を求めたい。

【テキスト（教科書）】
専門書や文献などを必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%

【学生の意見等からの気づき】
過年度のゼミ活動の様子を踏まえて、今年度のゼミ内容に反映させていきたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will deepen the basic understanding for learning how to build a community centered on rural areas. In addition, we will go to the rural area and experience the living and local activities there through interaction with local residents.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域における基礎的な知識を習得するとともに、興味のある領域に関して深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行いながら、心理学領域における基礎的な知見の習得を目指します。なお、専門演習Ｉ Ｂ では、研究文献発表後に数人の小グループに分かれて、より深いディスカッションを行い、その後、全体で内容を共有する方法をとります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの決定	各自の発表テーマの決定
第 3 回	研究発表 1	研究発表とグループディスカッション①
第 4 回	研究発表 2	研究発表とグループディスカッション②
第 5 回	研究発表 3	研究発表とグループディスカッション③
第 6 回	研究発表 4	研究発表とグループディスカッション④
第 7 回	研究発表 5	研究発表とグループディスカッション⑤
第 8 回	研究発表 6	研究発表とグループディスカッション⑥
第 9 回	研究発表 7	研究発表とディスカッション⑦
第 10 回	研究発表 8	研究発表とグループディスカッション⑧
第 11 回	研究発表 9	研究発表とグループディスカッション⑨
第 12 回	研究発表 10	研究発表とグループディスカッション⑩
第 13 回	研究発表 11	研究発表とグループディスカッション⑪
第 14 回	まとめ 1	全体でのディスカッション①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が講読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
演習内容をより理解しやすくするために前の週に資料を配布する。

【その他の重要事項】
病院、児童養護施設、矯正施設などの見学を適時実施します。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology.　Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワークⅡ

山口　創生

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主に我が国の精神障害者にかかわる統計データやソーシャルワークに関係する支援技法、精神科リハビリテーションプログラムやスティグマの問題について取り上げます。本講義の目的および意義は、受講者が 1) 精神保健福祉士国家試験に向けた知識・情報を得ること、2) 精神障害者の生活実態に関する統計データや現在のサービス内容・制度、新しい効果的な支援を鑑みて、精神障害者の地域生活の改善に寄与するサービスの開発・普及について包括的な考察を行う機会を得ることです。

【到達目標】
1. 精神障害者を取り巻く環境を統計的に把握できる
2. 精神障害者に対する効果的な実践を考える機会を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義とグループでの議論を通して授業を進めます。課題（レポート等）に対するフィードバックは要望に応じて個別に実施いたしますので、いつでもご連絡ください。秋学期は原則対面で実施いたします。コロナの影響などによりオンライン講義となる場合、そして、オンライン講義に伴う授業計画の変更がある場合については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や成績評価の説明
第 2 回	精神障害者の概念と統計	ICF、障害の定義、統計の説明
第 3 回	精神障害とｽﾃｨｸﾞﾏ 1	スティグマの実態や是背の説明
第 4 回	精神障害とｽﾃｨｸﾞﾏ 2	グループワーク
第 5 回	精神障害とﾘｶﾊﾞﾘｰ 1	グループワーク
第 6 回	精神障害とﾘｶﾊﾞﾘｰ 2	ﾊﾟｰｿﾅﾙ・ﾘｶﾊﾞﾘｰや主体価値の説明
第 7 回	障害者ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ総論	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの基礎理論の説明
第 8 回	効果的なｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 1	ACT の説明
第 9 回	効果的なｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 2	ストレングスモデルの説明
第 10 回	精神障害と就労	就労支援に関する資源の説明
第 11 回	効果的な就労支援	援助付き雇用と IPS の説明
第 12 回	触法精神障害者の支援	医療観察法の紹介
第 13 回	先駆的な実践の紹介	SDM 等の先駆的実践例の説明
第 14 回	まとめ	講義内容の振り返りと課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生が事前に必ず学習すべきことなどは定めません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。スライドを使用した講義となります。

【参考書】
1) ソーニクロフト・グラハム, タンセラ・ミケーレ, 訳：岡崎祐士, 笠井清登, 福田正人 (2012) 精神保健サービス実践ガイド. 日本評論社, 東京.

【成績評価の方法と基準】
1. 評価方法
レポート： 90%、平常点（講義内の発言など）： 10%。レポートは、「障害者ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」、「就労支援」、「ｽﾃｨｸﾞﾏ」のいずれかのテーマを選び、定められた様式で記載する。
2. 評価基準
S ：講義内の積極的な発言、レポートが規定した様式で書かれており、自身の考えや講義で学んだ内容、過去のデータが織り交ぜられている
A ：上記に次ぐ
B ：考察は十分ではないが、規定した様式で書かれている
C ：規定した様式で書かれていない/考察が著しく不十分
D ：レポートの書き方、内容が不十分

【学生の意見等からの気づき】
受講者同士が議論する機会を多く設けています。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
講義の進捗状況によって、先進的な実践等の紹介（第 13 回）は省略する可能性があります。

【Outline and objectives】
This lecture introduces statistical data for people with mental illness in Japan, social work skills, psychiatric rehabilitation programs and mental health-related stigma. The aims of the lecture are that students gain the relevant information for national examination for the license of mental health social worker, and that students discuss the development and the dissemination of effective community mental health services through learning the relevant statistical data, mental health policies, mental health services and effects of services

OTR200JB

専門演習ＩＡ

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習では、当事者の生きる方法、福祉実践、コミュニティ、福祉制度や政策のあり方を考えることを目的とします。そのため、専門演習ＩＡでは、社会福祉領域（例えば、高齢者福祉、地域福祉、ソーシャルワーク、当事者の声など）にかかわる先行文献を読み、論点を整理し問題の所在、その特質を明らかにします。

【到達目標】
当事者の生活世界にふれ、福祉実践の現場に出向き、生活者、当事者の視点とは何か、福祉実践の現状と問題点を深く理解する能力を身につけることを目標とします。また、社会福祉の基礎知識、研究方法、実践について、参考文献の整理やフィールドワーク、ゲストスピーカーのアドバイスにより、福祉実践や研究能力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期では、高齢領域、児童領域、障がい領域、さらには制度政策や実践領域における文献収集ならびにそれらの整理について、グループ単位で調べ報告し、互いに知識を深めるためディスカッションを行います。グループで取り組んだ課題についてもレポート作成に取り組んでいただきます。また、リアクションペーパーへのコメントは授業内で紹介し、議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なお、授業計画や進め方に変更がある場合は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの目標や進め方について
第 2 回	ゼミテーマの設定	各自の関心領域の発表、テーマ別グループ編成、学習準備
第 3 回	福祉課題の学習①	高齢領域文献整理と討議
第 4 回	福祉課題の学習②	障がい領域文献整理と討議
第 5 回	福祉課題の学習③	地域福祉領域文献整理と討議
第 6 回	福祉課題の学習④	ソーシャルワーク実践文献整理と討議
第 7 回	福祉課題の学習⑤	制度・政策・サービス文献整理と討議
第 8 回	当事者視点と福祉課題	当事者視点から検討した課題設定とグループ学習準備
第 9 回	課題テーマ別グループ学習	当事者視点から検討した課題テーマの事前学習
第 10 回	課題テーマ別グループ学習報告①	当事者視点から検討した課題テーマの事前学習成果報告と討議
第 11 回	課題テーマ別グループ学習報告②	当事者視点から検討した課題テーマの事前学習成果報告の再検討
第 12 回	課題テーマ別グループ学習報告③	当事者視点から検討した課題テーマの事前学習成果の最終報告
第 13 回	ゲストスピーカーの実践から学ぶ	当事者視点の実践をゲストスピーカーから学ぶ
第 14 回	コミュニティ、フィールの福祉実践を学ぶ	当事者視点を重視したコミュニティやフィールド実践の事前学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究など文献研究で得た知識をベースにテーマや関心領域を設定します。またテーマごとにフィールドワークを実施予定のため、当事者の視点から福祉の実践と理論を学びぶために積極的に取り組んでください。また、各自の可能な範囲で先進的なフィールドに関する情報を収集してください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自・各グループ課題によって適宜紹介します。

【参考書】
筒井淳也（2020）『社会を知るために』ちくまプリマー新書、鶴幸一郎他（2019）『福祉は誰のために　ソーシャルワークの未来図』へるす出版新書んど、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への取り組み姿勢や報告内容（60 %）、小レポート（40 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
先行研究の重要性について、先行研究論文や資料収集方法や考察から学び、各自の問題関心が明確になるように、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にします。対面（教室）とオンラインとの併用については、ゼミ生とともに検討していきたいと考えています。

【Outline and objectives】
This course aims at learning how our target groups of people live, social work practice, communities, social welfare system and measures in general. For that reason, we will explore points in question to clarify where the problems are and their specific quality by reviewing prior documents related to social welfare for the aged, community social welfare, social work, as well as the voices of the parties concerned.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
認知行動療法の全体像を把握し、その中から、自らの関心があるテーマを調べ、理解を深められるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法に関連するテーマの中から、自らの関心があるテーマについて、個人発表をしてもらい、それを題材にして、ディスカッションを行っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方について話し合います。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の目的について概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の意義について概説します。
第 4 回	認知行動療法の理論と技法1	認知行動療法の理論と技法について解説し、ディスカッションを行います。
第 5 回	認知行動療法の理論と技法2	認知行動療法の理論と技法について、ディスカッションします。
第 6 回	認知行動療法の理論と技法3	認知行動療法の理論と技法の課題を、ディスカッションします。
第 7 回	認知行動療法の理論に関する個人発表1	認知行動療法の理論（主にレスポンデント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第 8 回	認知行動療法の理論に関する個人発表2	認知行動療法の理論（主にオペラント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第 9 回	認知行動療法の理論に関する個人発表3	認知行動療法の理論（主に情報処理理論）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法の理論に関する個人発表4	認知行動療法の理論（主にマインドフルネス）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらい、ディスカッションを行います。
第 11 回	認知行動療法の技法に関する個人発表1	認知行動療法の技法（主に行動療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法の技法に関する個人発表2	認知行動療法の技法（主に認知療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第 13 回	認知行動療法の技法に関する個人発表3	第三世代の認知行動療法に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	秋学期のゼミを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体験的学習の機会を取り入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on issues affecting mental health from the viewpoint of cognitive behavior therapy.　The seminar provides opportunities to acquire knowledge and methods for cognitive behavior therapy.

SOW300JB

セルフヘルプグループ

横川　剛毅

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。
学生が、その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】
次の 2 点を目標とします。
①さまざまな困難や生きづらさを知ることによって、人の生活における支え合いについての知見をもち、考えを他者に伝えることができる。
②困難や生きづらさのある人との対等なパートナーシップを理解し、他者と共有できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを、授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション SHG とは何か	この授業の全体像を把握する。また SHG の定義を学ぶ
第 2 回	知的障がいの理解	周囲に障がいを隠さない生き方について学ぶ
第 3 回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第 4 回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第 5 回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第 6 回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第 7 回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第 8 回	依存症とは	多様な依存症について知る
第 9 回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第 10 回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第 11 回	アルコール依存症の SHG	アルコール依存症の SHG について学ぶ
第 12 回	グループ内発表	ここまでの学びを踏まえて注目した内容について自ら調べ、レジュメにまとめたうえで、その内容を発表し合う
第 13 回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第 14 回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】
「セルフヘルプ・グループ　―当事者へのまなざし―」（久保紘章 著）相川書房　2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参画度合いなどの平常点（20 %）、
リアクション（30 %）、レポート課題（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4 サイズ・20 シート以上）を準備しておく。

【Outline and objectives】
When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this subject that students understand its significance.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として” アクアツーリズム” と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第 2 回	生活環境主義とは？	現場の人びとの実践から学ぶ方法論
第 3 回	アクアツーリズムとは？	文献を精読し、討議
第 4 回	問題関心のつくり方	グループワークを通じて問題関心を明確化する
第 5 回	文献調査の方法	先行研究と分析視角の検討
第 6 回	フィールドワークの技法	フィールドワークの基礎知識と技法について
第 7 回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第 8 回	フィールドワークの準備	調査地の選定と下調べ
第 9 回	フィールドワーク	聞きとり調査
第 10 回	調査データの解釈・分析（1）	調査で得られたデータを解釈する
第 11 回	調査データの解釈・分析（2）	調査で得られたデータを先行研究とつきあわせながら分析する
第 12 回	今後の調査の方向性（1）	これまでの調査の振り返り
第 13 回	今後の調査の方向性（2）	不足しているデータの収集
第 14 回	生活環境主義の実践性	役に立つ研究とはどのようなものか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や受講生の声を適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
心理療法家の姿勢、心理療法の概要について理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・心理療法の基礎について学ぶ（幾つかの心理療法を取り上げる）
・心理査定を通して心の問題やその援助を考える
・臨床現場を実際に見学し、心の問題と援助について学びを深める。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
また、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは	心理療法の基礎的な知識を学ぶ
第 2 回	心理療法家とは	心理臨床家の役割、姿勢など基礎的な知識を学ぶ
第 3 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ①	関心のある心理療法を選び、グループ発表①
第 4 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ②	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む① ビデオ学習
第 5 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ③	関心のある心理療法を選び、グループ発表②
第 6 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ④	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む② ビデオ学習
第 7 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑤	関心のある心理療法を選び、グループ発表③
第 8 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑥	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む③ ビデオ学習
第 9 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑦	関心のある心理療法を選び、グループ発表④
第 10 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑧	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む④ ビデオ学習
第 11 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑨	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑤
第 12 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑩	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む⑤ ビデオ学習
第 13 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑪	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑥およびディスカッション
第 14 回	まとめ	全体を通した振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と発表内容（40 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。
体験学習も積極的に取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

【到達目標】
グローバリゼーションの視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する生活問題との関連について理解する。
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。
多文化ソーシャルワークの実際について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、グローバル化した現代社会の特質を整理・検討し、個人の生活問題との関係性を検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例などの検討を行っていく。オンラインまたは対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第 2 回	集団討議①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解
第 3 回	集団討議②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第 4 回	集団討議③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第 5 回	集団討議④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第 6 回	集団討議⑤	前半の振り返りと多文化社会における課題の検討
第 7 回	現代社会の特質①	資本と労働の国際移動についての歴史的検討
第 8 回	現代社会の特質②	「周縁」における労働実態
第 9 回	在日外国人の置かれた状況①	入管法と外国人労働者政策および外国人労働者の社会保障
第 10 回	在日外国人の置かれた状況②	外国人労働者の医療・福祉問題
第 11 回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史的変遷とその特徴
第 12 回	多文化ソーシャルワークの実際	アメリカにおけるハルハウスおよび近年の実践状況
第 13 回	日本における多文化ソーシャルワーク	労災・医療・福祉問題と方法論としてのアドボカシーネットワーク
第 14 回	試験	学習した内容の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
集団討議への能動的参加・発言（６０％）
最終試験（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
外国人支援ＮＧＯでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline and objectives】
This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration.At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活保護をテーマに、最低生活保障と自立支援について、しっかり学びます。ゼミ生それぞれが各自の問題関心に沿って、支援の現場から学びます。

【到達目標】
コロナ禍での貧困の拡大を受け、生活保護において具体的に何が問題になっているかを知ります。
生活保護の概要を学びます。
支援に関わる準備を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）まず、コロナ禍で起きている問題に関するルポや資料を検討します。
（2）テーマごとにグループワークを行います。
（3）生活保護の重要な論点について文献をもとに学びます。
（4）レポート等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	進め方と計画の確定
第 2 回	問題点の提示（1）	コロナ禍での問題（1）
第 3 回	問題点の提示（2）	コロナ禍での問題（2）
第 4 回	問題点の提示（3）	対応策のまとめ
第 5 回	問題点の提示（4）	支援の事例（1）
第 6 回	問題点の提示（5）	支援の事例（2）
第 7 回	フィールドワーク（1）	支援に関わるガイダンス （立ち位置と守秘義務）
第 8 回	論点の検討（1）	稼働能力活用とは
第 9 回	論点の検討（2）	資産の活用 収入認定除外
第 10 回	フィールドワーク（2）	支援者へのヒアリング（Zoom 利用）
第 11 回	論点の検討（3）	扶養義務とは
第 12 回	論点の検討（4）	世帯単位・世帯分離とは
第 13 回	論点の検討（5）	指導指示、保護廃止とは
第 14 回	まとめ	ケースワーカーとは 夏季休暇中の現場訪問・ヒアリング計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルポや支援の実践等、事前に各自が検討し要点をまとめたうえで、ゼミに出席すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に指定します。

【参考書】
布川『生活保護の論点』山吹書店、
吉永・布川・加美『現代の貧困と公的扶助―低所得者に対する支援と生活保護制度』高菅出版、など。

【成績評価の方法と基準】
資料のまとめ（50 %）、発言や報告の水準（50 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミとしての集団の力が発揮できるようにしたい。

【その他の重要事項】
春学期：福祉国家論、秋学期：公的扶助論を受講すること。

【Outline and objectives】
1）The possibilities of the Public Assistance System
2）Details of the standard amount and Requirements

OTR200JC

専門演習ＩＢ

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行い、ゼミ論にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、グループ学習を通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学のトピックをグループでゼミ論にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
2	オリエンテーション②	グループ分けと、ゼミ長他の役割を決めます
3	小グループ、研究内容の決定	各グループで取り組む内容を決定します
4	小グループによる研究発表とディスカッション①	各グループによる研究テーマと進行予定の発表
5	小グループによる研究発表とディスカッション②	例：グループ A、グループ B の発表
6	小グループによる研究発表とディスカッション③	例：グループ C、グループ D の発表
7	小グループによる研究発表とディスカッション④	例：グループ E、グループ A の発表
8	小グループによる研究発表とディスカッション⑤	例：グループ B、グループ C の発表
9	小グループによる研究発表とディスカッション⑥	例：グループ D、グループ E の発表
10	小グループによる研究発表とディスカッション⑦	例：グループ A の発表
11	小グループによる研究発表とディスカッション⑧	例：グループ B の発表
12	小グループによる研究発表とディスカッション⑨	例：グループ C の発表
13	小グループによる研究発表とディスカッション⑩	例：グループ D の発表
14	小グループによる研究発表とディスカッション⑪、まとめ	例：グループ E の発表、授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表内容を事前に検討してもらいます。また各グループでゼミ論文を執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、ゼミ論文（60 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You learn and discuss issues on clinical psychology and psychological support, and you also write seminor report cooperating with seminar students.

SOW300JB

若者支援論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
かつて先進国の中で優等生と称されていた日本の若者自立モデルはグローバル化の中で溶解し、自立の困難を抱える若者への包括的な支援政策が求められている。こうした現状において社会はどのような対応をするればよいのか、ともに考えていきます。

【到達目標】
自立の危機にある若者の背景にある事情は多様であり、中には障害が関係する場合もあると指摘もされています。安易に自己責任論に同調することなく、自己責任の問題と社会構造の問題とを見極め、自らの考えを表明できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
若者の自立の問題について、歴史的な経緯や国際比較、性別・学歴・就業形態・障害・貧困の再生産等背景にある問題を取り上げ理解を深められるように進めていきます。また、ゲストスピーカーによる当事者や支援者の現場の声に触れる機会を用意する予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明する。
第 2 回	若者の自立の困難さ	何が問題なのか
第 3 回	若者の自立の諸問題―海外との比較	日本の現状と他の先進諸国の諸問題
第 4 回	若年女性の自立の危機	女性ならではの困難さ
第 5 回	就職活動と大学教育	教育と労働市場の相互関係
第 6 回	雇用形態のちがいによる自立の危機	非正規化の拡大がもたらす困難さ
第 7 回	ゲストスピーカー講演（発達障害関係）	発達障害のある若者の困難さ
第 8 回	ゲストスピーカー講演の振り返り	レポート作成
第 9 回	若者の社会からの孤立	ひきこもる若者の困難さ
第 10 回	ゲストスピーカー講演（精神障害関係）	精神障害のある若者の支援
第 11 回	ゲストスピーカー講演の振り返り	レポート作成
第 12 回	障害者雇用の現状と課題	障害のある若者の就労
第 13 回	ゲストスピーカー講演（就労・生活支援者）	仕事を通じてのリハビリテーション
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ゲストスピーカーの講演後の講義でレポートを作成する際には、単なる感想ではなく、関連する文献を読み考察するレポートを望みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜プリント配布や紹介します。

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で提示する課題についての数回のレポート作成：５０％（出席、提出だけでは評価しない. 講義内容の理解度と自らの考えを根拠をもとに展開していることを評価のポイントとします）試験：５０％

【学生の意見等からの気づき】
評価の方法についてアンケートでのご意見に基づき、変更しています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for youth.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for social work.At the seminar We will discuss Well-being for youth.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みを調査するなかから、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり（地域づくり）活動のフィールドワーク現場を選定するために、活動助成事業への企画書をグループ単位でとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第 2 回	まちづくり活動の事例研究①	活動先進事例の実態把握① リノベーション住宅
第 3 回	まちづくり活動の事例研究②	活動先進事例の実態把握② クリエイティブツーリズム
第 4 回	まちづくり活動の事例研究③	活動先進事例の実態把握③ メンタルヘルスツーリズム
第 5 回	まちづくり活動の事例研究④	活動先進事例の実態把握④ シェアリングエコノミー
第 6 回	まちづくり活動の事例研究⑤	活動先進事例の実態把握⑤ コミュニティの居場所
第 7 回	活動助成の企画書作成①	フィールドワークの目的確認
第 8 回	活動助成の企画書作成②	フィールドワークでの活動プログラムの検討①
第 9 回	活動助成の企画書作成③	フィールドワークでの活動プログラムの検討②
第 10 回	活動助成の企画書作成④	活動スケジュールの検討
第 11 回	活動助成の企画書作成⑤	企画書とりまとめ
第 12 回	フィールドワークの事前調査①	対象地域の社会条件の整理
第 13 回	フィールドワークの事前調査②	対象地域の環境条件の整理
第 14 回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの準備と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ｉ A で学んだことを基礎として、乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常を学習する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常に関連した、関心のあるテーマについて調べ理解を深める。またそのテーマについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が関心のあるテーマを設定し文献を収集し、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	進行についての提案ないし希望があれば、それについてゼミ全体で検討する。
第 2 回	文献検索①	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第 3 回	文献検索②	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第 4 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①。
第 5 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②。
第 6 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③。
第 7 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④。
第 8 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤。
第 9 回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥。
第 10 回	発表⑦	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑦。
第 11 回	発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧。
第 12 回	発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨。
第 13 回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解についてディスカッションを行う。
第 14 回	まとめ②	来年度春学期のゼミの内容と進行について意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマについて調べ、レジメを作成し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline and objectives】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

宮城　孝

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習全体の目的である「福祉社会の未来をデザインする」ために、「若者の視点から探る」をテーマに、前期は、我が国の将来の社会保障や社会福祉に関する課題について、若者の視点から、その背景や課題について検討する。その際、具体的なフィールドを設定して、必要なデータを収集し、分析する。また、先進的な政策や実践について、国際的な視野を含めて検討し、基礎的な考察する力や視野を広げることを目的とする。

【到達目標】
・将来の福祉社会の在り方について、自分たちの問題として真摯にとらえることができる。
・社会保障や社会福祉に関して国際的な視点で考えることができる。
・専門的な文献や論文を読了するとともに、具体的なデータを収集・分析して自ら考察することができる。
・グループでテーマを設定し、協力して議論を深めることができる。
・人前で発表するプレゼンテーションの基礎的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献の探索レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、基本的には、演習方式によるゼミ生の共同研究による。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ全体の目的と方法、前期の進め方と日程等
第 2 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて①	福祉社会の未来と自分隊たちの暮らしについての課題の検討
第 3 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて②	上記について具体的なテーマの設定についての協議
第 4 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて③	テーマの設定と内容についての協議
第 5 回	グループ研究①	研究内容と方法について協議①
第 6 回	グループ研究②	研究内容と方法について協議②
第 7 回	グループ研究③	研究内容と方法について協議③
第 8 回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告①
第 9 回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告②
第 10 回	グループ研究④	研究方法について協議①
第 11 回	グループ研究⑤	研究方法について協議②
第 12 回	グループ研究⑥	研究方法について協議③
第 13 回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告③
第 14 回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海外の社会保障や社会福祉に関するテーマをグループで設定し、自ら関連する文献等を渉猟し読了する。
準備・復習時間は、合計 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
テキストを使用する場合は授業で具体的に指示する。

【参考書】
駒村康平編著『2025 年の日本　破綻か復活か』勁草書房,2016 年　その他、適宜紹介化するとともに、論文の書き方に関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の主体性を活かすとともに、学生相互に活発に論議できるようなゼミにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
報告において、パワーポイント使用する場合は、パソコンの貸与など自ら準備すること。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱ、Ⅲにつながる基礎的な能力を高めるとともに、自ら問題意識を深め、調べ、まとめる主体的な学習態度の形成を図ります。
オフィスアワー　月曜日３時限
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、演習ではその経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline and objectives】
It makes the theme to ekplore from the viewpoint of the youth about the future of the welfare society which is the purpose of this semina,and sets
the field,collects and analyzes a necessary dater.

SOW300JB

女性福祉論

堀　千鶴子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門社会福祉学科目の一環として、社会福祉分野において等閑視されがちな女性の福祉ニーズや、その背景にある社会構造を理解し、社会福祉領域における女性支援の現状と課題を学ぶ。

【到達目標】
1　女性のニーズの背景に存在しているジェンダー不平等な社会構造を理解する
2　婦人保護事業など女性を対象とした社会福祉施策を理解する
3　社会福祉分野をジェンダー視点からとらえなおす力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で行うが、併せて授業内でのグループワークや発表、リアクションペーパーの提出なども行う。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序	講義の目的、進め方などオリエンテーション
2	女性福祉とは　①	女性の生活問題について理解する
3	女性福祉とは　②	女性福祉の定義、女性福祉の範囲や内容について理解を深める
4	現行社会福祉法制度と女性　①	女性をめぐる現行社会福祉法政度について理解する
5	現行社会福祉法制度と女性　②	現行の社会福祉法制度と、制度の狭間におかれている女性たちの状況を視聴覚教材から理解する
6	ドメスティック・バイオレンスについての理解ーデータから	ドメスティックバイオレンスについて、視聴覚教材、データから理解する
7	ドメスティック・バイオレンス防止法にもとづく被害者支援制度の理解	ドメスティック・バイオレンス防止法の内容や成立経緯とともに、被害者支援制度について理解する
8	ドメスティック・バイオレンス被害者支援の現状と課題	ドメスティック・バイオレンス被害者支援の現状と課題について事例をもとに理解する
9	ドメスティックバイオレンス被害者支援ー２次被害の防止	ドメスティック・バイオレンス被害者の２次被害防止のための支援について理解する
10	婦人保護事業の歴史を学ぶー明治期	明治期における女性の置かれた状況と廃娼運動について理解する
11	婦人保護事業の歴史を学ぶー戦後	終戦後の売春に対する政策と女性福祉事業について理解する
12	売春防止法成立経緯と婦人保護事業	売春防止法成立経緯と婦人保護事業について理解する
13	現在の婦人保護事業ー利用者の変化と役割	現在の婦人保護事業について利用者の変化と、果たしてきた役割から理解する
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：テキスト、参考文献など事前に読み、理解を深める。
復習：配布資料、テキスト、参考文献などを読み、授業内容について整理する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業では配布プリントを使用する。

【参考書】
林千代編著『女性福祉とは何か』ミネルヴァ書房　2004 年
林千代編著『婦人保護事業５０年』ドメス出版　2008
戒能民江編著『危機をのりこえる女たち』信山社　2012 年
他、授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、期末試験（60 %）のうち、60 %以上の取得による

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーなどにより質問を受け、随時授業内で紹介する。

【Outline and objectives】
Understand the welfare needs of women often overlooked in the social welfare field and the social structure behind it. And also learn the current situation and problems of women's support.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続き、心理学の研究論文・書籍を素材として、リサーチリテラシーや心理学の研究法、心理学における量的な研究活動を支える心理統計法と心理データ解析法、さらに心理学的測定法について基礎から学びます。心理学の研究としては、臨床心理学の研究だけではなく、教育心理学や社会心理学など、幅広い領域から論文・書籍を取り上げます。さらに、各自が興味を持っているテーマについて研究します。

【到達目標】
図書館やインターネットを活用した文献収集の方法を修得すること、心理学の研究方法の基礎を理解できること、基礎的な量的解析法の利用方法を理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
量的研究を行っている論文を選定して研究の目的、方法、データ解析の方法、結果等を具体的に発表します。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方について確認する
第 2 回	調査研究論文の選定（国内）	調査研究法を用いている国内の研究論文を選定する
第 3 回	調査研究論文の選定（国外）	調査研究法を用いている国外の研究論文を選定する
第 4 回	発表と議論 (実験心理学 1)	実験心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 5 回	発表と議論 (教育心理学 1)	教育心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 6 回	発表と議論 (発達心理学 1)	発達心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 7 回	発表と議論 (社会心理学 1)	社会心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 8 回	発表と議論 (臨床心理学 1)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 9 回	発表と議論 (実験心理学 2)	実験心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 10 回	発表と議論 (教育心理学 2)	教育心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 11 回	発表と議論 (発達心理学 2)	発達心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 12 回	発表と議論 (社会心理学 2)	社会心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 13 回	発表と議論 (臨床心理学 2)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 14 回	心理学的研究法の確認	心理学研究法の理解を深めます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究論文を読んで内容を発表する場合は、その研究が扱う心理学的な概念についても調べておくが必要があります。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する研究論文と書籍を授業時に選定します。

【参考書】
教育心理学研究、教育心理学年報、パーソナリティ研究、心理学研究、スポーツ心理学研究、感情心理学研究、社会心理学研究、実験社会心理学研究、基礎心理学研究、健康心理学研究、発達心理学研究などに発表された研究論文

【成績評価の方法と基準】
演習への参加（50 %）と発表（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業へ参加できるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表を行う際には，担当教員がパソコンを用意します。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

SOW300JB

死生観とソーシャルワーク

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】
受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリーブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第 10 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】
適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

OTR200JB

専門演習ＩＡ

保井　美樹、今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、住民、行政、企業など様々な主体が連携してまちづくりを進めている事例を取り上げ、その活動に参加しながら地域の課題や可能性について調査・分析を進めることで、新しい地域コミュニティを創り出すためのエリアマネジメントを考え、実践できる人材を育てることを目的としています。

【到達目標】
・まちづくりの実践調査を通じ、地域づくりや関連政策に関する実践的知識を身につける。
・まちづくり実践計画づくりを通じて、問題設定と解決力、戦略的思考力を身につける。
・グループワークを通じて、他者と協議し、共通価値を見出す力を身につける。
・まちづくりの実践とその振り返りを通じて、プロジェクトマネジメントの考え方と実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡでは、実際のまちづくりに関わりながら、自治に関する考え方、地域の課題と対応、及び、調査研究の基本的技術を学んでいきます。地域で現実起きている課題やそれに対しての活動を、個人又はグループで聞き出し、考えていけるように指導していきます。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題へのフィードバックは、幾つかの課題の紹介や講評を通じて授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今年度のゼミの目標、取り組み、進め方について全員で話し合います。
第 2 回	ケーススタディ分析 (1)	ワークショップ形式でまちづくり事例報告と分析を行います。
第 3 回	ケーススタディ分析 (2)	ワークショップ形式でまちづくりの事例報告と分析を進めていきます。
第 4 回	フィールドワークの目的設定	活動の目標や仮説の設定、進め方、必要な調査について検討します。
第 5 回	フィールドワーク方法検討	前回の議論を続け、具体的な方法を検討します。
第 6 回	調査票の作成	フィールドワークの方法に即した調査方法を定め、そのための調査票を作成します。
第 7 回	プレ調査の実施・報告仮説と計画の修正	プレ調査を行い、その結果を踏まえた修正を行います。
第 8 回	フィールドワーク準備 (1)	夏休み期間を念頭に、フィールドワークの実践計画を検討します。
第 9 回	フィールドワーク準備 (2)	引き続き実践のための準備を進めます。
第 10 回	フィールドワーク準備 (3)	具体的なフィールドワーク実践企画を提出し、検討します。
第 11 回	フィールドワーク準備 (4)	引き続き実践企画を検討します。
第 12 回	フィールドワーク実践計画の完成 (1)	実践計画の完成を目指します。
第 13 回	フィールドワーク実践計画の完成 (2)	さらに実践企画の準備を進めます。
第 14 回	夏季休暇中の実践計画の発表、共有	夏季休暇中に実施するフィールドワークの計画を発表し、共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループでの活動となるため、自分の役割を自覚し、それを遂行するように心がけること。また、ゼミ以外でも、身近な地域づくり活動に関心をもち、参加することを推奨します（但し、義務ではない）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　100 %
具体的な基準は、初回授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とよくコミュニケーションを取りながら、授業内容や進め方を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
グループ発表では、PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。また、本ゼミは模造紙やペン等を使う学生も多いが、全て講師室に備えている。必要な場合には、担当教員に相談のこと。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。上記計画は、受講者の関心や要請に応じて、内容や進め方の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems. By researching and joining in those challenges, this seminar try to let students grow by themselves into independent planners/practitioners of community development.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習ＩＢでは、日本語で書かれた、大学生を対象に**質問紙調査**を行っている研究論文を採りあげて検討していきます。
実証的な心理学研究方法による臨床心理学研究の内容・方法・態度を身につけることを目的とします。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を学び、それらを臨床心理学に関連づけながら理解できる。
2) 心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみについて、概説できる。
3) 研究遂行能力の基礎を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。各自担当する論文を決め、担当者に発表してもらいます。その内容に基づき、ディスカッションを行います。
また、グループ研究を行いその成果を発表してもらいます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	専門演習の進め方についてのオリエンテーション
第 2 回	論文の読み方、研究デザインについて； 各自の発表する論文の決定	質問紙調査による研究論文の読み方、研究デザインについて担当教員が概説します。その後、各自の関心のあるテーマを絞り込み、第 4 回以降の演習で発表する論文の候補を決定します。
第 3 回	グループ研究 (1)	グループでの研究についての話し合いを行います。
第 4 回	発表と討議 (1)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(1)
第 5 回	発表と討議 (2)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(2)
第 6 回	グループ研究 (2)	グループ研究を進めます。
第 7 回	発表と討議 (3)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(3)
第 8 回	発表と討議 (4)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(4)
第 9 回	グループ研究 (3) 中間発表	グループ研究の中間発表を行います。
第 10 回	発表と討議 (5)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(5)
第 11 回	発表と討議 (6)	担当学生はレジュメを作成・配布して発表し、全員でディスカッションを行います。(6)
第 12 回	グループ研究 (4)	グループ研究の成果を発表する準備を行います。
第 13 回	グループ研究 (5) 発表会	グループ研究の成果を発表し、質疑応答を行います。
第 14 回	卒業論文発表会の参観	専門演習Ⅲ B（4 年生）の卒業論文発表会を参観します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、事前に発表の準備が必要です。
授業後は、論文、レジュメなどをもとに復習することが望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
適宜指示します。
候補となる論文リストは、以下のサイトに記載します。
http://bit.ly/2jWLsQs

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
研究論文を読んで発表していただくことで、内容はもちろんですが、実験／質問紙調査の研究デザインや方法、統計分析の意味などをより深く知ることができるようになり、研究の「方法」面での学習が役立つ、また研究論文を読むことへの抵抗感がなくなるなどの意見がありました。卒業論文作成に向けての「基礎体力」養成になると考えますので、引き続きこのような演習の進め方・方法をとろうと考えています。

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅰ A」と合わせて履修してください。

【Outline and objectives】
This seminar deals with the basic concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, research articles with survey methods in Japanese will be read.
It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

PSY300JB

コミュニティ心理学

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】
コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第 3 回	臨床心理の基本的視点①：発達的視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第 4 回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第 5 回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第 6 回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第 7 回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第 8 回	介入の 6 レベル	マレルによる介入の 6 レベルについて講義。
第 9 回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第 10 回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第 11 回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第 12 回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第 13 回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第 14 回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で次回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】
授業では使用しませんが、参考書には次の 2 冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学』（植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2006 年 2,500 円+税）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007 年 2,400 円+税）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【その他の重要事項】
講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】
Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進めるために必要な研究方法を学ぶ。

【到達目標】
・社会問題の解決に向けた活動計画を策定することができる。
・ソーシャルワークの研究方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡの学びをもとに、グループで社会問題の解決に向けた活動計画を策定する。その後は、ソーシャルワーク研究法に関するテキストを輪番でまとめて発表し、卒業研究に必要な知識を得る。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題の解決に向けた活動計画の策定①	活動計画の策定
第 3 回	社会問題の解決に向けた活動計画の策定②	活動計画の発表と議論
第 4 回	ソーシャルワーク研究	ソーシャルワーク研究の全体像
第 5 回	先行研究のレビュー	社会福祉研究法」レッスン３
第 6 回	研究課題の設定	社会福祉研究法」レッスン５
第 7 回	仮説構築と検証	社会福祉研究法」レッスン６
第 8 回	研究資料の収集と分析	社会福祉研究法」レッスン７
第 9 回	量的研究	社会福祉研究法」レッスン８
第 10 回	質的研究	社会福祉研究法」レッスン９
第 11 回	メゾレベルの評価分析	社会福祉研究法」レッスン１１
第 12 回	問題を政策と結ぶ研究	社会福祉研究法」レッスン１３
第 13 回	卒業研究の理解	卒業論文の概要発表
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者として責任をもって、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩田正美他編「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ、2006

【参考書】
久田則夫「社会福祉の研究入門：計画立案から論文執筆まで」中央法規、2003
川村匡由「福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規、2002

【成績評価の方法と基準】
・平常点 30%
・社会問題の解決に向けた活動計画の発表 50%
・担当発表 20%

【学生の意見等からの気づき】
3 年生から卒業研究に着手できるように、その基礎を学び機会を十分に取るようにしました。

【Outline and objectives】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice as a social worker.

OTR300JC

専門演習Ⅱ A

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域におけるより専門的な知識を習得するとともに、興味のある領域に関して深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
発達の理解とその心理的援助について学習します。専門演習Ⅱ A では、各自の興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	オリエンテーション 2	発表スケジュールの決定
第 3 回	文献購読とディスカッション 1	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 1
第 4 回	文献購読とディスカッション 2	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 2
第 5 回	文献購読とディスカッション 3	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 3
第 6 回	文献購読とディスカッション 4	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 4
第 7 回	文献購読とディスカッション 5	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 5
第 8 回	文献購読とディスカッション 6	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 6
第 9 回	文献購読とディスカッション 7	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 7
第 10 回	文献購読とディスカッション 8	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 8
第 11 回	文献購読とディスカッション 9	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 9
第 12 回	文献購読とディスカッション 10	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 10
第 13 回	文献購読とディスカッション 11	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 11
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が購読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
演習内容をより理解しやすくするために前の週に資料を配布する。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

PSY300JB

臨床心理学概論

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていければと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第 3 回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第 4 回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第 5 回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第 6 回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第 7 回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第 8 回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第 9 回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第 10 回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第 11 回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第 12 回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第 13 回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline and objectives】
This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、「社会的排除」をキーワードに、何らかの理由で社会との「関係性」から離れて、社会的孤立の状態にある人びとの支援について学ぶ。

【到達目標】
「社会的排除」に関わるソーシャルワークの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、理論と実践を統合するためのフィールドワーク等を行い、春学期の研究テーマを実践的に深める。秋学期もオンラインまたは対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。フィールドワークは、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画①	グループ毎にテーマの確認とフィールドワーク先の検討
第 3 回	フィールドワークの計画②	フィールドワークの内容・進行計画の作成①
第 4 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（介入方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援方法について）
第 6 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。③（相談・連携について）
第 7 回	フィールドワークの実践④	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。④（記録について）
第 8 回	フィールドワーク結果の検討①	フィールドワーク実践の振り返りと検討①（研究テーマとの関連で）
第 9 回	フィールドワーク結果の検討②	フィールドワーク実践の振り返りと検討②（実践方法について）
第 10 回	フィールドワーク結果の検討の③	フィールドワーク実践の振り返りと検討③（社会問題との関連について）
第 11 回	研究報告①	貧困系グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害系グループの発表
第 13 回	研究報告③	多文化系グループの発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への能動的参加（３０％）
研究発表（３０％）
レポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline and objectives】
This course deals with the support people who have been in socially isolated situation.

OTR300JC

専門演習ⅡA

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
専門演習 II の到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 IIA では、自らの関心があるテーマについて、認知行動療法に関する研究論文を探し、個人発表をしてもらいます。発表を元に、心理学の研究法や認知行動療法の理論について学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ 1	認知行動療法における研究の位置づけについて概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ 2	認知行動療法における研究の特徴について概説し、ディスカッションを行います。
第 4 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法 (主に行動療法) に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第 5 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法）に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第 6 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 3	各自が関心あるテーマについて認知行動療法（主にマインドフルネス）に関する研究の問題意識を個人発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第 7 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 4	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第 8 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 1	第一世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 9 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 2	第二世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 10 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 3	第三世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 11 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に行動療法）に関する研究方法を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法）に関する研究方法を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 13 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究方法を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	春学期のゼミを振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容（20%）及び期末レポート（30%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The course guides students through specific psychological research examples and exercises for researching. Students are required to make topic presentations about research.

CIM300JB

精神疾患とその治療

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第 2 回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第 3 回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第 4 回	精神症状学①	「神経心理学」
第 5 回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第 6 回	精神障害①	「統合失調症」
第 7 回	精神障害②	「気分障害」
第 8 回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第 9 回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第 10 回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第 11 回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第 12 回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第 13 回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
「思春期に心が折れた時親がすべきこと－不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子　中央公論新社　2020.10
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline and objectives】
The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.

OTR200JB

専門演習Ⅰ B

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに研究の基本的な方法を学び、インタビュー調査を行い、その結果をまとめます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	先行研究の検討 1	グループごとに先行研究を調べて報告する 1
第 2 回	先行研究の検討 2	グループごとに先行研究を調べて報告する 2
第 3 回	先行研究の検討 3	グループごとに先行研究を調べて報告する 3
第 4 回	先行研究の検討 4	グループごとに先行研究を調べて報告する 4
第 5 回	先行研究の検討 5	先行研究を整理し、研究課題を明らかにする
第 6 回	研究仮説の構築	先行研究をもとに研究仮説を構築する
第 7 回	インタビュー調査の設計 1	インタビュー調査先を選定する
第 8 回	インタビュー調査の設計 2	インタビュー調査先の事前調査を行う
第 9 回	インタビュー調査の設計 3	インタビュー調査の項目を検討する
第 10 回	インタビュー調査結果の検討 1	インタビュー調査の結果を文字化する
第 11 回	インタビュー調査結果の検討 2	インタビュー内容をまとめる
第 12 回	インタビュー調査結果の検討 3	先行研究の知見や研究仮説から、インタビュー結果を分析する
第 13 回	追加調査の検討	インタビュー調査で追加調査すべき点がないか検討する。
第 14 回	追加調査の実施	必要な追加調査を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、グループで調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じてサブゼミを開催し、議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。また 3 年生や 4 年生になると、2 年生のゼミに参加することを了解の上で受講してください。

【Outline and objectives】
Study social welfare themes and master basic research skills

OTR300JC

専門演習Ⅱ A

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】
関心のあるテーマをみつけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。
他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション
関心のあるテーマについて先行研究の調査。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文に向けて、テーマの選び方、論文検索の方法を学ぶ。
第 2 回	現代の抱える問題についてディスカッション①	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマ A
第 3 回	関心のある心理学的テーマの学習①	関心のあるテーマを選び、個人発表①
第 4 回	関心のある心理学的テーマの学習②	関心のあるテーマを選び、個人発表②
第 5 回	関心のある心理学的テーマの学習③	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する①
第 6 回	関心のある心理学的テーマの学習④	関心のあるテーマを選び、個人発表③
第 7 回	関心のある心理学的テーマの学習⑤	関心のあるテーマを選び、個人発表④
第 8 回	関心のある心理学的テーマの学習⑥	関心のあるテーマを選び、個人発表⑤
第 9 回	関心のある心理学的テーマの学習⑦	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する②
第 10 回	関心のある心理学的テーマの学習⑧	関心のあるテーマを選び、文献学習①
第 11 回	関心のある心理学的テーマの学習⑨	関心のあるテーマを選び、文献学習②
第 12 回	現代の抱える問題についてディスカッション②	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマ B
第 13 回	関心のある心理学的テーマの学習⑩	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する③
第 14 回	春学期のまとめ	まとめとして、これまでの発表内容から今後の調査・研究テーマを話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と授業内の発表（40 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】
学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Finding a theme of interest to conduct research and compile a senior thesis.

SOW300JB

雇用政策論

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、就労可能ではあるが、就労阻害要因を抱えて一般企業への就職が難しく、生活に困窮者人した人への就労支援について学びます。安定した住居を喪失した人、精神疾患を抱えた人、シングルマザー、ひきこもりの若者、長期失業者などをとり上げます。支援の現場からゲストを招いて、問題提起を受けます。
これらを通じて「インクーシブ」な雇用政策の土台について学びます。

【到達目標】
（1）さまざまな就労阻害要因に応じた就労支援を知る。
（2）中間的就労の多様な展開を学ぶ。
（3）インクルーシブな雇用を作り出す雇用政策について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心になるが、支援現場の事例の検討を交え、豊かなイメージが持てるようにする。受講生からの問題提起の機会をつくる。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の狙いと課題	就労可能な生活困窮者 インクルーシブな雇用
2	雇用政策と就労支援	三層構造、二側面の支援対象
3	事例の検討（1）	生活保護自立支援、生活困窮者自立支援
4	就労支援の具体的展開	対象者の構造、多様な支援
5	就労支援のプロセス	支援目標、支援の段階性
6	事例の検討（2）	障害者支援における自己決定支援
7	「半福祉・半就労」	就労の現状と生活保障の必要性
8	生活支援	ニーズと支援の担い手、財源保障
9	社会参加支援	定義、意義の確認
10	事例の検討（3）	生活支援、ケア付き就労
11	中間的就労	位置づけと実態
12	雇用政策	規制緩和、働き方改革
13	労働市場規制	ブラック企業対策 最低賃金引き上げ
14	まとめ	インクルーシブな雇用をめざして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を復習するために、宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間まとめ・宿題など：４０％
期末試験：　　６０％

【学生の意見等からの気づき】
現場の人からの問題提起をしっかり受け止められるように、工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This lecture focuses on employment support for employable people in need, such as homeless, single mother, young “hikikomori” and long-term unemployed. On that basis, employment policy for “inclusive” employment will also be explained.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、少年非行に関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、秋学期のゼミの進め方について
第 2 回	反社会的な「問題」行動をする少年をどのように支えられるのか	少年問題の個人化、非行少年のレジリエンスを育てよう、
第 3 回	教師は生徒指導をどのように体験しているのか？	「生徒指導主事」という仕事、生徒指導観の転換
第 4 回	「問題」生徒をかかえる学校内の連携	「チーム学校」の陥穽、支援者から支援チームへ、チームへの変革
第 5 回	子どもと家族の現場１	ゲストスピーカー（子ども支援のNPO）からの学び
第 6 回	「問題」生徒をかかえる学校ー警察との連携	警察との連携は学校に何をもたらすのか、垂直的問題解決から水平的な問題の解消へ
第 7 回	学校の「荒れ」と反社会的な問題行動をする生徒たち	学校が荒れるということ、教師の変化・学校の変化
第 8 回	反社会的な問題行動をおこす生徒が幸せになるということ	誰にとっての適応か、誰が何に適応したのか、反抗を包摂し自立への導く指導
第 9 回	境界線上で少年のレジリエンスを育てよう	境界をつくる実践・境界をまたぐ実践、少年のことは少年にきいてみよう
第 10 回	子どもと家族の現場２	特別支援学校の見学
第 11 回	テーマ別発表１	各自の関心テーマについて調べて発表し検討する（学籍番号順で３～４名）
第 12 回	テーマ別発表２	各自の関心テーマについて調べて発表し検討する（学籍番号順で３～４名）
第 13 回	テーマ別発表３	各自の関心テーマについて調べて発表し検討する（学籍番号順で３～４名）
第 14 回	子どもと家族の現場３	ゲストスピーカー（児童相談所）からの学び

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。
テーマ別発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松嶋秀明（2019）『少年の「問題」/「問題」の少年』新曜社
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty.

OTR300JC

専門演習ⅡA

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、ゼミ論文にまとめる準備をします。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめる準備をします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方や成績評価の基準を示し、また、ゼミ長他、ゼミでの役割を決定します
2	個人テーマの選定①	各自の研究テーマを決めるためのブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	各自の研究テーマを決めるためのディスカッションを行います
4	研究テーマと発表スケジュールの決定	各自の研究テーマを決定し、ゼミでの発表のスケジュールを決めます
5	個人報告とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～C 発表。
6	個人報告とディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
7	個人報告とディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
8	個人報告とディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
9	個人報告とディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
10	個人報告とディスカッション⑥	例：ゼミ生 A～C 発表。
11	個人報告とディスカッション⑦	例：ゼミ生 D～F の発表
12	個人報告とディスカッション⑧	例：ゼミ生 G～I の発表
13	個人報告とディスカッション⑨	例：ゼミ生 J～L の発表
14	個人報告とディスカッション⑩、まとめ	例：ゼミ生 M～O の発表、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人報告の内容 50 %、授業への参加度 50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You discuss on clinical problems and psychological support, and prepare to write seminor report.

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広まっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】
本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。
①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。COVID-19 の拡大にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタープライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する（A 事例）。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する（B 事例）。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する（C 事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトに目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に指示します。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】
講義リアクションペーパーおよび講義後ミニレポート課題（30 %）、平常点（40 %）、期末レポート課題（30 %）を総合的に判断する。COVID-19 の拡大に伴い変更が生じた場合は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

【Outline and objectives】
This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business.The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習ＩＢのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。学びの内容としては、グループごとのディスカッション、プレゼンテーション、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】
春学期での学びをさらに深め、当事者やその家族、専門家との関わりから得た情報や経験をもとに、彼らが必要としていることについて理解できるようにし、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミでは、春学期に当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知るという点を深めてきたことをふまえ、秋学期では当事者やその家族と積極的にかかわりを持ち、社会的な活動によって変革をもたらすということについて考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行います。一人一人の自主性を大切に、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。また、当事者団体との研究会などにも参加していただき、学習内容をより「リアル」なものとしてつかんでほしいと思います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第 3 回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第 4 回	フィールドワーク	学外での学習
第 5 回	フィールドワークの振り返り	見学先をふまえた全体討議
第 6 回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第 7 回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第 8 回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第 9 回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第 10 回	ゲストの専門分野に関する学習成果報告と質疑応答	プレゼンテーションと質疑応答
第 11 回	ゲストの専門分野と関連した DVD での学習	DVD 視聴と全体討議
第 12 回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とグループごとのディスカッション
第 13 回	振り返り	全体討議
第 14 回	まとめ	まとめと次年度に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソーシャルワークにおける「当事者性」「専門性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度（50%）、発表内容・提出物（50 %）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちとともに議論をしたり、フィールドワークやゲストスピーカーとの橋渡しをしたいと思います。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.

OTR300JC

専門演習ⅡA

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。自分の関心のあるテーマを明確にし、そのテーマについて理解を深める。

【到達目標】
自分の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関連する文献を探すことができる。文献を読み込み、発表、ディスカッションができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰで学んだことを振り返る。各自が関心のある幾つかのテーマについて、関心のある点、調べてみたいことなどを具体的に報告しあう。そして自分の関心のあるテーマを選定する。そのテーマについて文献を調べ発表、ディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの選定①	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第 3 回	テーマの選定②	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第 4 回	文献検索①	専門書や文献検索方法を図書館で学ぶ
第 5 回	文献検索②	テーマに関する文献を探す
第 6 回	文献抄読会①	各自が興味のある文献を読み紹介する①
第 7 回	文献抄読会②	各自が興味のある文献を読み紹介する②
第 8 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第 9 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第 10 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第 11 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第 12 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第 13 回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッション⑥
第 14 回	まとめ	春学期の学習内容を振り返りディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline and objectives】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will then specify a particular theme and deepen our understanding of that theme.

SOW300JB

老いの文化と福祉

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が老いるとはどのようなことなのか。老いについて、高齢者福祉制度・政策、コミュニティ、社会との関わりのなかで、社会的、文化的、地域的、歴史的、福祉的にどのように位置づけられ形成されてきたのかについて、理解を深める。老いの思想、老いと死、老いと福祉、主体的な老いを生きるための視点を明確にする。

【到達目標】
高齢社会における、高齢者の生き方、老い方の多面性や多様性に着目し、制度、コミュニティ、社会の時間軸や空間軸から、老いの社会的、文化的、地域的形成を立体的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
高齢社会における老いの文化と高齢者福祉形成に関して先進的に取り組んでいる日本、諸外国を取り上げ、高齢者福祉の仕組み、そのシステム、コミュニティ、文化の特質を考察する。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	人の老い方に関する社会的文化的研究と福祉的実践を学ぶ意義について
第 2 回	高齢期のアイデンティティ	プロダクティブエイジング論など高齢期の存在意味を理解する
第 3 回	高齢者の生きがい、幸福観	高齢者の生きがい、幸福観、価値観と社会的・文化的役割を学ぶ
第 4 回	認知症高齢者の生活技法、地域社会的基盤	認知症当事者の QOL と先進的な認知症ケアシステムとコミュニティ文化の検討
第 5 回	高齢者の孤独死とコミュニティ	高齢期の孤立・孤独死問題、セルフネグレクトの特性と地域社会の対応
第 6 回	人生の最期を支えるケア（看取り）	エンディングケア、看取りに関する医療・福祉の社会文化
第 7 回	生活文化と福祉・介護・ケア	介護される/介護する関係、尊厳ある福祉・ケアについて理解する
第 8 回	高齢社会における世代間関係と家族関係	老老介護、ヤングケアラー、ダブル介護をとりまく介護家族の実態
第 9 回	地域における高齢者の創造的実践	過疎化・高齢化地域に生きる高齢者の生活実践
第 10 回	高齢者と犯罪	高齢者のアイデンティ危機や孤立化問題と犯罪との関連、司法と福祉の連携
第 11 回	フォーマルケア・インフォーマルケアの特質	コミュニティ・ケア、新しいサービスの創造
第 12 回	欧米とアジアの Aging Sciety	欧米、アジアの高齢者のケアシステムをめぐる地域と社会文化
第 13 回	高齢福祉の文化と社会ありかたの将来展望	１０年後、２０年後の高齢者の地域社会と福祉文化のあり方を展望する
第 14 回	まとめ	講義の総括と今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざま社会、地域社会のなかで自らの老いを生き、生かされている事象や社会的文化的な老いの生き方の実践事例を調べてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、講義中に紹介します。

【参考書】
髙橋絵里香（2013）『老いを歩む人びと』勁草書房、デビット・A・シンクレア（2020）『ライフスパン　老いなき世界』東洋経済など、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%)、授業内小レポート課題の内容 (10%) で評価します。試験実施方法や評価については、学習支援システムにて提示します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は休講でしたのでアンケートは実施していませんが、新聞記事やビデオ教材なども活用して分かりやすく講義内容を工夫したいと考えています。

【Outline and objectives】
What does it mean to grow older? This course promotes students' understanding in the definition of " Growing older" with relation to welfare system and measures for the aged, communities, and the society in general. In this process, we will pay our attention to how the aging culture has been formed socially, culturally, historically, locally/regionally, and from welfare-perspective. We will also define the ideology of growing older, old age and death, welfare for the aged, and having a proactive aged life.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを引き続き身に付けることを目指す。

【到達目標】
アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ合宿（海外または国内）を土台に、ディスカッションやグループワーク等を実施しつつ、学生相互に学び合う機会を創出していく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り、秋学期の見通し
第 2 回	ゼミ合宿報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	ゼミ合宿報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	海外経験者に学ぶ	海外滞在経験者と質疑応答
第 9 回	1 次自主企画準備①	今後深めたいテーマの選定
第 10 回	1 次自主企画準備②	現地活動に必要な準備等を議論
第 11 回	学びの伝達	表現力向上のための企画実施
第 12 回	1 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第 13 回	1 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and practical skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きづらさを抱え、孤立しがちな方と共に暮らす地域社会をみなさんと当事者の言葉から精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討します。

【到達目標】
問題意識を高め、関連する文献渉猟を経て自らの関心領域を確認すること、そして議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り
第 2 回	グループワーク (合宿総括)	ゼミ合宿の振り返り
第 3 回	ゼミ合宿報告会	ゼミ合宿でのフィールドワークを総括
第 4 回	研究構想報告会	研究課題・問題意識・先行研究のレビュー・研究の目的を発表
第 5 回	フィールドワークの準備（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	調査対象に関する事前研究
第 6 回	フィールドワーク（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第 7 回	フィールドワークの振り返り（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第 8 回	グループワーク（文献研究準備）	図書館等での文献研究
第 9 回	グループワーク（文献検索など）	図書館等での文献研究と報告
第 10 回	ゲストスピーカー講義	講義とディスカッション
第 11 回	ゲストスピーカーの振り返り	講義とディスカッション・振り返り
第 12 回	研究報告会（１班）	１班発表とディスカッション
第 13 回	研究報告会（２班）	２班発表とディスカッション
第 14 回	研究報告会（３班）	３班発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで行う研究発表会を行います。レジュメの作成やパワーポイントの利用など報告時には十分な準備をして行うことを求めています。
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
眞保智子（2020）『精神障害・発達害のある方とともに働くためのＱ＆Ａ 50 ～採用から定着まで～』日本加除出版

【成績評価の方法と基準】
演習での報告・発言：５０％
フィールドワークレポート・グループワーク報告等：５０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
フィールドワークを重視しており、時間割記載のゼミ時間以外の時間に活動することもあることを承知して参加してください。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on the fundamental principles and practices of writing academic essays. The purpose of the class is for students to progress from the basic components of academic vocabulary, sentence structure, and style to the construction of arguments, paragraphs, and short essays.

OTR300JC

専門演習ⅡA

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床における自分の関心のある特定のテーマを明確にし、そのテーマについて理解するための方法を知る。

【到達目標】
ゼミ生一人ひとりが心理臨床の領域における自分の関心のあるテーマを明確にすることができ、そのテーマに関連する文献の探し方を知り、文献を読解して、それをまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生一人ひとりの関心を報告し合い、関心のあるテーマを明確にする。その後に、文献調査の仕方、レジュメの作成の仕方などを講義し、その後に個別に関心を持ったテーマに関する調査経過を報告してもらう。また、月に 1 回、4 年生の卒業論文についての指導を聞いて、卒業論文作成のプロセスを知る。課題などの提示およびフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの内容と進め方、具体的なスケジュールなどを決める
第 2 回	テーマの明確化①	関心のあるテーマを自由に報告
第 3 回	テーマの明確化②	関心のあるテーマについて検討
第 4 回	テーマの明確化③	関心のあるテーマを定める
第 5 回	4 年生の卒業論文指導①	卒業論文の進め方全般を知る
第 6 回	テーマの明確化④	関心のあるテーマを先行研究とを結びつける
第 7 回	文献の検索①	文献検索の方法と入手方法を知る
第 8 回	4 年生の卒業論文指導②	卒業論文における研究の仕方を知る
第 9 回	文献の探索②	実際に文献を探し、入手してみる
第 10 回	発表の仕方①	発表資料の作成の仕方を知る
第 11 回	発表の仕方②	図表や文献リスト等の書き方を知る
第 12 回	4 年生の卒業論文指導③	卒業論文の書き方を知る
第 13 回	個人発表準備①	個人発表の準備に取りかかる
第 14 回	個人発表準備②	個人発表の準備の経過報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表のために関心のあるテーマに関する文献を入手して読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマ及び研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
研究テーマ及び研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加 (70%)、平常点 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当しておりません。

【Outline and objectives】
Students will clarify specific subjects of their own interest in psychology clinic and know how to understand the subject.

OTR200JB

専門演習ⅠB

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカル” の視点からコミュニティづくりを考える

【到達目標】
本ゼミを通して、“ローカルゼミ” として、地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに関わっている面白さと奥深さを大事に捉えられるようになる。地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、“ローカル” の今を読み解く「ものさし」を学び、学生として、また卒業後も社会人として問題解決にどのように関われるかを探ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ⅠBでは、ⅠAに引き続き、“ローカル” の現場に触れ、実践活動を通して関心を高める機会を作っていく。夏季合宿でのフィールワークの実践経験を受け、大学では、農山村地域を中心としたコミュニティづくりに関わる上での基礎的理解を深める。加えて、引き続き、週末を活用して農山村のフィールドに出かけ、地域住民の皆さんとの交流を深め、そこでの暮らしや集落活動の現場を経験する。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	夏のゼミ合宿の振り返り①	ゼミ合宿フィールドワークの感想を出し合う。
第 2 回	夏のゼミ合宿の振り返り②	ゼミ合宿フィールドワークの次の展開を考える。
第 3 回	秋学期の進め方の相談	秋学期の進め方の計画を立てる。
第 4 回	活動フィールドの分析作業①	活動フィールドの地域構造を読み解く
第 5 回	活動フィールドの分析作業②	活動フィールドの地域課題を整理する
第 6 回	農山村の地域づくりを読み解く①	活動フィールドに関する研究テーマ設定
第 7 回	農山村の地域づくりを読み解く②	研究テーマに関する文献・資料収集
第 8 回	農山村の地域づくりを読み解く③	研究テーマに関する文献・資料分析
第 9 回	農山村の地域づくりを読み解く④	研究テーマに関する課題解決のアプローチを検討する
第 10 回	次回フィールドワークの活動準備①	次回のフィールドワークの方針検討
第 11 回	次回フィールドワークの活動準備②	次回のフィールドワークに向けた現地との調整
第 12 回	次回フィールドワークの活動準備③	次回のフィールドワークの活動計画づくり
第 13 回	農山村の地域づくりの実践に学ぶ	ゲスト講師による実践報告とディスカッション
第 14 回	２年次ゼミ活動のまとめ	１年間のゼミ活動を総括し、３年次の方向性を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。ゼミでの議論や課外活動の経験から必要とされる知見に気づき、自ら積極的に専門書や文献から学ぼうとする姿勢を求めたい。

【テキスト（教科書）】
専門書や文献などを必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%

【学生の意見等からの気づき】
過年度のゼミ活動の様子を踏まえて、今年度のゼミ内容に反映させていきたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will deepen the basic understanding for learning how to build a community centered on rural areas. In addition, we will go to the rural area and experience the living and local activities there through interaction with local residents.

OTR300JC

専門演習ⅡA

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**服部先生代講**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰでの学習成果を踏まえ、臨床心理学の研究だけではなく、教育心理学や社会心理学など、幅広い領域から論文・書籍を取り上げ、リサーチリテラシーや心理学の研究法、心理学における量的な研究活動を支える心理統計法と心理データ解析法、さらに心理学的測定法について基礎から学びます。

【到達目標】
図書館やインターネットを活用した文献収集の方法を修得すること、心理学の研究方法の基礎を理解できること、基礎的な量的解析法の利用方法を理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
量的研究を行っている論文を選定して研究の目的、方法、データ解析の方法、結果等を具体的に発表します。取り上げる論文は量的研究を報告している雑誌論文としますが、論文の研究テーマは授業の中で相談して絞り込んでいきます。基礎的な事項から量的研究法を学習しますので、事前の数学的知識を必須とするわけではありませんが、必要に応じて R 言語を用いた学習も行っていきます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方について確認する
第 2 回	調査研究論文の選定（国内）	調査研究法を用いている国内の研究論文を選定する
第 3 回	調査研究論文の選定（国外）	調査研究法を用いている国外の研究論文を選定する
第 4 回	発表と議論 (実験心理学 1)	実験心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 5 回	発表と議論 (教育心理学 1)	教育心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 6 回	発表と議論 (発達心理学 1)	発達心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 7 回	発表と議論 (社会心理学 1)	社会心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 8 回	発表と議論 (臨床心理学 1)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 9 回	発表と議論 (実験心理学 2)	実験心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 10 回	発表と議論 (教育心理学 2)	教育心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 11 回	発表と議論 (発達心理学 2)	発達心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 12 回	発表と議論 (社会心理学 2)	社会心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 13 回	発表と議論 (臨床心理学 2)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 14 回	卒業研究についての検討	次年度の卒業研究について検討します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究論文を読んで内容を発表する場合は、その研究が扱う心理学的な概念についても調べておくが必要があります。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する研究論文と書籍を授業時に選定します。

【参考書】
教育心理学研究、教育心理学年報、パーソナリティ研究、心理学研究、スポーツ心理学研究、感情心理学研究、社会心理学研究、実験社会心理学研究、基礎心理学研究、健康心理学研究、発達心理学研究などに発表された研究論文

【成績評価の方法と基準】
演習への参加（50 %）と発表（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自主的な学習ができるよう、また、積極的に授業へ参加できるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表を行う際には，担当教員がパソコンを用意します。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ｉ A での学習をふまえ、社会福祉だけでなく関連領域の先行研究も行い、現実社会で生じている諸問題について様々な視点から整理・考察し、自身の問題関心を解明するプロセスを学ぶことを目的とします。

【到達目標】
当事者の生活世界にふれ、福祉実践の現場に出向き、生活者、当事者の視点とは何か、福祉実践の現状と問題点を深く理解する能力を身につけることを目標とします。また、社会福祉の基礎知識、研究方法、福祉実践について、参考文献の整理やフィールドワークから、当事者の生活世界と福祉実践の方法、政策のあり方を考察します。また研究能力を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、春学期に行った文献研究から、研究テーマを抽出し、テーマごとにいくつかのサブグループに分けて、事前学習、フィールドワークを実施し、その成果を報告します。なお、フィールドワークが困難な場合は、フィールドと繋ぎライブ配信によるゼミも検討予定です。さらには、各自の研究テーマにつなげ・深める演習とします。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、ゼミでの議論に活かします。課題提出とフィードバックについては学習支援システムに展開します。また、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の演習内容と学習目標の確認
第 2 回	フィールドワーク企画検討	テーマ別サブグループによるフィールドワーク企画検討
第 3 回	フィールドワーク企画報告	テーマ別サブグループによるフィールドワーク企画報告
第 4 回	フィールドワーク実際①	テーマ別サブグループによるフィールドワーク実践①
第 5 回	フィールドワーク実際②	テーマ別サブグループによるフィールドワーク実践②
第 6 回	フィールドワーク報告と討議①	サブグループによるフィールドワーク報告と討議①
第 7 回	フィールドワーク報告と討議②	サブグループによるフィールドワーク報告と討議②
第 8 回	フィールドワーク報告と討議③	サブグループによるフィールドワーク報告と討議③
第 9 回	フィールドワークのまとめ	フィールドワークの成果と今後の実践や研究課題のまとめ
第 10 回	各自の研究課題について①	各自の研究目的、テーマ、課題に関する整理と報告
第 11 回	各自の研究課題について②	各自の研究テーマ、研究方法に関する報告
第 12 回	各自の研究成果報告①	各自の研究成果報告と討議①
第 13 回	各自の研究成果報告②	各自の研究成果報告と討議②
第 14 回	ふりかえりと総括	到達点と今後の研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究など文献研究をベースにフィールドワークを実施し、当事者の視点から福祉の実践と理論を学びため、積極的に取り組んでください。特に、本講義の準備時間（フィールドワークする時の視点を明確にすること）、復習時間（フィールドワーク後の整理・考察）のために、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自・各グループ課題によって適宜紹介します。

【参考書】
筒井淳也（2020）『社会を知るために』ちくまプリマー新書、鶴幸一郎他（2019）『福祉は誰のために　ソーシャルワークの未来図』へるす出版新書んど、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への取り組み姿勢や報告内容（60 %）、成果レポート（40 %）の提出により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバーともにフィールドで学ぶおもしろさを共有し、積極的に意見交換ができるように、フィールドでの学びやコミュニケーションを大切にします。

【Outline and objectives】
Based on the knowledge gained from the Special Course I A, students continue to explore not only social welfare field but also other fields through prior research documents to analyze various social problems in the current society. This course enables students to learn the process of clarifying their own interest and problem-solving.

OTR300JC

専門演習ⅡA

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習ⅡAでは、各自の興味関心のあるテーマに関する日本語または英語で書かれた、研究論文を採りあげて検討していきます。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を学び、それらを臨床心理学に関連づけながら理解できる。
2) 心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみについて、概説できる。
3) 研究遂行能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。各自担当する論文を検索・読解し、担当者に発表してもらいます。その内容に基づき、ディスカッションを行います。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	専門演習の進め方についてのオリエンテーション
第 2 回	論文検索の実習	日本語論文・英語論文の検索を行います。
第 3 回	卒業論文への意識を高める (1)	4 年生の専門演習Ⅲに参加し、卒業論文への意識を高めます。全員でディスカッションします。(1)
第 4 回	発表と討論 (1-1)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(1)
第 5 回	発表と討論 (1-2)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(2)
第 6 回	発表と討論 (1-3)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(3)
第 7 回	発表と討論 (1-4)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(4)
第 8 回	発表と討論 (1-5)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(5)
第 9 回	発表と討論 (1-6)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマで検索した複数の論文の概要を発表します。その後全員でディスカッションします。(6)
第 10 回	卒業論文への意識を高める (2)	4 年生の専門演習Ⅲに参加し、卒業論文への意識を高めます。全員でディスカッションします。(2)
第 11 回	発表と討論 (2-1)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め、先行研究の知見や研究方法、未解明な点や問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(1)
第 12 回	発表と討論 (2-2)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め、先行研究の知見や研究方法、未解明な点や問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(2)
第 13 回	発表と討論 (2-3)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め，先行研究の知見や研究方法，問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(3)
第 14 回	発表と討論 (2-4)（専門演習Ⅱ B に続きます）	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め，先行研究の知見や研究方法，問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、事前に発表の準備が必要です。
授業後は、論文、レジュメなどをもとに復習することが望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浦上 昌則・脇田 貴文（2020）．心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版　東京図書　［ゼミ費で購入するため各自が購入する必要はありません］

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生各自の興味関心のあるテーマに関する研究論文を発表していただきますが、その発表により、発表者以外のメンバーの興味関心を拡げるという側面もあります。積極的にメンバーの発表を聴き、大いに触発されましょう。また自分の意見を述べたり、質疑応答を多く経験しましょう。
研究論文に数多く触れることにより、内容だけでなく研究方法論的な側面の理解も深まり、また論文を読むことに対する抵抗感がなくなったという意見・感想を受けています。これは、4 年生での卒業論文執筆のための研究を遂行するうえで不可欠な技能・態度といえますので、引き続きこのスタイルの演習を踏襲していこうと考えています。

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅱ B」と合わせて履修してください。

【Outline and objectives】
This seminar deals with the basic concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, research articles will be chosen and presented according to each student's interest.
It also enhances the development of students' skill in conducting research for graduation thesis.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として”アクアツーリズム”と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第 2 回	調査結果の報告（1）	プレゼンテーションの作法
第 3 回	調査結果の報告（2）	調査結果についての討議
第 4 回	先行研究の再検討（1）	調査結果を踏まえて先行研究を見直す
第 5 回	先行研究の再検討（2）	調査結果を踏まえて分析視角を見直す
第 6 回	フィールドワーク（1）	追加のデータを収集する①
第 7 回	フィールドワーク（2）	追加のデータを収集する②
第 8 回	データの解釈・分析（1）	追加調査で得られたデータを解釈する
第 9 回	データの解釈・分析（2）	追加調査で得られたデータを分析する
第 10 回	結論の検討（1）	調査によって導き出された結論について検討・討議する①
第 11 回	結論の検討（2）	調査によって導き出された結論について検討・討議する②
第 12 回	論文執筆の作法と構成	研究結果を論文にまとめる
第 13 回	プレゼンテーション	研究結果について発表する
第 14 回	2 年次ゼミの総括	総括と 3 年次ゼミの計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や学生からの声は適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

OTR300JC

専門演習Ⅱ B

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域におけるより専門的な知識を習得するとともに、興味のある領域に関して深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行いながら、心理学領域における専門的な知見の習得を目指します。なお、専門演習Ⅱ B では、研究文献発表後に数人の小グループに分かれて、より深いディスカッションを行い、その後、全体で内容を共有する方法をとります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの決定	各自の発表テーマの決定
第 3 回	研究発表 1	研究発表とグループディスカッション①
第 4 回	研究発表 2	研究発表とグループディスカッション②
第 5 回	研究発表 3	研究発表とグループディスカッション③
第 6 回	研究発表 4	研究発表とグループディスカッション④
第 7 回	研究発表 5	研究発表とグループディスカッション⑤
第 8 回	研究発表 6	研究発表とグループディスカッション⑥
第 9 回	研究発表 7	研究発表とグループディスカッション⑦
第 10 回	研究発表 8	研究発表とグループディスカッション⑧
第 11 回	研究発表 9	研究発表とグループディスカッション⑨
第 12 回	研究発表 10	研究発表とグループディスカッション⑩
第 13 回	研究発表 11	研究発表とグループディスカッション⑪
第 14 回	まとめ	全体でのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が購読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
演習内容をより理解しやすくするために前の週に資料を配布する。

【その他の重要事項】
病院、児童養護施設、矯正施設などの見学を適時実施します。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology.　Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活保護に関連する行政機関、支援団体、当事者の皆さんの協力をいただき、生活保護のポイントについて学びます。
資料を集めて、自分の見解をレポートにまとめます。

【到達目標】
テーマを選択し、資料を収集し、レポートをまとめる。
支援の現場から学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
1）グループワーク、各自のテーマ報告を行う。
支援の現場でのヒアリングや、ゲストによる講演は状況に応じて、Zoom を活用する。
2）まとめやレポート等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の目標と計画	目標と計画の確定
第 2 回	現場訪問（1）	訪問先の活動まとめ 質問づくり
第 3 回	現場訪問（2）	現場でのヒアリング
第 4 回	現場訪問（3）	ヒアリングまとめ報告
第 5 回	共同企画の準備（1）	内容およびゲストの確定
第 6 回	個人テーマ（1）	テーマ選択
第 7 回	個人テーマ（2）	テーマ報告と検討
第 8 回	共同企画の準備（2）	内容の確定
第 9 回	個人テーマ（3）	テーマの確定
第 10 回	共同企画の実施	企画実施、意見交換、まとめ
第 11 回	レポートの作成（1）	資料の収集と検討
第 12 回	レポートの作成（2）	構成の検討
第 13 回	レポートの作成（3）	概要報告と提出
第 14 回	小括	秋学期の成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークと個人研究の準備およびまとめに十分な時間をあてること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜指示します。

【参考書】
布川『生活保護の論点』山吹書店、吉永・布川・加美『現代の貧困と公的扶助―低所得者に対する支援と生活保護制度』高菅出版、など

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの貢献度（50 %）、個人テーマ設定の明確さ（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
個人テーマの設定にあたって各自のモチベーションを高めるようにします。

【その他の重要事項】
秋学期：公的扶助論を受講すること。

【Outline and objectives】
Key points and the characteristic of the Public Assistance System in Japan

OTR300JC

専門演習ＩＩＢ

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用するアプローチです。

【到達目標】
専門演習 II の到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 IIB では、卒業論文に向けて、自らの関心があるテーマについて、研究計画を発表してもらいます。受講生同士でディスカッションしながら、研究計画を練っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の重要性について概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の注意点について概説します。
第 4 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。
第 5 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に行動療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 6 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 7 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション4	各自が関心あるテーマについて、マインドフルネスに関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションを行います。
第 8 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション1	第一世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 9 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション2	第二世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション3	第三世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第 11 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション1	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第一世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション2	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第二世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 13 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション3	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 14 回	まとめ	後期のゼミを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本演習の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容(20%) 及び期末レポート（30%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The goal of this seminar is to provide students with academic knowledge relating to research methods. Students are required to complete a research proposal.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的なフィールドワークを通じて、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークにより、まちづくり（地域づくり）のフィールドワークの準備と実施、報告まで一貫して行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 回　活動報告	夏休みのフィールドワークの概要報告
第 2 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第 3 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②と発表
第 4 回	今後の活動課題①	秋のフィールドワークに向けての課題の検討①
第 5 回	今後の活動課題②	秋のフィールドワークに向けての課題の検討②
第 6 回	活動プログラム立案①	秋のフィールドワーク行動計画①
第 7 回	活動プログラム立案②	秋のフィールドワーク行動計画②
第 8 回	フィールドワーク実施①	現地での活動①第一次調査
第 9 回	フィールドワーク実施②	現地での活動②第二次調査
第 10 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果のデータ整理
第 11 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の図表作成
第 12 回	報告書作成①	活動報告書のとりまとめ
第 13 回	報告書作成②	活動報告書の校正
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドワークの準備と実施、報告書作成など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習時間での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR300JC

専門演習ⅡB

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】
関心のあるテーマをみつけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。
他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション
関心のあるテーマについて先行研究の調査。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討①	卒業論文のテーマを絞り込み、先行研究の文献学習と研究計画の検討。
第 2 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討②	各自のテーマに関連する先行研究を調べ、まとめる。
第 3 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討③	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）①
第 4 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討④	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）②
第 5 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑤	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する①
第 6 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑥	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）③
第 7 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑦	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）④
第 8 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑧	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する②
第 9 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑨	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑤
第 10 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑩	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑥
第 11 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑪	グループですすめてきた調査研究の考察および発表の準備をおこなう
第 12 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑫	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する③
第 13 回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑬	グループごとに調査研究を発表し、検討課題についてディスカッションをする。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と授業内の発表（40 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】
学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Finding a theme of interest to conduct research and compile a senior thesis.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

宮城　孝

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習１Ａでの「若者の視点から福祉社会の未来をデザインする」とのテーマのもと、国内外の社会保障や社会福祉に関する研究で得た知見をもとに、日本における地域の生活課題を対象にグループでテーマを設定し、関連する文献やデータの読了や分析、フィールドワーク等により、論議を深め、研究を行う。問題に対して、自ら考える課題認識や、実際の現場をとおして課題を明らかにし、議論する力、また人前で発表する基礎的な力を養う。

【到達目標】
具体的な地域の福祉問題に関して発見し、探求することができる。
テーマについてグループで議論し、自ら活発に発言できる。
専門的な文献やデータを収集し、読解することができる。
人前で、研究の内容や結果を発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献の渉猟や研究方法、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、グループによる主体的な研究や報告が主となる。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	後期の進め方、スケジュール等
第 2 回	研究テーマの設定	研究テーマについてのグループ討議①
第 3 回	研究テーマの設定	研究テーマについてのグループ討議②
第 4 回	研究テーマについての報告	研究テーマの背景や意義についての報告と討議①
第 5 回	グループ研究	グループ報告に向けての討議と準備②
第 6 回	グループ報告Ⅰ①	グループ研究の中間報告と討議①
第 7 回	グループ報告Ⅰ②	グループ研究の中間報告と討議②
第 8 回	グループ報告Ⅰ③	グループ研究の中間報告と討議③
第 9 回	グループ研究	グループ報告に向けた討議と準備①
第 10 回	グループ報告Ⅱ①	グループ研究の中間報告と討議①
第 11 回	グループ報告Ⅱ②	グループ研究の中間報告と討議②
第 12 回	グループ報告Ⅱ③	グループ研究の中間報告と討議③
第 13 回	グループ研究	最終のグループ報告に向けた討議と準備
第 14 回	合同研究報告会	最終のグループ研究の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各小グループによって研修テーマを設定し、文献やデータの分析やフィールドワーク
などを行い研究を進るので、時間内だけで足りない場合等は、時間外にサブゼミを行ない研究を進める。
準備・復習時間は４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に研究を進め、より活発に相互に論議できるような工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションの際のパソコン等の準備

【その他の重要事項】
オフィスアワー月曜日３時限
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline and objectives】
Thie subject expplore the setting thema to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth,and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose a reserch,it cultivates the skills to disecuss and basic presentation through these.

OTR300JC

専門演習ⅡＢ

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、ゼミ論文にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行います
2	ゼミ論途中経過発表とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過（特に先行研究の検討を中心に）を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～C 発表。
3	ゼミ論途中経過発表とディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
4	ゼミ論途中経過発表とディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
5	ゼミ論途中経過発表とディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
6	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
7	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑥	例：ゼミ生 A、B の発表
8	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑦	例：ゼミ生 C、D の発表
9	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑧	例：ゼミ生 E、F の発表
10	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑨	例：ゼミ生 G、H の発表
11	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑩	例：ゼミ生 I、J の発表
12	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑪	例：ゼミ生 K、L の発表
13	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑫	例：ゼミ生 M、N、O の発表
14	卒論構想発表会	卒論の構想を全員が発表し、ディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、ゼミ論文（70 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You discuss on clinical problems and psychological support, and write seminor report.

OTR200JB

専門演習ＩＢ

保井　美樹、今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、住民、行政、企業など様々な主体が連携してまちづくりを進めている事例を取り上げ、その活動に参加しながら地域の課題や可能性について調査・分析を進めることで、新しい地域コミュニティを創り出すためのエリアマネジメントを考え、実践できる人材を育てることを目的としています。

【到達目標】
・まちづくりの実践調査を通じ、地域づくりや関連政策に関する実践的知識を身につける。
・まちづくり実践計画づくりを通じて、問題設定と解決力、戦略的思考力を身につける。
・グループワークを通じて、他者と協議し、共通価値を見出す力を身につける。
・まちづくりの実践とその振り返りを通じて、プロジェクトマネジメントの考え方と実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＢでは、引き続き、実際のまちづくりに関わりながら、自治に関する考え方、地域の課題と対応、及び、調査研究の基本的技術を学んでいきます。地域で現実起きている課題やそれに対しての活動を、個人又はグループで聞き出し、その結果を整理・分析していく方法を指導します。年度末には、報告書をまとめます。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題へのフィードバックは、幾つかの課題の紹介や講評を通じて授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	夏休み中の活動成果の報告と、後期のゼミの目的、進め方についての話し合い。
第 2 回	報告資料まとめ　第１回	夏休みの実践を、グループごとに報告資料としてまとめる。
第 3 回	報告資料まとめ　第２回	報告資料をグループで完成させる。
第 4 回	報告資料の検討・分析　第１回	報告資料の発表と議論（１回目）
第 5 回	報告資料の検討・分析　第２回	報告資料の発表と議論（２回目）
第 6 回	報告資料の完成	報告資料を完成させる。
第 7 回	報告会準備１	学内外での報告会用のプレゼンテーションやポスターの作成。
第 8 回	報告会準備２	プレゼンテーション資料やポスターの完成。
第 9 回	報告会振り返り	報告会の振り返り。
第 10 回	追加調査に向けた課題と目的の設定	残された課題の整理。
第 12 回	追加調査の方法検討	追加調査の方法を具体的に検討する。
第 13 回	追加調査の準備 (1)	追加調査の調査票の作成、実施の準備を行う。
第 14 回	追加調査の準備 (2)	追加調査の調査票を完成させる。
第 15 回	調査計画の共有と次年度に向けたまとめ	春休暇中の追加調査の計画発表、共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループでの活動となるため、自分の責任を自覚し、それを遂行するように心がけること。また、ゼミ以外でも、身近な地域づくり活動に関心をもち、参加することを推奨します（但し、義務ではない）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　100%
具体的な基準は、授業で伝えます。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、履修者とよくコミュニケーションを取りながら、授業内容や進め方を改善していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
グループ発表では、PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。このゼミは模造紙、マジック・ペンなどを使う学生が多いが、講師室等で全て貸出可能になっている。必要な場合には、担当教員に相談のこと。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。上記計画は、受講者の関心や要請に応じて、内容や進め方の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems. By researching and joining in those challenges, this seminar try to let students grow by themselves into independent planners/practitioners of community development.

OTR300JC

専門演習Ⅱ B

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。卒業論文制作を視野に入れ、専門演習Ⅰ・Ⅱ A で学んだことを基礎として、自分の関心のあるテーマを確定し、さらに理解を深める。

【到達目標】
発表やディスカッションを通して、自分の関心のあるテーマの理解をさらに深めていく。新たに生じた疑問点について調べ直す。
大学生活と自己を振り返り、卒業後の自分の目標を定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文制作を視野に入れ、自分の関心のあるテーマを確定し文献を調べ発表、ディスカッションを行う。４年生との交流や、様々な分野で働いている卒業生の話を聞く機会を設け、職業選択や自分自身の将来像について検討する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの確定①	演習Ⅱ A の発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第 3 回	テーマの確定②	演習Ⅱ A の発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第 4 回	文献検索①	テーマに関する文献を探す①
第 5 回	文献検索②	テーマに関する文献を探す②
第 6 回	卒業生との交流	卒業生の話を聞き交流する
第 7 回	４年生との交流	４年生の話を聞き交流する
第 8 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第 9 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第 10 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第 11 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第 12 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第 13 回	ディスカッション	職業選択や将来像について①
第 14 回	ディスカッション・クリニック見学	職業選択や将来像について②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline and objectives】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will choose a theme with one's interest to write a graduation thesis, and deepen understanding about that theme.

OTR300JB

専門演習ⅡA

石井　享子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きる喜びを大切にできる能力を育むための人間理解と福祉保健医療システムの関連性を実践的な形で学習する。

【到達目標】
ゼミ全体でこれまでに活動したり学習してきた結果を踏まえて、フィールドワークをしたり、ゲストスピーカーを招き、学習を深めていく。
また、社会福祉士の実習を選択し、現場体験を通してゼミのテーマを深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求し、レポート報告にまとめる。ゼミの全体の中心としての役割を果たして欲しい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅰ・Ⅲとの合同面接
第 3 回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第 4 回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第 5 回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査報告書
第 6 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献および論文
第 7 回	研究計画の作成	1～2グループごとに、先行研究レビューの結果を発表①
第 8 回	中間報告①	1～2グループごとに、先行研究レビューの結果を発表②
第 9 回	中間報告②	1～2グループごとに、アンケート調査、フィールド調査の状況を報告①
第 10 回	中間報告③	1～2グループごとに、アンケート調査、フィールド調査の状況を報告②
第 11 回	中間報告④	1～2グループごとに、アンケート調査、フィールド調査の結果を報告①
第 12 回	中間報告⑤	1～2グループごとに、アンケート調査、フィールド調査の結果を報告②
第 13 回	中間報告⑥	1～2グループごとに、アンケート調査、フィールド調査の結果を報告③
第 14 回	結果報告⑦	1～2グループごとに、春学期研究結果の発表①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①演習への参加：６０％
②研究発表：４０％春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【Outline and objectives】
Third graders will be the center of allgrades,practicing leadership in specialized exercise programs,training field work ,etc.

OTR300JB

専門演習ⅡA

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカル”の視点からコミュニティづくりを考える

【到達目標】
本ゼミでは、“ローカルゼミ”として、地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに関わっている面白さと奥深さを大事にしていく。地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、“ローカル”の今を読み解く「ものさし」を学び、学生として、また卒業後も社会人として問題解決にどのように関われるかを探る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ⅡAでは、前年の実践活動から得た現場へのまなざしを深める。“ローカル”の再生に向けて、テキスト等を通して問題の背景を理解するとともに、先発事例を交えて解決手段を議論する。また、各自で関連したテーマを選んで、フィールドワークも含めた研究を進める。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	３年次のゼミの進め方を共有する。
第 2 回	ガイダンス②	春学期のゼミの進め方を共有する。
第 3 回	フィールドワークの到達点の確認	２年次の現地フィールドワークの振り返り
第 4 回	フィールドワークの活動計画づくり①	３年次の現地フィールドワークの方向性を検討する。
第 5 回	フィールドワークの活動計画づくり②	３年次の現地フィールドワーク活動内容を検討する。
第 6 回	フィールドワークの活動計画づくり③	３年次の現地フィールドワーク活動時期を検討する。
第 7 回	フィールドワークの活動計画づくり④	３年次の現地フィールドワーク準備を進める。
第 8 回	関連テーマの文献・資料の輪読①	フィールドワーク活動に必要となる資料探索
第 9 回	関連テーマの文献・資料の輪読②	フィールドワーク活動に必要となる文献探索
第 10 回	関連テーマの文献・資料の輪読③	フィールドワーク活動に必要となる資料まとめ
第 11 回	関連テーマの文献・資料の輪読④	フィールドワーク活動に必要となる文献まとめ
第 12 回	関連テーマの文献・資料の輪読⑤	フィールドワーク活動に必要となる資料検討
第 13 回	ディスカッション	ゼミテーマに関連する時事問題の検討
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りと夏季休暇でのﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。ゼミでの議論や課外活動の経験から必要とされる知見に気づき、自ら積極的に専門書や文献から学ぼうとする姿勢を求めたい。

【テキスト（教科書）】
専門書や文献などを必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%

【学生の意見等からの気づき】
過年度の授業改善アンケートおよびゼミ活動の様子を踏まえて、今年度のゼミ内容に反映させていきたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will deepen the basic understanding for learning how to build a community centered on rural areas. In addition, we will go to the rural area and experience the living and local activities there through interaction with local residents.

OTR300JC

専門演習Ⅱ B

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床における自分の関心のある特定のテーマについて理解を深めて報告する。

【到達目標】
ゼミ生一人ひとりが心理臨床の領域における自分の関心のあるテーマについての先行研究を体系的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生には個別に心を持ったテーマに関して調べた内容をレジュメを作成して発表してもらう。また、月に 1 回、4 年生の卒業論文の経過報告と指導を聞いて、卒業論文作成のプロセスを知る。課題の提示およびフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの進め方と具体的なスケジュールなどを決める
第 2 回	個人発表①	1 名ずつ調べたことの発表①
第 3 回	個人発表②	1 名ずつ調べたことの発表②
第 4 回	4 年生の卒業論文指導①	4 年生の卒業論文の準備状況を聞く
第 5 回	個人発表③	1 名ずつ調べたことの発表③
第 6 回	個人発表④	1 名ずつ調べたことの発表④
第 7 回	個人発表⑤	1 名ずつ調べたことの発表⑤
第 8 回	4 年生の卒業論文指導②	4 年生の卒業論文についての経過報告を聞く
第 9 回	個人発表⑥	1 名ずつ調べたことの発表⑥
第 10 回	個人発表⑦	1 名ずつ調べたことの発表⑦
第 11 回	個人発表⑧	1 名ずつ調べたことの発表⑧
第 12 回	4 年生の卒業論文指導③	4 年生の卒業論文の発表準備状況を聞く
第 13 回	卒業論文発表会①	4 年生の卒業論文発表会に参加（前半）
第 14 回	卒業論文発表会②	4 年生の卒業論文発表会に参加（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表のために関心のあるテーマに関する文献を検索し、レジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
究テーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表（70 %）、ディスカッションへの参加 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当しておりません。

【Outline and objectives】
Students deepen their understanding of specific subjects of their interest in clinical psychology and report it.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進めるために必要な研究方法を学ぶ。

【到達目標】
・ソーシャルワークの研究方法を理解できる。
・卒業研究のテーマを決める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワーク研究法に関するテキストを輪番でまとめて発表し、卒業研究に必要な知識を得る。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	先行研究のレビュー	「社会福祉研究法」レッスン３
第 3 回	研究課題の設定	「社会福祉研究法」レッスン５
第 4 回	仮説構築と検証	「社会福祉研究法」レッスン６
第 5 回	研究資料の収集と分析	「社会福祉研究法」レッスン７
第 6 回	量的研究	「社会福祉研究法」レッスン８
第 7 回	質的研究	「社会福祉研究法」レッスン９
第 8 回	メゾレベルの評価分析	「社会福祉研究法」レッスン１１
第 9 回	問題を政策と結ぶ研究	「社会福祉研究法」レッスン１３
第 10 回	卒業研究の理解①	卒業論文の概要発表
第 11 回	卒業研究の理解②	卒業論文の概要発表
第 12 回	卒業研究の理解③	卒業論文の概要発表
第 13 回	研究テーマの検討	研究テーマの発表と議論
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者として責任をもって、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ

【参考書】
久田則夫（2003）「社会福祉の研究入門：計画立案から論文執筆まで」中央法規
川村匡由 (2002)「福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・担当発表 60%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice as a social worker.

OTR300JC

専門演習ⅡB

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**服部先生代講**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習 II（春学期）での学習成果を踏まえ、臨床心理学の研究だけではなく、教育心理学や社会心理学など、幅広い領域から論文・書籍を取り上げ、リサーチリテラシーや心理学の研究法、心理学における量的な研究活動を支える心理統計法と心理データ解析法、さらに心理学的測定法について基礎から学びます。

【到達目標】
図書館やインターネットを活用した文献収集の方法を修得すること、心理学の研究方法の基礎を理解できること、基礎的な量的解析法の利用方法を理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
量的研究を行っている論文を選定して研究の目的、方法、データ解析の方法、結果等を具体的に発表します。取り上げる論文は量的研究を報告している雑誌論文としますが、論文の研究テーマは授業の中で相談して絞り込んでいきます。基礎的な事項から量的研究法を学習しますので、必要に応じて R 言語を用いた学習も行っていきます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方について確認する
第 2 回	調査研究論文の選定（国内）	調査研究法を用いている国内の研究論文を選定する
第 3 回	調査研究論文の選定（国外）	調査研究法を用いている国外の研究論文を選定する
第 4 回	発表と議論 (実験心理学 1)	実験心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 5 回	発表と議論 (教育心理学 1)	教育心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 6 回	発表と議論 (発達心理学 1)	発達心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 7 回	発表と議論 (社会心理学 1)	社会心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 8 回	発表と議論 (臨床心理学 1)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (1)
第 9 回	発表と議論 (実験心理学 2)	実験心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 10 回	発表と議論 (教育心理学 2)	教育心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 11 回	発表と議論 (発達心理学 2)	発達心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 12 回	発表と議論 (社会心理学 2)	社会心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 13 回	発表と議論 (臨床心理学 2)	臨床心理学に関する研究論文の発表 (2)
第 14 回	卒業研究についての検討	次年度の卒業研究について検討します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究論文を読んで内容を発表する場合は、その研究が扱う心理学的な概念についても調べておくが必要があります。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する研究論文と書籍を授業時に選定します。

【参考書】
教育心理学研究、教育心理学年報、パーソナリティ研究、心理学研究、スポーツ心理学研究、感情心理学研究、社会心理学研究、実験社会心理学研究、基礎心理学研究、健康心理学研究、発達心理学研究などに発表された研究論文

【成績評価の方法と基準】
演習への参加（50 %）と発表（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自主的な学習ができるよう、また、積極的に授業へ参加できるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表を行う際には，担当教員がパソコンを用意します。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

OTR300JB

専門演習ⅡA

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、家族に関するデータとヤングケアラーに関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキストの紹介、ゼミの進め方について
第 2 回	結婚の経済学	結婚に求めるもの、出会い、結婚のリアル
第 3 回	赤ちゃんの経済学	出生体重と人生、帝王切開、母乳育児のメリット・デメリット
第 4 回	育休の経済学	世界の育休制度、育休と子どもの発達、育休制度 3 年制は無意味
第 5 回	イクメンの経済学	日本の制度、育休パパの伝染、育休と夫婦の絆
第 6 回	保育園の経済学	幼児教育の効果、家庭環境と子どもの発達、保育園と母親の幸福度
第 7 回	離婚の経済学	離婚と不幸、子どもへの影響、共同親権
第 8 回	子どもと家族の現場 1	乳児院見学
第 9 回	親の病気を支えるヤングケアラー	答えの出ない問い、ケアの経験の傷跡と成長、ヤングケアラーという言葉
第 10 回	親の障害を支えるヤングケアラー	疑問を抱かないことが正解？、親の見取りとグリーフケア、「寄り添い」とは何か
第 11 回	障害のあるきょうだいを支えるヤングケアラー	障害のある妹と私、「きょうだい」という概念、親亡きあと
第 12 回	祖母の認知症を支えるヤングケアラー	ケアをめぐる価値観の違い、ケアという名の「大戦争」、ケアの価値を問う
第 13 回	子どもと家族の現場 2	児童養護施設見学
第 14 回	まとめ	全体を通しての振り返り、夏休みの課題についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・山口慎太郎（2019）『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
・澁谷智子（2020）『ヤングケアラーわたしの語り』生活書院
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty.

OTR300JC

専門演習Ⅱ B

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習Ⅱ B では、専門演習Ⅱ A に引き続き各自の興味関心のあるテーマに関する日本語または英語で書かれた、研究論文を採りあげて検討していきます。
卒業論文につながる「問題と目的」や「研究計画」を作成することを目指します。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を学び、それらを臨床心理学に関連づけながら理解できる。
2) 心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみについて、概説できる。
3) 研究遂行能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で行います。各自担当する論文を検索・読解し、担当者に発表してもらいます。その内容に基づき、ディスカッションを行います。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	（専門演習Ⅱ A からの続きです） 発表と討論 (2-5)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め、先行研究の知見や研究方法、未解明な点や問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(5)
第 2 回	発表と討論 (2-6)	発表担当者は各自の興味・関心のあるテーマをさらに深め、先行研究の知見や研究方法、未解明な点や問題点などを発表します。その後全員でディスカッションします。(6)
第 3 回	卒業研究への意識を高める (3)	4 年生の専門演習Ⅲに参加し、卒業論文への意識を高めます。全員でディスカッションします。(3)
第 4 回	発表と討論 (3-1)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(1)
第 5 回	発表と討論 (3-2)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(2)
第 6 回	発表と討論 (3-3)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(3)
第 7 回	発表と討論 (3-4)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(4)
第 8 回	発表と討論 (3-5)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(5)
第 9 回	発表と討論 (3-6)	発表担当者は卒業論文に向けたテーマを絞り込み、その内容と研究計画の案を発表します。その後全員でディスカッションします。(6)
第 10 回	卒業研究への意識を高める (4)	4 年生の専門演習Ⅲに参加し、卒業論文への意識を高めます。全員でディスカッションします。(4)
第 11 回	研究計画発表準備	専門演習Ⅱ A・専門演習Ⅱ B を通して研究してきた内容、卒業論文の計画をプレゼンテーション形式で発表するための準備を行います。
第 12 回	研究計画発表 (1)	専門演習Ⅱ A・専門演習Ⅱ B を通して研究してきた内容、卒業論文の計画をプレゼンテーション形式で発表します。(1)
第 13 回	研究計画発表 (2)	専門演習Ⅱ A・専門演習Ⅱ B を通して研究してきた内容、卒業論文の計画をプレゼンテーション形式で発表します。(2)
第 14 回	卒業論文発表会の参観	専門演習Ⅲ B（4 年生）の卒業論文発表会に参加し、卒業論文への意識を高めます。全員でディスカッションします。(5)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、事前に発表の準備が必要です。
授業後は、論文、レジュメなどをもとに復習することが望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浦上 昌則・脇田 貴文（2020）. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版　東京図書　［ゼミ費で購入するため各自が購入する必要はありません］

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生各自の興味関心のあるテーマに関する研究論文を発表していただきますが、その発表により、発表者以外のメンバーの興味関心を拡げるという側面もあります。積極的にメンバーの発表を聴き、大いに触発されましょう。また自分の意見を述べたり、質疑応答を多く経験しましょう。
研究論文に数多く触れることにより、内容だけでなく研究方法論的な側面の理解も深まり、また論文を読むことに対する抵抗感がなくなったという意見・感想を受けています。これは、4 年生での卒業論文執筆のための研究を遂行するうえで不可欠な技能・態度といえますので、引き続きこのスタイルの演習を踏襲していこうと考えています。

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅱ A」と合わせて履修してください。

【Outline and objectives】
This seminar deals with the basic concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, research articles will be chosen and presented according to each student's interest.
It also enhances the development of students' skill in conducting research for graduation thesis.

OTR300JB

専門演習ⅡA

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱ A のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。学内での学習にとどまらず、積極的に当事者やその家族とかかわり、当事者のもつ力と専門職の関係性について理解を深めていく。

【到達目標】
専門演習Ⅰ AB で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。ゼミの活動では当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験し、それをもとに議論や課題学習を実施していただきます。その他に、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定に関する話し合い
3	グループ活動と全体討議	研究フィールドの内容に関する討議
4	文献検索の方法フィールドワークのための学習①	講義
5	フィールドワークのための学習②	全体討議と先行研究の整理
6	フィールドワークのための学習③	全体とグループ学習テーマごとのグループ発表
7	プレゼンテーション	学習テーマに基づいたグループ発表
8	プレゼンテーションと討議	学習テーマに基づいた発表を受けての討議
9	プレゼンテーションと全体討議	学習テーマに基づいた発表の総括
10	グループによる研究内容の整理	グループごとの話し合い
11	グループによる課題検討	グループごとの話し合いと全体討議
12	グループによる活動テーマの発表	グループごとの発表
13	ゼミ活動報告	活動内容の報告
14	まとめ	春学期の総括と秋学期に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。
①久保紘章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と　展開』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】
講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講姿勢 (50%), 発表内容・提出物 (50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
演習Ⅲでは、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第 2 回	論文構想 1	問題意識について
第 3 回	論文構想 2	論文の構想について
第 4 回	論文構想 3	問題意識や論文の構想について発表
第 5 回	論文構想 4	問題意識や論文の構想について議論
第 6 回	論文計画 1	調査テーマ、対象、方法
第 7 回	論文計画 2	スケジュール等
第 8 回	論文計画 3	研究の進捗状況
第 9 回	論文計画 4	研究スケジュールの修正
第 10 回	文献等レビュー 1	テーマに関する文献の報告
第 11 回	文献等レビュー 2	文献の探索と追加
第 12 回	文献等レビュー 3	周辺領域の文献探索
第 13 回	文献等レビュー 4	文献レビューのまとめ
第 14 回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
発表資料を事前に配布し、ディスカッションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology.　Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
前年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を深めるアプローチを中心とする。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	1 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	1 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	卒業論文を書く前に①	現場活動の方向性を検討
第 5 回	卒業論文を書く前に②	現場活動の文献・資料レビュー
第 6 回	卒業論文を書く前に③	骨子案を作成
第 7 回	2 次自主企画準備①	現場活動の時期や準備を検討
第 8 回	2 次自主企画準備②	現場活動の時期や準備を可視化
第 9 回	2 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第 10 回	2 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第 11 回	企画の学び合い	学年を超えて意見交換
第 12 回	2 次自主企画骨子③	現場活動の時期や準備修正
第 13 回	4 年生卒論中間発表	様々な研究課題の深め方
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

【到達目標】
臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表をしてもらい、それをどのように卒業論文としてまとめていけるかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方を話し合います。
第 2 回	論文構想発表１	各自の関心のあるテーマについて発表してもらいます。
第 3 回	論文構想発表２	各自の関心のあるテーマについて述べてもらいます。
第 4 回	論文構想発表３	各自の関心のあるテーマについて個人発表してもらいます。
第 5 回	論文構想発表４	各自の関心のあるテーマを発表してもらいます。
第 6 回	先行研究のレビュー１	研究テーマに関連する先行研究を発表してもらいます。
第 7 回	先行研究のレビュー２	研究テーマに関連する先行研究を個人発表してもらいます。
第 8 回	先行研究のレビュー３	研究テーマに関連する先行研究の課題点を述べてもらいます。
第 9 回	研究計画の発表１	卒業論文の調査計画について検討します。
第 10 回	研究計画の発表２	卒業論文の実験計画について検討します。
第 11 回	研究計画の発表３	卒業論文の調査・実験計画について検討します。
第 12 回	研究計画の発表４	卒業論文の調査・実験計画を検討します。
第 13 回	データの分析方法について１	卒業論文のデータの分析方法を学びます。
第 14 回	データの分析方法について２	卒業論文のデータの分析方法について、実例を交えて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students will research and write their research paper. Through in-class discussions and presentations, they will develop their ability to research.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生きづらさ」に関わる課題についてグループで取り組み、それぞれの思いをプロジェクトとして、計画、実践につなげることを目指します。卒業研究に向けて、生きづらさを抱え、孤立しがちな方と共に暮らす地域社会をみなさんと当事者の言葉から精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討し。合わせて関係する文献を渉猟し考察していきます。

【到達目標】
問題意識を高め、関連する文献渉猟を経て自らの関心領域を確認すること、そして議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方の確認　各自の役割分担の話し合い
第 2 回	フィールドワーク・インターンシップ報告会 1	春休み中に行った各自の活動およびインターンシップの報告を行う (レジュメ)
第 3 回	フィールドワーク・インターンシップ報告会 2	春休み中に行った各自の活動およびインターンシップの報告を行う (パワーポイント)
第 4 回	文献購読（メンタルヘルス）	就職活動と大学教育について考える
第 5 回	文献購読（発達障害）	ワークライフバランスについて考える
第 6 回	キャリアに関する文献購読（ダイバーシティ）	ダイバーシティについて考える
第 7 回	キャリアに関する文献購読（ワークライフバランス）	離職と転職について考える
第 8 回	キャリアに関する文献購読（解雇と失業）	解雇と失業について考える
第 9 回	文献購読（引きこもり）	定年退職について考える
第 10 回	文献購読（就労支援）	企業統治と従業員について考える
第 11 回	キャリアに関する文献購読（多様なキャリア）	さまざまなキャリアについて考える
第 12 回	キャリアに関する文献購読（適職選択の理論）	適職選択の理論について考える
第 13 回	キャリアに関する文献購読（労働市場の理論）	労働市場の理論について考える
第 14 回	フィールドワーク準備	課題の設定とゼミ合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献購読は、報告者１名と司会者１名によりディスカッション形式で行います。報告者はレジュメを用意し、他の学生は、積極的な発言ができるように、各自論点を整理したペーパーを用意してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
演習中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での発言３０%、報告と発表３０%、リサーチペーパー４０%

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
研究はゼミ以外の時間で各自進め、ゼミでは報告とディスカッションをする場となります。報告の際は、レジュメの作成やパワーポイントの利用など十分な準備をして行うことを求めています。

【Outline and objectives】
This class provides a lecture on the the formal structures and styles of academic writing. The class focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research. Additionally, this class will build confidence and competence in writing more generally, preparing you for Seminar ⅢＡＢ, in which you will write a formal research paper.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】
現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文作成のための準備を行う。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合う。
第 2 回	論文構想発表①	問題意識や論文の構想について発表し、議論する①
第 3 回	論文構想発表②	問題意識や論文の構想について発表し、議論する②
第 4 回	論文構想発表③	問題意識や論文の構想について発表し、議論する③
第 5 回	論文構想発表④	問題意識や論文の構想について発表し、議論する④
第 6 回	論文計画の発表①	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する①
第 7 回	論文計画の発表②	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する②
第 8 回	論文計画の発表③	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第 9 回	論文計画の発表④	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する③
第 10 回	文献等レビュー報告①	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する①
第 11 回	文献等レビュー報告②	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する②
第 12 回	文献等レビュー報告③	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する③
第 13 回	文献等レビュー報告④	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する④
第 14 回	まとめ	卒業論文作成のために進めてきた準備を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文を執筆するための準備として、過去の文献や研究結果を収集する。また、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　70 %
主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）
30 %

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Discussion of issues in modern society from a psychological perspective for a deeper understanding of problems and learning about psychological assistance.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェース (境界領域) にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任 (CSR) や社会貢献活動、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナール の大きな研究テーマである。また、企業社会を理解する上で NPO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な 社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
3 年次では、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読・ディスカッションを基本としながら、フィールド調査、ビジネス・コンテストなどの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期イントロダクション	講義のスケジュールや目標の確認
第 2 回	基本文献の輪読とディスカッション①	ゼミの基礎となるテキスト第 1 章を読み、各自の問題関心を高める。
第 3 回	基本文献の輪読とディスカッション②	ゼミの基礎となるテキスト第 2 章を読み、ディスカッションを行う。
第 4 回	基本文献の輪読とディスカッション③	ゼミの基礎となるテキスト第 3 章を読み、ディスカッションを行う。
第 5 回	論文の輪読とディスカッション①	ゼミの基礎となる論文を読み、各自の問題関心を高める。
第 6 回	論文の輪読とディスカッション②	ゼミの基礎となる論文を読み、ディスカッションを行う。
第 7 回	基本文献の輪読とディスカッション③	ゼミの基礎となるエッセイを読み、各自の問題関心を高める。
第 8 回	エッセイの輪読とディスカッション④	ゼミの基礎となるエッセイを読み、エッセイにまつわるテーマでディスカッションを大なう
第 9 回	エッセイの輪読とディスカッション⑤	輪読とディスカッションをふまえて、各自の問題関心を報告・議論する。（前半）
第 10 回	エッセイの輪読とディスカッション⑥	輪読とディスカッションをふまえて、各自の問題関心を報告・議論する。（後半）
第 11 回	グループワークによる報告①	外部報告に向けて、グループによるプレゼンテーションを実施①
第 12 回	グループワークによる報告②	外部報告に向けて、グループによるプレゼンテーションを実施②
第 13 回	グループワークによる報告③	外部報告に向けて、グループによるプレゼンテーションを実施③
第 14 回	グループワークによる報告④	外部報告に向けて、グループによるプレゼンテーションを実施④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習Ⅱでは講義時間外にも文献収集やグループワークによる打ち合わせ、共同作業等が必要になる。積極性と協調性を備えた学生の履修を期待する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣

谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク一書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの能動的参加 50 %、ゼミでの報告 50 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline and objectives】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と援助について議論します。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的援助、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成する準備をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示し、ゼミ長他の役割を決定します
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてディスカッションを行います
4	個人テーマの決定と発表スケジュールの話し合い	各自の研究テーマを決定し、発表スケジュールを話し合います
5	個人報告①	論文作成の途中経過を各自報告し、ディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～E の報告
6	研究報告②	例：ゼミ生 F～J の報告
7	研究報告③	例：ゼミ生 K～O の報告
8	研究報告④	例：ゼミ生 A～C の報告
9	研究報告⑤	例：ゼミ生 D～F の報告
10	研究報告⑥	例：ゼミ生 G～I の報告
11	研究報告⑦	例：ゼミ生 J～L の報告
12	研究報告⑧	例： M～O の報告
13	研究報告⑨	例：希望者による発表
14	まとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You discuss the clincal problems and psychological support.

OTR300JB

専門演習ⅡA

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、高齢者本人と家族を取り巻く生活環境や当事者の生き方から生活の多様性を理解し、高齢者支援の意味や福祉制度の役割や機能を考察します。そのために、高齢者福祉やケアに関する制度・政策、高齢者ソーシャルワークに関する先行研究の整理と考察を行います。各自の研究テーマにそった研究目的や研究方法などの研究計画について検討します。さらには、さまざまな高齢者福祉実践の場面やコミュニティでの高齢者支援の実態や課題点についてフィールドワークを通して学習を深めます。

【到達目標】
演習 1A, Ⅰ B で学んだ知識や実践の学びを踏まえ、社会の中で、さまざまな困難や問題を抱える当事者が自ら問題解決に取り組む際に、それを支える人たちの役割や支援について理解を深めます。また、各自の研究テーマ、研究目的などの研究デザインの企画を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門的なテーマを設定し、先行研究の収集、整理、考察などを行うために、サブ・グループ研究を行い、それらの研究成果を発表します。夏期休暇中を利用して、テーマ別サブ・グループもしくは、個人でのフィールドワークまたは見学や研修を通じてテーマ研究を行い、その学習成果を報告します。また、SW 実習受講者は、専門演習での学びと SW 実習における実践現場との比較から福祉の実態を検証し、より良い福祉の実現を考える機会とします。また、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは授業「学習支援システム」を通じて行う予定です。 なお、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	高齢者福祉研究の特徴、到達点などの整理、分析について
第 2 回	研究テーマの設定	研究テーマ別グループ学習編成についての話し合い
第 3 回	各グループ・テーマの研究計画	研究テーマ（高齢者福祉領域）文献のリストアップ
第 4 回	文献研究の報告と討論①	高齢者福祉制度・政策に関する文献研究の整理と議論
第 5 回	文献研究の報告と討論②	高齢者と家族、ケアに関する文献研究の整理と議論
第 6 回	文献研究の報告と討論③	高齢者と地域生活に関する福文献研究の整理と議論
第 7 回	文献研究の報告と討論④	高齢者の生きがい、社会参加などの文献研究の整理と議論
第 8 回	文献研究の報告と討論⑤	高齢者ソーシャルワーク実践文献研究の整理と議論
第 9 回	文献、先行研究の小まとめ	各グループ・テーマの文献研究成果の再整理、考察
第 10 回	各自の研究テーマの報告①	各自の別研究目的、研究方法などの報告と討論①
第 11 回	各自の研究テーマの報告②	各自の研究目的、研究方法などの報告と討論②
第 12 回	研究（調査）デザイン①	夏期中の研究実施計画（調査、フィールドワークなど）準備報告①
第 13 回	研究（調査）デザイン②	夏期中の研究実施計画（調査、フィールドワークなど）準備報告②
第 14 回	まとめ	夏期中の研究（調査、フィールドワークなど）実施計画確定と留意事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、準備として、各自が関心を持っているテーマに関する文献、資料（新聞、雑誌、インターネット）を収集して、整理してください。まだ復習としは、各回での報告終了後の報告内容の再整理を行ってください。準備と復習には各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。ゼミ開始の時に、ゼミ生と相談して決定します。

【参考書】
マイケル・ダン他（2020）『医療倫理超入門』岩波書店、東京大学高齢社会総合研究機構（2017,2019）『長寿時代の人生設計と社会創造』東京大学出版会など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加への姿勢・報告内容（60 %）、中間レポート課題（40 %）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究だけでなくゼミで学び、お互いに成長できるようなゼミ運営について、さらに工夫をしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
各自（各グループ）の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】
合宿なども実施します。積極的なゼミ運営・参加をのぞみます。

【Outline and objectives】
This course intends to promote students' analysis of the roles and functions of social welfare system as well as the connotation of "supporting the aged" by understanding the diverse environment and lifestyles of older adults themselves and their families. That involves studying welfare system and measures surrounding the care for the aged, and reviewing prior social work research data. We will also examine the objectives and methods of research themes of each student. Further, students are expected to deepen their knowledge in the acutal implementation of social work services for the aged in the community and its challenges through various field work.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文構想①	問題意識や論文の構想について①
第 2 回	論文構想②	問題意識や論文の構想について②
第 3 回	論文構想③	問題意識や論文の構想について③
第 4 回	論文構想④	問題意識や論文の構想について④
第 5 回	論文計画①	テーマ、対象、方法、スケジュール①
第 6 回	論文計画②	テーマ、対象、方法、スケジュール②
第 7 回	論文計画③	テーマ、対象、方法、スケジュール③
第 8 回	論文計画④	テーマ、対象、方法、スケジュール④
第 9 回	先行研究①	先行研究の収集
第 10 回	先行研究②	先行研究の読み込み
第 11 回	先行研究③	先行研究のまとめ
第 12 回	先行研究④	先行研究の発表
第 13 回	まとめ①	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正①
第 14 回	まとめ②	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告 (70%)、ディスカッションへの参加 (30%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline and objectives】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、複数の研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第 2 回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第 3 回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 4 回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第 5 回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第 6 回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第 7 回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第 8 回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第 9 回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第 10 回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第 11 回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第 12 回	調査レポートの作成（1）	知見と意義を検討する
第 13 回	調査レポートの作成（2）	限界と課題を検討する
第 14 回	調査レポートの発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、調査レポートの作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）と調査レポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. It also enhances the development of students' skill in making academic papers and taking field research. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

長山　恵一

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連した卒業論文作成に向けて、自らが関心をいだく事象やテーマを論文にまとめるために必要な集団的なディスカッションと指導を行う。

【到達目標】
卒業論文制作に向けて、研究テーマを決定し、調査・研究を行い、それを他のゼミ生に向けて発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文のテーマに関する発表およびグループでのディスカッション。調査・研究の実施と卒業論文作成のための学習。
新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となる場合があります。それにともなう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	研究計画の枠組みの検討（1）	卒業論文のテーマに基づいて、研究の目的を明確化する。
第 2 回目	研究計画の枠組みの検討（2）	卒業論文のテーマに基づいて、研究の方法を明確化する。
第 3 回目	研究計画の枠組みの検討（3）	卒業論文のテーマに基づいて、研究の仮設を考える。
第 4 回目	先行研究の収集	卒業論文のテーマに関連した先行研究を図書館で実際に収集する。
第 5 回目	先行研究の読み込み	卒業論文のテーマに関連した先行研究を皆で読み込み、討議を行う。
第 6 回目	先行研究のまとめ	卒業論文のテーマに関連した先行研究を各自がまとめる。
第 7 回目	先行研究のまとめの発表	卒業論文のテーマに関連した先行研究のまとめを皆の前で発表する。
第 8 回目	研究計画の倫理的問題の検証	研究計画に倫理的問題がないかどうかを検討する。
第 9 回目	調査・研究の方法の検討と決定	卒業論文の調査方法を検討し最終決定する。
第 10 回目	調査・研究の対象についての検討	調査・研究の対象を具体的にどう集めるかを検討する。
第 11 回目	卒業研究の全体の枠組みの決定	卒業研究の枠組みを最終的に決定する。
第 12 回目	調査・研究の実施スケジュールの検討	調査・研究の実施スケジュールを検討する。
第 13 回目	調査・研究の実施スケジュールの最終決定	調査・研究の実施スケジュールを最終決定する。
第 14 回目	調査・研究の実施スケジュールの発表	調査・研究の具体的な実施スケジュールを皆の前で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論作成のための文献調査、研究計画の作成、研究の実施、研究結果の考察などに主体的に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席等の平常点、および授業内での発表状況、卒業論文への取り組みの態度などを総合して成績を評価する（100 %）。オンラインでの開講となった際には成績評価の方法や基準が変更になる場合があります。その具体的な方法や基準は学習支援システムを通してお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【その他の重要事項】
ゼミは学生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更の可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, students will explore, present and discuss about each indepensdent psychological research activity relevant for the graduaiton thesis.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマを明確にし、テーマに関する先行研究を整理し、成果と課題を明らかにする。フィールドワーク・ヒアリングを実施し、実践上の成果と課題を明らかにする。

【到達目標】
先行研究の整理を行う。
実践現場の成果と課題を明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
1）自分のテーマと、それに即したフィールドを明確にするための報告、意見交換を繰り返す。
2）ヒアリング調査を行なう（現場訪問もしくは Zoom でのインタビュー）。
3）まとめやレポート等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	目標と進め方を確認する
2	テーマの明確化①	準備状況の報告、意見交換
3	テーマの明確化②	研究テーマ報告、意見交換
4	実践の検討①	テーマに即したフィールドの選定
5	実践の検討②	活動の概要まとめ
6	フィールドワーク準備	質問作成、日程調整
7	フィールドワーク	ヒアリングの実施
8	中間報告会	ヒアリングのまとめ
9	先行研究の検討①	論文検索、収集
10	先行研究の検討②	論文収集、リスト作成
11	先行研究の検討③	先行研究批判
12	成果報告会①	オリジナリティの確認
13	成果報告会②	論理性の確認
14	振り返り	到達点の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分のテーマに即したフィールドについて可能な限り調べる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自のテーマに即したものを紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）ヒアリングのまとめに至るプロセスを評価する。（５０％）
2）先行研究まとめの水準を評価する。（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
テーマの再設定をしてもしっかりすすめてもらえることがわかりました。

【Outline and objectives】
The first purpose of this seminar is to clarify the theme and to digest previous research on the theme. The second purpose is to conduct fieldwork and interviews.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成の仕方を学ぶ。

【到達目標】
卒業論文の作成の仕方を知り、専門演習での発表・議論を経て、論文作成を準備することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業時間外の個別指導も行い、演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマと調査方法を決定し、その調査の準備を指導する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業論文の進め方全般を知る
第 2 回	問題意識の明確化	問題意識を明確にし、ゼミ生間で共有する
第 3 回	文献の検索方法	問題意識に関連する文献の探し方を知る
第 4 回	文献の入手方法	文献を入手する方法を知る
第 5 回	文献の読み方	文献の読み方を知る
第 6 回	卒論のテーマの検討	卒論のテーマを検討する
第 7 回	卒論のテーマの決定	卒論のテーマを決定する
第 8 回	調査研究方法①	文献研究の方法を知る
第 9 回	調査研究方法②	面接法を知る
第 10 回	調査研究方法③	質問紙法を知る
第 11 回	調査方法の検討	どの調査方法で研究を行うかを検討する
第 12 回	調査方法の決定	調査方法を決定する
第 13 回	研究計画①	研究計画を検討する
第 14 回	研究計画②	研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文作成の準備を進めると共に、演習での報告が皆に伝わりやすいように、資料の作成や発表の仕方を工夫することが求められます。演習後には、演習での教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告 (70%)、ディスカッションへの参加 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【Outline and objectives】
Students learn how to prepare graduation theses.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の関心領域を中心として心理学について学習します。各自が興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行い、卒業論文の作成へとつなげます。

【到達目標】
心理学における基礎的な知識を習得するとともに、卒業論文の作成に必要な方法論について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 III では卒業研究の内容を各自が定期的にプレゼンテーションします。受講生は演習での討議を踏まえ、次の学習へ進みます。そして、指定された期日までに卒業論文を完成させます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について確認します
第 2 回	論文の構想発表 (1)	調査研究の構想について議論します
第 3 回	論文の構想発表 (2)	実験研究の構想について議論します
第 4 回	論文の構想発表 (3)	文献研究の構想について議論します
第 5 回	論文の構想発表のまとめ	研究を再構想し、議論します
第 6 回	文献レビュー (1)	調査研究に関して先行研究を概観します
第 7 回	文献レビュー (2)	実験研究に関して先行研究を概観します
第 8 回	文献レビュー (3)	文献研究に関して先行研究を概観します
第 9 回	文献レビューのまとめ	先行研究を再度、概観します
第 10 回	先行レビューに関する報告 (1)	調査研究について概要を報告します
第 11 回	先行レビューに関する報告 (2)	実験研究について概要を報告します
第 12 回	先行レビューに関する報告 (3)	文献研究について概要を報告します
第 13 回	研究計画に関する再検討	研究計画について再検討します
第 14 回	進捗状況の報告	進捗状況（方法、対象、結果等）を報告し、改善に向けた議論を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習後には、教員や受講生の助言やコメントをその後の学習に反映させ、論文を改善する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と学習の成果（50%）を総合して評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションをとりながら授業を改善していきます。本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
受講生の関心や要請に応じて授業計画は変更可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第 2 回	政策提言のテーマ設定①	関心のあるテーマの共有
第 3 回	政策提言のテーマ設定②	テーマごとにグループ結成
第 4 回	フィールドワーク計画①	活動フィールドの選定
第 5 回	フィールドワーク計画②	活動フィールドの決定
第 6 回	フィールドワーク計画③	現地での調査計画①予備調査
第 7 回	フィールドワーク計画④	現地での調査計画②本調査
第 8 回	フィールドワークの実施①	現地調査の実施①予備調査
第 9 回	フィールドワークの実施②	現地調査の実施②本調査
第 10 回	政策提言とりまとめ①	調査結果データのとりまとめ
第 11 回	政策提言とりまとめ②	調査結果の図表とりまとめ
第 12 回	政策提言とりまとめ③	政策提言申請書類作成①
第 13 回	政策提言とりまとめ④	政策提言申請書類作成②
第 14 回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR300JB

専門演習ⅡA

張　梦瑶

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次ゼミでの学習をもとに、さらに基礎的な研究能力を高めることを目標とする。報告におけるプレゼンテーション能力や積極的に実践にかかわり、分析する能力を高めることも目標とする。また、自らの卒業研究のテーマと研究方法を明確にし、関連する文献やデータを探索し、分析を行う。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献を探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。卒業研究における論文の作成方法やフィールドワークにおけるインタビューの方法などについて講義を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマ設定の方法
第 2 回	研究の方法について	講義による理解
第 3 回	仮テーマの報告	報告と指導
第 4 回	先行研究のレビュー	講義による理解
第 5 回	研究報告①	報告と討議①
第 6 回	研究報告②	報告と討議②
第 7 回	研究報告③	報告と討議③
第 8 回	研究報告④	報告と討議④
第 9 回	グループ研究のテーマ設定	テーマに関する討議①
第 10 回	研究報告⑤	報告と討議①
第 11 回	研究報告⑥	報告と討議②
第 12 回	研究報告⑦	報告と討議③
第 13 回	研究報告⑧	報告と討議④
第 14 回	研究報告⑨、前期のまとめ	報告と討議⑤ 前期の振り返りと後期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに関する文献やデータの収集、研究段階ごとのレポートの作成
準備・復習時間は４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する。また、研究テーマに応じて、自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きゼミ生の積極性を高めるための改善を図ることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】
This seminar is the purpose of improving basic research capability and the skill of presentation,and it sets the theme the reseach paper,it searches the
related paper and data.

OTR400JC

専門演習ⅢA

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習ⅢＡでは、各自の興味関心のあるテーマに関して研究を行い、卒業論文完成に向けた研究を行います。演習の時間は、各自が進めた内容を受講生間で共有し、ディスカッションを行う場となります。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を用いて研究を遂行する能力を身につけることができる。
2) これまでに身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションを行って受講生で共有し、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	専門演習の進め方についてのオリエンテーション
第 2 回	進捗報告準備 (1)	卒業論文にかかる研究計画の報告準備をします。
第 3 回	進捗状況報告 (1)	卒業論文にかかる研究計画を報告しあい，ディスカッションを行います。
第 4 回	研究の遂行 (1-1)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(1) ◆
第 5 回	研究の遂行 (1-2)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(2) ◆
第 6 回	研究の遂行 (1-3)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(3) ◆
第 7 回	研究の遂行 (1-4)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(4) ◆
第 8 回	研究の遂行 (1-5)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(5) ◆
第 9 回	研究の遂行 (1-6)	各自の研究の計画・準備・実施を進めそれらに関してディスカッションします。(6) ◆
第 10 回	進捗状況報告 (2)	卒業論文にかかる研究の進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。
第 11 回	研究の遂行 (2-1)	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(1) ◆
第 12 回	研究の遂行 (2-2)	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(2) ◆
第 13 回	研究の遂行 (2-3)	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(3) ◆
第 14 回	研究の遂行 (2-4) （専門演習Ⅲ B に続きます）	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(4) ◆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に取り組み、研究を進めていく必要があります。したがって、授業時間外の学習に多くの時間を必要とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
日本心理学会（2015）．執筆・投稿の手びき　https://psych.or.jp/manual
山田 剛史・鈴木 雅之（2017）．SPSS による心理統計　東京図書　［ゼミ費で購入するため各自が購入する必要はありません］

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、発表内容（50%）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅲ B」・「卒業論文」と合わせて履修してください。
（◆：「専門演習Ⅱ A」にも参加し、先輩としての立場からコメントすることが望まれます。）

【Outline and objectives】
This seminar deals with various concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, this seminar is held to share information for preparing graduation thesis and to enhance your research ability.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、住民、行政、企業など様々な主体の連携によるエリアマネジメントの取り組み、組織、財源、プロセス等を学ぶとともに、自ら地域コミュニティに働きかける機会を検討し、主体的に地域課題の解決に動くことのできる人材を育てます。

【到達目標】
・地域づくりや関連政策に関する実践的知識を身につける。
・まちづくり実践計画づくりを通じて、問題設定と解決力、戦略的思考力を身につける。
・グループワークを通じて、他者と協議し、共通価値を見出す力を身につける。
・まちづくりの実践とその振り返りを通じて、プロジェクトマネジメントの考え方と実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 I での取り組みを基盤としながら、異学年と協力して地域へのプロジェクトを深めていきます。また、プロジェクトからの知見を探り、卒業論文の構想へとつないでいきます。授業は、当面はオンラインを中心としながら、実施内容や新型コロナの感染状況などを考慮して対面と組み合わせて実施します。各回の授業実施方法や変更については、学習支援システム等でその都度提示します。課題へのフィードバックは、幾つかの課題の紹介や講評を通じて授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミへの期待を語り合いながら、授業の概要・目的・到達目標などを話し合います。
第 2 回	課題設定	今年度のプロジェクトを企画書にまとめ、役割分担やスケジュールの確定を行います。
第 3 回	目的と問いの共有	分担された役割について報告し、今後の進め方を協議します。
第 4 回	調査・実践方法の検討	夏休みの実践を柱に、準備事項とスケジュールの共有を進めていきます。
第 5 回	調査・実践準備 (1)	分担された仕事を、それぞれのグループが進めます。
第 6 回	調査・実践準備 (2)	プロジェクトとしての実現可能性を検証します。
第 7 回	調査・実践準備 (3)	同様のプロジェクトを他地域に探り、報告・議論します。
第 8 回	調査・実践準備 (4)	引き続き報告と議論します。
第 9 回	調査計画書のまとめ	グループ単位で、プロジェクト企画書を作成します。
第 10 回	調査計画書の共有	他学年や地域の関係者との協議を踏まえ、提案書を完成させます。
第 11 回	プレ調査の実施第 1 回	企画実施前に、その実効性を身近な場所で検証する調査を行います。
第 12 回	プレ調査の実施第 2 回	引き続き調査を続けます。
第 13 回	プレ調査を踏まえた計画書の完成	調査結果を報告し、相互にフィードバックを受けます。
第 14 回	夏休みのプロジェクト準備	夏休みに実施する企画案を完成させます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトの進行によって、授業時間外に調査、グループ作業等が多くあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題や発表など 50 %。
具体的な方法と基準は、授業開始日に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意向と理解度をよく踏まえながら進行します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を事前に準備したり、授業支援システムを用いて資料を共有することがあります。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems. By researching and joining in those challenges, this seminar try to let students grow by themselves into independent planners/practitioners of community development.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めたいと思います。

【到達目標】
演習Ⅲ B では、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第 2 回	論文計画 1	スケジュール等
第 3 回	論文計画 2	研究の進捗状況 1
第 4 回	論文計画 3	研究の進捗状況 2
第 5 回	論文執筆 1	調査テーマ、対象、方法
第 6 回	論文執筆 2	論文執筆指導 1
第 7 回	論文執筆 3	論文執筆指導 2
第 8 回	論文執筆 4	論文執筆指導 3
第 9 回	論文執筆 5	論文執筆指導 4
第 10 回	文献等レビュー 1	論文執筆指導 5
第 11 回	文献等レビュー 2	文献の探索と追加
第 12 回	文献等レビュー 3	周辺領域の文献探索
第 13 回	文献等レビュー 4	文献レビューのまとめ
第 14 回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
発表資料を事前に配布し、ディスカッションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

【到達目標】
臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表をしてもらい、それをどのように卒業論文としてまとめていけるかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第 2 回	研究の進捗状況報告 1	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。
第 3 回	研究の進捗状況報告 2	各自の卒業論文の進捗状況と課題を報告してもらいます。
第 4 回	研究の進捗状況報告 3	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらい、話し合います。
第 5 回	研究の進捗状況報告 4	各自の卒業論文の進捗状況と今後の計画を報告してもらいます。
第 6 回	データの分析結果について 1	卒業論文で収集したデータの分析結果について発表してもらいます。
第 7 回	データの分析結果について 2	卒業論文で収集したデータの分析結果について検討します。
第 8 回	データの分析結果について 3	卒業論文で収集したデータの分析結果を検討します。
第 9 回	データの分析結果について 4	卒業論文で収集したデータの分析結果について、ディスカッションします。
第 10 回	データの分析結果について 5	卒業論文で収集したデータの分析結果を見直します。
第 11 回	研究における考察について 1	各自の卒業論文における考察を検討します。
第 12 回	研究における考察について 2	各自の卒業論文における考察について、ディスカッションします。
第 13 回	研究における考察について 3	各自の卒業論文における考察を見直します。
第 14 回	まとめ	これまで取り組んできた活動について振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students are encouraged to take responsibility for their own research. Students give presentations on their own research.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除に関わる援助の実際について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景とおよび問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の研究結果を基盤としながら、グループの研究関心に基づいてさらに深め、ゼミでの質疑応答を反映させながら卒業論文へとつなげることをめざす。秋学期もオンラインまたは対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。フィールドワークは、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画	フィールドワーク先の確認・進行計画の検討・作成
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する①（現場の状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する②（支援方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する③（課題の達成状況について）
第 6 回	グループ活動①	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する①（研究テーマとの関係と方法について）
第 7 回	グループ活動②	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する②（現場の現状と課題について）
第 8 回	グループ活動③	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する③（これからの課題・活動の方向性について）
第 9 回	報告書の作成①	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する①（構成・目次について）
第 10 回	報告書の作成②	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する②（理論的検討のまとめ）
第 11 回	報告書の作成③	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する③（実践結果のまとめ）
第 12 回	報告書の作成④	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する④（校正作業）
第 13 回	報告書の発表	グループ毎に報告書をもとに発表する
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への能動的参加（６０％） 研究発表（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline and objectives】
This course deals with the tackling social exclusion and human support services.

OTR400JC

専門演習Ⅲ Ｂ

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】
現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成する。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	調査計画の報告①	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する①
第 2 回	調査計画の報告②	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する②
第 3 回	進捗状況報告①	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする①
第 4 回	進捗状況報告②	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする②
第 5 回	進捗状況報告③	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする③
第 6 回	卒業論文中間報告（第 1 回）①	完成した章を発表し、改善のための議論を行う①
第 7 回	卒業論文中間報告（第 1 回）②	完成した章を発表し、改善のための議論を行う②
第 8 回	卒業論文中間報告（第 1 回）③	完成した章を発表し、改善のための議論を行う③
第 9 回	卒業論文中間報告（第 2 回）①	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う①
第 10 回	卒業論文中間報告（第 2 回）②	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う②
第 11 回	卒業論文中間報告（第 2 回）③	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う③
第 12 回	卒業論文報告Ⅰ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う①
第 13 回	卒業論文報告Ⅱ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う②
第 14 回	卒業論文報告Ⅲ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を計画的に進める。また論文の内容が演習の仲間に十分に理解されるように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　70 %
主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）
30 %

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Discussion of issues in modern society from a psychological perspective for a deeper understanding of problems and learning about psychological assistance.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第 2 回	先行研究の検討 1	先行研究を検討する 1
第 3 回	先行研究の検討 2	先行研究を検討する 2
第 4 回	先行研究の検討 3	先行研究を検討する 3
第 5 回	先行事例の検討 1	研究テーマに関連する先行事例を検討する 1
第 6 回	先行事例の検討 2	研究テーマに関連する先行事例を検討する 2
第 7 回	先行事例の検討 3	研究テーマに関連する先行事例を検討する 3
第 8 回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第 9 回	予備調査の設計 1	予備調査先を選定する
第 10 回	予備調査の設計 2	予備調査の調査内容を設計する
第 11 回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第 12 回	予備調査結果の検討 1	予備調査の結果を文字化する
第 13 回	予備調査結果の検討 2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第 14 回	予備調査結果の検討 3	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline and objectives】
Study social welfare themes and master basic research skills

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第 2 回	先行研究の検討 1	先行研究を検討する 1
第 3 回	先行研究の検討 2	先行研究を検討する 2
第 4 回	先行研究の検討 3	先行研究を検討する 3
第 5 回	先行事例の検討 1	研究テーマに関連する先行事例を検討する 1
第 6 回	先行事例の検討 2	研究テーマに関連する先行事例を検討する 2
第 7 回	先行事例の検討 3	研究テーマに関連する先行事例を検討する 3
第 8 回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第 9 回	予備調査の設計 1	予備調査先を選定する
第 10 回	予備調査の設計 2	予備調査の調査内容を設計する
第 11 回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第 12 回	予備調査結果の検討 1	予備調査の結果を文字化する
第 13 回	予備調査結果の検討 2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第 14 回	予備調査結果の検討 3	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline and objectives】
Study social welfare themes and master basic research skills

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と援助について議論します。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的援助、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成し発表します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示します
2	発表スケジュールの話し合い	卒業論文に直結した各自の最終報告のスケジュールを話し合います
3	最終報告①	例：ゼミ生 A、B の報告
4	最終報告②	例：ゼミ生 C、D の報告
5	最終報告③	例：ゼミ生 E、F の報告
6	最終報告④	例：ゼミ生 G、H の報告
7	最終報告⑤	例：ゼミ生 I、J の報告
8	最終報告⑥	例：ゼミ生 K、L の報告
9	最終報告⑦	例：ゼミ生 M、N の報告
10	最終報告⑧	例：ゼミ生 O の報告
11	最終報告⑨	例：希望者の報告
12	最終報告⑩	例：各自の修正点の報告
13	卒論発表会の準備	卒論発表会の準備を行います
14	卒論発表会	提出された卒業論文について、各自その要旨を作成して発表し、ディスカッションを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】
You discuss the clincal problems and psychological support.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと研究方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文に向けて各自の問題関心を明確にし、それぞれ課題を設定して発表し、互いに検討していく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしてく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、ゼミの進め方について
第 2 回	論文の書き方１	論文とは何か
第 3 回	論文の書き方２	各自の関心テーマを論文にするには
第 4 回	論文の書き方３	論文を書くための約束事
第 5 回	子どもと家族の現場１	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び
第 6 回	発表１－１	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最初の３～４名）
第 7 回	発表１－２	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で次の３～４名）
第 8 回	発表１－３	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最後の３～４名）
第 9 回	子どもと家族の現場２	裁判所見学
第 10 回	発表２－１	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最初の２～３名）
第 11 回	発表２－２	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第 12 回	発表２－３	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第 13 回	発表２－４	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最後の２～３名）
第 14 回	まとめ	全体の振り返り、来年度の卒業論文作成に向けての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介された文献を読み進めること。テキストも参考にしながら来年度の卒業論文に向けて、論文テーマを検討し、必要な資料・参考文献を集めて読み進めること。
発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・日本子どもを守る会編（2021）『子ども白書 2021』かもがわ出版
・吉岡友治（2019）『マンガでやさしくわかる論文・レポートの書き方』日本能率協会マネジメントセンター
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 [第 2 版]』ミネルヴァ書房
・川村匡由（2018）『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	調査計画の報告①	調査計画の報告と検討・修正①
第 2 回	調査計画の報告②	調査計画の報告と検討・修正②
第 3 回	進捗状況報告①	進捗状況の報告と検討・修正①
第 4 回	進捗状況報告②	進捗状況の報告と検討・修正②
第 5 回	進捗状況報告③	進捗状況の報告と検討・修正③
第 6 回	卒業論文中間報告①	中間報告発表と議論・修正①
第 7 回	卒業論文中間報告②	中間報告発表と議論・修正②
第 8 回	卒業論文中間報告③	中間報告発表と議論・修正③
第 9 回	卒業論文中間報告④	中間報告発表と議論・修正④
第 10 回	卒業論文中間報告⑤	中間報告発表と議論・修正⑤
第 11 回	卒業論文中間報告⑥	中間報告発表と議論・修正⑥
第 12 回	卒業論文発表会①	卒業論文の発表と議論①
第 13 回	卒業論文発表会②	卒業論文の発表と議論②
第 14 回	卒業論文発表会③	卒業論文の発表と議論③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告 (70%)、ディスカッションへの参加 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【Outline and objectives】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱ B のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。研究会や当事者活動とのかかわりを通して、グループごとのディスカッション、プレゼンテーションを実施し、当事者支援とは何かを考究するとともに、プレゼンテーションスキルの向上についても意識していきます。さらには、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】
専門演習Ⅱ A で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。1 年を通して、当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験してもらいます。今年度は、研究会への参画などを通して、グループ活動を活発化させていきます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定と討議
3	文献検索方法	講義
4	フィールドワークのための学習	全体討議と先行研究の整理
5	フィールドワークのための講義と話し合い	全体討議とグループ学習
6	プレゼンテーション	グループごとの発表
7	プレゼンテーションと質疑応答	グループごとの発表と全体討議
8	研究成果と全体討議	フィールドワークに向けた研究成果のまとめ
9	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と話し合い
10	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と討議
11	グループ活動報告	グループごとの話し合い
12	全体討議	全体討議と課題抽出
13	個人報告	個人による活動報告
14	まとめ	1 年間の総括と次年度に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。
①久保紘章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と　展開』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】
講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講姿勢 (50%), 発表内容・提出物 (50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

長山　恵一

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連した卒業論文作成に向けて、自らが関心をいだく事象やテーマを論文にまとめるために必要な集団ディスカッションと指導を行う。

【到達目標】
卒業論文制作に向けて、研究テーマを決定し、調査・研究を行い、それを他のゼミ生に向けて発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文のテーマに関する発表およびグループでのディスカッション。調査・研究の実施と卒業論文の作成のための学習。
オンラインの開講になった場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。
課題等のフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	卒業論文の調査・研究の結果の分析	卒業論文の調査・研究の結果を具体的に分析する。
第 2 回目	卒業論文の調査・研究の結果のまとめ	卒業論文の調査・研究の結果を最終的にまとめる
第 3 回目	卒業論文の調査・研究の結果の発表	卒業論文の調査・研究の結果を皆の前で発表する
第 4 回目	卒業論文の中間発表（1）	１～４番目の学生が先行研究や調査・研究の結果を踏まえて卒論の中間発表を行う。
第 5 回目	卒業論文の中間発表（2）	５～８番目の学生が先行研究や調査・研究の結果を踏まえて卒論の中間発表を行う。
第 6 回目	卒業論文の中間発表（3）	９～１２番目の学生が先行研究や調査・研究の結果を踏まえて卒論の中間発表を行う。
第 7 回目	研究仮説と調査・研究の結果の分析	研究仮説と調査・研究の結果を分析する。
第 8 回目	研究仮説と調査・研究の結果の検討	研究仮説と調査・研究の結果を検討する
第 9 回目	卒業論文の考察を検討	卒業論文の考察の組み立て方を議論する。
第 10 回目	卒業論文の考察の仕上げ	卒業論文の考察の仕上げを行う。
第 11 回目	卒業論文の最終報告（1）	１～３番の学生が、自分の卒業論文の最終的な成果を発表する。
第 12 回目	卒業論文の最終報告（2）	４～６番の学生が、自分の卒業論文の最終的な成果を発表する。
第 13 回目	卒業論文の最終報告（3）	７～９番の学生が、自分の卒業論文の最終的な成果を発表する。
第 14 回目	卒業論文の最終報告（4）	１０～１２番の学生が、自分の卒業論文の最終的な成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文作成のための文献調査、研究計画の作成、研究の実施、研究結果の考察などに主体的に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席等の平常点、および授業内での発表状況、卒業論文への取り組みの態度などを総合して評価をする（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【その他の重要事項】
ゼミは学生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更の可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, students will explore, present and discuss about each indepensdent psychological research activity relevant for the graduaiton thesis.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期のゼミ活動をさらに発展させ、個々の関心事項を卒業研究論文に関連づけていくプロセスとする。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	2 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	2 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	フィールド調査①	個別フィールドワークの計画
第 9 回	フィールド調査②	個別フィールドワークの実施
第 10 回	フィールド調査③	個別フィールドワークのレビュー
第 11 回	3 次自主企画準備①	卒業論文の検討①
第 12 回	3 次自主企画準備②	卒業論文の検討②
第 13 回	3 次自主企画準備③	卒業論文の検討③
第 14 回	講義の振り返り	就活に向けた準備・意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の経過報告と指導。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って研究を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業時間外の個別指導も行い、演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマと調査方法を決定し、その調査と執筆を指導する。最終的には、その内容を発表してもらう。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒論の新潮状況の報告①	卒論の新潮状況を報告する
第 2 回	調査実施の指導	調査の実施の指導を受ける
第 3 回	調査結果の分析①	調査結果の分析の仕方の指導を受ける
第 4 回	調査結果の分析②	調査結果を検討する
第 5 回	卒業論文の執筆指導①	一次原稿の検討：序論
第 6 回	卒業論文の執筆指導②	一次原稿の検討：方法
第 7 回	卒業論文の執筆指導③	一次原稿の検討：結果
第 8 回	卒業論文の執筆指導④	一次原稿の検討：考察
第 9 回	卒業論文の執筆指導⑤	二次原稿の検討：序論・方法
第 10 回	卒業論文の執筆指導⑥	二次原稿の検討：結果
第 11 回	卒業論文の執筆指導⑦	二次原稿の検討：考察
第 12 回	論文の完成	論文の最終チェクを受ける
第 13 回	卒業論文発表会①	卒業論文を発表する（前半）
第 14 回	卒業論文発表会②	卒業論文を発表する（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習での報告が皆に伝わりやすいように、資料の作成や発表の仕方を工夫することが求められます。演習後には、演習での教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告および発表 (80%)、ディスカッションへの参加 (20%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当しておりません。

【Outline and objectives】
In this class, students report the progress of graduation thesis and teachers conduct guidance

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究に向けて「生きづらさ」に関わる課題についてグループで取り組み、それぞれの思いをプロジェクトとして、計画、実践につなげることを目指します。それぞれが個人の研究テーマを模索して、研究の準備を行っていきます。精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討することと合わせて関係する文献を渉猟し、卒業論文執筆に向けて研究を進め、成果を報告し、各自の学びを共有し、自らの研究について考察していきます。

【到達目標】
問題意識を高め、関心領域について研究を進め、同時に議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返りとゼミ合宿の総括
第 2 回	フィールドワーク報告（レジュメ）	フィールドワークを各自レジュメを作成して振り返り
第 3 回	フィールドワーク報告（プレゼンテーション）	フィールドワークを各自パワーポイントを作成して報告する
第 4 回	卒業研究テーマ報告	研究課題・問題意識・先行研究のレビュー・研究の目的についてディスカッション
第 5 回	図書館等での文献研究	図書館での検索演習
第 6 回	卒業研究計画報告（研究課題）	研究課題を報告
第 7 回	卒業研究計画報告（問題意識・目的）	問題意識・目的を報告
第 8 回	卒業研究計画報告（先行研究のレビュー）	先行研究のレビューを報告
第 9 回	フィールドワーク（計画）	卒業論文執筆に向けてのパイロットスタディを計画する
第 10 回	フィールドワーク	卒業論文執筆に向けてのパイロットスタディを各自行う
第 11 回	フィールドワーク（振り返り）	卒業論文執筆に向けてのパイロットスタディを振り返る
第 12 回	卒業研究成果報告（ABCD グループ）	研究成果報告（ABCD グループ）
第 13 回	卒業研究成果報告（EFGH グループ）	研究成果報告（EFGH グループ）
第 14 回	卒業研究成果報告（IJ グループ）	研究成果報告（IJ グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究報告は、報告者１名と司会者１名によりディスカッション形式で行います。報告者はレジュメを用意し、他の学生は、積極的な発言ができるように、各自論点を整理したペーパーを用意してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
演習中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での発言３０％、報告と発表３０％、リサーチペーパー４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
研究はゼミ以外の時間で各自進め、ゼミでは報告とディスカッションをする場となります。報告の際は、レジュメの作成やパワーポイントの利用など十分な準備をして行うことを求めています。

【Outline and objectives】
This class provides　a lecture on the the formal structures and styles of academic writing. The class focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research. Additionally, this class will build confidence and competence in writing more generally, preparing you for Seminar ⅢＡＢ, in which you will write a formal research paper.

OTR400JC

専門演習Ⅲ Ｂ

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**服部先生**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の関心領域を中心として心理学について学習します。各自が興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行い、卒業論文の作成へとつなげます。

【到達目標】
心理学における基礎的な知識を習得するとともに、卒業論文の作成に必要な方法論について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 IIIAB では卒業研究の内容を各自が定期的にプレゼンテーションします。受講生は演習での討議を踏まえ、次の学習へ進みます。そして、指定された期日までに卒業論文を完成させます。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。また、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	後期の授業について確認します
第 2 回	中間報告 (1)	調査研究論文の完成部分を発表し、改善のための議論を行います
第 3 回	中間報告 (2)	実験研究論文の完成部分を発表し、改善のための議論を行います
第 4 回	中間報告 (3)	文献研究論文の完成部分を発表し、改善のための議論を行います
第 5 回	論文執筆 (1)	卒業論文（調査研究）を執筆します
第 6 回	論文執筆 (2)	卒業論文（実験研究）を執筆します
第 7 回	論文執筆 (3)	卒業論文（文献研究）を執筆します
第 8 回	論文執筆状況の確認	卒業論文の執筆状況を確認します
第 9 回	卒業論文の完成と提出	卒業論文を完成させ、提出します
第 10 回	発表会の準備 (1)	配布資料（調査研究）を作ります
第 11 回	発表会の準備 (2)	配布資料（実験研究・文献研究）を作ります
第 12 回	発表会の準備 (3)	スライド（調査研究）を作ります
第 13 回	発表会の準備 (4)	スライド（実験研究・文献研究）を作ります
第 14 回	卒業論文発表会	卒業論文を発表し、質疑応答を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習後には、教員や受講生の助言やコメントをその後の学習に反映させ、論文を改善する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）と学習の成果（50%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションをとりながら授業を改善していきますので、積極的な出席を期待します。

【その他の重要事項】
受講生の関心や要請に応じて授業計画は変更可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**図司先生代講**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進める。

【到達目標】
・卒業研究の計画を立てる。
・卒業研究実施の準備ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進めるための準備を全体のディスカッションを通して行いながら、研究を始める。授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	研究テーマの検討と関連する論文等の分析①	先行研究の分析
第 3 回	研究テーマの検討と関連する論文等の分析②	先行研究の分析
第 4 回	研究テーマの検討と関連する論文等の分析③	先行研究の分析
第 5 回	研究計画の作成①	研究計画の作成
第 6 回	研究計画の作成②	研究計画の作成
第 7 回	研究計画の作成③	研究計画の作成
第 8 回	研究計画の作成④	研究計画の作成
第 9 回	研究実施の準備①	仮説の生成
第 10 回	研究実施の準備②	質問紙の作成
第 11 回	研究実施の準備③	インタビュー項目の検討
第 12 回	研究実施の準備④	インタビューガイドの作成
第 13 回	研究実施の準備⑤	分析方法の検討
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が卒業研究を進めるために、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・研究計画 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice as a social worker.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験や質問紙調査で心理的障害や心理的問題の発生・維持のしくみ・メカニズムをとらえる、心理学研究の知見や方法を学びます。
専門演習Ⅲ B では、各自の興味関心のあるテーマに関して研究を行い、卒業論文完成に向けた研究を行います。演習の時間は、各自が進めた内容を受講生間で共有し、ディスカッションを行う場となります。

【到達目標】
1) 心理学の実証的な研究の知見や方法を用いて研究を遂行する能力を身につけることができる。
2) これまでに身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションを行って受講生で共有し、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	（専門演習Ⅲ A からの続きです）研究の遂行 (2-5)	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(5) ◆
第 2 回	研究の遂行 (2-6)	各自の研究の実施・結果の分析を進めディスカッションを行います。(6) ◆
第 3 回	進捗状況報告 (3)	卒業論文にかかる研究の進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。(3)
第 4 回	研究の遂行 (3-1)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(1) ◆
第 5 回	研究の遂行 (3-2)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(2) ◆
第 6 回	研究の遂行 (3-3)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(3) ◆
第 7 回	研究の遂行 (3-4)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(4) ◆
第 8 回	研究の遂行 (3-5)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(5) ◆
第 9 回	研究の遂行 (3-6)	各自の研究の分析・考察・論文執筆を進めディスカッションを行います。(6) ◆
第 10 回	進捗状況報告 (4)	卒業論文完成に向けた進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。(1)
第 11 回	進捗状況報告 (5)	卒業論文完成に向けた進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。(2) ◆
第 12 回	研究計画発表会への参加／進捗状況報告 (6)	3 年生の次年度の卒業論文の計画についてコメントします。(1) ◆／卒業論文完成に向けた進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。(3)
第 13 回	研究計画発表会への参加／進捗状況報告 (7)	3 年生の次年度の卒業論文の計画についてコメントします。(2) ◆／卒業論文完成に向けた進捗状況を報告しあい，ディスカッションを行います。(4) ／卒業論文発表会の準備を行います。
第 14 回	卒業論文発表会	卒業論文の発表と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に取り組み、研究を進めていく必要があります。したがって、授業時間外の学習に多くの時間を必要とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
日本心理学会（2015）. 執筆・投稿の手びき　https://psych.or.jp/manual
山田 剛史・鈴木 雅之（2017）. SPSS による心理統計　東京図書　［ゼミ費で購入するため各自が購入する必要はありません］

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、発表内容（50%）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅲ A」・「卒業論文」と合わせて履修してください。
（◆：「専門演習Ⅱ B」にも参加し、先輩としての立場からコメントすることが望まれます。）

【Outline and objectives】
This seminar deals with various concepts and principles of psychology related to psychological disorders / problems.
Specifically, this seminar is held to share information for preparing graduation thesis and to enhance your research ability.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任 (CSR) や社会貢献活動、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナール の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO や社会的企業家の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。

【到達目標】
3 年次では、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読・ディスカッションを基本としながら、フィールド調査、ビジネス・コンテストなどの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期イントロダクション	講義のスケジュールや目標の確認。
第 2 回	企業、NPO/NGO に関する文献の輪読とディスカッション①	企業や NPO/NGO に関する文献の第 1 章の輪読とディスカッションを行う。
第 3 回	企業、NPO/NGO に関する文献の輪読とディスカッション②	企業や NPO/NGO に関する文献の第 2 章の輪読とディスカッションを行う。
第 4 回	企業、NPO/NGO に関する文献の輪読とディスカッション③	企業や NPO/NGO に関する文献の第 3 章の輪読とディスカッションを行う。
第 5 回	企業、NPO/NGO に関する文献の輪読とディスカッション④	輪読した文献全体の総括を行い、企業、NPO/NGO に関するテーマでディスカッションを行う。
第 6 回	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の輪読とディスカッション①	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の第 1 章の輪読を行う。
第 7 回	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の輪読とディスカッション②	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の第 2 章の輪読を行う。
第 8 回	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の輪読とディスカッション③	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の第 3 章の輪読を行う。
第 9 回	ソーシャル・ビジネスや社会的企業家に関連する文献の輪読とディスカッション④	輪読した文献全体の総括を行い、ソーシャルテーマ・ビジネスや社会的企業家に関連するでディスカッションを行う。
第 10 回	ゲストスピーカーセッション	各界で活躍しておられるゲストをお招きし、ディスカッションを行う
第 11 回	卒業論文のテーマ設定①	各人の問題意識をもとに、卒業論文のテーマを個人ベースで報告していく①
第 12 回	卒業論文のテーマ設定②	各人の問題意識をもとに、卒業論文のテーマを個人ベースで報告していく②
第 13 回	卒業論文のテーマ設定③	各人の問題意識をもとに、卒業論文のテーマを個人ベースで報告していく③
第 14 回	卒業論文のテーマ設定④	各人の問題意識をもとに、卒業論文のテーマを個人ベースで報告していく④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習Ⅱでは講義時間外にも文献収集やグループワークによる打ち合わせ、共同作業等が必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの能動的参加 50 %、ゼミでの報告 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline and objectives】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

OTR400JC

卒業論文

小野　純平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯発達心理学の視点から捉えた様々な臨床心理学的援助を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成します。

【到達目標】
興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導によります。専門演習と連動させ、発表の機会を設けます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義と問題意識を明確化 1
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	卒論の意義と問題意識を明確化 2
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ 1
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ 2
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ 3
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマに基づく研究計画の策定 1
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマに基づく研究計画の策定 2
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマに基づく研究計画の策定 3
第 9 回	論文計画の検討　Ⅳ	調査対象やテーマに基づく研究計画の策定 4
第 10 回	文献や資料などの検討　Ⅰ	文献講読とテーマに関する知識の蓄積 1
第 11 回	文献や資料などの検討　Ⅱ	文献講読とテーマに関する知識の蓄積 2
第 12 回	文献や資料などの検討　Ⅲ	文献講読とテーマに関する知識の蓄積 3
第 13 回	調査計画の検討 Ⅰ	調査方法の検討 1
第 14 回	調査計画の検討 Ⅱ	調査方法の検討 2
第 15 回	調査計画の検討 Ⅲ	調査方法の検討 3
第 16 回	中間報告　Ⅰ	進捗報告書提出と議論 1
第 17 回	中間報告　Ⅱ	進捗報告書提出と議論 2
第 18 回	中間報告　Ⅲ	進捗報告書提出と議論 3
第 19 回	論文執筆　Ⅰ	章ごとに第 1 次原稿の提出 1
第 20 回	論文執筆　Ⅱ	章ごとに第 1 次原稿の提出 2
第 21 回	論文執筆　Ⅲ	章ごとに第 1 次原稿の提出 3
第 22 回	論文完成に向けての作業　Ⅰ	二次稿提出 1
第 23 回	論文完成に向けての作業　Ⅱ	二次稿提出 2
第 24 回	論文完成に向けての作業　Ⅲ	二次稿提出 3
第 25 回	論文完成に向けての作業　Ⅳ	二次稿提出 4
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と修正 1
第 27 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	発表と修正 2
第 28 回	卒業論文提出	卒業論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%

研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
より多くの学生が発言しやすいディスカッションの方法を検討していきます。

【Outline and objectives】
This seminar is designed to support students write the graduation thesis about developmental and clinical psychology under the supervision.

SOW200JB

ソーシャルワーク演習Ⅰ

西田　ちゆき、根岸　弓、杉本　豊和、西田　純子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉及び精神保健福祉援助の知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・援助専門職として自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・援助専門職としてサービス利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・援助専門職に求められる基本的なコミュニケーション技術を実践することができる。
・援助専門職として、他領域との関連を視野に入れた援助技術の概念化・理論化を体系的に習得していく力をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１．相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。
２．個別指導、並びに集団指導を通して、地域福祉の基礎基盤と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習のねらい・進め方・留意点等
第 2 回	自己覚知 (1)	自己の特性の理解
第 3 回	自己覚知 (2)	自他の違いの理解
第 4 回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第 5 回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第 6 回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第 7 回	基本的な面接技術 (1)	面接の場と空間、傾聴の方法
第 8 回	基本的な面接技術 (2)	基本的応答技法
第 9 回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎理解
第 10 回	記録	記録の意義と技術
第 11 回	アセスメントに関する技術 (1)	情報の収集・整理・伝達の技術に関する基礎理解
第 12 回	アセスメントに関する技術 (2)	課題の発見・分析・解決の技術に関する基礎的理解
第 13 回	地域福祉の基盤整備	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、社会資源の活用や開発、ネットワーキング、サービス評価に関する基礎的理解
第 14 回	ロールプレイ	面接等の実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、専門演習Ⅱ A で学んだ高齢者福祉やケアに関する制度・政策、高齢者支援などの領域のなかで、より具体的な各自の研究テーマを選択し、研究計画を立て、研究テーマに関する先行研究の整理、フィールドワークなどを実施し、研究成果を報告し、知識を深めることを目的とします。

【到達目標】
演習Ⅱ A で学んだ知識や実践の学びを踏まえ、社会の中で、さまざまな困難や問題を抱える当事者が自ら問題解決に取り組む際に、それを支える人たちの役割や支援について理解を深めます。また、具体的な問題解決方法を検討するための研究デザイン力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門的なテーマを設定し、各自の研究テーマに基づく文献研究を行い、それらの研究成果を発表します。また、秋学期中には、福祉実践現場での実習経験から得られた知識や技術もあるので、ゼミにて福祉現場や福祉実態を検証し、より良い福祉の支援や実践のあり方を考える機会とします。また、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。なお、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のオリエンテーション	秋学期のゼミのすすめ方
第 2 回	夏期暇中の各自研究成果報告①	各自の研究内容、成果の報告①
第 3 回	夏期暇中の各自研究成果報告②	各自の研究内容、成果の報告②
第 4 回	夏期暇中の各自研究成果報告③	各自の研究内容、成果の報告③
第 5 回	研究構想報告①	各自の研究テーマおよび目的発表および議論①
第 6 回	研究構想報告②	各自の研究テーマおよび目的発表および議論②
第 7 回	研究構想と文献研究報告①	各自の研究テーマと文献研究報告と議論①
第 8 回	研究構想と文献研究報告②	各自の研究テーマと文献研究報告と議論②
第 9 回	研究構想と文献研究報告③	各自の研究テーマと文献研究報告と議論③
第 10 回	研究構想と文献研究報告④	各自の研究テーマと文献研究報告と議論④
第 11 回	卒業研究デザイン検討①	4 年生の卒論研究中間発表に参加する
第 12 回	卒業研究デザイン検討②	卒業論文作成に向けての研究目的とフィールド検討
第 13 回	卒業研究とパイロット研究実践①	卒業論文作成に向けての研究フィールド研究
第 14 回	卒業研究にむけてのまとめ	フィールド研究結果発表および議論と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文を視野に入れて、各自が関心を持っているテーマに関する文献、資料（新聞、雑誌、インターネット）を収集して、整理してください。本授業の準備時間（文献整理、考察、研究成果報告準備など）、復習時間（報告後の再整理）は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。適宜紹介します。

【参考書】
マイケル・ダン他（2020）『医療倫理超入門』岩波書店、東京大学高齢社会総合研究機構（2017,2019）『長寿時代の人生設計と社会創造』東京大学出版会など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加への姿勢・報告内容（60 %）　レポート課題（40 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
個人研究だけでなくゼミで学び、お互いに成長できるようなゼミ運営について、さらに工夫をしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
各自（もしくはグループ）の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】
4 年生の卒業研究中間報告会への参加やフィールド研究などを行います。積極的なゼミ参加と運営をのぞみます。

【Outline and objectives】
This course further examines social welfare system and care measures in the field of supporting older adults learned in the Specialized Course II A. Students are expected to single out their concrete research themes, set up research plans, conduct literature review as well as field work to present their resesarch outcome at the end of the course term.

OTR400JC

卒業論文

金築　優

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法の観点から、臨床心理学の諸問題に関するテーマについての卒業論文を執筆することを指導します。

【到達目標】
卒業論文を執筆する上で、必要な研究スキルを学び、自らの関心あるテーマについて研究を行い、卒業論文を執筆します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を行いながら、先行研究の読み方、研究計画の立案、データ収集・分析、結果の考察等の研究スキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文提出までの流れを確認します。
第 2 回	研究テーマの設定 1	各自が関心ある研究テーマを設定します。
第 3 回	研究テーマの設定 2	各自が関心ある研究テーマを考えます。
第 4 回	研究テーマの設定 3	各自が関心ある研究テーマを検討します。
第 5 回	研究方法の学習 1	研究デザインについて学びます。
第 6 回	研究方法の学習 2	データの分析方法について学びます。
第 7 回	研究方法の学習 3	研究デザインやデータの分析方法について学びます。
第 8 回	研究計画の立案 1	各自の研究計画を立案します。
第 9 回	研究計画の立案 2	各自の研究計画を立案し、検討します。
第 10 回	研究計画の立案 3	各自の研究計画を確認します。
第 11 回	データの収集 1	研究データの収集方法を検討します。
第 12 回	データの収集 2	研究データの収集方法を検討し、質的データを収集します。
第 13 回	データの収集 3	研究データの収集方法を検討し、量的データを収集します。
第 14 回	春学期のまとめ	秋学期が始まるまでの課題を明確にします。
第 15 回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第 16 回	データの分析 1	卒業論文のために収集したデータを整理します。
第 17 回	データの分析 3	卒業論文のために収集した質的データを分析します。
第 18 回	データの分析 3	卒業論文のために収集した量的データを分析します。
第 19 回	データの分析 4	卒業論文のために収集した質的・量的データを分析します。
第 20 回	研究の進捗状況の発表 1	研究の進捗状況を発表してもらいます。
第 21 回	研究の進捗状況の発表 2	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に指導します。
第 22 回	研究の進捗状況の発表 3	研究の進捗状況を発表してもらい、それを踏まえて、個別に指導します。
第 23 回	研究の進捗状況の発表 4	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を検討します。
第 24 回	研究の進捗状況の発表 5	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を話し合います。
第 25 回	卒業論文の本文執筆 1	卒業論文の本文（問題）について、指導を行います。
第 26 回	卒業論文の本文執筆 2	卒業論文の本文（目的）について、指導を行います。
第 27 回	卒業論文の本文執筆 3	卒業論文の本文（方法）について、指導を行います。
第 28 回	まとめ	卒業論文の本文の総仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文を作成するために、先行研究の展望、研究目的の明確化、データの収集・分析、結果の考察及び本文執筆を計画的に進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の研究の質（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生同士で教え合いながら、卒業論文を執筆できるような仕組みを工夫を試みます。

【Outline and objectives】
The goal of this seminar is to research about cognitive behavior therapy. Students will acquire research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research.

OTR300JB

専門演習ⅡB

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。各自が卒業研究に向けた構想をまとめ、研究計画書を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、各自が卒業研究に向けた研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第 2 回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第 3 回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 4 回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第 5 回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第 6 回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第 7 回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第 8 回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第 9 回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第 10 回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第 11 回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第 12 回	研究計画書の構想と作成（1）	知見と意義を検討する
第 13 回	研究計画書の構想と作成（2）	限界と課題を検討する
第 14 回	研究計画書の発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、研究計画書の作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレポートや研究計画書などの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. It also enhances the development of students' skill in making academic papers and taking field research. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

OTR400JC

卒業論文

久保田　幹子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学的理解を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成する。

【到達目標】
臨床心理学の諸問題の中から、興味のあるテーマを各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。
なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる①
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる②
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する①
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する②
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する③
第 9 回	文献や資料などの検討 Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる①
第 10 回	文献や資料などの検討 Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる②
第 11 回	文献や資料などの検討 Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる③
第 12 回	調査計画の検討　Ⅰ	調査方法を検討し、改善させる①
第 13 回	調査計画の検討　Ⅱ	調査方法を検討し、改善させる②
第 14 回	調査計画の検討　Ⅲ	調査方法を検討し、改善させる③
第 15 回	中間報告　Ⅰ	進捗報告書提出と議論①
第 16 回	中間報告　Ⅱ	進捗報告書提出と議論②
第 17 回	中間報告　Ⅲ	進捗報告書提出と議論③
第 18 回	論文執筆　Ⅰ	章ごとに第 1 次原稿の提出①
第 19 回	論文執筆　Ⅱ	章ごとに第 1 次原稿の提出②
第 20 回	論文執筆　Ⅲ	章ごとに第 1 次原稿の提出③
第 21 回	論文完成に向けての作業　Ⅰ	第 2 次原稿提出①
第 22 回	論文完成に向けての作業　Ⅱ	第 2 次原稿提出②
第 23 回	論文完成に向けての作業　Ⅲ	第 2 次原稿提出③
第 24 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と修正①
第 25 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	発表と修正②
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅲ	発表と修正③
第 27 回	論文完成　Ⅰ	提出に向けた最終的仕上げ作業
第 28 回	論文完成　Ⅱ	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】
Clarifying issues to discuss in senior thesis with a foundation in clinical psychology, conducting necessary research and analysis to complete a thesis

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自のテーマに関する論点を整理し、個人論文にまとめる。

【到達目標】
フィールドワークと先行研究の検討をもとに、オリジナルな論点、主張を明確にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
1）先行研究のまとめの報告、仮説の報告、論文構想の報告を行い、意見交換する。
2）フィールドワークは、状況に応じて、Zoom を活用する。
3）まとめやレポートにおけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題と進め方の確認
2	実践まとめ報告①	ポイントまとめ
3	実践まとめ報告②	オリジナルな発見の確認
4	先行研究まとめ①	概要をまとめる
5	先行研究まとめ②	仮説・オリジナリティの検討
6	論文構想の検討①	構想の作成
7	論文構想の検討②	構想案の作成
8	論文構想発表会①	オリジナリティの確認
9	論文構想発表会②	論理性の確認
10	個人論文執筆①	進捗上の課題の検討
11	個人論文執筆②	進捗状況の確認
12	個人論文執筆③	初稿の検討
13	個人論文執筆④	改訂校の作成
14	個人論文報告会	意見交換と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まとめと、論文の執筆の時間を確保すること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自のテーマに即した適切な文献を指定する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プロセス評価（５０％）、論文の完成度（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
個人テーマの決定が重要なので、テーマの変更が必要な人へは、早めに対応します。

【Outline and objectives】
The goal of this seminar is to consider issues on each theme and write a own original report.

OTR400JC

卒業論文

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題や援助に関する卒業論文の執筆の指導を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関連する研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別の指導を行いながら、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の基準、成績評価の条件等を提示します。
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマが収れんするように指導を行います。例：ゼミ生 A～E
3	個人テーマの選定②	例：ゼミ生 F～J
4	個人テーマの選定③	例：ゼミ生 J～O
5	先行研究レビューの指導①	論文執筆のための先行研究をレビューを指導します。例：ゼミ生 A～E
6	先行研究レビューの指導②	例：ゼミ生 F～J
7	先行研究レビューの指導③	例：ゼミ生 J～O
8	研究方法の指導①	各自の卒論テーマに沿った研究方法を指導します。例：ゼミ生 A～C
9	研究方法の指導②	例：ゼミ生 D～F
10	研究方法の指導③	例：ゼミ生 G～I
11	研究方法の指導④	例：ゼミ生 J～L
12	研究方法の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
13	研究方法の指導⑥	希望者への指導
14	データ収集のための準備の指導、まとめ	データ収集のための準備について指導し、春学期のふりかえりとまとめを行います
15	秋学期のガイダンス	秋学期のゼミの進め方についてガイダンスします
16	データの収集と分析の指導①	各自のデータの収集と分析の方法について指導します。例：ゼミ生 A～C
17	データの収集と分析の指導②	例：ゼミ生 D～F
18	データの収集と分析の指導③	例：ゼミ生 G～I
19	データの収集と分析の指導④	例：ゼミ生 J～L
20	データの収集と分析の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
21	卒論執筆指導①	卒論執筆のための最終的な指導を行います。例：ゼミ生 A、B
22	卒論執筆指導②	例：ゼミ生 C、D
23	卒論執筆指導③	例：ゼミ生 E、F
24	卒論執筆指導④	例：ゼミ生 G、H
25	卒論執筆指導⑤	例：ゼミ生 I、J
26	卒論執筆指導⑥	例：ゼミ生 K、L
27	卒論執筆指導⑦	例：ゼミ生 M、N
28	卒論執筆指導⑧、まとめ	例：ゼミ生 M、O、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果に基づき、全員が有意義な卒業論文を完成できるようにていねいな指導をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的にわかりやすく指導します。

【Outline and objectives】
You write graduation thesis on clincal psychology.

OTR300JB

専門演習ⅡB

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	活動課題の検討	第 1 次予選で指摘された課題の整理
第 2 回	フィールドワーク計画①	補足調査の計画①
第 3 回	フィールドワーク計画②	補足調査の計画②
第 4 回	フィールドワークの実施①	補足調査の実施①
第 5 回	フィールドワークの実施②	補足調査の実施②
第 6 回	フィールドワーク成果①	現地調査結果データのとりまとめ
第 7 回	フィールドワーク成果②	現地調査結果の図表とりまとめ
第 8 回	政策提言の補足修正①	発表原稿作成①
第 9 回	政策提言の補足修正②	発表原稿作成②
第 10 回	発表練習	発表原稿の確認
第 11 回	活動とりまとめ①	報告書作成①目次構成
第 12 回	活動とりまとめ②	報告書作成②各章作成
第 13 回	活動とりまとめ③	報告書作成③考察作成
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR400JC

卒業論文

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い研究テーマを選定する。必要な調査・分析、あるいは文献研究に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
①自分の問題意識を明確化させ、臨床心理学と学問的に関連付けることができる。②調査研究や文献探索の方法が分かる。③学術的な文章の書き方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習Ⅲと連動させて発表の機会を設ける。授業計画は学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性があり得る。オフィス・アワーで、それぞれの課題に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化Ⅰ	問題意識を明確化する。
第 2 回	問題意識の明確化Ⅱ	問題意識をまとめる。
第 3 回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の方法を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法をより具体的に学ぶ。
第 5 回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の方法を具体的に決定する。
第 6 回	論文計画の検討Ⅰ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の概要を策定する。
第 7 回	論文計画の検討Ⅱ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の内容を指導する。
第 8 回	論文計画の検討Ⅲ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の詳細を検討していく
第 9 回	論文計画の検討Ⅳ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画を最終的に決定する。
第 10 回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を収集し、整理していく。
第 11 回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、知識を蓄積する。
第 12 回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、知識をまとめていく。
第 13 回	調査計画の検討Ⅰ	調査計画の可能性を話し合う。
第 14 回	調査計画の検討Ⅱ	調査計画の詳細を検討しする。
第 15 回	調査計画の検討Ⅲ	調査計画を最終的に決定する。
第 16 回	中間報告Ⅰ	進捗状況を報告する
第 17 回	中間報告Ⅱ	進捗状況を検討する
第 18 回	中間報告Ⅲ	卒論の調査・研究の最終的な結果を報告する
第 19 回	論文執筆の指導Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第１次原稿を指導する
第 20 回	論文執筆の指導Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第１次原稿を指導する
第 21 回	論文執筆の指導Ⅲ	「結果」「考察」について第１次原稿を提出させる
第 22 回	論文執筆の指導Ⅳ	「はじめに」「論文の目的」について、第２次稿を指導する
第 23 回	論文執筆の指導Ⅴ	「先行研究」「仮説」について第２次稿を提出させる
第 24 回	論文執筆の指導Ⅵ	「結果」について第２次稿を指導する
第 25 回	論文執筆の指導Ⅶ	「考察」について第２次稿を指導する
第 26 回	論文完成	論文の最終チェック
第 27 回	論文の発表会Ⅰ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第 28 回	論文の発表会Ⅱ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を行う場合には心理的な統計処理に関する知識や技法は各自でマスターしておくこと。文献研究を行う場合には文献研究に関連する基礎的な専門知識を事前に学習しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み（30%）とその内容（70%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度のアンケート結果集計後検討したい。

【Outline and objectives】
We will specify a theme of one's interest, and choose that theme in conjunction with clinical psychology. We will perform necessary investigation, analysis, document study in order to complete a graduation thesis.

OTR300JB

専門演習ⅡB

張　梦瑶

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習をもとに、グループ研究をさらに進展させ、ゼミ報告会にて報告する。
卒業研究の準備を進め、研究テーマを明確化するとともに、先行研究のレビューや関連するデータを収集し、分析する。また、適切な研究方法について検討する。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し、論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献や関連するデータを探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ゼミと合同で研究報告会を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋期授業の流れ
第 2 回	フィールドワークの方法、インタビューについて	講義による理解
第 3 回	事例分析について	講義による理解
第 4 回	研究報告①	報告と討議①
第 5 回	研究報告②	報告と討議②
第 6 回	研究報告③	報告と討議③
第 7 回	研究報告④	報告と討議④
第 8 回	グループ報告①	グループ報告と討議①
第 9 回	グループ報告②	グループ報告と討議②
第 10 回	合同ゼミ・卒論報告会	卒論報告会への参加
第 11 回	研究報告⑤	先行研究のレビュー
第 12 回	研究報告⑥	研究方法について
第 13 回	研究報告会に向けて	研究報告の準備
第 14 回	合同ゼミ・研究報告会	公開研究会における研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマに関する先行研究、関連するデータの収集・分析を行う。
研究の段階ごとにレポートを課す。
準備・復習時間は、4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する、自らの研究テーマに関する文献等を探索すること。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考に、より学生が積極性を高め、充実したゼミとなるよう図る。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】
It proceeds with the reserch by the group and it dose the presentation of the research.AlsA,it collects a data about the own reserch subject and it proceeds with the analysis.

OTR400JC

卒業論文

長山　恵一

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査、あるいは文献研究に基づいて文章を完成させる。

【到達目標】
①臨床心理学への問題意識を明確化させ、自らが関心を抱いている事象と臨床心理学を学問的に関連付けることができる。
②調査研究や文献探索の方法を学び、自ら文章を組み立てることができる。
③学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。できる限り専門演習と連動させて発表の機会を設ける。オンラインでの開講となった場合、それにともなう各回の授業計画の変更等については学習支援システムでその都度お知らせします。課題等に対するフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化Ⅰ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化する。
第 2 回	問題意識の明確化Ⅱ	卒論の意義を学び、問題意識をまとめる。
第 3 回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の方法を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法をより具体的に学ぶ。
第 5 回	調査研究方法の決定	調査方法、分析の方法を具体的に決定する。
第 6 回	論文計画の検討Ⅰ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の概要を策定する。
第 7 回	論文計画の検討Ⅱ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の内容を指導する。
第 8 回	論文計画の検討Ⅲ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の詳細を検討していく
第 9 回	論文計画の最終決定	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画を最終的に決定する。
第 10 回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を収集し、整理していく。
第 11 回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積する。
第 12 回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識をまとめていく。
第 13 回	調査計画の検討Ⅰ	調査計画の可能性について話し合う。
第 14 回	調査計画の検討Ⅱ	調査計画の詳細を具体的に検討し、改善していく。
第 15 回	調査計画の最終決定	調査計画を最終的に決定していく。
第 16 回	調査・研究の結果の中間報告Ⅰ	卒論の調査・研究の進捗状況を報告する
第 17 回	調査・研究の結果の中間報告Ⅱ	卒論の調査・研究の進捗状況について検討する
第 18 回	調査・研究の結果の最終報告	卒論の調査・研究の最終的な結果を報告する
第 19 回	論文執筆の指導Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第 1 次原稿を指導する
第 20 回	論文執筆の指導Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第 1 次原稿を指導する
第 21 回	論文執筆の指導Ⅲ	「結果」「考察」について第 1 次原稿を提出させる
第 22 回	論文完成に向けての作業Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第二次稿を指導する
第 23 回	論文完成に向けての作業Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第二次稿を提出させる
第 24 回	論文完成に向けての作業Ⅲ	「結果」について第二次稿を指導する
第 25 回	論文完成に向けての作業Ⅳ	「考察」について第二次稿を指導する
第 26 回	文章最終仕上げⅠ	「はじめに」と「論文の目的」について修正を加える
第 27 回	文章最終仕上げⅡ	「先行研究」「仮説」について修正を加える
第 28 回	文章最終仕上げⅢ	「結果」「考察」について修正を加える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習をできる限り連動させる。調査研究を行う場合には心理的な統計処理に関する知識や技法は各自でマスターしておくこと。文献研究を行う場合には、文献研究に関連する基礎的な専門知識を事前に学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%　　研究への取り組み　20%。
オンラインでの開講となった場合は、それにともない成績評価の方法と基準も変更する場合がある。具体的な方法や基準は学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
上記の授業計画は個別学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, students will explore, present and discuss research activities related to the graduation thesis, as well as complete the thesis.

OTR300JB

専門演習ⅡB

今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、行政、ＮＰＯ、住民グループ、商店街・自治会など様々な主体が、地域の問題に対し、自律的にまちづくりを進めているエリアマネジメントの事例から、その取り組み、組織、財源、プロセス等を学ぶとともに、自ら地域コミュニティに働きかける機会を検討し、主体的に地域課題の解決に動くことのできる人材を育てます。

【到達目標】
・地域づくりや関連政策に関する実践的知識を身につける。
・まちづくり実践計画づくりを通じて、問題設定と解決力、戦略的思考力を身につける。
・グループワークを通じて、他者と協議し、共通価値を見出す力を身につける。
・まちづくりの実践とその振り返りを通じて、プロジェクトマネジメントの考え方と実践力を身につける。
・研究計画を策定し、自らテーマを深めていく学術的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
夏の調査やプロジェクトの振り返りとまとめを行うと共に、下級生に引き継ぐ準備を進める。並行して、卒論のテーマ設定や調査方法の検討を進めていく。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。課題へのフィードバックは、幾つかの課題の紹介や全体的な講評を通じて、授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期イントロダクション	夏休み中のプロジェクトを振り返り、専門演習 IIB の計画を検討する。
第 2 回	問題意識の共有	個人研究に向けて、各自の問題意識の共有を行う。
第 3 回	研究計画書の提出・発表 (1)	個人研究に向けて、研究計画書を作成し、発表する。
第 4 回	研究計画書の提出・発表 (2)	個人研究に向けて、研究計画書を作成し、発表する。
第 5 回	研究計画書の提出・発表 (3)	個人研究に向けて、研究計画書を作成し、発表する。
第 6 回	既往研究のまとめ・報告 (1)	個人研究に関連する既往研究のまとめを報告し、議論する。
第 7 回	既往研究のまとめ・報告 (2)	個人研究に関連する既往研究のまとめを報告し、議論する。
第 8 回	既往研究のまとめ・報告 (3)	個人研究に関連する既往研究のまとめを報告し、議論する。
第 9 回	調査報告・議論 (1)	4 年生と一緒に調査報告会を行い、卒業研究への自覚を高めていく。
第 10 回	調査報告・議論 (2)	4 年生と一緒に調査報告会を行い、卒業研究への自覚を高めていく。
第 11 回	調査報告・議論 (3)	4 年生と一緒に調査報告会を行い、卒業研究への自覚を高めていく。
第 12 回	調査報告・議論 (4)	4 年生と一緒に調査報告会を行い、卒業研究への自覚を高めていく。
第 13 回	卒業研究中間報告会	卒業研究に向けての進捗を確認し、残された課題の明確化を行う。
第 14 回	卒業研究発表会参加	4 年生の卒論発表会に参加し、次年度に向けて自身の課題を発見する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを進めるための調査、グループでの作業や話し合いがあります。また、卒論計画に向けての課題図書等は必ず読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜、指示します。

【参考書】
必要に応じて、適宜、推薦または指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 点、課題や発表など 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の意向と理解度をよく踏まえながら進行します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を事前に準備したり、授業支援システムを用いて資料を共有することがあります。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、変更する可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems.　By researching and joining in those challenges, this seminar try to let students grow by themselves into independent planners/practitioners of community development.

OTR400JC

卒業論文

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
問題意識の明確化を行い、テーマおよび調査方法を決定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
○自分の問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○関心のある問題を調査するための適切な方法が分かる。
○学術的な文章の書き方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅲでの報告と連動させて、原則、個別指導で行う。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化①	問題意識について自由に語る
第 2 回	問題意識の明確化②	問題意識を明確化する
第 3 回	文献を検索	問題意識に関連する文献の探し方を知る
第 4 回	文献検索の経過報告①	文献検索の経過を報告する
第 5 回	文献検索の経過報告②	文献検査の結果を報告する
第 6 回	卒論のテーマの検討	卒論のテーマを検討する
第 7 回	卒論のテーマの決定	卒論のテーマを決定する
第 8 回	調査方法の紹介①	文献研究の方法を知る
第 9 回	調査方法の紹介②	面接法を知る
第 10 回	調査方法の紹介③	質問紙法を知る
第 11 回	調査方法の検討①	調査方法を検討する
第 12 回	調査方法の検討②	調査方法を決定する
第 13 回	研究計画①	研究計画を検討する
第 14 回	研究計画②	研究計画を決定する
第 15 回	中間報告①	進捗状況の報告
第 16 回	調査実施	調査実施の指導
第 17 回	調査結果の分析①	調査の分析の仕方を検討する
第 18 回	調査結果の分析②	調査結果を検討する
第 19 回	卒業論文の執筆①	第一次原稿提出：序論
第 20 回	卒業論文の執筆②	第一次原稿提出：方法
第 21 回	卒業論文の執筆③	第一次原稿提出：結果
第 22 回	卒業論文の執筆④	第二次原稿提出：考察
第 23 回	卒業論文の執筆⑤	二次原稿提出：序論・方法
第 24 回	卒業論文の執筆⑥	二次原稿提出：結果
第 25 回	卒業論文の執筆⑦	二次原稿提出：考察
第 26 回	論文完成	論文の最終チェック
第 27 回	卒業論文の発表会①	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第 28 回	卒業論文の発表会②	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導および専門演習Ⅲの前は、卒業論文の作成を進め、その進行状況と疑問点などを報告できるように準備をすることが求められます。指導および演習の後は、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文の作成に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み (20%) とその内容（80%）。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はアンケートを実施しておりません。

【Outline and objectives】
Students will clarify problem awareness, decide the theme and survey method, and complete the graduation thesis.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

篠原　亮次

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きる喜びを大切にできる能力を育むための、人間理解と福祉・保健医療システムの関係について探求する。

【到達目標】
卒業論文の完成と提出をおこなう。
ゼミ生後輩に自分達が経験した実習状況及び学び、さらに就活やその他の体験からの学びについて伝達講習をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習は学生主体の運営を主軸にしながら、学生の思考や体験の形成に必要だと教員が判断した内容については、学生と話し合いの上で追加していきます。感性豊かに人間観察と福祉システムのあり方について探求していくことを目的に、公共政策的視点でウエルビーングを追求していって欲しいと考えています。仲間を認め合い、リーダーシップやメンバーシップを柔軟に実行しながら、チームワークの向上に労を惜しまないこと、各学生の研究テーマは自由に提案してください。教員も柔軟に対応します。
お互いの意見交換を通して、個々の学生の能力が向上し、将来のリーダーとして成長していくことを期待しています。各回の授業計画の変更については、学習支援システムまたはメール等でその都度提示します。また、課題等の提出フィードバックは授業の初めに行い、教員や学生同士で情報の共有を行うことを基本にしますが、その他「学習支援システム」やメール等を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスではコミュニケーションを円滑に図るとともに今後のルールやプログラム作成に向けて話し合う。
2	係の選出 1 年間のプログラム企画	係の選出および決定 1 年間のプログラム企画①
3	1 年間のプログラム修正および決定	1 年間のプログラム修正および決定②
4	演習①	プログラムに添って活動①
5	演習②	演習プログラムに添って実施②
6	演習③	演習プログラムに添って実施③
7	演習④	ゼミテーマに基づき学生達が主体的に演習内容を提案④
8	演習⑤	前回の内容に引き続く演習⑤
9	演習⑥	前回の内容に続く演習⑥
10	4 年生卒業論文中間報告、国家試験対策も若干視野に入れながら研究のまとめ	卒業研究中間報告を実施。
11	演習①	演習プログラムに添って演習①
12	演習②	演習プログラムに添って演習②
13	演習③	演習プログラムに添って演習③
14	演習④	演習プログラムに添って演習④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出席義務化。遅刻早退基本的に厳禁。
ただし、都合により不可能な場合は事前に連絡するなど、基本的な社会的マナーのある言動を期待しています。
ゼミの活動に必要な文献購読能力向上に向けての個人的努力を求めます。
課題発表では各自責任もって準備を遂行して欲しい。
卒業論文指導は適宜行うため自分から積極的なアポイントをとる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要なテキストや参考文献は演習中に随時示します。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常考査５０％、卒業論文提出と内容等を５０％、総合的に評価。春学期の多くがオンラインでの開講となった場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムもしくはメール等で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
4 年生は、就活をはじめ社会福祉士国家試験準備も控えているため、卒業論文は、計画的に取り組んでいく必要性が大きい。時間的には大変そうな反応が時折聞かれるが達成感を味わって頂きたい。
自分の自由なテーマを選び、限られた時間の中で論文完成をめざして創造することの苦しさと、喜びを大いに楽しんで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
必要時、視聴覚教材を利用する。

【Outline and objectives】
Learn in a pratical way the human understanding to nurture the ability to cherish the joy of living and the relevance of welfare,health care ,and medical systems.

OTR400JC

卒業論文

服部　環

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて問題意識を明確化し、必要な先行研究を概観し、論文を完成させます。

【到達目標】
各自が関心のある心理学の研究テーマを選び、文献研究もしくは調査・実験法に基づいて卒業論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
主に個別指導としますが、専門演習 IIIAB と連動させ、研究発表の機会を設けます。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。また、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の予定を確認します
第 2 回	問題意識の明確化	卒論の意義を学び、問題意識を明確にします
第 3 回	研究方法の学習 (1)	研究方法（調査法）と分析法を確認し、学習を深めます
第 4 回	研究方法の学習 (2)	研究方法（実験法）と分析法を確認し、学習を深めます
第 5 回	研究方法の学習 (3)	研究方法（文献研究法）と分析法を確認し、学習を深めます
第 6 回	研究テーマに関する検討 (1)	研究テーマ（調査法）について議論し、研究計画を立てます
第 7 回	研究テーマに関する検討 (2)	研究テーマ（実験法）について議論し、研究計画を立てます
第 8 回	研究テーマに関する検討 (3)	研究テーマ（文献研究法）について議論し、研究計画を立てます
第 9 回	先行研究に関する概観 (1)	文献（調査法）を読み、テーマに関する知識を深めます
第 10 回	先行研究に関する概観 (2)	文献（実験法）を読み、テーマに関する知識を深めます
第 11 回	先行研究に関する概観 (3)	文献（文献研究法）を読み、テーマに関する知識を深めます
第 12 回	研究計画の検討 (1)	研究計画（調査法）を検討し、改善します
第 13 回	研究計画の検討 (2)	研究計画（実験法）を検討し、改善します
第 14 回	研究計画の検討 (3)	研究計画（文献研究法）を検討し、改善します
第 15 回	まとめ	春学期を振り返り、まとめます
第 16 回	ガイダンス	秋学期の予定を確認します
第 17 回	中間報告会 (1)	進捗状況（調査）を報告書として提出し、その内容を議論します
第 18 回	中間報告会 (2)	進捗状況（実験・文献研究）を報告書として提出し、その内容を議論します
第 19 回	論文内容に関する検討	作成したところまでを提出し、その内容を議論します
第 20 回	論文の加筆・修正 (1)	再度、論文（調査）を加筆し、誤りを修正します
第 21 回	論文の加筆・修正 (2)	再度、論文（実験・文献研究）を加筆し、誤りを修正します
第 22 回	論文執筆	論文執筆を続けます
第 23 回	最終仕上げ (1)	卒業論文の最終仕上げを始めます
第 24 回	最終仕上げ (2)	最終的な仕上げを続けます
第 25 回	卒業論文提出	卒業論文を提出します
第 26 回	配布資料作成	卒業論文発表会用の配布資料を作ります
第 27 回	スライド作成	卒業論文発表会用のスライドを作ります
第 28 回	卒業論文発表会	卒業論文発表会を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習 III（A、B）の内容と関連します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じして紹介します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み（50%）と卒業論文の出来映（50%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、より良い方法を検討しますので、積極的に論文執筆に取り組むことを期待します。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn about researches that are conducted to study major subdisciplines of psychology, and develop academic skills related to reading and summarizing academic papers. The primary purpose of this course is to assist students in writing undergraduate thesis.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の地域的取り組みや現場実践について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求し、レポート報告にまとめる。春学期はオンラインまたは対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅰ、Ⅱとの合同面接
第 3 回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第 4 回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第 5 回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査研究報告書
第 6 回	先行研究のレビュー②	関連領域の論文
第 7 回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①先行研究からの課題の整理
第 8 回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②これまでのフィールドワークの振り返り
第 9 回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワークと研究テーマの再検討
第 10 回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワーク計画の検討
第 11 回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況の確認
第 12 回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第 13 回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第 14 回	まとめ	グループ毎に春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書、論文、事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への能動的参加（３０％）
研究発表（４０％）
レポート（３０％）

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline and objectives】
This course deal with tackling social exclusion and social support services.

OTR400JC

卒業論文

望月　聡

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に関わる研究遂行や論文執筆に関する指導を行います。
完成度の高い卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
1) 研究テーマに関わる専門的な知見や手法を学ぶことができます。
2) 実際に研究を遂行する経験によって、研究デザインや研究法、統計的分析などの技能を深く身につけることができます。
3) 卒業論文の執筆を経験することにより、論文執筆の技能を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導によります。専門演習と連動させ、発表の機会を設けます。対面時に直接もしくはメールにより、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業論文作成のプロセスについて。
第 2 回	研究のかたちをつくる (1-1) リサーチクエスチョンの設定	研究のアイデアから、関連する研究論文を検索・調査し、読んでみる。
第 3 回	研究のかたちをつくる (1-2) リサーチクエスチョンの設定	自分の経験から生じた疑問や関心をリサーチクエスチョンの形に構造化する。
第 4 回	研究のかたちをつくる (1-3) リサーチクエスチョンの設定	臨床心理学研究における典型的な問いの形、研究デザインや統計的手法のバリエーションの観点から、自らのリサーチクエスチョンを洗練させる。
第 5 回	研究のかたちをつくる (1-4) リサーチクエスチョンの設定	優れたリサーチクエスチョンが備えるべき 5 つの条件に照らして吟味し、リサーチクエスチョンを確定させる。
第 6 回	研究のかたちをつくる (2-1) 仮説の導出	仮説検証型研究となるのか、仮説生成型研究になるのかを吟味する。
第 7 回	研究のかたちをつくる (2-2) 仮説の導出	データの分析枠組み、研究者と対象との関係性などについて検討し、仮説を設定する（仮説検証型研究の場合）。
第 8 回	研究のかたちをつくる (3-1) 研究デザインの立案	研究法（実験法・調査法・観察法・面接法・検査法）について検討する。
第 9 回	研究のかたちをつくる (3-2) 研究デザインの立案	研究デザイン（仮説検証型／仮説生成型、量的研究／質的研究）の観点、および研究法の観点から総合的に吟味し、研究計画を決定する。
第 10 回	研究のかたちをつくる (4) 研究遂行の準備	研究計画に沿って研究実施の準備を行う（実験や質問紙調査等の実施に必要なマテリアルを準備し点検する）。
第 11 回	研究を遂行する (1-1) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(1)
第 12 回	研究を遂行する (1-2) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(2)
第 13 回	研究を遂行する (1-3) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(3)
第 14 回	中間まとめ	現在までの進捗状況を確認し、第 15 回以降の予定を確認します。
第 15 回	研究を遂行する (2-1) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(1)
第 16 回	研究を遂行する (2-2) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(2)
第 17 回	研究を遂行する (2-3) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(3)
第 18 回	研究を遂行する (3-1) 結論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(1)
第 19 回	研究を遂行する (3-2) 結論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(2)
第 20 回	研究を遂行する (3-3) 結論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(3)
第 21 回	論文を執筆する (1)	論文の「方法」セクションの執筆完了を目指す。
第 22 回	論文を執筆する (2)	論文の「結果」セクションの執筆完了を目指す。
第 23 回	論文を執筆する (3)	論文の「問題と目的」セクションの執筆完了を目指す。
第 24 回	論文を執筆する (4)	論文の「考察」セクションの執筆完了を目指す。
第 25 回	論文を執筆する (5)	論文のその他のセクション（「引用文献」「目次」等）の執筆完了を目指し、論文全体の完成に近づける。
第 26 回	論文を完成させる (1)	論文全体を通して推敲する。
第 27 回	論文を完成させる (2)	卒業論文を最終的に仕上げる。
第 28 回	論文を完成させる (3)	論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文作成に係る指導を受ける科目であるため、主体的に取り組み、研究を進めていく必要があります。したがって、授業時間外の学習に多くの時間を必要とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
日本心理学会（2015）. 執筆・投稿の手びき　https://psych.or.jp/manual
山田 剛史・鈴木 雅之（2017）. SPSS による心理統計　東京図書　［ゼミ費で購入するため各自が購入する必要はありません］

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80 %）、研究への取り組み（20 %）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「専門演習Ⅲ A」・「専門演習Ⅲ B」と合わせて履修してください。
上記の授業計画は個別学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide guidance on doing research and writing for graduate thesis.

OTR400JB

専門演習ⅢＡ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第 2 回	テーマに関する報告１	卒論テーマを報告する１
第 3 回	テーマに関する報告２	卒論テーマを報告する２
第 4 回	テーマに関する報告３	卒論テーマを報告する３
第 5 回	先行研究に関する報告１	先行研究をまとめ報告する１
第 6 回	先行研究に関する報告２	先行研究をまとめ報告する２
第 7 回	先行研究に関する報告３	先行研究をまとめ報告する３
第 8 回	先行研究に関する報告２回目１	先行研究をまとめ報告する４
第 9 回	先行研究に関する報告２回目２	先行研究をまとめ報告する５
第 10 回	先行研究に関する報告２回目３	先行研究をまとめ報告する６
第 11 回	調査フィールドに関する報告１	調査フィールドの概要と調査内容を報告する１
第 12 回	調査フィールドに関する報告２	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第 13 回	調査フィールドに関する報告３	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第 14 回	まとめ	研究内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline and objectives】
Discuss the theme of the graduation thesis

LANe200JC

英語専門演習ⅠＡ

髙取　康之

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で自分の考えをまとめて発表できるようにすることを主眼とする授業である。毎回英語でインター・アクティブなやり取りを実践する。

【到達目標】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回授業内でプレゼンテーションを実施し、英語の運用能力を向上させることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに各章に関して英語で発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	My Club Activities	クラブ活動について スピーチ演習
第 2 回	What Do You Want to Do with Your Life?	人生について スピーチ演習
第 3 回	映画で学ぼう①	英語を聞き取る①
第 4 回	映画で学ぼう②	英語を聞き取る②
第 5 回	My Part-time Job	アルバイトについて スピーチ演習
第 6 回	Should Alcohol Abuse Be Tolerated?	アルコール問題について スピーチ演習
第 7 回	Smorking Should be Banned in All Public Places	喫煙問題について スピーチ演習
第 8 回	映画で学ぼう①	英語を聞き取る①
第 9 回	映画で学ぼう②	英語を聞き取る②
第 10 回	What's Wrong with Downloading?①	ダウンロードについて① スピーチ演習
第 11 回	What's Wrong with Downloading?②	ダウンロードについて② スピーチ演習
第 12 回	Pet Owners Should Be Responsible for Their Pet	ペット問題について① スピーチ演習
第 13 回	Pet Owners Should Be Responsible for Their Pet	ペット問題について② スピーチ演習
第 14 回	まとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語の番組や映画を常日頃見てください。一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「Your first speech and presentation」　Shawan M. Clankie　Nan'un-do　2000 円　2011 年

【参考書】
英字新聞と雑誌

【成績評価の方法と基準】
テスト７０％
平常点３０％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you are going to present your idea among your classmates so this class is going to be interactive.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第 2 回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第 3 回	論文構想検討	前回の発表をもとに論文構想を検討
第 4 回	論文構想発表	検討した結果の論文構想の発表
第 5 回	文献検討：収集	論文作成に必要な関連文献を収集
第 6 回	文献検討：レビューの仕方	関連文献のレビューの仕方を学ぶ
第 7 回	文献検討：レビュー論文執筆	関連文献のレビューを書いてみる
第 8 回	文献検討：レビュー論文の発表	各自の文献レビューを発表する
第 9 回	文献検討：検討	文献レビューの再検討
第 10 回	資料収集の検討	論文テーマに沿った調査・フィールドの検討
第 11 回	資料収集の準備	調査やフィールドスタディの準備
第 12 回	資料の収集	調査やフィールドスタディの実施
第 13 回	資料の収集と再検討	論文のテーマに沿った、資料・データの収集と分析
第 14 回	進捗状況の発表	状況確認と夏休み課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒論の書き方 [第２版]』ミネルヴァ書房
・吉岡友治（2019）『マンガでやさしくわかる論文・レポートの書き方』日本能率協会マネジメントセンター
・川村匡由（2018）『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40 %）、提出物（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline and objectives】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

LANe200JC

英語専門演習Ｉ B

髙取　康之

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グループを形成し章ごとのタイトルに関連した内容で発表をしてもらい、プレゼンテーションの能力に磨きをかけることを目的とする。

【到達目標】
プレゼンテーションを中心に授業を進め、英語の運用能力を向上させ、自在に英語で自分の考えを他者に伝えることが出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回各グループごとに各章に関して英語で発表をしてもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	How can we prevent suicides?	自殺はどうすればくい止められるか
第 2 回	Colleges should offer driving lessons	大学で自動車運転の授業を開講すべきである
第 3 回	Movie ①	映画で学ぼう①
第 4 回	Movie ②	映画で学ぼう②
第 5 回	Schools should not force students to do volunteer work	ボランティア活動は学校で強制されるものではない
第 6 回	Should the age of adulthood be lowered in Japan	日本の成人年齢は下げるべきか
第 7 回	Movie ①	映画で学ぼう①
第 8 回	Movie ②	映画で学ぼう②
第 9 回	Should English be taught in primary schools?	小学校英語教育の是非
第 10 回	Should we let children use cellphones?	子供に携帯電話を持たすべきか
第 11 回	Should the consumption tax be raised?	消費税は上げるべきか
第 12 回	Will telecommuting work in Japan?	在宅勤務は日本で普及するか
第 13 回	Do you vote?	投票に行きますか
第 14 回	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語のニュースや英語で映画を見て、英語に慣れてください。（一日あたり３０分程度）

【テキスト（教科書）】
「Your first speech and presentation 」Shawn M. Clankie Nan'un-do 2000 円　2011 年

【参考書】
英字新聞や雑誌

【成績評価の方法と基準】
小テスト８０％
平常点２０％

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい説明。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
You will make up group and present your idea in front of classmates. The contents of your presentation should be academic.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミでは、他者を支えるということはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。また、プレゼンテーションスキルの向上とグループディスカッションのスカ目方についても検討を重ねます。

【到達目標】
　卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
　卒業研究の内容を、各自、定期的にプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。また、研究会立ち上げなどの実践を通して研究活動を深めていきます。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。授業計画の変更などは学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合い
第 2 回	スケジュール決め	今年度の全体のスケジュールを決定する
第 3 回	研究計画の検討	各自の今年度の研究内容と具体的な計画について検討を行う。
第 4 回	研究計画発表	各自の今年度の研究内容と具体的な計画についてゼミ内で発表する。
第 5 回	研究計画に関する討議	各自の今年度の研究内容と計画に関して、ゼミメンバーと意見交換する。
第 6 回	研究計画のまとめ	全体のまとめとフリーディスカッション
第 7 回	研究課題の修正	議論を通して、各自の研究課題を修正する。
第 8 回	研究課題の確定	これまでの議論を踏まえ、各自の研究課題を確定させる。
第 9 回	研究内容の報告	各自の研究内容の進捗状況を報告する
第 10 回	研究内容の報告と議論	各自の研究内容の進捗状況を踏まえ、似ている研究課題を設定しているメンバーでグループディスカッションを行う。
第 11 回	研究発表に向けての準備	各自の研究内容について発表準備を行う。
第 12 回	ゼミ全体での研究活動に関する発表	ゼミ全体での研究活動に関する発表を踏まえてのディスカッション
第 13 回	研究内容の確認	各自の研究の方向性についての確認と修正
第 14 回	総括	研究内容の総括と秋学期に向けての議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
常に卒業論文に向き合い、必要に応じて調査を行うとともに、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　60 %
卒業論文作成にむけたレジュメの提出　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講者とコミュニケーションをとりながら、授業を改善していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.

PSY300JC

心理実習

金築　優、長山　恵一、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、久保田　幹子、服部　環、関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。
（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ） 多職種連携及び地域連携
（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計 80 時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第 2 回	保健医療施設見学実習　第 1 回	入院施設等の見学実習
第 3 回	保健医療施設見学実習　第 2 回	デイケア等の見学実習
第 4 回	福祉施設見学実習　第 1 回	児童養護施設の見学実習
第 5 回	福祉施設見学実習　第 2 回	児童相談所等の見学実習
第 6 回	学校等教育施設等での実習　第 1 回	学校等教育施設等（例、A 小学校）の施設実習
第 7 回	学校等教育施設等での実習　第 2 回	学校等教育施設等（例、B 小学校）の施設実習
第 8 回	学校等教育施設等での実習　第 3 回	学校等教育施設等（例、C 小学校）の施設実習
第 9 回	学校等教育施設等での実習　第 4 回	学校等教育施設等（例、D 小学校）の施設実習
第 10 回	学校等教育施設等での実習　第 5 回	学校等教育施設等（例、E 小学校）の施設実習
第 11 回	学校等教育施設等での実習　第 6 回	学校等教育施設等（例、F 小学校）の施設実習
第 12 回	学校等教育施設等での実習　第 7 回	学校等教育施設等（例、G 小学校）の施設実習
第 13 回	学校等教育施設等での実習　第 8 回	学校等教育施設等（例、A 中学校）の施設実習
第 14 回	学校等教育施設等での実習　第 9 回	学校等教育施設等（例、B 中学校）の施設実習
第 15 回	学校等教育施設等での実習　第 10 回	学校等教育施設等（例、C 中学校）の施設実習
第 16 回	学校等教育施設等での実習　第 11 回	学校等教育施設等（例、D 中学校）の施設実習
第 17 回	学校等教育施設等での実習　第 12 回	学校等教育施設等（例、E 中学校）の施設実習
第 18 回	学校等教育施設等での実習　第 13 回	学校等教育施設等（例、F 中学校）の施設実習
第 19 回	学校等教育施設等での実習　第 14 回	学校等教育施設等（例、G 中学校）の施設実習
第 20 回	学校等教育施設等での実習　第 15 回	学校等教育施設等（例、A 教育センター）の施設実習
第 21 回	学校等教育施設等での実習　第 16 回	学校等教育施設等（例、B 教育センター）の施設実習
第 22 回	学校等教育施設等での実習　第 17 回	学校等教育施設等（例、C 教育センター）の施設実習
第 23 回	学校等教育施設等での実習　第 18 回	学校等教育施設等（例、A 保育園）の施設実習
第 24 回	学校等教育施設等での実習　第 19 回	学校等教育施設等（例、B 保育園）の施設実習
第 25 回	学校等教育施設等での実習　第 20 回	学校等教育施設等（例、C 保育園）の施設実習
第 26 回	学校等教育施設等での実習　第 21 回	学校等教育施設等（例、D 保育園）の施設実習
第 27 回	学校等教育施設等での実習　第 22 回	学校等教育施設等（例、E 保育園）の施設実習
第 28 回	学校等教育施設等での実習　第 23 回	学校等教育施設等（例、F 保育園）の施設実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価 80 %、報告書 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

【Outline and objectives】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills.

OTR400JB

専門演習ⅢA

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去 2 年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第 2 回	研究の企画化①	ブレインストーミング①
第 3 回	研究の企画化②	ブレインストーミング②
第 4 回	研究の企画化③	ブレインストーミング③
第 5 回	研究計画①	具体的な計画作成①
第 6 回	研究計画②	具体的な計画作成②
第 7 回	研究計画③	具体的な計画作成③
第 8 回	文献・資料のレビュー①	関連資料・データの分析①
第 9 回	文献・資料のレビュー②	関連資料・データの分析②
第 10 回	文献・資料のレビュー③	関連資料・データの分析③
第 11 回	発表前準備	中間発表の骨子作成
第 12 回	卒論中間発表①	卒論中間報告と質疑応答①
第 13 回	卒論中間発表②	卒論中間報告と質疑応答②
第 14 回	卒論中間発表③	卒論中間報告と質疑応答③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to apply knowledge and practical skills on international cooperation and development gained in relation to Asia compared to Japan.

PSY300JC

心理演習Ⅰ

金築　優、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、望月　聡、津村　麻紀

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

【到達目標】
心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 3 回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 4 回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 5 回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 6 回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第 7 回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第 8 回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第 9 回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第 10 回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第 11 回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第 12 回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第 13 回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第 14 回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマについて、専門演習Ⅰ AB・Ⅱ AB での学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討することと合わせて関係する文献を渉猟し、卒業論文にまとめる研究を進め、成果を報告し、各自の学びを共有し、自らの研究について考察していきます。

【到達目標】
研究テーマについて、それぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ&ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討し、文献研究とともにフィールドワークのデータや資料の収集と、それらの分析・考察から卒業論文にまとめ、発表します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	論文構想発表 (問題意識)	各自の関心テーマの焦点化
第 3 回	論文構想発表（構想発表）	各自の関心テーマに沿った構想の検討
第 4 回	論文構想発表（課題検討）	各自の関心テーマの課題について検討
第 5 回	文献検討（主要な論点）	論文作成に必要な関連文献の検討（核となる議論）
第 6 回	文献検討（主要な議論）	論文作成に必要な関連文献の検討（主要な研究者の議論）
第 7 回	文献検討（近接領域）	論文作成に必要な関連文献の検討（近接領域の研究）
第 8 回	文献検討（海外の研究）	論文作成に必要な関連文献の検討（海外の研究）
第 9 回	文献検討（関連領域）	論文作成に必要な関連文献の報告
第 10 回	資料の収集・論文執筆	論文のテーマに沿った、資料の収集と執筆
第 11 回	データの収集と論文執筆	データの収集（インタビュー)
第 12 回	データ収集方法と論文執筆	データの収集 (アンケート)
第 13 回	分析と論文執筆	論文のテーマに沿った、資料の分析
第 14 回	報告と論文執筆	論文のテーマに沿った、データの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は必ずレジメを用意して発表すること。前年度等の先輩学生からのレクチャー等で学習した論文の書き方の資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 (第２版)』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
講義参加の準備と発言４０％、課題レポート６０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
研究はゼミ以外の時間で各自進め、ゼミでは報告とディスカッションをする場となります。報告の際は、レジュメの作成やパワーポイントの利用など十分な準備をして行うことを求めています。

【Outline and objectives】
This class builds on the skills learned in seminar Ⅱ A B and applies them to the writing of a major research paper (in either the social sciences). Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper, no less than 20000 words, excluding a bibliography . This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes,endnotes.

PSY300JC

心理演習Ⅱ

金築　優、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、望月　聡、津村　麻紀

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

【到達目標】
役割演技や事例検討を通して、（1）心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、（2）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（3）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、（4）多職種連携及び地域連携、（5）心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 3 回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 4 回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 5 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 6 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 7 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 8 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 9 回	多職種連携及び地域連携（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 10 回	多職種連携及び地域連携（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 11 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 12 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 13 回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第 14 回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion.

OTR400JB

専門演習ⅢA

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任 (CSR) や社会貢献活動、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナール の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な 社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解することを目標とする。4 年次の目標は、集大成としての卒業論文を作成することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究 を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回のゼミでは周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。各回の講義方式ならびに授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第 2 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第 3 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第 4 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第 5 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。（まとめ）
第 6 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第 7 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第 8 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第 9 回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第 10 回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第 11 回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第 12 回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第 13 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告①	卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第 14 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告②	卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
ゼミへのコミットメント・平常点（50 %）、ゼミでの報告内容（50 %）。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline and objectives】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

OTR200JC

専門演習ＩＡ

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもの心理療法の各理論（子ども中心、自我心理学、対象関係論、ユング派）とそれぞれの理論に基づくセラピーの実践を学びます。また子どもの心理的問題および発達障害、そしてこれらの問題に対する心理臨床的な対応の基本的な知識を学びます。

【到達目標】
子どもの心の発達とその問題、さらに心理療法の基本的な内容について説明でき、また文献を読み、レジュメを作成して発表することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が用意した事例をクイズ形式で検討します。その後に、関心をもったテーマなどについて、それぞれがもう少し調べて、それを発表してもらいます。時々、心理療法や心理検査を体験してもらいます。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などの提出・フィードバックなどは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	新ゼミ生同士の自己紹介、簡単なワーク、ゼミでの係りを決め、授業の進め方を説明します
第 2 回	事例検討①	日本的な遊戯療法の事例（自閉症スペクトラム障害）
第 3 回	事例検討②	日本的な遊戯療法の事例（被虐待児）
第 4 回	事例検討③	日本的な遊戯療法の事例（ネグレクト）
第 5 回	事例検討④	日本的な遊戯療法の事例（攻撃的）
第 6 回	箱庭療法	箱庭療法の体験
第 7 回	精神分析理論とその事例	自我心理学と対象関係論の事例
第 8 回	子ども中心とユング派の理論とその事例	子ども中心とユング派の事例
第 9 回	個別発表の準備	関心を持ったテーマについての個別発表の準備
第 10 回	描画テスト	バウムテストなどの体験
第 11 回	思春期青年期の事例	中学生（いじめ）と大学生（留年）とのカウンセリングの事例
第 12 回	関心をもったテーマの発表①	関心をもったテーマの発表（前半）
第 13 回	関心を持ったテーマの発表②	関心をもったテーマの発表（後半）
第 14 回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の演習で次回の演習の内容が説明されるので、事前に調べることが求められます。講義の後には、演習の内容を振り返り、疑問点などを調べることが求められます。発表では、演習前に関心をもったテーマに関して調べて、それを発表するためのレジュメとパワーポイント資料を作成することが求められます。演習後は、発表された内容を振り返り、疑問点や興味を持ったことなどを調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。教員が用意した資料を使用します。また必要なら、教員が購入する予定です。

【参考書】
各テーマに応じて参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容（70%）、ディスカッションでの発言 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【その他の重要事項】
プライシーに配慮し、いくつかの事例をもとに、クライエントの内面の理解とそれにもとづいた対応方法を学生の皆さんと検討する予定です。

【Outline and objectives】
Students will learn each theory of psychotherapy for children (child-centered, ego psychology, object relations theory, Jung school) and the practice of therapy based on each theory. Students learn basic knowledge of the psychological problems and developmental disorders of children, and the clinical approach to these problems.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、専門演習Ⅱ A、Ⅱ B で学んだ、現代社会における高齢者福祉やケアに関する制度・政策、高齢者ソーシャルワークについての研究成果を踏まえ、卒業研究を想定して、研究計画のたて、先行研究の再考察をおこなうとともにフィールドワークを実施します。

【到達目標】
卒業研究テーマや構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、研究論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅲでは、卒業研究の内容を、各自、定期的に皆の前でプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目的、年間スケジュール
第 2 回	研究計画発表①	研究内容など研究計画の発表と討議①
第 3 回	研究計画発表②	研究内容など研究計画の発表と討議②
第 4 回	研究計画発表③	研究内容など研究計画の発表と討議③
第 5 回	先行研究の検討①	研究テーマに関する先行研究文献検討①
第 6 回	先行研究の検討②	研究テーマに関する先行研究文献検討②
第 7 回	先行研究の検討③	研究テーマに関する先行研究文献考察発表①
第 8 回	先行研究の検討④	研究テーマに関する先行研究文献考察発表②
第 9 回	研究デザインの検討①	研究方法の検討
第 10 回	研究デザインの検討②	研究調査方法、対象の検討
第 11 回	研究デザインの検討③	研究資料・データの収集と仮説の設定①
第 12 回	研究デザインの検討④	研究資料・データの収集と仮説の設定②
第 13 回	調査実施の準備	調査実施計画の報告と討議
第 14 回	春学期のまとめ	調査研究デザインの決定と実施計画の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業研究のテーマに応じて、先行研究論文の読み込み、フィールドワークや調査を行うとともに、報告で受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組んでください。本授業の準備期間（レジュメ作成など）、復習時間（ゼミ報告後の整理など）は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、初回時に、ゼミ生と相談して決定する。

【参考書】
広井良典（2000,2019）『ケア学　越境するケアへ』医学書院、広井良典（2019）『人口減少社会のデザイン』など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・報告内容 70 %、研究実施計画レポートの提出 30 % によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミのみなさんたちとよくコミュニケーションをとりながら、じっくり卒業研究に取り組めるようにコメントやアドバイスしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくる授業です。卒業研究の進捗状況に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
Based on the research outcome gained from Special Course IIA and IIB concerning the welfare system and care measures for the aged, students will continue their learning by (re)examining research structures, literature review, and field work for their graduation thesis.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自それぞれの研究成果をまとめるために、実践的な論点の整理と、先行研究を批判的研究を行う。

【到達目標】
実践的な課題を明らかにする。先行研究の要点を批判的にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
1）個人報告とグループでの意見交換を中心に行う。状況に応じて、Zoom を活用する。
2）中間報告やまとめ等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	目標と計画
2	先行研究の検討①	先行研究の調べ方
3	先行研究の検討②	先行研究の入手状況
4	先行研究の検討③	先行研究の論点紹介
5	先行研究の検討④	主要論点の批判的検討
6	調査準備①	調査課題の確認
7	調査準備②	設問と調査方法の確認
8	調査準備③	準備条項報告、意見交換
9	調査実施①	調査を実施する
10	調査実施②	調査を継続する
11	調査報告会①	調査結果を報告する
12	調査報告会②	調査結果に関する意見交換
13	仮説検討会	仮説の報告と意見交換
14	まとめ	報告と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備のため時間をしっかりとって、先行研究を読み込む。
調査の準備を行う。調査を実施する。調査のまとめを行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使いません。

【参考書】
進捗に合わせて指示します。

【成績評価の方法と基準】
研究遂行のプロセス（50 %）、成果（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
報告会、検討会をオープンにし、意見交換をしやすくする。
春学期で卒論の大枠づくりを終えるように取り組むことが重要。

【Outline and objectives】
Each student summarizes the practical problem and critically examines the preceding research.

OTR200JC

専門演習ＩＢ

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床に関する自分の関心を広げるため似た関心をもった者同士のグループに分かれ、その関心の多様な側面について調査を実施して発表する。

【到達目標】
心理臨床に関連する自分が関心を持つ領域を調べて、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループに分かれ、それぞれのテーマに関して調査を実施して、発表する。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などの提出・フィードバックなどは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明
第 2 回	グループに分かれて調査を行うため、グループ分け	関心が類似した学生でグループを作る
第 3 回	関心のあるテーマに関する先行研究を調べる	文献検索の仕方を説明
第 4 回	先行研究の発表の準備	発表する先行研究を 1 つ決め、それをまとめる準備をする
第 5 回	グループで先行研究の発表①	各グループで自分たちが調査するテーマの先行研究を 1 つ発表する①
第 6 回	グループで先行研究の発表②	各グループで自分たちが調査するテーマの先行研究を 1 つ発表する②
第 7 回	グループ発表の準備①	質問紙の作成など
第 8 回	グループ発表の準備②	調査結果の解析など
第 9 回	グループ発表の準備③	調査結果のまとめと考察
第 10 回	グループ発表の準備④	パワポ資料および配布資料の作成
第 11 回	グループ発表①	最初のグループの発表
第 12 回	グループ発表②	次のループの発表
第 13 回	グループ発表③	最後のグループの発表
第 14 回	まとめ	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習前は、小グループで各テーマに関する先行研究を調べ、質問紙調査などを行い、レジュメとパワーポイント資料を作成することが求められます。その際、発表が皆に伝わりやすいよう工夫することも求められます。演習後は、発表された内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
各テーマに応じて適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容（70%）、ディスカッションでの発言 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【Outline and objectives】
Students are divided into groups of similar students with similar interests to broaden the students' interest in psychology clinics and conduct surveys on various aspects of their interests

OTR400JB

専門演習ⅢＡ

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、調査研究を行い、学内懸賞論文として書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方の確認
第 2 回	論文構想発表①	問題意識の提示
第 3 回	論文構想発表②	問題意識に関する情報収集
第 4 回	論文構想発表③	問題意識の絞り込み
第 5 回	文献レビュー報告①	関心領域に関する文献や資料の調査報告①グループ A
第 6 回	文献レビュー報告②	関心領域に関する文献や資料の調査報告②グループ B
第 7 回	文献レビュー報告③	関心領域に関する文献や資料の調査報告③グループ C
第 8 回	研究テーマ発表①	研究のキーワードの検討
第 9 回	研究テーマ発表②	研究のテーマの検討
第 10 回	論文構成発表①	論文の章立ての検討①目的と分析方法の対応確認
第 11 回	論文構成発表②	論文の章立ての検討②テーマとの整合性確認
第 12 回	調査計画の報告①	調査対象と方法の検討
第 13 回	調査計画の報告②	調査票の検討
第 14 回	調査計画の報告③	調査時期、依頼書類の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムや Facebook グループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
Research on social issues of their interest, write it as an internal prize dissertation.

ARSx200JB

コミュニティスタディ演習 (2017 年度以前入学生)

土肥　将敦、水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域課題に取り組む団体や人を対象に、現状や課題に関する現地調査を実施し、その解決方法などを、グループワークや教員との個別指導を通じて具体的に探っていく演習科目です。

【到達目標】
コミュニティマネジメント（地域づくり）を学ぶために必要な基本的な視点、姿勢、技法等を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のある地域課題、それに取り組む団体等を調査し、問いを立てるところから始まります。その後、質問票を作成して調査を行い、調査終了後は結果分析を進めて報告書にまとめます。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と地域研究の心構えを学ぶ。
第 2 回	研究関心の共有と深化	各自の関心について発表し、そこからどんな調査が可能か検討する。
第 3 回	研究課題の設定	研究課題を設定し、具体的調査内容について話し合う。
第 4 回	研究計画書の作成	研究課題を深めるための具体的調査内容を計画書として作成し、指導を受ける。
第 5 回	研究計画書の完成	指導内容に沿って計画書を修正し、議論の上、完成させる。
第 6 回	インタビューシートの作成、研究日時の確定	調査先で明らかにしたいことを質問票にまとめ、指導を受ける。
第 7 回	フィールドワーク①	フィールドでの調査
第 8 回	フィールドワーク②	フィールドでの調査
第 9 回	フィールドワーク報告（速報）	フィールドでの調査内容の報告
第 10 回	フィールドワーク報告（詳報）	フィールドでの調査内容を文書にまとめて報告する。
第 11 回	フォローアップ調査報告	報告書作成に向けて必要な情報を更に収集し、報告する。
第 12 回	報告書作成①	報告書の素案を提出し、指導を受ける。
第 13 回	報告書作成②	改良した報告書原稿を提出し、さらに指導を受ける。
第 14 回	報告会	報告書を提出するとともに、内容について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業及びその間に出される担当教員からの指導に沿って、調査及びその準備やまとめを進め、報告書を完成させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
大阪経済大学地域政策学科『フィールドワークのすすめ』(法律文化社)。
その他、講義時に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ⅰ) 成績評価方法
平常点　70%
提出物（発表及び提出資料、最終レポート）　30%
ⅱ) 評価基準
平常点は、授業への出席のみならず、発表や質疑応答等、授業への積極的参加、課題に対する取組み姿勢を評価します。課題に対する取り組み姿勢には、授業時間外での取り組みも含みます。レポートは、期限までの提出とその内容によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの意見を活かし、履修者が、より主体的に参加できる工夫をしていきます。

【Outline and objectives】
This is a workshop in which students pursue their own objectives by researching regional problems and considering their solutions through group discussion and one by one instruction by professors.

OTR400JB

専門演習ⅢA

張　梦瑶

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて問題関心の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文として文章化し完成させる。

【到達目標】
○地域の福祉課題等への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら課題に対し分析する方法を組み立てることができる。
○学術的な文章の書き方を学び、論理的な文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。ゼミ生による中間報告と２・３年生を含めた研究報告の機会を設ける。全員、定期的に授業内でプレゼンテーションします。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面およびオンライン併用のハイブリッドでの開講となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化①	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	問題意識の明確化②	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第 4 回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第 5 回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第 6 回	論文作成計画の検討Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する①
第 7 回	論文作成計画の検討Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する②
第 8 回	論文作成計画の検討Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する③
第 9 回	論文作成計画の検討Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する④
第 10 回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる①
第 11 回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる②
第 12 回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる③
第 13 回	調査計画の検討Ⅰ	調査方法を検討する①
第 14 回	調査計画の検討Ⅱ	調査方法を検討する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加し参与観察などを行うことを進める
準備・復習時間を４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
個別的に卒論作成に必要な文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %、研究への取り組みの態度と内容 40%。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい指導方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】
It collects the data about its own research subject and ir proceeds with the analysis.Also,it proceeds making sentences with the own resarch.

OTR400JB

専門演習ⅢA

今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、行政、ＮＰＯ、住民グループ、商店街・自治会など様々な主体が、地域の問題に対し、自律的にまちづくりを進めているエリアマネジメントの事例から、その取り組み、組織、財源、プロセス等を学ぶとともに、自ら地域コミュニティに働きかける機会を検討し、主体的に地域課題の解決に動くことのできる人材を育てます。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 III では、卒業研究の内容を、各自、定期的に皆の前でプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。2021 年度の授業はオンラインを中心に、対面と適切に組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックについては、授業内で行うほか、受講生に個別に伝えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第 2 回	論文構想発表第 1 回	問題意識や論文の目的について発表し、議論する。
第 3 回	論文構想発表第 2 回	問題意識や論文の目的について発表し、議論する。
第 4 回	論文構想発表第 3 回	問題意識や論文の目的について発表し、議論する。
第 5 回	既往研究報告第 1 回	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する。
第 6 回	既往研究報告第 2 回	引き続き文献や資料の概要と分析結果を報告する。
第 7 回	既往研究報告第 3 回	引き続き文献や資料の概要と分析結果を報告する。
第 8 回	調査計画の発表第 1 回	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する。
第 9 回	調査計画の発表第 2 回	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する。
第 10 回	調査計画の発表第 3 回	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する。
第 11 回	調査概要の報告第 1 回	調査方法を定め、調査票等を作成して報告する。
第 12 回	調査概要の報告第 2 回	調査方法を定め、調査票等を作成して報告する。
第 13 回	調査概要の報告第 3 回	調査方法を定め、調査票等を作成して報告する。
第 14 回	調査直前準備	質問票の完成、倫理的配慮などの状況について報告を受け、助言する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められます。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　 60 %、提出物や報告　 40 %
具体的な方法と基準は、授業内に伝えるほか、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者とよくコミュニケーションをとりながら、授業を改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
PC など各自の研究発表に必要な機器を準備してください。教室で実施する場合には、プロジェクター、模造紙、マジック、ペンなど、貸出可能です。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems. By researching and joining in those challenges, this seminar try to let students develop and start writing a graduation thesis.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカル” の視点からコミュニティづくりを考える

【到達目標】
本ゼミを通して、“ローカルゼミ” として、地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに関わっている面白さと奥深さを大事に捉えられるようになる。 地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、“ローカル” の今を読み解く「ものさし」を学び、学生として、また卒業後も社会人として問題解決に どのように関われるかを探ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ⅢＡでは、前年の実践活動から得た現場へのまなざしを深める。“ローカル” の再生に向けて、テキスト等を通して問題の背景を理解するとともに、先発事例を交えて解決手段を議論する。また、各自で関連したテーマを選んで、フィールドワークも含めた研究を進める。最終的には、個別に卒業論文の形でまとめることを目指す。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	４年次のゼミの進め方を共有する
第 2 回	卒論テーマの議論①	卒論の構想メモを作成する
第 3 回	卒論テーマの議論②	卒論の構想メモを発表する
第 4 回	卒論テーマの議論③	卒論の構想メモを議論する
第 5 回	関連文献の整理と仮説の検討①	関連文献の収集方法を学ぶ
第 6 回	関連文献の整理と仮説の検討②	関連文献の収集リストを作成する
第 7 回	関連文献の整理と仮説の検討③	関連文献のレジュメを作成する
第 8 回	関連文献の整理と仮説の検討④	関連文献をもとに仮説を組み立てる
第 9 回	関連文献の整理と仮説の検討⑤	仮説を発表し議論する
第 10 回	卒論構成の検討①	卒論の構成を考える
第 11 回	卒論構成の検討②	卒論の構成を発表し議論する
第 12 回	ゼミフィールドワークの到達点の確認	昨年度までのゼミフィールドワークを振り返る
第 13 回	ゼミフィールドワークの活動計画づくり	ゼミフィールドワークの最終年度の進め方を相談する
第 14 回	卒論フィールドワークの準備	卒論テーマに関するフィールドワークの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。ゼミでの議論や課外活動の経験から必要とされる知見に気づき、自ら積極的に専門書や文献から学ぼうとする姿勢を求めたい。

【テキスト（教科書）】
専門書や文献などを必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%

【学生の意見等からの気づき】
前年度のゼミ活動の様子を踏まえて、今年度のゼミ内容に反映させていきたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will deepen the basic understanding for learning how to build a community centered on rural areas. In addition, we will go to the rural area and experience the living and local activities there through interaction with local residents.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

篠原　亮次

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きる喜びを大切にできる能力を育むための、人間理解と福祉・保健医療システムの関係について探求する。

【到達目標】
卒業論文の完成と提出をおこなう。
ゼミ生後輩に自分達が経験した実習状況及び学び、さらに就活やその他の体験からの学びについて伝達講習をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習は学生主体の運営を主軸にしながら、学生の思考や体験の形成に必要だと教員が判断した内容については、学生と話し合いの上で追加していきます。感性豊かに人間観察と福祉システムのあり方について探求していくことを目的に、公共政策的視点でウエルビーングを追求していって欲しいと考えています。仲間を認め合い、リーダーシップやメンバーシップを柔軟に実行しながら、チームワークの向上に労を惜しまないこと、各学生の研究テーマは自由に提案してください。教員も柔軟に対応します。
お互いの意見交換を通して、個々の学生の能力が向上し、将来のリーダーとして成長していくことを期待しています。各回の授業計画の変更については、学習支援システムまたはメール等でその都度提示します。また、課題等の提出フィードバックは授業の初めに行い、教員や学生同士で情報の共有を行うことを基本にしますが、その他「学習支援システム」やメール等を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスではコミュニケーションを円滑に図るとともに今後のルールやプログラム作成に向けて話し合う。
2	係の選出 1 年間のプログラム企画	係の選出および決定 1 年間のプログラム企画①
3	1 年間のプログラム修正および決定	1 年間のプログラム修正および決定②
4	演習①	プログラムに添って活動①
5	演習②	演習プログラムに添って実施②
6	演習③	演習プログラムに添って実施③
7	演習④	ゼミテーマに基づき学生達が主体的に演習内容を提案する④
8	演習⑤	前回の内容に引き続く演習⑤
9	演習⑥	前回の内容に続く演習⑥
10	4 年生卒業論文中間報告、国家試験対策も若干視野に入れながら研究のまとめ	卒業研究中間報告を実施。
11	演習①	演習プログラムに添って演習①
12	演習②	演習プログラムに添って演習②
13	演習③	演習プログラムに添って演習③
14	演習④	演習プログラムに添って演習④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出席義務化。遅刻早退基本的に厳禁。
ただし、都合により不可能な場合はきちんと連絡するなど、基本的な社会的マナーのある言動を期待しています。
ゼミの活動に必要な文献購読能力向上に向けての個人的努力を求めます。
課題発表では各自責任もって準備を遂行して欲しい。
卒業論文指導は適宜行うため自分から積極的なアポイントをとる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要なテキストや参考文献は演習中に随時示します。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常考査５０％、卒業論文提出と内容等を５０％、総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
4 年生は、就活をはじめ社会福祉士国家試験準備も控えているため、卒業論文は、計画的に取り組んでいく必要性が大きい。時間的には大変そうな反応が時折聞かれるが達成感を味わって頂きたい。
自分の自由なテーマを選び、限られた時間の中で論文完成をめざして創造することの苦しさと、喜びを大いに楽しんで欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
必要時、視聴覚教材を利用する。

【Outline and objectives】
Learn in a pratical way the human understanding to nurture the ability to cherish the joy of living and the relevance of welfare ,health care,and medical systems.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の実際について、その現状と社会的支援について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、グループ学習をさらに深めてフィールドワーク実践の分析・考察を行い、最終報告としてのプレゼンテーションの準備を行う。秋学期もオンラインまたは対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの振り返りと再検討	グループ毎にフィールドワーク実践の振り返りと今後に向けての計画を作成する。
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（現場状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援の実際について）
第 5 回	フィールドワーク結果の分析①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。①（介入方法について）
第 6 回	フィールドワーク結果の分析②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。②（支援の効果）
第 7 回	フィールドワーク結果の分析③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。③（関係団体との連携について）
第 8 回	フィールドワーク結果の考察①	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。①（研究テーマの観点から）
第 9 回	フィールドワーク結果の考察②	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。②（援助者の立場から）
第 10 回	フィールドワーク結果の考察③	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。③（社会問題の観点から）
第 11 回	研究報告①	貧困関連グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害関連グループの発表
第 13 回	研究報告③	ダイバーシティ関連の発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への能動的参加（３０％）
研究発表（４０％）
レポート（３０％）

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline and objectives】
This course deal with the social exclusion and social support network.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第 2 回	調査結果の報告 1	調査結果を報告する 1
第 3 回	調査結果の報告 2	調査結果を報告する 2
第 4 回	調査結果の報告 3	調査結果を報告する 3
第 5 回	調査結果の分析 1	調査結果の分析を報告する 1
第 6 回	調査結果の分析 2	調査結果の分析を報告する 2
第 7 回	調査結果の分析 3	調査結果の分析を報告する 3
第 8 回	考察 1	調査結果を考察としてまとめ報告する 4
第 9 回	考察 2	調査結果を考察としてまとめ報告する 5
第 10 回	考察 3	調査結果を考察としてまとめ報告する 6
第 11 回	卒論報告会の準備 1	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する 1
第 12 回	卒論報告会の準備 2	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する 2
第 13 回	卒論報告会の準備 3	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する 2
第 14 回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline and objectives】
Discuss the theme of the graduation thesis

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認、夏休み課題の発表
第 2 回	論文構想発表	論文の構想について発表
第 3 回	文献・データの再検討	論文作成に必要な文献やデータの再検討
第 4 回	資料・データ分析	資料やデータの分析
第 5 回	論文執筆 1	論文を書き進める：先行研究のレビュー
第 6 回	論文執筆 2	論文を書き進める：課題の設定と分析枠組み・研究方法
第 7 回	中間発表 1	現段階における論文の発表
第 8 回	論文執筆 3	論文を書き進める：データ分析結果
第 9 回	論文執筆 4	論文を書き進める：データ分析結果
第 10 回	中間発表 2	現段階における論文の発表
第 11 回	論文執筆	論文を書き進める：結論と残された課題
第 12 回	論文執筆	論文執筆の完成
第 13 回	論文発表の準備	論文発表のための準備
第 14 回	論文発表	完成論文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒論の書き方 [第２版]』ミネルヴァ書房
・吉岡友治（2019）『マンガでやさしくわかる論文・レポートの書き方』日本能率協会マネジメントセンター
・川村匡由（2018）『三訂　福祉系学生のためのレポート・卒論の書き方』中央法規

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40 %）、提出物（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline and objectives】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミでは、他者を支えるということはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。最終学年の集大成として、これまでゼミ内で学習してきたことを学外活動で成果発表したり、研究論文にまとめる準備などを行います。その他にも、当事者活動の研究会参画を通して学習したことを発信できるようにしていきたいと考えています。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
　各自、定期的に皆の前でプレゼンテーションを行います。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合う。
第 2 回	春学期までの研究成果についての検討	研究内容について各自学習する。
第 3 回	研究計画の進捗状況の報告	各自の研究内容と具体的な計画について発表する。
第 4 回	研究計画の進捗状況の確認	各自の研究内容と計画について文献をふまえて確認作業を行う。
第 5 回	研究計画の再検討	これまでの指摘事項を踏まえて、研究計画の最終的な検討を行う
第 6 回	研究の妥当性についての検証	各自の研究計画が妥当であるかを確認する
第 7 回	研究発表に向けた資料作成	資料作成方法の説明
第 8 回	研究発表と議論	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第 9 回	研究発表とグループディスカッション	研究の進捗状況を発表し、それについて近しい研究課題のグループメンバーで議論する。
第 10 回	研究発表と全体討議	これまでの発表を受けて、フリーディスカッション
第 11 回	研究の完成に向けた発表	これまでの指摘などを踏まえた修正を行う
第 12 回	研究内容の見直し	これまでの議論を踏まえた各自の研究内容の見直し
第 13 回	研究の方向性の報告と最終修正	各自の研究の方向性の報告と修正
総括	研究・ゼミ活動の総括	各自の研究成果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　卒業論文の完成を目指し、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　60 %　卒業論文に関するレジュメの提出　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講者の困りごとや研究の行き詰まりについて話し合いながら、授業を改善していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを具体的に応用する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去 2 年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第 2 回	卒論の草稿①	内容の表出化①
第 3 回	卒論の草稿②	内容の表出化②
第 4 回	卒論の草稿③	内容の表出化③
第 5 回	卒論の草稿④	第 1 次原稿へのフィードバック
第 6 回	卒論の修正①	内容の修正・変更①
第 7 回	卒論の修正②	内容の修正・変更②
第 8 回	卒論の修正③	第 2 次原稿へのフィードバック
第 9 回	卒論発表①	最終発表と質疑応答①
第 10 回	卒論発表②	最終発表と質疑応答②
第 11 回	卒論発表③	最終発表と質疑応答③
第 12 回	卒論発表④	最終発表と質疑応答④
第 13 回	卒論最終調整	仕上げと最終確認
第 14 回	卒論提出	最終意見交換および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
The main goal of this seminar is to apply knowledge and practical skills on international cooperation and development gained in relation to Asia compared to Japan.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマについて、専門演習Ⅰ AB・Ⅱ AB での学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討することと合わせて関係する文献を渉猟し、卒業論文にまとめる研究を進め、成果を報告し、各自の学びを共有し、自らの研究について考察していきます。

【到達目標】
専門演習Ⅰ AB・Ⅱ AB での学びから醸成した個別の課題関心からテーマを設定し、研究成果の集大成として卒業論文を完成させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ&ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討し、文献研究とともにフィールドワークのデータや資料の収集と、それらの分析・考察から卒業論文にまとめ、発表します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スケジュールの確認
第 2 回	論文構想検討	各自の関心テーマの焦点化
第 3 回	論文構想報告	各自の関心テーマに沿った構想の検討
第 4 回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第 5 回	文献検討	論文作成に必要な関連文献の検討（核となる議論）
第 6 回	文献報告	論文作成に必要な関連文献の検討（主要な研究者の議論）
第 7 回	文献発表	論文作成に必要な関連文献の検討（近接領域の研究）
第 8 回	海外研究比較	論文作成に必要な関連文献の検討（海外の研究）
第 9 回	文献調査報告	論文作成に必要な関連文献の報告
第 10 回	資料の収集と整理	論文のテーマに沿った、資料の収集
第 11 回	資料の収集と調査結果検討	論文のテーマに沿った、データの収集（インタビュー A)
第 12 回	資料の収集と調査結果執筆	論文のテーマに沿った、データの収集 (インタビュー B)
第 13 回	資料の収集と論文執筆	論文のテーマに沿った、資料・データの分析
第 14 回	論文執筆と考察	論文のテーマに沿った、資料・データの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は必ずレジメを用意して発表することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 (第２版)』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
講義参加の準備と発言４０％
課題レポート６０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していませんが、少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline and objectives】
This class builds on the skills learned in seminar Ⅱ A B and applies them to the writing of a thesis (in either the social sciences). Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the thesis, no less than 20000 words, excluding a bibliography . This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, endnotes.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**図司先生代講**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカル”の視点からコミュニティづくりを考える

【到達目標】
本ゼミを通して、“ローカルゼミ”として、地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに関わっている面白さと奥深さを大事に捉えられるようになる。地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、“ローカル”の今を読み解く「ものさし」を学び、学生として、また卒業後も社会人として問題解決にどのように関われるかを探ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ⅢＢでは、ⅢＡに引き続き、前年の実践活動から得た現場へのまなざしを深める。“ローカル”の再生に向けて、テキスト等を通して問題の背景を理解する とともに、先発事例を交えて解決手段を議論する。また、各自で関連し たテーマを選んで、フィールドワークも含めた研究を進める。最終的には、個別に卒業論文の形でまとめることを目指す。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期のゼミの進め方を共有する
第 2 回	卒論の構成作業①	卒論構成の組み立て方について全体で学ぶ
第 3 回	卒論の構成作業②	卒論構成のレジュメを作成する
第 4 回	卒論の構成作業③	卒論構成のレジュメを発表し議論する
第 5 回	卒論の構成作業④	全体の論旨を整え、議論を通して客観的な視点を得る
第 6 回	卒論執筆の留意点を学ぶ	論文の書き方・表記の留意点を確認する
第 7 回	卒論執筆の準備作業	卒論の執筆メモをまとめる
第 8 回	卒論執筆の経過報告①	各自の卒論執筆の経過報告
第 9 回	卒論執筆の経過報告②	各自の卒論執筆の修正報告
第 10 回	卒論の校正チェック	各自の卒論原稿の校正作業
第 11 回	卒論提出	卒論報告会の準備作業
第 12 回	卒論報告会①	完成した卒論の報告と共有（前半）
第 13 回	卒論報告会②	完成した卒論の報告と共有（後半）
第 14 回	３年間の専門ゼミ活動の総括	ゼミ活動のまとめと社会人としての抱負を表明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、準備・復習時間として各 2 時間程度の作業を行ってもらいたい。ゼミでの議論や課外活動の経験から必要とされる知見に気づき、自ら積極的に専門書や文献から学ぼうとする姿勢を求めたい。

【テキスト（教科書）】
専門書や文献などを必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，演習での議論・発表・報告 50%

【学生の意見等からの気づき】
過年度のゼミ活動の様子を踏まえて、今年度のゼミ内容に反映させていきたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, we will deepen the basic understanding for learning how to build a community centered on rural areas. In addition, we will go to the rural area and experience the living and local activities there through interaction with local residents.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任 (CSR) や社会貢献活動、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナール の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な 社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解することを目標とする。4 年次の目標は、集大成としての卒業論文を作成することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究 を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回のゼミでは周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。COVID-19 に伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第 2 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第 3 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第 4 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第 5 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき、卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。（まとめ）
第 6 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第 7 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第 8 回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第 9 回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第 10 回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第 11 回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第 12 回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第 13 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告①	卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第 14 回	各人の卒業論文の調査進捗状況の報告②	卒論執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
ゼミへのコミットメント・平常点（50 %）、ゼミでの報告（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline and objectives】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

OTR400JB

専門演習ⅢＢ

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、4 年間の研究の集大成として取り組む卒業研究を想定して、研究計画の再構成、先行研究の再考察、フィールドワークを行った研究成果をまとめ、報告します。

【到達目標】
卒業研究の構想に沿って調査研究を進めることができるようにします。また、ゼミでの発表・議論を経て、卒業研究を完成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ⅢＢでは、卒業研究の内容を、各自、定期的にみんなの前でプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までには卒業研究論文の仕上げをめざします。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。今後、授業計画や進め方に変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期ゼミの進め方の確認
第 2 回	調査研究結果の報告Ⅰ	資料・データの内容分析①
第 3 回	調査研究結果の報告Ⅱ	資料・データの内容分析②
第 4 回	調査研究結果の報告Ⅲ	資料・データの内容分析③
第 5 回	調査結果の考察Ⅰ	研究結果の考察報告と討論①
第 6 回	調査結果の考察Ⅱ	研究結果の考察報告と討論②
第 7 回	調査結果の論文執筆Ⅰ	論文の構成の検討①
第 8 回	調査結果の論文執筆Ⅱ	論文の構成の検討②
第 9 回	調査結果の論文執筆Ⅲ	論文執筆とコメント①
第 10 回	調査結果の論文執筆Ⅳ	論文執筆とコメント②
第 11 回	卒業研究発表会準備Ⅰ	論文発表会にむけての準備①
第 12 回	卒業研究発表会準備Ⅱ	論文発表会にむけての準備②
第 13 回	卒業研究発表会	卒業研究発表と論文提出
第 14 回	まとめ	ゼミ学習の到達点の確認と 4 年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業研究のテーマに応じて、先行研究論文の読み込み、フィールドワークや調査を行うとともに、ゼミで受けたコメントを反映させ、研究論文の完成に向けて取り組んでください。本授業の準備（卒論研究報告）、復習（報告後の整理時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の研究テーマに応じて適宜、指示します。

【参考書】
広井良典（2000,2019）『ケア学　越境するケアへ』医学書院、広井良典（2019）『人口減少社会のデザイン』など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・報告内容（60 %）、卒業研究論文や期末レポートの提出（40 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究や研究論文完成にむけて学生とのコミュニケーションを大切にしながら個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくるゼミ（授業）です。卒業研究の進捗状況に応じて，上記授業計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
This course will enable students further to investigate their research plan structure, prior research data analysis, and field work for their graduation work, which is a aggregation of 4-year study of each student. Students are expected to present their research outcome by consolidating all the results of their work.

OTR400JB

専門演習ⅢＢ

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仮説・結論を明確にし、自己の主張を論理的に組み立てる。

【到達目標】
自己の主張を明確にする。
自己の主張を論理的に説明する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
1）各自の報告をもとに、グループ討論を行う。
2）中間で、個別面談を行い、困難を解決する。
3）状況に応じて、Zoom を活用する。
4）報告やまとめ等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	成果まとめに向けた意見交換
2	研究計画報告①	研究計画の報告
3	研究計画報告②	意見交換、講評
4	個別面談①	進捗状況の確認
5	個別面談②	困難課題について相談
6	調査結果報告会①	気づきの報告、意見交換
7	調査結果報告会②	まとめの報告、意見交換
8	仮説の検討会①	仮説の提示、意見交換
9	仮説の検討会②	仮説の明確化、意見交換
10	論理的展開①	論理構成の検討
11	論理的展開②	論理構成の精緻化
12	研究成果報告①	成果報告、意見交換
13	研究成果報告②	講評と意見交換
14	全体総括	成果と課題まとめ、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告の準備に、充分な時間をあてること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
進捗に合わせて指示します。

【成績評価の方法と基準】
研究遂行のプロセス（70 %）、研究成果の水準（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
報告会、検討会をオープンにし、議論をしやすくする。

【Outline and objectives】
The goal of this seminar is to clarify the hypothesis and insist on logically.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、学内懸賞論文を完成させ、さらにそれを補足修正して卒業論文を書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、学内懸賞論文と卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	調査結果報告	夏休み期間中の調査結果の概要報告
第 2 回	調査結果分析発表①	調査結果を整理分析
第 3 回	調査結果分析発表②	調査結果のとりまとめ
第 4 回	論文執筆①	学内懸賞論文の作成①
第 5 回	論文執筆②	学内懸賞論文の作成②
第 6 回	第 1 回　論文発表会	学内懸賞論文の申請と残された課題の確認
第 7 回	補足調査①	残された課題に対応する調査の実施
第 8 回	補足調査②	補足調査結果のとりまとめ
第 9 回	補足調査③	補足調査結果の報告
第 10 回	論文執筆①	卒業論文の作成①目次作成
第 11 回	論文執筆②	卒業論文の作成②各章執筆
第 12 回	論文執筆③	卒業論文の作成③考察検討
第 13 回	発表練習	発表資料・原稿の作成
第 14 回	第 2 回　論文発表会	卒業論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムや Facebook グループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】
Write it as an internal prize dissertation, complement it and write a graduation thesis.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

張　梦瑶

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らのテーマに基づく卒業論文の完成に向けて、適切な方法と表現によって論文を仕上げる。また、卒業論文報告会において、第三者に理解しやすい、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことを目的とする。

【到達目標】
○設定したテーマについて、自ら探求する努力をすることができる。
○オリジナルな視点を持つとともに、論理的に考察し、それらを適切に文章化することができる。
○第三者に、自らの研究を理解しやすく、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に関する個別指導、中間報告会での報告・卒論報告会に向けての指導・助言。全員、定期的に授業内でプレゼンテーションします。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面およびオンライン併用のハイブリッドでの開講となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の分析の指導①	分析の方法と内容についての指導・助言
第 2 回	研究の分析の指導②	分析の方法と内容についての指導・助言
第 3 回	研究の分析の指導③	分析の方法と内容についての指導・助言
第 4 回	研究の分析の指導④	分析の方法と内容についての指導・助言
第 5 回	研究の分析の指導⑤	分析の方法と内容についての指導・助言
第 6 回	研究結果の指導①	分析の結果についての指導・助言
第 7 回	研究結果の指導②	分析の結果についてに指導・助言
第 8 回	研究結果の指導③	分析の結果についての指導・助言
第 9 回	考察の指導①	分析の結果についての指導・助言
第 10 回	考察の指導②	考察についての指導・助言
第 11 回	考察の指導③	考察についての指導・助言
第 12 回	研究報告の指導	研究報告についての指導・助言
第 13 回	卒業論文の研究報告	2 年、3 年、4 年生による合同ゼミにおいて、卒論報告を行う。
第 14 回	研究の振り返り	報告の振り返りにより自らのこれまでの卒業研究の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマについて、必要なデータや文献などを収集し、分析を行う。また、必要に応じて関連する機関や団体などに、インタビューを行い分析する。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
各自研究テーマに応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と参加態度 (30 %)、卒業論文の内容（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の研究成果を振り返り、改善を図ることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】
It analyzes a collected data aboutits own research subject and it makes sentences logically.It does the prezentation about the reserch meeting.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、行政、ＮＰＯ、住民グループ、商店街・自治会など様々な主体が、地域の問題に対し、自律的にまちづくりを進めているエリアマネジメントの事例から、その取り組み、組織、財源、プロセス等を学ぶとともに、自ら地域コミュニティに働きかける機会を検討し、主体的に地域課題の解決に動くことのできる人材を育てます。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 III では、卒業研究の内容を定期的にプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。授業はオンラインを中心に対面と適切に組み合わせながら実施します。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックについては、授業内で行うほか、受講生に個別に伝えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	調査状況報告　第 1 グループ	第 1 グループから、調査研究の進捗状況の報告を受けて議論する。
第 2 回	調査状況報告　第 2 グループ	第 2 グループから、調査研究の進捗状況の報告を受けて議論する。
第 3 回	調査状況報告　第 3 グループ	第 3 グループから、調査研究の進捗状況の報告を受けて議論する。
第 4 回	論文の書き方（指導）	卒論の書き方等について指導する－形式、構成等
第 5 回	論文の書き方（演習）	卒論の書き方等について、演習を通じて習得する。
第 6 回	中間報告　第 1 グループ	第 1 グループから、卒論の中間報告を受け、議論する。
第 7 回	中間報告　第 2 グループ	第 2 グループから、卒論の中間報告を受け、議論する。
第 8 回	中間報告　第 3 グループ	第 3 グループから、卒論の中間報告を受け、議論する。
第 9 回	論文構成ワークショップ	論文の構成について、演習を通じて習得する。
第 10 回	論文構成の報告	論文構成の報告。
第 11 回	卒論最終報告　前半	第 1 グループから、卒論提出前の最終報告を行う。
第 12 回	卒論最終報告　後半	第 2 グループから、卒論提出前の最終報告を行う。
第 13 回	卒論最終報告　第 3 グループ	第 3 グループから、卒論提出前の最終報告を行う。
第 14 回	卒論報告・提出	完成した卒論の報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められます。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布・指示・紹介します。

【参考書】
必要に応じて配布・指示・紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点　60 %、提出物や報告　40 %

【学生の意見等からの気づき】
常に受講者とよくコミュニケーションをとりながら、授業を改善していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
PC など発表に必要な機器を準備してください。教室で実施する場合には、プロジェクター、模造紙、マジック、ペンなど貸出可能です。担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar is Area Management that is continuous challenges by collaboration among local governments, nonprofits, residents groups and merchants associations to tackle their common problems. By researching and joining in those challenges, this seminar lead students write, improve and complete their graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

篠原　亮次

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
二年次から積み上げて来た文献探索、文献比較分析、プレゼンテーション技術、現場からの経験を基礎に、自分の関心ある研究テーマに関して既存の研究を収集・分析し、新たに独自性のあるテーマに向かって研究に取り組み、論文を作成する。

【到達目標】
論文作成を完成し、3 年間取り組んできた福祉領域の研究課題をまとめ上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの関心テーマに関して計画的に時間配分を企画しながら、論文を完成させていくことを基本とします。その過程で個別にテーマの相談、研究方法の決定、研究プロセスの確認と提出時期の予告などを個別指導しながら進めます。中間、および完成時には同ゼミ生の前で報告し質疑応答することを予定しています。対面もしくはオンラインでの講義・個別指導となる可能性があり、それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムやメール等でその都度提示します。また本授業の開始日や具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムまたはメール等で提示します。また、研究を進める上での課題や計画案等についての提出フィードバックは個別指導時もしくは「学習支援システム」、メール等を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論作成過程のガイダンス
2	研究方法のレビュー	新たな研究テーマに向けて研究方法の妥当性を検討する
3	研究方法の検討	図書館や WEB 等で、以前講習を受けた原著論文収集と分析開始
4	研究態度や研究時のルール及びマナーについて	研究態度やマナーについて院生や先輩等から研究への取り組みの話を聞く
5	中間報告会を開く	個別指導が多いため、中間で発表し、質疑応答を通しながら考察を深めていく。
6	データー収集及び分析	データーを収集後は分析する。論文作成に向けて個別指導を行う。
7	論文作成の手順の確認	論文作成の過程と手順は既に 3 年次までに進めているため、再確認のみの面談を実施する。
8	選択した研究テーマに関しての面接①	研究テーマの内容と今後の研究作業予定について面談
9	研究テーマに関しての面接②	研究テーマの内容と決定を促す面談
10	研究作業計画の立て方	研究作業の計画の立て方の講義と質疑応答
11	調査研究及び地域住民へのインタビュー等についての説明	地域住民や調査研究方法を選択する場合の原理原則について説明
12	調査票の作成ポイント	高齢社会及び障害福祉の現場における調査票の作成方法について
13	インタビュー調査のポイントと依頼方法	インタビュー調査の注意点や依頼方法
14	中間報告会①	研究計画の中間報告を通して、修正箇所の検討を行う①
15	中間報告会②	他の研究計画を学び、修正箇所の検討を行う②
16	データー収集①	データー収集と同時にデーター管理の徹底を学ぶ①
17	データー収集②	データー収集の確実性と管理の厳守②
18	データー収集③	協力者への謝意とデーターの統計的分析結果の報告の予告をする③
19	データーの分析①	データーの分析方法の情報交換①
20	データーの分析②	データーの分析方法に関する情報交換②
21	論文作成の手順の確認①	論文作成過程の学習は既習であるが手順、どこから書き始めていくか等の個別指導を行う①
22	論文作成の手順の確認②	個別指導を通して手順の確認と疑問質問の整理と解決を行う②
23	論文作成①	研究目的と方法論の作成①
24	論文作成②	研究結果の論文作成②
25	論文作成③	考察を中心とする文献整理と論文作成③
26	論文作成④	研究の限界と課題の書き方の論文作成④
27	論文作成⑤	総括と序章の見直し、謝辞の対象者と表現方法について⑤
28	論文作成⑥	全体の整合性と信頼性の確認、卒業論文の全体的な体裁の原則⑥

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究方法に関する学習
ヒアリング、データー収集、
研究対象先との交渉や報告会などの交流
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究に関する著書
論文作成に関する著書
その他、専門書多数

【参考書】
ゲストスピーカーにより多くの参考図書の紹介をその都度受ける

【成績評価の方法と基準】
卒業論文作成　８０％
その他の平常考査　２０％　オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムもしくはメール等で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
年度によって早々に論文完成させてくる場合と締切日ギリギリの場合といろいろであるが、学生の感想では自分の最も関心ある領域のテーマを取り組めたことへの満足感はみられていた。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、その他、五感を駆使するような機器も必要に応じて
積極的に活用したい。

【その他の重要事項】
OB,OG, さらに大学院生との交流を積極的に図りたい。

【Outline and objectives】
learn and practice all processes of paper preparation.

OTR400JB

卒業論文

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成

【到達目標】
卒業論文を大学４年間の集大成として位置づけ、これまで積み重ねてきた研究成果や実践的経験に基づいた問題意識を、関連先行研究のレビュー、さらなる文献研究、アンケート調査、フィールドワークなどによって必要なデータを収集し、その結果を分析、論述し、卒業論文へと結実させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
年間を通じて個別指導を基本とするが、研究方法の確認、中間報告会、卒論発表会などは集団で行い、ディスカッションを重視する。オンラインまたは対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのガイダンス
第 2 回	研究方法について①	文献研究について
第 3 回	研究方法について②	アンケート調査、フィールドワーク調査について
第 4 回	テーマの設定①	問題意識の明確化
第 5 回	テーマの設定②	先行研究の検討
第 6 回	テーマの確定	テーマ、目的、研究方法、目次の確定
第 7 回	論文作成のための準備作業①	文献研究概要の個別報告
第 8 回	論文作成のための準備作業②	調査研究概要の個別報告
第 9 回	論文作成のための準備作業③	フィールドワーク計画の個別報告
第 10 回	論文作成のための準備作業④	文献研究の中間報告
第 11 回	論文作成のための準備作業⑤	調査研究の中間報告
第 12 回	論文作成のための準備作業⑥	フィールドワーク状況の経過報告
第 13 回	論文作成のための準備作業⑦	これまでの研究結果についての報告
第 14 回	中間報告会	夏休み中の研究計画の整理
第 15 回	オリエンテーション	夏休みの課題の報告と研究計画の確認
第 16 回	研究結果の議論①	研究結果・データの分析・考察①（データの整理）
第 17 回	研究結果の議論②	研究結果・データの分析・考察②（データの集計）
第 18 回	研究結果の議論③	研究結果・データの分析・考察③（データの分析）
第 19 回	研究結果の議論④	研究結果・データの分析・考察④（データの考察）
第 20 回	研究結果の議論⑤	研究結果・データの分析・考察⑤（データのまとめ）
第 21 回	研究結果の議論⑥	研究結果全体の考察
第 22 回	論文執筆①	序論について
第 23 回	論文執筆②	本論について①（先行研究レビューと理論的検討）
第 24 回	論文執筆③	本論について②（研究結果の分析と考察）
第 25 回	論文執筆④	結論について
第 26 回	論文執筆⑤	全体を通しての論旨の確認
第 27 回	論文執筆⑥	引用・参考文献の確認
第 28 回	卒業論文提出	最終確認と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導は、基本的に進捗状況の報告と研究内容についてのディスカッションの場である。文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査および結果の整理、分析は各自で積極的に進めて、自ら個別指導時間を確保するよう能動的に行動してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、現場を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
個別指導、集団による研究への能動的取り組み：２０％
卒業論文の内容：８０％

【学生の意見等からの気づき】
論文指導については、可能な範囲で合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline and objectives】
This course enhances the development of students skills in preparing a graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化 1	卒論の意義を学び、テーマを絞る。
第 2 回	問題意識の明確化 2	個々の問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習 1	調査方法、分析の視点を学ぶ 1
第 4 回	調査研究方法の学習 2	調査方法、分析の視点を学ぶ 2
第 5 回	調査研究方法の学習 3	調査方法、分析の視点を学ぶ 3
第 6 回	論文計画の検討　1	論文作成にむけた計画を策定する 1
第 7 回	論文計画の検討　2	論文作成にむけた計画を策定する 2
第 8 回	論文計画の検討　3	論文作成にむけた計画を策定する 3
第 9 回	文献や資料などの検討 1	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる 1
第 10 回	文献や資料などの検討 2	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる 2
第 11 回	文献や資料などの検討 3	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる 3
第 12 回	調査計画の検討 1	調査方法を検討し、改善させる 1
第 13 回	調査計画の検討 2	調査方法を検討し、改善させる 2
第 14 回	調査計画の検討 3	調査方法を検討し、改善させる 3
第 15 回	中間報告 1	進捗報告書提出と議論 1
第 16 回	中間報告 2	進捗報告書提出と議論 2
第 17 回	中間報告 3	進捗報告書提出と議論 3
第 18 回	論文執筆 1	章ごとに第 1 次原稿の提出 1
第 19 回	論文執筆 2	章ごとに第 1 次原稿の提出 2
第 20 回	論文執筆 3	章ごとに第 1 次原稿の提出 3
第 21 回	論文完成に向けての作業 1	二次稿提出 1
第 22 回	論文完成に向けての作業 2	二次稿提出 2
第 23 回	論文完成に向けての作業 3	二次稿提出 3
第 24 回	論文完成に向けての作業 4	二次稿提出 4
第 25 回	文章最終仕上げ 1	発表と修正 1
第 26 回	文章最終仕上げ 2	発表と修正 2
第 27 回	文章最終仕上げ 3	発表と修正 3
第 28 回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline and objectives】
Study the graduation thesis

OTR400JB

卒業論文

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査等の後、論文を完成させる。

【到達目標】
・個人や社会の生活問題を明確化させ、その支援を考察する。
・調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
・学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨きながら、卒業論文を書き上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ発表と検討の機会を設ける。また課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化 1	卒論の意義について学ぶ
第 2 回	問題意識の明確化 2	問題意識を明確化させる
第 3 回	調査研究方法の学習 1	調査方法の学習
第 4 回	調査研究方法の学習 2	分析の視点の学習
第 5 回	調査研究方法の学習 3	調査方法、分析の視点の学習
第 6 回	論文計画の検討 1	テーマに関する議論
第 7 回	論文計画の検討 2	前回の議論をもとに研究計画の策定
第 8 回	論文計画の検討 3	テーマに関する議論と研究計画の検討
第 9 回	論文計画の検討 4	研究計画の完成
第 10 回	文献や資料の検討 1	テーマに関する知識の蓄積 1
第 11 回	文献や資料の検討 2	テーマに関する知識の蓄積 2
第 12 回	文献や資料の検討 3	テーマに関する知識の蓄積 3
第 13 回	調査計画の検討 1	調査方法の確認
第 14 回	調査計画の検討 2	調査方法の検討
第 15 回	調査計画の検討 3	調査方法の再検討と改善
第 16 回	中間報告 1	進捗状況報告書提出と議論（子ども・家族、子育てのテーマ）
第 17 回	中間報告 2	進捗状況報告書提出と議論（貧困、教育のテーマ）
第 18 回	中間報告 3	進捗状況報告書提出と議論（少年非行、その他のテーマ）
第 19 回	論文執筆 1	章ごとに第一次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て、貧困）
第 20 回	論文執筆 2	章ごとに第一次原稿の提出と検討（教育、少年非行、その他）
第 21 回	論文執筆 3	第一次原稿の校正
第 22 回	完成に向けた作業 1	二次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て）
第 23 回	完成に向けた作業 2	二次原稿の提出と検討（貧困）
第 24 回	完成に向けた作業 3	二次原稿の提出と検討（教育）
第 25 回	完成に向けた作業 4	二次原稿の提出と検討（少年非行、その他）
第 26 回	文章最終仕上げ 1	発表と修正
第 27 回	文章最終仕上げ 2	発表と修正に対する検討
第 28 回	文章最終仕上げ 3	卒業論文完成と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個別指導と専門演習と連動させる。調査研究にあたっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビュー調査やアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。
・本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒業論文の書き方 [第 2 版]』ミネルヴァ書房
・吉岡友治（2019）『マンガでやさしくわかる論文・レポートの書き方』日本能率協会マネジメントセンター
・川村匡由（2018）『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）、研究への取り組み（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis.

OTR400JB

卒業論文

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】
○大学での学びの集大成として、当事者・家族が直面している課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 9 回	論文計画の検討　Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 10 回	文献や資料などの検討 Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 11 回	文献や資料などの検討 Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 12 回	文献や資料などの検討 Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 13 回	調査計画の検討 Ⅰ	調査方法を検討し、改善させる。
第 14 回	調査計画の検討 Ⅱ	調査方法を検討し、改善させる。
第 15 回	中間報告 Ⅰ	進捗報告書提出と議論
第 16 回	中間報告 Ⅱ	進捗報告書提出と議論
第 17 回	中間報告 Ⅲ	進捗報告書提出と議論
第 18 回	論文執筆 Ⅰ	章ごとに第１次原稿の提出
第 19 回	論文執筆 Ⅱ	章ごとに第１次原稿の提出
第 20 回	論文執筆Ⅲ	章ごとに第１次原稿の提出
第 21 回	論文完成に向けての作業 Ⅰ	二次稿提出
第 22 回	論文完成に向けての作業 Ⅱ	二次稿提出
第 23 回	論文完成に向けての作業 Ⅲ	二次稿提出
第 24 回	論文執筆に向けての作業 Ⅳ	二次稿提出
第 25 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と修正
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	発表と修正
第 27 回	文章最終仕上げ　Ⅲ	発表と修正
第 28 回	全体報告会	全体に向けて卒業論文の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備・復習時間は各 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
個別指導により、適宜提示する。

【参考書】
個別指導により、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していく。

【Outline and objectives】
Complete the graduation thesis as a culmination of academic studies.

OTR400JB

卒業論文

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のあるテーマについて必要なプロセスを経て卒論として完成させる。

【到達目標】
自ら取り組んできた研究内容を卒業論文として仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導が原則。専門演習と連動し、意見交換・発表の機会を設定していく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題については、学習支援システムまたは Google クラスルームでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒論テーマの明確化	卒論に向けた全体像づくり
第 2 回	研究内容・方法の検討①	調査・分析方法を深める①
第 3 回	研究内容・方法の検討②	調査・分析方法を深める②
第 4 回	研究内容・方法の検討③	調査・分析方法を深める③
第 5 回	卒論計画の作成①	研究計画を策定①
第 6 回	卒論計画の作成②	研究計画を策定②
第 7 回	卒論計画の作成③	研究計画を策定③
第 8 回	先行研究のレビュー①	引用する文献・資料の検討①
第 9 回	先行研究のレビュー②	引用する文献・資料の検討②
第 10 回	先行研究のレビュー③	引用する文献・資料の検討③
第 11 回	卒論中間発表準備	現段階の到達点の確認
第 12 回	卒論中間発表①	研究内容の中間発表①
第 13 回	卒論中間発表②	研究内容の中間発表②
第 14 回	卒論中間発表③	研究内容の中間発表③
第 15 回	卒論計画の見直し	研究計画の改善
第 16 回	卒論執筆①	第 1 次原稿提出準備①
第 17 回	卒論執筆②	第 1 次原稿提出準備②
第 18 回	卒論執筆③	第 1 次原稿提出準備③
第 19 回	卒論執筆④	第 1 次原稿提出・修正
第 20 回	卒論執筆⑤	第 2 次原稿提出準備①
第 21 回	卒論執筆⑥	第 2 次原稿提出準備②
第 22 回	卒論執筆⑦	第 2 次原稿提出・修正
第 23 回	卒論発表回①	卒論の発表①
第 24 回	卒論発表回②	卒論の発表②
第 25 回	卒論発表回③	卒論の発表③
第 26 回	卒論発表回④	卒論の発表④
第 27 回	卒論の修正・仕上げ	必要に応じて最終調整
第 28 回	卒論完成	完成版の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールド調査を進めつつ、ゼミと個別指導を連動させていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容： 80 %、研究への取り組み（期限遵守等）： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
学生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】
This course is designed to facilitate the process of students' learning and completion of his/her graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰ AB・Ⅱ AB での学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。

【到達目標】
ゼミ活動他で得られた問題関心を明確にし、研究テーマを立ち上げ、考察するための調査研究や分析の方法を学ぶとともに、自らの主張を学術論文の形式で論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導と専門演習との連携によるグループダイナミクスにより、確実に卒業論文を完成させるように進めていく。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化（意義）	卒論の意義を学ぶ
第 2 回	問題意識の明確化（問題意識）	卒論の問題意識をさらに焦点化
第 3 回	調査研究方法の学習（量的調査）	調査方法、分析の視点を学ぶ。（量的調査）
第 4 回	調査研究方法の学習（質的調査）	調査方法、分析の視点を学ぶ。（質的調査）
第 5 回	調査研究方法の検討	調査方法、分析の視点を学ぶ。（質的調査の深化）
第 6 回	論文計画の検討（テーマ）	テーマについて議論する
第 7 回	論文計画の検討（調査対象）	調査対象について議論する
第 8 回	論文計画の検討（研究計画）	研究計画について議論する
第 9 回	論文計画の検討（方法）	調査方法についてコメントをもらう。
第 10 回	文献検討	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 11 回	資料検討	テーマに関する資料を検討し、テーマにそって発表する
第 12 回	先行研究のまとめ	テーマに関する知識を蓄積し、考察を深める
第 13 回	調査計画の検討	調査方法を検討し、改善をはかる。
第 14 回	予備調査	調査方法を検討し、パイロットスタディを行う。
第 15 回	予備調査の振り返り	パイロットスタディの結果を検討する。
第 16 回	中間報告	進捗報告書提出
第 17 回	中間報告の発表と議論	進捗報告の発表と議論
第 18 回	進捗再確認	進捗報告を踏まえた今後の計画を検討する
第 19 回	論文執筆（序章）	序章第一次原稿の提出
第 20 回	論文執筆（本論）	本論第一次原稿の提出
第 21 回	論文執筆（第一次提出）	考察の第一次原稿の提出
第 22 回	論文完成に向けての作業（目次）	目次二次原稿提出
第 23 回	論文完成に向けての作業（序章二次提出）	序章二次原稿提出
第 24 回	論文完成に向けての作業（本論）	本論二次原稿提出
第 25 回	論文完成に向けての作業（考察二次検討）	考察二次原稿提出
第 26 回	文章最終仕上げ	発表と検討
第 27 回	論文最終仕上げ	修正と発表
第 28 回	卒業論文の提出	発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習でのグループダイナミクスにより学生相互の学びを進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文：８０%、論文執筆の過程での取組み状況：２０%

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やグループワーク、研究報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
草稿提出： 11 月最終ゼミ日　最終提出日： 12 月最終ゼミ

【Outline and objectives】
This class builds on the skills learned in seminar Ⅰ AB, Ⅱ A B, Ⅲ AB and applies them to the writing of a thesis. We will reinforces the basic reading skills and strategies that are needed for academic success at the university level, and moves up through critical reading of more advanced texts toward the writing of academic papers.

OTR400JB

卒業論文

図司　直也

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
“ローカルゼミ” である本ゼミ、および 4 年間の現代福祉学部での学びから発見した問題関心をテーマとして、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
“ローカルゼミ” として活動する本ゼミに沿ったテーマを設定し、フィールドワークにより自らの足でオリジナルの知見を得て、文献研究を通して自分の意見を客観的に位置づけ、論理的に文章を組み立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表やゼミ生同士の議論の機会を積極的に設けていく。課題等のフィードバックは授業内や個別指導で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文の方針とスケジュールの確認	卒業論文の作成に関する方針の確認
第 2 回	卒業論文テーマの候補出し	自分の問題関心の整理
第 3 回	卒業論文テーマの選択	議論を通した大まかなテーマの設定
第 4 回	卒業論文テーマの設定	議論を通したテーマの具体化
第 5 回	関連文献の収集	テーマに関する関連文献の収集
第 6 回	関連文献の内容報告	テーマに関する関連文献の内容報告
第 7 回	関連文献の内容検討	テーマに関する関連文献の内容検討
第 8 回	分析視角の整理	関連文献を通した自分の分析視角の整理
第 9 回	分析視角の提示	関連文献を通した自分の分析視角の提示
第 10 回	仮説の検討	仮説を検討する
第 11 回	仮説の提示	仮説を提示する
第 12 回	フィールドワークの検討	調査計画を検討する
第 13 回	フィールドワークの準備	調査実施に向けた準備を進める
第 14 回	中間報告	これまでの作業を整理し、今後の進め方を検討する
第 15 回	作業経過報告	秋学期開始時点での到達点を整理する
第 16 回	作業方針の再設定	秋学期の作業方針を検討する
第 17 回	草稿作成（論文構成の検討）	論文構成を組み立てる
第 18 回	草稿作成（目次の作成）	目次案を作成する
第 19 回	草稿作成（執筆メモの作成）	執筆メモをまとめる
第 20 回	草稿作成（執筆メモの検討）	執筆メモを見直す
第 21 回	草稿作成（仮タイトルの検討）	仮タイトルを検討する
第 22 回	草稿作成（執筆の開始）	執筆に着手する
第 23 回	草稿作成（執筆経過の報告）	執筆経過を報告する
第 24 回	草稿作成（論文の再構成）	論文の体裁を整える
第 25 回	仮提出と内容報告	完成稿を取りまとめ、校正作業に入る
第 26 回	校正作業	校正作業を進める
第 27 回	修正稿提出と内容報告	修正稿を取りまとめる
第 28 回	卒論提出と概要発表	卒論を提出し、各自概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし、授業外での個別作業を必須とし、進捗状況に応じて作業時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容 80 %，研究への取組 20 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた声をもとに改善を図りたい。

【Outline and objectives】
In this class, reinforces the basic reading skills and strategies that are needed for academic success at the university level, and moves up through critical reading of more advanced texts toward the reading and understanding of academic papers.
This subject, builds on the skills learned in seminar Ⅰ AB, Ⅱ AB, Ⅲ AB and applies them to the writing of a major research paper.

OTR400JB

卒業論文

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らの企業と社会に関わる問題関心をテーマとして、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
企業と社会に関わるテーマを設定した上で、(1) 関連する先行研究をサーベイする、(2) リサーチ・クエスチョンを立てる、(3) 各自のフィールドにおいて、インタビュー調査や参与観察などを行う、(4) 調査から知見を見出す、(5) 論理的に文章を組み立てる、という 5 つを目標として進めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミテン全員が各人の調査の進捗報告を行い、ディスカッションを行う。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更などが生じる場合については、学習支援システムでその都度提示する。また課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文の方針とスケジュールの確認	卒業論文の作成に関する方針の確認
第 2 回	卒業論文のテーマの検討	自分の問題関心を整理し、議論を通して大まかなテーマを検討する。
第 3 回	関連文献の整理・報告とリサーチ・クエスチョンの導出①	テーマに関する関連文献を収集報告するとともに、リサーチ・クエスチョンを導出する①
第 4 回	関連文献の整理・報告とリサーチ・クエスチョンの導出②	テーマに関する関連文献を収集報告するとともに、リサーチ・クエスチョンを導出する②
第 5 回	分析視点の整理と仮説の検討①	関連文献を通して、自分の分析視点を明確にし、仮説を組み立てる①
第 6 回	分析視点の整理と仮説の検討②	関連文献を通して、自分の分析視点を明確にし、仮説を組み立てる②
第 7 回	インタビュー調査の検討・準備①	インタビュー調査実施に向けた準備を進め、夏合宿での報告の準備を行う①
第 8 回	インタビュー調査の検討・準備②	インタビュー調査実施に向けた準備を進め、夏合宿での報告の準備を行う②
第 9 回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査結果を報告する①
第 10 回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査結果を報告する②
第 11 回	中間報告書の作成に向けた準備①	夏休み明けに提出する中間報告書の書き方について確認する。(基本的な書き方)
第 12 回	中間報告書の作成に向けた準備②	夏休み明けに提出する中間報告書の書き方について確認する。(全体の構成)
第 13 回	中間報告書の作成に向けた準備③	夏休み明けに提出する中間報告書の書き方について確認する。(注釈、参考文献、引用の方法)
第 14 回	中間報告書の作成に向けた準備④	夏休み明けに提出する中間報告書の書き方について確認する。(図表の作成方法)
第 15 回	課題の洗い出し	卒業論文作成にあたっての課題を各自洗い出し、全員で共有する
第 16 回	後期イントロダクション	後期のスケジュールを確認するとともに、中間報告書の体裁について確認する
第 17 回	中間報告書の提出	夏休み期間中に作成した中間報告書を提出する
第 18 回	中間報告書の見直し作業①	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う①
第 19 回	中間報告書の見直し作業②	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う②
第 20 回	中間報告書の見直し作業③	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う③
第 21 回	中間報告書の見直し作業④	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う④
第 22 回	中間報告書の見直し作業⑤	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う⑤

第 23 回	中間報告書の見直し作業⑥	教員からのコメントを受けて、根本的な見直し作業を行う⑥
第 24 回	論文執筆・追加インタビューの実施①	文章化の作業を進めるとともに、追加的なインタビュー調査の実施を行う①
第 25 回	論文執筆・追加インタビューの実施②	文章化の作業を進めるとともに、追加的なインタビュー調査の実施を行う②
第 26 回	卒論プレゼン報告①	卒論報告会に向けた報告の練習①
第 27 回	卒論プレゼン報告②	卒論報告会に向けた報告の練習②
第 28 回	卒論プレゼン報告③	卒論報告会に向けた報告の練習③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関連する先行文献・各種資料収集を行い、プレゼンの練習・準備を行う。また、夏以降は各自でインタビュー調査を実施する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐藤郁哉（1992）『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』新曜社
この他については適宜指示する。

【参考書】
佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法』新曜社この他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80 %）
報告会におけるプレゼンテーション（20 %）
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミナリステンの声を参考に毎年改善を図っていく。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to draw out the research questions in our society and finally write a diploma thesis in our faculty.

OTR400JB

卒業論文

中村　律子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らの関心ある研究テーマの先行研究や文献・資料の整理により問題意識の明確化を行い、調査研究の後、卒業研究論文を完成させます。

【到達目標】
各自の研究テーマ、問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できます。調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てることをとおして、学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導を行います。専門演習Ⅲと連動させ、発表の機会を設けます。秋学期については、各学生の卒論執筆の進捗状況に応じて個別指導が中心となりますが、全体授業も行います。卒業論文指導上で、報告内容への個別コメントなどは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文についての説明	卒業論文作成プロセスの意識化
第 2 回	卒論テーマ研究	卒論テーマ、問題意識の明確化
第 3 回	調査研究方法学習Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第 4 回	調査研究方法学習Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第 5 回	調査研究方法学習Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第 6 回	論文計画の検討Ⅰ	研究テーマなどの策定
第 7 回	論文計画の検討Ⅱ	研究対象、研究方法の検討
第 8 回	論文計画の検討Ⅲ	研究対象、研究方法の策定
第 9 回	論文計画の検討Ⅳ	研究対象やテーマを再検討し、研究計画案の策定
第 10 回	文献や資料の検討Ⅰ	先行研究文献の整理、検討①
第 11 回	文献や資料の検討Ⅱ	先行研究文献の整理、検討②
第 12 回	調査計画の検討Ⅰ	調査方法、調査計画案策定①
第 13 回	調査計画の検討Ⅱ	調査方法、調査計画案策定②
第 14 回	春学期のまとめ	卒論研究の再検討 課題抽出
第 15 回	秋学期オリエンテーション	卒業論文執筆、提出プロセスの再確認
第 16 回	論文中間報告Ⅰ	進捗報告と議論①
第 17 回	論文中間報告Ⅱ	進捗報告と議論②
第 18 回	論文中間報告Ⅲ	進捗報告と議論③
第 19 回	論文執筆指導Ⅰ	第一次原稿の提出と討議①
第 20 回	論文執筆指導Ⅱ	第一次原稿の提出と討議②
第 21 回	論文執筆指導Ⅲ	第一次原稿の提出と修正討議
第 22 回	論文完成への作業Ⅰ	二次稿報告と討議①
第 23 回	論文完成への作業Ⅱ	二次稿報告と討議②
第 24 回	論文完成への作業Ⅲ	二次稿報告と討議③
第 25 回	論文完成への作業Ⅳ	二次稿提出と修正討議
第 26 回	論文最終稿仕上げⅠ	最終論文内容報告と討議①
第 27 回	論文最終稿仕上げⅡ	最終論文内容報告と討議②
第 28 回	卒業論文提出	卒業論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習Ⅲと連動させて論文指導を行います。先行研究の整理、調査研究方法（フィールドワーク、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加しての参与観察）を行うなど、卒業論文完成に向けて、努力してください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒業論文テーマに沿って、適宜、提示します。

【参考書】
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科編（2006）『京大式　フィールドワーク入門』NTT 出版など、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文執筆と提出　80%，　卒業研究への取り組み　20%、により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成・提出にむけて、きめ細かい個別指導をします。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】
卒業論文の進捗状況によっては、授業スケジュールの変更を考えますので、よく受講者と話し合いながらよりよい指導方法を検討していきます。

【Outline and objectives】
This course guides students to complete their graduation work by collecting and analyzing research data on their topics of interest. Students will learn defining the problems and research methods through examining prior research data.

OTR400JB

卒業論文

布川　日佐史

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生までの自分の独自調査をもとに設定したテーマについて、先行研究の検討を深め、主張がオリジナルで明確な卒業論文をまとめます。

【到達目標】
自分の立てた研究テーマに関し、オリジナリティー溢れた論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
１）春学期は、先行研究の整理とヒアリングのまとめを文章化します。秋学期は、論文の構成を確定し、論文を完成させます。
２）中間での報告や提出物へのコメントを、丁寧に授業支援システムやメールでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の目標と執筆計画
2	先行研究の収集①	情報の検索
3	先行研究の収集②	参考文献リストの作成
4	先行研究の整理①	主要文献の概要まとめ
5	先行研究の整理②	主要文献の概要文章化
6	調査準備①	調査課題と調査対象の検討
7	調査準備②	調査項目の検討
8	調査準備③	調査票（案）の検討
9	先行研究の整理③	主要論者の論点文章化
10	先行研究の整理④	主張の異同の文章化
11	調査準備④	調査先、質問項目の文章化
12	調査①	ヒアリングの実施
13	調査②	ヒアリングのまとめ文章化
14	仮説の検討	仮説の文章化
15	執筆スケージュール等確認	引用、注の付け方の確認
16	論文執筆計画の作成	計画の作成
17	追加調査①	概要のまとめ
18	追加調査②	調査結果の文章化
19	調査結果まとめ①	調査まとめの検討
20	調査結果まとめ②	調査結果まとめ文章化
21	論文構想報告①	構想の報告、意見交換
22	論文構想報告②	論文の構成の確認
23	論文作成①	課題と仮説の提示
24	論文作成②	課題と仮説の文章化
25	論文作成③	先行研究まとめの文章化
26	論文作成④	調査まとめの文章化
27	論文報告会①	概要の報告
28	論文報告会②	意見交換と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
独自の調査をもとに、成果と課題を文章にまとめる。
先行研究をじっくり文章にまとめる。

【テキスト（教科書）】
個人テーマに応じて指示します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
論文作成プロセスの段階的進展の成否（40 %）と、完成論文の水準（60 %）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】
春学期期間中の到達度を引き上げるようにします。

【Outline and objectives】
You set a theme based on your own research, criticize the preceding research, and write a graduation report full of originality.

OTR400JB

卒業論文

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、集計分析を行い、論文を完成させる。

【到達目標】
○地域づくりへの問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら論文を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。研究室での個別面談とオンラインを組み合わせて指導を行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化①	卒論の意義と問題意識を明確化
第 2 回	問題意識の明確化②	問題意識の深化
第 3 回	調査研究方法の学習①	調査方法・分析の視点①予備調査
第 4 回	調査研究方法の学習②	調査方法・分析の視点②量的調査
第 5 回	調査研究方法の学習③	調査方法・分析の視点③質的調査
第 6 回	論文計画の検討①	調査対象の選定
第 7 回	論文計画の検討②	調査対象の絞り込み
第 8 回	論文計画の検討③	テーマのキーワード抽出
第 9 回	論文計画の検討④	テーマの絞り込み
第 10 回	文献や資料の検討①	先行研究のレビュー
第 11 回	文献や資料の検討②	参考文献のレビュー
第 12 回	文献や資料の検討③	先行研究・参考文献のとりまとめ
第 13 回	調査計画の検討①	調査対象組織の選定
第 14 回	調査計画の検討②	実施調査方法の検討
第 15 回	調査計画の検討③	調査スケジュールの検討
第 16 回	中間報告①	進捗状況の確認
第 17 回	中間報告②	分析結果の確認
第 18 回	中間報告③	残された作業課題の確認
第 19 回	論文執筆①	第一次原稿の提出（第１章）
第 20 回	論文執筆②	第一次原稿の提出（第２章）
第 21 回	論文執筆③	第一次原稿の提出（第３章）
第 22 回	論文のまとめ作業①	第二次原稿の提出（第１章）
第 23 回	論文のまとめ作業②	第二次原稿の提出（第２章）
第 24 回	論文のまとめ作業③	第二次原稿の提出（第３章）
第 25 回	論文のまとめ作業④	第二次原稿の提出（終章）
第 26 回	文章最終仕上げ①	中間発表
第 27 回	文章最終仕上げ②	原稿の第一次修正
第 28 回	文章最終仕上げ③	原稿の第二次修正、校了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習とを連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80 %
研究への取り組み　20 %
上記を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループにより、学生への連絡や情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの調査手法について助言する。

【Outline and objectives】
Clarify the problem consciousness of the paper, conduct necessary investigation, and complete the graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

張　梦瑶

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文とし文章化し完成させる。

【到達目標】
○地域の福祉課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
対面およびオンライン併用のハイブリッドでの開講となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ。①
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ。②
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ。③
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。①
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。②
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。③
第 9 回	論文計画の検討　Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。④
第 10 回	文献や資料などの検討 Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。①
第 11 回	文献や資料などの検討 Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。②
第 12 回	文献や資料などの検討 Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。③
第 13 回	調査計画の検討 Ⅰ	調査方法を検討し、改善させる。①
第 14 回	調査計画の検討 Ⅱ	調査方法を検討し、改善させる。②
第 15 回	調査計画の検討 Ⅲ	調査方法を検討し、改善させる。③
第 16 回	中間報告 Ⅰ	進捗報告書提出と議論①
第 17 回	中間報告 Ⅱ	進捗報告書提出と議論②
第 18 回	中間報告 Ⅲ	進捗報告書提出と議論③
第 19 回	論文執筆 Ⅰ	章ごとに第１次原稿の提出①
第 20 回	論文執筆 Ⅱ	章ごとに第１次原稿の提出②
第 21 回	論文執筆 Ⅲ	章ごとに第１次原稿の提出③
第 22 回	論文完成に向けた作業 Ⅰ	二次稿提出①
第 23 回	論文完成に向けた作業 Ⅱ	二次稿提出②
第 24 回	論文完成に向けた作業 Ⅲ	二次稿提出③
第 25 回	論文完成に向けた作業 Ⅳ	二次稿提出④
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と修正①
第 27 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	発表と修正②
第 28 回	文章最終仕上げ　Ⅲ	発表と修正③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。準備・復習時間は、１回につき４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）、研究への取り組み（20%）

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、先進事例の紹介などその経験を活かして卒論作成の助言・指導をおこなうこととする。

【Outline and objectives】
To complete a reserch paper,it does search of the neccessary articl and data.
It makes sentences as the reserch paper.

OTR400JB

卒業論文

今井　裕久

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】
○地域への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。課題へのフィードバックはメールや学習支援システム等で個別に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	調査研究方法の学習（調査法とは）	様々な調査方法を学ぶ。
第 3 回	調査研究方法の学習（分析法）	調査を踏まえた分析の視点を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習（演習）	自らの調査法、分析の視点を各自が検討する。
第 5 回	論文計画の検討（調査テーマの立て方）	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 6 回	論文計画の検討（第１グループの発表）	実際に策定した研究計画を発表し、議論する。
第 7 回	論文計画の検討（第２グループ）	実際に策定した研究計画を発表し、議論する。
第 8 回	文献や資料などの検討（解説・演習）	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる方法について解説し、その方法を学ぶ。
第 9 回	文献や資料などの検討（第１グループ）	受講生をグループ分けし、第１グループから、集めてきた文献とそこから得られた示唆を発表し、議論する。
第 10 回	文献や資料などの検討（第２グループ）	受講生をグループ分けし、第２グループから、集めてきた文献とそこから得られた示唆を発表し、議論する。
第 11 回	調査計画の検討（解説と演習）	調査計画の立て方について解説し、各自で作成してみる。
第 12 回	調査計画の報告（第１グループ）	受講生をグループ分けし、第１グループから調査計画を発表し、議論する。
第 13 回	調査計画の報告（第２グループ）	受講生をグループ分けし、第２グループから調査計画を発表し、議論する。
第 14 回	中間まとめ	夏期の調査方法や今後の進め方について議論する。
第 15 回	進捗状況報告と後期ガイダンス	進捗状況の報告を受けるとともに、後期の進め方を検討する。
第 16 回	中間報告（第１グループ）	受講生をグループ分けし、第１グループからこれまでの調査結果について発表し、議論する。
第 17 回	中間報告（第２グループ）	受講生をグループ分けし、第２グループからこれまでの調査結果について発表し、議論する。
第 18 回	論文報告（第１次原稿、第１グループ）	受講生を３つのグループに分け、第１グループから、第１次原稿の提出を受け、議論する。
第 19 回	論文報告（第１次原稿、第２グループ）	受講生を３つのグループに分け、第２グループから、第１次原稿の提出を受け、議論する。
第 20 回	論文（第１次原稿、第３グループ）	受講生を３つのグループに分け、第３グループから、第１次原稿の提出を受け、議論する。
第 21 回	論文（第２次原稿、第１グループ）	受講生を３つのグループに分け、第１グループから、第２次原稿の提出を受け、議論する。
第 22 回	論文（第２次原稿、第２グループ）	受講生を３つのグループに分け、第２グループから、第２次原稿の提出を受け、議論する。
第 23 回	論文（第２次原稿、第３グループ）	受講生を３つのグループに分け、第３グループから、第２次原稿の提出を受け、議論する。
第 24 回	完成論文案の検討（第１グループ）	受講生を３つのグループに分け、第１グループから、完成論文の案の提出を受け、議論する。
第 25 回	完成論文案の検討（第２グループ）	受講生を３つのグループに分け、第２グループから、完成論文の案の提出を受け、議論する。
第 26 回	完成論文案の検討（第３グループ）	受講生を３つのグループに分け、第３グループから、完成論文の案の提出を受け、議論する。
第 27 回	最終論文発表会（前半）	論文を完成させ、その内容を発表する。
第 28 回	最終論文発表会（後半）	論文を完成させ、その内容を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%、平常点　20%
具体的な方法と基準は、授業内に伝えるほか、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、よりよい方法を検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて情報機器などを準備すること。

【その他の重要事項】
授業以外の時間にもメール等でやりとりをすることが求められます。

【Outline and objectives】
This is an independent research and writing.The professor will guide each student to clarify his/her research question analyze fact and write thesis.

LANe200JB

英語専門演習ＩＡ

髙取　康之

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で自分の考えをまとめて発表できるようにすることを主眼とする授業である。毎回英語でインター・アクティブなやり取りを実践する。

【到達目標】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回授業内でプレゼンテーションを実施し、英語の運用能力を向上させることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに各章に関して英語で発表してもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	My Club Activities	クラブ活動について スピーチ演習
第 2 回	What Do You Want to Do with Your Life?	人生について スピーチ演習
第 3 回	映画で学ぼう①	英語を聞き取る①
第 4 回	映画で学ぼう②	英語を聞き取る②
第 5 回	My Part-time Job	アルバイトについて スピーチ演習
第 6 回	Should Alcohol Abuse Be Tolerated?	アルコール問題について スピーチ演習
第 7 回	Smorking Should be Banned in All Public Places	喫煙問題について スピーチ演習
第 8 回	映画で学ぼう①	英語を聞き取る①
第 9 回	映画で学ぼう②	英語を聞き取る②
第 10 回	What's Wrong with Downloading?①	ダウンロードについて① スピーチ演習
第 11 回	What's Wrong with Downloading?②	ダウンロードについて② スピーチ演習
第 12 回	Pet Owners Should Be Responsible for Their Pet	ペット問題について① スピーチ演習
第 13 回	Pet Owners Should Be Responsible for Their Pet	ペット問題について② スピーチ演習
第 14 回	まとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語の番組や映画を常日頃見てください。一日あたり３０分程度。

【テキスト（教科書）】
「Your first speech and presentation」　Shawan M. Clankie　Nan'un-do　2000 円　2011 年

【参考書】
英字新聞と雑誌

【成績評価の方法と基準】
テスト７０％
平常点３０％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
In this class, you are going to present your idea among your classmates so this class is going to be interactive.

LANe200JB

英語専門演習ＩＢ

髙取　康之

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グループを形成し章ごとのタイトルに関連した内容で発表をしてもらい、プレゼンテーションの能力に磨きをかけることを目的とする。

【到達目標】
プレゼンテーションを中心に授業を進め、英語の運用能力を向上させ、自在に英語で自分の考えを他者に伝えることが出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教材発信型と Zoom によるリアル・タイム型の混合で授業を進める。毎回各グループごとに各章に関して英語で発表をしてもらう。課題を科す場合は Hoppi を通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	How can we prevent suicides?	自殺はどうすればくい止められるか
第 2 回	Colleges should offer driving lessons	大学で自動車運転の授業を開講すべきである
第 3 回	Movie ①	映画で学ぼう①
第 4 回	Movie ②	映画で学ぼう②
第 5 回	Schools should not force students to do volunteer work	ボランティア活動は学校で強制されるものではない
第 6 回	Should the age of adulthood be lowered in Japan	日本の成人年齢は下げるべきか
第 7 回	Movie ①	映画で学ぼう①
第 8 回	Movie ②	映画で学ぼう②
第 9 回	Should English be taught in primary schools?	小学校英語教育の是非
第 10 回	Should we let children use cellphones?	子供に携帯電話を持たすべきか
第 11 回	Should the consumption tax be raised?	消費税は上げるべきか
第 12 回	Will telecommuting work in Japan?	在宅勤務は日本で普及するか
第 13 回	Do you vote?	投票に行きますか
第 14 回	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語のニュースや英語で映画を見て、英語に慣れてください。（一日あたり３０分程度）

【テキスト（教科書）】
「Your first speech and presentation 」Shawn M. Clankie Nan'un-do 2000 円　2011 年

【参考書】
英字新聞や雑誌

【成績評価の方法と基準】
小テスト８０％
平常点２０％

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい説明。

【その他の重要事項】
大学の行動制限方針がレベル１の場合でも，この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】
You will make up group and present your idea in front of classmates. The contents of your presentation should be academic.

LANe200JB

英語専門演習ⅡA

山本　五郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門書や論文の英語を読み，学術的な知識を深める。

【到達目標】
専門書や論文の英語の特性を理解しすること。
専門書や論文の学術的な英語に対応できるリーディングスキルを習得すること。
健康で幸福な暮らし (Well-being) について多角的な視野で考えることができるようになること。
大学院の入試問題の英語に慣れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
様々なリーディングテキストをハンドアウトとして配布し，要約や発表などの授業内活動を取り入れながら進めます。
進度は学生の専門及び習熟度を考慮して調整します。（大学院進学希望者のみを対象とした授業ではありません。）
毎回，語彙やハンドアウトの内容に関する小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，課題等の説明
第 2 回	ハンドアウト 1	Well-being: Wealth
第 3 回	ハンドアウト 2	Well-being: Jobs
第 4 回	ハンドアウト 3	Well-being: Housing conditions
第 5 回	ハンドアウト 4	Well-being: Health status
第 6 回	ハンドアウト 5	Well-being: Education
第 7 回	ハンドアウト 6	Clinical Psychology: Bodily changes and emotion
第 8 回	ハンドアウト 7	Clinical Psychology: Stress
第 9 回	ハンドアウト 8	Community Development: Social connection
第 10 回	ハンドアウト 9	Community Development: Civic engagement
第 11 回	ハンドアウト 10	Research Method: Qualitative
第 12 回	ハンドアウト 11	Research Method: Quantitative
第 13 回	ハンドアウト 12	Graduate School Exam: Translation
第 14 回	ハンドアウト 13 授業の振り返り	Graduate School Exam: Summarization / Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業（ハンドアウト）の予習・復習の時間を毎週確保してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
Nolen-Hoeksema, S., & Hilgard, E. R. (2014). Atkinson and Hilgards introduction to psychology. Andover: Cengage Learning.
その他必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%, 平常点 発表等の授業内活動 30%, 提出物課題（レポート）30%, テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
大学院入試用のリーディング等については授業外でも指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' knowledge on issues related to Well-being through English books and research papers. Materials for the course include official reports by international organizations such as the OECD and WHO, sections and columns from Nolen-Hoeksema et al. (2014), research papers in the field of psychology and clinical psychology, and students' selected academic readings. Each student will be responsible for a certain part of the selected readings and summarize the target problems, backgrounds, theories, experimental designs, and outcomes or findings described in the reading.
Through sharing the summary within a group, students will reinforce their understanding of academic topics in their specialized areas. As for reading their selected materials, students are welcome to bring English articles, the contents of which should be connected to other selected or required course materials they are learning or have learnt. The course is partially aimed at preparing for the graduate school entrance exam.

LANe200JC

英語専門演習ⅡA

山本　五郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門書や論文の英語を読み，学術的な知識を深める。

【到達目標】
専門書や論文の英語の特性を理解しすること。
専門書や論文の学術的な英語に対応できるリーディングスキルを習得すること。
健康で幸福な暮らし (Well-being) について多角的な視野で考えることができるようになること。
大学院の入試問題の英語に慣れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
様々なリーディングテキストをハンドアウトとして配布し，要約や発表などの授業内活動を取り入れながら進めます。
進度は学生の専門及び習熟度を考慮して調整します。（大学院進学希望者のみを対象とした授業ではありません。）
毎回，語彙やハンドアウトの内容に関する小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，課題等の説明
第 2 回	ハンドアウト 1	Well-being: Wealth
第 3 回	ハンドアウト 2	Well-being: Jobs
第 4 回	ハンドアウト 3	Well-being: Housing conditions
第 5 回	ハンドアウト 4	Well-being: Health status
第 6 回	ハンドアウト 5	Well-being: Education
第 7 回	ハンドアウト 6	Clinical Psychology: Bodily changes and emotion
第 8 回	ハンドアウト 7	Clinical Psychology: Stress
第 9 回	ハンドアウト 8	Community Development: Social connection
第 10 回	ハンドアウト 9	Community Development: Civic engagement
第 11 回	ハンドアウト 10	Research Method: Qualitative
第 12 回	ハンドアウト 11	Research Method: Quantitative
第 13 回	ハンドアウト 12	Graduate School Exam: Translation
第 14 回	ハンドアウト 13 授業の振り返り	Graduate School Exam: Summarization / Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業（ハンドアウト）の予習・復習の時間を毎週確保してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
Nolen-Hoeksema, S., & Hilgard, E. R. (2014). Atkinson and Hilgards introduction to psychology. Andover: Cengage Learning.
その他必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%, 平常点 発表等の授業内活動 30%, 提出物課題（レポート）30%, テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
大学院入試用のリーディング等については授業外でも指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
This course is designed to deepen students' knowledge on issues related to Well-being through English books and research papers. Materials for the course include official reports by international organizations such as the OECD and WHO, sections and columns from Nolen-Hoeksema et al. (2014), research papers in the field of psychology and clinical psychology, and students' selected academic readings. Each student will be responsible for a certain part of the selected readings and summarize the target problems, backgrounds, theories, experimental designs, and outcomes or findings described in the reading.
Through sharing the summary within a group, students will reinforce their understanding of academic topics in their specialized areas. As for reading their selected materials, students are welcome to bring English articles, the contents of which should be connected to other selected or required course materials they are learning or have learnt. The course is partially aimed at preparing for the graduate school entrance exam.

LANe200JC

英語専門演習ⅡB

山本　五郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語専門演習 IIA で学んだ内容を発展させ，各専門領域の専門書や論文を英語で読み，知識を深める。

【到達目標】
専門書や論文の英語が読めること。
健康で幸福な暮らし (Well-being) について多角的な視野で考えることができるようになること。
大学院の入試問題の英語に慣れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
様々なリーディングテキストをハンドアウトとして配布し，要約や発表などの授業内活動を取り入れながら進めます。
進度は学生の専門及び習熟度を考慮して調整します。（大学院進学希望者のみを対象とした授業ではありません。）
毎回，語彙やハンドアウトの内容に関する小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，課題等の説明
第 2 回	ハンドアウト 1	Official reports: Industry and services
第 3 回	ハンドアウト 2	Official reports: Employment
第 4 回	ハンドアウト 3	Official reports: Education
第 5 回	ハンドアウト 4	Official reports: Economics
第 6 回	ハンドアウト 5	Official reports: Science and technology
第 7 回	ハンドアウト 6	Official reports: Environment
第 8 回	ハンドアウト 7	Official reports: Environment
第 9 回	ハンドアウト 8	Research papers: Community development
第 10 回	ハンドアウト 9	Research papers: Social welfare
第 11 回	ハンドアウト 10	Research papers: Clinical psychology
第 12 回	ハンドアウト 11	Research papers: Psychology
第 13 回	ハンドアウト 12	Graduate school exam: Translation
第 14 回	ハンドアウト 13	Graduate school exam: Summarization

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業（ハンドアウト）の予習・復習の時間を毎週確保してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
Nolen-Hoeksema, S., & Hilgard, E. R. (2014). Atkinson and Hilgards introduction to psychology. Andover: Cengage Learning.
その他必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%, 平常点 発表等の授業内活動 30%, 提出物課題（レポート）30%, テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
大学院入試用のリーディングについては授業外でも指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
Following the English for Academic Purposes 1 in the spring semester, this course is also designed to deepen students' knowledge on issues related to Well-being through English books and academic papers. Materials for the course include official reports by international organizations such as the OECD and WHO, sections and columns from Nolen-Hoeksema et al. (2014), journal papers in the field of psychology and clinical psychology, and students' selected academic readings. Each student will be responsible for a certain part of the selected readings and summarize the target problems, backgrounds, theories, experimental designs, and outcomes or findings described in the reading. Through sharing the summary within a group, students will reinforce their understanding of academic topics in their specialized areas. As for reading their selected materials, students are welcome to bring English articles, the contents of which should be connected to other selected or required course materials they are learning or have learnt. The course is partially aimed at preparing for the graduate school entrance exam.

LANe200JB

英語専門演習Ⅱ B

山本　五郎

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語専門演習 IIA で学んだ内容を発展させ，各専門領域の専門書や論文を英語で読み，知識を深める。

【到達目標】
専門書や論文の英語が読めること。
健康で幸福な暮らし (Well-being) について多角的な視野で考えることができるようになること。
大学院の入試問題の英語に慣れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
様々なリーディングテキストをハンドアウトとして配布し，要約や発表などの授業内活動を取り入れながら進めます。
進度は学生の専門及び習熟度を考慮して調整します。（大学院進学希望者のみを対象とした授業ではありません。）
毎回，語彙やハンドアウトの内容に関する小テストを行います。
課題等に対するフィードバックについては，学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方，評価基準，使用教材，課題等の説明
第 2 回	ハンドアウト 1	Official reports: Industry and services
第 3 回	ハンドアウト 2	Official reports: Employment
第 4 回	ハンドアウト 3	Official reports: Education
第 5 回	ハンドアウト 4	Official reports: Economics
第 6 回	ハンドアウト 5	Official reports: Science and technology
第 7 回	ハンドアウト 6	Official reports: Environment
第 8 回	ハンドアウト 7	Official reports: Environment
第 9 回	ハンドアウト 8	Research papers: Community development
第 10 回	ハンドアウト 9	Research papers: Social welfare
第 11 回	ハンドアウト 10	Research papers: Clinical psychology
第 12 回	ハンドアウト 11	Research papers: Psychology
第 13 回	ハンドアウト 12	Graduate school exam: Translation
第 14 回	ハンドアウト 13	Graduate school exam: Summarization

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業（ハンドアウト）の予習・復習の時間を毎週確保してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ハンドアウト

【参考書】
Nolen-Hoeksema, S., & Hilgard, E. R. (2014). Atkinson and Hilgards introduction to psychology. Andover: Cengage Learning.
その他必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%, 平常点 発表等の授業内活動 30%, 提出物課題（レポート）30%, テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
大学院入試用のリーディングについては授業外でも指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（電子辞書可）

【Outline and objectives】
Following the English for Academic Purposes 1 in the spring semester, this course is also designed to deepen students' knowledge on issues related to Well-being through English books and academic papers. Materials for the course include official reports by international organizations such as the OECD and WHO, sections and columns from Nolen-Hoeksema et al. (2014), journal papers in the field of psychology and clinical psychology, and students' selected academic readings. Each student will be responsible for a certain part of the selected readings and summarize the target problems, backgrounds, theories, experimental designs, and outcomes or findings described in the reading. Through sharing the summary within a group, students will reinforce their understanding of academic topics in their specialized areas. As for reading their selected materials, students are welcome to bring English articles, the contents of which should be connected to other selected or required course materials they are learning or have learnt. The course is partially aimed at preparing for the graduate school entrance exam.

ARSx200JB

コミュニティマネジメント・リサーチ

土肥　将敦、水野　雅男

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域課題に取り組む団体や人を対象に、現状や課題に関する現地調査を実施し、その解決方法などを、グループワークや教員との個別指導を通じて具体的に探っていく演習科目です。

【到達目標】
コミュニティマネジメント（地域づくり）を学ぶために必要な基本的な視点、姿勢、技法等を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のある地域課題、それに取り組む団体等を調査し、問いを立てるところから始まります。その後、質問票を作成して調査を行い、調査終了後は結果分析を進めて報告書にまとめます。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と地域研究の心構えを学ぶ。
第 2 回	研究関心の共有と深化	各自の関心について発表し、そこからどんな調査が可能か検討する。
第 3 回	研究課題の設定	研究課題を設定し、具体的調査内容について話し合う。
第 4 回	研究計画書の作成	研究課題を深めるための具体的調査内容を計画書として作成し、指導を受ける。
第 5 回	研究計画書の完成	指導内容に沿って計画書を修正し、議論の上、完成させる。
第 6 回	インタビューシートの作成、研究日時の確定	調査先で明らかにしたいことを質問票にまとめ、指導を受ける。
第 7 回	フィールドワーク①	フィールドでの調査
第 8 回	フィールドワーク②	フィールドでの調査
第 9 回	フィールドワーク報告（速報）	フィールドでの調査内容の報告
第 10 回	フィールドワーク報告（詳報）	フィールドでの調査内容を文書にまとめて報告する。
第 11 回	フォローアップ調査報告	報告書作成に向けて必要な情報を更に収集し、報告する。
第 12 回	報告書作成①	報告書の素案を提出し、指導を受ける。
第 13 回	報告書作成②	改良した報告書原稿を提出し、さらに指導を受ける。
第 14 回	報告会	報告書を提出するとともに、内容について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業及びその間に出される担当教員からの指導に沿って、調査及びその準備やまとめを進め、報告書を完成させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
大阪経済大学地域政策学科『フィールドワークのすすめ』(法律文化社)。
その他、講義時に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ⅰ) 成績評価方法
平常点　70%
提出物（発表及び提出資料、最終レポート）　30%
ⅱ) 評価基準
平常点は、授業への出席のみならず、発表や質疑応答等、授業への積極的参加、課題に対する取組み姿勢を評価します。課題に対する取り組み姿勢には、授業時間外での取り組みも含みます。レポートは、期限までの提出とその内容によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの意見を活かし、履修者が、より主体的に参加できる工夫をしていきます。

【Outline and objectives】
This is a workshop in which students pursue their own objectives by researching regional problems and considering their solutions through group discussion and one by one instruction by professors.

ARSx300JB

コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施するインターンシップに向けて、事前学習と準備を進める。

【到達目標】
コミュニティマネジメントに取り組むための基礎的な知識と能力を獲得し、またインターンシップに臨む姿勢を養う。また、インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自分の関心のあるテーマについて、どのような関心があるのかを具体的に突き詰めながら、何を目指してインターンシップに取り組みたいのか、仮説を組み立て、実習先の検討とそこでのプログラムづくりを進める。対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体説明	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）のねらいについての共有
第 2 回	講義「地域の課題とｺﾐｭﾆﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」	実習に関する基礎的な学習
第 3 回	グルーピング	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）候補の中から検討
第 4 回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点①」	実習に関する基礎的な学習（前半）
第 5 回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点②」	実習に関する基礎的な学習（後半）
第 6 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析①	ﾃｰﾏに関する事例収集
第 7 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析②	ﾃｰﾏに関する事例分析
第 8 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析③	ﾃｰﾏに関する事例考察
第 9 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ①	実習生の意向の聞き取り
第 10 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ②	実習先候補の検討
第 11 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ③	実習先候補の調整
第 12 回	事前調査の発表・共有①	実習先別に事前に情報収集する
第 13 回	事前調査の発表・共有②	実習先別情報を整理・発表する
第 14 回	派遣前の諸準備	書類等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、実習先や個人テーマに関連する情報・文献・データ収集を積極的に進める。毎回の指導で得られた内容を復習し、実習に対する基礎的な知見を身につける。本講義の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢： 60 %　インターンシップ実施計画： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
講義を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】
Advance learning and preparation for internship during the summer vacation period in principle.

ARSx300JB

コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施したインターンシップを受けて、事後学習を進め、報告書を作成する。

【到達目標】
インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実習内容を整理し、補足、分析しながら個人研究を深め、その成果に基づいて報告会を実施し、報告書を作成する。対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現場実習の概要報告	実習の概要報告
第 2 回	実習報告①	実習先（第 1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 3 回	実習報告②	実習先（第 2 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 4 回	実習報告③	実習先（第 3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 5 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導①	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議の準備
第 6 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導②	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議
第 7 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導③	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議のまとめ
第 8 回	報告書作成作業①	報告書の内容ﾒﾓ作成
第 9 回	報告書作成作業②	報告書の内容構成の検討
第 10 回	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ指導	報告会の準備
第 11 回	実習報告会Ⅰ	報告会の実施（前半）
第 12 回	実習報告会Ⅱ	報告会の実施（後半）
第 13 回	報告書原稿校正作業	報告書原稿の校正作業
第 14 回	報告書最終原稿提出	報告書原稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人研究に関する知見を広げ、実習時の活動内容の取りまとめ、分析作業を日々進めておく。本講義の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢： 60 %　インターンシップ最終報告書： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
講義を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】
Based on the internship conducted during the summer vacation period in principle, proceed with the after-school learning and prepare a report.

ARSx300JB

コミュニティスタディ実習 (2017 年度以前入学生)

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等における現地実習

【到達目標】
夏休み期間中の 2 週間程度の現地実習を通して、実践的に課題を探りあて、解決に向けた道筋を描き出している現場の実践活動やそこに関わる人たちの考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等において、夏休み期間中に 2 週間程度実施する。派遣先が首都圏以外の場合には、宿泊を伴う形で行う。実習先は、実習生の意向とマッチングしながら設定する。対面またはオンラインでの開講となる。フィードバックや各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前学習	実習先の主体及び地域について学習
実習中	現地実習	決定した実習先において実施
実習後①	事後学習①	実習先の主体及び地域、個別テーマ分析
実習後②	事後学習②	実習報告会の実施と実習報告書の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の主体及び地域についての事前学習や、実習後の個別テーマ分析について指示する（予習・復習は 1 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。実習派遣前に、各自が記入する「実習ノート」を配布する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での活動状況・実習ノート提出　100 %

【学生の意見等からの気づき】
以前寄せられた意見も踏まえながら、今年度の実習方針に反映させていく。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】
Field training in local governments, NPO corporations, town planning companies, private companies, etc. that are pursuing a multifaceted approach to problems of local communities

ARSx300JB

コミュニティスタディ実習指導Ⅰ (2017 年度以前入学生)

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等における現地実習

【到達目標】
夏休み期間中の 2 週間程度の現地実習を通して、実践的に課題を探りあて、解決に向けた道筋を描き出している現場の実践活動やそこに関わる人たちの考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等において、夏休み期間中に 2 週間程度実施する。派遣先が首都圏以外の場合には、宿泊を伴う形で行う。実習先は、実習生の意向とマッチングしながら設定する。対面またはオンラインでの開講となる。フィードバックや各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前学習	実習先の主体及び地域について学習
実習中	現地実習	決定した実習先において実施
実習後①	事後学習①	実習先の主体及び地域、個別テーマ分析
実習後②	事後学習②	実習報告会の実施と実習報告書の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の主体及び地域についての事前学習や、実習後の個別テーマ分析について指示する（予習・復習は 1 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。実習派遣前に、各自が記入する「実習ノート」を配布する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での活動状況・実習ノート提出　100 %

【学生の意見等からの気づき】
以前寄せられた意見も踏まえながら、今年度の実習方針に反映させていく。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】
Field training in local governments, NPO corporations, town planning companies, private companies, etc. that are pursuing a multifaceted approach to problems of local communities

ARSx300JB

コミュニティスタディ実習指導Ⅱ (2017 年度以前入学生)

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等における現地実習

【到達目標】
夏休み期間中の 2 週間程度の現地実習を通して、実践的に課題を探りあて、解決に向けた道筋を描き出している現場の実践活動やそこに関わる人たちの考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等において、夏休み期間中に 2 週間程度実施する。派遣先が首都圏以外の場合には、宿泊を伴う形で行う。実習先は、実習生の意向とマッチングしながら設定する。対面またはオンラインでの開講となる。フィードバックや各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	事前学習	実習先の主体及び地域について学習
実習中	現地実習	決定した実習先において実施
実習後①	事後学習①	実習先の主体及び地域、個別テーマ分析
実習後②	事後学習②	実習報告会の実施と実習報告書の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の主体及び地域についての事前学習や、実習後の個別テーマ分析について指示する（予習・復習は 1 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。実習派遣前に、各自が記入する「実習ノート」を配布する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での活動状況・実習ノート提出　100 %

【学生の意見等からの気づき】
以前寄せられた意見も踏まえながら、今年度の実習方針に反映させていく。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】
Field training in local governments, NPO corporations, town planning companies, private companies, etc. that are pursuing a multifaceted approach to problems of local communities

SOW300JB

スクールソーシャルワーク演習

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）における相談援助の知識と技能について実践的に習得するとともに、理論化し体系立てて習得していく能力を身につける。

【到達目標】
・現代における子どもと家族を取り巻く課題を理解し、ＳＳＷの視点からアセスメントできる知識と技術を習得する。
・ＳＳＷにかかわる法律と教育委員会等の組織やサービスを理解し、具体的な支援方法を考察する。
・ＳＳＷの意義を確認しつつ、教育行政や地域理解を進めるための方策について学びを深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、①ＳＳＷの視点から、様々な事例を使って実際にアセスメントと援助計画を立て、個人やグループの発表によってクラス全体の学びを深める。②それらの演習を通して、ＳＳＷの活動に必要な法律やサービスについて再確認する。③ゲストスピーカーの講義も交えて、実践における具体的支援について考察する。④ＳＳＷの倫理・価値および、教育行政や地域の理解を得ながらＳＳＷを展開していくことの必要性を検討する。
・課題のフィードバックは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、ＳＳＷとは？	今後の進め方についての説明、ＳＳＷの現状と意義、課題
第 2 回	ＳＳＷを取り巻く制度	ＳＳＷに関する法律と教育にかかわる組織・社会福祉サービス
第 3 回	アセスメント技法	ＳＳＷのアセスメント・プラニングに関する知識と技術
第 4 回	記録とスーパービジョン	ＳＳＷとしての記録とスーパービジョンに関する知識と技術
第 5 回	アセスメントの実際１	事例を用いた子どもと家族を取り巻くアセスメント
第 6 回	アセスメントの実際２	事例を用いた子どもと家族を取り巻くアセスメント
第 7 回	事例研究の発表と検討	相互の発表に基づく検討
第 8 回	ゲストスピーカー	現役のスクールソーシャルワーカーによる支援の実際
第 9 回	学校内連携	校内チーム体制、ケース会議の方法
第 10 回	学校外連携	市町村子ども支援体制と資源開発
第 11 回	アセスメントの実際３	事例を用いたミクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメント
第 12 回	事例検討の発表と検討	相互の発表による検討
第 13 回	学校とＳＳＷ	学校とＳＳＷ、ＳＣ（スクールカウンセラー）も含めた現状と両者の関係
第 14 回	ＳＳＷの展開	ＳＳＷの理論・価値とソーシャルアクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で出される課題について、期日までに行うこと。
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題およびレポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker.

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、学校や教育行政、また地域の児童関連施設などで働くことを希望し、教育と福祉の連携を中心とした福祉の仕事に関心をもつ学生を対象に、学校や教育委員会などでの実践を通して、学校におけるソーシャルワークを習得する。

【到達目標】
・スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義について理解するとともに、学校現場と教育にかかわる組織について体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかる個別・集団援助技術、さらに間接援助について、これまで学んだ理論や実践技術の体系を、体験を通して修得する。
・ＳＳＷの意義と価値を考えると同時に、教育現場での展開における課題と方向性についても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・実習先の実習指導者（スクールソーシャルワーカー）や教育委員会・学校等の指導のもと、次の内容について学びを深める。
①当該地域における、子どもと家庭のニーズ、地域と社会資源、学校および教育組織などの現状。
②学校現場における、子どもと家族、教職員とのコミュニケーションの持ち方や連携のあり方。
③子どもと家族の権利擁護を前提とした、実際のアセスメントと援助の進め方。
④学校内・学校外でのチームアプローチの実際、関係者会議への参加。
⑤社会資源の活用・調整・開発の理解。
⑥ＳＳＷのスーパービジョン。
⑦ＳＳＷのミッションと社会正義、学校・地域での今後の展開。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
概ね　6-10 月	現場実習	各自、80 時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・スクールソーシャルワーク教育課程認定のためには、社会福祉士受験資格獲得予定学生であること、先行履修科目とスクールソーシャルワーク実習群に加えて、「精神保健学」と教育関連科目群から以下に示す科目の履修が必要である。
「精神保健学（２単位）」必修
「教育の制度・運営（２単位）」必修
＋
「教育心理学（２単位）」「教育相談（２単位）」「生徒・進路祖指導論（２単位）」の中から１科目以上選択必修
＊注意：「教育心理学」は、本学部開講の科目ではなく、教職課程での科目を履修すること。
・実習生の条件として、社会福祉士受験資格予定者であるが、「ソーシャルワーク」実習における実習が、児童福祉以外である場合、児童福祉施設での事前実習が要求される。また、先行履修科目の履修が必要である。
本授業の準備・復習時間は各回２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での態度や実習記録・提出物（60 %）、実習先による評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本実習は、社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟によるスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業に位置づく実習です。

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker.

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳＷに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳＷの意義を理解し、学校現場におけるＳＳＷ実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳＷの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、事前学習として①実習先の地域における子どもと家族の課題や社会資源の現状を把握する。②各自の実習先での実習目標と課題（実習計画書）を作成する。③見学やゲストスピーカーの講義も交え、学校現場の現状について理解するとともに、④実習において必要とされる知識と技術、また記録や守秘義務のあり方について学びを深める。
・実習中は、実習巡回により、事前に作成した実習計画の検討および進捗状況の確認と実習全般のスーパービジョンを行う。
・課題のフィードバックは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習計画書作成の進め方（計画書の書き方と提出時期）
第 2 回	対象者理解	実習先での子どもと家族、地域の理解
第 3 回	地域資源の理解	実習先における社会資源の検討
第 4 回	実習先の理解	実習先および実習関係機関の見学
第 5 回	ゲストスピーカー	学校からみたＳＳＷ（生徒指導、特別支援、養護教諭）
第 6 回	学校現場の理解	学校理解と学校内でのチーム体制
第 7 回	ＳＳＷを知る	ＳＳＷの職務と社会的責任の検討
第 8 回	実習計画	実習計画書の提出・検討
第 9 回	連携の重要性	学校内外の連携のあり方と守秘義務の検討
第 10 回	実習記録	記録の意義と方法
第 11 回	実習のまとめ１	グループディスカッション
第 12 回	実習のまとめ２	自分とＳＳＷ（自己覚知）＋スーパービジョン
第 13 回	実習のまとめ３	課題と事例に関して＋スーパービジョン
第 14 回	実習のまとめ４	実習全体を通して＋スーパービジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前学習での課題について、期日までに提出すること。
・実習中は、実習巡回とスーパービジョンを行う。
・本授業の準備・復習時間は、各回 1 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題および実習計画書（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker.

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳＷに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳＷの意義を理解し、学校現場におけるＳＳＷ実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳＷの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、ＳＳＷ実習の事後学習として、以下の振り返りとまとめを行う。①個別およびグループを通して自らの実習を個別的・相対的に振り返る、②実習前に各自が設定した課題に即した実習の検討を行う、③事例をもとにした実習の検討を行うと同時に、SSW の支援についてのスーパービジョンを受ける、④実習を通した自らの課題と向き合い、今後の支援に生かしていく。
・これらの結果を実習総括としての報告書を作成するとともに、実習報告会で発表する。
・課題のフィードバックは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の進め方について
第 2 回	実習の振り返り 1	実習の報告
第 3 回	実習の振り返り 2	個別指導
第 4 回	実習の振り返り 3	グループワーク
第 5 回	実習の振り返り 4	グループディスカッション
第 6 回	実習のまとめ 1	自分とＳＳＷ（自己覚知）についてのまとめ
第 7 回	実習のまとめ 2	自己覚知についてのスーパービジョン
第 8 回	実習のまとめ 3	事例と課題に関するまとめ
第 9 回	実習のまとめ 4	事例と課題に関するスーパービジョン
第 10 回	実習報告書の作成 1	グループによる執筆
第 11 回	実習報告書の作成 2	個人による執筆
第 12 回	報告会リハーサル	プレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会	各自の実習の成果を発表
第 14 回	まとめ	報告会の振り返りと全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事後学習での課題や実習報告書の原稿は、期日までに提出すること。
・本授業の準備・復習時間は、各回 1 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題および実習報告書（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ

眞保　智子、岡田　栄作

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に関係する他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【到達目標】
(1) 自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とします。
(2) 利用者の人間理解や生活理解の方法を学び、実践できるようにしていきます。
(3) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得していきます。
(4) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術の基礎を習得していきます。
(5) 援助専門職に求められるコミュニケーション、コミュニティワークの基礎を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習は、精神保健福祉分野の援助専門職に必要な対人援助の基礎を学びます。援助専門職は、自分という人格を通して他者を援助しますので、自分自身を知ること、他者を理解することが重要になります。具体的には、**(1)** 援助専門職を目指すにあたって、自分自身の性格や対人援助・コミュニケーションの傾向を知ること、**(2)** 面接における傾聴の姿勢（人の話を聴けること）を身につけること、を中心とした習得を目指します。授業では、個別指導や集団指導、ロールプレイ等を通して体験型・ディスカッション型で演習を行います。主体的態度で臨み、自らの体験や意見を積極的に述べることが求められます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本演習のねらいと進め方を説明する
第 2 回	自己覚知	自己の特性の理解
第 3 回	自己理解と他者理解	自他の違いの理解
第 4 回	専門職の価値と倫理	専門職としての価値と倫理綱領の理解
第 5 回	援助関係形成の理論と面接技術（援助者とは）	援助者としての基本姿勢、バイスティックの原則の理解
第 6 回	援助関係形成の理論と面接技術（集団力動）	グループダイナミクスを活用するための理論と技術の理解
第 7 回	アセスメントの基礎（ニーズとは何か）	課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ
第 8 回	記録の技術	情報の収集・整理・伝達の技術を学ぶ
第 9 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術	地域の福祉ニーズ把握
第 10 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（実践）	コミュニティアウトリーチ
第 11 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（評価）	コミュニティ・アセスメント技法と計画策定技法とサービス評価
第 12 回	ネットワーキング	ネットワーク連結技法
第 13 回	ソーシャルアクション	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	まとめ	事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。なお本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習時の発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
この科目は、来年度精神保健ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できます。実習に行くための演習ですので、全出席が前提です。無断欠席は成績評価の対象外となります。来年度の実習は履修することができませんので注意してください。

【Outline and objectives】
This seminar practically acquire basic knowledge and skills necessary for consultation assistance required for Psychiatric social worker.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ

眞保　智子、岡田　栄作

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。また、精神保健福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術について、具体的事例の検討やロールプレイなどを用いて実践的に習得します。

【到達目標】
(1) 精神保健福祉課題を理解し、その解決に向け総合的かつ包括的な援助を習得する
(2) 具体的な相談援助場面及び相談援助の過程で用いる技術を習得する
(3) 精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げます。(2) 個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論し合う形で事例研究およびロールプレイ等を行います。(3) 精神保健ソーシャルワーク実習における個別体験も視野にいれ，集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい、進め方について説明する
第 2 回	「精神保健福祉士とは」（グループディスカッションを含む）	精神保健福祉士の理解
第 3 回	「精神保健福祉士の職業倫理」（ロールプレイを含む）	精神保健福祉士の職業倫理の理解
第 4 回	援助過程に沿った援助展開（支援計画策定）	インテーク（受理面接）・契約とアセスメント（課題分析）・プランニング（支援計画）・ケアマネジメント
第 5 回	援助過程に沿った援助展開（モニタリング）	支援の実施・振返り（モニタリング）、効果測定と支援評価・終結とアフターケア
第 6 回	事例研究（社会的排除）	社会的排除（偏見・差別）
第 7 回	事例研究（ソーシャルアクション）	退院支援・地域移行・地域生活支援とアウトリーチ、ソーシャルアクション
第 8 回	事例研究（若者を中心とした地域精神保健福祉）	地域における精神保健福祉（自殺、ひきこもり、児童虐待等）
第 9 回	事例研究（自助グループ）	地域における精神保健福祉（薬物・アルコール依存等）とピアサポート
第 10 回	事例研究（働くことへの支援）	就労・雇用とネットワーキング
第 11 回	事例研究（公的扶助と社会保障）	貧困、低所得、ホームレスの課題と生活保護法と障害年金の理解
第 12 回	事例研究（リカバリ）	精神科リハビリテーションとチームアプローチ
第 13 回	事例研究（援助計画の作成）	援助計画の理解、社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	まとめ	外部講師による現場の取り組みについての理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事例資料を配布します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習中の発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
本演習は、今年度精神保健ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習指導の履修登録者のみが履修できます。

【Outline and objectives】
This seminar practically acquire basic knowledge and skills necessary for consultation assistance required for Psychiatric social worker.Students are required to theorize the knowledge required for Psychiatric social workers through role play and discussion.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習

眞保　智子、岡田　栄作

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。さらに、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得していきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	精神科病院等の実習オリエンテーション	実習のねらいと進め方 病棟見学、面談への同席
第 2 回	任意入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	任意入院、心理教室、退院支援委員会について振り返り実習記録や体験の整理
第 3 回	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 4 回	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 5 回	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取り	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第 6 回	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第 7 回	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 8 回	巡回指導	巡回指導について振り返り実習記録や体験の整理
第 9 回	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 10 回	外来面談への同席、面談の記録作成	外来面談への同席、面談の記録作成について振り返り実習記録や体験の整理
第 11 回	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取り	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第 12 回	面談への同席、外出同行 (退院に向けた住居の確認等)	面談への同席、外出同行 (退院に向けた住居の確認等) について振り返り実習記録や体験の整理
第 13 回	患者さんとの面談、外出同行 (退院に向けた物件探し)	患者さんとの面談、外出同行 (退院に向けた物件探し) について振り返り実習記録や体験の整理
第 14 回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。
第 15 回	障害福祉サービス事業所・行政機関等の実習ガイダンス	実習のねらいと進め方 専門職としての倫理、価値、組織役割の理解
第 16 回	啓発・広報活動への参加	啓発・広報活動への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第 17 回	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラム	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラムについて振り返り実習記録や体験の整理

第 18 回	関係性の構築とニーズの把握	関係性の構築とニーズの把握について振り返り実習記録や体験の整理
第 19 会	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成について振り返り実習記録や体験の整理
第 20 回	地域への啓発活動　権利擁護事業説明	地域への啓発活動　権利擁護事業説明について振り返り実習記録や体験の整理
第 21 回	事例検討会に同席	事例検討会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 22 回	巡回指導	精神保健福祉士としての価値・倫理、法的義務についての確認、実習目的と達成課題の把握と調整
第 23 回	思春期・青年期家族講座に同席	思春期・青年期家族講座に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 24 回	自治体保健師との情報交換連絡会に同席	自治体保健師との情報交換連絡会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 25 回	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）など	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）などについて振り返り実習記録や体験の整理
第 26 回	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン などについて振り返り実習記録や体験の整理
第 27 回	担当事例の振り返りと評価会議に同席	担当事例の振り返りと評価会議に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 28 回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の実習に向けて、記録のまとめ翌日の予定についての準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
実習先の評価票 60 %巡回指導と帰校日指導 40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
本科目は、「精神保健ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できます（単独履修不可）。

【Outline and objectives】
Students acquire the knowledge and skills required of Psychiatric social workers through internships.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な知識を習得します。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関して理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	精神保健ソーシャルワーク実習の意義
第 2 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解	実習先に関する理解
第 3 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（見学）	見学
第 4 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（個人ワーク）	見学レポート作成
第 5 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（報告）	見学・体験・レポートに基づき議論
第 6 回	個別面談	実習の目的の確認
第 7 回	実習先の調整	個別指導による実習先の研究
第 8 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関決定	個別指導による実習先について報告
第 9 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（医療機関）	個別指導による実習先（医療機関）調整
第 10 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（地域施設）	個別指導による実習先（地域施設）の研究
第 11 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（行政機関）	個別指導による実習先（行政機関）の研究
第 12 回	実習施設・事業者・機関・団体の基本的な理解	実習報告会への参加への準備
第 13 回	実習施設・事業者・機関・団体の発展的な理解	実習報告会への参加
第 14 回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習配属のための面接に必ず出席すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline and objectives】
This class provides programs so that students can understand the knowledge and skills required of Psychiatric social worker.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得して、実習に備えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習および実習指導のねらいと留意点の説明
第 2 回	課題確認	実習課題の確認と事前学習の進め方
第 3 回	専門的知識と技術	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
第 4 回	専門的知識と技術（個人ワーク）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関するレポート
第 5 回	専門的知識と技術（報告）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解と報告
第 6 回	倫理と責務	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
第 7 回	倫理と責務（議論）	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解と事例を通じての議論
第 8 回	プライバシー保護	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解）
第 9 回	記録の意義	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
第 10 回	記録（実践）	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解と実践
第 11 回	実習計画の作成	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成
第 12 回	実習計画の報告	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成と報告
第 13 回	実習計画の検討	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議　実習計画の修正
第 14 回	まとめ	実習に向けてまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline and objectives】
This class provides programs so that students can understand the knowledge and skills required of Psychiatric social worker.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習での学びを通じて以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて学んだ精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について振り返り、深化させ、理論化することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を習得し、実習に臨むとともに学びを深化させていきます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	事後学習のねらいと進め方を説明する
第 2 回	実習の振り返り（個人ワーク）	実習記録や体験の整理 （個人ワーク）
第 3 回	実習の振り返りと学びの共有	実習記録や体験の整理 （グループワーク）
第 4 回	実習の振り返り（報告）	実習記録や体験をふまえた課題の整理と議論
第 5 回	実習報告書作成の説明	実習報告書作成の目標と内容 実習報告書作成の目標と内容
第 6 回	個別面談	個別指導による実習報告書の作成指導
第 7 回	実習報告書の作成	グループワークによる実習報告書作成の相互学習
第 8 回	実習報告書に基づく報告	実習報告
第 9 回	実習報告書に基づく議論	実習報告と議論
第 10 回	実習報告会の企画	実習報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備	実習報告会の準備
第 12 回	実習報告会のリハーサル	実習報告会の準備、リハーサル
第 13 回	実習報告会	実習報告会における報告と運営 （実習の評価全体総括会）
第 14 回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline and objectives】
This class provides programs so that students can understand the knowledge and skills required of Psychiatric social worker.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	インテーク
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	アウトリーチ
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓、西田　純子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	インテーク
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	アウトリーチ
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①生活保護
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ホームレス
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦低所得者
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧権利擁護活動
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
ソーシャルワークのスキルについて振り返り、実習体験を整理できる。
ソーシャルワーカーとしての基本的な態度を高める。
自己の発展的な課題について認識できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導により実技指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化①	印象的な場面についての検討
第 3 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化②	利用者の生活および福祉課題（利用者理解）
第 4 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化③	コミュニケーション技法
第 5 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化④	インテークとアセスメント
第 6 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑤	支援計画の作成
第 7 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑥	モニタリングと評価の留意点
第 8 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑦	ソーシャルワークの価値
第 9 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑧	ソーシャルワークの知識
第 10 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑨	ソーシャルワークの技術
第 11 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑩	福祉現場の組織理解
第 12 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑪	各自の個別的経験の一般化と言語化
第 13 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑫	相談援助の概念化と理論化
第 14 回	実習・演習の総括	実習・演習の意義の理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験を理論化できる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW200JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、岡田　栄作、西田　ちゆき、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。
②ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習の意義と実施までのプロセスを説明できる。
自らの適性や関心などを判断して、説明できる。
実習配属先に関する基礎的な内容について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、実習に必要な知識と技術を具体的に理解し、実習にむけた適切な準備を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義
第 2 回	実習先の検討・決定①	個別指導による希望実習先・内容の検討
第 3 回	実習先の検討・決定②	個別指導による実習先との調整結果の検討
第 4 回	実習先の検討・決定③	実習先の決定と課題レポートについて
第 5 回	実習分野の基本的理解①	実習地域の地域社会に関する歴史、産業、人口動態、地域特性
第 6 回	実習分野の基本的理解②	施設・事業者・機関・団体等に関する基本的な理解
第 7 回	実習分野の基本的理解③	社会保障体系とサービス・事業内容及び相談援助に係る知識と技術
第 8 回	実習分野の基本的理解④	障害・疾病の特性と生活問題の理解（利用者理解）
第 9 回	実習分野の基本的理解⑤	地域特性と利用者の生活問題、地域の福祉的課題
第 10 回	実習先の関連業務に関する基本的理解	実習先の介護や保育等の関連業務に関する基本的理解
第 11 回	現場体験学習・見学実習①	実習先と同じ領域での体験学習（介護・各種サービスの理解や利用体験等含む）
第 12 回	現場体験学習・見学実習②	現場体験学習・見学実習のレポート作成
第 13 回	実習の評価是全体総括会	実習報告会への参加・レポート作成
第 14 回	レポートの作成	実習先に関する学習と事前体験の成果・課題を整理し、レポートを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールド体験Ⅱ、実習報告会に参加してのレポートを作成し、決められた期日までに提出すること。各教員の指示によって準備を行い、実習配属のための面接に必ず出席すること。実習先決定後は、実習領域に関する基本的学習・ボランティアを行い、レポートを作成、決められた期日に提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
実習に必要な資料等を担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
面接の状況 50 %、課題提出 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
各教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、および相談援助に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 3 回	実習先で行われる関連業務	介護等の関連業務・サービスの基本的理解
第 4 回	分野別講義①	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術
第 5 回	分野別講義②	実習先で必要とされる利用者に関する理解
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following describe and explain major methods and theories,compare and contrast alternative theories or approaches in terms of their underlying processes.

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

中村　律子、伊藤　正子、佐藤　繭美、岩田　美香、髙良　麻子、西田　ちゆき、柴崎　祐美、根岸　弓

科目分類・科目群：**専門教育科目　演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
ソーシャルワークの実践現場の機能やソーシャルワーカーの役割について説明できる。
基礎的なソーシャルワークのスキルを実践することができる。
ソーシャルワーカーとしての自らの適性について振り返ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
以下に掲げる事項について、学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回指導等を通して行う。
① 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
② 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
③ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
④ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価
⑤ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
⑥ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
⑦ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
⑧ 当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解　巡回、帰校日指導によりフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
概ね 7 〜 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline and objectives】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.

法政大学
HOSEI University